

公益財団法人鹿児島県文化振興財団  
埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書 (63)

一般国道220号日南・志布志道路（夏井IC～志布志IC）建設に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

野  
首  
遺  
跡

の くび  
野 首 遺 跡

(志布志市志布志町帖)

二〇二六年三月

2026年3月

鹿児島県教育委員会  
公益財団法人鹿児島県文化振興財団  
埋蔵文化財調査センター





遺跡遠景（北から志布志城跡及び志布志湾を望む）



## 序 文

この報告書は、一般国道 220 号日南・志布志道路（夏井 I C～志布志 I C）の建設に伴って、令和 5 年度から令和 6 年度にかけて実施した志布志市志布志町に所在する野首遺跡の発掘調査の記録です。

本遺跡では、旧石器時代、縄文時代早期・前期・後期・晩期、弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世、近代の遺構や遺物が発見されました。

縄文時代早期の集石が 86 基検出されたほか、縄文時代後期から晩期の土器も多数出土しております。古墳時代では竪穴建物跡 1 軒が検出され、成川式土器が多く出土しました。さらに中世になると、白磁・青磁・青花・国外陶器・華南三彩などの貿易陶磁器が多く出土しています。遺跡の所在する台地上に志布志城跡が隣接し、遺物の共通性が高いことも注目されます。

このように長い期間、連綿と人の生活の痕跡がうかがえる遺跡であり、遺跡の周辺や大隅半島における当時の人々の生活を解明する手がかりとなることが期待されます。

本報告書が、県民の皆様をはじめとする多くの方々に活用され、埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに、文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

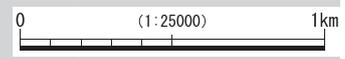
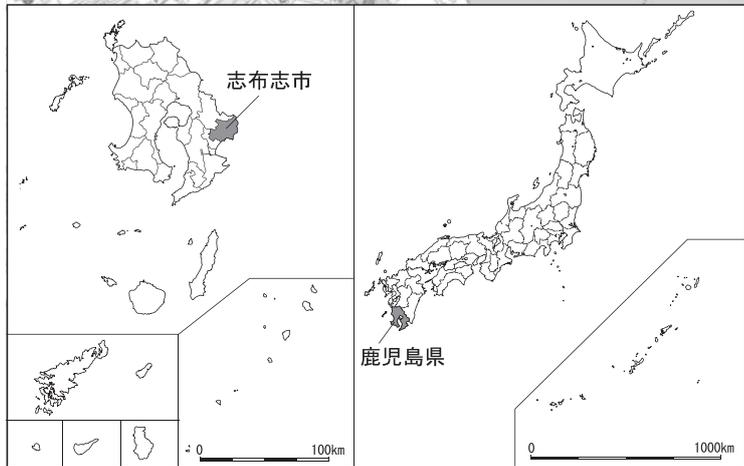
最後に、調査にあたりご協力いただいた国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所、志布志市教育委員会等の各関係機関、発掘作業・整理作業に従事された方々に対し、厚く御礼申し上げます。

令和 8 年 3 月

公益財団法人 鹿児島県文化振興財団  
埋蔵文化財調査センター 三垣 恵一

# 報告書抄録

ふりがな	のくびいせき							
書名	野首遺跡							
副書名	一般国道220号日南・志布志道路（夏井IC～志布志IC）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第63集							
編集者名	相良典隆 松山初音 楸田岳志							
編集機関	公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号 TEL 0995-70-0574 FAX 0995-70-0576							
発行年月	2026年3月							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査起因
		市町村	遺跡番号					
野首遺跡	鹿児島県 志布志市 志布志町 帖 字 野首	46221	221-114	31° 29' 15"	131° 06' 41"	本調査 ①2023.05.08 ～2024.02.22 ②2024.05.07 ～2025.02.26	①延面積8,824 表面積4,400 ②延面積9,200 表面積4,000	一般国道220号日南・志布志道路 （夏井IC～志布志IC）建設に 伴う記録保存調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
野首遺跡	散布地	旧石器時代	礫群2基	三稜尖頭器、ナイフ形石器、ハンマー、磨・敲石、台石				
		縄文時代早期	集石86基 土坑2基	前平式、石坂式、下剥峯式、桑ノ丸式、打製石鏃、石匙、スクレイパー、彫器、石錐、二次加工剥片、使用痕剥片、磨製石斧、礫器、磨・敲石、石錘、石皿片				
		縄文時代前期	土坑2基	深浦式（日本山段階）、打製石鏃、スクレイパー、使用痕剥片、礫器、磨・敲石、凹石、石皿				
		縄文時代後期 ～晩期	落とし穴1基	後期初頭土器、松山式、丸尾式、辛川式、西平式、中岳Ⅱ式、黒川式				
		弥生時代		刻目突帯文土器、入来式				
		古墳時代	竪穴建物跡1軒	中津野式、笹貫式、古墳時代中期中葉～後葉の土器				
		古代	土坑墓1基 炭化物集中土坑1基	土師器、須恵器				
		中世	掘立柱建物跡1棟 溝状遺構3条	土師器、須恵器、中国磁器（白磁・青磁・青花・華南三彩）、陶器（備前・常滑・瀬戸・国外）、瓦器、瓦質土器、土錘、基石、滑石製品、古銭、小札				
		近世・近代		陶器（薩摩焼・肥前等）、磁器（肥前系）				
時期不詳	土坑1基 硬化面4カ所	打製石鏃、打製石斧、砥石、磨石・敲石、石錘、石皿、擦切石器、軽石製品 鉄鏃、刀子、釘、鉄鍋、刃物類、蹄鉄、不明鉄製品						
遺跡の概要	<p>野首遺跡は、旧石器時代から近世・近代までの複合遺跡である。</p> <p>遺跡の東側は前川に向けて傾斜しており、縄文時代早期の大きささまざまな集石が86基検出された。</p> <p>遺跡の西側は谷地形になっており、中世の陶磁器が多く出土した。国産のものだけでなく、華南三彩や中国産と想定される陶器などの輸入陶磁器も出土しており、近隣の志布志城跡とのつながりや当時の交易の拠点としての志布志の様子を考える上で、貴重な資料である。</p>							



野首遺跡位置図 (1 : 25000)

# 例言

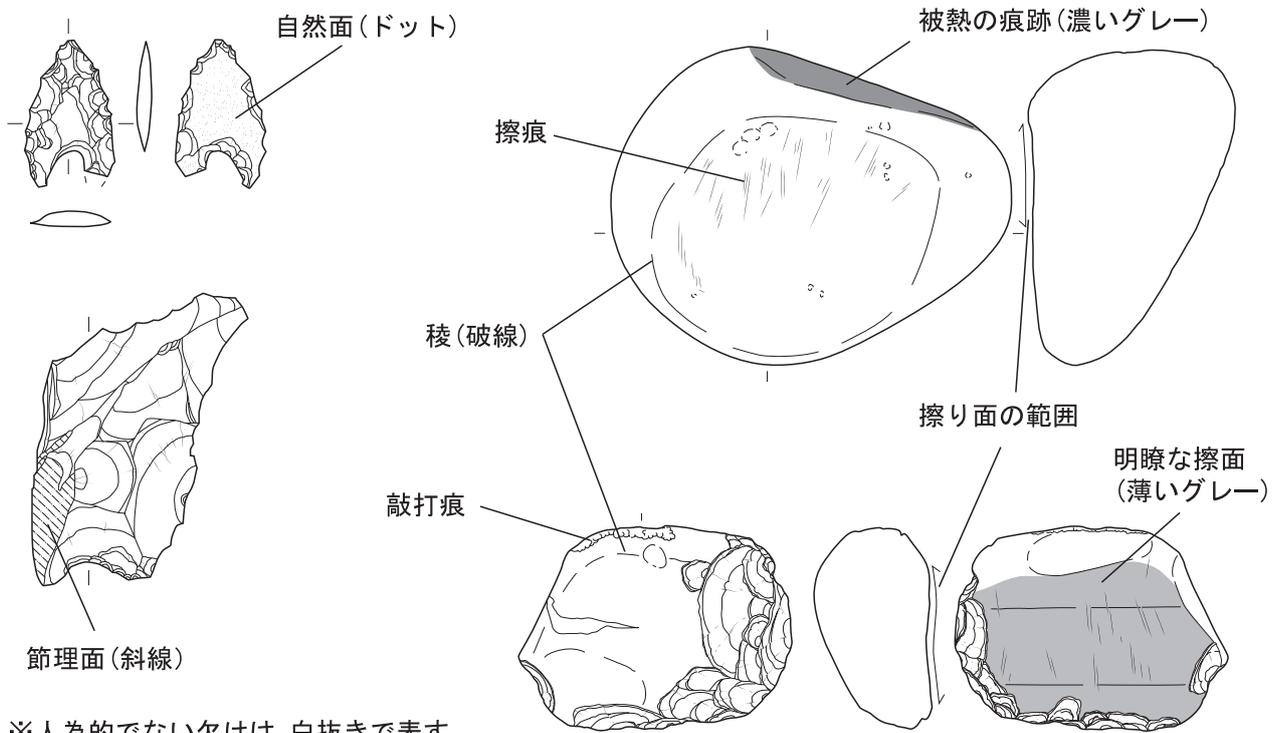
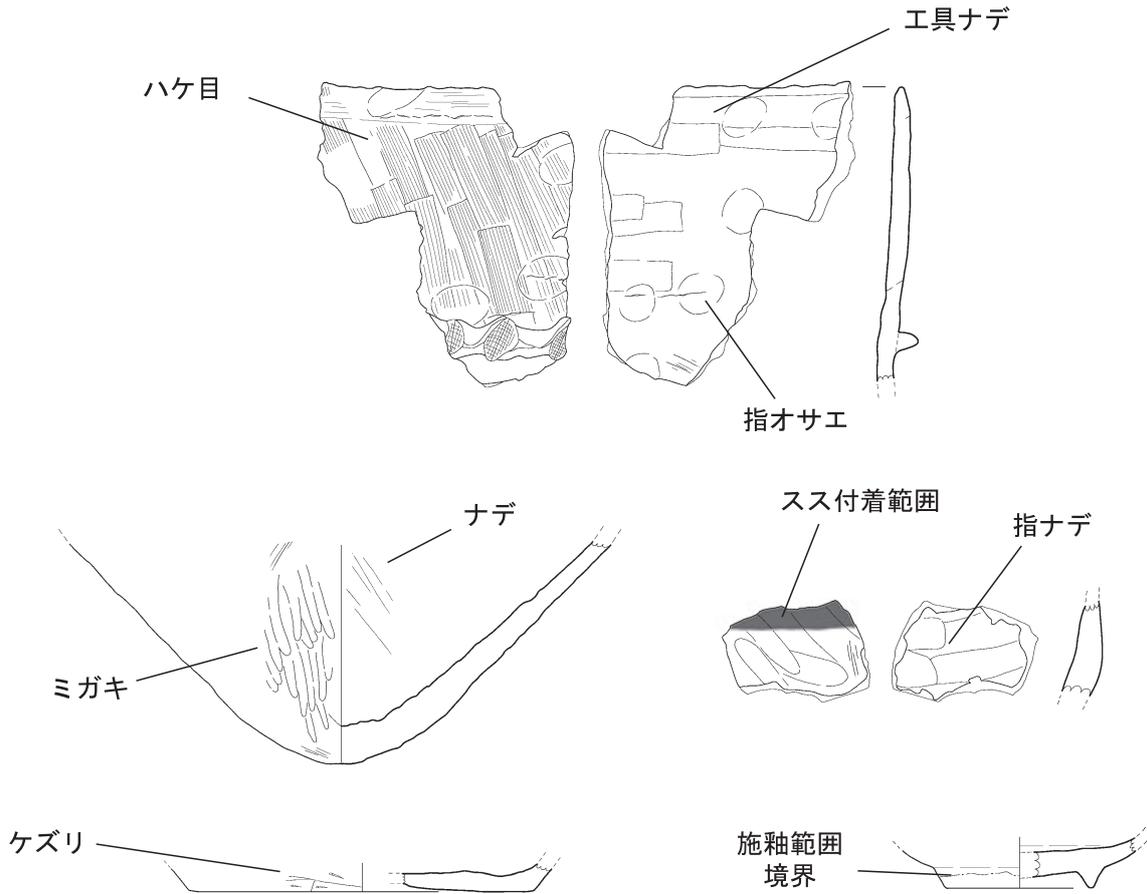
- 1 本書は、一般国道220号日南・志布志道路（夏井IC～志布志IC）建設に伴う野首遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡は、鹿児島県志布志市志布志町帖に所在する。
- 3 発掘調査は、国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所から鹿児島県教育委員会（以下「県教委」という）が受託し、公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター（以下「調査センター」という）へ調査委託した。
- 4 発掘調査事業は、令和5年度から令和6年度に調査センターが実施した。
- 5 整理・報告書作成事業は、令和6年から令和7年に調査センターが実施した。
- 6 掲載遺構には、遺構の種類ごとに番号を付し、本文・挿図・表・図版の遺構番号は一致する。
- 7 掲載遺物番号は通し番号であり、本文・挿図・表・図版の遺物番号は一致する。
- 8 遺物注記等で用いた遺跡記号は「NKB」である。
- 9 挿図の縮尺は、挿図ごとに示した。
- 10 本書で用いたレベル数値は、海拔絶対高である。
- 11 本書で使用した方位は、全て磁北である。
- 12 本発掘調査における実測図作成及び写真撮影は、主として調査担当者が行った。また、遺構実測の一部を株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託し、調査担当者が監修した。空中写真撮影は、有限会社スカイサーベイ九州に委託した。
- 13 本書に係る遺構位置図及び遺物出土状況図等の作成は、相良・松山・楸田が整理作業員の協力を得て行った。
- 14 本書に係る出土遺物の実測及びトレースは、令和6年度は相良・西園勝彦の指示・確認のもと、令和7年度は相良・松山・楸田の指示・確認のもと、調査センターの整理作業員が行った。また、出土石器の一部については、令和6年度は株式会社埋蔵文化財サポートシステムに、令和7年度は九州文化財総合研究所に業務委託して実測及びトレースを行った。
- 15 本書で使用した色調については、『新版標準土色帖』（1967、農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づく。
- 16 本書に係る出土遺物の撮影は、鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下「県埋文センター」）の写場にて、辻明啓が行った。
- 17 本書に係る自然科学分析は、株式会社古環境研究センターに委託した。
- 18 金属製品の保存処理は、県埋文センターの平嶺浩人が実施した。
- 19 本書の執筆は、次のように分担した。

第I章～第III章	相良
第IV章 第1節	相良・西園（県埋文センター）
第2～6節	松山・相良
第7節	相良
第8節	松山
第9節	松山・楸田
第10節	松山・上床 真
第V章	松山・楸田
第VI章	相良・松山
図版	相良・松山・楸田
- 20 本書に係る出土遺物及び実測図・写真等の記録は、県埋文センターで保管し、展示・活用を図る予定である。

# 凡例

- 1 本書に掲載してある遺構配置図・遺物出土状況図等の1グリッド（1マス）は、10m四方であり、各図に縮尺を記した。
- 2 本書掲載の遺構・遺物の縮尺は、基本的に以下のとおりである。ただし、遺構・遺物の大きさによってはこの限りではないので、挿図中に示した縮尺を参照されたい。
  - (1) 遺構
    - 竪穴建物跡・掘立柱建物跡：1/40
    - 土坑：1/20, 1/40 土坑墓：1/20 落とし穴：1/20
    - 集石：1/30 礫群：1/20, 1/40
    - 硬化面：1/200 溝状遺構：1/200
  - (2) 遺物
    - 土器・陶磁器：1/2, 1/3 石器：1/2, 1/3, 1/4
    - 金属製品：1/1, 1/2
    - 石鏃など小型の石器：1/1
    - 石皿など大型の石器は各図に提示
- 3 遺物の実測で用いた表現方法については、実測表現の凡例のとおりである。

# 実測表現凡例



※人為的でない欠けは、白抜きで表す。

# 本文目次

## 巻頭図版（カラー）

### 序文

### 報告書抄録

### 遺跡位置図

### 例言・凡例

### 目次

## 第Ⅰ章 調査の経過

- 第1節 調査に至るまでの経緯…………… 1
- 第2節 事前調査
  - 1 分布調査…………… 1
  - 2 試掘調査…………… 1
  - 3 確認調査…………… 1
- 第3節 本調査
  - 1 調査体制…………… 2
  - 2 調査の経過…………… 2
- 第4節 整理・報告書作成作業
  - 1 整理・報告書作成体制…………… 3
  - 2 整理・報告書作成の経過…………… 4

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

- 第1節 地理的環境…………… 5
- 第2節 歴史的環境…………… 5
- 第3節 夏井ⅠC～志布志ⅠC間の遺跡……………10

## 第Ⅲ章 調査の方法

- 第1節 調査の方法
  - 1 発掘調査の方法……………12
  - 2 遺構の認定と検出方法……………12
  - 3 整理・報告書作成作業の方法及び内容……………12
- 第2節 層序……………13

## 第Ⅳ章 調査の成果

- 第1節 旧石器時代
  - 1 調査の概要……………19
  - 2 遺構……………19
  - 3 遺物……………20
- 第2節 縄文時代の調査成果
  - 1 縄文時代早期
    - (1) 調査の概要……………22
    - (2) 遺構……………22
    - (3) 遺物……………59
  - 2 縄文時代前期
    - (1) 調査の概要……………77
    - (2) 遺構……………77
    - (3) 遺物……………77
  - 3 縄文時代後期～晩期
    - (1) 調査の概要……………83
    - (2) 遺構……………83
    - (3) 遺物……………83

## 第3節 弥生時代の調査成果

- 1 調査の概要……………99
- 2 遺物……………99

## 第4節 古墳時代の調査成果

- 1 調査の概要…………… 100
- 2 遺構…………… 100
- 3 遺物…………… 107

## 第5節 古代の調査成果

- 1 調査の概要…………… 118
- 2 遺構…………… 118
- 3 遺物…………… 118

## 第6節 中世の調査成果

- 1 調査の概要…………… 122
- 2 遺構…………… 122
- 3 遺物…………… 122

## 第7節 縄文時代前期末～中世の石器

- 1 概要…………… 144
- 2 包含層出土石器の状況…………… 144

## 第8節 近世以降の調査成果

- 1 調査の概要…………… 156
- 2 遺物…………… 156

## 第9節 時期不明遺構・遺物

- 1 遺構…………… 161
- 2 遺物…………… 161

## 第10節 金属製品…………… 164

## 第Ⅴ章 自然科学分析

- 第1節 自然科学分析の概要…………… 182
- 第2節 放射性炭素年代測定…………… 182
- 第3節 炭素・窒素安定同位体比分析…………… 183
- 第4節 樹種同定…………… 183

## 第Ⅵ章 総括

- 第1節 旧石器時代…………… 188
- 第2節 縄文時代…………… 188
- 第3節 弥生時代…………… 189
- 第4節 古墳時代…………… 189
- 第5節 古代…………… 190
- 第6節 中世…………… 190
- 第7節 近世以降…………… 191
- 第8節 Ⅱ～Ⅴ層出土の石器…………… 192
- 第9節 野首遺跡の総括…………… 192

## 写真図版

# 挿図目次

第1図	野首遺跡周辺遺跡位置図	8	第62図	縄文時代前期土器出土状況図	80
第2図	志布志 I C 周辺～夏井 I C 間の遺跡	11	第63図	包含層出土土器 (縄文 6 類土器)	81
第3図	令和 5 年度・令和 6 年度調査範囲	13	第64図	VI・VII 層石器 (石鏃・二次加工剥片・礫器・磨・敲石・凹石)	82
第4図	土層断面図 1	14	第65図	縄文時代後期遺構配置図	84
第5図	土層断面図 2	15	第66図	落とし穴	85
第6図	土層断面図 3	16	第67図	縄文時代後期・晩期土器出土状況図 1	86
第7図	土層断面図 4	17	第68図	縄文時代後期・晩期土器出土状況図 2	87
第8図	旧石器時代遺構配置図・遺物出土状況図	19	第69図	包含層出土土器 (縄文 7 類土器)	88
第9図	礫群 1 号・出土遺物	20	第70図	包含層出土土器 (縄文 8 a 類土器 1)	89
第10図	礫群 2 号・包含層出土土器	21	第71図	包含層出土土器 (縄文 8 a 類土器 2)	90
第11図	縄文時代早期遺構配置図 (全体図)	23	第72図	包含層出土土器 (縄文 8 b 類土器)	91
第12図	縄文時代早期遺構配置図 (拡大図)	24	第73図	包含層出土土器 (縄文 8 c 類土器)	92
第13図	集石 (I 類 1)	25	第74図	包含層出土土器 (縄文 8 d 類土器)	92
第14図	集石 (I 類 2)	27	第75図	包含層出土土器 (縄文 9 a 類土器)	93
第15図	集石 (I 類 3)	28	第76図	包含層出土土器 (縄文 9 b 類土器)	94
第16図	集石 (I 類 4)	29	第77図	包含層出土土器 (縄文 10 類土器)	95
第17図	集石 (I 類 5)	30	第78図	包含層出土土器 (縄文 11 類・12 類土器)	96
第18図	集石 (I 類 6)	31	第79図	包含層出土土器 (縄文後晩期胴部・底部)	97
第19図	集石 (I 類 7)	32	第80図	包含層出土土器 (円盤状土製品)	97
第20図	集石 (I 類 8)	33	第81図	包含層出土土器 (縄文 13 類土器)	98
第21図	集石 (I 類 9)	34	第82図	包含層出土土器 (弥生土器)	99
第22図	集石 (I 類 10)	35	第83図	古墳時代遺構配置図	100
第23図	集石 (I 類 11)	36	第84図	堅穴建物跡	101
第24図	集石 (I 類 12)	37	第85図	堅穴建物跡遺物出土状況図・出土遺物 1	102
第25図	集石 (I 類 13)	39	第86図	堅穴建物跡出土遺物 2	103
第26図	集石 (I 類 14)	40	第87図	古墳時代土器出土状況図	104
第27図	集石 (I 類 15)	41	第88図	包含層出土土器 (古墳 甕 1)	105
第28図	集石 (II 類 1)	42	第89図	包含層出土土器 (古墳 甕 2)	106
第29図	集石 (II 類 2)	44	第90図	包含層出土土器 (古墳 甕 3)	107
第30図	集石 (II 類 3)	45	第91図	包含層出土土器 (古墳 甕 4)	108
第31図	集石 (II 類 4)	46	第92図	包含層出土土器 (古墳 甕 5)	109
第32図	集石 (II 類 5)	48	第93図	包含層出土土器 (古墳 壺 1)	110
第33図	集石 (II 類 6)	49	第94図	包含層出土土器 (古墳 壺 2)	111
第34図	集石 (II 類 7)	50	第95図	包含層出土土器 (古墳 壺 3)	112
第35図	集石 (II 類 8)	51	第96図	包含層出土土器 (古墳 壺 4)	113
第36図	集石 (II 類 9)	52	第97図	包含層出土土器 (古墳 高坏 1)	114
第37図	集石 (II 類 10)	53	第98図	包含層出土土器 (古墳 高坏 2)	115
第38図	集石 (II 類 11)	54	第99図	包含層出土土器 (古墳 模倣坏・鉢・埴・小型土器)	116
第39図	集石 (II 類 12)	55	第100図	古代遺構配置図	119
第40図	集石 (II 類 13)	56	第101図	土坑墓・土坑 5 号及び土坑墓内出土遺物	120
第41図	集石 (II 類 14)	57	第102図	包含層出土遺物 (古代 土師器・須恵器・製塩土器)	121
第42図	集石 (II 類 15)	58	第103図	中世遺構配置図	123
第43図	集石 (III 類 1)	60	第104図	掘立柱建物跡	124
第44図	集石 (III 類 2)	61	第105図	掘立柱建物跡出土遺物	125
第45図	集石 (IV 類)	62	第106図	溝状遺構	126
第46図	土坑 1 号・土坑 2 号	63	第107図	溝状遺構出土遺物	127
第47図	縄文時代早期土器出土状況図	64	第108図	包含層出土遺物 (中世 土師器 1)	128
第48図	包含層出土土器 (縄文 1 類～4 a 類土器)	65	第109図	包含層出土遺物 (中世 土師器 2)	129
第49図	包含層出土土器 (縄文 4 b 類～5 類土器)	66	第110図	包含層出土遺物 (中世 土師器 3)	130
第50図	縄文時代早期石器 (VIII～X 層) 出土状況図	67	第111図	包含層出土遺物 (中世 須恵器・瓦質土器)	131
第51図	VIII～X 層石器 1 (石鏃 1)	68	第112図	包含層出土遺物 (中世 瓦器・瓦・土製品)	132
第52図	VIII～X 層石器 2 (石鏃 2)	69	第113図	包含層出土遺物 (中世 白磁 碗)	133
第53図	VIII～X 層石器 3 (石鏃 3)	70	第114図	包含層出土遺物 (中世 白磁 皿・小坏・盤)	134
第54図	VIII～X 層石器 4 (石匙・スクレイパー・石錘・二次加工剥片)	71	第115図	包含層出土遺物 (中世 青磁 碗 1)	135
第55図	VIII～X 層石器 5 (使用痕剥片)	72	第116図	包含層出土遺物 (中世 青磁 碗 2・皿)	136
第56図	VIII～X 層石器 6 (磨製石斧・礫器)	73	第117図	包含層出土遺物 (中世 青磁 盤・その他器種・高麗青磁)	138
第57図	VIII～X 層石器 7 (磨・敲石 1)	74	第118図	包含層出土遺物 (中世 青花 碗)	139
第58図	VIII～X 層石器 8 (磨・敲石 2・石錘)	75	第119図	包含層出土遺物 (中世 青花 皿・盤・壺)	140
第59図	VIII～X 層石器 9 (石皿・彫器)	76	第120図	包含層出土遺物 (中世 国外陶器 天目碗・華南三彩)	140
第60図	縄文時代前期遺構配置図	78	第121図	包含層出土遺物 (中世 国外陶器 甕・壺・鉢・その他器種)	141
第61図	土坑 3 号・4 号及び土坑 3 号内出土遺物	79	第122図	包含層出土遺物 (中世 国産陶器 備前)	142

第123図	包含 層出土遺物 (中世 国産陶器 常滑・瀬戸美濃) …	143	第141図	土坑 6 号 ……………	162
第124図	Ⅱ～Ⅴ層石器1 (石鏃・スクレイパー・使用痕剥片) ……	144	第142図	硬化面 1 号・硬化面 2 号 ……………	162
第125図	Ⅱ～Ⅴ層石器 2 (磨製石斧・打製石斧・礫器) ……	145	第143図	硬化面 1 号出土遺物 ……………	163
第126図	Ⅱ～Ⅴ層石器 3 (砥石・磨・敲石 1) ……………	146	第144図	硬化面 2 号出土遺物 ……………	163
第127図	Ⅱ～Ⅴ層石器 4 (磨・敲石 2) ……………	147	第145図	不明石器 ……………	163
第128図	Ⅱ～Ⅴ層石器 5 (磨・敲石 3) ……………	148	第146図	包含層出土金属製品 ……………	165
第129図	Ⅱ～Ⅴ層石器 6 (磨・敲石 4) ……………	149	第147図	暦年較正結果 1 (試料No. 1～8) ……………	185
第130図	Ⅱ～Ⅴ層石器 7 (磨・敲石 5) ……………	150	第148図	暦年較正結果 2 (試料No. 9) ……………	186
第131図	Ⅱ～Ⅴ層石器 8 (石錘 1) ……………	151	第149図	暦年較正年代マルチプロット図 (試料No. 1～7) ……	186
第132図	Ⅱ～Ⅴ層石器 9 (石錘 2) ……………	152	第150図	炭素・窒素同位体比 ……………	186
第133図	Ⅱ～Ⅴ層石器10 (石皿1) ……………	153	第151図	炭素安定同位体比とC/N比の関係……………	186
第134図	Ⅱ～Ⅴ層石器11 (石皿2) ……………	154	第152図	炭化材の顕微鏡写真 ……………	187
第135図	Ⅱ～Ⅴ層石器12 (その他) ……………	155	第153図	集石遺構 I～IV類の割合 ……………	188
第136図	包含層出土遺物 (近世磁器) ……………	157	第154図	板平遺跡出土土器の変遷的位置 ……………	189
第137図	包含層出土遺物 (近世陶器 1) ……………	158	第155図	野首遺跡包含層出土輸入磁器の分類比 ……	190
第138図	包含層出土遺物 (近世陶器 2) ……………	159	第156図	野首遺跡周辺航空写真 (1948年) ……………	191
第139図	包含層出土遺物 (近世陶器 3 近代磁器) …	160	第157図	石錘 I・II類の重量による割合 ……………	192
第140図	時期不明遺構配置図 ……………	161			

## 表 目 次

第 1 表	周辺遺跡一覧表……………	9	第20表	包含層出土中世陶磁器観察表 1 ……………	175
第 2 表	夏井 I C～志布志 I C間の遺跡……………	10	第21表	包含層出土中世陶磁器観察表 2 ……………	176
第 3 表	遺構新旧対応表……………	18	第22表	包含層出土中世陶磁器観察表 3 ……………	177
第 4 表	礫群・集石観察表 ……………	166	第23表	包含層出土近世陶磁器観察表 1 ……………	177
第 5 表	遺構内出土縄文土器観察表……………	167	第24表	包含層出土近世陶磁器観察表 2 ……………	178
第 6 表	遺構内出土古墳土器観察表……………	167	第25表	遺構内出土石器観察表……………	179
第 7 表	遺構内出土古代土器観察表……………	167	第26表	旧石器時代 (XI・XII層) 石器観察表……………	179
第 8 表	遺構内出土中世土器観察表……………	168	第27表	縄文時代早期 (VII～X層) 石器観察表 1 ……	179
第 9 表	遺構内出土中世陶磁器観察表……………	168	第28表	縄文時代早期 (VII～X層) 石器観察表 2 ……	180
第10表	包含層出土縄文土器観察表 1 ……………	168	第29表	縄文時代前期 (VI・VII層) 石器観察表……………	180
第11表	包含層出土縄文土器観察表 2 ……………	169	第30表	縄文時代前期末～中世 (II～V層) 石器観察表 1 …	180
第12表	包含層出土縄文土器観察表 3 ……………	170	第31表	縄文時代前期末～中世 (II～V層) 石器観察表 2・時期不明石器観察表 …	181
第13表	包含層出土弥生土器観察表……………	171	第32表	金属製品観察表……………	181
第14表	包含層出土古墳土器観察表 1 ……………	171	第33表	放射性炭素年代測定結果……………	184
第15表	包含層出土古墳土器観察表 2 ……………	172	第34表	炭素・窒素同位体比結果 ……………	186
第16表	包含層出土古代土器観察表 1 ……………	172	第35表	樹種同定結果……………	186
第17表	包含層出土古代土器観察表 2 ……………	173	第36表	縄文時代早期出土の石器組成……………	188
第18表	包含層出土中世土器観察表 1 ……………	173	第37表	Ⅱ～Ⅴ層出土の石器組成……………	192
第19表	包含層出土中世土器観察表 2 ……………	174			

## 写真図版目次

図版 1	礫群……………	193	図版20	集石内石器……………	212
図版 2	集石 1 ……………	194	図版21	縄文時代早期土器……………	213
図版 3	集石 2 ……………	195	図版22	縄文時代前期土器・土坑 3 号内石器・縄文時代後・晩期土器 1 …	214
図版 4	集石 3 ……………	196	図版23	縄文時代後・晩期土器 2 ……………	215
図版 5	集石 4 ……………	197	図版24	縄文時代後・晩期土器 3 ……………	216
図版 6	集石 5 ……………	198	図版25	縄文時代後・晩期土器 4・弥生時代土器 ……	217
図版 7	集石 6 ……………	199	図版26	竪穴建物跡内遺物・古墳時代土器 1 ……………	218
図版 8	集石 7 ……………	200	図版27	古墳時代土器 2 ……………	219
図版 9	集石 8 ……………	201	図版28	古墳時代土器 3 ……………	220
図版10	集石 9 ……………	202	図版29	古墳時代土器 4 ……………	221
図版11	集石 10 ……………	203	図版30	古代土器・掘立柱建物跡及び溝状遺構内遺物・中世土器 …	222
図版12	集石 11 ……………	204	図版31	中世土器・中世陶磁器 1 ……………	223
図版13	土坑 1 ……………	205	図版32	中世陶磁器 2 ……………	224
図版14	土坑 2・落とし穴 ……………	206	図版33	中世陶磁器 3・近世陶磁器 1 ……………	225
図版15	竪穴建物跡……………	207	図版34	近世陶磁器 2・不明遺構内遺物 ……………	226
図版16	土坑墓・土坑 3 ……………	208	図版35	縄文時代早期石器 1 ……………	227
図版17	掘立柱建物跡・溝状遺構 ……………	209	図版36	縄文時代早期石器 2・縄文時代前期石器・Ⅱ～Ⅴ層石器 1 ……	228
図版18	土坑 4・硬化面 ……………	210	図版37	Ⅱ～Ⅴ層石器 2 ……………	229
図版19	旧石器時代石器・集石内土器 ……………	211	図版38	Ⅱ～Ⅴ層石器 3・金属製品 ……………	230

# 第 I 章 調査の経過

## 第 1 節 調査に至るまでの経緯

鹿児島県教育委員会（以下、「県教委」という。）は、文化財の保護・活用を図るため、各開発関係機関との間で、事業区域内における文化財の有無及びその取り扱いについて協議し、諸開発との調整を図ってきた。この事前協議制に基づき、国土交通省九州地方整備局大隅河川国道事務所（以下、「大隅河川国道事務所」という。）は、一般国道 220 号日南・志布志道路（夏井 I C～志布志 I C）の建設を計画し、事業対象地内における埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育委員会に照会した。

これを受けて、鹿児島県教育庁文化財課（以下、「文化財課」という。）は、平成 28 年 12 月に志布志 I C～夏井 I C 間の埋蔵文化財の分布調査を実施し、中新堀遺跡・道悦遺跡・野首遺跡・内堀遺跡・下原遺跡・夏井土光遺跡の 6 か所の遺跡の存在を報告した。

この結果をもとに、事業区間内の埋蔵文化財の取り扱いについて、大隅河川国道事務所・鹿児島県土木部道路建設課高速道路対策室・文化財課・県埋文センターの 4 者で協議し、対象地域内の遺跡の範囲と性格を把握するため、文化財課が当該地域において令和 3 年 3 月、4 月、8 月、令和 4 年 2 月に試掘調査を実施した。

試掘調査の結果から、文化財課及び県埋文センターは、遺跡の範囲と性格をより詳細に把握するため、令和 4 年 6 月 13 日～令和 4 年 6 月 28 日の期間に、表面積 10,700 m<sup>2</sup>を対象に確認調査を実施した。確認調査は、文化庁の国庫補助事業による県内遺跡発掘調査等事業として実施した。

この結果を受け、大隅河川国道事務所と文化財課で協議を行い、埋蔵文化財の保護と事業推進の調整を図るため、事業着手前に発掘調査を実施することとなった。事業区間内の発掘調査は、調査センターが令和 5 年度・6 年度に実施した。

整理・報告書作成作業については、令和 6 年度・7 年度に実施した。

## 第 2 節 事前調査

### 1 分布調査

野首遺跡に関する分布調査は、大隅河川国道事務所から一般国道 220 号日南・志布志道路、油津・夏井道路（夏井 I C～志布志 I C 間）の分布調査依頼を受け、平成 28 年度と令和 2 年度の 2 か年実施した。調査体制は、次のとおりである。

#### 平成 28 年度

事業主体 国土交通省九州地方整備局  
大隅河川国道事務所

調査主体 鹿児島県教育委員会  
調査企画 鹿児島県教育庁文化財課  
調査担当 鹿児島県教育庁文化財課  
文化財主事 黒川 忠広  
県立埋蔵文化財センター  
調査課 文化財主事 池田 裕一郎  
立 会 者 国土交通省九州地方整備局  
大隅河川国道事務所  
調査第三課長 島畑 郁朗  
専 門 職 桑本 真一郎  
係 長 築瀬 純矢  
協 力 者 志布志市教育委員会 生涯学習課  
主任主査 相美 伊久雄  
主 事 坂元 裕樹

### 2 試掘調査

令和 3 年 3 月 1 日、令和 3 年 4 月 28 日、令和 3 年 8 月 6 日、令和 4 年 2 月 14 日に計 15 か所のトレンチを設定した試掘調査を実施し、8 か所から土師器、縄文時代後期土器、石錘、破砕礫等が出土した。

#### 令和 3 年度

事業主体 国土交通省九州地方整備局  
大隅河川国道事務所  
調査主体 鹿児島県教育委員会  
調査企画 鹿児島県教育庁文化財課  
調査担当 鹿児島県教育庁文化財課  
文化財主事 立神 倫史  
立 会 者 国土交通省九州地方整備局  
大隅河川国道事務所  
調査第二課道路調査係長 井久保 和博  
協 力 者 志布志市教育委員会生涯学習課  
技 師 補 川路 阜太郎

### 3 確認調査

令和 4 年 6 月 13 日～令和 4 年 6 月 28 日の期間に、表面積 10,700 m<sup>2</sup>を対象に、中世から縄文時代の遺構・遺物の有無を確認することを主な目的として実施した。

調査方法は、調査対象区域内にトレンチを設定し、重機による表土掘削後、鋤簾・山鍬を用いた人力による掘削を行った。

調査の結果、畑地利用や宅地造成による埋め立てや削平を受けている箇所はあったものの、縄文時代後期～晩期と古墳時代または中世と考えられる遺物包含層が確認された。

調査対象範囲は、表面積約 9,400 m<sup>2</sup>となった。  
事業主体 鹿児島県

調査主体	鹿児島県教育委員会	
企画・調整	鹿児島県教育庁文化財課	
調査統括	鹿児島県立埋蔵文化財センター	
	所 長	中原 一成
調査企画	〃 次長兼総務課長	大口 浩嗣
	〃 第一調査係長	黒川 忠広
調査担当	〃 文化財主事	野間口 勇
	〃 文化財主事	隈元 俊一
事務担当	〃 総務係長	白坂 由香
	〃 主 査	和田 賢

### 第3節 本調査

令和5年5月8日から令和6年2月22日、令和6年5月7日から令和7年2月26日までの2か年にわたり実施した。

#### 1 調査体制

##### (1) 令和5年度

事業主体	国土交通省九州地方整備局 大隅河川国道事務所	
調査主体	鹿児島県教育委員会	
調査統括	(公財)鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財 調査センター センター長 寺原 徹	
調査企画	〃 総務課長兼総務係長	脇田 清幸
	〃 調査課長	三垣 恵一
	〃 調査第一係長	西園 勝彦
調査担当	〃 文化財専門員	新保 朋久
	〃 文化財専門員	山川 正樹 (R5.5.9～R5.10.31)
	〃 文化財専門員	田上 俊一 (R5.11.1～R6.2.22)
事務担当	〃 主 事	上園 慶子

##### (2) 令和6年度

事業主体	国土交通省九州地方整備局 大隅河川国道事務所	
調査主体	鹿児島県教育委員会	
調査統括	(公財)鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財 調査センター センター長 寺原 徹	
調査企画	〃 総務課長兼総務係長	脇田 清幸
	〃 調査課長	三垣 恵一
	〃 調査第一係長	西園 勝彦
調査担当	〃 文化財専門員	岩澤 和徳
	〃 文化財調査員	川野 聖人
事務担当	〃 主 事	上園 慶子

#### 2 調査の経過

調査の経過については、日誌抄を月毎に集約して記した。

##### (1) 令和5年度

###### 令和5年5月

環境整備，グリッド杭打ち，重機による表土掘削，包含層人力掘削（C～E－23～25区），遺構実測，写真撮影

###### 令和5年6月

重機によるⅦ層（アカホヤ）掘削，遺物水洗い，重機による表土掘削（B・C－21～24区），包含層人力掘削（B・C－22～24区），Ⅱ～Ⅶ層人力掘削（B～E－21～24区），写真撮影，Ⅶ～Ⅻ層人力掘削（B～D－22・25区），重機による表土・Ⅶ層（アカホヤ）掘削（E・F－21～23区，D・E－23区），旧石器先行トレンチ掘削（B～E－25区），遺物取り上げ，遺構実測，グリッド杭打ち

###### 令和5年7月

遺物水洗い，Ⅶ～Ⅻ層人力掘削（C～E－21～24区），遺構実測，旧石器先行トレンチ掘削（D・E－25区），写真撮影，重機による表土掘削（B－19・20区），Ⅰ～Ⅹ層人力掘削（B・C－19～21区，D－21・22区，E・F－21～24区）

###### 令和5年8月

遺物水洗い，重機による表土掘削（C・D－18区，F－17～19区），包含層人力掘削（C・D－19～21区，E・F－24・25区，F－17～19区），写真撮影

###### 令和5年9月

包含層人力掘削（C・D－19～21区，D－16・17・22・23区，D・E－16～18区，E－15区，E・F－15～17・20・21区，F－14～19・21～25区），写真撮影，遺物取り上げ，遺構実測，Ⅶ層上面コンタ図作成（D・E－23・24区）

###### 令和5年10月

包含層人力掘削（C－16・17，C・D－18・19区，D－16～18・22・23区，E・F－19区，F－19区），写真撮影，遺物取り上げ，旧石器先行トレンチ掘削（B・C－19・20区，E・F－17～19区），重機による表土掘削，土層断面実測，グリッド杭打ち，遺構実測

###### 令和5年11月

包含層人力掘削（D－16～18区，D・E－18・19・21・22区），遺物取り上げ，重機によるⅦ層（アカホヤ）掘削，写真撮影，旧石器先行トレンチ掘削（C－16・17・19・20区），遺構実測

###### 令和5年12月

包含層人力掘削（B・C－16・17・21区，D－17・18区），旧石器確認トレンチ掘削（B－19・20区，C－16・17区），遺構実測，重機による表土掘削（C－15区），遺物取り上げ，写真撮影，Ⅹ層上面コンタ図作成（B～F－21・22区），土層断面実測，下層確認トレンチ（C・D－22・23区），図面チェック

###### 令和6年1月

包含層人力掘削（B・C－15～17区，C・D－17・

18区), 遺物取り上げ, 図面チェック, 写真撮影, 旧石器先行トレンチ(B~D-19・20区), 空中写真撮影, 下層確認トレンチ掘削(C・D-22・23区), 遺構実測, X層上面コンタ図作成(C~E-15~18区)

#### 令和6年2月

包含層人力掘削(B・C-15・16区, C~E-17・18区), 遺物水洗い, 図面チェック, 遺構実測, 旧石器先行トレンチ(B-19・20区, B~E-22~25区), 写真撮影, 土層断面実測, 環境整備

#### (2) 令和6年度

#### 令和6年5月

環境整備, グリッド杭打ち, 重機による表土掘削, 包含層人力掘削(B~D-14・15区, D-12区, D・E-13~16区), 旧石器先行トレンチ掘削(C・D-16区)

#### 令和6年6月

包含層人力掘削(B~D-13~15区, D-13・15区, D・E-15区, E-13・14区), 重機による表土掘削(B~D-12区)

#### 令和6年7月

包含層人力掘削(B~D-12・13区, B・C-14・15区, D-12・13・15区, D・E-11~15区), 重機によるⅦ層(アカホヤ)掘削(B~D-12~15区, 遺構実測, 遺物取り上げ, 重機による表土掘削(D-11区)

#### 令和6年8月

環境整備, 包含層人力掘削(B・C-13~15区, D-13区), 遺物水洗い

#### 令和6年9月

重機による表土掘削(D・E-10区), 包含層人力掘削(B・C-12~15区, D-13区, D・E-6・10・11区)

#### 令和6年10月

重機による表土掘削(B・C-10・11区, C-5・6区), 包含層人力掘削(B・C-10~14区, C-5・6区, D-6・7・10区, D・E-6・10区), 写真实測, 旧石器先行トレンチ掘削(C-11・12区), 遺構実測

#### 令和6年11月

旧石器先行トレンチ掘削(C・D-12区), 包含層人力掘削(B~D-5~8区, D-6・7・10区), 写真撮影, 遺構実測

#### 令和6年12月

包含層人力掘削(B~D-6~8区, B・C-9区), 写真撮影, 重機によるⅦ層(アカホヤ)掘削(D-6~8区), 重機による表土掘削(D-9区)

#### 令和7年1月

包含層人力掘削(B・C-6~9区, D-6~9区), Ⅶ層上面コンタ図作成(C-6~8区), X層上面コンタ図作成(D-6~8区), 重機によるⅦ層(アカホヤ)

掘削(B・C-6~8区)

#### 令和7年2月

包含層人力掘削(B・C-6・7区, C・D-8・9区), 重機によるⅦ層(アカホヤ)掘削(D-8・9区), 土層断面実測, 環境整備

### 第4節 整理・報告書作成作業

本報告書に伴う整理・報告書作成作業は, 県教委から受託した調査センターが, 令和6年度・7年度に調査センター整理作業所において実施した。

#### 1 整理・報告書作成体制

##### (1) 令和6年度

事業主体	国土交通省九州地方整備局 大隅河川国道事務所
作成主体	鹿児島県教育委員会
作成統括	(公財)鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター センター長 寺原 徹
作成企画	〃 総務課長兼総務係長 脇田 清幸 〃 調査課長 三垣 恵一 〃 調査第一係長 西園 勝彦
作成担当	〃 調査第一係長 西園 勝彦 〃 文化財専門員 相良 典隆
事務担当	〃 主 事 上園 慶子

報告書作成指導委員会 調査課長ほか8名  
6月5日(水), 8月8日(木), 11月5日(水), 2月4日(火)

報告書作成検討委員会 センター長ほか4名  
6月7日(金), 8月20日(火), 11月6日(水), 2月7日(金)

##### (2) 令和7年度

事業主体	国土交通省九州地方整備局 大隅河川国道事務所
作成主体	鹿児島県教育委員会
作成統括	(公財)鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター センター長 三垣 恵一
作成企画	〃 総務課長兼総務係長 脇田 清幸 〃 調査課長 黒川 忠広 〃 調査第一係長 楸田 岳志
作成担当	〃 調査第一係長 楸田 岳志 〃 文化財専門員 相良 典隆 〃 文化財専門員 松山 初音
事務担当	〃 主 任 上園 慶子

整理指導 鹿児島大学埋蔵文化財調査センター教授・センター長 中村 直子

報告書作成指導委員会 調査課長ほか8名  
6月3日(火), 8月7日(木), 10月7日(火), 11月5日(火)  
・18日(火)

報告書作成検討委員会 センター長ほか4名  
6月6日(金), 8月22日(金), 10月9日(木), 11月7日(金)  
・19日(水)

## 2 整理・報告書作成の経過

整理・報告書作成の経過については、日誌抄を月毎に集約して記した。

### (1) 令和6年度

#### 令和6年4月

各台帳点検，遺物整理，図面整理，遺物台帳データ整理，遺物水洗い，注記

#### 令和6年5月

遺物水洗い，注記，土器接合，原稿執筆，実測委託用石器選別，図面整理，第2原図作成

#### 令和6年6月

図面整理，第2原図作成，土器接合，土器補強，土器選別，土器実測，石器実測委託

#### 令和6年7月

土器補強，土器実測，図面整理，第2原図作成

#### 令和6年8月

土器実測，拓本，図面整理，第2原図作成

#### 令和6年9月

土器実測，拓本，図面整理，第2原図作成，原稿執筆

#### 令和6年10月

遺物水洗い，注記，土器接合，遺物台帳点検，図面整理，遺物取り上げデータ確認

#### 令和6年11月

遺物水洗い，注記，土器接合，遺物台帳点検，図面整理，遺物取り上げデータ確認，原稿執筆

#### 令和6年12月

遺物水洗い，注記，遺物台帳点検，図面整理，遺物取り上げデータ確認，原稿執筆

#### 令和7年1月

遺物トレース，遺構図デジタルトレース，原稿執筆

#### 令和7年2月

遺物トレース，遺構図デジタルトレース，原稿執筆

#### 令和7年3月

原稿執筆，令和6年度発掘調査成果物確認

### (2) 令和7年度

#### 令和7年4月

各台帳点検，遺物整理，図面整理，遺物台帳データ整理，遺物水洗い，注記，土器接合，遺物取り上げデータ確認，遺構図デジタルトレース

#### 令和7年5月

遺物整理，実測委託用石器選別，第2原図作成，土層図デジタルトレース，コンタ図デジタルトレース，注記，土器接合

#### 令和7年6月

遺物整理，図面整理，土層断面図デジタルトレー

ス，注記，土器接合，復元，土器実測，遺構図デジタルトレース，石器分類，出土礫のデータ計測

#### 令和7年7月

遺物整理，土器実測，復元，拓本，石器データ入力，注記，石器実測，遺物実測図修正，遺構図デジタルトレース修正，石器実測委託，自然科学分析委託

#### 令和7年8月

遺物整理，土器実測，拓本，石器実測，遺物実測図修正，遺構図デジタルトレース，原稿執筆

#### 令和7年9月

遺物整理，土器実測，石器実測，鉄器実測，遺物実測図修正，拓本，陶磁器写真撮影，遺構図デジタルトレース，遺物デジタルトレース，遺物出土状況図作成，観察表データ入力，復元遺物着色，報告書レイアウト，原稿執筆

#### 令和7年10月

遺物整理，鉄器実測，遺物実測図修正，拓本，遺構図デジタルトレース修正，遺物デジタルトレース，遺物出土状況図作成，観察表データ入力，遺構写真レイアウト，遺物写真撮影準備，復元遺物着色，報告書レイアウト，原稿執筆，石器実測委託納品，自然科学分析納品

#### 令和7年11月

遺物整理，遺物デジタルトレース修正，遺物出土状況図作成，観察表作成，遺物写真撮影，報告書レイアウト，原稿執筆

#### 令和7年12月

遺物整理，報告書入札，校正作業

#### 令和8年1月

遺物整理，収納準備，校正作業

#### 令和8年2月

遺物整理，収納準備，校正作業

#### 令和8年3月

遺物収納，報告書納品，検本作業



整理指導風景

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

野首遺跡は、志布志市志布志町帖に所在する。当遺跡の所在する志布志市は、鹿児島県の東部に位置し、東部は宮崎県串間市、西部と南部は大崎町、北部は曾於市と一部宮崎県都城市に接する。平成18(2006)年1月1日に、志布志町・有明町・松山町の3町が合併して志布志市となった。

志布志市の地形は、中央部から南部にかけて、シラス台地が広がり、全体として志布志湾に向かって緩やかな勾配で傾斜し、海岸の近くで急崖となり、わずかな沖積平野を経て海岸線となる。この海岸線は、西側に砂丘海岸が続くのに対し、東側は日南層群で構成される岩礁海岸となる。

対照的に、市の北東部には、御在所岳(530.4m)、笠祇岳(444.2m)、陣岳(349.3m)と起伏の多い山稜が広がり、それに接続する丘陵地の山稜線は、東側に位置する前川(全長約15km)、西側に位置する安楽川(全長約24km)、大隅中央部のシラス台地を貫流する菱田川(全長約55km)を主として、大小河川の活発な浸食活動による深い浸食谷を作ることで、沖積低地を形成し、各所の河岸段丘を成している。段丘崖下からの自然湧水によって、低・中位段丘では集落が形成される。一方、高位段丘では地下水位が深いため、集落形成が困難で「蓬原開田」や「野井倉開田」などのように、近代～現代に開かれるまでは畑地として利用されるにとどまっていた。

地質は、古い方から日南層群－阿多鳥浜火砕流－夏井層－阿多(夏井)火砕流－旧期ローム層－入戸火砕流－新規火山層となる。日南層群は、主に頁岩・砂岩の細互層から成り、年代は漸新生～前期中新世とされている。阿多鳥浜火砕流は、夏井海岸の一部に認められるもので、23～25万年前とされる。夏井層は、下部の貝や植物の化石を含むシルト層と上部の礫層から成る。阿多(夏井)火砕流は、黒色を呈する溶結度の低い均質な凝灰岩で、年代は8.5～10.5万年前とされる。入戸火砕流は、海岸の沿った地域では海拔40m程のシラス台地を形成する。下部には、大隅降下軽石層が存在する。海岸線の東半分は、シラス台地が直接張り出すことで小リアス海岸を呈し、西側部分は、海食による僅かな海岸沖積地が形成され、市街地や一部水田が発達し、砂丘や砂浜を経て海岸に接する。

当遺跡は、志布志湾に向かって南流する前川の右岸、標高約50mのシラス台地上に位置している。

### 第2節 歴史的環境

志布志市には、特に縄文時代の学史上重要な遺跡が多い。さらに、東九州自動車道建設に伴う発掘調査や旧有明町(現志布志市)の農道整備に伴う発掘調査により、弥生時代以降の様相も明らかになりつつある。

当遺跡の周辺にも多数の遺跡があり、東側には別府(石踊)遺跡、南西側には志布志城跡が隣接して所在している。以下、志布志市内の遺跡について時代ごとに概略を述べていく。

#### 旧石器時代

**ナイフ形石器文化期** 見帰遺跡から、ナイフ形石器文化期のナイフ形石器、磨・敲石などが、稲荷迫遺跡から剥片尖頭器が出土している。高吉B遺跡から角錐状石器と製作ブロックが出土し、礫群も1基検出されている。安楽小牧遺跡からは、小型のナイフ形石器が出土している。石材分類と出土状況から、「少量の石核と剥片を携え、遺跡内で簡易な石器製作やメンテナンスを行いながら移動を繰り返した」当時の姿が指摘されている(調査センター2020)。

**細石刃文化期** 次五遺跡から細石刃核を含む黒曜石や珪質頁岩の製作ブロックが検出されている。

#### 縄文時代

**草創期** 安楽小牧B遺跡で爪形文土器が出土している。爪形文土器と分布が重なるように、磨・敲石などの礫石器が出土しており、石器組成の上で他地域の様相とは異なっている。本土南端における生業の様子を考える上で重要な成果が得られている。

東黒土田遺跡では、隆帯文土器期の舟形配石炉や炭化種子の入った土坑が検出されている。遺構内から出土した炭化種実にはクヌギやカシワなど落葉樹が見られ、放射性炭素年代測定の結果、約11,300年前とされている。

**早期** 倉園B遺跡で、堅穴建物跡・連穴土坑・集石などの遺構が検出されている。特に、連穴土坑については、瀬戸口望氏によって検討がなされ、燻製を作っていた施設ではないかと指摘された。また、出土した南九州貝殻文系土器の中で、胴部に横位ないし斜位に貝殻条痕文を施す一群が発見され、石坂式土器に先行する倉園B式土器と型式設定がなされた。

高吉B遺跡では、連穴土坑の小穴部分から底部を欠くが、ほぼ完全な形で石坂式土器が出土している。連穴土坑が石坂式土器段階まで存続していたことを示す。

下掘遺跡では、連穴土坑の下の地層に「シミ状痕跡」の存在が確認された。これは、連穴土坑の機能に関わる

痕跡の可能性も考えられたため、この発見以降、連穴土坑の調査時には可能な限り裁ち割を実施するようになった。

別府（石踊）遺跡は、上野原遺跡10地点で話題を集めた縄文時代早期の壺形土器を、これを遡る1970年代にいち早く認知された遺跡である。

**前期** 別府（石踊）遺跡で、曾畑式土器がまとまって出土している。

**中期** 野久尾遺跡で、深浦式・船元式土器などが出土し、出土遺物のうち8割ほどを占める尖底の条痕文土器が野久尾式土器として型式設定された。

前谷遺跡では、春日式土器段階の竪穴建物跡が検出されている。南九州では、当該期の集落が検出された類例が少なく、貴重な事例である。

**後期** 中原（曲瀬）遺跡で、中期末から後期前半の土器が多量に出土し、この中には磨消縄文土器なども含まれている。特に、福田Ⅱ式土器に類似する土器などは、文化の伝播や交流を考える上で重要である。このほかに、内面が円形に研磨された軽石片が多量に出土し、軽石製土器器面調整具と位置づけられた。

見帰遺跡では、幅約2.5m～3m、長さ57mの溝状遺構が検出され、この底面中央が硬化していた。このことから、道跡の可能性が言及された。主な出土遺物は、市来式・納曾式・辛川式・西平式・丸尾式・中岳Ⅱ式土器であり注目される。

船迫遺跡では、中岳Ⅱ式土器などとともに、落とし穴が検出されている。

**晩期** 稲荷迫遺跡で、入佐式・夜臼式土器などとともに、多種多様な石器が出土している。

小迫遺跡では、干河原段階の良好な資料が認められる。また、出土した土器内包の炭化米の年代測定をしたところ、今から約2,600年前のものとなり、イネをはじめとする穀物栽培がこれまで推定されていたより早く南九州に伝わっていたことが指摘された。

## 弥生時代

夏井土光遺跡・小迫遺跡・稲荷迫遺跡・上苑遺跡・上苑A遺跡から、刻目突帯文土器が出土している。夏井土光遺跡では、前期末から中期初頭の柱状片刃石斧が出土している。稲荷迫遺跡では、入来Ⅰ・Ⅱ式土器期の土坑墓が2基検出され、前期の高橋式・中期の入来Ⅱ式・山ノ口式土器などとともに、磨製石鎌・扁平片刃石斧などの石器や瀬戸内や北九州の影響を受けた土器も出土している。

京ノ峯遺跡では、中期後半の周溝墓が多数検出されており、南九州で希有な墓制であることから、近畿・瀬戸内地方の影響が考えられる。高吉B遺跡・柳遺跡などでは、山ノ口Ⅱ式土器期の竪穴建物跡が、船迫遺跡では山

ノ口Ⅱ式土器期の掘立柱建物跡が検出されている。

高吉B遺跡では、竪穴建物跡7軒、掘立柱建物跡5棟、土坑8基が検出されているが、竪穴建物群と掘立柱建物群は区域が異なる。土坑の中には、土器閉塞による横穴をもつものもある。土器には、北九州・瀬戸内・東九州系のもも含まれている。このほかに、丁子頭の土製勾玉や磨製石鎌・打製石鎌・磨石・敲石・石皿・砥石などの石器もある。

船迫遺跡では、掘立柱建物跡4棟が検出され、山ノ口Ⅱ式土器や磨製石鎌・磨石・敲石などが出土している。

稲荷上遺跡では入来式土器が、安良遺跡では山ノ口Ⅱ式土器が出土している。

柳遺跡では、長方形の焼失建物跡が検出され、山ノ口Ⅱ式土器や土製勾玉・軽石製品が出土している。

土橋遺跡では、広形銅鉾が発見されており、県内唯一で本土最南端の発見例である。

井手上A遺跡では、入来Ⅱ式土器期の竪穴建物跡が検出されている。中期後半の山ノ口Ⅱ式土器期になると、竪穴建物跡の検出例は増加し、柳遺跡・長田遺跡・本村遺跡・井手間遺跡・前谷B遺跡などがある。

## 古墳時代

当該時期の集落遺跡は、旧有明町においての調査事例が多い。仕明遺跡・春日堀遺跡では、弥生時代終末期～古墳時代前期の、屋部当遺跡では辻堂原から笹貫式土器期の、長田遺跡では笹貫式土器期の竪穴建物跡が確認されている。なお、春日堀遺跡で確認された古墳時代前期の花弁形建物跡は県内最大である。

志布志市では、笹貫式新段階期（7世紀代）の調査事例が多く、宮脇遺跡・安良遺跡・仕明遺跡・春日堀遺跡がある。春日堀遺跡では、竪穴建物跡・掘立柱建物跡・溝が確認されており、7世紀中～後半頃の集落跡とされる。溝は、安良遺跡でも確認されている。

当該地域では、県内の出土例が少ない6世紀末～8世紀前半頃の須恵器が多数認められており、様相が不明瞭な7世紀代の南部九州の様相を考える上で、重要な地域である。

高塚古墳は、前方後円墳の飯盛山古墳と小牧1号墳、円墳の原田古墳がある。飯森山古墳は出土埴輪から中期初め（4世紀後半）、原田古墳は出土須恵器から中期中頃（5世紀中頃）、小牧1号墳は採集された須恵器から後期後半（6世紀後半）に築造された可能性がある。

これら以外には、原田地下式横穴墓群や馬場地下式横穴墓群がある。原田3号地下式横穴墓からは、完全な形の短甲が出土した。同様な出土例は、祓川地下式横穴墓（鹿屋市）出土例以来県内で2例目である。短甲以外にも長頭鎌・圭頭鎌・槍先・鉄剣・刀子・有肩鉄斧・U字形鉄鋤先・鑿子状鉄製品など40点程の副葬品が確認さ

れた。地下式横穴墓としては県内最大級規模で、県内最多の副葬品数である。志布志とヤマト政権との関係を考える上で重要な発見である。

春日堀遺跡と安良遺跡では、ともに溝を掘りこんだ地下式横穴墓が確認されている。

## 古代

古代の志布志は、日向国諸県郡に属していた。

水ヶ迫横穴墓では、須恵器製蔵骨器が確認されている。

小迫遺跡・安良遺跡・牧ノ原A遺跡・井手上A遺跡では古代の遺物が出土しているが、これらの遺跡からはいずれも墨書土器が確認されている。

野久尾遺跡・宮脇遺跡・稲荷迫遺跡・仕明遺跡・安良遺跡では焼塩土器が出土している。

当該地域では、古墳時代終末期から8世紀代の遺跡が確認されるものの、9世紀以降は様相が不明瞭である。本県においては、特に薩摩地域において、9世紀代～10世紀前半頃の遺跡が顕著に見られる傾向があるが、これとは異なる特色がみられる。

## 中世

志布志は、港町として栄え「志布志津」と呼ばれた。国指定史跡の志布志城跡は、前川河口近くにあり、内城・松尾城・高城・新城からなる。各城は、シラス台地の端部に立地し、いくつかの深い壕で区画された郭となり、各郭から建物跡・溝状遺構・土坑・土塁・門跡などが検出されている。主として14世紀半ばから15世紀の遺物が出土しており、当時の広範な交易が推測される。

安楽山宮神社境内では、明治26(1893)年に石室が発見されている。蔵骨器は白磁四耳壺で、副葬・供献品として菊花紐の和鏡、土師器皿(柱状高台皿含む)、青白磁(合子・小壺)、鉄塊などがあり、12世紀後半～13世紀初頭頃とされる。出土品の一部と出土状況の記録が山宮神社に保管されている。

宇都上遺跡では、大型土坑の中に、石塔残欠・石臼とともに、15世紀頃の国産陶器や青磁・白磁・青花の他、ベトナムやタイ産と思われる輸入陶器が確認された。

安良遺跡では、竪穴建物跡・掘立柱建物跡・土坑群などが検出され、土師器・瓦器・瓦質土器・東播系須恵器や備前焼、常滑焼などの国産陶器、青磁・白磁・青花などの輸入陶器に加えてベトナムやタイ産、華南産等の陶器、炭化米塊・炭化種子などが出土している。

長田遺跡・仕明遺跡では土坑墓、京ノ峯遺跡では方形周溝墓2基が検出されている。

志布志海岸には砂鉄が薄く堆積しているが、これを原料とした製鉄が、前川・安楽川沿いで行われていたことが確認される。前川河口の宝満寺跡内にある宝満製鉄遺跡では、土坑・排滓場が検出され、土師器・炉壁・鞆の羽口・製錬滓・台石・敲石などが出土している。

## 近世

志布志城跡の東側に地頭仮屋が置かれ、その周辺に武家屋敷が建ち並んで「麓」を形成していた。

藩米などの集積・積出港であった前川河口には、津口番所が置かれ、石垣の一部が現存し、発掘調査も実施されている。このほか、地頭仮屋跡・福山氏庭園(福山氏邸)・密貿易屋敷跡では確認調査が行われ、陶磁器類が出土している。

当該時期の製鉄関連遺跡として、樽野製鉄遺跡、中川内製鉄遺跡、二本松製鉄遺跡、荒田製鉄遺跡などが確認されており、多くは明治時代頃まで操業していた。

## 近代

太平洋戦争末期、連合軍の南九州上陸作戦(オリンピック作戦)を予測した日本軍は、志布志湾沿岸に洞窟式の地下陣地を作った。特に、海岸に面する台地の断崖に造成された洞窟陣地は、総延長16kmに及び、すべての陣地が地下壕で連絡していた。壕は場所によって2～3段になり、銃眼・砲座などの戦闘施設以外にも、炊事場などの生活施設も存在していた。権現島水際陣地跡は、現存している陣地の一つである。

また、野井倉台地に海軍航空隊志布志基地(野井倉飛行場)が建設されたが、完成間近の昭和20(1945)年3月に大規模空襲を受け、そのまま再建されることはなかった。

〈参考文献〉※発掘調査報告書は引用を除き割愛した。

有明町誌編纂委員会1980『有明町誌』

大西智和・鐘ヶ江賢二・松崎大嗣2012「志布志市有明町原田古墳の測量調査」『鹿児島考古』42 鹿児島県考古学会

上村俊雄1970「飯盛山古墳とその周辺」『九州考古学』39・40 九州考古学会

上村俊雄1984「鹿児島県」各地域における最後の前方後円墳 西日本I『古代学研究』102 古代学研究会

志布志市誌編さん委員会2023『志布志市誌』

志布志町誌編集委員会1972『志布志町誌』

瀬戸口望1981「東黒土田遺跡発掘調査報告」『鹿児島考古』15 鹿児島県考古学会

瀬之口傳九郎1917「大隅国出土の銅矛に就きて」『考古学雑誌』8-2 日本考古学会

鹿児島県教育委員会・(公財)埋蔵文化財調査センター2020『安楽小牧B遺跡』(公財)埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書(33)



第1図 野首遺跡周辺遺跡図

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡番号	遺跡名	所在地	地形	時代	備考
1	114	野首遺跡	志布志町帖字野首	台地	旧石器, 縄文, 弥生, 古墳, 古代, 中世, 近世・近代	本報告書
2	107	屋長ヶ迫B遺跡	志布志町内之倉字屋長ヶ迫	台地	縄文(早期), 弥生	散布地
3	226	佐野原遺跡	志布志町帖字佐野原	台地	弥生	散布地
4	215	上佐野原A遺跡	志布志町帖字上佐野原・佐野原	台地	弥生	散布地
5	155	前迫遺跡	志布志町帖字前迫	台地	縄文, 弥生	散布地
6	122	中原B遺跡	志布志町帖字中原	台地	縄文	散布地
7	129	川平遺跡	志布志町帖字川平	台地	縄文	散布地
8	253	上佐野原B遺跡	志布志町帖字上佐野原・下佐野原	台地	弥生	散布地
9	121	中原A遺跡	志布志町帖字中原	台地	縄文	散布地
10	120	上牧遺跡	志布志町帖字上牧	台地	縄文	散布地
11	276	稲荷免遺跡	志布志町帖字稲荷免	台地		散布地
12	285	弓場ヶ尾遺跡	志布志町帖字弓場ヶ尾	台地	縄文(早期), 古墳	散布地
13	259	高吉B遺跡	志布志町安楽字宇都上・茶馬場・雨堤	台地	弥生	散布地
14	214	島廻遺跡	志布志町帖字島廻	台地	縄文(早期), 弥生	散布地
15	118	下牧遺跡	志布志町帖字下牧	台地	縄文, 弥生	散布地
16	119	白木牟田遺跡	志布志町帖字白木牟田	台地	縄文, 弥生	散布地
17	131	下佐野原遺跡	志布志町帖字下佐野原	台地	縄文	散布地
18	130	下迫遺跡	志布志町帖字下迫・中迫	台地	縄文	散布地
19	127	西原A遺跡	志布志町帖字西原・二反野	台地	縄文(晩期)	散布地
20	132	大二反野A遺跡	志布志町帖字大二反野	台地	縄文, 弥生	散布地
21	222	大二反野B遺跡	志布志町帖字大二反野	台地	縄文, 弥生	散布地
22	112	五里ヶ迫遺跡	志布志町帖字五里ヶ迫	台地	縄文	散布地
23	133	下田遺跡	志布志町帖字下田	台地	縄文(早期)	散布地
24	85	山之上遺跡	志布志町帖 8478 字大丸迫	台地	旧石器, 縄文(早期), 古墳, 古代, 中世	散布地
25	134	坂上遺跡	志布志町帖字坂上	丘陵	縄文(早期), 弥生	散布地
26	182	坂ノ上遺跡	志布志町帖 11823 字坂ノ上	丘陵	縄文(早期)	散布地
27	227	上田屋敷遺跡	志布志町帖字牛迫ヶ谷	台地	旧石器, 縄文(早期, 晩期), 弥生(中期), 古墳	散布地
28	117	山田平遺跡	志布志町帖字山田平	台地	縄文, 弥生	散布地
29	267	飛渡遺跡	志布志町帖字飛渡	台地	縄文(晩期), 弥生(中期) 古墳	散布地
30	219	桃ノ木遺跡	志布志町帖字桃ノ木・五里ヶ迫	丘陵	弥生(中期)	散布地
31	270	湯田堀遺跡	志布志町帖字湯田堀	台地	縄文, 古墳, 中世	散布地
32	516	中新堀遺跡	志布志町帖中新堀・徳蔵	台地	古墳	散布地
33	145	道悦遺跡	志布志町帖字道悦	丘陵	縄文(後期), 弥生	散布地
34	116	油田遺跡	志布志町帖字油田・西中尾	台地	縄文, 弥生	散布地
35	115	西中尾遺跡	志布志町帖字西中尾	台地	縄文	散布地
36	272	大丸迫遺跡	志布志町帖字大丸迫	台地	縄文(早期, 後期, 晩期), 弥生	散布地
37	273	別府前遺跡	志布志町帖字別府前	台地	縄文(早期, 晩期), 古墳時代	散布地
38	144	別府(石踊)遺跡	志布志町帖字石踊・天神田	台地	縄文(早期, 前期, 中期, 晩期)	散布地
39	135	柳之元遺跡	志布志町帖字柳之元	台地	縄文(後期, 晩期), 弥生	散布地
40	243	南水ヶ迫遺跡	志布志町帖字南水ヶ迫	台地	古代(奈良, 平安)	散布地
41	228	内堀遺跡	志布志町帖字内堀	台地	弥生	散布地
42	183	野久尾遺跡	志布志町帖字志布志	台地	縄文(前期, 中期, 後期, 晩期) 古代, 中世, 近世	散布地
43	247	志布志城(内城)跡	志布志町帖字内城	台地	縄文, 弥生, 中世(南北朝)	城館跡
44	248	志布志城(松尾城)跡	志布志町帖字松尾	台地	中世(南北朝)	城館跡
45	249	志布志城(高城)跡	志布志町帖字高城	台地	中世(南北朝)	城館跡
46	277	志布志城(新城)跡	志布志町帖字宇都ノ上	台地	縄文(早期, 中期) 中世(南北朝)	城館跡
47	290	高濱遺跡	志布志町帖字高濱	河川	縄文(中期, 後期), 近世	—
48	158	小淵遺跡	志布志町帖 6423 字高濱	丘陵	縄文(中期, 後期)	散布地
49	149	南中尾遺跡	志布志町帖字南中尾	台地	縄文(早期, 中期), 弥生	散布地
50	518	南水ヶ迫B遺跡	志布志町帖字南水ヶ迫 7457-1 外	台地	旧石器, 縄文, 弥生, 古墳, 古代, 中世, 近世・近代	散布地
51	279	下原遺跡	志布志町帖字南水ヶ迫・下原	台地	弥生, 古代(奈良, 平安)	散布地
52	282	陣岳壘跡	志布志町帖前谷・南ヶ迫	丘陵	中世【応永8年(1401年)櫛間の本田忠親が志布志城を攻めた際の壘跡】	城館跡
53	271	夏井土光遺跡	志布志町夏井字五郎作	台地	縄文(早期, 晩期), 弥生(中期)	集落跡
54	138	深迫遺跡	志布志町夏井字中野	台地	縄文, 弥生	散布地
55	195	下原遺跡	志布志町帖字下原	台地	縄文	散布地
56	245	宝満寺跡	志布志町帖字宝満	河川	古代(奈良), 中世	社寺跡
57	113	向川原遺跡	志布志町帖字向川原	丘陵	縄文(早期)	散布地
58	265	外堀遺跡	志布志町志布志字外堀	台地	縄文(早期)	散布地
59	148	ミソレ谷遺跡	志布志町夏井字溝江・赤丸	台地	縄文, 弥生	散布地
60	232	溝江遺跡	志布志町夏井字溝江	台地	弥生	散布地
61	224	夏井土光B遺跡	志布志町夏井字土光	台地	縄文(早期, 後期, 晩期)	散布地
62	239	夏井土光C遺跡	志布志町夏井字土光	台地	縄文(早期, 後期, 晩期)	散布地
63	278	夏井城跡遺跡	志布志町夏井字前田	海岸	中世(南北朝)	城館跡
64	184	夏井ヶ浜遺跡	志布志町夏井字前田	海岸	縄文(後期)	散布地

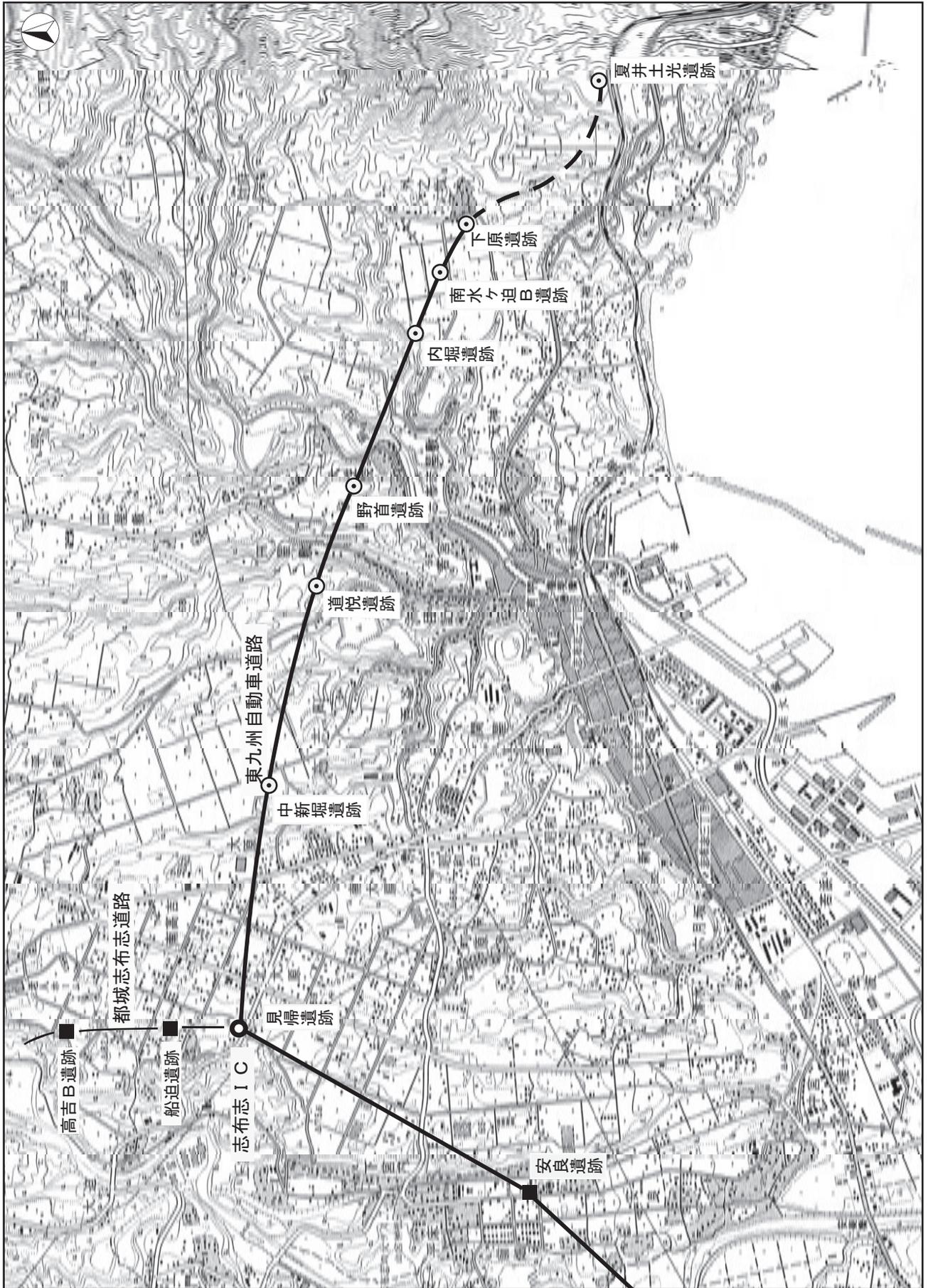
### 第3節 夏井IC～志布志IC間の遺跡

一般道220号日南・志布志道路の夏井IC～志布志IC間は、第2表に示すとおり8か所の遺跡が存在する。

ここでは調査済み及び調査中の遺跡の概要を記載する。詳細については各遺跡報告書等を参照していただきたい。

第2表 夏井IC～志布志IC間の遺跡

番号	遺跡名	所在地・立地	調査面積 調査期間	整理・報告書 作成作業	遺跡の概要		
					時代・時期	主な遺構	主な遺物
1	見掃遺跡	志布志市志布志町 帖字見掃	調査面積 2,705㎡	報告書刊行2019 (公財)埋蔵文化財 調査センター 調査報告書(23)	ナイフ形石器文化期		ナイフ形石器, 磨石, 敲石
			調査期間 2016.05.09 ～09.09		縄文時代早期		細石刃, 使用痕剥片, 磨石, 敲石, 台石 石坂式土器, 下剥峯式土器, 押型文土器, 打製石鏃, 磨石, 敲石
					縄文時代中期	土坑5基	打製石鏃
					縄文時代後期		納骨式土器, 辛川式土器, 西平式土器, 丸尾式土器, 円盤状土製品, 磨石, 敲石, 石鏃
					その他の時代	溝状遺構4条	溝状遺構1号は、縄文時代後期の遺物(納骨式土器, 辛川式土器, 西平式土器, 市来式土器, 丸尾式土器)のみの出土。溝状遺構2～4号は、薩摩焼が混入するため、近世以降とみられる。
標高約75mのシラス台地上に立地する。旧石器時代から近世までの複合遺跡である。溝状遺構が4条検出されたが、そのうちの1条は縄文時代後期の可能性が高い。							
2	中新堀遺跡	志布志市志布志町 帖字中新堀・徳蔵			文化財課の試掘調査により、本路線には遺構・遺物がないことが確認されたため、本調査を実施せず。		
3	道悦遺跡	志布志市志布志町 帖字道悦			文化財課の試掘調査により、本路線には遺構・遺物がないことが確認されたため、本調査を実施せず。		
4	野首遺跡	志布志市志布志町 帖字野首	調査面積 8,400㎡	報告書刊行2026 (公財)埋蔵文化財 調査センター 調査報告書(63)	旧石器時代	礫群2基	三稜尖頭器, ナイフ形石器, ハンマー, 磨・敲石, 台石
			調査期間 2023.05.08 ～2024.02.22 2024.05.07 ～2025.02.26		縄文時代早期	集石86基 土坑2基	土器(前平式, 石坂式, 下剥峯式, 桑ノ丸式), 石鏃, 石匙, スクレイバー, 彫器 石鏝, 二次加工剥片, 使用痕剥片, 磨製 石斧, 礫器, 磨・敲石, 石鏃, 石皿片
					縄文時代前期	土坑2基	土器(深浦式日本山段階), 石鏃, スクレイバー, 使用痕剥片, 礫器, 磨・敲石, 凹石, 石皿
					縄文時代後期～晩期	落とし穴1基	土器(後期初頭土器, 松山式, 丸尾式, 辛川式, 西平式, 中岳Ⅱ式, 黒川式)
					弥生時代		土器(刻目突帯文, 入来式)
					古墳時代	堅穴建物跡1軒	成川式土器, 古墳時代中期中葉～後葉の 土器
					古代	土坑墓1基 炭化物集中土坑1基	土師器, 須恵器
					中世	掘立柱建物跡1棟 溝状遺構3条	土師器, 須恵器, 中国磁器(白磁・青磁・ 青花・華南三彩), 陶器(備前・常滑・ 瀬戸・国外), 瓦器, 瓦質土器, 土鏝, 基石, 滑石製品, 古銭, 小札
					近世・近代		陶器(薩摩焼・肥前等), 磁器(肥前系)
					時期不明	土坑1基 硬化面4か所	打製石鏃, 石鏝, 磨石, 敲石, 石皿, 打製 石斧, 擦切石器, 磁石, 軽石製品 鉄鏃, 刀子, 釘, 鉄鍋, 刃物類, 踏鉄, 不明鉄製品
標高約50mのシラス台地上に立地する。旧石器時代から近代までの複合遺跡である。調査区の東側から、縄文時代早期の集石が多く検出された。調査区の西側からは中世～近世の遺物(輸入陶磁器など)が出土しているが、志布志城跡に近接していることが理由のひとつであると考えられる。							
5	内堀遺跡	志布志市志布志町 帖字内堀			文化財課の試掘調査により、本路線には遺構・遺物がないことが確認されたため、本調査を実施せず。		
6	南水ヶ迫B遺跡	志布志市志布志町 帖字南水ヶ迫	調査面積 8,550㎡	報告書刊行2026 (公財)埋蔵文化財 調査センター 調査報告書(62)	旧石器時代 ナイフ形石器文化期	遺物集中部	角錐状石器, ナイフ形石器, 剥片, 破片 叩石, 砥石
			調査期間 2023.05.08 ～2024.02.22 2024.05.07 ～2025.02.26 2025.05.07 ～10.29		旧石器時代 細石刃文化期	遺物集中部	ナイフ形石器, 台形石器, 搔器 細石刃, 細石刃核, 剥片, 破片 叩石, 砥石
					縄文時代早期	土坑1基 連穴土坑3基 集石14基	土器(石坂式), 石鏃, 磨敲石 石皿, 台石
					縄文時代中期～後期	落とし穴1基	土器(中岳Ⅱ式), 石鏃
					弥生時代早期～前期		土器(刻目突帯文系, 高橋Ⅱ式) 石鏃, 扁平打製石斧
中世～近世	土坑15基 溝状遺構19条 帯状硬化面14条 炭化物集中域 1か所	中国産陶磁器(青磁, 白磁, 青花, 天目碗, 華南三彩, 翡翠釉陶器, 褐釉陶器)国産 陶器(備前系, 常滑焼, 瀬戸美濃系) 近世陶磁器(薩摩焼, 肥前系), 瓦質土 器製品, 鉄製品					
標高約55mのシラス台地上に立地する。旧石器時代から近世の複合遺跡である。調査区北西側で旧石器時代の石器製作跡が数か所検出された。中世～近世・近代の溝状遺構, 帯状硬化面は、多くの重なりがみられるため、当該時期は周辺の往来が盛んであった可能性が考えられる。							
7	下原遺跡	志布志市志布志町 帖字南水ヶ迫・下原	調査面積 3,600㎡ 調査期間 2025.05.07 ～02.25		令和7年度 発掘調査中		
8	夏井土光遺跡	志布志市志布志町 夏井土光	調査予定		-		



第2図 志布志IC周辺～夏井IC間の遺跡

## 第三章 調査の方法

### 第1節 調査の方法

本節では、発掘調査の方法、遺構の認定と検出方法、整理・報告書作成作業について簡潔に述べる。

#### 1 発掘調査の方法

野首遺跡の発掘調査は、令和3年度・4年度に試掘調査、令和4年度に確認調査、令和5年度・6年度に本調査を実施した。対象面積は、表面積8,400㎡、延面積18,024㎡である。

本遺跡の調査区割（グリッド）は、工事用基準杭「No.275」と「No.285」の延長線を中心に、10m間隔で西から東に向かって1・2・3…、北から南に向かってA・B・C…と設定した。

用地境界等では、安全上の措置として約1～1.5m程度内側に控えて調査を実施し、調査深度が2mを超える場合には、さらに2m程度の段（控え）を設けて下層を掘削した。

主な調査方法は、重機による表土掘削後、遺物包含層の人力による掘削を行った。無遺物層であるアカホヤ火山灰層（Ⅶ層）についても、重機を用いて掘削を行った。遺構は、検出状況の写真撮影を行った後、平面プランの実測、半掘、出土遺物の写真撮影、実測、遺物取り上げ、半掘状況写真撮影、断面実測、埋土の記録、完掘、完掘状況写真撮影、完掘状況実測を実施した。遺物は、小破片や攪乱部分で出土したものについては、設定した調査区ごとに一括して取り上げを行い、その他の遺物については、出土状況の写真撮影を行った後、トータルステーションによる遺物取り上げを行った。

各年度の発掘調査の方法及び概要（詳細については、第I章に掲載）は、以下のとおりである。

#### （1）令和5年度

確認調査の結果を受け、本調査は令和5年5月8日から令和6年2月22日まで、調査対象延面積は8,824㎡で行った。本遺跡の東側にあたるB～F-15～25区で、協議の結果調査不要と判断された側道予定地部分を除いて、縄文時代早期までの調査を行った。その後、下層確認のためにトレンチ調査を行い、旧石器時代の遺構・遺物が確認されたため、さらに調査を実施した。Ⅱ層からは、堅穴建物跡や掘立柱建物跡など古墳時代～中世の遺構と土器や石器をはじめとする遺物が発見された。Ⅲ～Ⅵ層からは落とし穴などの縄文時代前期～晩期の遺構と多くの遺物が発見された。Ⅸ層から縄文時代早期の遺構・遺物が発見され、特に集石遺構が86基検出された。Ⅻ層から旧石器時代の遺構・遺物が発見された。なお、令和5年度は、遺構実測の一部を株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託して行った。

#### （2）令和6年度

令和6年5月7日から令和7年2月26日まで、調査対象延面積は9,200㎡で行った。本遺跡の西側にあたるB～F-4～17区で、協議の結果調査不要と判断された側道予定地部分を除いて、縄文時代早期までの調査を行った。その後、下層確認のためにトレンチ調査を行った。Ⅱ層からは古墳時代～中世の遺構・遺物が発見され、中世の遺物では国産の陶磁器だけではなく、華南三彩など外国産の陶磁器も確認された。Ⅲ～Ⅵ層からは縄文時代後・晩期の遺構・遺物が発見された。Ⅸ層からは縄文時代早期の遺構・遺物が発見された。旧石器時代の遺構・遺物は確認されなかった。また、令和6年度の調査では（株）CUBIQ社の遺構・遺物実測支援ソフト「遺構くん」を導入し、デジタル化による遺構実測の効率化を図った。

#### 2 遺構の認定と検出方法

本遺跡で検出された遺構の認定と検出方法については、以下のとおりである。

##### （1）遺構の認定・分類・時期判断

本報告書掲載の遺構は、検出面の層位、埋土の状況・色調、規模などを基に、調査担当者間で検討し、認定及び時期判断を行ったものである。ただし、本遺跡は現代の耕作や土地改変の影響を受けており、特にⅦ層（アカホヤ火山灰層）より上層の残存状態が乏しい箇所が目立つ。表土を剥ぐとⅡ～Ⅵ層が喪失してⅦ層が露出する地点もあるため、検出面の層位や埋土内の遺物から明確な時代認定が難しいものについては、時期不明遺構として掲載した。

##### （2）遺構の検出方法

遺構の検出については、各年度とも包含層掘削の際に、土色や遺物の出土状況などを慎重に観察し、必要に応じて遺構精査を行うなどしながら、当時の地表面に限りなく近い位置での検出に努めた。しかし、層が欠失したり入り交じったりしている箇所があり、当時の地表面の特定が困難な場合もあった。

#### 3 整理・報告書作成作業の方法及び内容

本遺跡の整理・報告書作成作業は、令和6年度・7年度に実施した。年度ごとの具体的な作業内容については、第I章を参照されたい。

図面類は、遺構実測図、土層断面図、地形図などに仕分けし、台帳や遺物との照合を行った。

遺物の水洗いは、未洗いの遺物や発掘現場での水洗いが不十分な遺物について行った。その際、遺物に付着している重要な情報を除去することがないように注意を払った。

注記は、水洗いと並行して順次行った。注記を行う際

は、薬品を使用するため、換気に注意しながら手作業で進めた。注記記号は、県埋文センターと協議し「NKB」とし、包含層から出土した遺物には続けて「区」「層」「遺物番号」を記入した。また、遺構内の遺物には「区」「層」「遺構名」「遺物番号」を記入した。

土器は、遺構内出土遺物と包含層出土遺物に分け、土器の文様や胎土などで分類・接合を行い、実測した。

石器は、遺構内出土遺物と包含層出土遺物に分け、包含層出土遺物については、出土層位ごとに剥片石器と礫石器に分けた後、器種及び石材別に分類し、実測した。出土石器については、作業の効率化を図るため、実測の一部を株式会社埋蔵文化財サポートシステムと株式会社九州文化財総合研究所に委託した。

遺物出土状況図はトータルステーションで取り上げたデータを統合し、Adobe社製ソフトIllustrator2022を使用して作成した。

遺構実測図は、点検・修正後に掲載スケールを決定し、トレースを行った。

遺物実測図は、点検・修正後に掲載スケールを決定しトレースを行い、必要に応じて拓本や遺物の傾きに合わせて撮影した写真を外形図に合成して掲載した。

写真図版は、現場写真のレイアウト、遺物写真の撮影・レイアウトを行った。その際、接合資料については、写真撮影用の復元を部分的に行った。

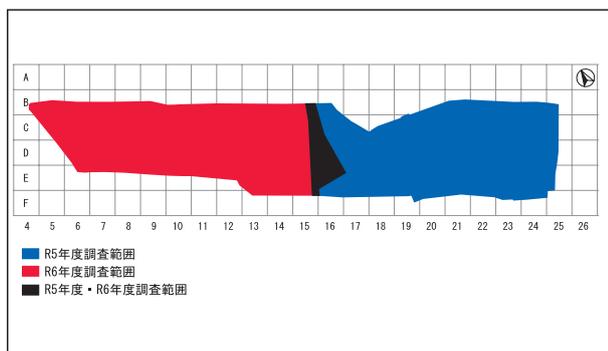
本編の原稿執筆、観察表作成作業も同時に行い、写真撮影終了後、印刷・製本を行った。

なお、古墳時代の遺物については、中村直子氏（鹿児島大学埋蔵文化財調査センター教授）に指導を受けた。

中世の遺物については、志布志市教育委員会所蔵の志布志城跡出土資料、宮崎県埋蔵文化財センター所蔵の塩見城跡・高鍋城三ノ丸跡、林遺跡出土資料との比較検討を行った。また、宮崎市生目の杜遊古館埋蔵文化財センター所蔵の穆佐城跡出土資料との比較検討を行った。

## 第2節 層序

野首遺跡周辺は、近現代に畑地として利用されたり、宅地造成が行われたりしており、土地の改変が行われている。それにより、谷地形を埋め立てて盛土をしている



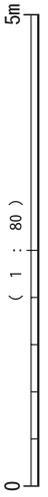
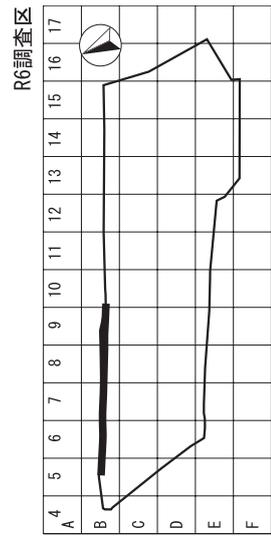
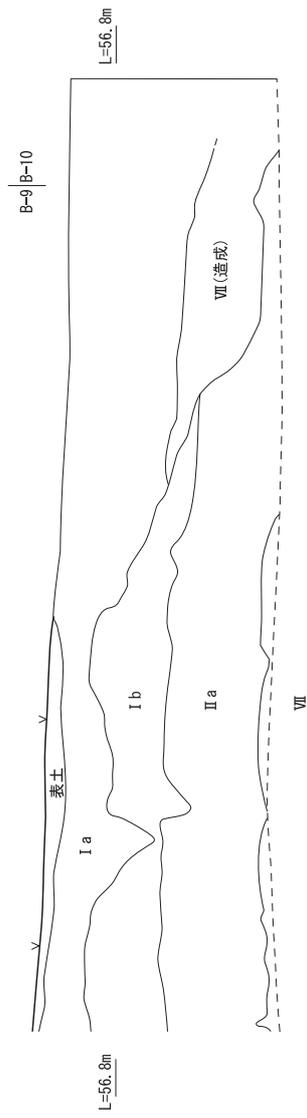
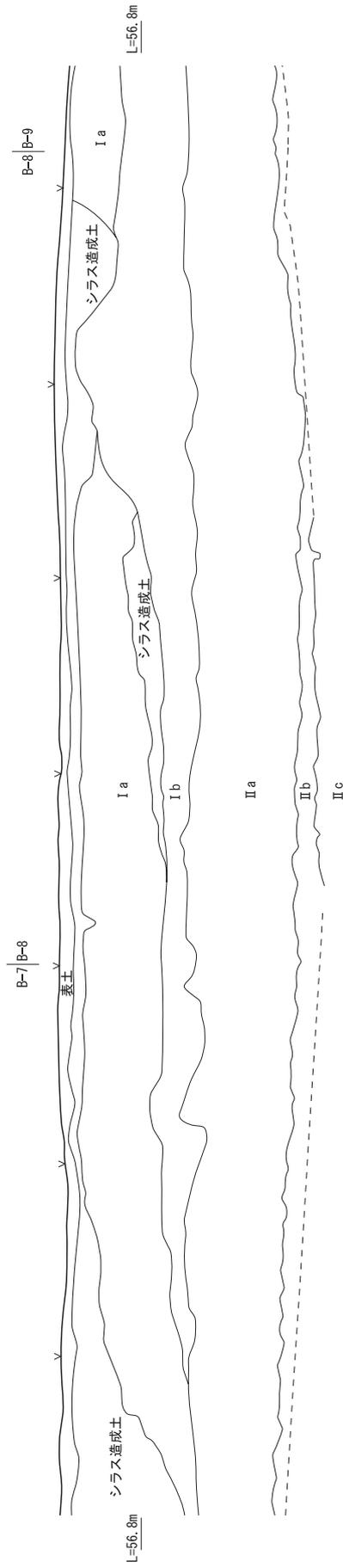
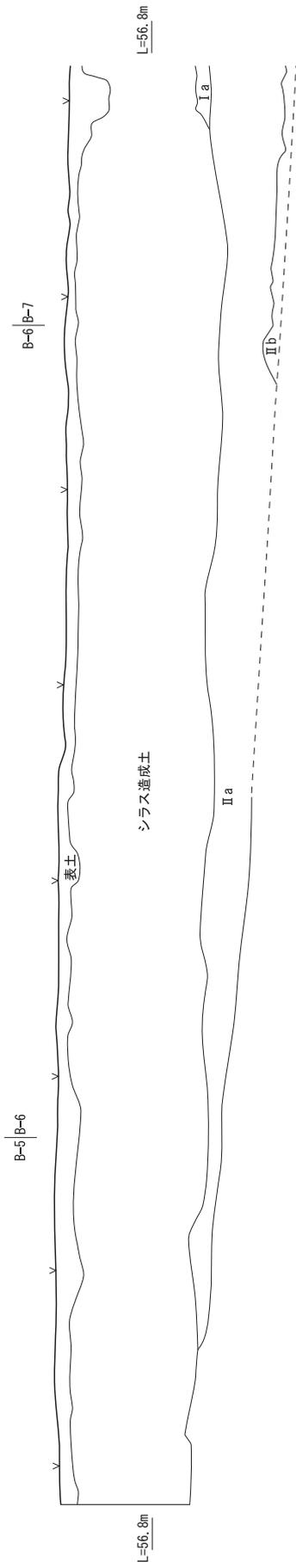
第3図 令和5年度・令和6年度調査範囲

と考えられる箇所や、上部の層が削平を受けて残存していない箇所が多くあった。また、I層からIII層については、周辺の地形によって、分層できるエリアと、分層できないエリアがあった。

- I a層 表土である。造成土と考えられる。暗褐色土。
- I b層 表土である。旧表土と考えられる。黒褐色土。
- II a層 近世の遺物を主とする遺物包含層である。暗褐色土で、白色パミスと赤色粒子を含む。
- II b層 中世の遺物を主とする遺物包含層である。黒色土。
- II c層 古墳時代～古代の遺物を主とする遺物包含層である。黒褐色土。
- III a層 縄文時代後・晩期の遺物を主とする遺物包含層である。黒色土。
- III b層 御池降下軽石を含む層である。黒色土。
- IV層 暗褐色土。
- V層 縄文時代前期の遺物を主とする遺物包含層である。池田降下軽石を含む。黒褐色土。
- VI層 アカホヤ火山灰の腐植土層である。褐色土。
- VII層 アカホヤ火山灰層である。下部には、部分的に火砕流堆積物が見られる。明黄褐色土。
- VIII層 縄文時代早期の遺物包含層である。暗褐色土。
- IX層 縄文時代早期の遺物包含層である。褐色土。
- X層 薩摩火山灰層である。灰黄褐色土。
- X I層 旧石器時代の遺物を主とする遺物包含層である。茶褐色土。
- X II層 旧石器時代の遺物を主とする遺物包含層である。褐色土。
- X III層 硬質ブロックを含む層である。明褐色土。
- X IV層 褐色土。
- X V層 明褐色土。
- X VI層 2次シラスである。明褐色土。

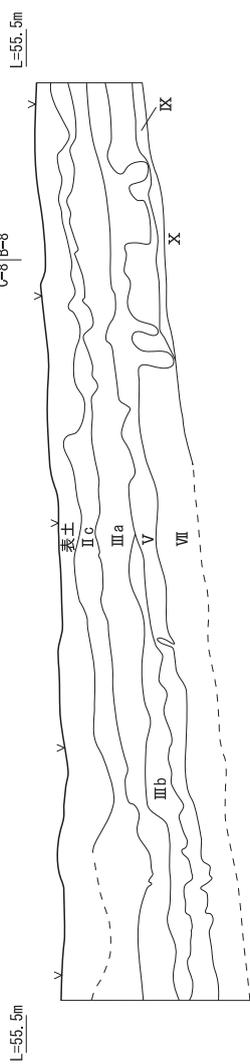


表土～II層 (D-25区)

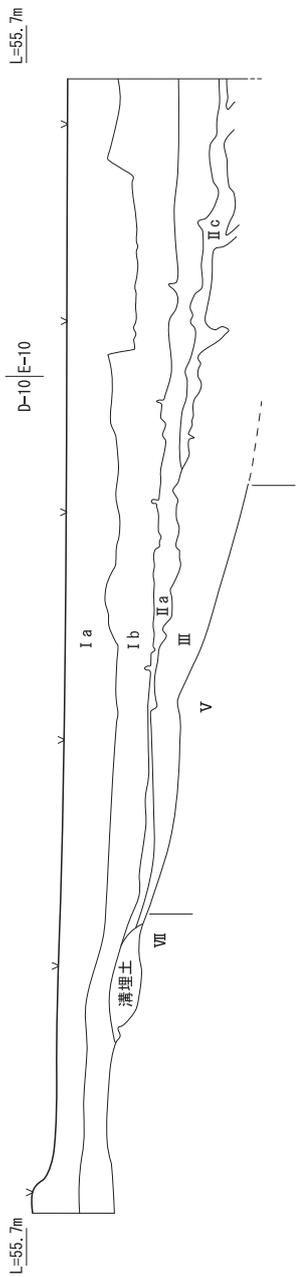


第4図 土層断面図1

① B · C - 8

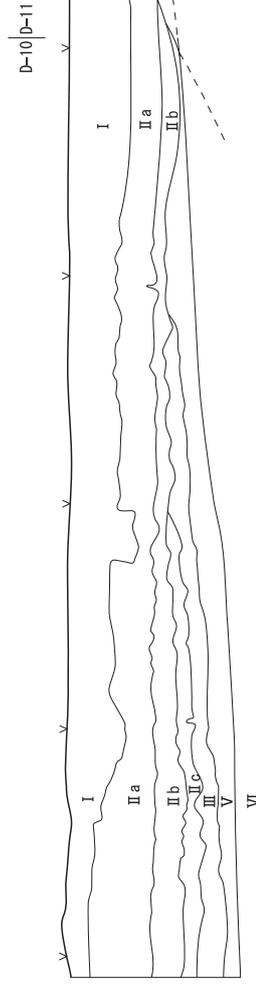


② D · E - 1 0

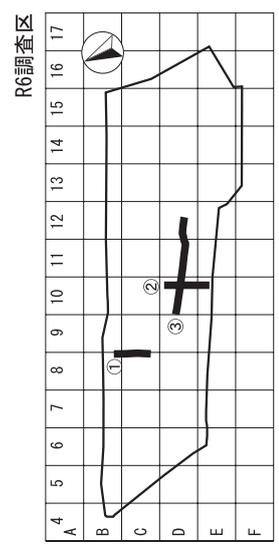
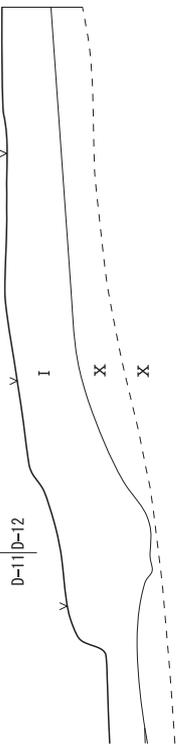


③ D - 1 0 ~ 1 2

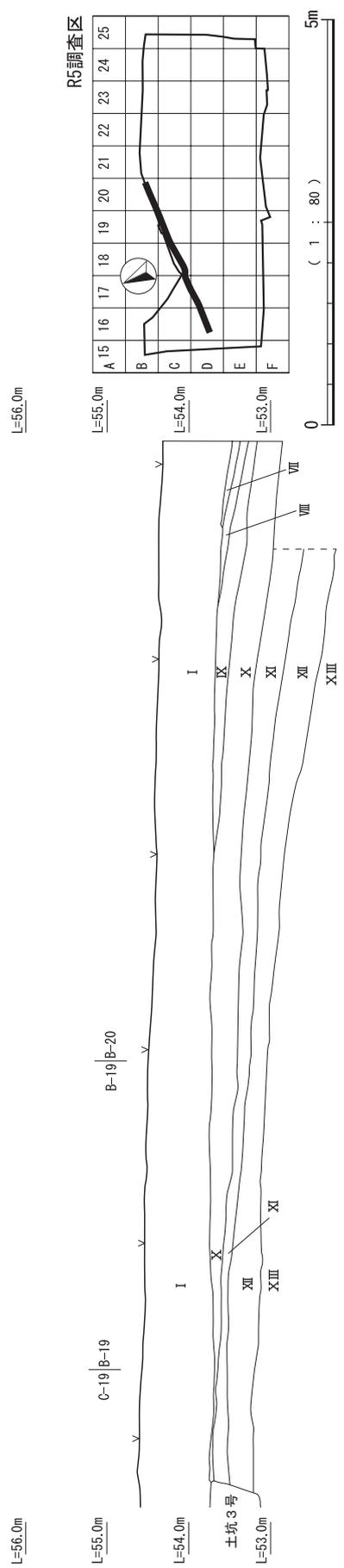
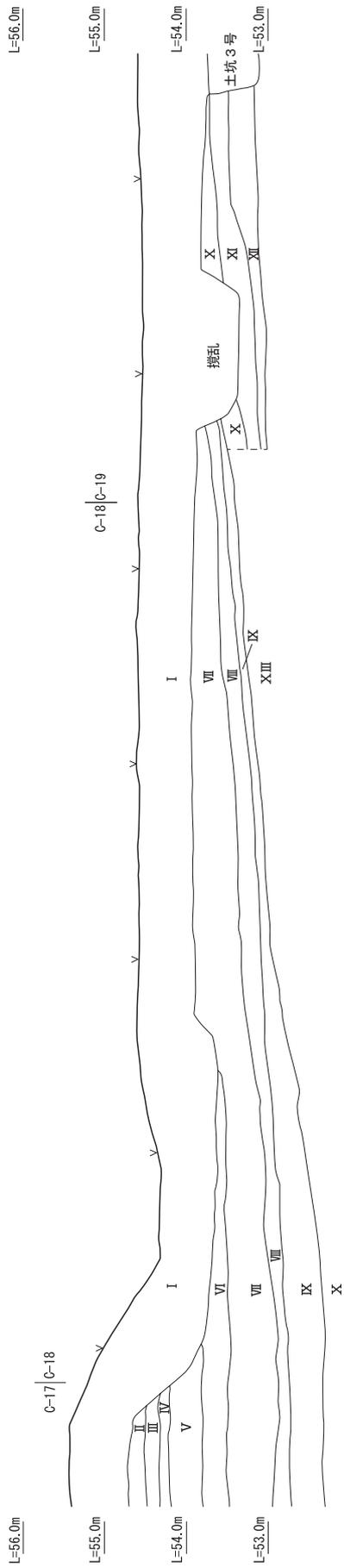
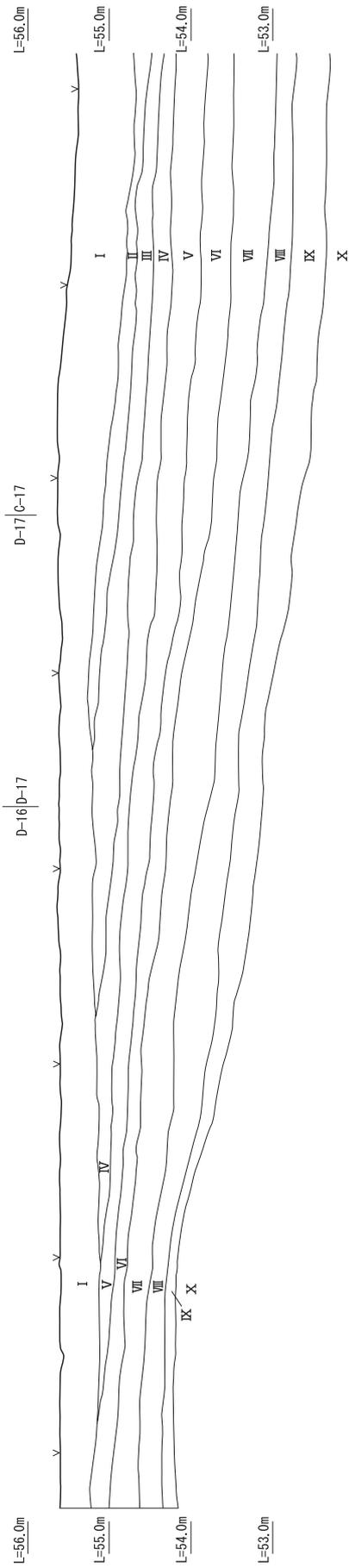
L=56.6m



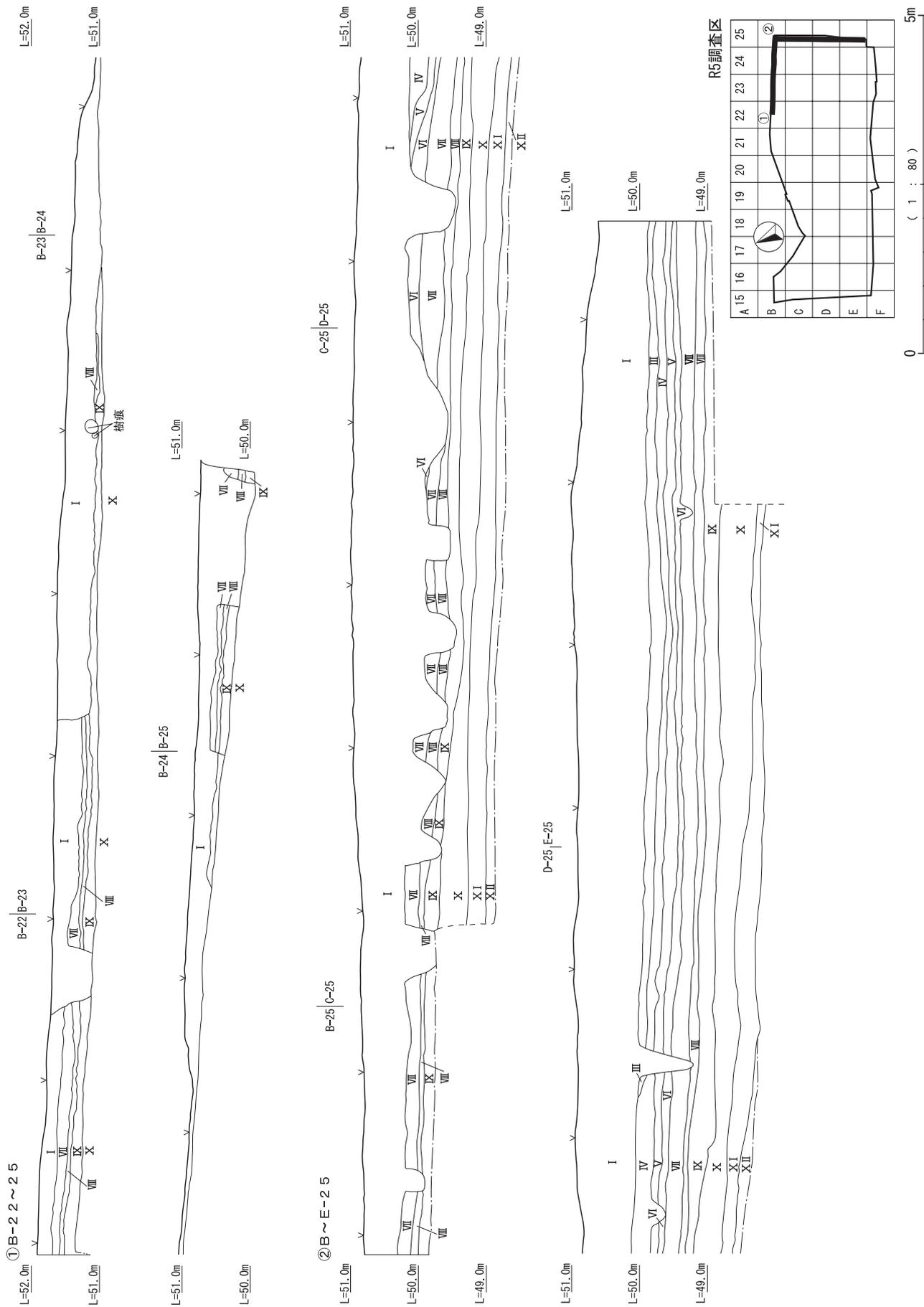
L=56.6m



第5図 土層断面図2



第6図 土層断面図3



第7図 土層断面図4

第3表 遺構新旧対応表

新番号	旧番号(略号)
礫群1号	1号礫群
礫群2号	2号礫群
集石1号	SS80
集石2号	SS42
集石3号	SS81
集石4号	SS59
集石5号	SS79
集石6号	SS47
集石7号	SS76
集石8号	SS 9
集石9号	SS83
集石10号	SS74
集石11号	SS13
集石12号	SS64
集石13号	SS 8
集石14号	SS 1
集石15号	SS40
集石16号	SS48
集石17号	SS72
集石18号	SS22
集石19号	SS31
集石20号	SS63
集石21号	SS68
集石22号	SS50
集石23号	SS19
集石24号	SS20
集石25号	SS75
集石26号	SS52
集石27号	SS21
集石28号	SS18
集石29号	SS 3
集石30号	SS 7
集石31号	SS11
集石32号	SS32
集石33号	SS14

新番号	旧番号(略号)
集石34号	SS82
集石35号	SS25
集石36号	SS 6
集石37号	SS 4
集石38号	SS86
集石39号	SS71
集石40号	SS27
集石41号	SS56
集石42号	SS 2
集石43号	SS35
集石44号	SS73
集石45号	SS77
集石46号	SS78
集石47号	SS34
集石48号	SS30
集石49号	SS51
集石50号	SS61
集石51号	SS43
集石52号	SS70
集石53号	SS65
集石54号	SS44
集石55号	SS53
集石56号	SS57
集石57号	SS45
集石58号	SS49
集石59号	SS36
集石60号	SS67
集石61号	SS58
集石62号	SS66
集石63号	SS33
集石64号	SS17
集石65号	SS60
集石66号	SS41
集石67号	SS46
集石68号	SS38

新番号	旧番号(略号)
集石69号	SS39
集石70号	SS54
集石71号	SS55
集石72号	SS16
集石73号	SS 5
集石74号	SS10
集石75号	SS23
集石76号	SS28
集石77号	SS12
集石78号	SS24
集石79号	SS26
集石80号	SS84
集石81号	SS85
集石82号	SS62
集石83号	SS69
集石84号	SS37-2
集石85号	SS29
集石86号	SS15
土坑1号	SK 2
土坑2号	SK 5
土坑3号	SK 6
土坑4号	SK602
土坑5号	SK601
土坑6号	SK 3
落とし穴	SK 1
土坑墓	SK 4
竪穴建物跡	SI 1
掘立柱建物跡	SB 1
溝状遺構1号	SX601
溝状遺構2号	SX601
溝状遺構3号	SX601
硬化面1号	SF601
硬化面2号	SF602
硬化面3号	SF603
硬化面4号	SF604

【遺構の略号】

SS…集石

SK…土坑

SI…竪穴建物跡

SB…掘立柱建物跡

SF…帯状硬化面

SX…不明遺構

## 第IV章 調査の成果

### 第1節 旧石器時代の調査成果

#### 1 調査の概要

試掘調査・確認調査では旧石器時代の遺構・遺物について検出できなかった。そのため、縄文時代の発掘調査が終了したのち、先行トレンチで旧石器時代の遺構・遺物を把握し、そのトレンチ周辺を適宜拡張して調査を行った。

先行トレンチは、薩摩火山灰面での地形を考慮して3m×6mから3m×25mのトレンチと2m×2mの市松模様のトレンチを併用して設定した。設定箇所は第8図に示している。

その結果、C-20区と、C-21区の2か所で1基ずつ礫群遺構を検出し、その周辺から少量の遺物が出土した。層位に関係なく、検出した順に礫群1号・礫群2号と呼称し調査を行った。

本来は、層位または文化層ごとに記載すべきであるが出土量が少ないため個々に記述する。遺物は包含層から9点出土し、うち5点を図化した。

#### 2 遺構（第9図・第10図）

##### (1) 礫群1号（第9図）

C-20区のXII層で検出された。

19区から20区の調査範囲中位の段丘面上に調査区境

に沿いトレンチを設定し調査したところ、遺物が出土したためトレンチを拡張して調査を行った。その結果礫群1号が検出された。

0.70m×0.90m程度に29個の礫がまとまる中心部1か所をもち、その周辺に27個の礫が散在していた。垂直分布は0.15mから0.20m程度である。中心部に掘り込み等はなく、炭化物の散布もなかった。

礫は砂岩のみで、大きさ数cmから15cm程度の円礫と破碎礫であり、重量は11gから467gである。被熱により赤化しているものも見られた。

遺物は、砂岩製のハンマーが出土した。遺構周辺から砂岩製の三稜尖頭器や黒曜石製のナイフ形石器、少量のフレイク・チップが出土した。

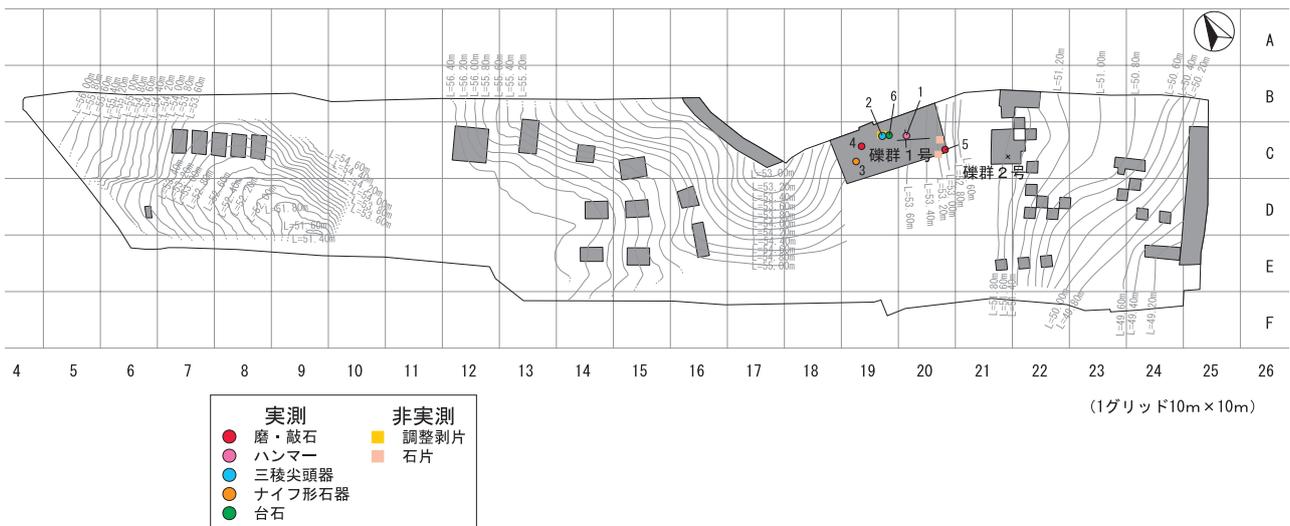
1は不均一な砂岩製である。全体的に摩滅しており明瞭な磨り面や敲打痕は確認できないが、周囲の剥片・チップの出土状況などからハンマーとした。

##### (2) 礫群2号（第10図）

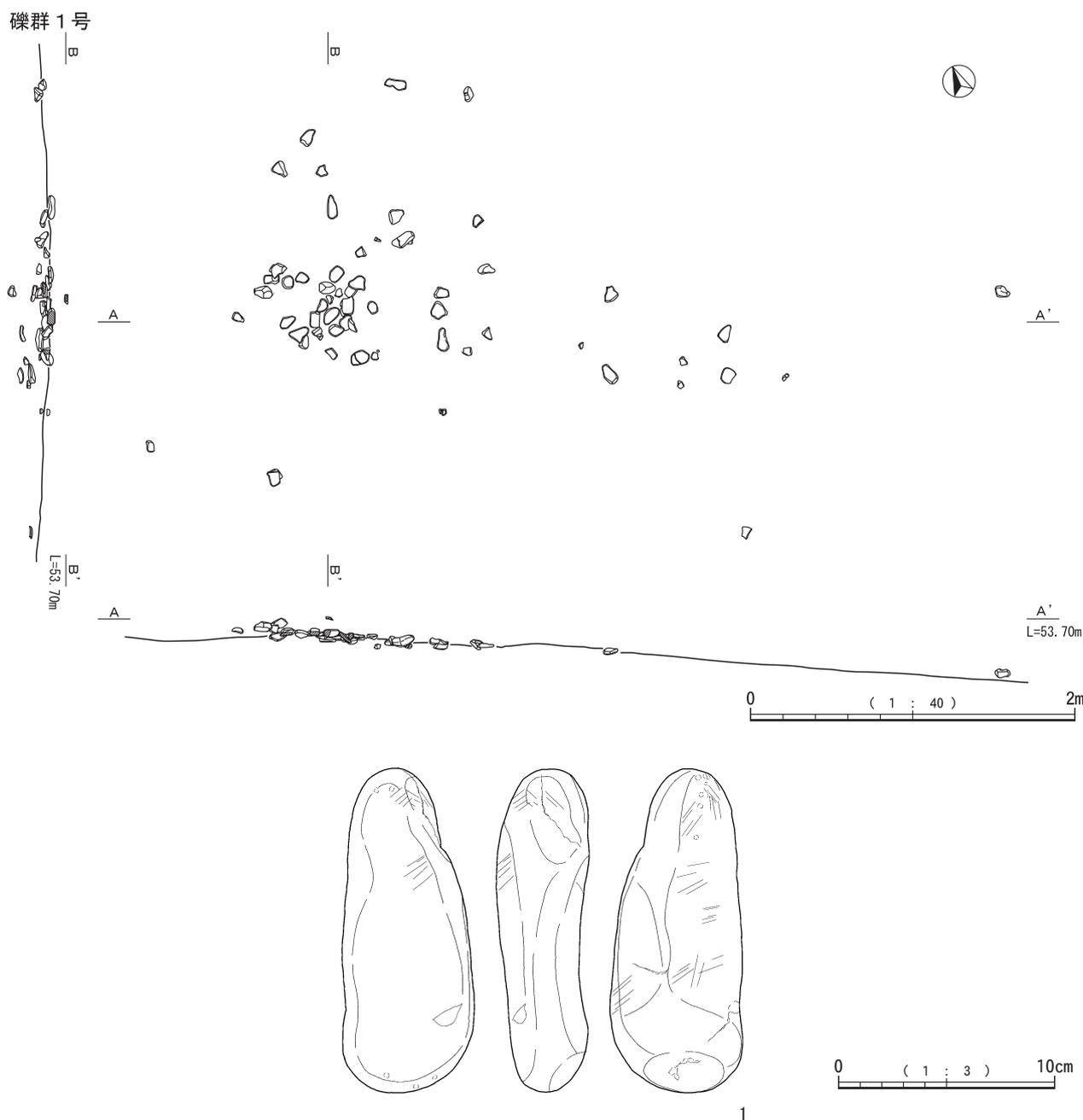
C-21区のXII層からXIII層で検出された。

21区から25区の下位の段丘面に複数箇所の先行トレンチを配して調査を行った。

C・D-21・22区に5か所の2m×2mのトレンチを市松模様に配して先行調査を行ったところ礫群2号を検出した。周辺を拡張して調査を行ったが遺構・遺物の



第8図 旧石器時代遺構配置図・遺物出土状況図



第9図 礫群1号・出土遺物

出土はなかった。

平面約0.15 m×0.20 m、深さ約0.18 mに密にまとまる12個の礫で構成している。炭化物の散布は確認できなかった。掘り込みは肉眼では観察できなかった。しかし、礫の集密の形状からまとまりが収まる程度の掘り込みがあった可能性が高いと考えられる。

礫は砂岩のみであり被熱により赤化しているものも見られた。大きさは4 cmから10cm程度の円礫と破砕礫であり、重量は約40gから375 gである。

関連する遺物は、出土しなかった。

### 3 遺物 (第10図)

2は砂岩製の三稜尖頭器である。縦長剥片を素材とし、

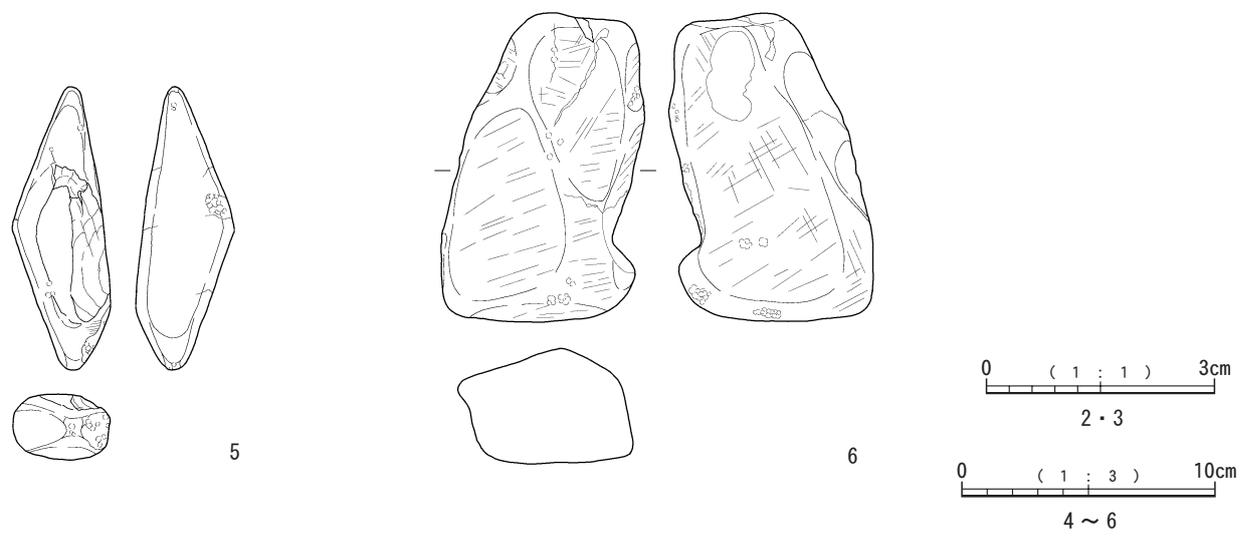
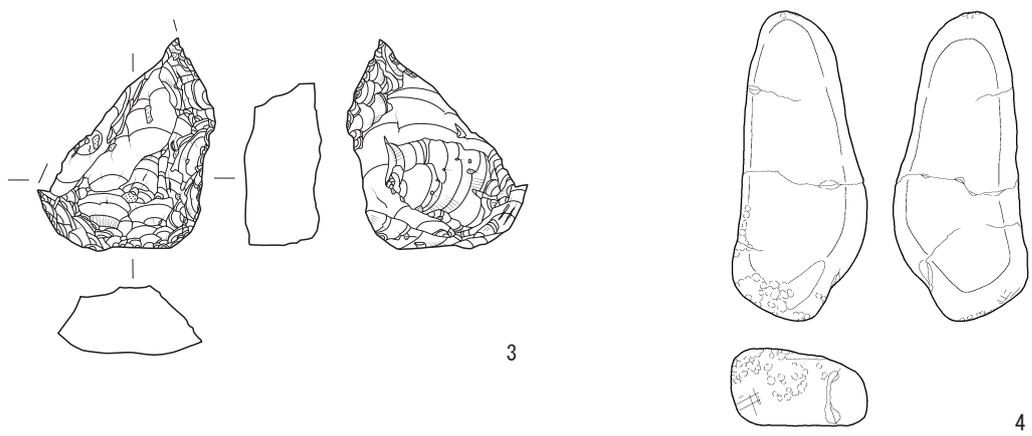
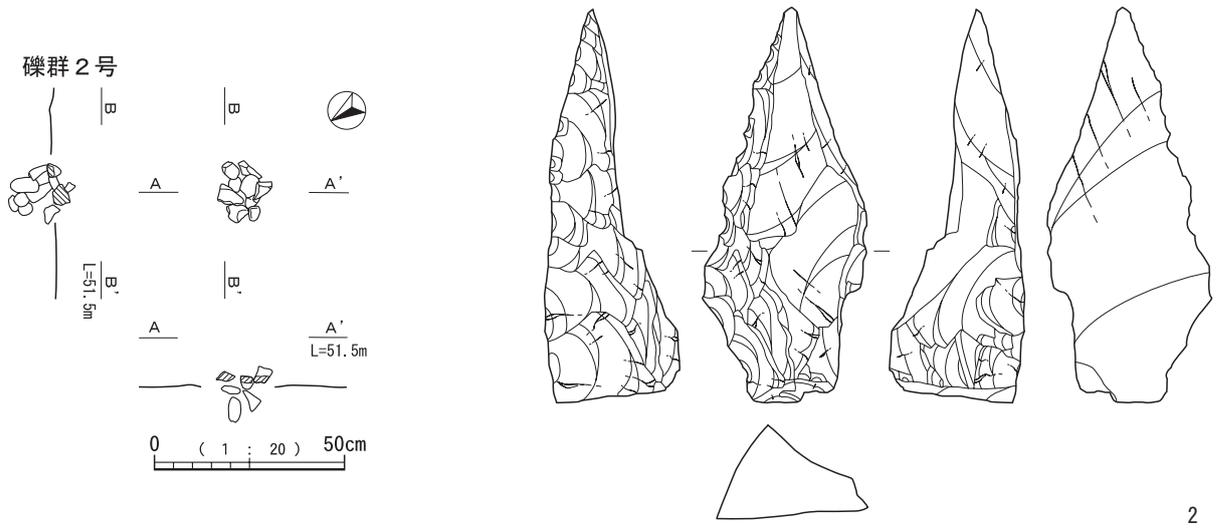
左側面及び右側面中位まで剥離が廻る。基部一帯の厚みが残されており、稜上調整が不十分な印象がある。

3は不純物の多い三船産の黒曜石製のナイフ形石器である。縦長剥片の右側面には連続した剥離が見られるが、左側面は先端部から長い剥離がのびて大きく欠損する。

4はやや不定形な砂岩の棒状礫を用いており、両端面に敲打痕を残す。裏面の平坦面にわずかに光沢を有する範囲があるが、明瞭な磨りの痕跡は確認できなかった。

5は敲石である。正面観が菱形を呈する棒状の砂岩を用い、両先端部に敲打痕を残す。

6は台石である。厚みがやや不均一な隅丸長方形の白色の砂岩を用い、各々の平坦面に磨りと想定される痕跡が確認できるが、礫全体が摩滅によりはっきりしない。



第10图 礫群 2 号 · 包含層出土石器

## 第2節 縄文時代の調査成果

### 1 縄文時代早期

#### (1) 調査の概要

縄文時代早期の該当層はIX層だが、調査区東側が前川に向かって傾斜していることや西側に谷地形を含むことから層厚が一定しないため、一部IX層以外から遺構や遺物が確認された。

調査は、人力による掘り下げで進めながら、可能な限り遺構を当時の生活面で確認した結果、令和5年度の調査では、調査区東側から集石遺構86基と土坑2基が検出された。遺物は、土器片や打製石鏃・石錘・スクレイパーなど多くの石器が出土した。包含層の土器片は108点、石器は301点出土し、うち土器52点、石器51点を図化した。

#### (2) 遺構(第11図～第46図)

##### ① 集石遺構(第11図～第45図)

集石遺構は86基検出され、特に調査区東側の傾斜地であるB～E-22・23区に集中していた(第11図・第12図)。

本遺跡の集石遺構は、礫の集中部の有無と掘り込みの有無により、I～IV類に大別した。分類基準は次のとおりである。

- I類 構成礫の明確な集中部及び掘り込み部のないもの
- II類 構成礫の明確な集中部があり、掘り込み部のないもの。
- III類 構成礫の明確な集中部があり、掘り込み部を伴うもの。
- IV類 構成礫の明確な集中部はないが、掘り込み部が若干確認できるもの。

集石の規模については、総礫数が300個近いものから10個に満たないものまでさまざまである。

また、約半数の集石に石器や石器の破損品が含まれており、その中から残存状況の良いものを掲載した。

#### I類(第13図～第26図)

##### 集石1号(第13図)

E-23区、IX層で検出された。長軸0.50m、短軸0.43mの範囲に散在しており、掘り込みは確認できなかった。構成礫は9個で、砂岩のみである。破碎礫が多く、被熱痕は確認できなかった。

関連する遺物は確認できなかった。

##### 集石2号(第13図)

C-23区、IX層で検出された。長軸0.60m、短軸0.40mの範囲に散在しており、掘り込みは確認できなかった。構成礫は12個で、砂岩のみである。ほとんど

が破碎礫で、被熱している。

遺物は、土器片が1点、磨石片が1点、剥片が1点出土したが、小片のため図化しなかった。

##### 集石3号(第13図)

E-23区、IX層で検出された。長軸0.61m、短軸0.54mの範囲に散在しており、掘り込みは確認できなかった。構成礫は9個で、砂岩のみである。全て破碎礫で、被熱している。

関連する遺物は確認できなかった。

##### 集石4号(第13図)

D・E-23区、IX層で検出された。長軸0.85m、短軸0.51mの範囲に散在しており、掘り込みは確認できなかった。構成礫は14個で、砂岩のみである。全て破碎礫で、被熱している。

関連する遺物は確認できなかった。

##### 集石5号(第13図)

E-23区、IX層で検出された。長軸0.88m、短軸0.81mの範囲に散在しており、掘り込みは確認できなかった。構成礫は7個で、砂岩のみである。全て破碎礫で、そのうち4個が被熱している。

関連する遺物は確認できなかった。

##### 集石6号(第13図)

C-23区、IX層で検出された。長軸0.90m、短軸0.85mの範囲に散在しており、掘り込みは確認できなかった。構成礫は12個で、砂岩のみである。全て破碎礫で、被熱している。

遺物は、磨石片が1点出土したが、小片のため図化しなかった。

##### 集石7号(第13図)

D-23区、IX層で検出された。長軸1.05m、短軸0.85mの範囲に散在しており、掘り込みは確認できなかった。構成礫は15個で、砂岩のみである。全て破碎礫で、被熱している。

関連する遺物は確認できなかった。

##### 集石8号(第14図)

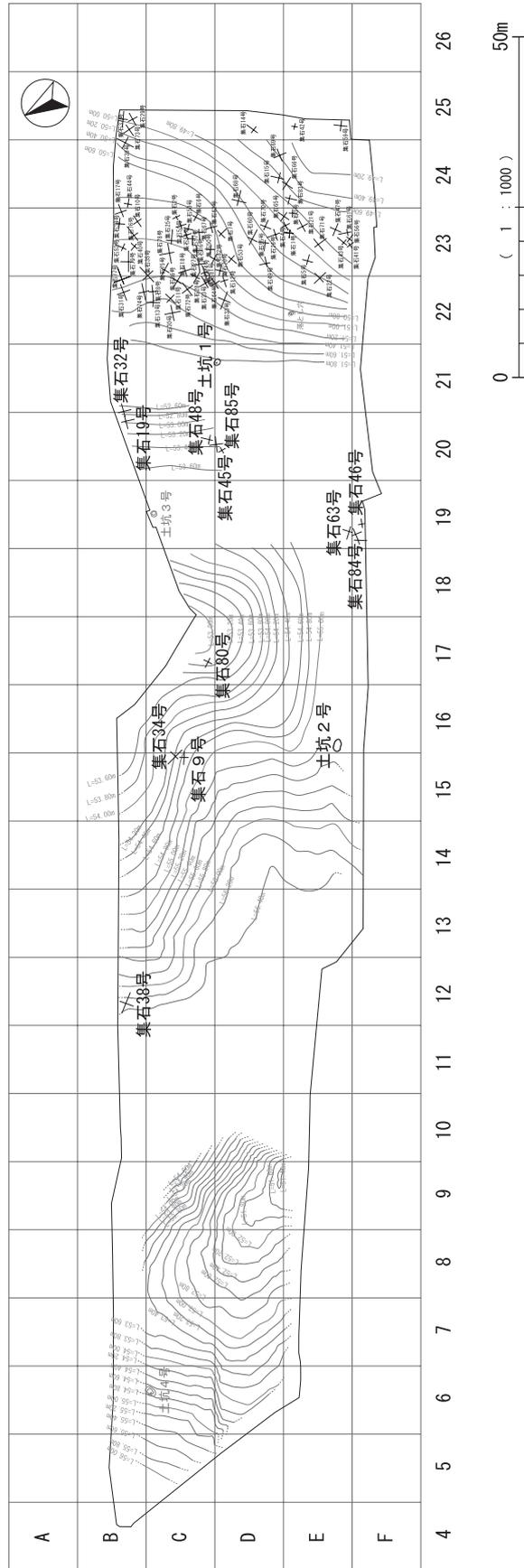
C-22区、IX層で検出された。長軸1.15m、短軸0.97mの範囲に散在しており、掘り込みは確認できなかった。構成礫は24個で、砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で、被熱している。

遺物は、土器片が1点と剥片が1点出土し、うち土器片1点を図化した。7は深鉢の胴部で、外面には貝殻条痕を斜位に施される。内面はナデにより器面調整される。

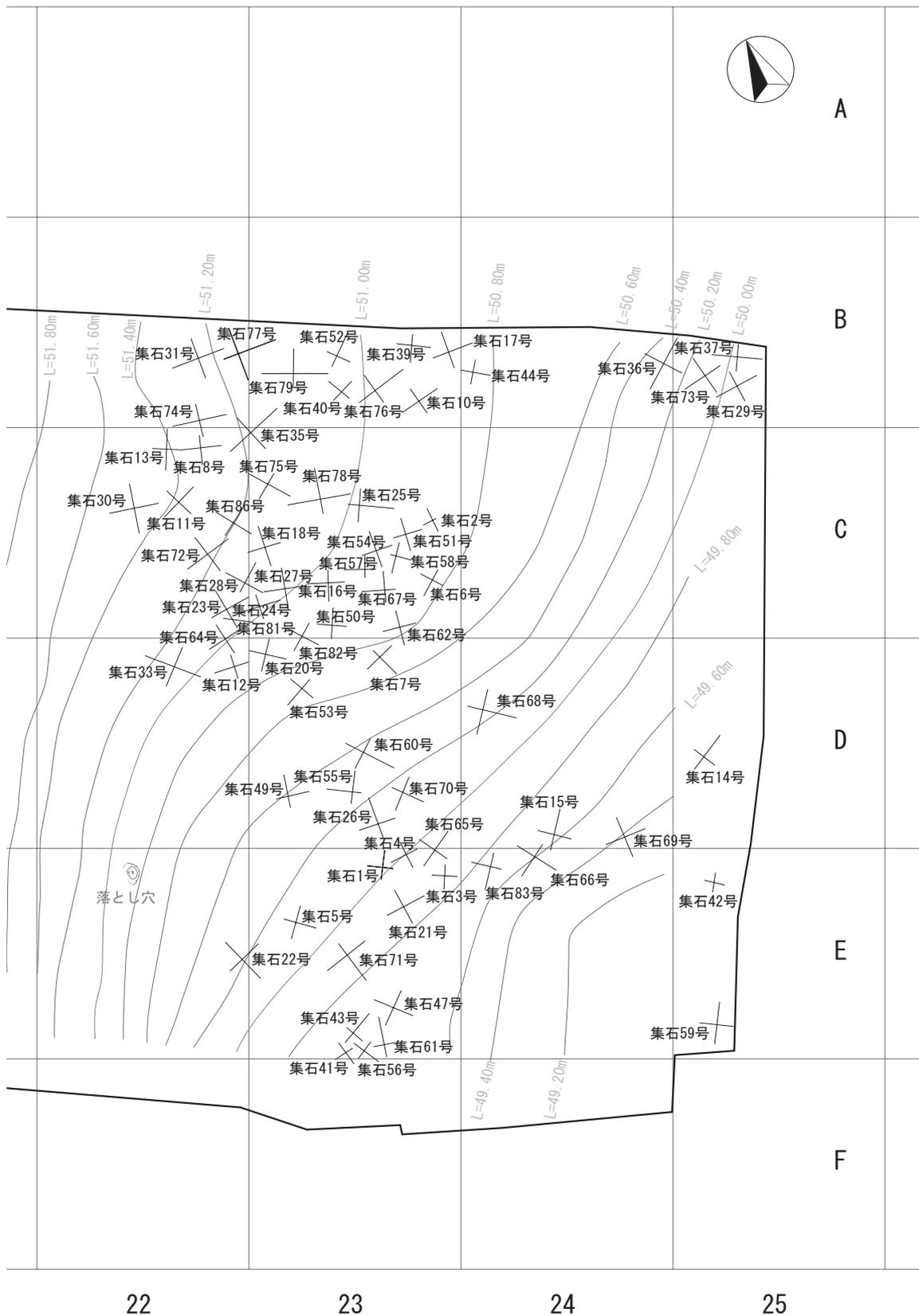
##### 集石9号(第14図)

C-15区、IX層で検出された。長軸1.17m、短軸0.57mの範囲に散在しており、掘り込みは確認できなかった。構成礫は8個で、砂岩のみである。そのほとんどが破碎礫で、被熱している。

関連する遺物は確認できなかった。



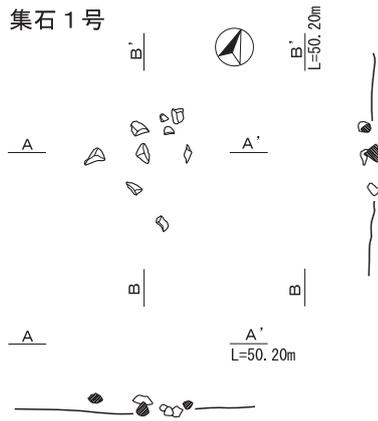
第11図 縄文時代早期遺構配置図 (全体図)



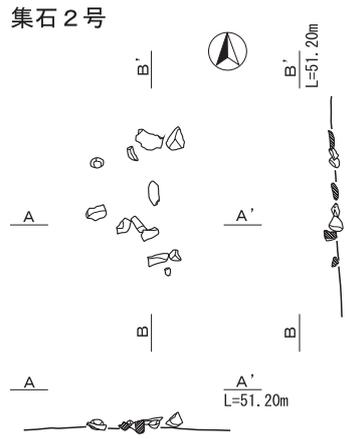
(1グリッド10m×10m)

第12図 縄文時代早期遺構配置図 (拡大図)

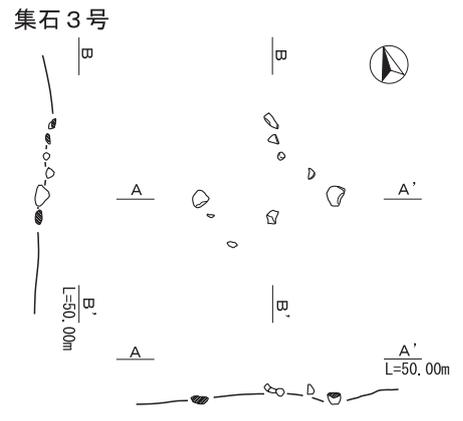
集石 1号



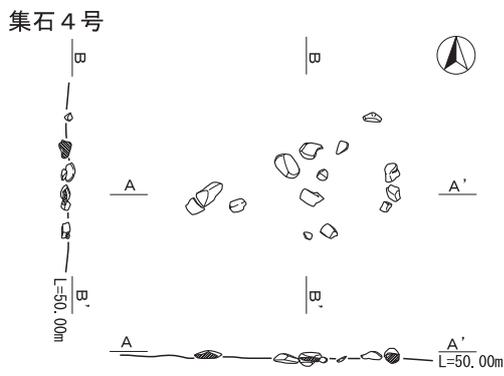
集石 2号



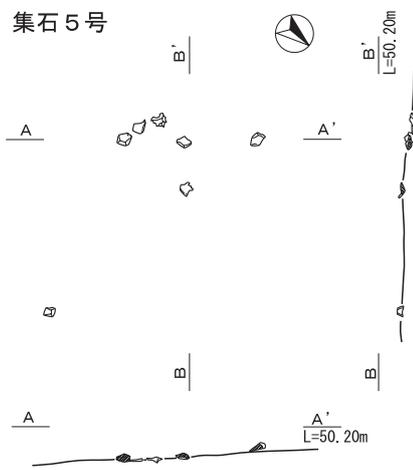
集石 3号



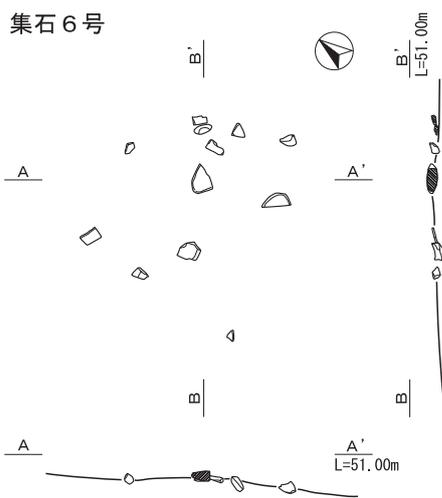
集石 4号



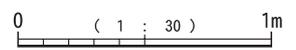
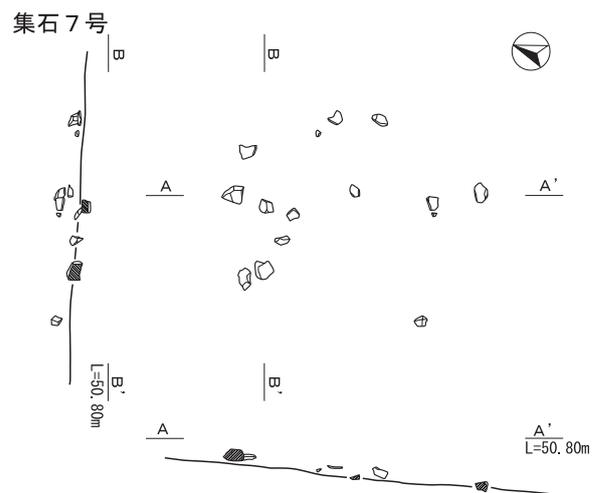
集石 5号



集石 6号



集石 7号



第13図 集石 (I類1)

#### 集石 10 号 (第 14 図)

B-23 区, IX 層で検出された。長軸 1.30 m, 短軸 1.05 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 12 個で, 砂岩のみである。そのほとんどが破碎礫で, 被熱している。遺構内から少量の炭化物が出土した。

関連する遺物は確認できなかった。

#### 集石 11 号 (第 14 図)

C-22 区, IX 層で検出された。長軸 1.28 m, 短軸 1.12 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 17 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が 1 点出土し図化した。8 は深鉢の胴部で, 外面には貝殻条痕を斜位に施す。内面はナデにより器面調整される。

#### 集石 12 号 (第 14 図)

D-22 区, IX 層で検出された。長軸 1.23 m, 短軸 0.58 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 12 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が 1 点, 石皿片が 1 点出土し, うち土器片 1 点を図化した。9 は深鉢の胴部で, 外面にはナデによる器面調整後に貝殻条痕が施される。内面はナデにより器面調整される。

#### 集石 13 号 (第 15 図)

C-22 区, IX 層で検出された。長軸 1.33 m, 短軸 1.25 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 21 個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片 1 点とチップが 2 点出土したが, 小片のため図化しなかった。

#### 集石 14 号 (第 15 図)

D-25 区, X 層上面で検出された。長軸 1.30 m, 短軸 0.58 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 11 個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱痕は確認できなかった。

遺物は, 土器片が 1 点と磨石が 3 点出土したが, 小片のため図化しなかった。

#### 集石 15 号 (第 16 図)

D-24 区, IX 層で検出された。長軸 1.33 m, 短軸 1.05 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 27 個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 磨・敲石片が 1 点出土したが図化しなかった。

#### 集石 16 号 (第 16 図)

C-23 区, IX 層で検出された。長軸 1.38 m, 短軸 1.12 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 24 個で, 安山岩が 1 個と残りは砂岩

である。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が 1 点, 磨・敲石が 1 点, 磨石片が 1 点, 打製石鏃が 1 点, 剥片が 4 点, チップが 1 点出土しており, うち土器片 1 点と磨・敲石 1 点を図化した。10 は深鉢の胴部で, 外面にはナデ調整後に貝殻条痕が施される。内面はナデによる器面調整がなされる。11 は円形の砂岩礫を用い, 表裏面に磨り痕と中央部に敲打による凹みが見られる。縁辺部にも敲打の集中する箇所がある。

#### 集石 17 号 (第 17 図)

B-23・24 区, IX 層で検出された。長軸 1.54 m, 短軸 1.44 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 29 個で, 砂岩のみである。そのほとんどが破碎礫で, 被熱痕は確認できなかった。遺構内から少量の炭化物が出土した。

遺物は, 土器片が 1 点, チップが 1 点出土し, うち土器片 1 点を図化した。12 は深鉢の胴部で, 内外面ともにナデ調整で仕上げられている。

#### 集石 18 号 (第 17 図)

C-23 区, IX 層で検出された。長軸 1.51 m, 短軸 1.48 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 39 個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が 1 点, 磨石片が 1 点, 剥片 2 点, チップが 3 点出土したが, 小片のため図化しなかった。

#### 集石 19 号 (第 17 図)

B-20 区, IX 層で検出された。長軸 1.52 m, 短軸 1.45 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 54 個で, 安山岩が 1 個, 花崗岩が 1 個, 残りは砂岩である。破碎礫が多く, 被熱している。

遺物は, 石錘が 1 点出土しているが, 小片のため図化しなかった。

#### 集石 20 号 (第 17 図)

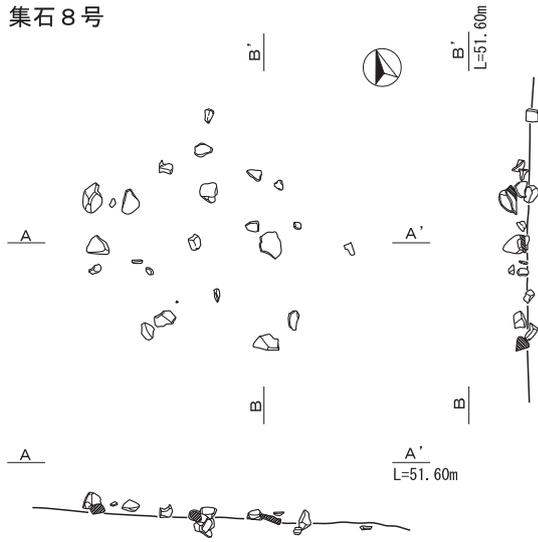
D-23 区, IX 層で検出された。長軸 1.53 m, 短軸 0.67 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 35 個で, 花崗岩が 1 個と残りは砂岩である。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が 1 点, 磨石が 1 点, 剥片が 2 点出土し, うち土器片 1 点と磨石 1 点を図化した。13 は深鉢の胴部で, ナデによる器面調整後に貝殻条痕を斜位に施す。内面はナデにより器面調整される。14 は隅丸長方形の砂岩を用いた磨石で, 全面に磨りによる光沢が見られる。

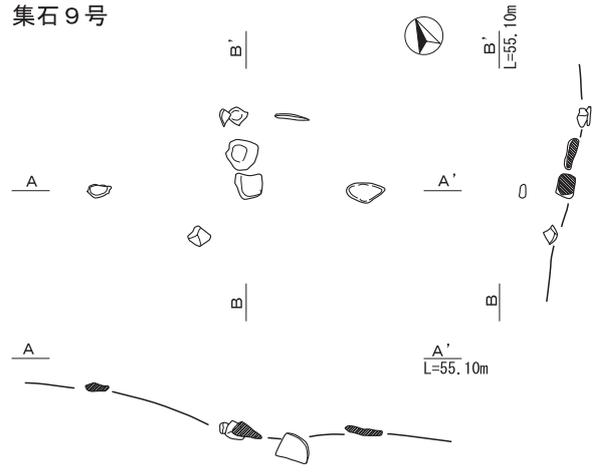
#### 集石 21 号 (第 18 図)

E-23 区, IX 層で検出された。長軸 1.53 m, 短軸 1.20 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 32 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

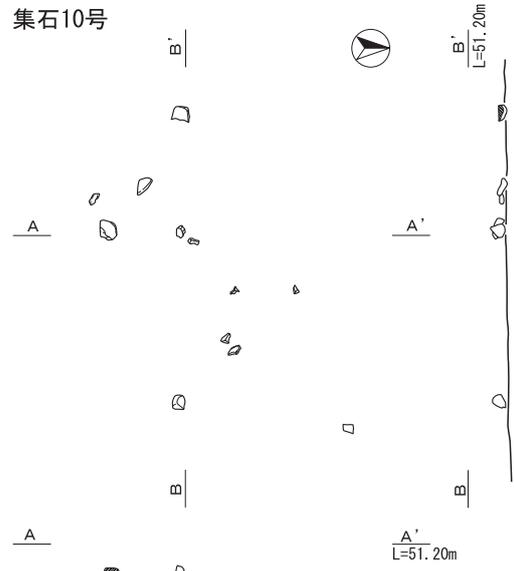
集石 8号



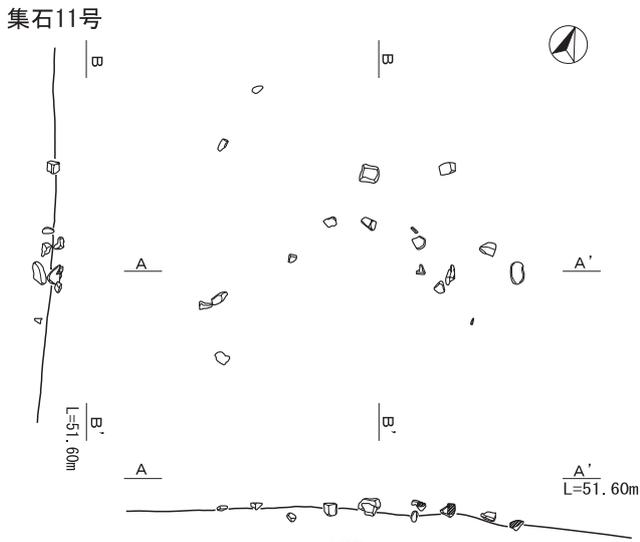
集石 9号



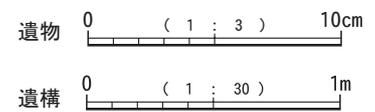
集石 10号



集石 11号



集石 12号



第14図 集石 (I類2)

遺物は、土器片が2点、磨石が1点、石皿片が2点、剥片が1点出土し、うち土器片2点を図化した。15は深鉢の底部で、外面には綾杉文が施される。内面はナデによる器面調整がされる。16は胴部の土器片で、内外面とも工具ナデによる器面調整が見られる。

#### 集石 22号 (第18図)

E-22・23区, IX層で検出された。長軸1.55m, 短軸1.36mの範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は32個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は、磨・敲石が1点, 磨石片が1点, 石皿片が1点出土し, うち磨・敲石1点を図化した。

17は棒状礫の両端に敲打痕が見られる。裏面中央にも見られるが, 磨痕等により一部不鮮明である。

#### 集石 23号 (第19図)

C-22区, IX層で検出された。長軸1.62m, 短軸1.44mの範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は54個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は、土器片が1点, 打製石鏃が1点出土し, 図化した。18は深鉢の口縁部から胴部にかけての土器片で, 外面はナデ調整の後, 貝殻刺突文が施される。19は安山岩製で厚みのある大型の打製石鏃である。二等辺三角形を呈し, 基部にはわずかに抉りが見られ, 裏面中央には部分的に摩滅痕が確認できる。

#### 集石 24号 (第19図)

C-22・23区, IX層で検出された。長軸1.61m, 短軸1.34mの範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は38個で, 花崗岩が1個と残りは砂岩である。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は磨・敲石3点が出土し, うち1点を図化した。20はやや扁平な円礫を用いている。隣り合う剥離の状況から, 礫器として使用した可能性も考えられる。

#### 集石 25号 (第20図)

C-23区, IX層で検出された。長軸1.62m, 短軸0.98mの範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は14個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, その半数が被熱している。

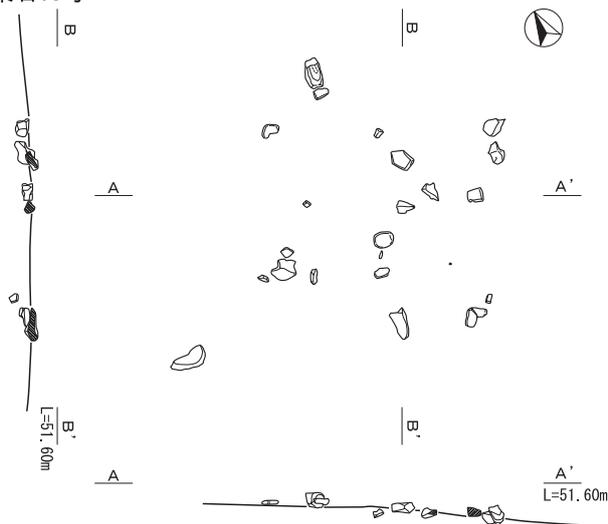
遺物は、土器片が1点出土したが, 小片のため図化しなかった。

#### 集石 26号 (第20図)

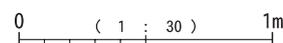
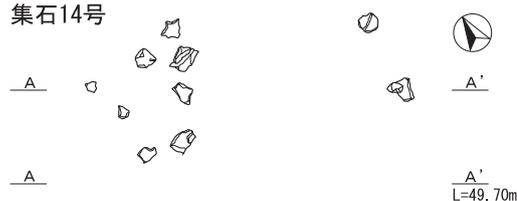
D-23区, IX層で検出された。長軸1.66m, 短軸1.52mの範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は46個で, 花崗岩が2個と残りは砂岩である。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は、土器片が1点, 用途不明の石器が1点, 石皿片が5点出土し, うち用途不明の石器1点と石皿片1点を図化した。21は厚さ5mm程度の頁岩の表裏面に磨き痕が残る。大きく欠損しており, 全体の形状や器種等を明らかにできなかった。22はやや不定形で厚みも不均一な砂岩製の石皿片で, 先端部に敲打痕が観察できる。表裏面全体が摩滅を受け不明瞭で, 人為的なものなのか

集石13号



集石14号



第15図 集石 (I類3)

ははっきりしない。

**集石 27号 (第 21 図)**

C-23区, IX層で検出された。長軸 1.67 m, 短軸 1.36 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 28 個で, 砂岩のみである。破碎礫が多く, 被熱している。

遺物は, 磨石が 1 点, 石皿が 1 点, 剥片 1 点が出土している。

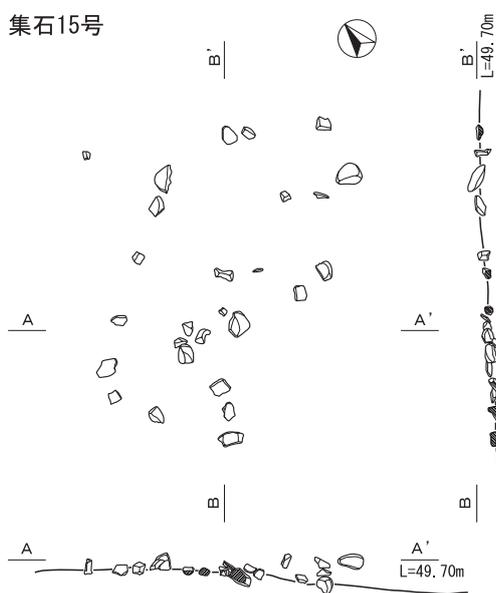
**集石 28号 (第 21 図)**

C-22・23区, IX層で検出された。長軸 1.73 m, 短軸 1.26 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 49 個で, 泥岩, 花崗岩, 軽石が 1

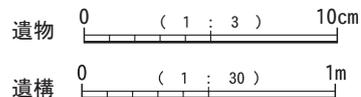
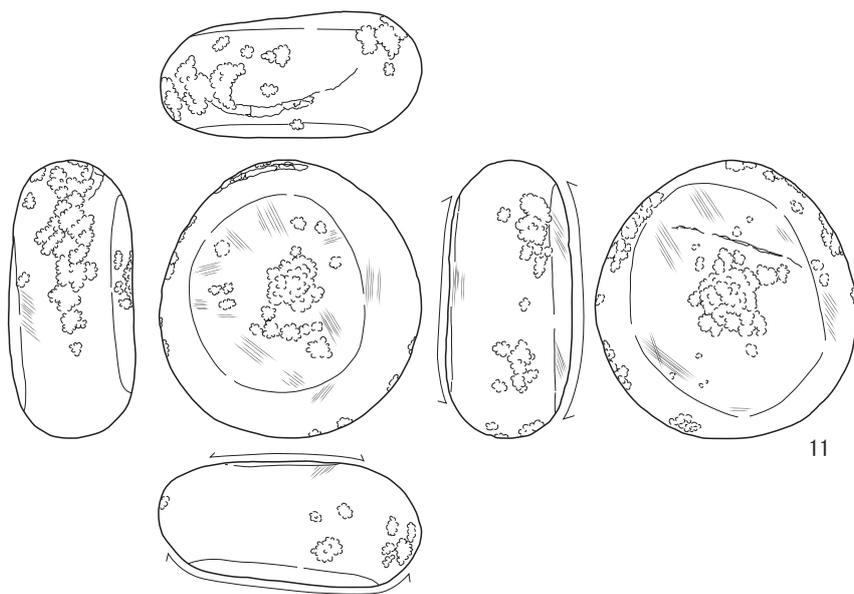
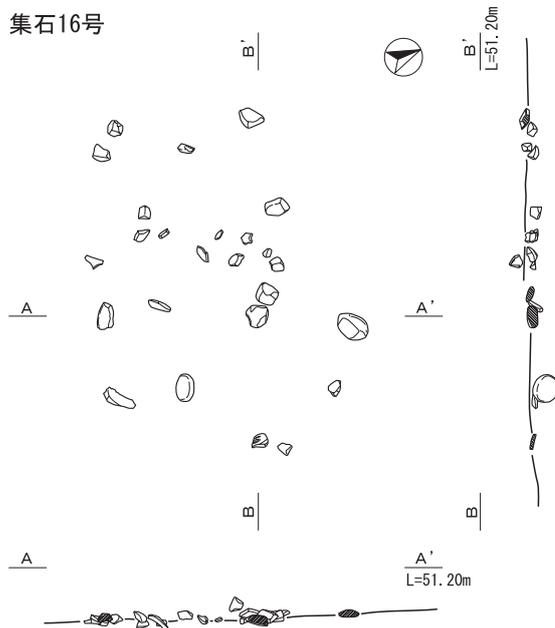
個ずつと残りは砂岩である。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片 1 点, 磨石が 1 点, 打製石鏃が 1 点, 二次加工剥片 1 点, 剥片が 2 点, 石皿が 1 点, 軽石が 1 点出土し, うち土器片 1 点と打製石鏃 1 点を図化した。23 は胴部片で, 外面をナデ調整の後, 貝殻刺突文を施す。内面はナデにより器面調整される。24 はチャート製の打製石鏃で, 卵形の剥片の形状を大きく残す。目的剥片の打点側から基部を作出する過程で左側面を大きく欠損したため, 廃棄されたと想定される。そのため, 集石 28号内出土としているが, 遺構との関係性は低いと考えられる。

集石15号

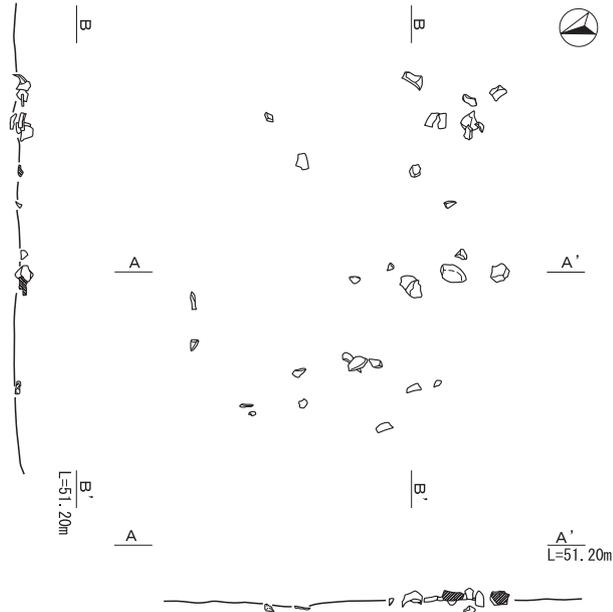


集石16号

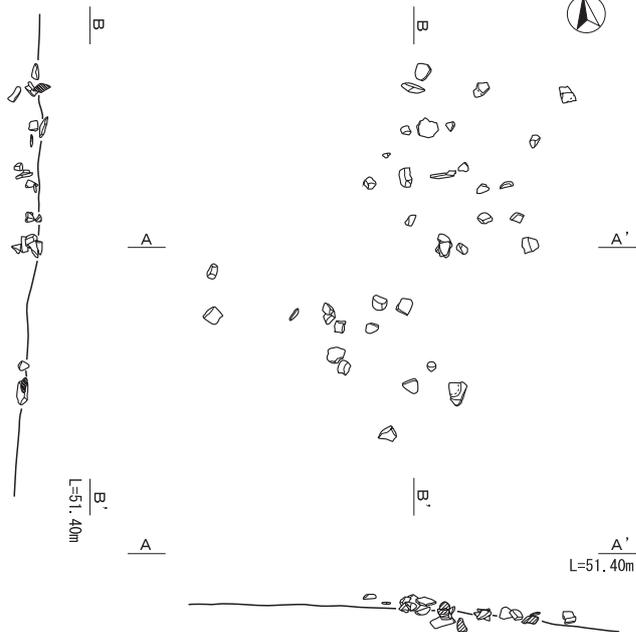


第16図 集石 (I類4)

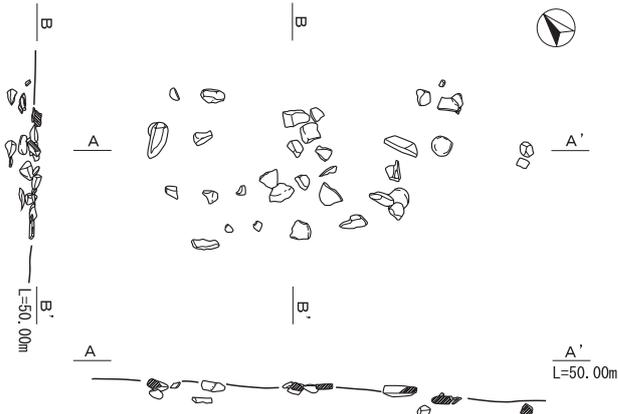
集石17号



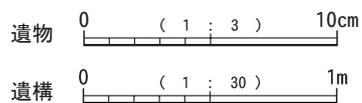
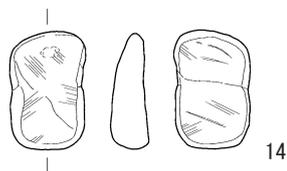
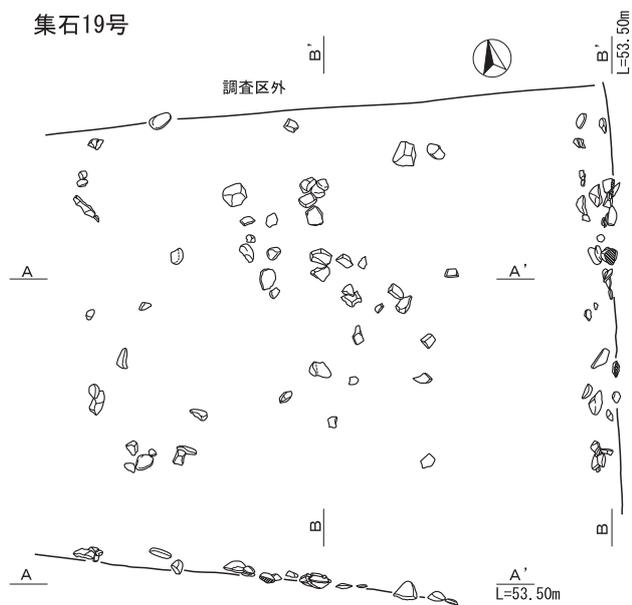
集石18号



集石20号



集石19号



第17図 集石 (I類5)

集石 29号 (第21図)

B-25区, IX層で検出された。長軸1.81m, 短軸1.38mの範囲に散在しているが, 集石の北東部分に礫がややまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は43個で, 安山岩が1個, 残りは砂岩である。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器と磨・敲石が1点出土したが, 図化しなかった。

集石 30号 (第22図)

C-22区, IX層で検出された。長軸1.82m, 短軸1.69mの範囲に散在しており, 掘り込みは確認できな

かった。構成礫は39個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

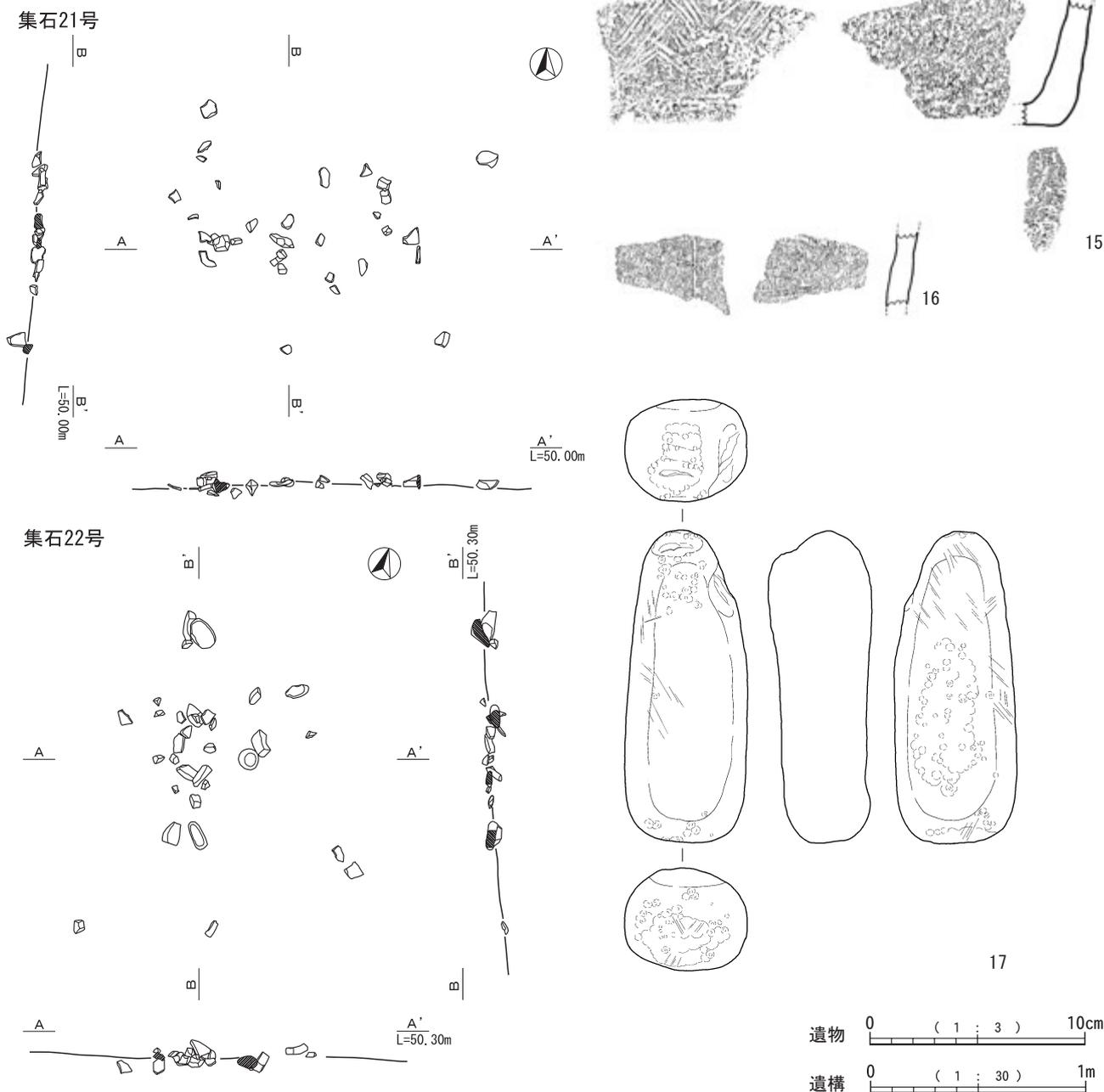
遺物は, 磨・敲石が1点出土し図化した。

25は卵形の砂岩製である。上端部は欠損しているが, 表裏面に擦痕が確認できる。

集石 31号 (第23図)

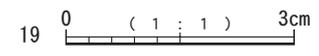
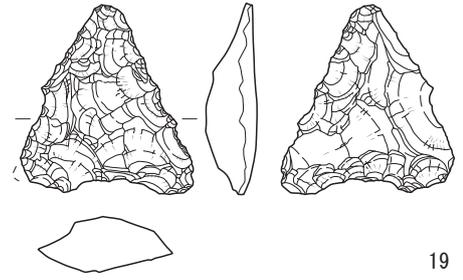
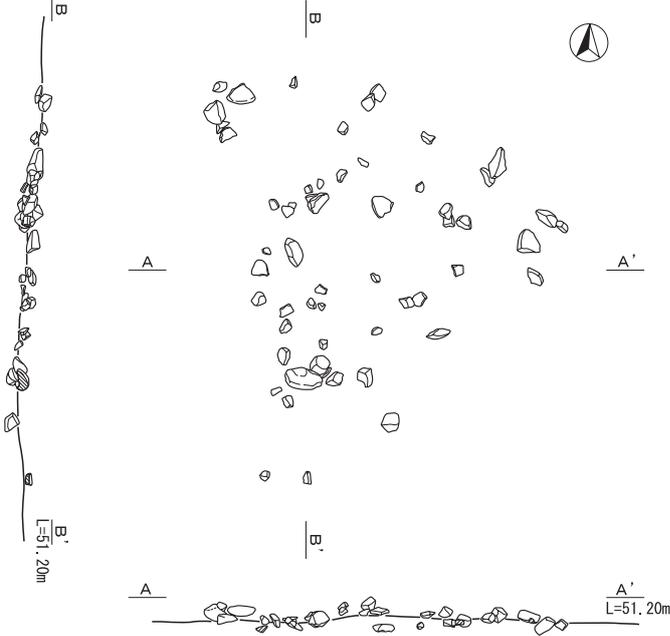
B-22区, IX層で検出された。長軸2.00m, 短軸1.31mの範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は29個で, 頁岩が1個, 残りは砂岩である。破碎礫が多く, 被熱している。

遺物は, 土器片4点, 石錘1点, スクレイパー1点,

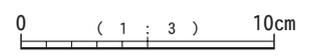
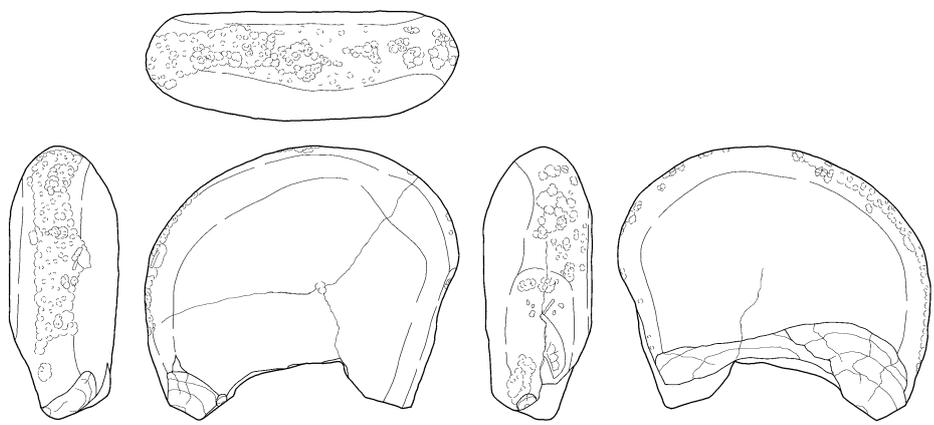
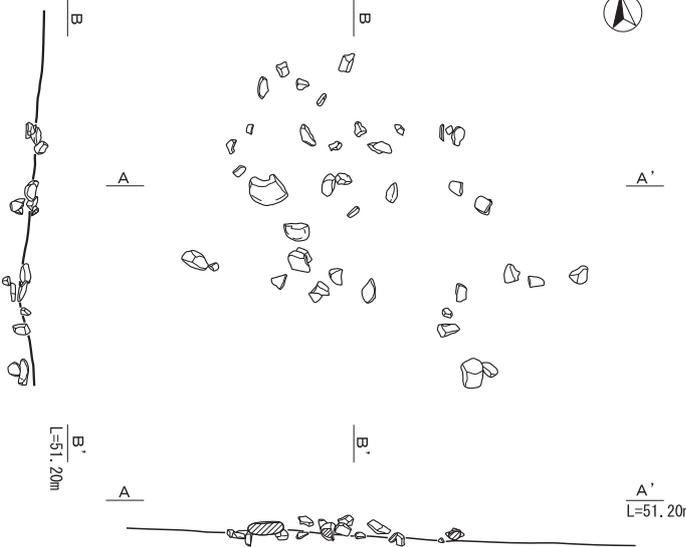


第18図 集石 (I類6)

集石23号



集石24号



19以外の遺物

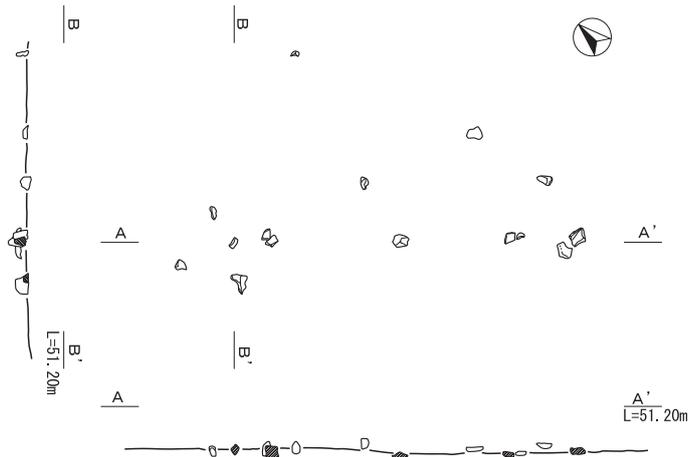


遺構

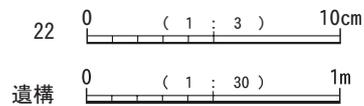
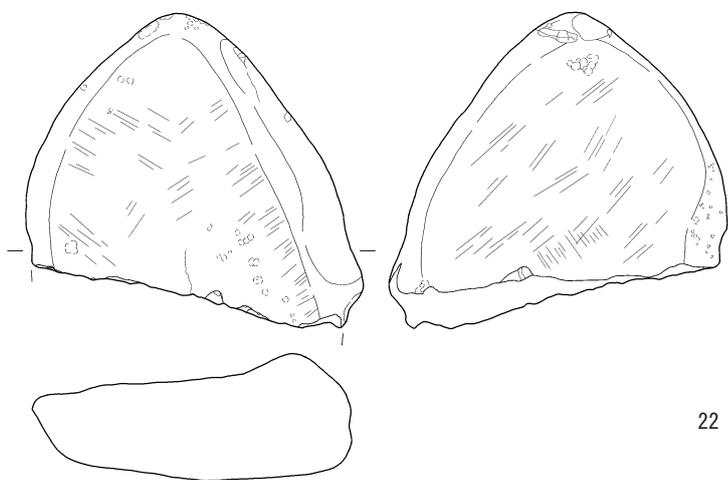
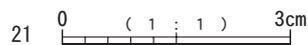
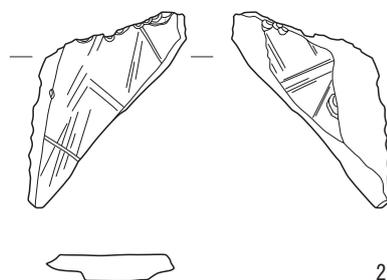
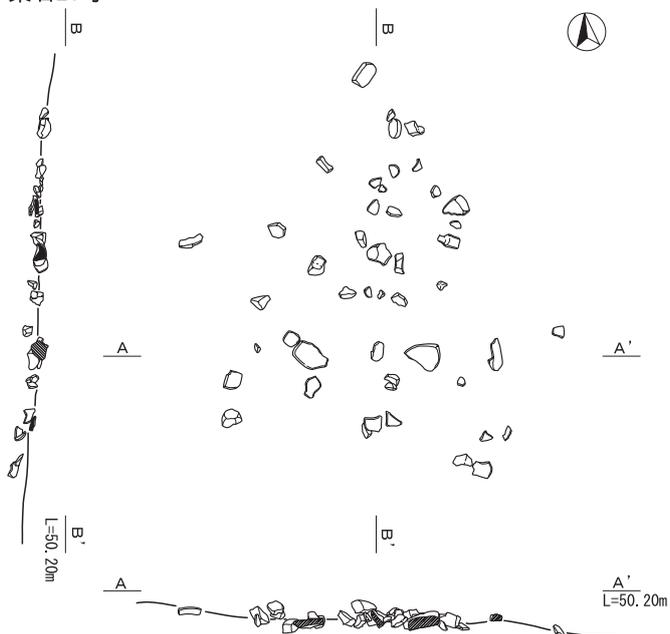
20

第19図 集石 (I類7)

集石25号

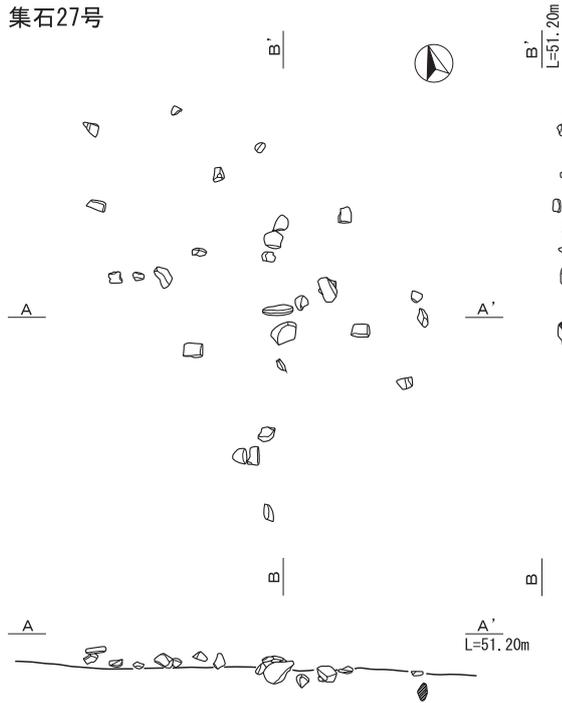


集石26号

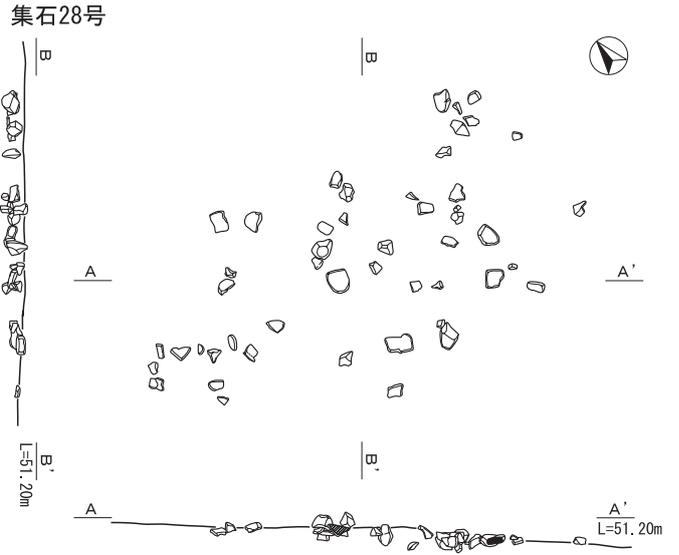


第20図 集石 (I類8)

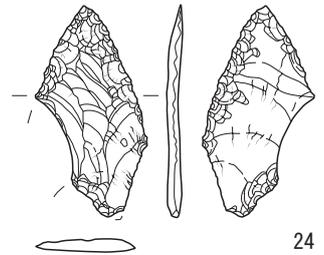
集石27号



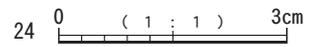
集石28号



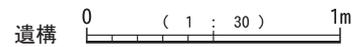
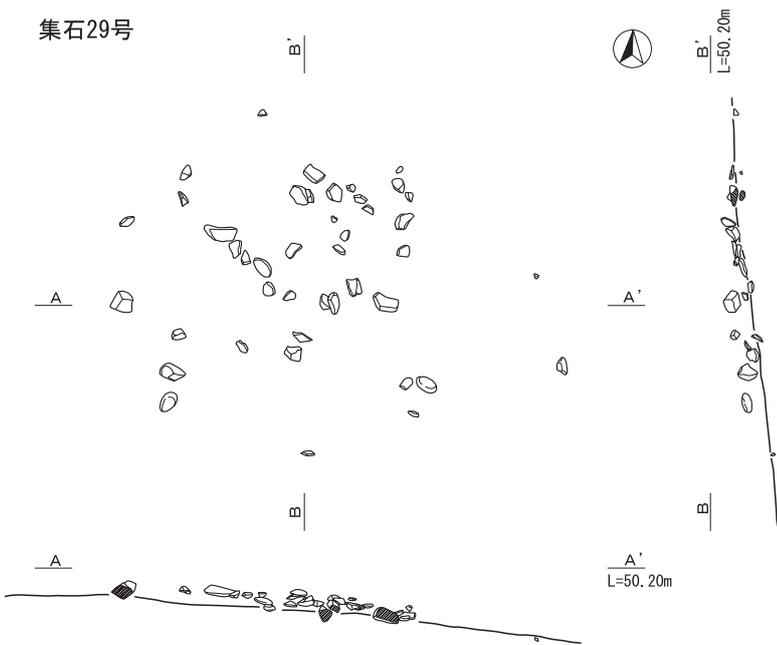
23



24



集石29号



第21図 集石 (I類9)

石皿2点、磨・敲石3点が出土し、うち石錘1点、スクレイパー1点、石皿1点、磨・敲石1点を図化した。26は石錘で、楕円形で厚みのある砂岩の中心軸に連続する敲打を施して凹ませている。この中を顕微鏡で観察したところ、部分的に稜線の摩滅や擦痕が見られ、漁網や編布の錘として使用された痕跡の可能性がある。27は頁岩製のラウンド・スクレイパーである。大きめの剥離で素材を円形に施している。表面に残る磨き痕や硬質な石材から、磨製石斧の破片を転用した可能性が考えられる。28は不定形な扁平礫を用いた石皿で、平坦な表裏面には磨りによる光沢面が広く見られる。29は円形ないし楕円形の礫を素材とする磨・敲石で、表裏面に磨りが、側面には敲打痕が見られる。

**集石 32号 (第24図)**

B-20・21区、IX層で検出された。長軸2.03 m、短軸1.96 mの範囲に散在しており、掘り込みは確認できなかった。構成礫は95個で、安山岩と石灰岩がそれぞれ1個、残りは砂岩である。ほとんどが破碎礫で、被熱している。

遺物は、石錘が1点出土したが、図化しなかった。

**集石 33号 (第24図)**

D-22区、IX層で検出された。長軸2.23 m、短軸が

0.82 mの範囲に散在しており、掘り込みは確認できなかった。構成礫は25個で、砂岩のみである。全て破碎礫で、被熱している。

遺物は、土器片が1点、磨石が1点出土したが、図化しなかった。

**集石 34号 (第25図)**

C-15・16区、IX層で検出された。長軸2.36 m、短軸1.20 mの範囲に散在しており、掘り込みは確認できなかった。構成礫は19個で、砂岩のみである。破碎礫が多く、被熱している。

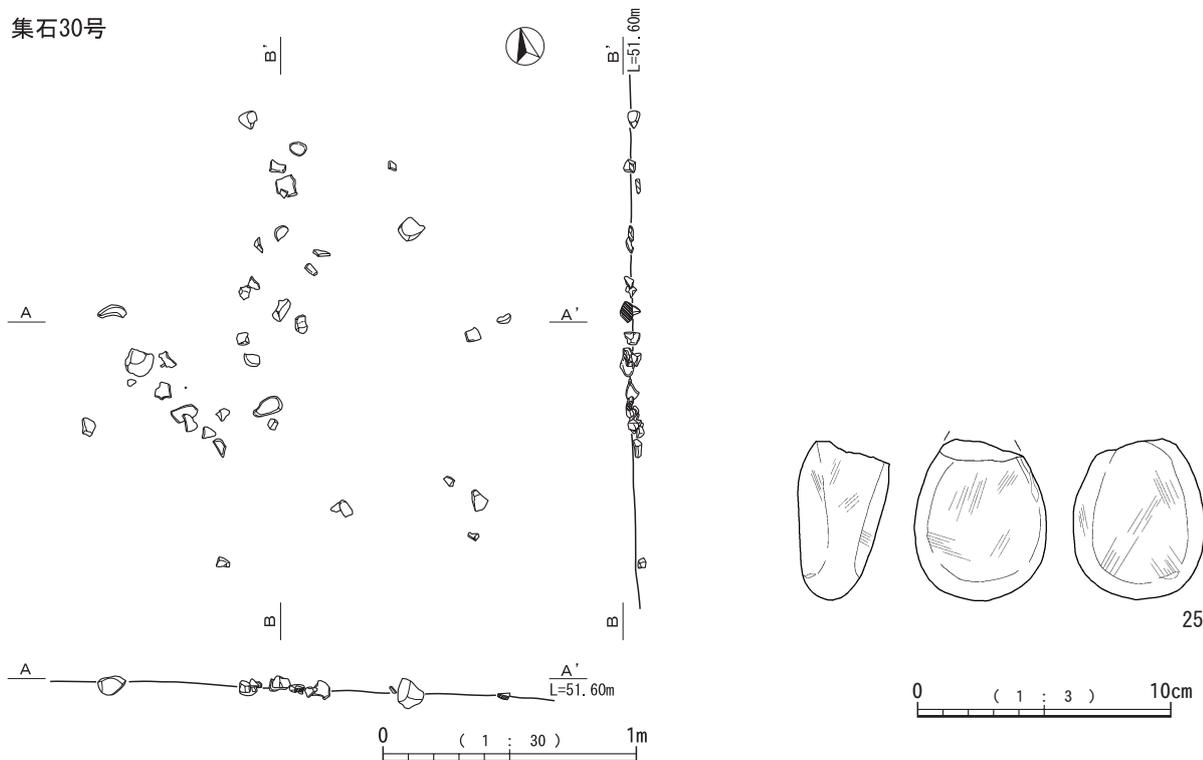
遺物は、石皿片が1点出土したが、図化しなかった。

**集石 35号 (第25図)**

B・C-22・23区、IX層で検出された。長軸2.51 m、短軸1.90 mの範囲に散在しており、掘り込みは確認できなかった。構成礫は36個で、砂岩のみである。全て破碎礫で、被熱している。

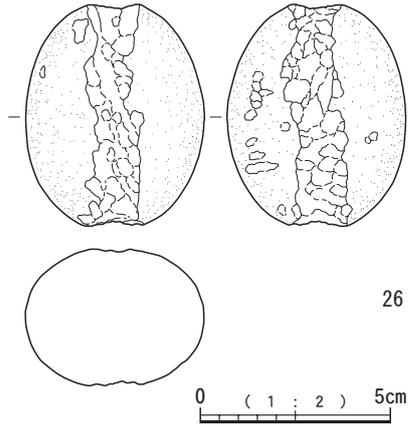
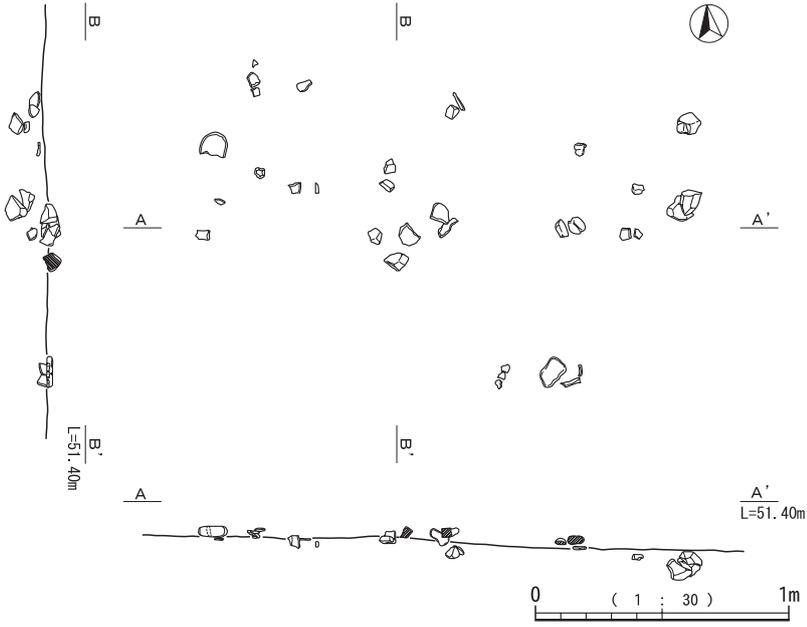
遺物は、土器片が1点、磨石が2点、石皿片が2点、チップが1点出土し、土器片1点を図化した。30は深鉢の口縁部から胴部にかけての土器片で、外面はナデ調整の後、貝殻刺突文が施される。内面の器面調整はケズリによるものと考えられる。

**集石30号**



第22図 集石 (I類10)

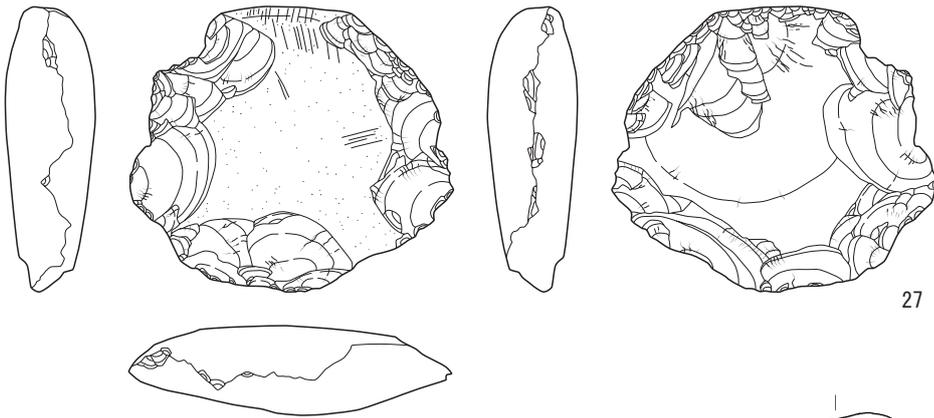
集石31号



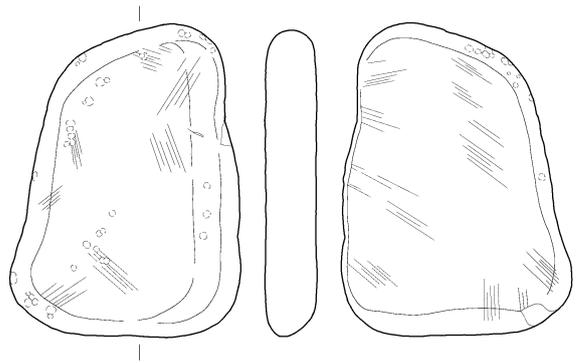
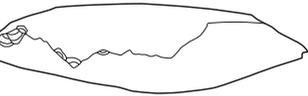
26



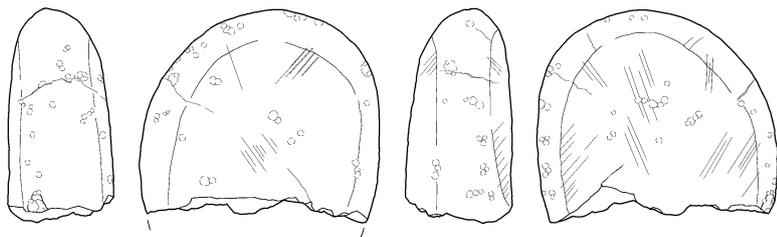
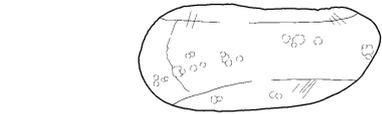
26 拡大写真 (擦痕)



27



28



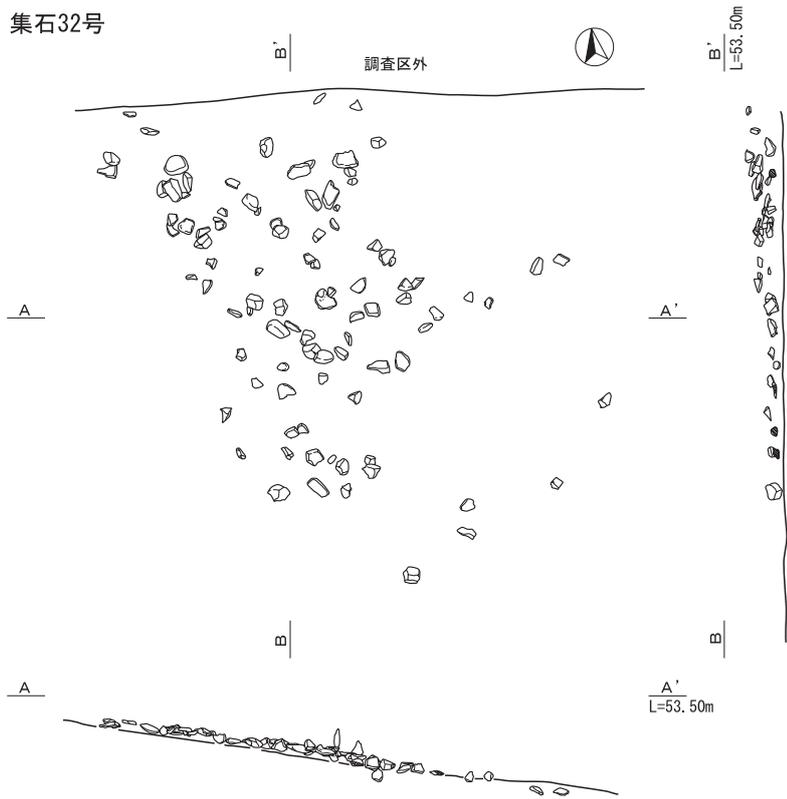
29



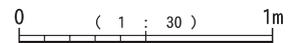
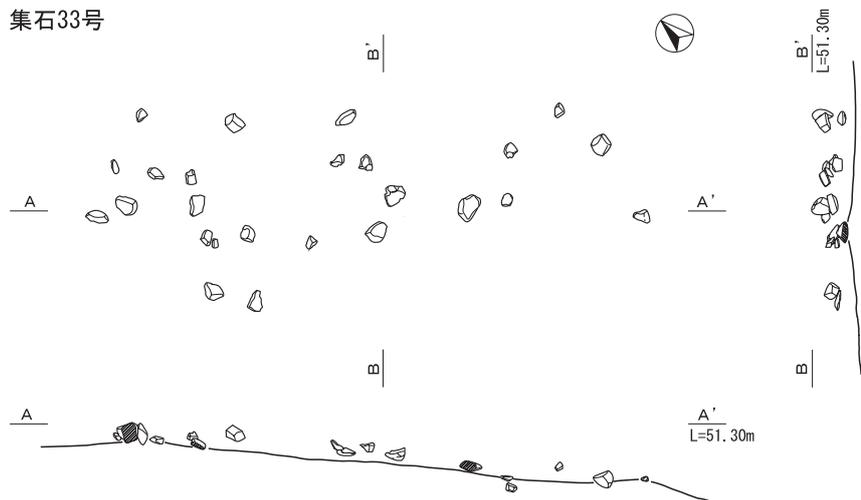
27~29

第23図 集石 (I類11)

集石32号



集石33号



第24図 集石 (I類12)

### 集石 36 号 (第 26 図)

B-24・25 区, IX 層で検出された。長軸 2.82 m, 短軸 1.75 m の範囲に散在しているが集石の北側と西側に礫がまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は 52 個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が 1 点, 石皿片が 1 点出土し, 土器片 1 点を図化した。31 は深鉢の底部で, 外面には貝殻条痕が横位に施される。内面はナデにより器面調整される。

### 集石 37 号 (第 26 図)

B-25 区, IX 層で検出された。長軸 3.23 m, 短軸 1.30 m の範囲に散在しているが, 集石の北東部分, 北西部, 南西部分に礫がややまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は 89 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が 1 点, 磨石片が 1 点出土し, 土器片 1 点を図化した。32 は, 胴部の土器片で, 外面には貝殻条痕が施される。内面はミガキとナデにより器面調整される。

### 集石 38 号 (第 27 図)

B-12 区, IX 層で検出された。長軸 3.05 m, 短軸 1.86 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 36 個で, 砂岩である。全て破碎礫で, わずかに被熱の痕跡が見られる。

遺物は, 磨・敲石が 3 点と石皿片が 1 点出土し図化した。33~35 は磨・敲石である。33 は不定形な砂岩の円礫で, 先端部には敲打とそれに伴うと考えられる剥離が残る。34 は楕円形の砂岩を用いており, 平坦面は磨りによる光沢面を有し, 側面には敲打痕が確認できる。35 はやや扁平な不定形礫を素材として, 表裏面にわずかな擦痕を残す。側面に敲打痕も見られる。36 は厚みのある砂岩製の石皿片である。わずかに平坦面を残している。

## II 類 (第 28 図~第 42 図)

### 集石 39 号 (第 28 図)

B-23 区, IX 層で検出された。長軸 0.38 m, 短軸 0.32 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 10 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

関連する遺物は確認できなかった。

### 集石 40 号 (第 28 図)

B-23 区, IX 層で検出された。長軸 0.40 m, 短軸 0.34 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 6 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

遺物は, チップが 1 点出土している。

### 集石 41 号 (第 28 図)

E・F-23 区, IX 層で検出された。長軸 0.56 m, 短

軸 0.31 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 14 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

関連する遺物は確認できなかった。

### 集石 42 号 (第 28 図)

E-25 区, X 層上面で検出された。長軸 0.50 m, 短軸 0.45 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。

構成礫は 30 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 薄い形状のものが多し。被熱痕は確認できなかった。

遺物は, 礫器が 1 点出土し図化した。37 は砂岩製の礫器で, 大型の剥片の縁辺に剥離を施して刃部を形成している。

### 集石 43 号 (第 28 図)

E-23 区, IX 層で検出された。長軸 0.58 m, 短軸 0.50 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 19 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

関連する遺物は確認できなかった。

### 集石 44 号 (第 28 図)

B-24 区, IX 層で検出された。長軸 0.62 m, 短軸 0.58 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 15 個で, 砂岩のみである。そのほとんどが破碎礫で, 被熱している。遺構内から少量の炭化物が出土した。

遺物は, 土器片が 1 点, チップが 1 点出土し, 土器片 1 点を図化した。38 は深鉢の胴部で, 内外面ともナデ調整で仕上げられている。

### 集石 45 号 (第 29 図)

D-20 区, IX 層で検出された。長軸 0.75 m, 短軸 0.60 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 40 個で, 砂岩である。全て破碎礫で, そのほとんどが被熱している。

関連する遺物は確認できなかった。

### 集石 46 号 (第 29 図)

F-19 区, IX 層で検出された。長軸 0.80 m, 短軸 0.77 m の範囲に散在しているが, 集石の中心部では礫がややまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は 29 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, そのほとんどが被熱している。

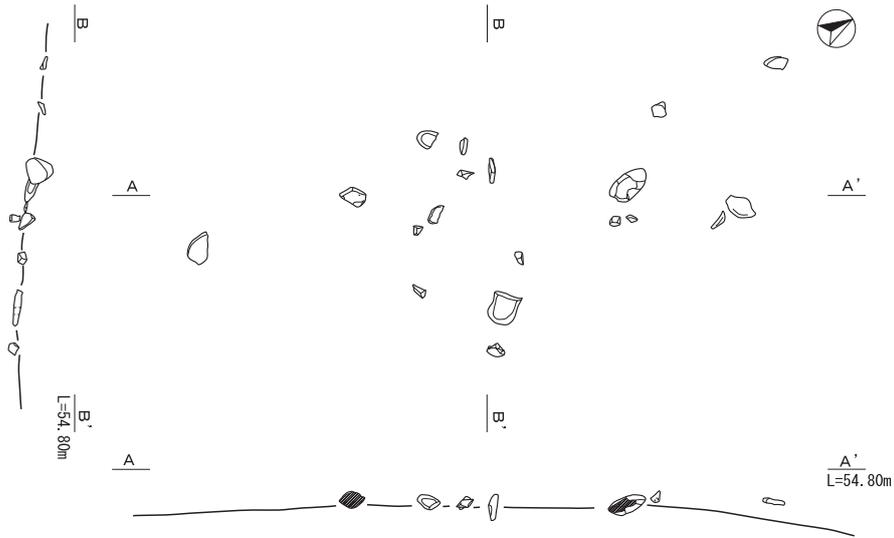
関連する遺物は確認できなかった。

### 集石 47 号 (第 29 図)

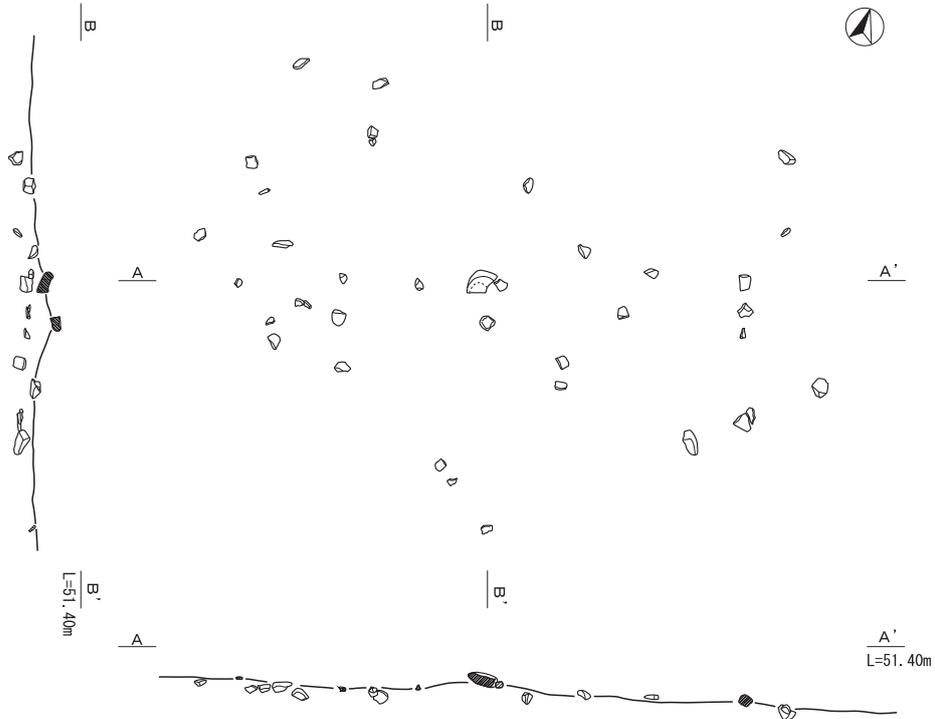
E-23 区, IX 層で検出された。長軸 0.88 m, 短軸 0.61 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 47 個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 石皿が 1 点出土し図化した。39 は不定形でやや扁平な砂岩を用いた石皿で, 被熱により表面が剥落

集石34号



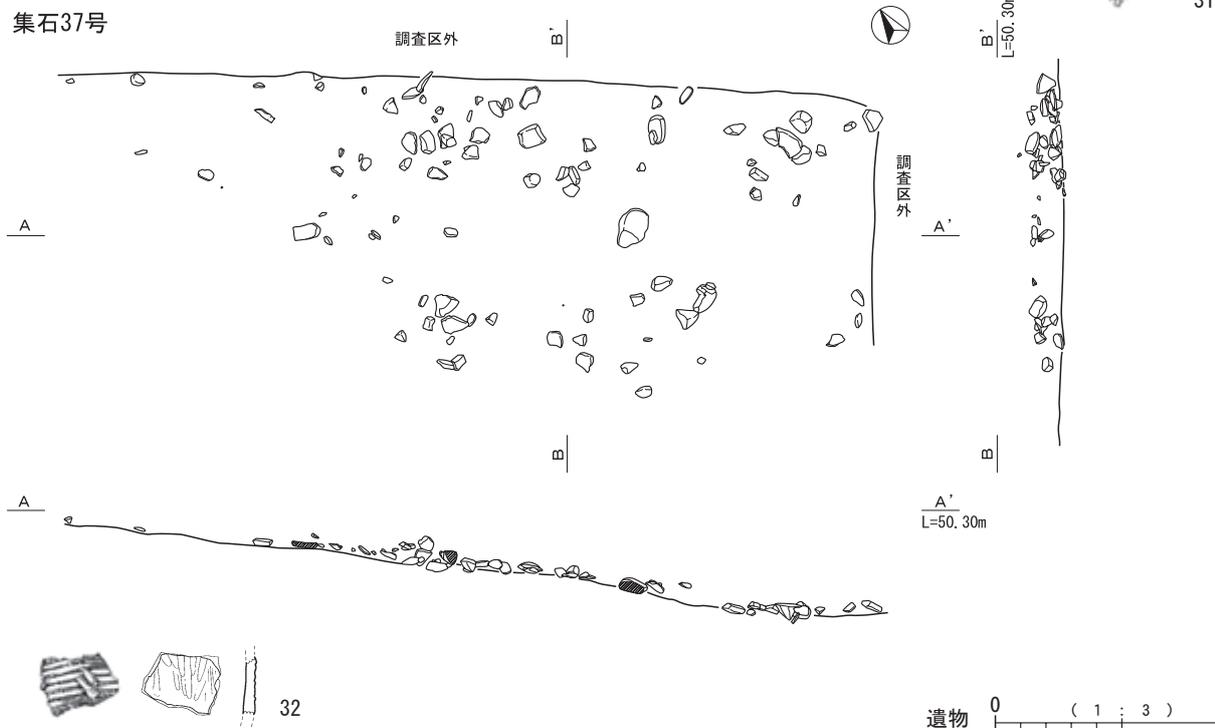
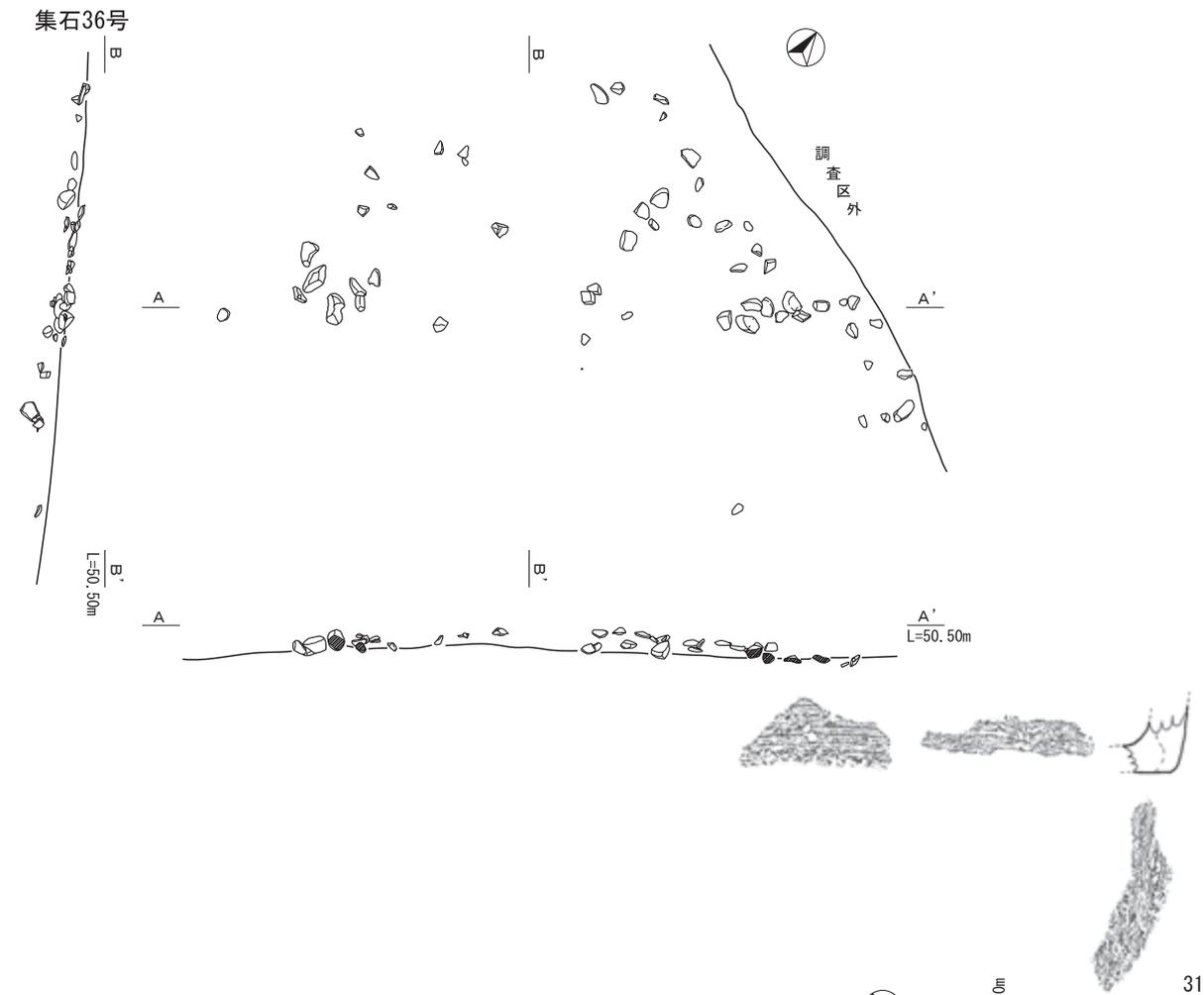
集石35号



遺物 0 ( 1 : 3 ) 10cm

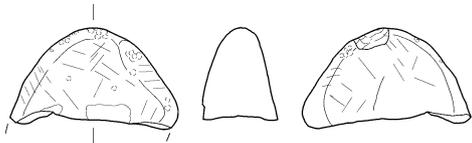
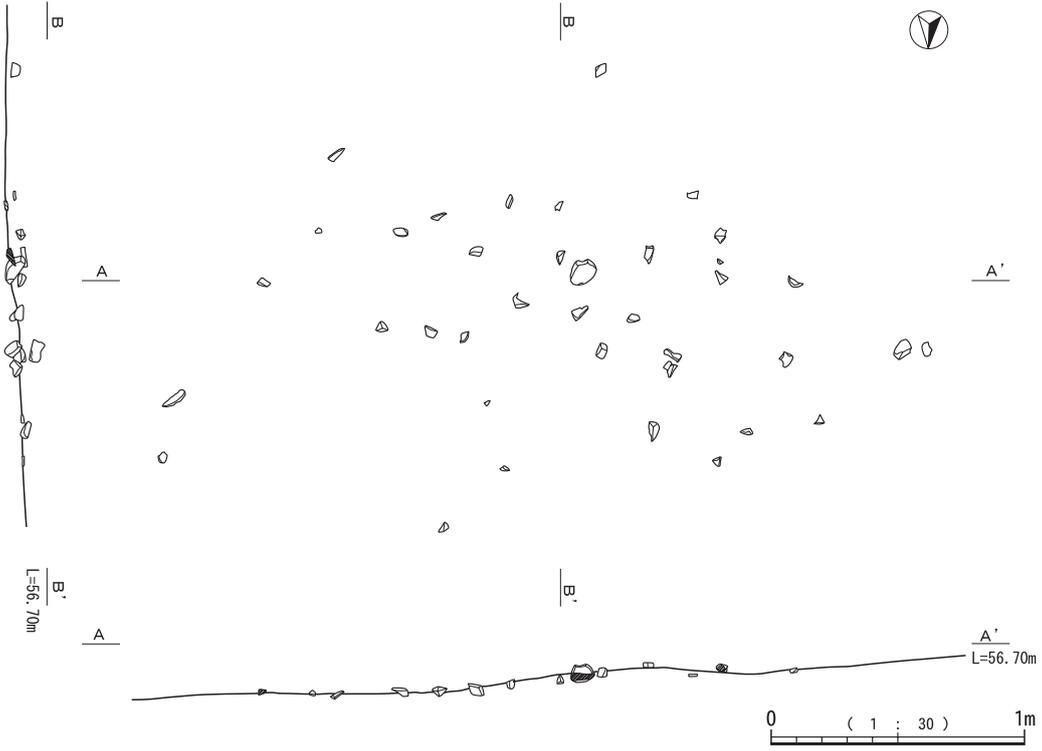
遺構 0 ( 1 : 30 ) 1m

第25図 集石 ( I 類13)

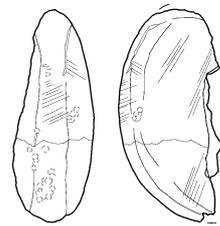


第26図 集石 ( I 類14)

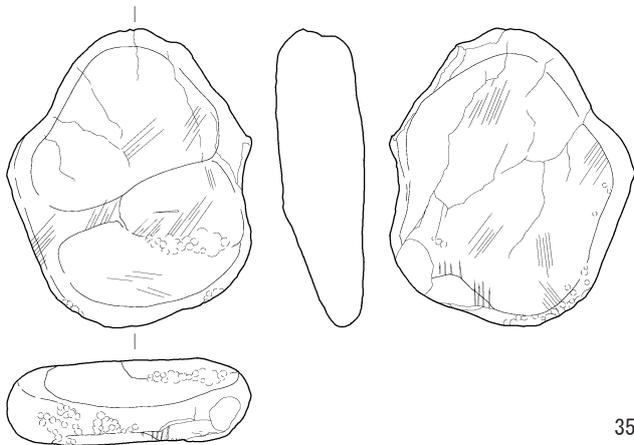
集石38号



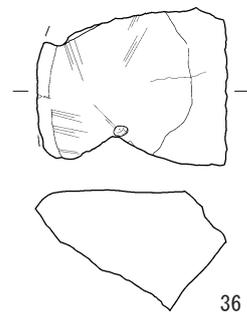
33



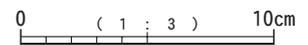
34



35

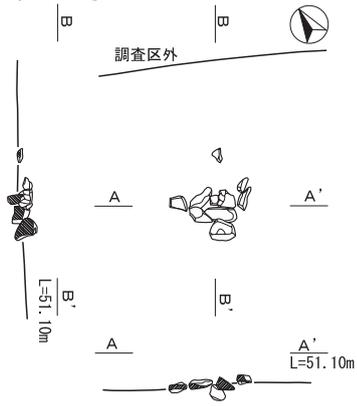


36

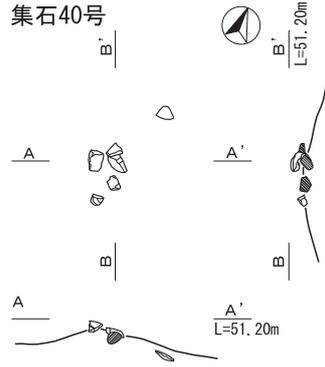


第27図 集石 (I類15)

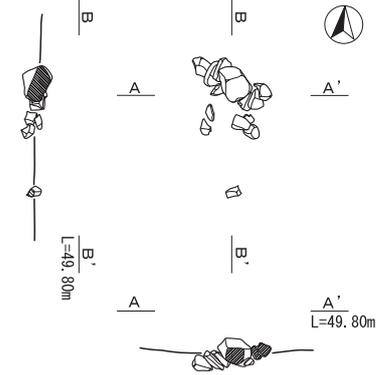
集石39号



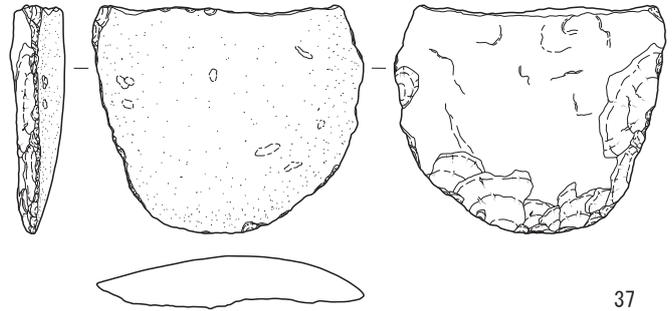
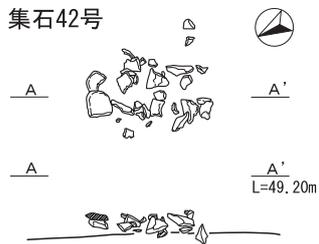
集石40号



集石41号

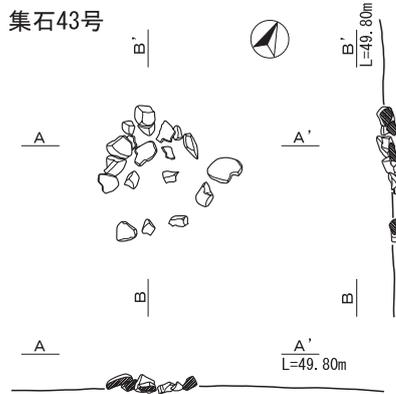


集石42号

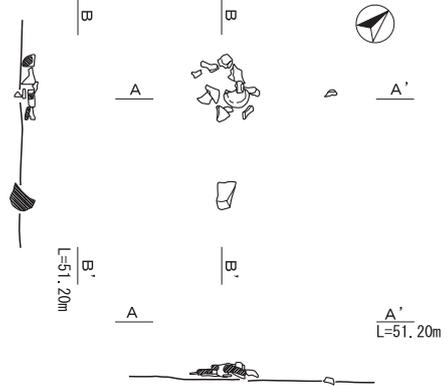


37

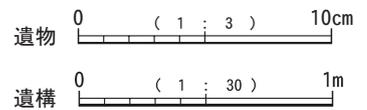
集石43号



集石44号



38



第28図 集石 (Ⅱ類1)

している。

#### 集石 48 号 (第 29 図)

C-20 区, IX 層で検出された。長軸 0.91 m, 短軸 0.64 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 16 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 磨石 2 点が出土したが図化しなかった。

#### 集石 49 号 (第 30 図)

D-23 区, IX 層で検出された。長軸 0.91 m, 短軸 0.73 m の範囲に集中しており, 特に集石の中心部に礫がまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は 22 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

関連する遺物は確認できなかった。

#### 集石 50 号 (第 30 図)

C-23 区, IX 層で検出された。長軸 1.14 m, 短軸 0.97 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 80 個で, 花崗岩が 1 個と残りは砂岩である。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 石皿片が 2 点出土したが図化しなかった。

#### 集石 51 号 (第 30 図)

C-23 区, IX 層で検出された。長軸 1.10 m, 短軸 1.04 m の範囲に散在しており, 集石の中心部に礫がややまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は 24 個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 磨・敲石片が 1 点, 石皿片が 2 点, 剥片が 1 点出土し, うち石皿片 1 点を図化した。

40 は石皿片である。厚みのある砂岩を用い, 「U」字状を呈する作業面に擦痕が確認できる。

#### 集石 52 号 (第 30 図)

B-23 区, IX 層で検出された。長軸 1.08 m, 短軸 0.91 m の範囲に散在しており, 集石の中心部に礫がややまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は 13 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

遺物は土器片が 1 点出土し図化した。41 は深鉢の胴部で, 外面も内面もナデ調整で仕上げられている。

#### 集石 53 号 (第 30 図)

D-23 区, IX 層で検出された。長軸 1.12 m, 短軸 1.02 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 43 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が 29 点, 石皿片が 1 点出土している。土器片は集石 86 号出土の土器片と接合した。

#### 集石 54 号 (第 31 図)

C-23 区, IX 層で検出された。長軸 1.34 m, 短軸 1.06 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できな

かった。構成礫は 124 個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が 1 点, 磨石片が 1 点, 石皿片が 1 点, 剥片が 3 点出土し, うち土器片 1 点を図化した。42 は深鉢の胴部で, 外面には貝殻条痕と貝殻刺突文が施される。内面はナデにより器面調整される。

#### 集石 55 号 (第 31 図)

D-23 区, IX 層で検出された。長軸 1.41 m, 短軸 0.87 m の範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 20 個で, 大きめの礫が多い。全て砂岩の破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が 1 点, 石皿片が 4 点出土し, うち土器片 1 点を図化した。43 は, 深鉢の口縁部で, 外面はナデによる器面調整後に貝殻刺突文が施される。内面には指ナデによる器面調整が見られる。

#### 集石 56 号 (第 31 図)

E・F-23 区, IX 層で検出された。長軸 1.30 m, 短軸 0.71 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 28 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

関連する遺物は確認できなかった。

#### 集石 57 号 (第 31 図)

C-23 区, IX 層で検出された。長軸 1.24 m, 短軸 0.93 m の範囲に散在しており, 集石の北東部分に礫がややまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は 35 個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

遺物は, チップが 1 点出土している。

#### 集石 58 号 (第 31 図)

C-23 区, IX 層で検出された。長軸 1.25 m, 短軸 0.93 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 48 個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が 24 点と石皿片が 2 点出土し, うち石皿片 1 点を図化した。44 は厚みのある砂岩片で, 表面には磨りによる強い光沢面が残る。横断面観は浅い「U」字状を呈する。

#### 集石 59 号 (第 32 図)

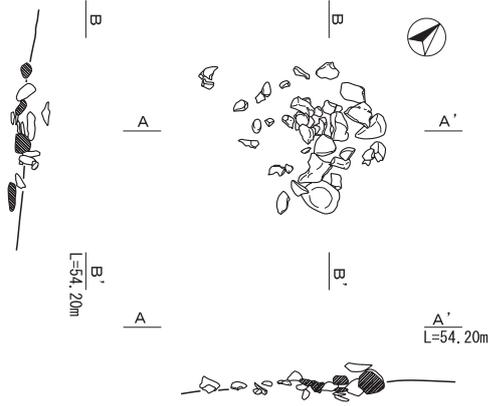
E-25 区, IX 層で検出された。長軸 1.26 m, 短軸 0.71 m の範囲に集中しており, 特に集石の中心部から東側にかけて礫がまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は 30 個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

関連する遺物は確認できなかった。

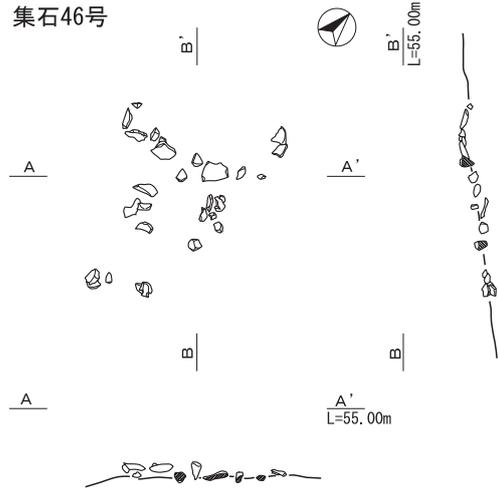
#### 集石 60 号 (第 32 図)

D-23 区, IX 層で検出された。長軸 1.30 m, 短軸 0.80 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 40 個で, 砂岩のみである。全て破碎

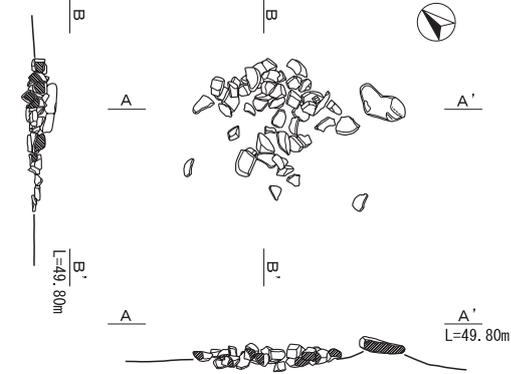
集石45号



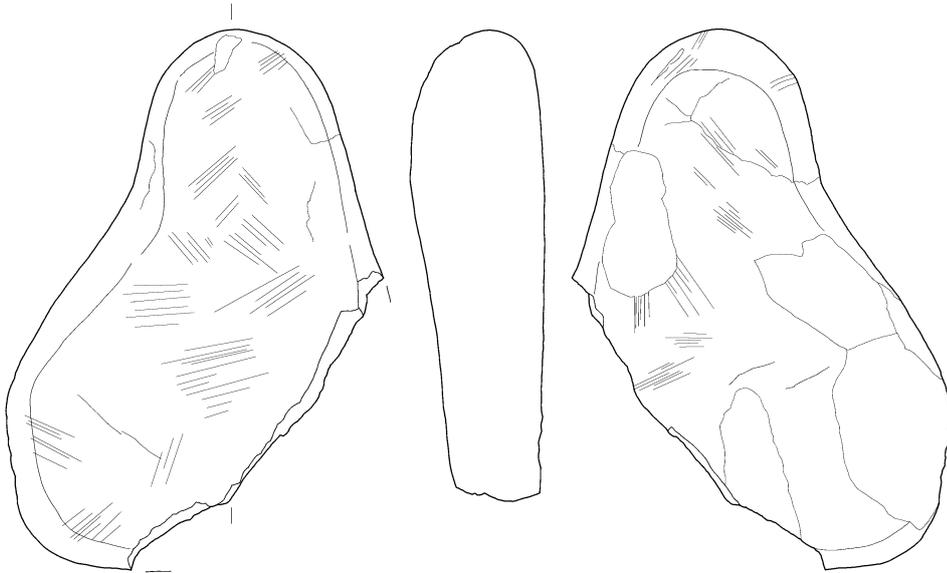
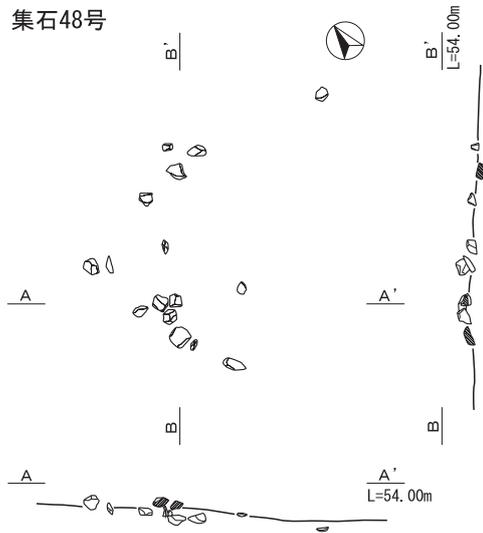
集石46号



集石47号



集石48号

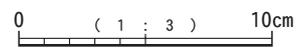
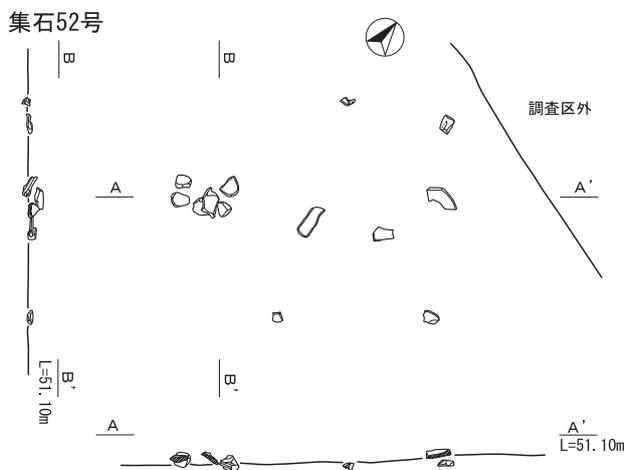
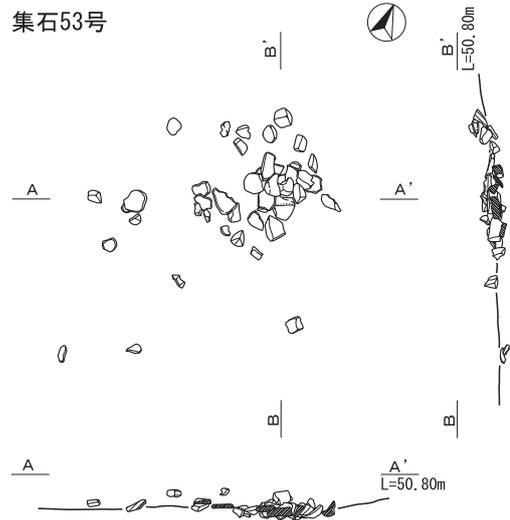
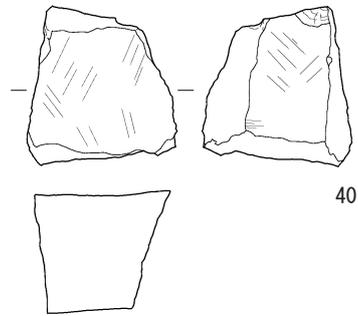
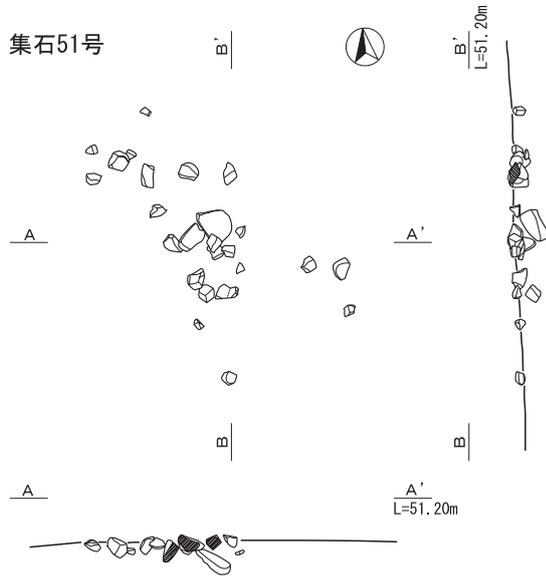
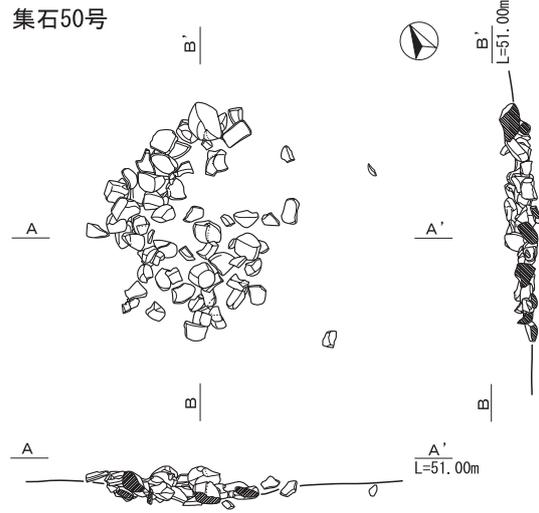
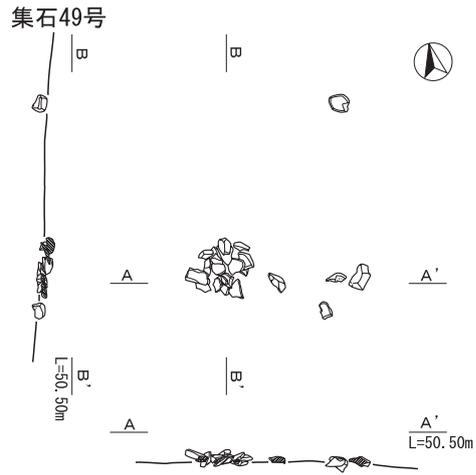


39

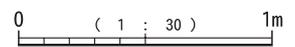
遺物 0 ( 1 : 3 ) 10cm

遺構 0 ( 1 : 30 ) 1m

第29図 集石 ( II類 2 )



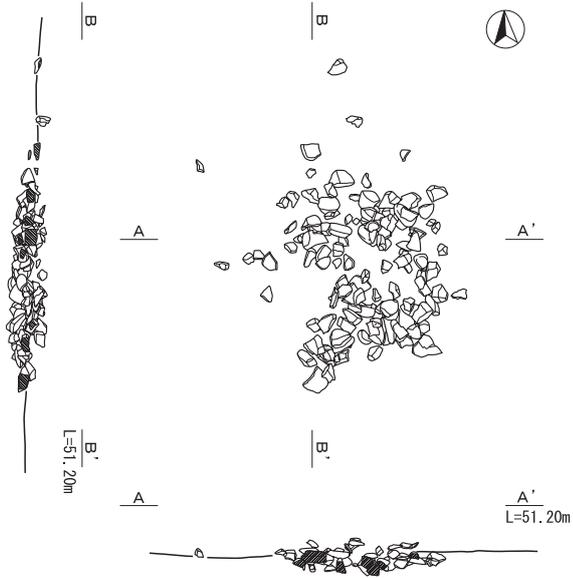
遺物



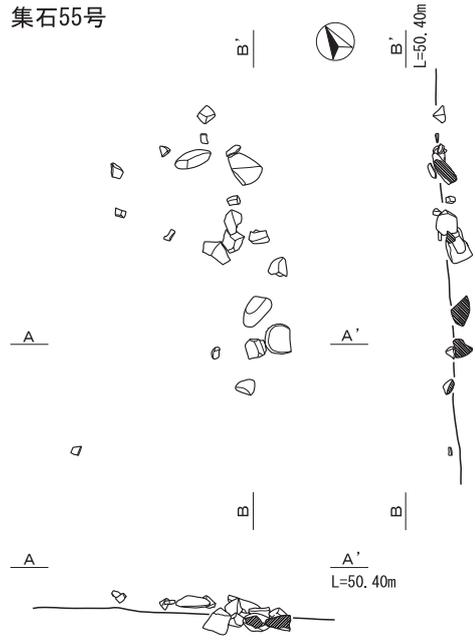
遺構

第30図 集石 (Ⅱ類3)

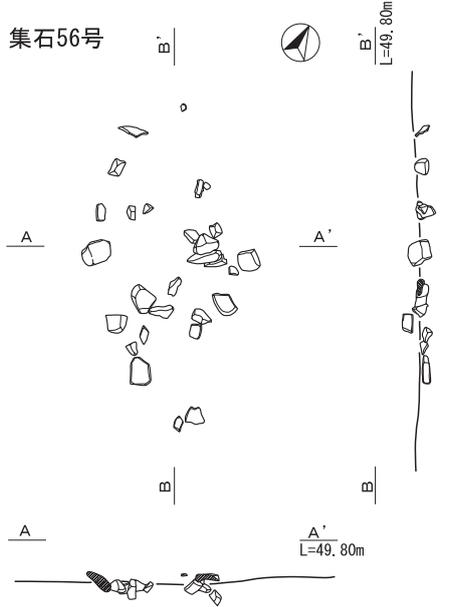
集石54号



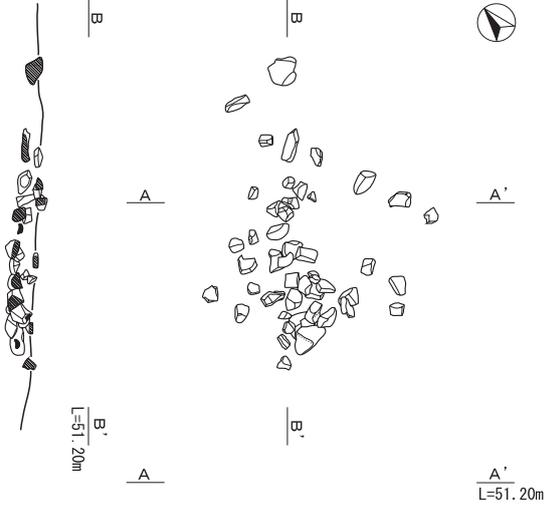
集石55号



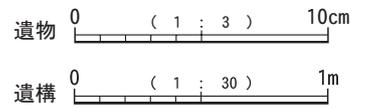
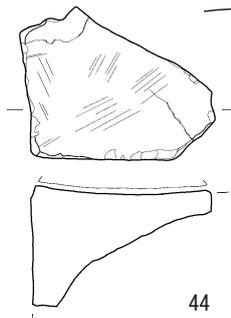
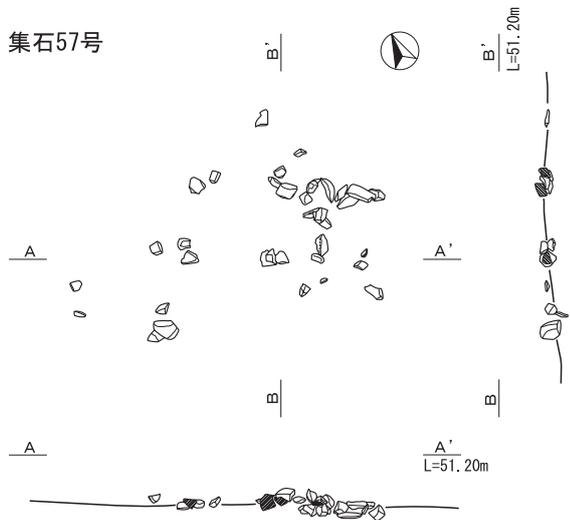
集石56号



集石58号



集石57号



第31図 集石 (Ⅱ類4)

礫で、被熱している。

遺物は、石皿片が2点出土したが図化しなかった。

#### 集石 61号 (第 32 図)

E-23区, IX層で検出された。長軸1.31m, 短軸1.04mの範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は127個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 磨・敲石が1点と石皿片が3点出土し, うち石皿片1点を図化した。

45は大型の砂岩製の石皿片である。平坦な表裏面に, 磨りによる光沢面が残る。

#### 集石 62号 (第 33 図)

C・D-23区, IX層で検出された。長軸1.31m, 短軸1.20mの範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は93個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片1点と磨・敲石が2点出土し, うち土器片1点を図化した。46は深鉢の底部に近い部分で, 外面には貝殻刺突文が施され, 内面はナデにより器面調整される。

#### 集石 63号 (第 33 図)

E-19区, IX層で検出された。長軸1.32m, 短軸1.22mの範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は48個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 磨石2点が出土したが図化しなかった。

#### 集石 64号 (第 33 図)

C・D-22区, IX層で検出された。長軸1.49m, 短軸1.29mの範囲に集中しており, 集石の東側と西側に礫がややまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は56個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が1点と磨石が1点出土したが, 小片のため図化しなかった。

#### 集石 65号 (第 33 図)

D・E-23区, IX層で検出された。長軸1.45m, 短軸1.20mの範囲に散在しており, 集石の西側から東側にかけて礫がややまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は41個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

関連する遺物は確認できなかった。

#### 集石 66号 (第 34 図)

D・E-24区, IX層で検出された。長軸1.51m, 短軸1.38mの範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は70個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 磨石が1点出土し図化した。47は不定形な砂岩製の磨石で, 表裏面にそれぞれ自然の凹みがある。

側面中央には, 磨りによると想定される光沢面が確認できる。

#### 集石 67号 (第 34 図)

C-23区, IX層で検出された。長軸1.50m, 短軸1.31mの範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は104個で, 泥岩が1個と残りは砂岩である。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が2点, 石皿片が2点, 剥片が2点出土し, うち土器片1点を図化した。48は深鉢の胴部で, 外面にはナデによる器面調整後に貝殻刺突文が施される。内面はナデによる器面調整がなされる。

#### 集石 68号 (第 35 図)

D-24区, IX層で検出された。長軸1.66m, 短軸1.54mの範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は53個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫だが, 他の集石と比較して棒状の円礫が多く見られ, 被熱している。

遺物は, 土器片1点, 磨・敲石4点, 磨製石斧1点, 石皿片2点が出土し, うち土器片1点と磨・敲石3点を図化した。49は深鉢の底部で, 外面には貝殻刺突文が施される。内面はナデにより器面調整される。

50~52は磨・敲石である。50は扁平でやや楕円形の礫を素材として, 先端部に敲打痕が残る。表裏面にはわずかに擦痕が見られる。51はやや湾曲する棒状礫を用い, 両端部に敲打痕を残す。52は棒状礫を用い, 平坦な表裏面には磨りによる光沢面を有する。

#### 集石 69号 (第 36 図)

D・E-24区, IX層で検出された。長軸1.56m, 短軸1.34mの範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は62個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片1点と磨・敲石が1点出土している。土器片は, 集石70号出土の土器片と接合した。

#### 集石 70号 (第 36 図)

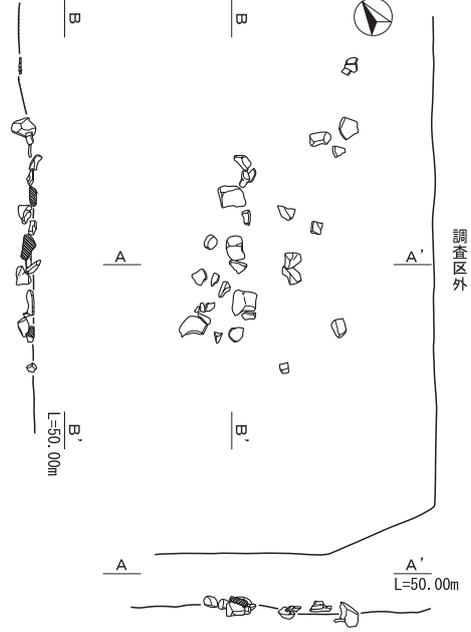
D-23区, IX層で検出された。長軸1.69m, 短軸1.51mの範囲に集中しており, 特に集石の中心部と南側に礫がまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は43個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が1点, 磨・敲石が4点, 石皿片が3点出土し, うち土器片1点を図化した。53は深鉢の胴部で, 集石69号出土の土器片と接合した。外面は刺突文が施される。内面はケズリにより器面調整される。

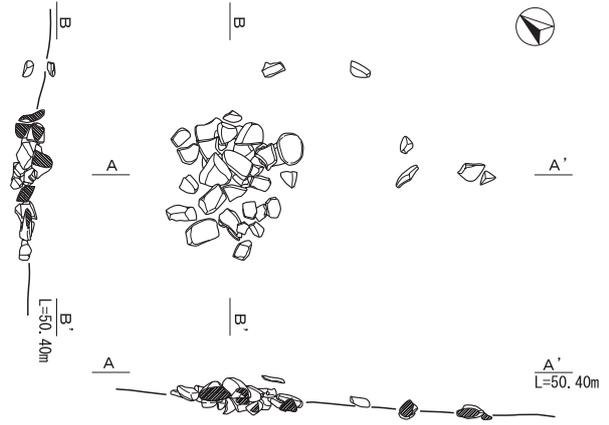
#### 集石 71号 (第 37 図)

E-23区, IX層で検出された。長軸1.61m, 短軸1.54mの範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は87個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

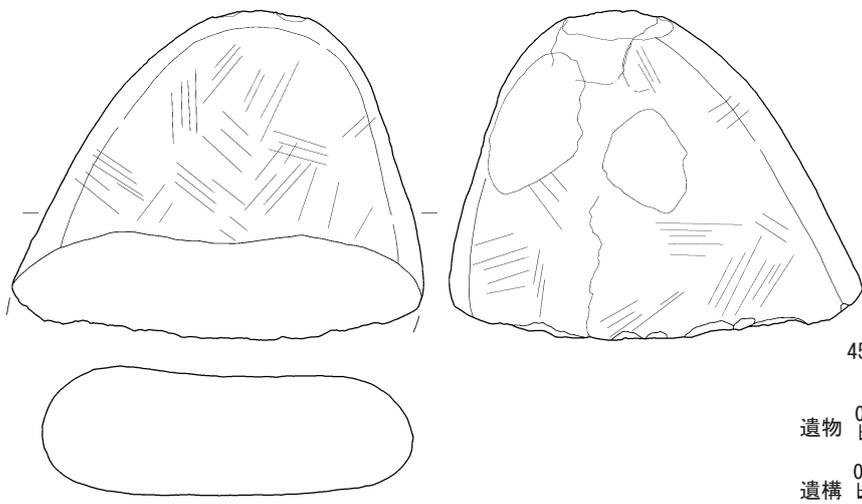
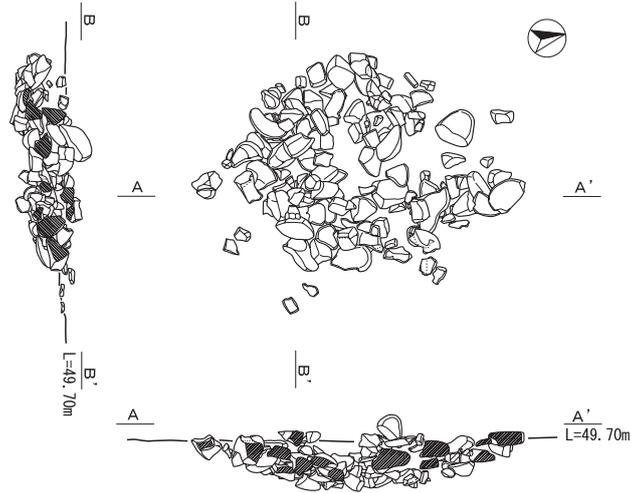
集石59号



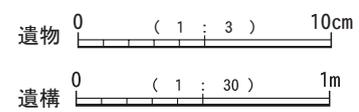
集石60号



集石61号

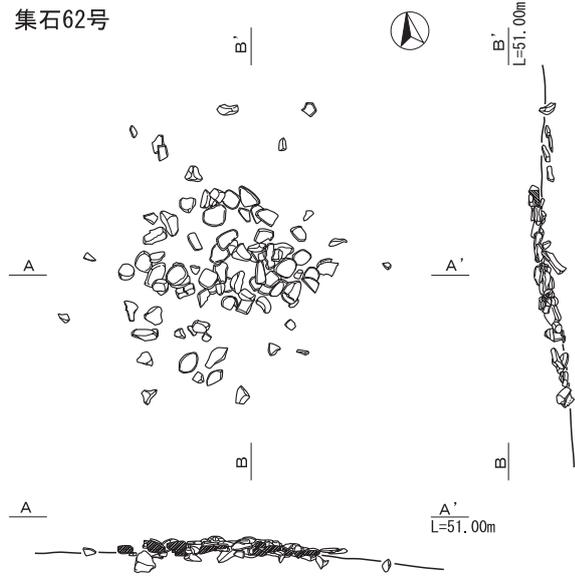


45

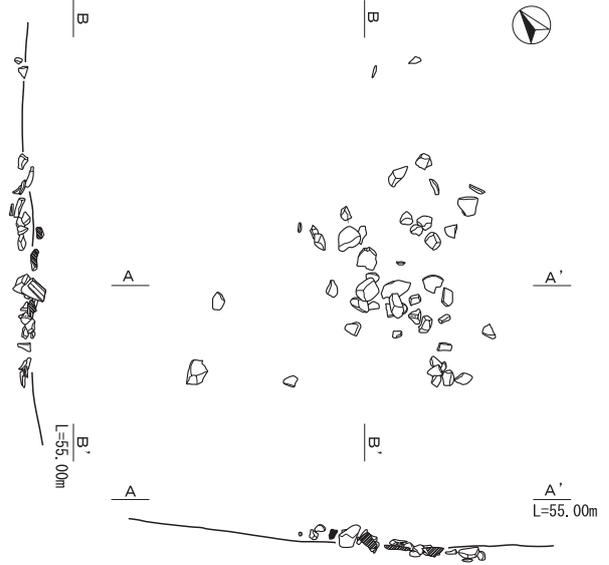


第32図 集石 (Ⅱ類5)

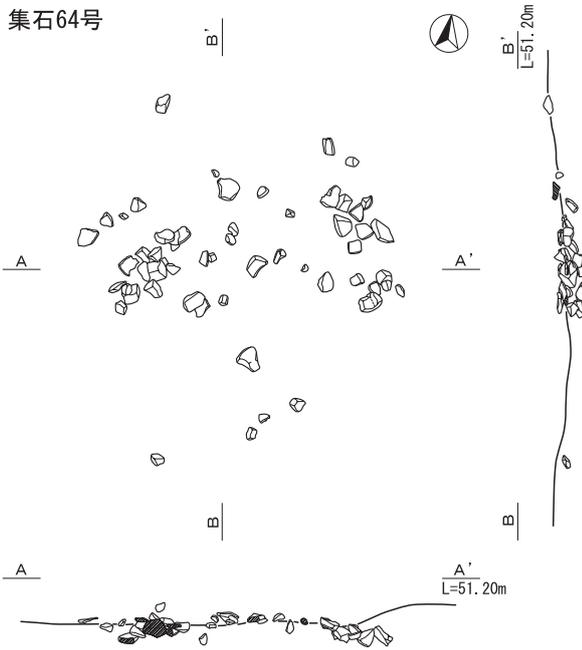
集石62号



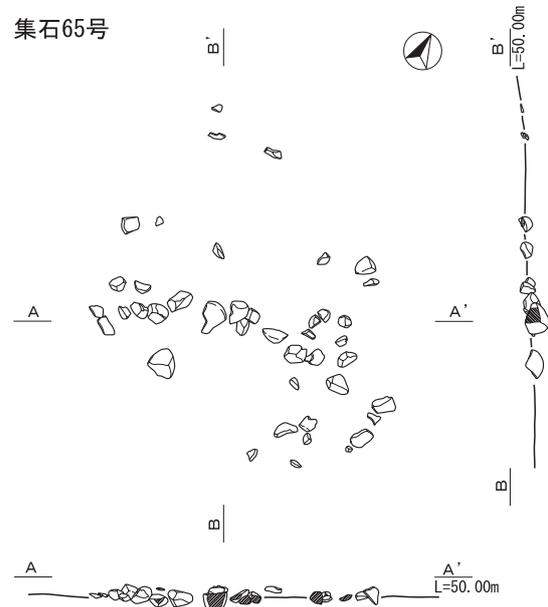
集石63号



集石64号



集石65号



遺物 0 ( 1 : 3 ) 10cm

遺構 0 ( 1 : 30 ) 1m

第33図 集石 ( II類 6 )

遺物は、磨石が2点、石皿片が3点出土し、うち磨石1点を図化した。54は磨石で、やや扁平な楕円形の砂岩を素材とする。裏面がわずかに凹み皿状を呈する。

**集石 72号 (第38図)**

C-22区, IX層で検出された。長軸1.77m, 短軸1.35mの範囲に散在しており, 集石の東側に大きめの礫がややまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は39個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は、土器片が2点、磨・敲石が6点、石皿が1点、剥片が2点出土し、うち土器片2点と磨・敲石1点を図化した。55は、深鉢の胴部で、外面には撚糸文が施される。内面はナデにより器面調整される。56は深鉢の底部で、内外面ともナデによる器面調整がなされる。57は楕円形に近い小型の砂岩礫で、平坦面に磨りの痕跡が認められる。

**集石 73号 (第38図)**

B-25区, IX層で検出された。長軸1.78m, 短軸が1.40mの範囲に散在しているが集石の中心部に礫がややまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は33個で, 砂岩のみである。破碎礫が多く被熱している。

遺物は、土器片1点が出土し、図化した。58は口縁部の土器片で、外面には貝殻条痕が施されるが、内面は摩滅により観察できない。

**集石 74号 (第39図)**

B・C-22区, IX層で検出された。長軸2.01m, 短軸1.20mの範囲に集中しており, 特に集石の西側に礫がまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は72個で, 花崗岩が1個と残りは砂岩である。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

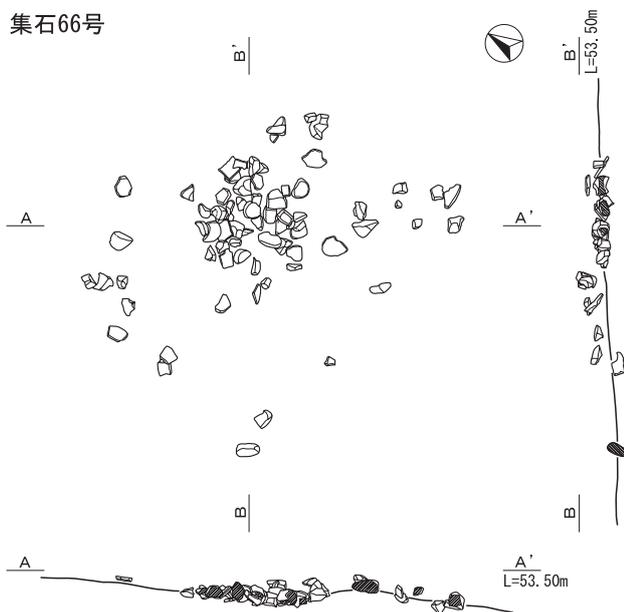
遺物は、土器片が1点、スクレイパーが1点出土し、図化した。59は土器の胴部で、外面にナデ、内面はミガキにより器面調整される。60は頁岩の自然面を残す剥片の縁辺に小さな剥離が連続している。左側辺部の二次加工の状況から、サイド・スクレイパーと判断した。

**集石 75号 (第39図)**

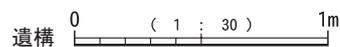
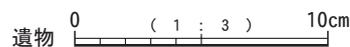
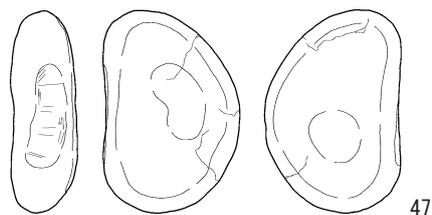
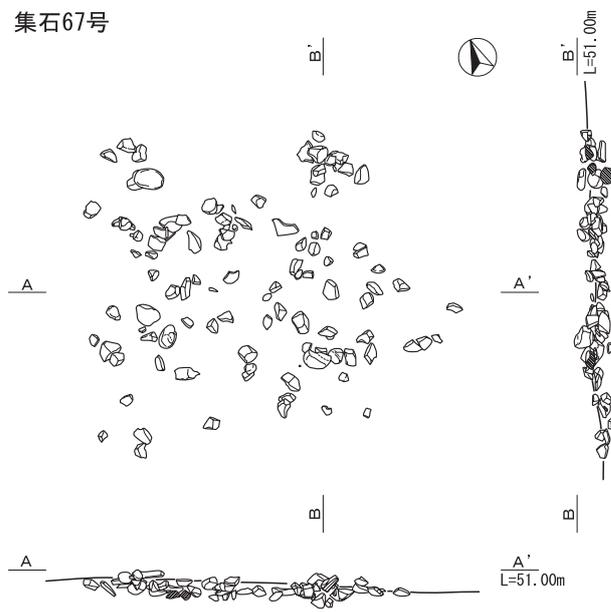
C-23区, IX層で検出された。長軸1.93m, 短軸1.27mの範囲に散在しているが, 集石の中心部と西側に礫がややまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は19個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

遺物は、磨・敲石が6点、石皿が1点出土したが、図

集石66号

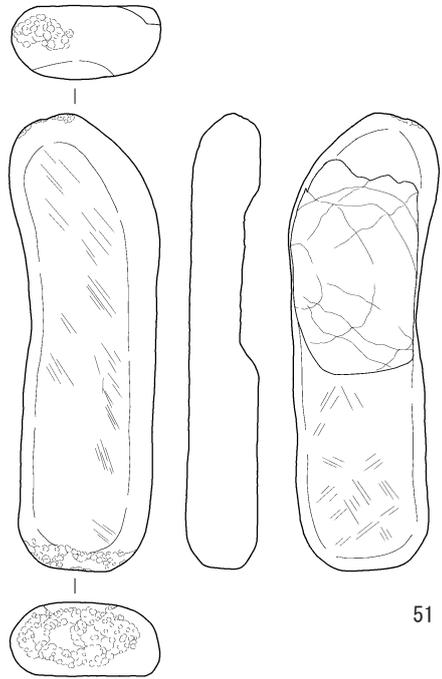
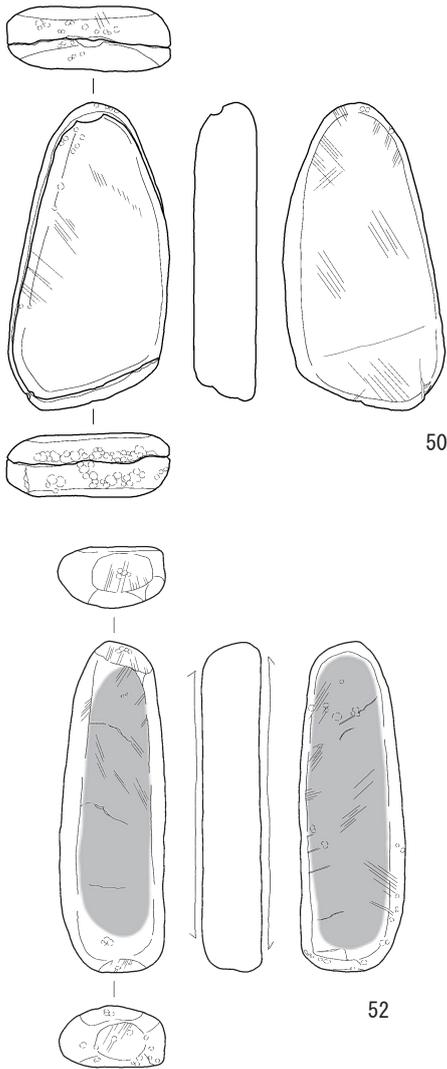
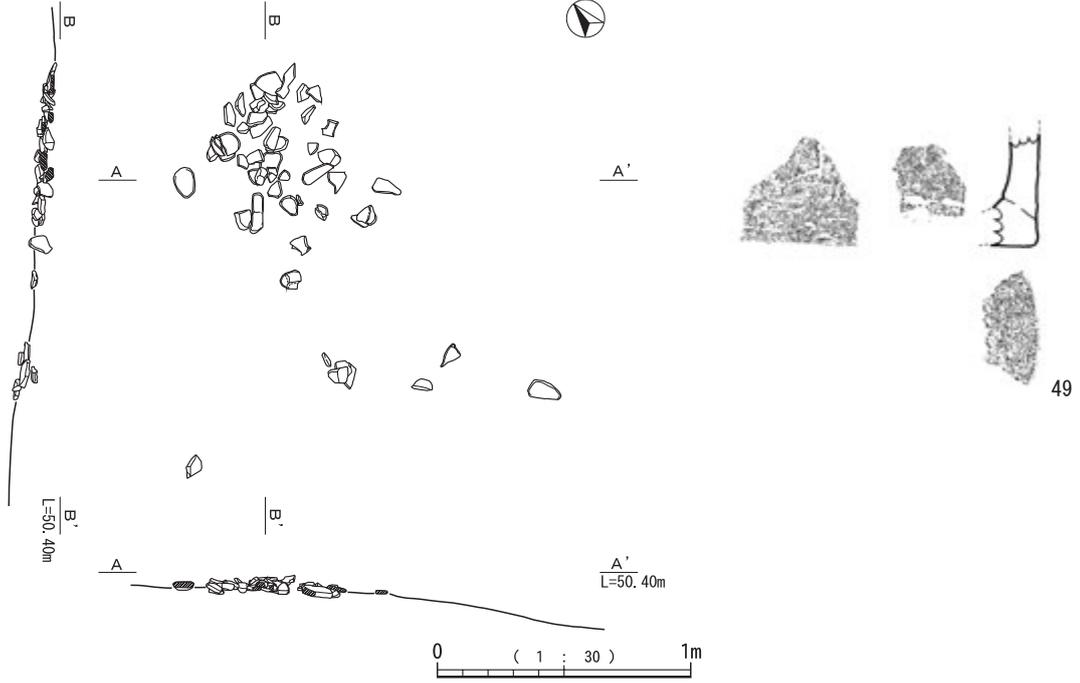


集石67号



第34図 集石 (Ⅱ類7)

集石68号



遺物 0 ( 1 : 3 ) 10cm

第35図 集石 ( II類 8 )

化しなかった。

**集石 76 号 (第 40 図)**

B-23 区, IX 層で検出された。長軸 2.13 m, 短軸 1.13 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 138 個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

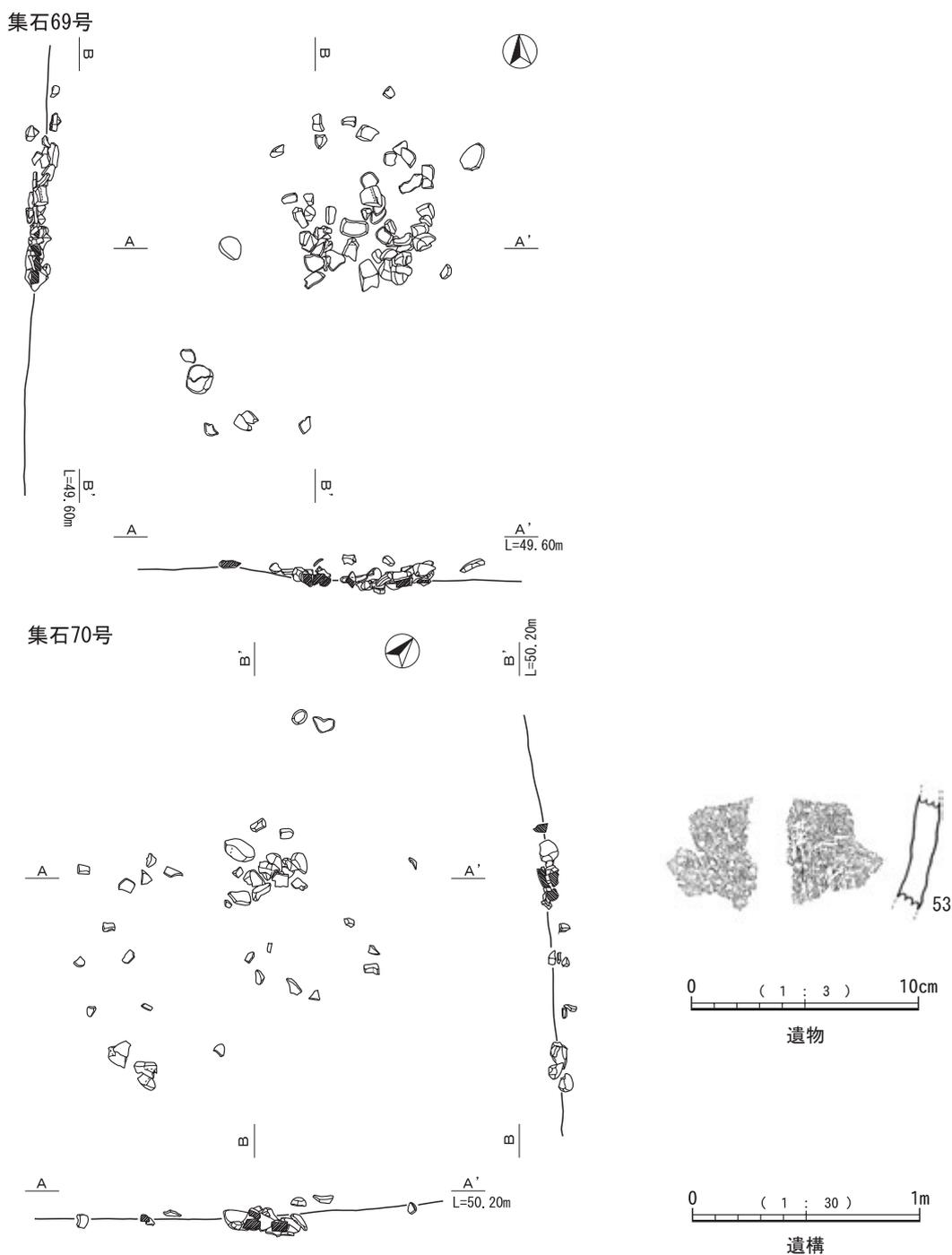
遺物は, 石皿片 4 点, 使用痕剥片が 1 点, 剥片が 1 点, チップが 2 点出土し, うち使用痕剥片 1 点を図化した。

61 はチャート製の使用痕剥片で, 調整剥片の鋭い一辺に微細な使用痕が見られる。

**集石 77 号 (第 40 図)**

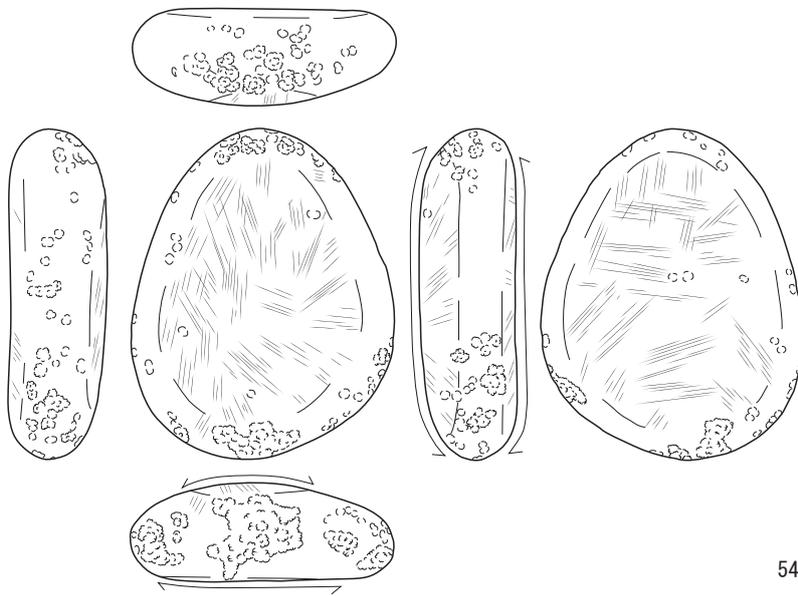
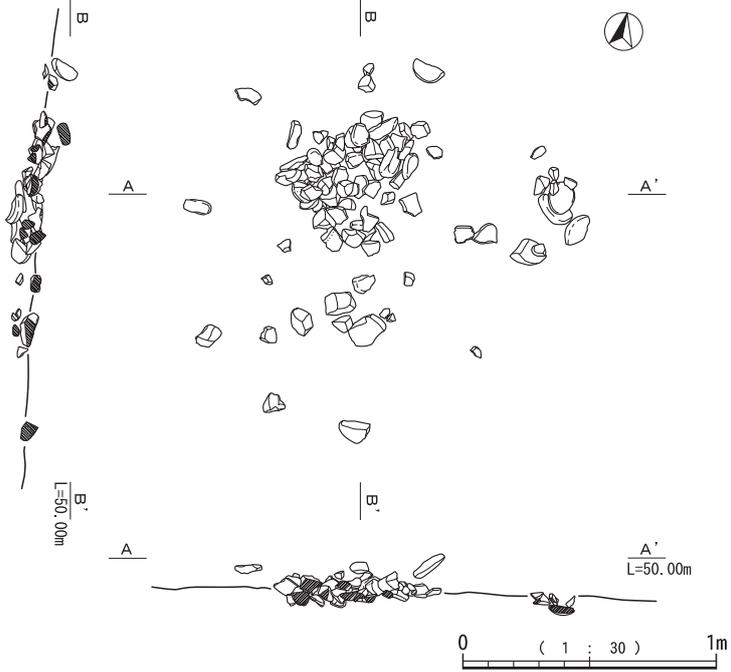
B-22・23 区, IX 層で検出された。長軸 2.58 m, 短軸 2.48 m の範囲に集中しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は 299 個で花崗岩が 1 点, 残りは砂岩である。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片 5 点, 磨・敲石 3 点, 石皿 3 点, 剥片 1 点が出土し, うち土器片 3 点を図化した。62 は深鉢の胴部で, 内外面とも指ナデによる器面調整がなされる。外面には貝殻刺突文が施される。63 は胴部の土器片で, 外面にはミガキにより器面調整され, 貝殻刺突文が施さ

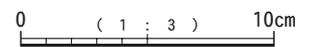


第36図 集石 (Ⅱ類 9)

集石71号

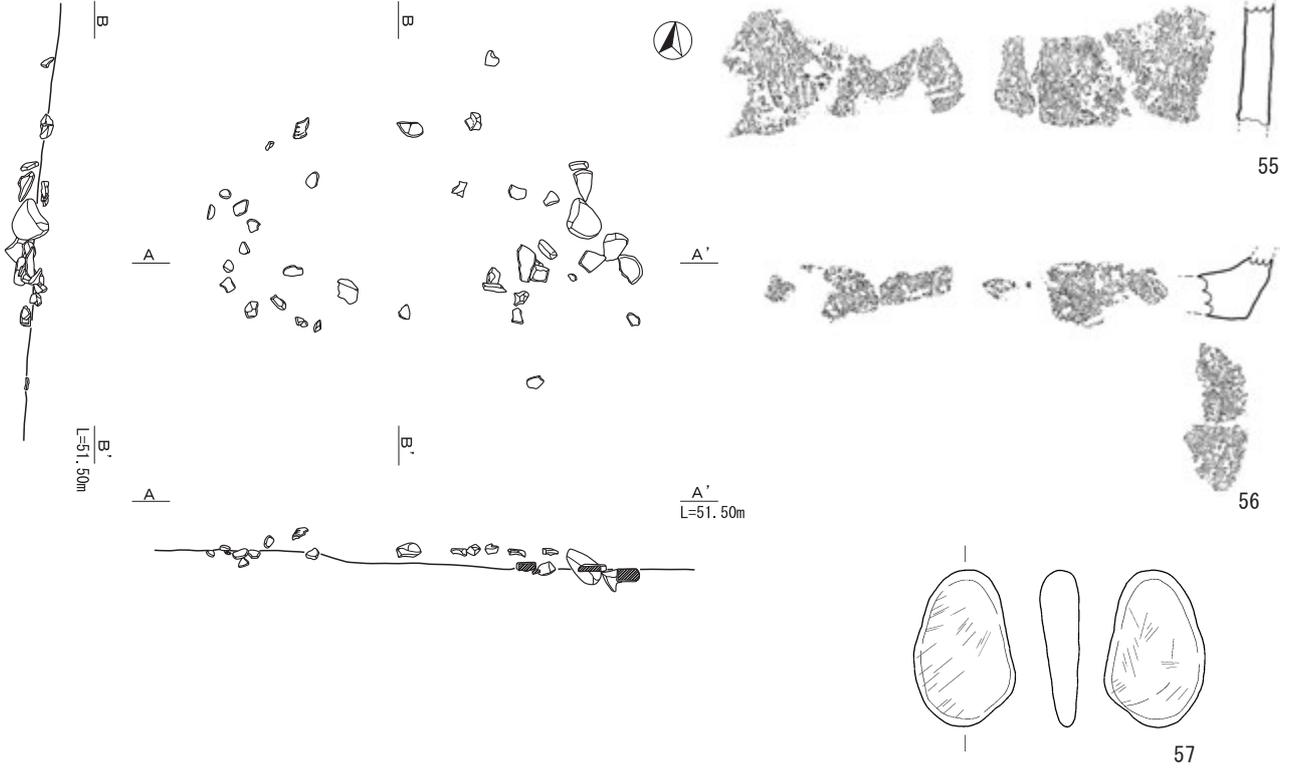


54

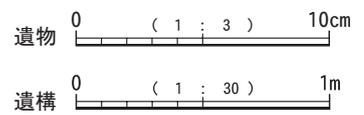
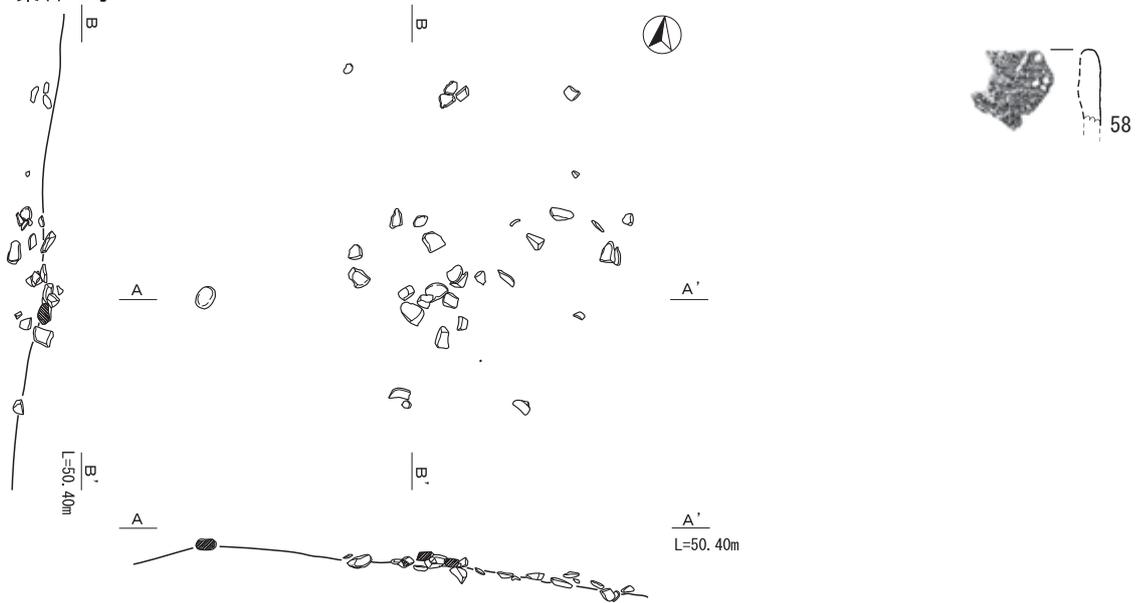


第37図 集石 (Ⅱ類10)

集石72号

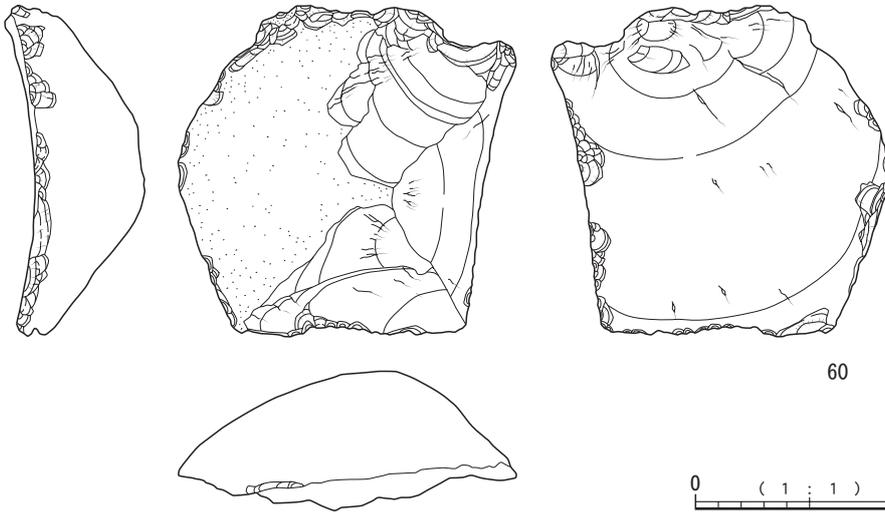
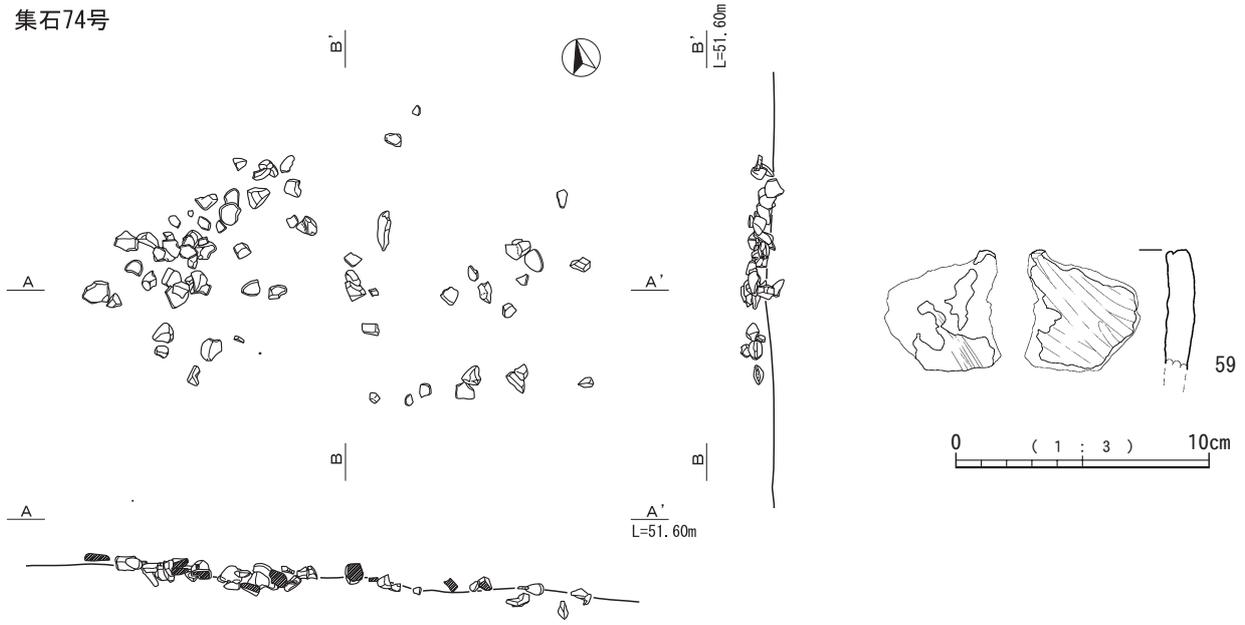


集石73号

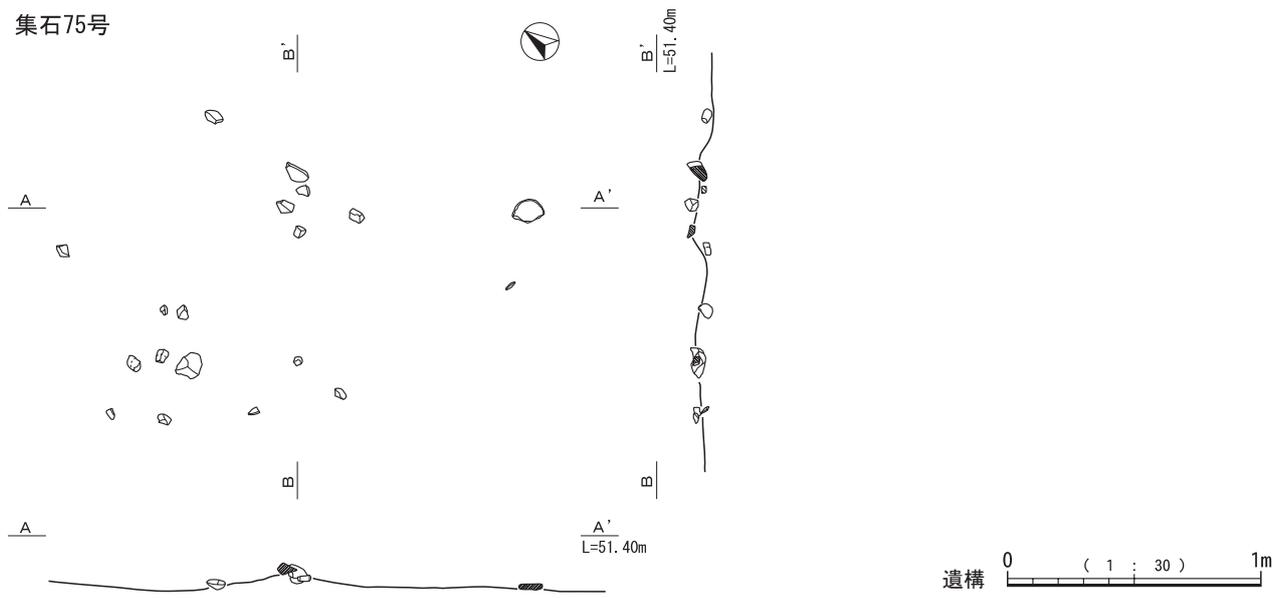


第38図 集石 (Ⅱ類11)

集石74号

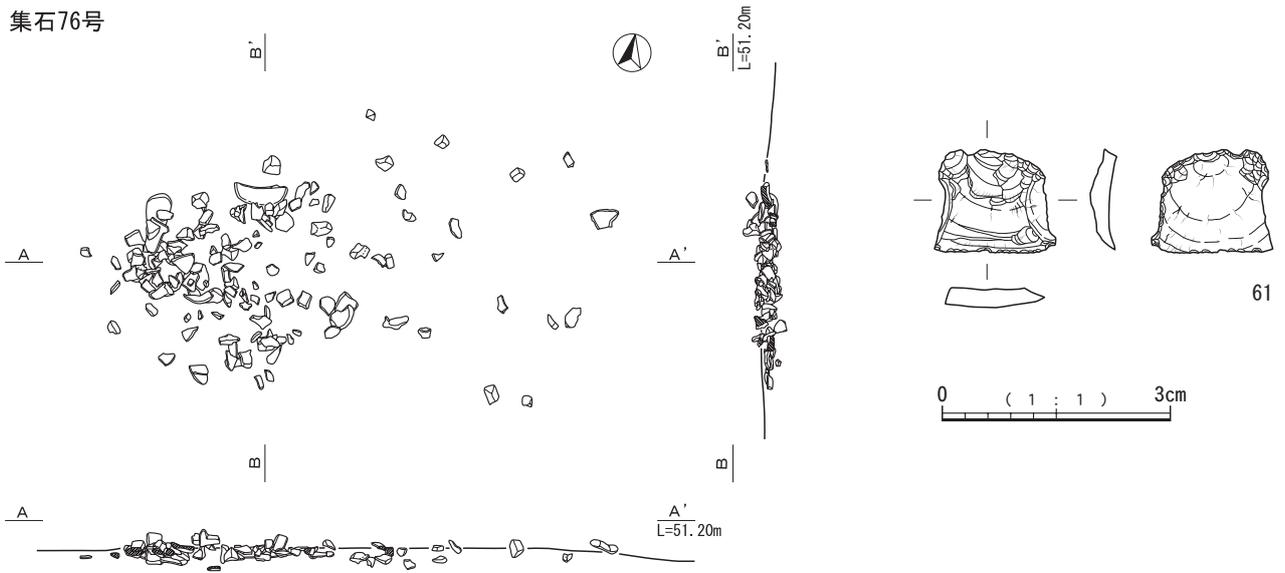


集石75号

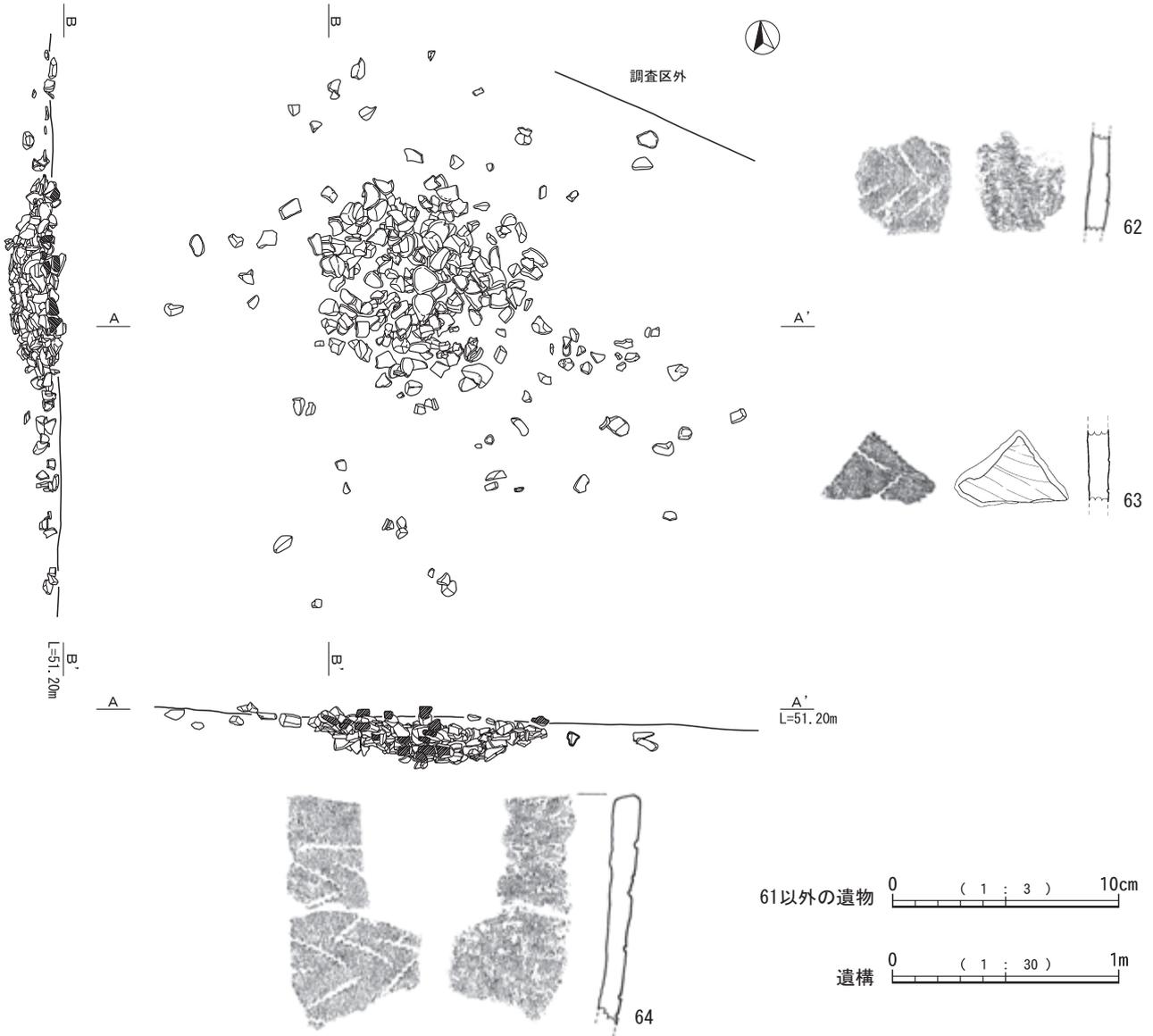


第39图 集石 (Ⅱ類12)

集石76号



集石77号



第40図 集石 (Ⅱ類13)

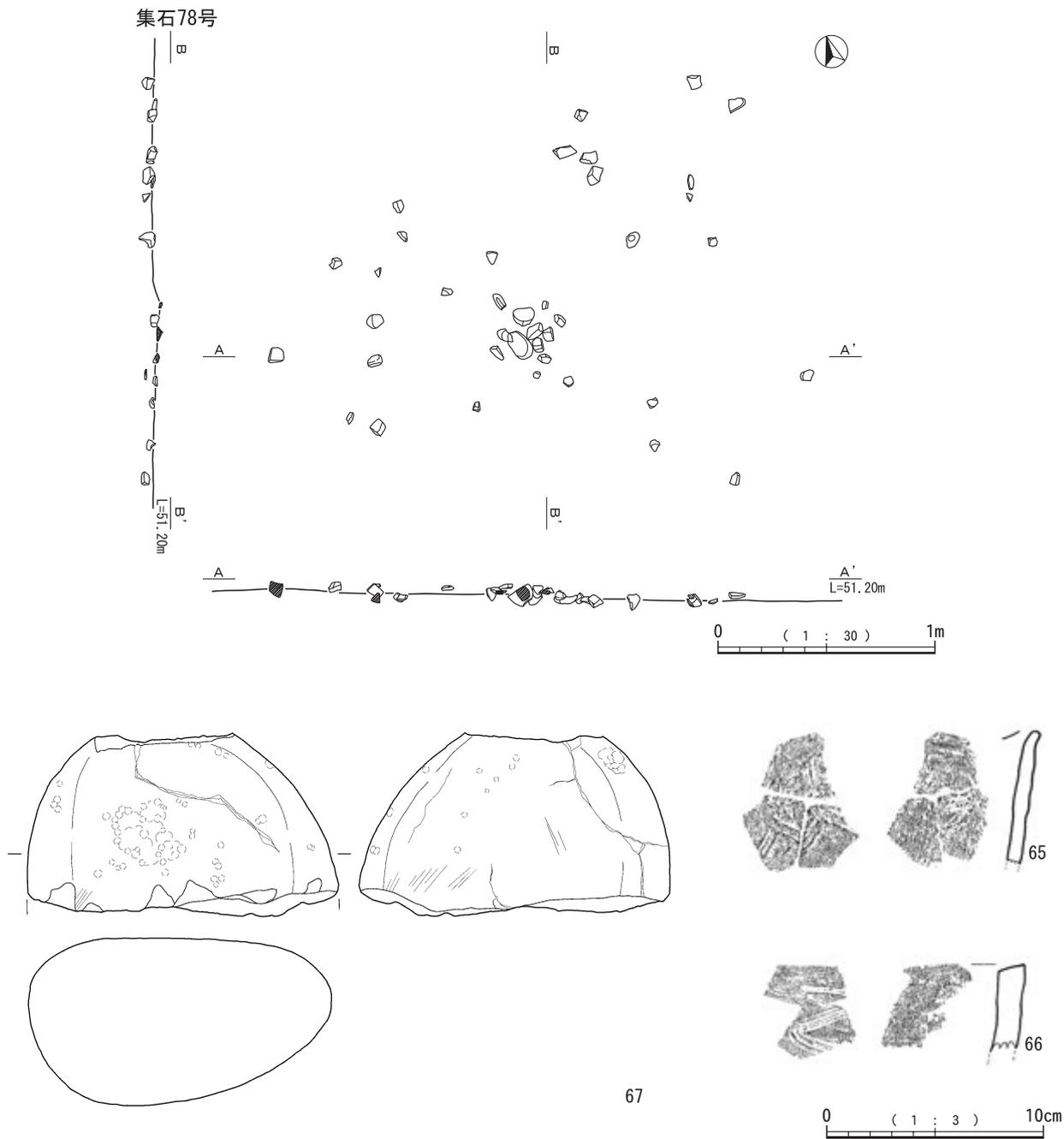
れる。内面はナデにより器面調整される。64は深鉢の胴部で、外面にはナデによる器面調整後に貝殻刺突文が施される。内面はケズリにより器面調整される。

**集石 78号 (第41図)**

C-23区, IX層で検出された。長軸2.52m, 短軸1.91mの範囲に散在しているが, 集石の中心部に礫がややまとまっている。掘り込みは確認できなかった。構成礫は38個で, 砂岩のみである。全て破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が2点, 石皿片が1点, 剥片が11点,

チップが1点出土し, うち土器片2点と石皿片1点を図化した。65は, 深鉢の口縁部から胴部にかけての土器片で, 外面はナデ調整の後, 稜杉文と貝殻刺突文が施される。内面はナデにより器面調整される。66は深鉢の口縁部で, ナデによる器面調整後に流水文が施される。内面はナデによる器面調整がなされる。67は厚みのある円形礫を用いた石皿片で敲打痕と磨りによる光沢面を有する。本来の形状が半分程度欠損していると思われるが, 稜線の摩滅状況から欠損後も使用していた可能性も考えられる。



第41図 集石 (Ⅱ類14)

### 集石 79号 (第42図)

B-23区, IX層で検出された。長軸2.55m, 短軸1.45mの範囲に散在しており, 掘り込みは確認できなかった。構成礫は40個で, ホルンフェルスが1個と残りは砂岩である。全て破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 土器片が1点, 剥片が1点出土し, うち土器片1点を図化した。68は深鉢の胴部で, 外面にはナデによる器面調整後に貝殻刺突文が施される。内面にはミガキにより器面調整される。

### Ⅲ類 (第43図・第44図)

#### 集石 80号 (第43図)

C-17区, IX層で検出された。長軸0.90m, 短軸0.80mの範囲に集中しており, 深さ0.22m程の掘り込みを伴う。構成礫は76個で, 砂岩のみである。破碎礫が多く, ほとんどが被熱している。遺構内から少量の炭化物が出土した。

関連する遺物は確認できなかった。

#### 集石 81号 (第43図)

C-22・23区, IX層下面で検出された。長軸0.90m, 短軸0.87mの範囲に集中しており, 深さ0.13m程の掘り込みを伴う。構成礫は40個で, 砂岩のみである。そのほとんどが破碎礫で, 被熱している。

関連する遺物は確認できなかった。

#### 集石 82号 (第43図)

C・D-23区, IX層で検出された。長軸1.21m, 短軸1.16mの範囲に集中しており, 深さ0.20m程の掘り込みを伴う。構成礫は57個で, 集石の上面には2000gを超える大きめの礫が多い。全て砂岩で破碎礫が多く,

被熱している。

遺物は, 磨石が1点と石皿が1点出土し, うち石皿1点を図化した。69は厚みの一定しない不定形な砂岩礫である。中央部が浅く凹み, 磨りの痕跡が見られたため石皿に分類した。

#### 集石 83号 (第43図)

E-24区, IX層で検出された。北東部分が削平を受けていたため, 残存部の計測で長軸1.65m, 短軸1.23mの範囲に集中しており, 深さ0.22~0.28m程の掘り込みを伴う。集石の上面には礫が散在していたが, 下面に大きめの礫が集中していた。構成礫は79個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。

遺物は, 磨石が1点, 石皿片が1点出土したが, 図化しなかった。

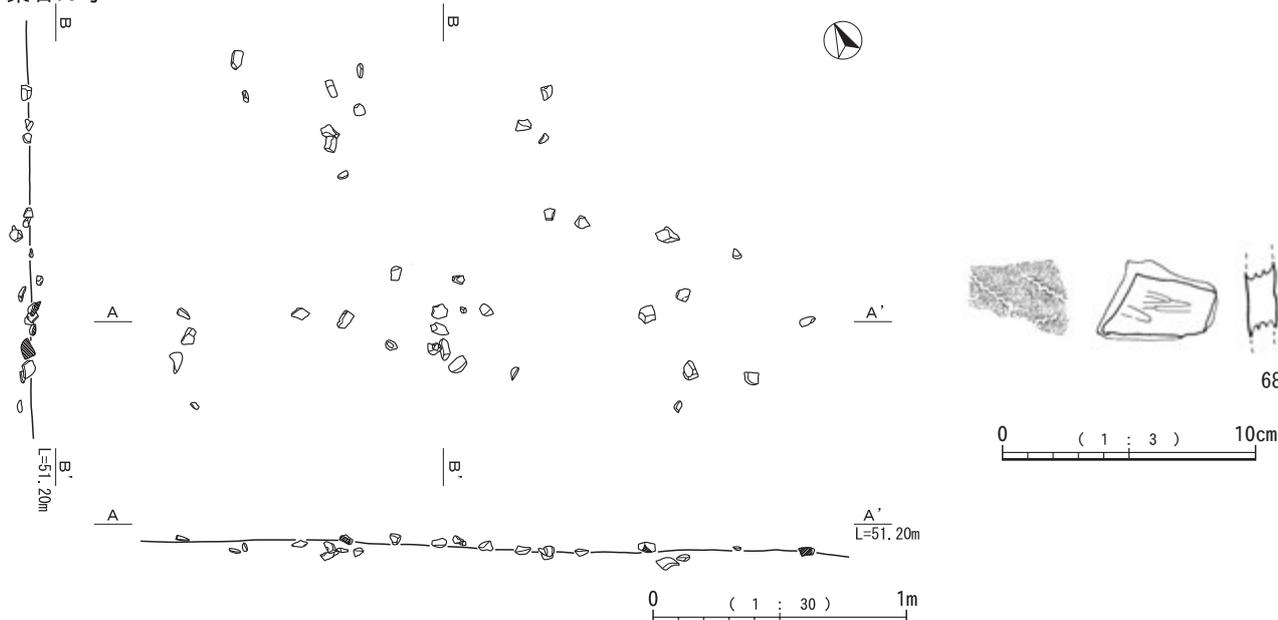
#### 集石 84号 (第44図)

F-19区, IX層で検出された。長軸1.52m, 短軸1.50mの範囲に散在する礫を集石として調査していたが, 掘り進めるうちに北東方向に別の集中部が検出されたため, 新たに軸を設定して同一の遺構として調査を進めた。旧軸と新軸では断面の位置が異なるため, 両方を図として掲載してある。長軸1.33m, 短軸1.21mの範囲に集中しているが, 遺構内に現代の耕作による攪乱があり, その部分は礫が少ない。深さ0.25m程の掘り込みを伴う。構成礫は281個で, 砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で, 被熱している。埋土に少量の炭化物が混じっている。

遺物は, 磨石片が17点, 石皿片が7点出土したが, 図化しなかった。

#### 集石 85号 (第44図)

### 集石79号



第42図 集石 (Ⅱ類15)

C・D-20区, IX層で検出された。南東部分が削平を受けていたため、残存部の計測で長軸2.24m, 短軸2.09mの範囲に集中しており、深さ0.25m程の掘り込みを伴う。構成礫は331個で、安山岩が1個と残りは砂岩である。破碎礫が多く、被熱している。

遺物は、磨・敲石が3点、石皿片が1点出土したが、図化しなかった。

#### IV類 (第45図)

##### 集石86号 (第45図)

C-22・23区, IX層で検出された。長軸1.32m, 短軸1.08mの範囲に集中する礫を集石として調査していたが、掘り進めるうちに当初設定した軸の西側から別の集中部が検出されたため、集石86号-1・2として調査を進めた。

1と2では断面の方向が異なるため、両方を図として掲載してある。86号-2は長軸1.47m, 短軸1.05mの範囲に集中しており、深さ0.30m程の掘り込みを伴う。構成礫は135個で、砂岩のみである。ほとんどが破碎礫で、被熱している。

遺物は、土器片が1点、磨・敲石が4点、打製石鏃が1点、石皿が1点、剥片が4点、チップが1点で、うち土器片1点と打製石鏃1点を図化した。70は深鉢の胴部で、集石53号出土の土器片と接合した。外面には斜位の貝殻条痕と貝殻刺突文が施される。内面はナデによる器面調整がなされる。71はチャート製の打製石鏃である。基部に抉りをもつが、先端部と脚部を大きく欠いており、本来の形状は判別が難しい。

#### ② 土坑

土坑は2基検出されたが、どちらも削平を受けていたため、本来の立ち上がりはより上位で、掘り込みも深かったと考えられる。

##### 土坑1号 (第46図)

D-21区, X層で検出された。D-21区は、平坦地と前川に向かって下る傾斜地の境目にあたる部分で、表土を除去したところ、VII層のアカホヤ火山灰は残存せず、X層も一部に削平を受けていた。平面形は楕円形、断面形は播鉢状を呈し、南側は緩やかで、北側がやや急な傾斜の掘り込みになっている。長軸1.00m, 短軸0.82m, 検出面からの深さは0.38mである。埋土は5層に分けられる。

関連する遺物は確認できなかった。

##### 土坑2号 (第46図)

E-16区, IX層下面で検出された。E-16区は、調査区中央部の南端にあたる部分だが、周辺の他の遺構は確認できなかった。上面は削平を受けており、平面形は楕円形、断面形は皿状を呈する。長軸1.80m, 短軸

1.05m, 検出面からの深さは0.12mである。埋土は単層で、VIII層と考えられる茶褐色土が観察できた。

関連する遺物は確認できなかった。

#### (3) 遺物

##### ① 土器

縄文時代早期該当の土器は器形・文様・調整などから1類～5類に分類した。

##### ア 1類土器 (第48図72～74)

胴部に斜位または横位の貝殻腹縁の条痕を施し、内面を主にケズリ調整するもの。4点出土し、3点図化した。

72は外面に斜位の貝殻条痕文が施され、内面は縦位に近い貝殻条痕文が見られる。73は外面に斜位の貝殻条痕文が施され、内面はケズリ後ナデにより器面調整される。74は底部片で、粘土接合面で剥離している。胴部から底部にかけて斜位の貝殻条痕文が施され、底部外面では、その上から横位の貝殻条痕文が施される。底部の接地面にも貝殻条痕文が見られる。

##### イ 2類土器 (第48図75～82)

胴部は綾杉状または横方向の貝殻条痕を施すもの。口唇部に刻目、口縁部に貝殻刺突文が施されるものも同類と判断した。17点出土し、8点図化した。

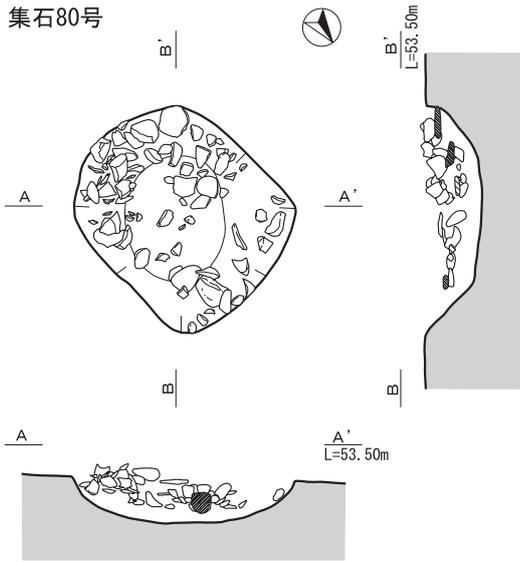
75は口縁部が外反し口唇部には浅い米粒状の刻目が施される。口縁部には貝殻刺突文が羽状に施される。内面は丁寧なナデにより器面調整される。76は口縁部が外反し口唇部には浅い米粒状の刻目が施される。77は貝殻条痕が綾杉状に施される。横方向の貝殻条痕文がわずかに確認できることから、胴部下半に至ると思われる。78は全体的に風化している。太めの貝殻条痕文が綾杉状に施される。79はやや太めの貝殻条痕文が綾杉状に施文される。内面は器面調整の際に器壁を部分的に抉っているため、厚みに均一性がない。80はやや長めの貝殻条痕文を綾杉状に施文する。内面は丁寧なナデにより器面調整される。81はやや太めの貝殻条痕文を綾杉状に施文する。82は81と同一個体の可能性がある。外面は無文部の観察から、施文前に丁寧なナデにより器面調整される。

##### ウ 3類土器 (第48図83～93)

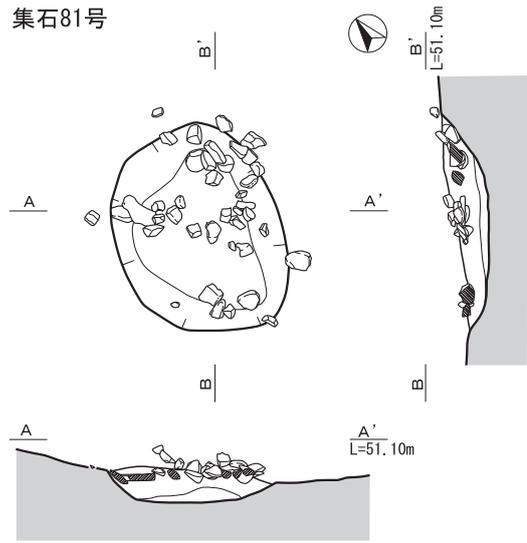
胴部に縦位または斜位の条痕文を施すもの。底部外端は横位にナデもしくは条痕を施す。20点出土し、11点図化した。

83は胎土に5mm程度の小礫を含む。斜位の貝殻条痕文が胴部に施文されているが、部分的に無文部を有する。84はシャープな貝殻条痕文を斜位に施すが、条痕文の方向が一定しない。器壁にやや厚みがある。内面には幅1～1.5cm程度のケズリ痕が見られる。85は貝殻条痕

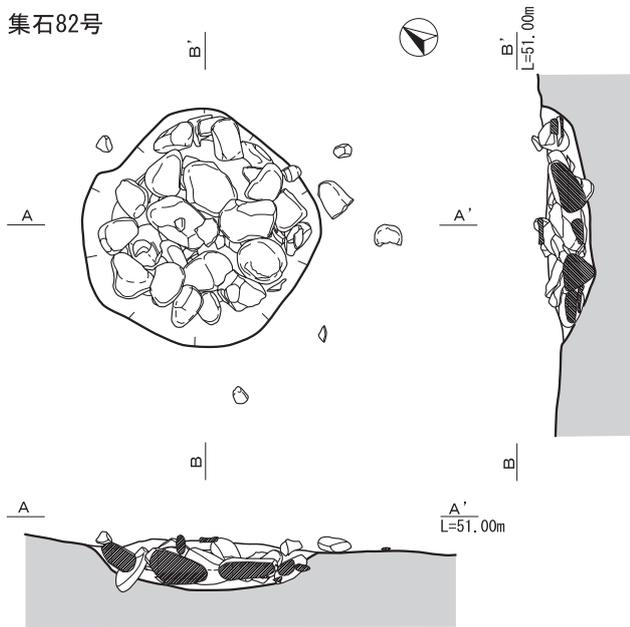
集石80号



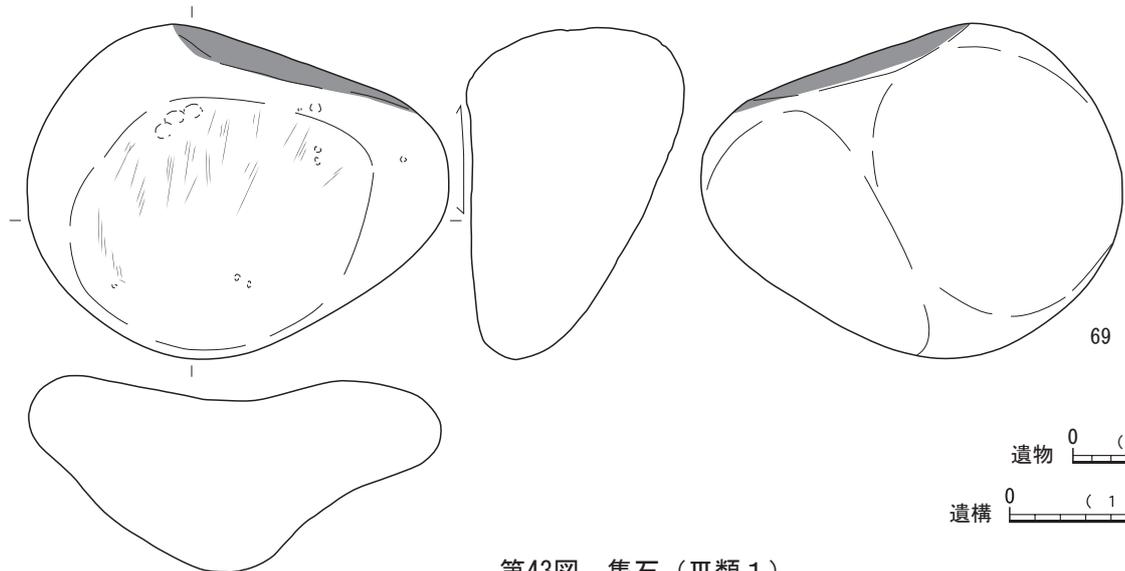
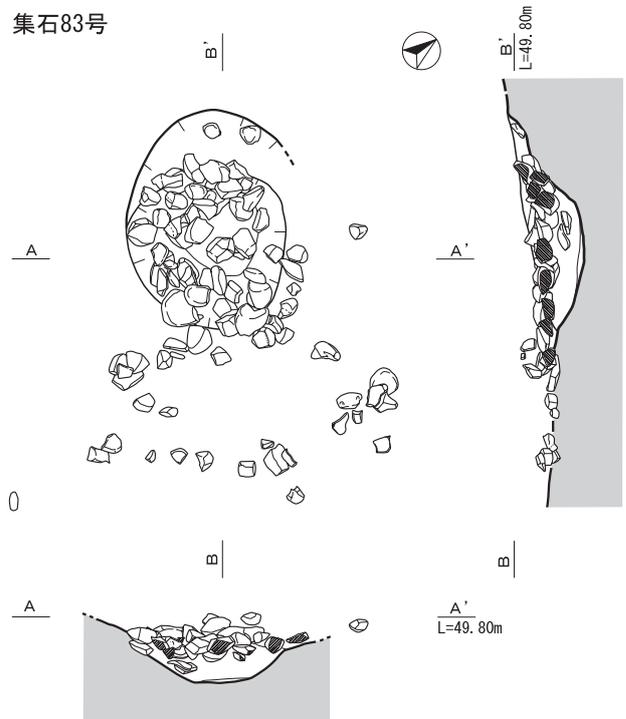
集石81号



集石82号



集石83号

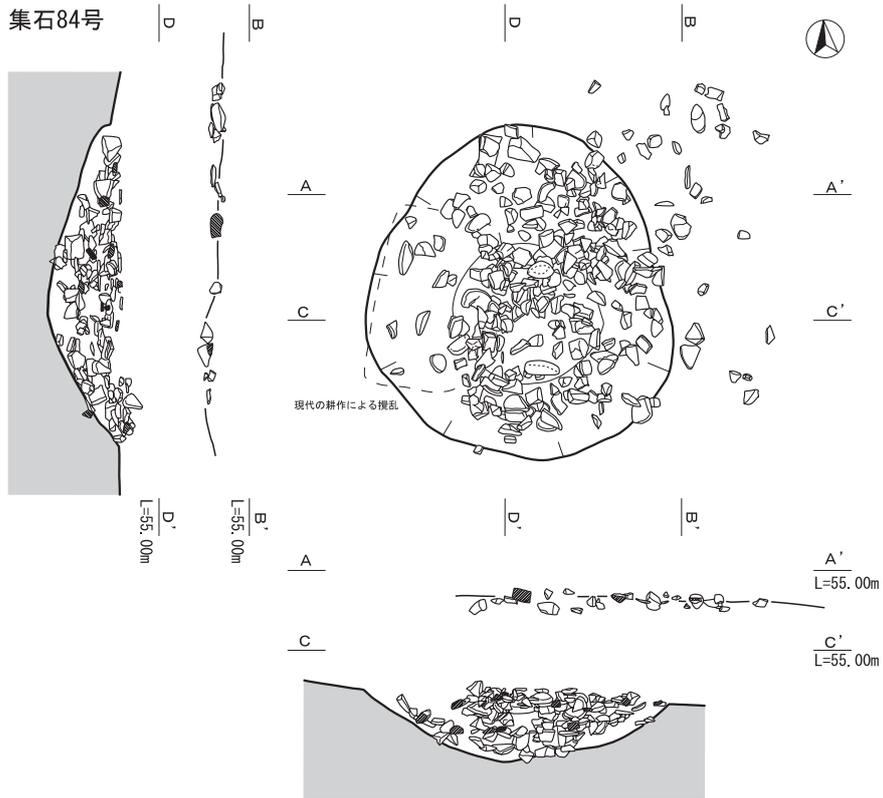


遺物 0 ( 1 : 4 ) 10cm

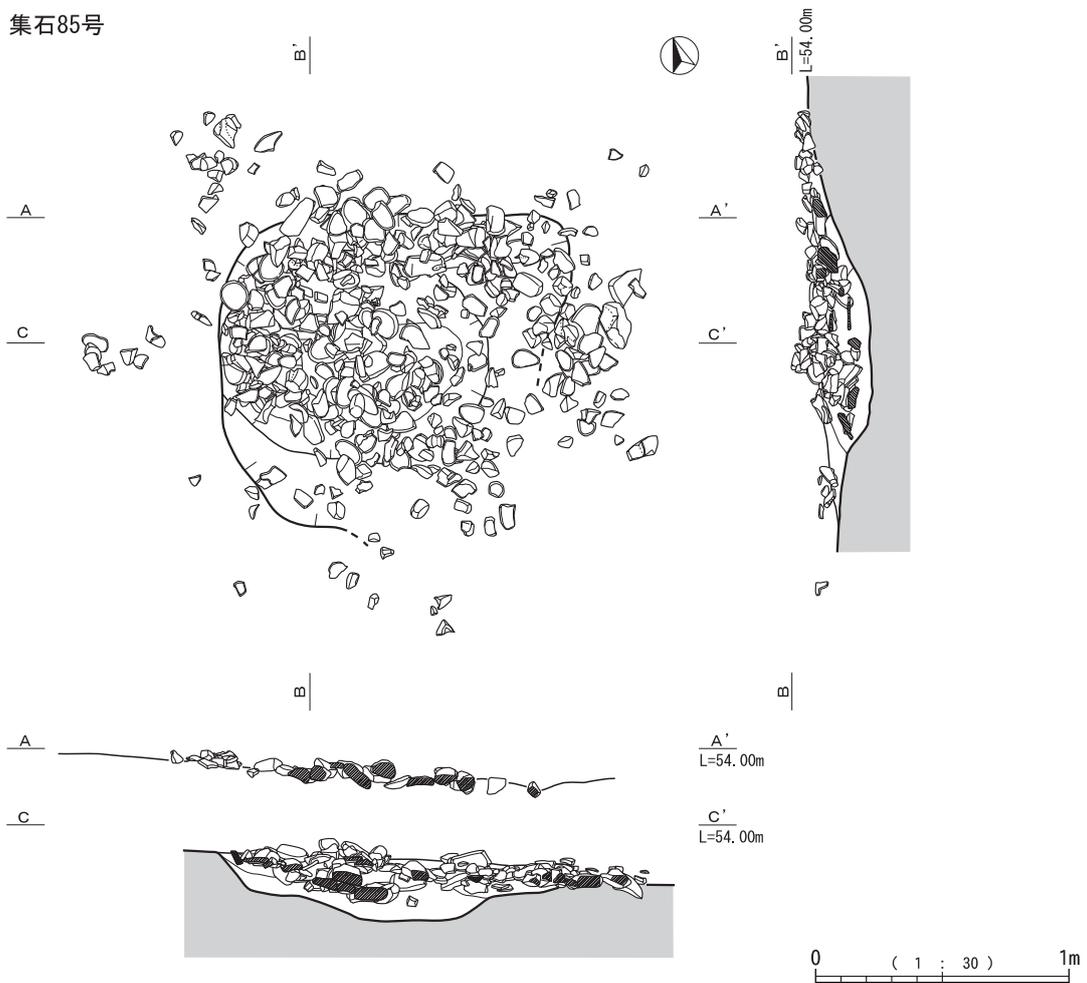
遺構 0 ( 1 : 30 ) 1m

第43図 集石 (Ⅲ類1)

集石84号

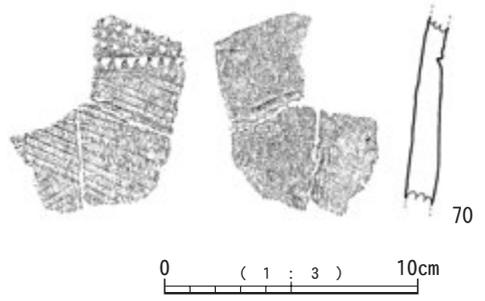
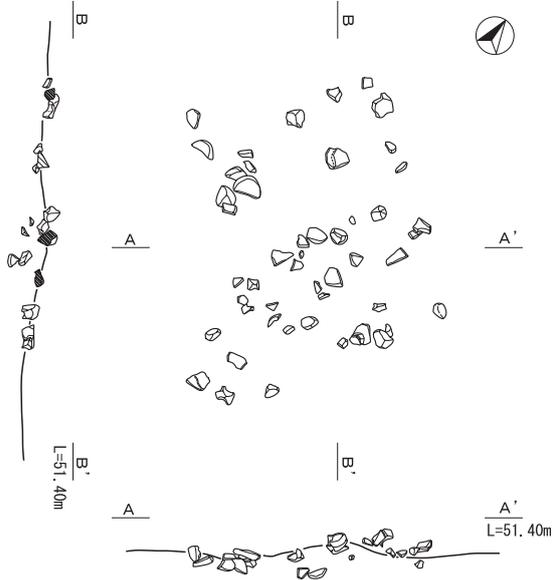


集石85号

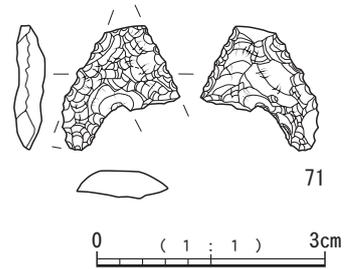
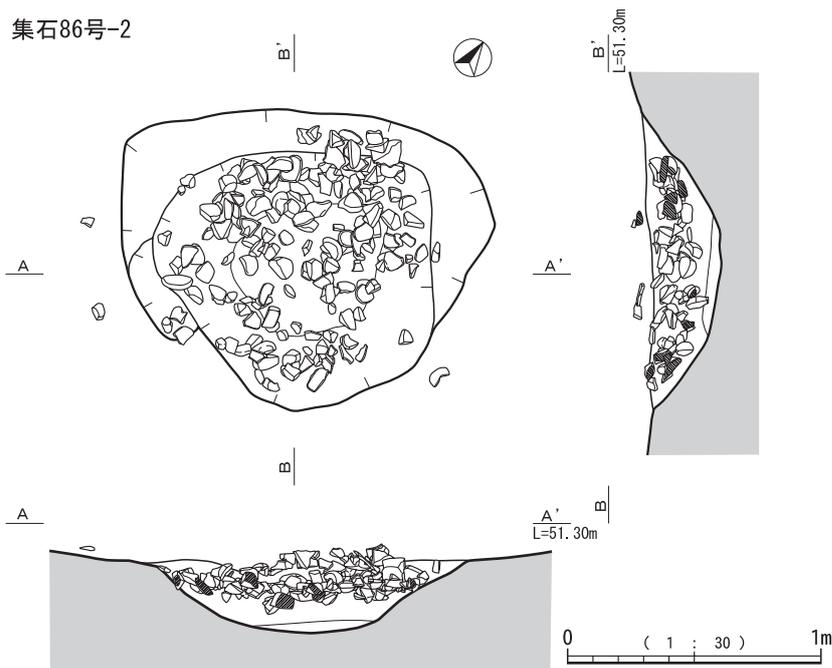


第44図 集石（Ⅲ類2）

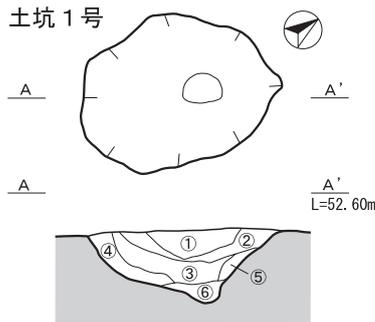
集石86号-1



集石86号-2

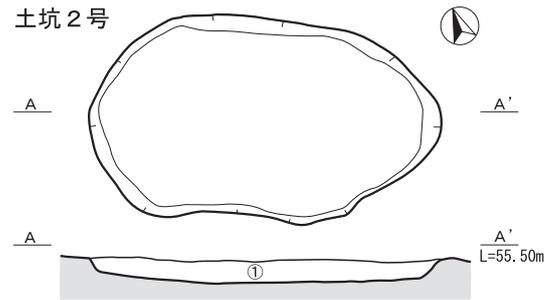


第45図 集石 (IV類)



埋土

- ①黒褐色土 (10YR2/3) 粘性弱い、しまりやや強い。
- ②黒褐色土 (10YR2/3) 粘性弱い、しまりやや強い。
- ③暗褐色土 (10YR3/3) 粘性弱い、しまりやや強い。
- ④暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり、しまりなし。
- ⑤茶褐色土 (10YR4/4) 粘性ややあり。
- ⑥褐色土 (10YR3/3) ややしまりあり。



埋土

- ①茶褐色土。Ⅷ層由来と思われる。



第46図 土坑1号・土坑2号

文が斜位に施される。内面はケズリにより器面調整される。86は貝殻条痕文が斜位に施文される。内面はやや風化しておりはっきりしない。87はやや太めの貝殻条痕文が縦位に近く施される。内面は剥落が激しい。88は縦位に近い貝殻条痕文が施される。内面は剥落しておりはっきりしない。89は縦位に近い貝殻条痕文が施される。内面は横位ないし斜位の丁寧なナデにより器面調整される。90は縦位に近い貝殻条痕文が施される。内面はナデにより器面調整される。91は底部に近い。外面は丁寧にナデが施された後に縦位の貝殻条痕文が施される。内面はケズリ後ナデにより器面調整される。92は底部片で、外端は丁寧にナデによって調整されている。93は底部片で、外端面には横方向の条痕が観察できる。

#### エ 4類土器 (第48図94～100・第49図101～110)

胴部に羽状の貝殻刺突文を施すもの。口縁部形態や施文形態などで3つに細分した。

##### 4a類土器 (第48図94～100)

口縁部が平坦で肥厚するもの。8点出土し、7点図化した。

胴部の刺突文は不規則な羽状を呈する。94は口縁部が平坦で肥厚する。外面には貝殻刺突文を不規則ながらも羽状に施文する。内面はケズリ後ナデによって器面調整される。95は貝殻刺突文が不規則に施文される。96は貝殻刺突文が羽状を意識して施文されているが不規則である。内面にはケズリ痕があり、幅1.3cmを測る。97は貝殻刺突文を羽状に施文するが不規則で無文部が広い。内面にはケズリにより器面調整される。98は貝殻刺突文を「V」字状に施文するが無文部が広く残る。内面は丁寧にナデにより器面調整される。99は細く鋭利な羽

状刺突文が施される。内面はナデにより器面調整される。100は貝殻刺突文が羽状に施文される。

##### 4b類土器 (第49図101～106)

口縁部がわずかに内湾し、口唇部が丸みを帯びるもの。胴部の刺突文は「V」字状を呈し、ロッキングされる。9点出土し、6点図化した。

101は口縁部がやや内湾し口唇部は丸みを帯びる。外器面にナデを施した後に貝殻刺突文をロッキングして横位に2段廻らすが、やや不規則になっている。内面は丁寧にナデにより器面調整され、光沢を有する。102は口縁部がやや内湾し口唇部は丸みを帯びる。外面にナデを施した後に貝殻刺突文をロッキングする。103は貝殻刺突文が「V」字状を呈するが、ロッキングの可能性もある。内面には丁寧にナデにより器面調整される。104・105は貝殻刺突文が「V」字状を呈するが、ロッキングの可能性もある。106は器面に縦位のナデが施され、その後に貝殻刺突文が「V」字状に施文される。

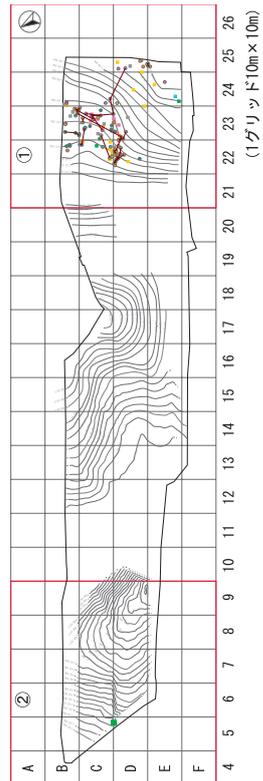
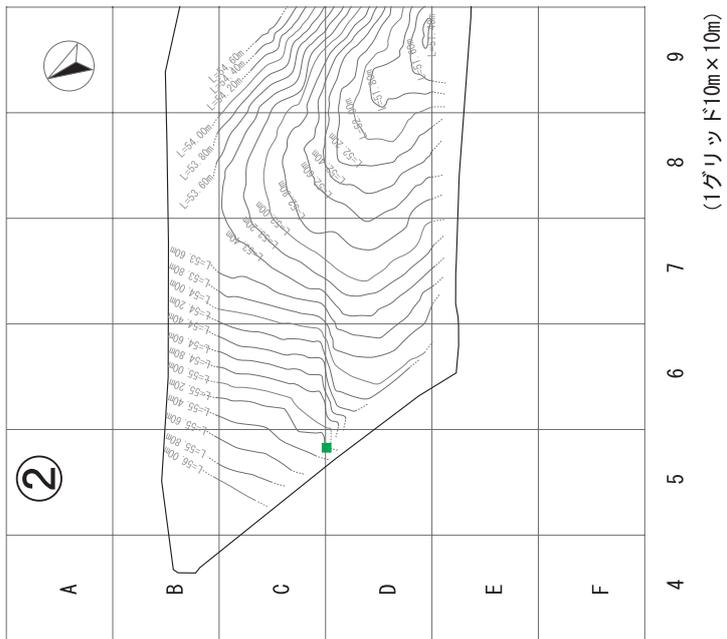
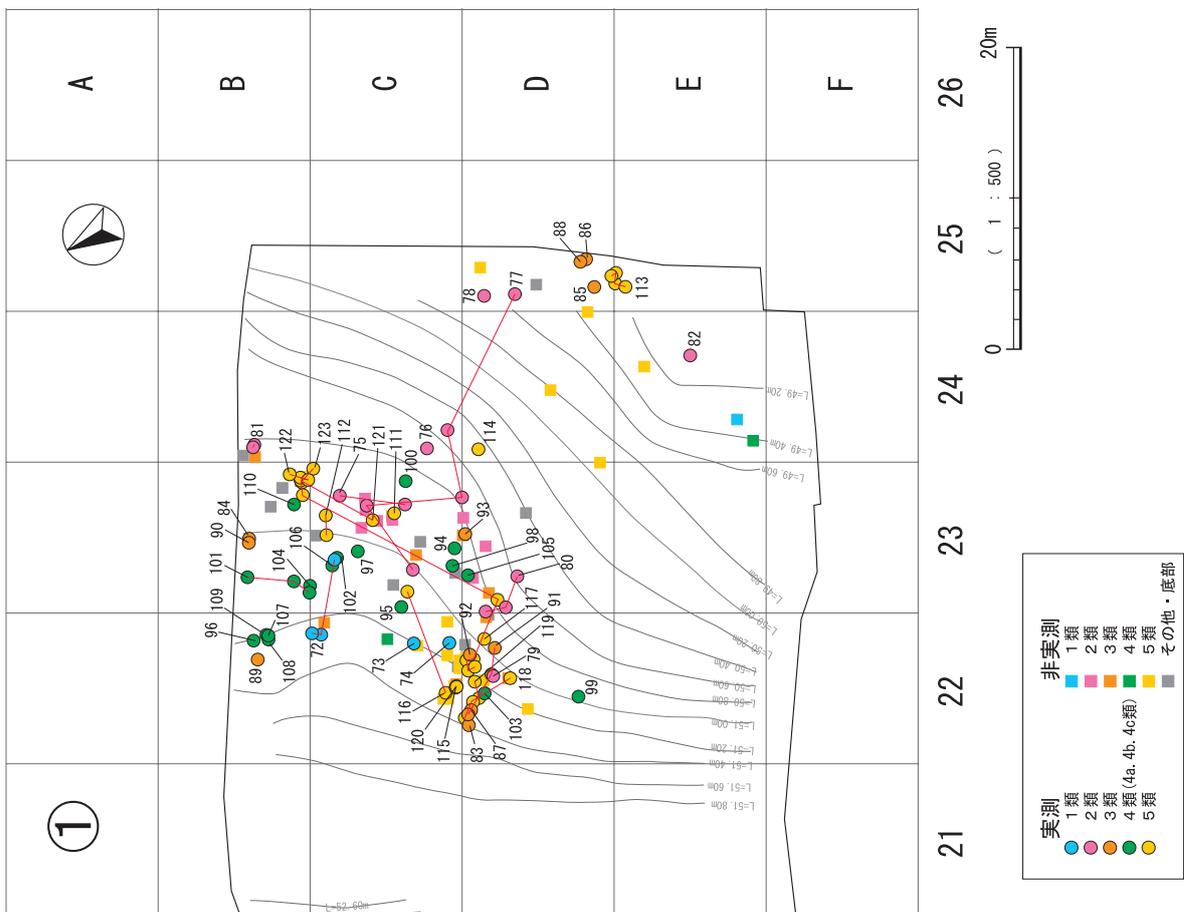
##### 4c類土器 (第49図107～110)

口縁部が平坦面をもつもの。胴部の刺突文は粒状で羽状もしくは不規則である。4点出土し、すべて図化した。

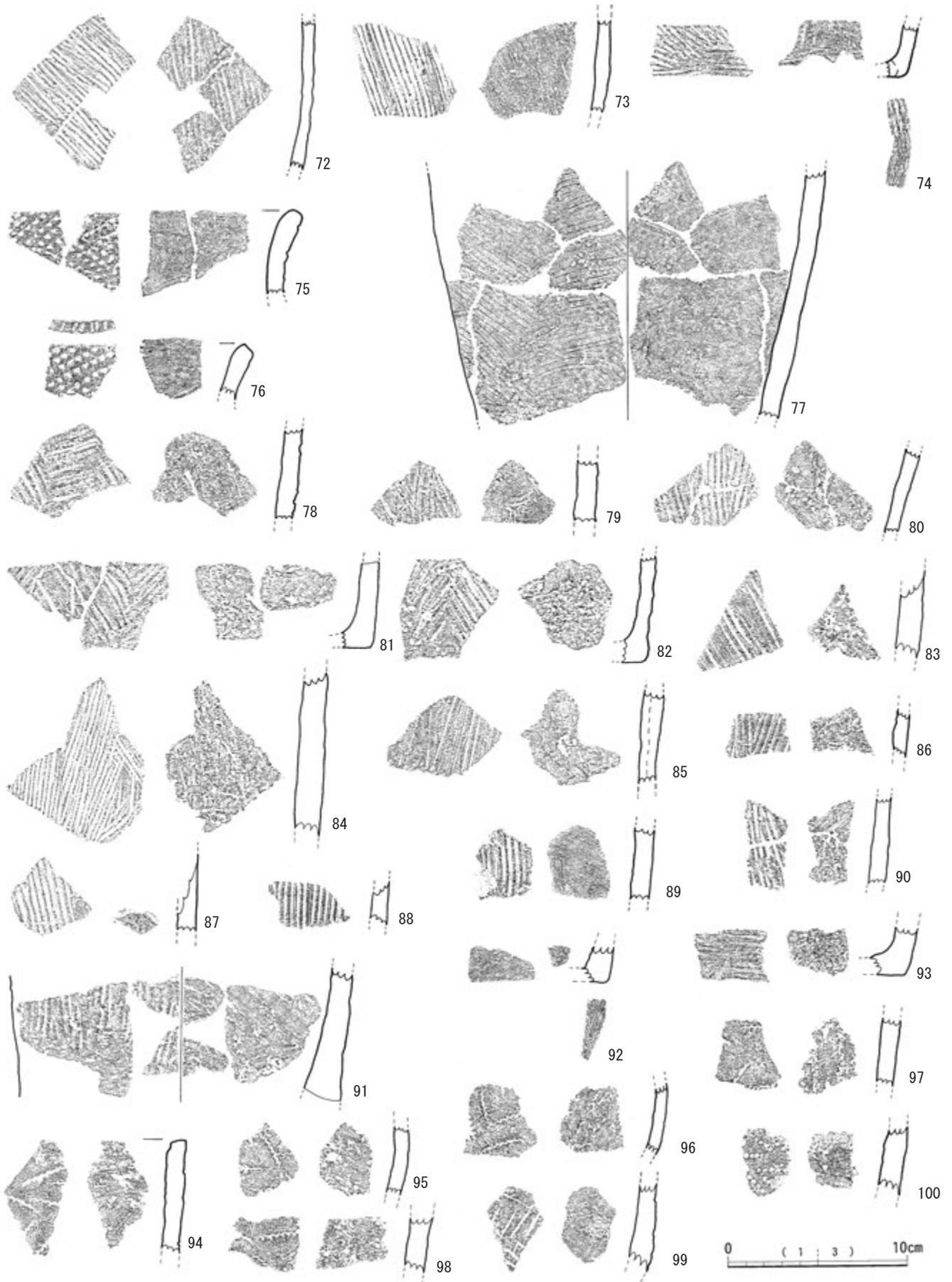
107は口縁部が肥厚し口唇部は平坦面を有する。粒状に近い刺突文を羽状に施文する。108は粒状に近い刺突文が施される。109は貝殻刺突文を羽状に施文する。内面は丁寧にナデにより器面調整される。110は口縁部がやや外傾する。口唇部は平坦を意識して調整され、外面には不規則な粒状の刺突文が施文される。内面はケズリにより器面調整される。

#### オ 5類土器 (第49図111～123)

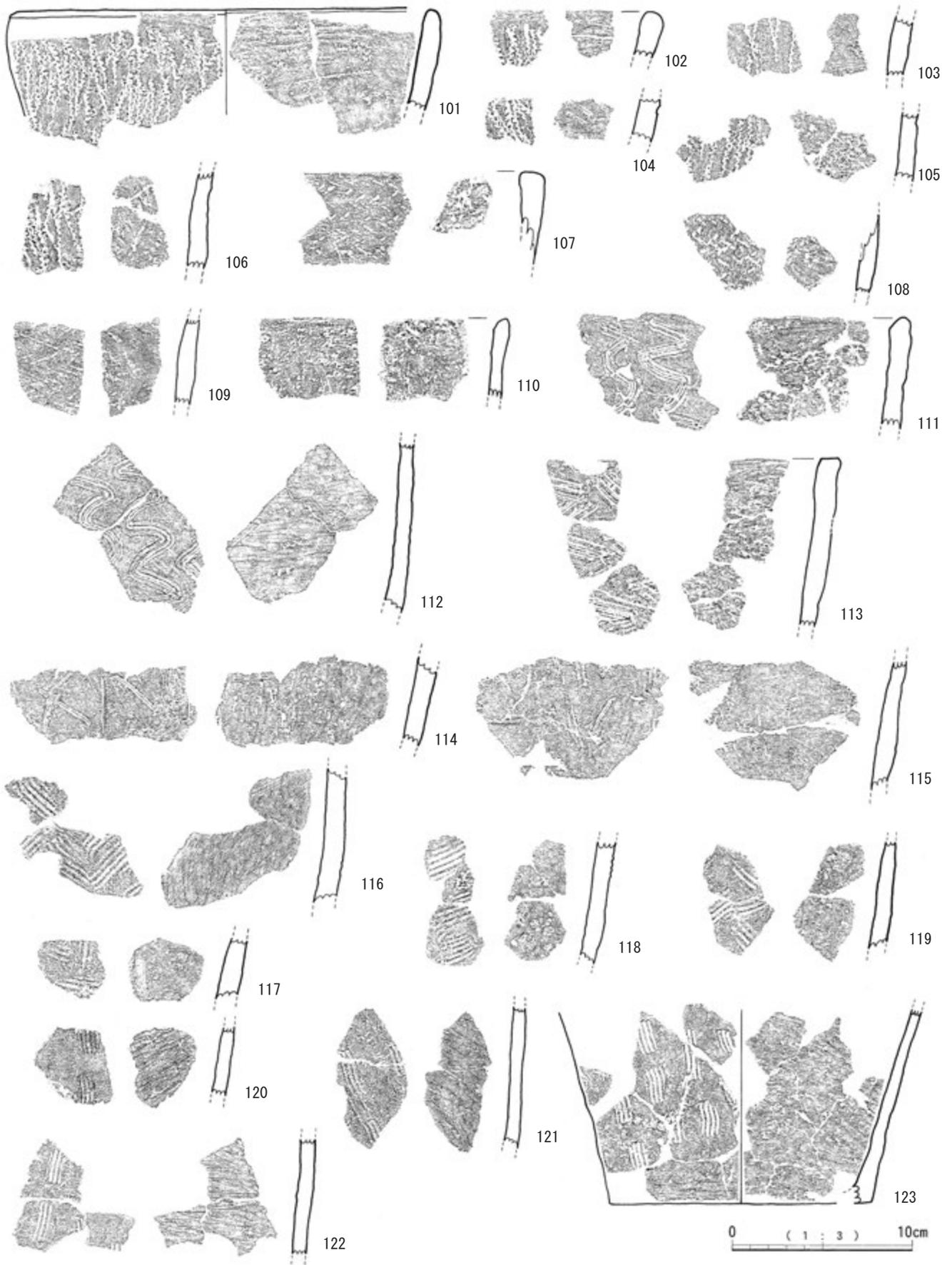
胴部に貝殻腹縁で流水文もしくは短い沈線を施すもの



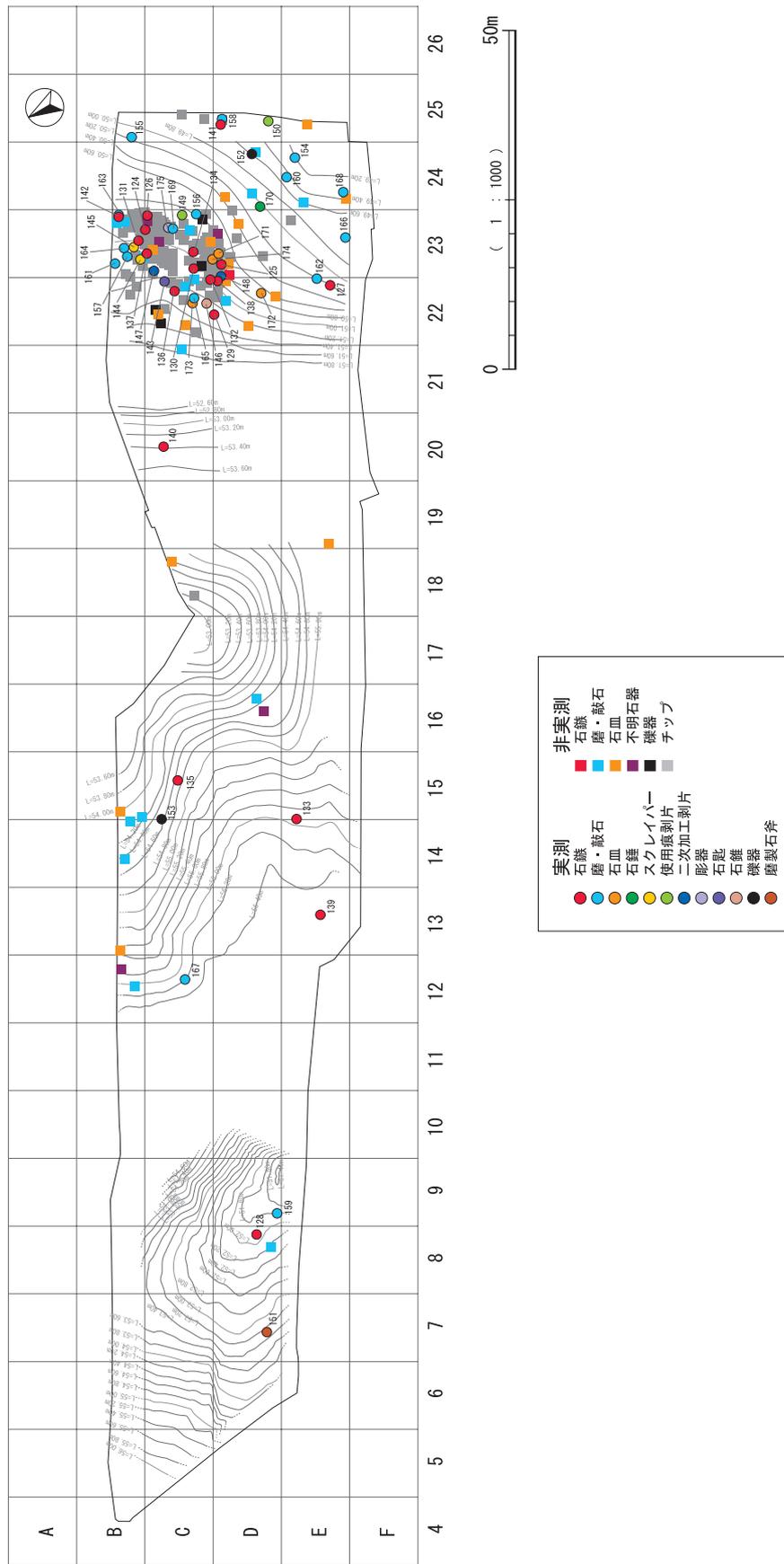
第47図 縄文時代早期土器出土状況図



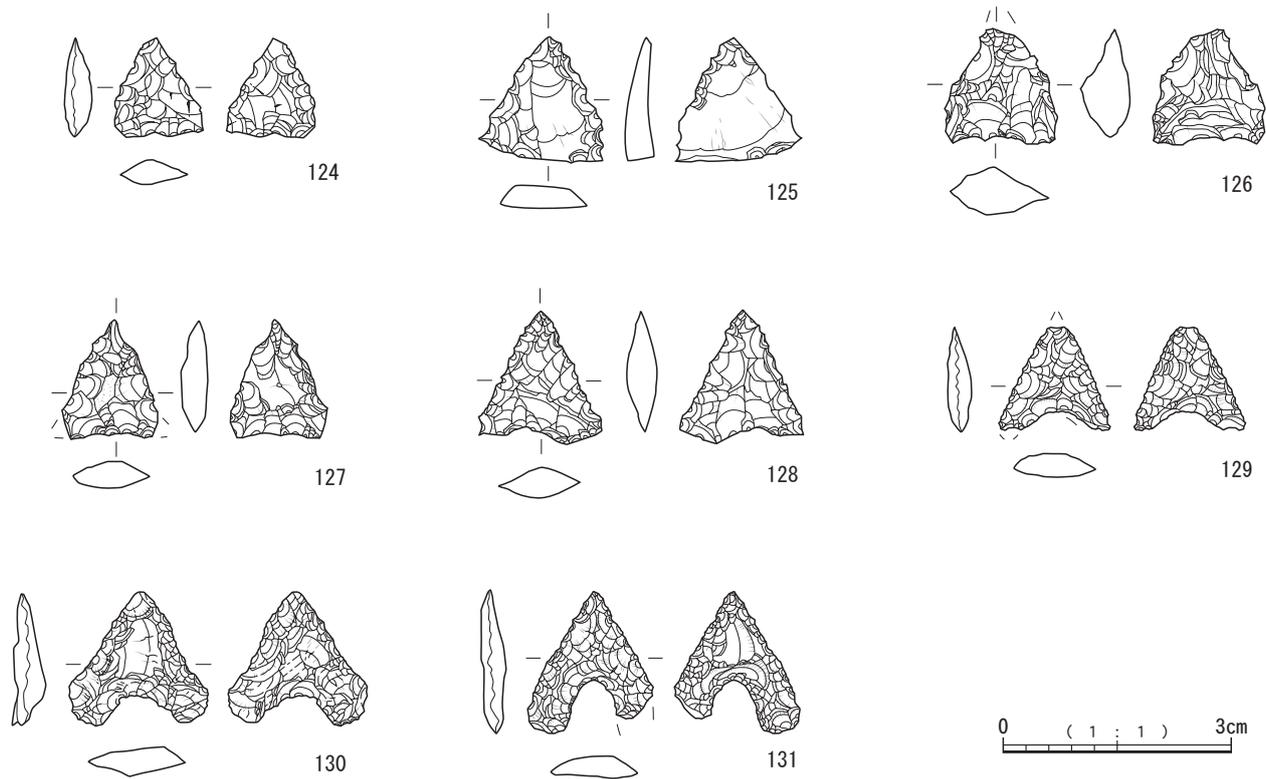
第48図 包含層出土土器（縄文1類～縄文4a類土器）



第49図 包含層出土土器（繩文4b類～5類土器）



第50図 縄文時代早期石器（Ⅶ～Ⅹ層）出土状況図



第51図 VIII～X層石器1（石鏃1）

である。31点出土し、13点図化した。

111は口唇部が内側に肥厚して平坦面を有する。外面には丁寧なナデが施された後に流水に近い施文が縦位に施されている。内面は丁寧なナデにより器面調整されるが、剥落が多い。112は外面に丁寧なナデが施された後、流水文が施文される。内面はミガキに近い丁寧なナデにより器面調整される。113は口唇部がやや肥厚する。短い貝殻条痕文を交互に縦位に施文している。内面は丁寧なナデにより器面調整される。114は沈線文を「X」字状に施文するが、施文具は同一器面上で棒状工具と貝殻の2種類が見られる。内面はミガキに近い丁寧なナデにより器面調整される。115は棒状工具による短い沈線を縦位ないし斜位に施文する。内面はミガキに近いナデにより器面調整される。116は短い貝殻条痕文が連続する。内面は丁寧なナデにより器面調整される。117・118・119は短い貝殻条痕文がやや不規則に施文され、117の内面は丁寧なナデにより器面調整される。120は短い貝殻条痕文がやや不規則に施文され、無文部が広い。内面には3～5mmのミガキに近いナデの単位が観察できる。121は短い貝殻条痕文がやや不規則に施文される。部分的に109に類似する施文が見られるが、はっきりしない。122は短い貝殻条痕文がやや不規則に施文され、無文部が広い。内面にはミガキに近い3～5mmのナデの単位が観察できる。123は器面を丁寧にナデた後、短い貝殻条

痕文を縦位に間隔を空けて施文する。この貝殻条痕文は底部を下とした場合に下から上へと施文されている。内面はミガキに近いナデにより器面調整される。

## ② 石器

器種ごとの分類は、全時代で以下のとおりとした。

### (ア) 打製石鏃

- I類：正三角形状で抉りがないもの
- II類：正三角形状で抉りのあるもの
- III類：二等辺三角形状で抉りがないもの
- IV類：二等辺三角形状で抉りのあるもの
- V類：五角形状のもの

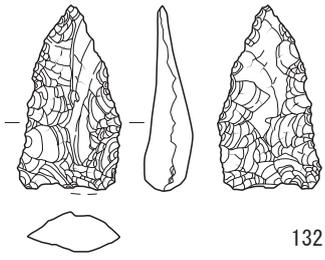
### VI類：欠損により判別できないもの

- (イ) 石匙・スクレイパー
- (ウ) 石錐
- (エ) 二次加工剥片・使用痕剥片
- (オ) 磨製石斧
- (カ) 打製石斧
- (キ) 礫器
- (ク) 砥石
- (ケ) 磨・敲石

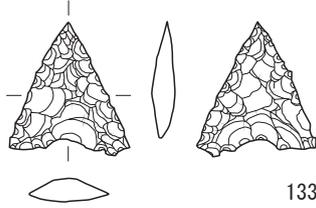
### I類：手で握り込める小さいもの

### II類：拳大程度のもの

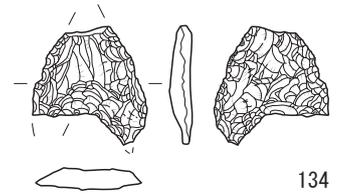
### III類：扁平なもの



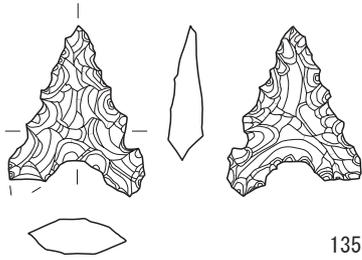
132



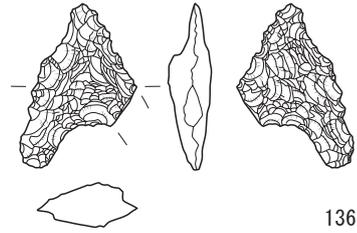
133



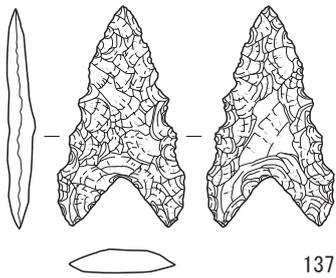
134



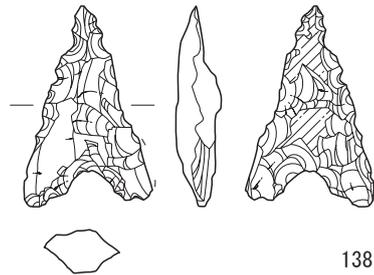
135



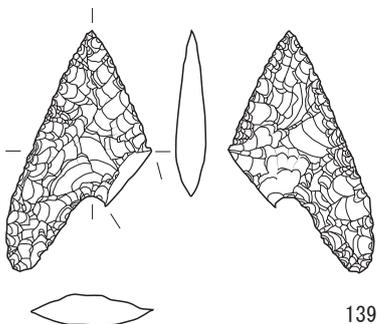
136



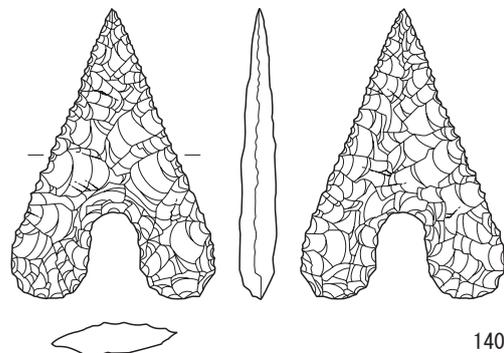
137



138



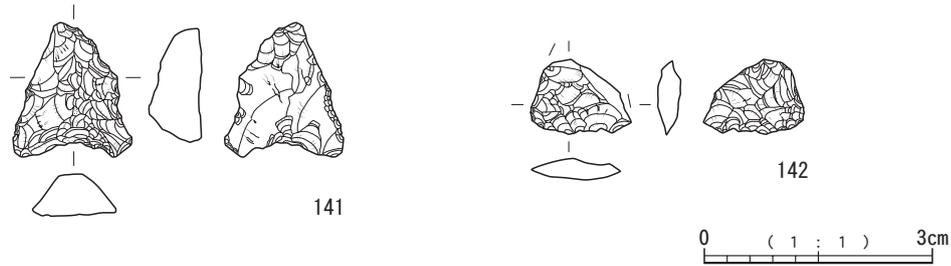
139



140

0 ( 1 : 1 ) 3cm

第52図 VIII~X層石器2 (石鏃2)



第53図 VIII～X層石器3（石鋸3）

IV類：不定形な円礫

V類：棒状で端部に敲打痕のあるもの

VI類：全体の形状が不明なもの

（コ） 凹石

（サ） 石錘

I類：扁平なもの

II類：丸みのあるもの

（シ） 石皿

（ス） 擦切石器

（セ） 軽石製品

（ソ） その他

早期石器の包含層出土状況は、調査区全域に確認できるものの特にB～D-22・23区に集中した（第50図）。

以下、器種ごとに詳述する。

#### ア 打製石鋸（第51図～第53図）

20点出土し、19点図化した。

124・125はI類に分類される。124は小型の正三角形鋸で、左側辺をわずかに欠いている。大分県姫島産の黒曜石と思われる。125は薄く平らなチャート製の剥片を素材とし、縁辺に小さめの剥離を施すことで形状を仕上げている。

126～131はII類に分類される。126はチャート製で、先端部を欠いている。基部には大ぶりの剥離によってわずかに抉りが作出されている。127は表面に自然面を、裏面に剥片素材面を残す。先端部に微細な剥離を施しているため、石錐状の加工とも考えられる。128は姫島産の黒曜石製で、脚部をわずかに欠いている。基部は浅い「U」字状を呈する。129は姫島産の黒曜石製で、先端部と両脚部にわずかな欠損が見られる。130は瑪瑙玉髓系だが節理が多く、素材剥片自体が不均一だったためか、やや不均一な形状を呈する。131は黒曜石製で脚の一部を欠損する。脚部の作出は深く、長軸の中心付近まで入り込む。

132はIII類に分類される。チャート製で、脚部作出のための剥離がわずかに認められるが、素材剥片の厚みが

基部周辺に残っている。

133～141はIV類に分類される。133は薄手で均一な剥離が施されている安山岩製の打製石鋸である。134はチャート製で先端部と左脚部を欠損するが、残存部から推定してIV類に分類する。135は良質な黒曜石製である。両側縁部に大ぶりの剥離によって抉りを連続して作出しており、鋸歯状を呈する。136はチャート製で右脚部を欠損する。側縁の調整は粗く、中央部は素材の厚みが残されたままとなっている。137は安山岩製で、両側縁が鋸歯状を呈する。先端部・脚部が尖り気味である。138はチャート製で、粗い剥離で側縁を加工しており、厚みも不均一である。139はX層上面から出土したが、IX層が喪失している地点だったため、ここに掲載する。チャート製で抉りが深く、均一な押圧剥離が施される。140はチャート製で大型だが、薄手で均一な作りである。縁辺は微細な剥離により、わずかに鋸歯状を呈する。141は厚みのある頁岩の剥片を素材とし、基部と先端部以外は主要剥離面からの剥離で形状を作り出している。先端部にある細かな剥離から石錐の可能性も考えたが、風化の度合いが異なっていることから打製石鋸またはその未製品と判断した。

142はVI類に分類される。142はチャート製の石鋸片である。残存する一边を基部として図化した。全体の形状ははっきりしない。

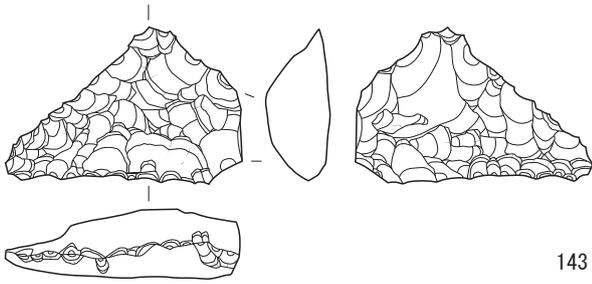
#### イ 石匙・スクレイパー類（第54図143～145）

石匙は1点出土し、図化した。143はチャート製の石匙と判断したが、つまみ部の作出がはっきりしない。

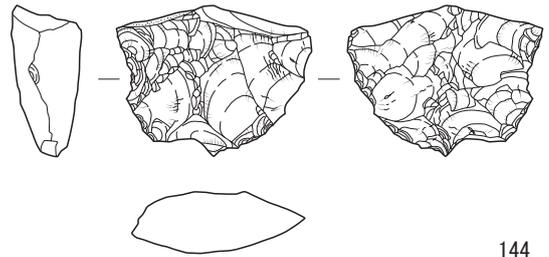
スクレイパーは2点出土し、図化した。144は瑪瑙玉髓系のエンド・スクレイパーで、上端部に自然面ないし節理面が残る。表裏面ともに丁寧な剥離が施されている。145は珪質頁岩製で、下部に使用痕の残る抉りをもつノッチド・スクレイパーである。裏目から細かな剥離により抉りを作り出している。全体的に不規則な剥離が多いため、廃棄された石材を利用している可能性もある。

#### ウ 石錐（第54図146）

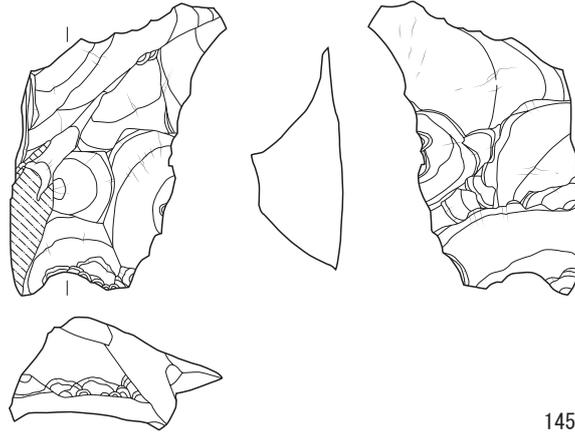
1点出土し、図化した。146は頁岩製で、一部に礫皮面を残す。不定形な横長剥片の縁辺に剥離を廻らせ、先



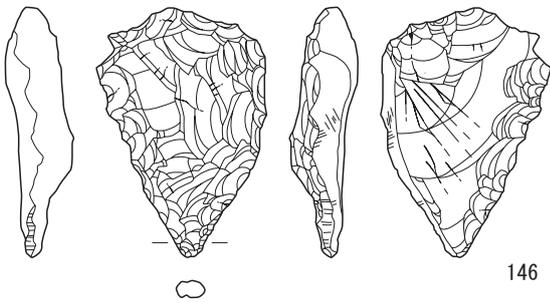
143



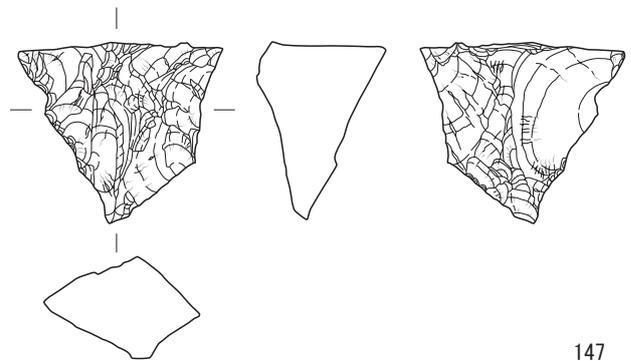
144



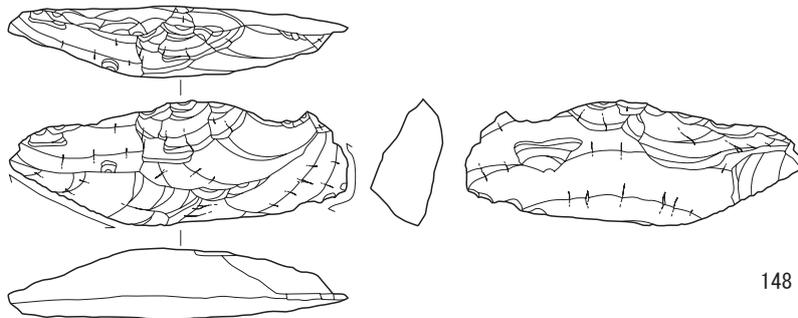
145



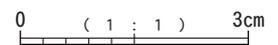
146



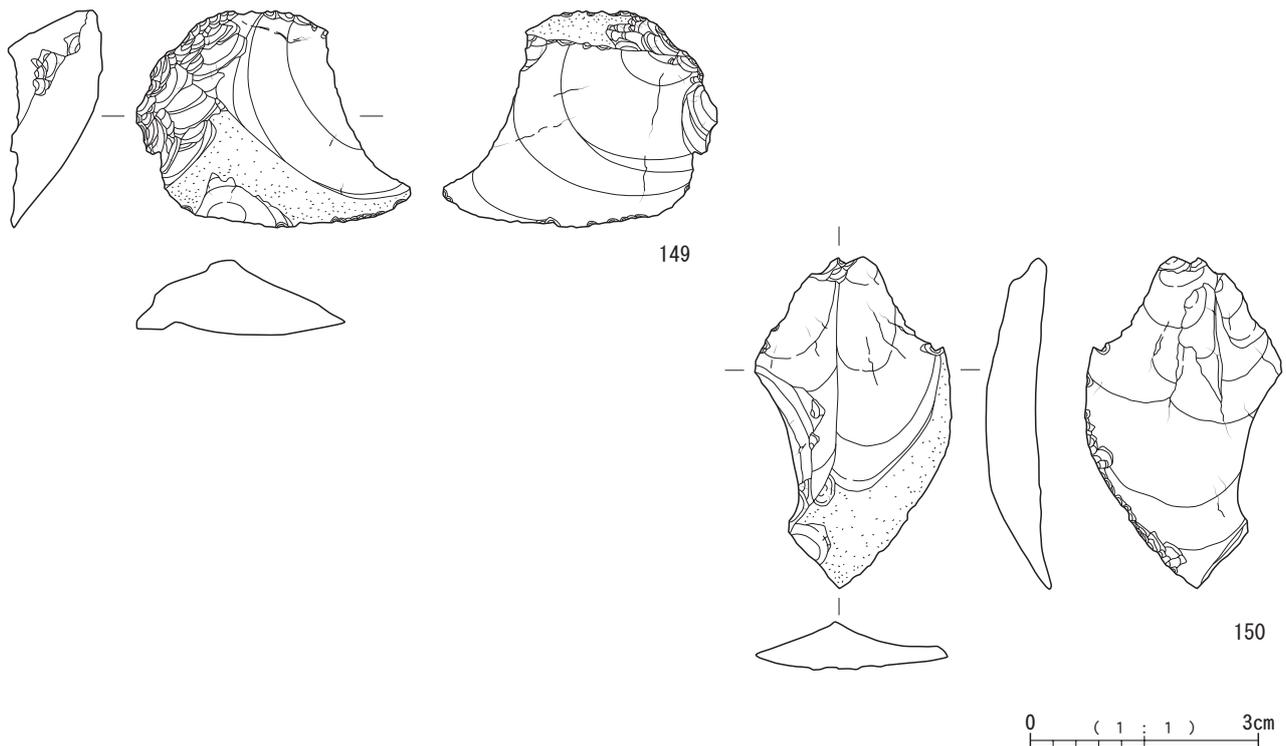
147



148



第54図 VIII～X層石器4（石匙・スクレイパー・石錘・二次加工剥片）



第55図 VIII～X層石器5（使用痕剥片）

端部周辺を薄く仕上げる。先端部側辺には明瞭な摩滅痕が見られ、稜線もつぶれていることから石錐と判断した。

#### エ 二次加工剥片・使用痕剥片

（第54図147・148～第55図）

二次加工剥片は2点出土し、図化した。147・148は二次加工剥片である。147は珪質頁岩の厚みのある素材を、外縁から剥離している。左側縁にやや細かな剥離を施していることから、二次加工剥片として図化した。148はチャート製の横長の剥片を用い、一部に二次加工を施している。鋭い縁辺部には使用痕が観察できる。

使用痕剥片は2点出土し、図化した。149・150は使用痕剥片である。149は頁岩製で、礫皮面を残す剥片の鋭い縁辺に微細な使用痕が確認できる。150は自然面の残る縦長剥片の鋭い側辺に使用痕が見られる。素材となる頁岩は灰褐色を呈し、宮崎平野周辺の遺跡に見られる石材に類似する。

#### オ 磨製石斧（第56図151）

1点出土し、図化した。151はX層上面から出土しているが、削平によりIX層が一部しか残っていない地点のため、ここに掲載する。ホルンフェルス製の磨製石斧片で、刃部に近い位置に挟りが見られる。

#### カ 礫器（第56図152・153）

6点出土し、2点図化した。152は砂岩製で、表面には光沢や擦痕といった石皿などに見られる使用痕が確認できる。剥片の鋭い側辺に小さな剥離を加えて刃部を形

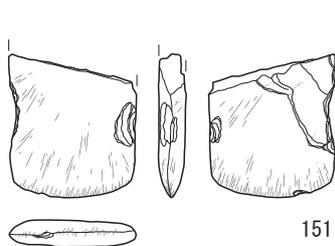
成している。153はVIII層出土だが、削平や攪乱によって層が安定しない地点だったため、IX層出土の遺物として掲載する。円形で扁平な砂岩を連続して打ち欠き、わずかに尖頭状を呈する刃部を形成する。尖頭部はわずかに稜線がつぶれている。

#### キ 磨・敲石（第57図～第58図154～169）

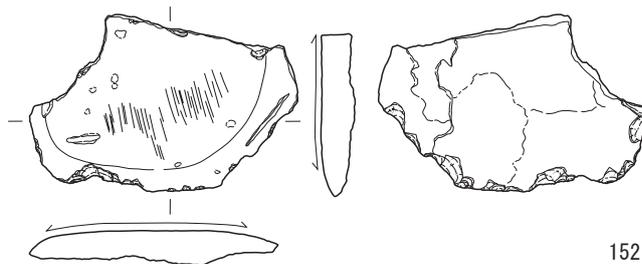
31点出土し、14点図化した。

154～157はI類に分類される。154は長軸5cm程度の小型の楕円礫で、やや薄手の砂岩である。両端に敲打痕が残るが、170のような痕跡は確認できないためここに分類した。155はX層出土だが、削平によりIX層が一部しか残存しない地点だったためIX層出土の遺物として掲載する。楕円形の砂岩を用い、側面全周に敲打痕を残している。156は粒子のやや粗い砂岩を用い、磨りによって平滑面が形成されている。157はほぼ正円形の砂岩を用い、表裏面がわずかに光沢面を有している

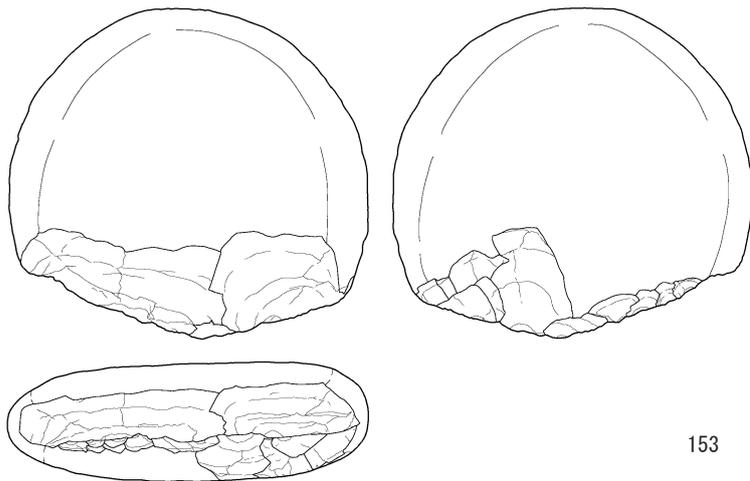
158～162はII類に分類される。158は花崗岩を用いており、風化が激しくわずかに磨りの痕跡を確認できる。159はやや楕円形の砂岩を用いており、表裏面に明瞭な光沢面を有する。160は楕円形の砂岩を用いており、平坦な表裏面に光沢面を有している。下部にはまとまった敲打痕が確認できる。161は砂岩製で風化や剥落が激しい。両端部には敲打痕が見られ、強い衝撃による剥離も見られる。162は円形だが厚みが不均一の砂岩を用いている。被熱により全体が風化しており、特に側辺部下位



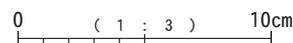
151



152



153



第56図 VII～X層石器6（磨製石斧・礫器）

の剥離が著しい。

163～167はⅢ類に分類される。163は扁平な砂岩の円礫を用い、平坦な表裏面には磨りによる光沢面が形成される。側面には敲打による痕跡が見られる。164は扁平な砂岩の楕円礫で、風化によりはっきりしない部分があるが、表裏面に磨り痕、側面には敲打痕が確認できる。165は扁平な砂岩の表裏面中央と側面中央に、敲打による凹みを有している。166は扁平な楕円形の砂岩を用いており、表裏面に磨りによる光沢面を有している。167は磨製石斧を転用した敲石である。刃部と基部に敲打痕が強く残る。

168・169はⅤ類に分類される。168は砂岩の棒状礫で、両端に敲打痕が確認できる。169は厚みのある棒状の砂岩を用い、端部には敲打痕が集中している。やや平坦な表裏面には光沢面が残る。

#### ク 石錘（第58図170）

1点出土し、図化した。

170はⅡ類に分類される。楕円形の砂岩の両端に敲打と粗い剥離を施し、浅い抉りを作っている。抉りの中央

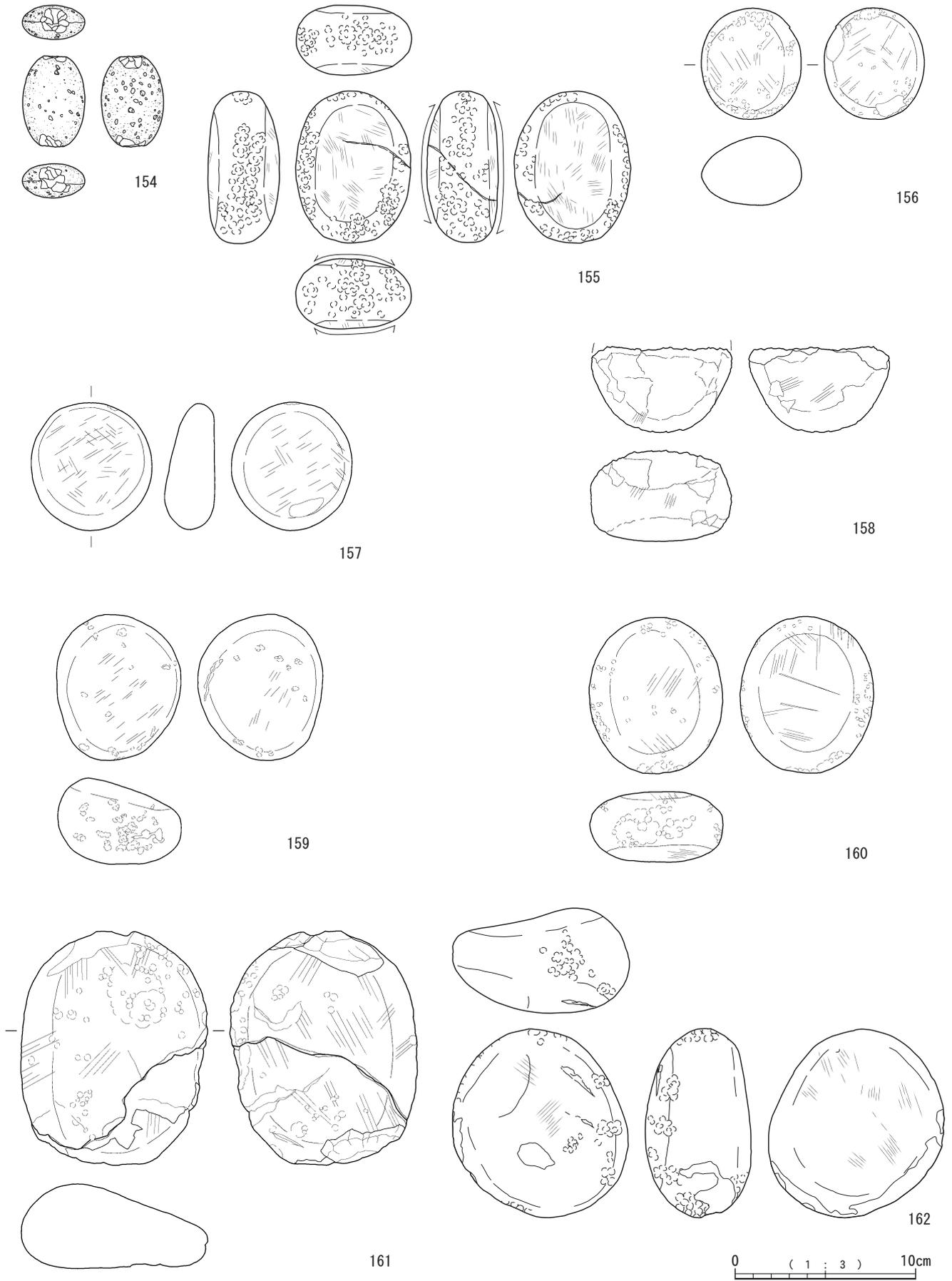
に縦長に凹む線状痕が見られることから石錘と判断した。

#### ケ 石皿（第59図171～174）

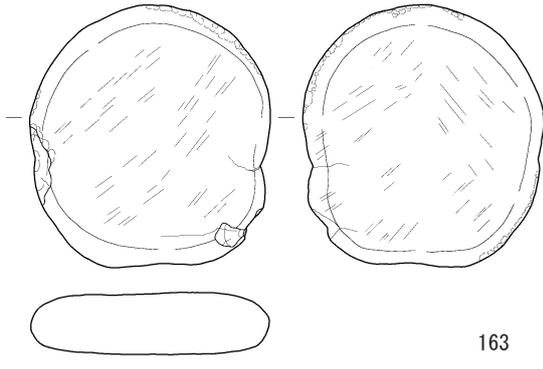
20点出土し、4点図化した。171は楕円形で比較的扁平な砂岩を用いており、表面にわずかな光沢面を有する。172は厚みのある砂岩を素材とし、表裏面ともに磨りによる光沢面を有する。173は扁平でやや楕円形の砂岩を用い、長軸25.4cmと比較的大型である。表面は部分的に磨りによる光沢面を有し、裏面はわずかに丸みを帯びている。174は方形の砂岩礫を用いた石皿である。表裏面に擦痕や敲打痕など使用の痕跡が見られる。

#### コ 彫器（第59図175）

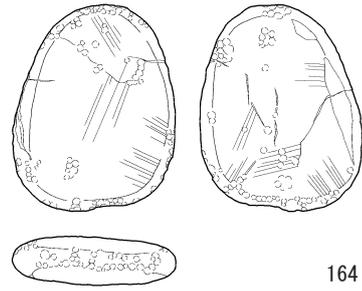
1点出土し、図化した。175はチャート製で、先端部の剥離状況から彫器であると判断した。



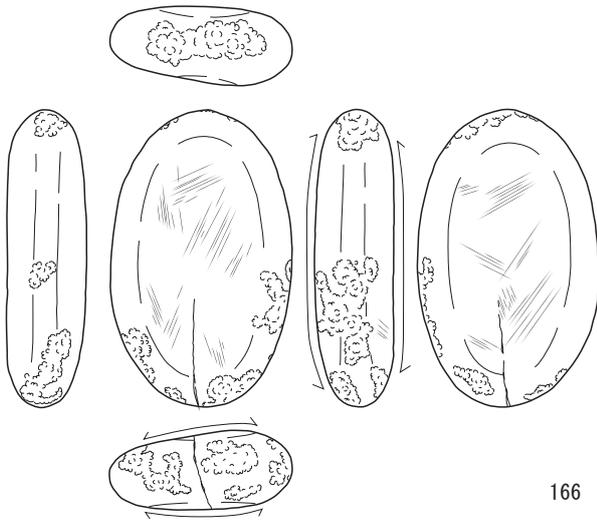
第57図 VIII~X層石器7 (磨・敲石1)



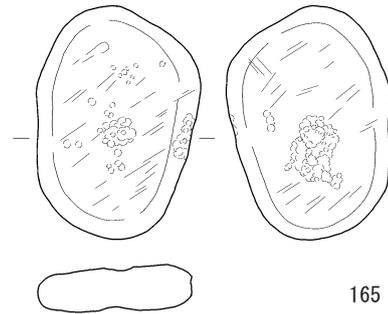
163



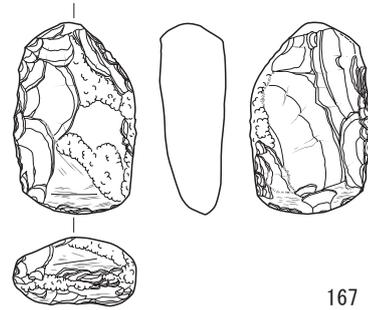
164



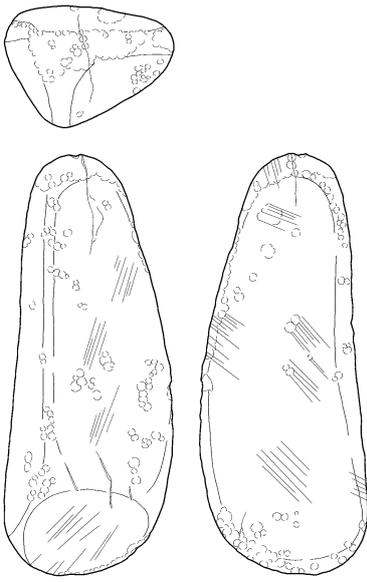
166



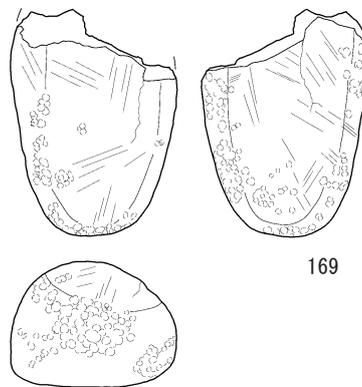
165



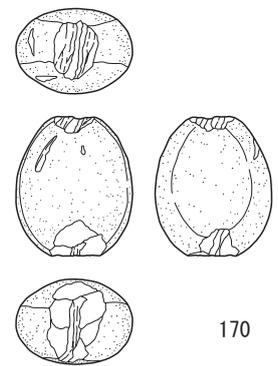
167



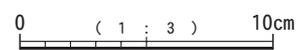
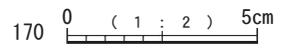
168



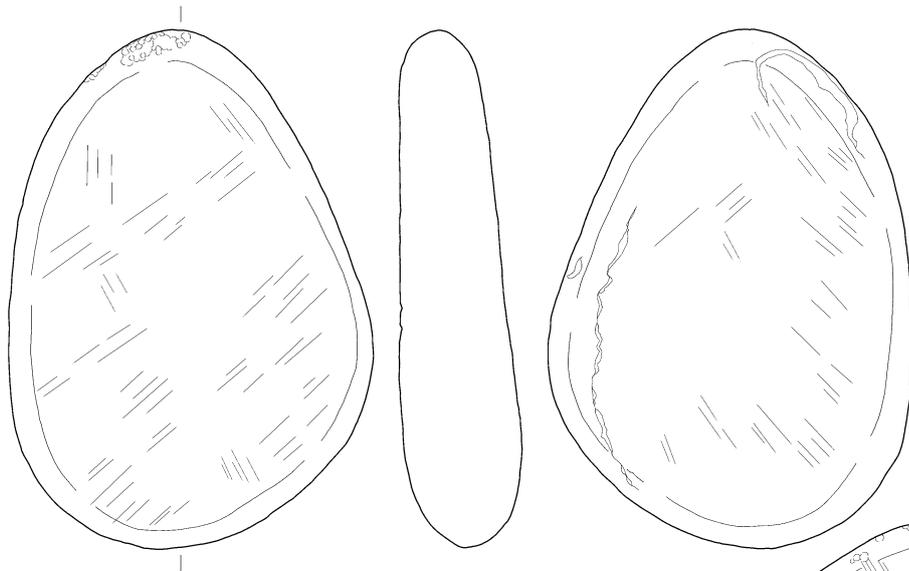
169



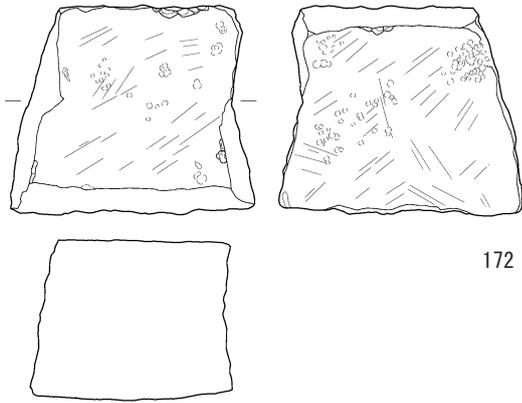
170



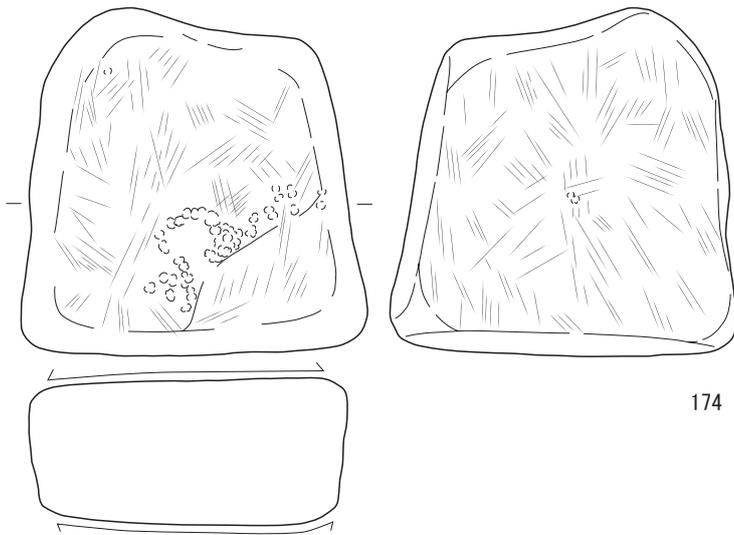
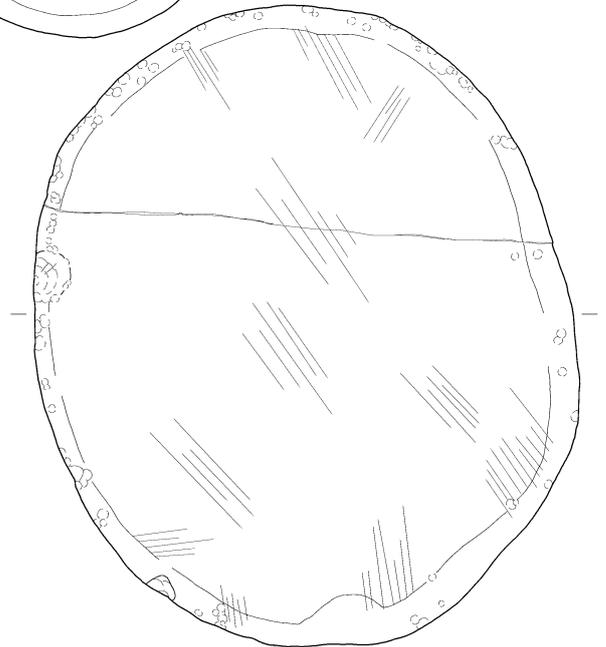
第58図 Ⅷ～Ⅹ層石器 8 (磨・敲石 2・石錘)



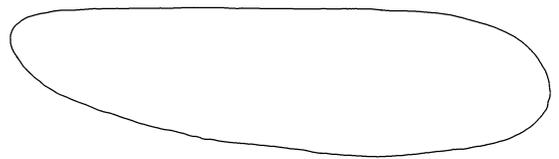
171



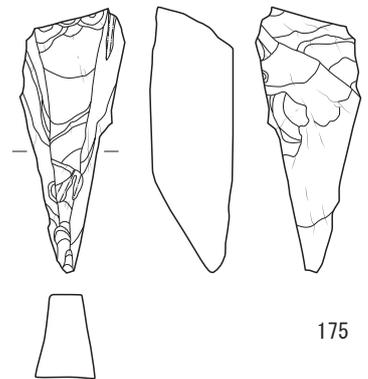
172



174



173



175

175以外 0 ( 1 : 3 ) 10cm

175 0 ( 1 : 1 ) 3cm

第59図 VIII~X層石器 (石皿・彫器)

## 2 縄文時代前期

### (1) 調査の概要

縄文時代前期の該当包含層はⅢ層～Ⅶ層を主とするが、調査区内の地形による自然作用や宅地造成等の人為的な影響により、削平を受けている部分があった。

調査は、重機で表土を除去後、人力による掘り下げを進めながら遺構検出を行い、令和5年度の調査で土坑1基、令和6年度の調査で土坑1基の合計2基の土坑を検出した(第60図)。また、包含層からは土器片29点、石器11点が出土し、うち土器3点、石器9点を図化した。遺物の出土区はD-23～25区に集中する(第62図)。

### (2) 遺構

#### 土坑3号(第61図)

C-19区、X層で検出された。調査区北側壁面に接しており、上部が削平を受けているため、表土を除去したところでプランを確認した。平面形はほぼ円形を呈し、断面形は底面に向かってすぼまりながら掘り込まれている。径0.85m、検出面からの深さは1.16mである。埋土は6層に分けられ、堆積状況から埋土③～⑥は自然堆積と想定されるが、上位の埋土①・②は遺物の出土状況から人為的に掘られ、埋められた可能性がある。

土坑内のイボキサゴを放射性炭素年代測定を実施した結果、較正年代でBC1448-1157の年代が得られた。詳しい分析結果は第V章を参照していただきたい。イボキサゴそのものは縄文時代後期に該当することが判明したが、土坑の検出面がX層で上部は削平を受けていたことから本来の掘り込み面や時期は不明であった。しかし、埋土①は土坑の中心が人為的に掘られた結果、堆積したものと考えられ、縄文時代後期において土坑の平面が目視できていた可能性が高いことを考えると、Ⅶ層のアカホヤ火山灰よりも上位から掘られていたと判断し、前期の遺構とした。

遺物は石器2点が出土し、いずれも図化した。176は磨・敲石である。拳より一回り大きめの砂岩製で表裏面ともに磨りによる光沢を有する。一部が赤化しているが、被熱によるものかどうかは判別できない。欠損して鋭くなった一辺にやや刃つぶれ状の痕跡が観察できる。177は石錘である。卵形の砂岩の長軸に敲打による凹みを廻らせるが、裏面中央で途切れている。凹みの一部には沈線状の痕跡が見られ、顕微鏡で観察したところ部分的に稜線の摩滅や擦痕が確認でき、漁網や編布の錘として使用された可能性がある。

#### 土坑4号(第61図)

C-6区、Ⅶ層上面で検出された。人力掘削によってアカホヤ火山灰層上面で検出された。平面形は楕円形で、長軸1.66m、短軸1.15m、検出面からの深さは約0.40mである。埋土は3層に分けられ、最下層には、池田降下軽石が混ざる。遺物は土器が8点出土したが、小片の

ため図化しなかった。

### (3) 遺物

#### ① 土器

前期該当の土器は6類に分類した。

#### 6類土器(第63図)

口縁部は波状を呈し、波頂部に突起を作るもの。胴部は丸みを帯び、丸底の底部をもつ。外面に貝殻押引文を施す。29点出土し、3点図化した。

178は口縁部が緩やかに外反して波状口縁となる。口唇部は丸みを呈し、波頂部には3本の粘土紐が内外面にかけて貼付される。胴部は貝殻押引文が横位に廻る。内面は、貝殻条痕の後にナデが施されている。179は胴部片である。内外面ともにあばた状の剥落が見られる。文様は、貝殻押引文と無文帯とが横縞状に施文されるが、貝殻押引文は一周せずに無文部を設けている。180は胴部から丸底に至る底部で、179と同様、あばた状の剥落が内外面共に目立つ。胴部は、貝殻押引文が右から左へ施文される。胴部下半から底部にかけては無文である。

#### ② 石器

#### ア 打製石鏃(第64図181～184)

5点出土し、4点図化した。

181～183はⅡ類に分類される。181は良質な安山岩製で、薄く均一な仕上がりであるが、先端部を欠いている。182は瑪瑙玉髓系の石材を用い、やや厚みのある作りで脚の一部を欠損している。183は安山岩製で右脚部を欠損する。

184はⅣ類に分類され、やや大型のチャート製である。全体的に丁寧な剥離を施し、均一な形状を呈する。先端部にわずかな欠損が確認できる。

#### イ 二次加工剥片・使用痕剥片(第64図185)

二次加工剥片が1点出土し、図化した。185は、鉄分の多い頁岩の鋭い縁辺部に、微細な使用痕が観察できる。

#### ウ 礫器(第64図186)

1点出土し、図化した。186は円ないし楕円形を呈する砂岩製の磨石からの転用品で、欠損後に鋭い縁辺に微細な加工を施して刃部を形成している。

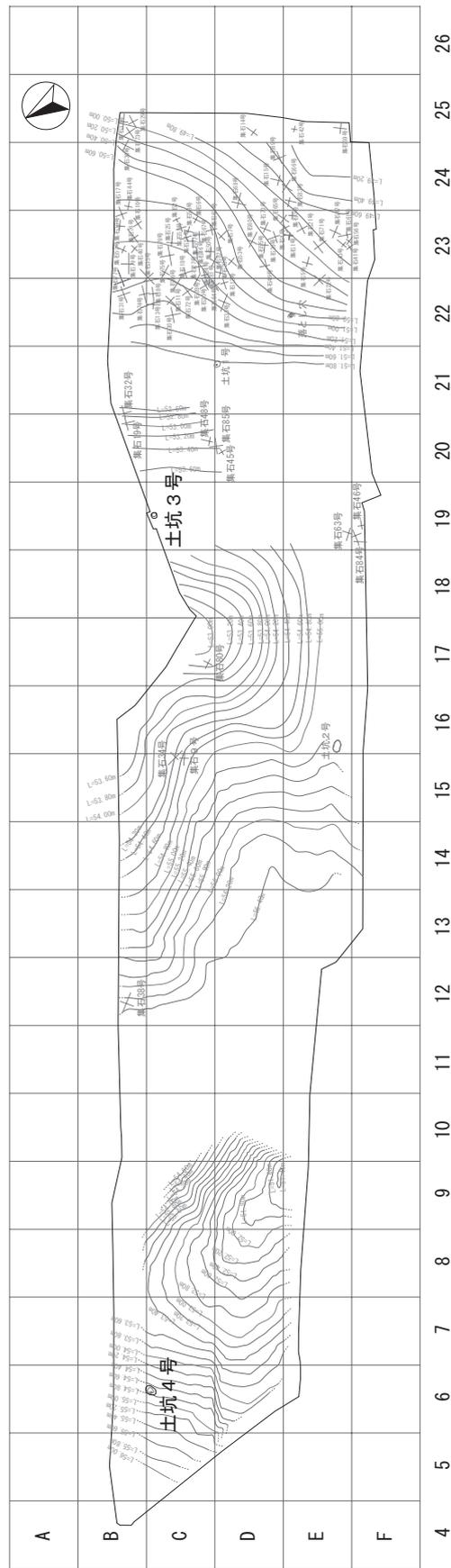
#### エ 磨・敲石(第64図187・188)

2点出土し、図化した。

187・188はⅢ類に分類される。187は全体的に摩滅しているが、右側面に磨りによる平坦面が見られるため、広義の磨石として分類した。188は扁平な砂岩の円形礫である。表裏面には磨りと敲打痕が確認でき、側面には部分的に敲打痕が見られる。

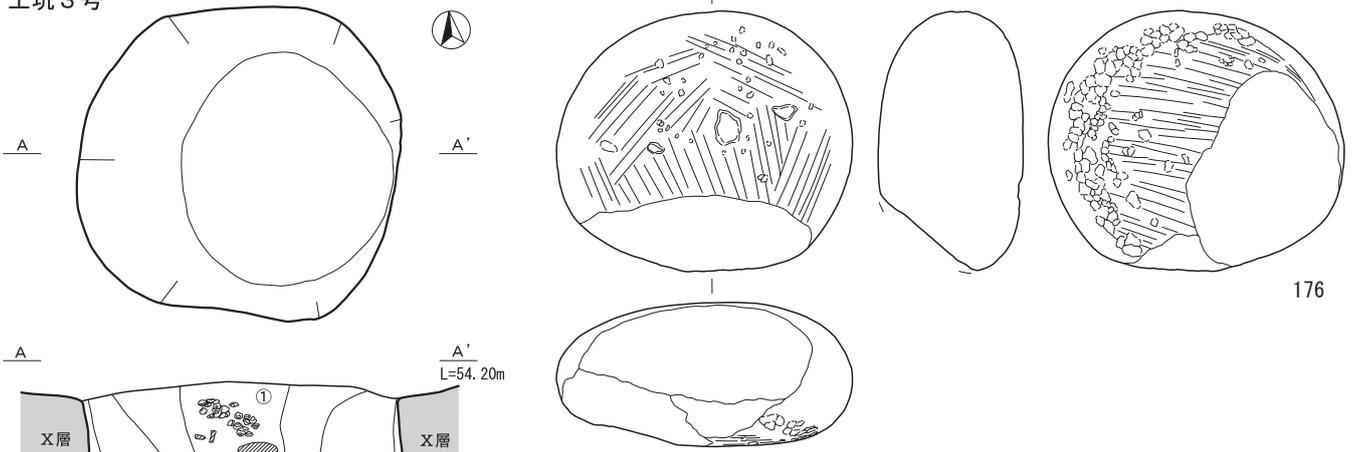
#### オ 凹石(第64図189)

1点出土し、図化した。189は厚みのある砂岩の扁平礫に、回転による未貫通の穴が10か所ほど穿たれている。穴の断面観は「U」字状を呈する。

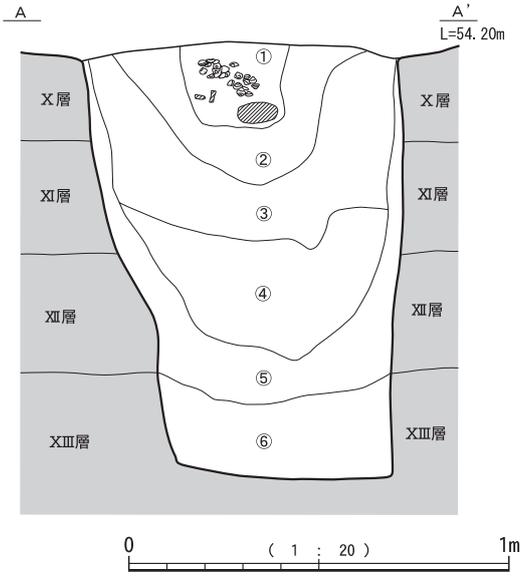


第60图 縄文時代前期遺構配置図

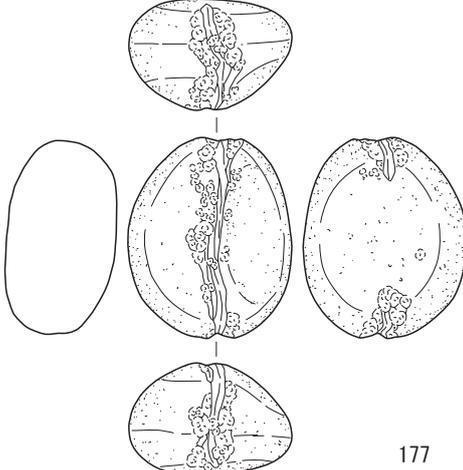
土坑3号



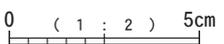
176



- 埋土  
 ①暗黒褐色土 (10YR7/1) しまりなし。  
 ②茶褐色土 (10YR4/3) しまりなし。  
 ③暗茶褐色土 (10YR4/4) しまりなし。  
 ④暗茶黒褐色土 (10YR3/2) しまりなし。  
 ⑤黒褐色土 (10YR2/3) しまりあり。  
 ⑥茶褐色土 (10YR5/4) しまりあり。

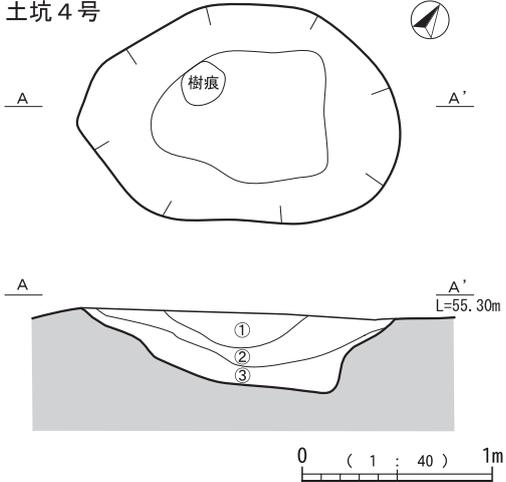


177 拡大写真 (擦痕)



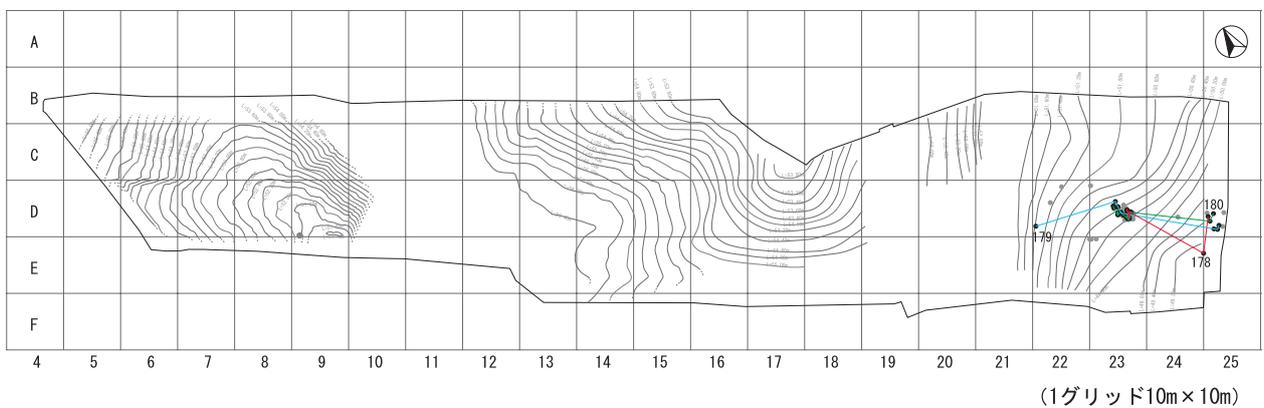
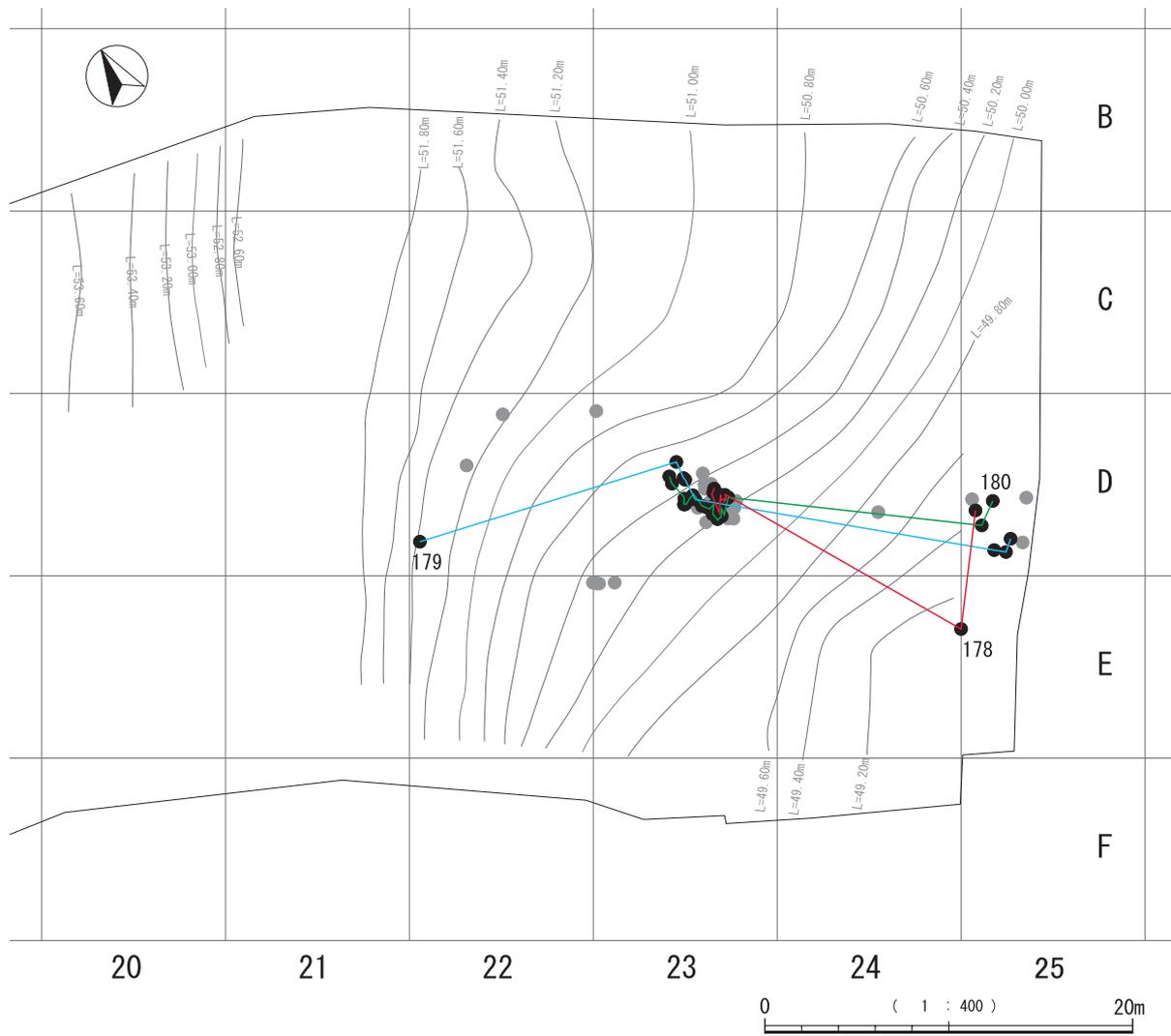
177

土坑4号



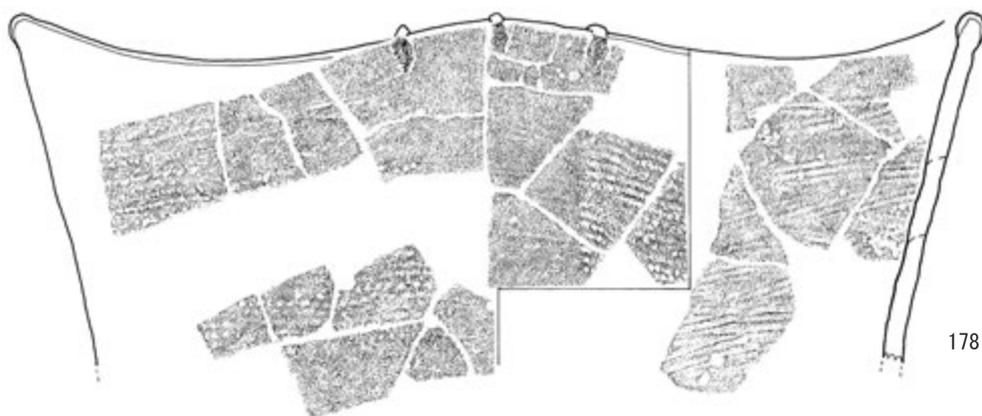
- 埋土  
 ①暗褐色土 (10YR3/3) ②よりやや明るい。  
 ②黒色土 (10YR2/1) 粘性あり。  
 ③黒色土 (10YR2/1) 粘性あり。池田降下軽石を含む。

第61図 土坑3号・4号及び土坑3号内出土遺物

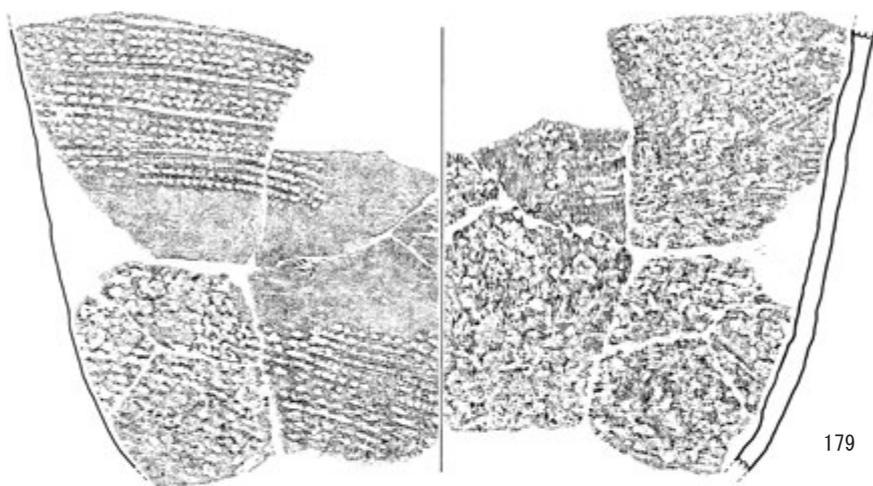


● 実測  
● 非実測

第62図 縄文時代前期土器出土状況図



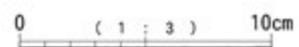
178



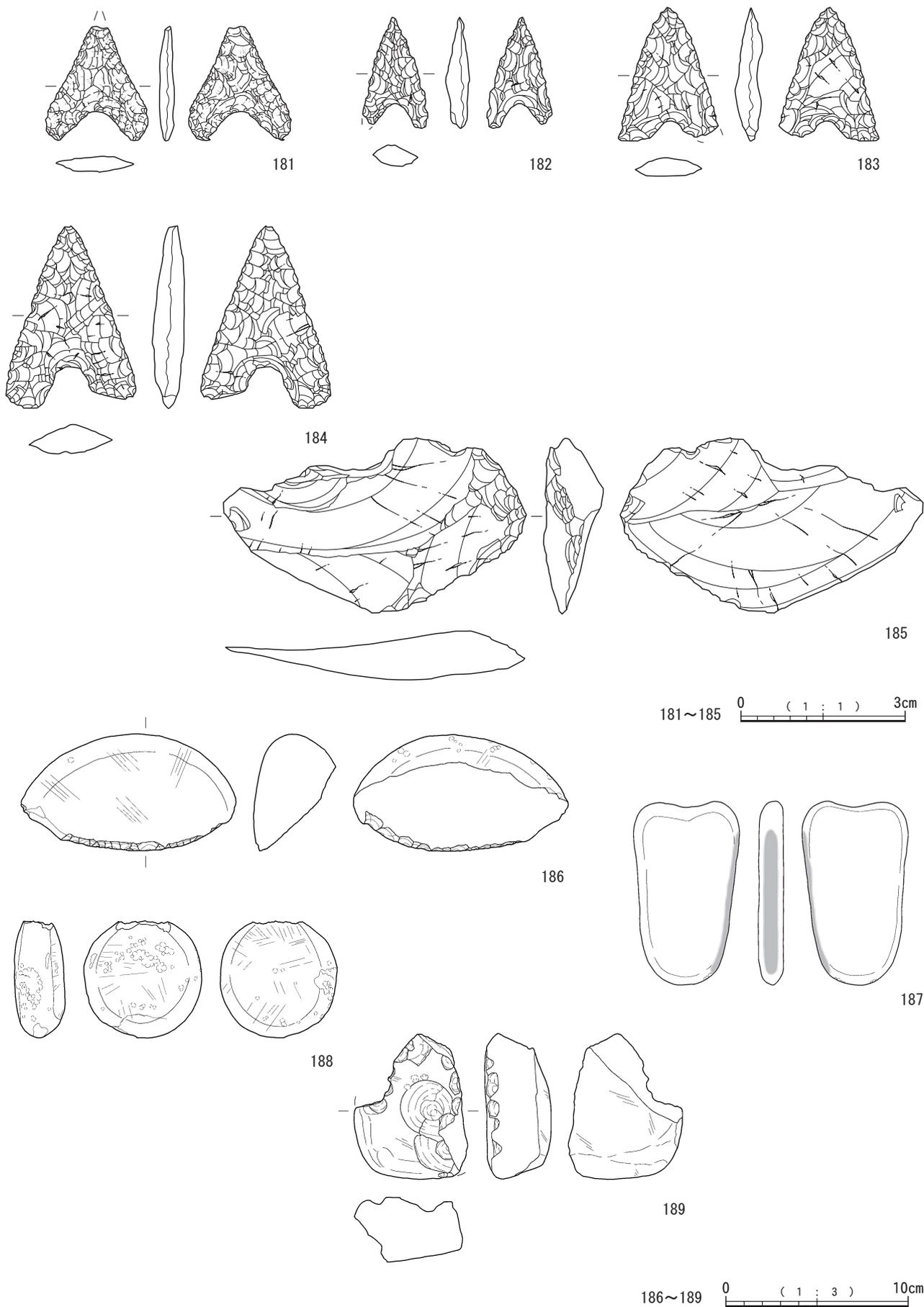
179



180



第63図 包含層出土土器（縄文 6類土器）



第64図 包含層出土石器（石鏃・二次加工剥片・礫器・磨・敲石・凹石）

### 3 縄文時代後期～晩期

#### (1) 調査の概要

縄文時代後期～晩期の該当包含層はⅢ層であるが、前期の項で前述したとおり部分的に削平を受けている。

調査は、重機で表土を除去後、人力による掘り下げを進めながら、遺構検出を行い、後期該当の落とし穴1基を検出した。包含層からは土器片1373点が出土し、うち土器111点を図化した。遺物の出土区はB～E-5～10区、B～D-13～18区を中心とし、標高の低い谷部に集中する。(第67図・第68図)

#### (2) 遺構

##### 落とし穴(第66図)

E-22区で、令和4年度確認調査のトレンチ東側壁面から検出された。落とし穴と想定される。西側部分をトレンチによって切られているが、平面形は楕円形を呈すると考えられる。断面形は南側の上部がややオーバーハング気味で、それ以下は底面に向かって緩やかにすぼまりながら掘り込まれる形状である。残存部で、長軸1.07m、短軸0.60m、深さは1.58mでⅢ層まで掘り込まれているが、検出面の上部は宅地造成や耕作の影響でⅦ層(アカホヤ火山灰)まで削平を受けていた。底面は平面形がややいびつな楕円形で、長軸0.65m、短軸0.44mである。底面中央付近に2か所のピットが検出され、形状から逆茂木痕と考えられる。埋土は、下部に向けてレンズ状に近い体積が見られ、Ⅳ層を主体とする。遺物は確認できなかった。

#### (3) 遺物

##### ① 後期土器

縄文時代後期該当の土器は器形・文様・調整などから7類～12類に分類した。

##### ア 7類土器(第69図)

口縁部付近に凹線・凹点・沈線を施すもの。後期前半までの土器群をまとめた。出土数が少ないため、細分類はしていない。24点出土し、7点図化した。

190は外反する口縁部で、外面に縦位の短沈線、横位の凹線を施す。外面は貝殻条痕後ナデ、内面は貝殻条痕により器面調整される。いわゆる岩崎上層式に該当すると考えられる。191は外反する口縁部である。縦位の短沈線を2条施し、斜位と横位の沈線を施す。胎土に滑石が目立つ。内外面ともにナデにより器面調整される。192は丸みを帯びた頸部付近からやや外反して立ち上がり、口唇部は平坦面をもつ。口縁部は粘土を貼付することにより肥厚帯を作り、そこにヘラ状工具による縦位の凹線を施す。口唇部には凹線に対応する位置に凹点が施される。肥厚帯の下にも横位の凹線が見られる。外面はナデ、内面は貝殻条痕及びナデにより器面調整される。

いわゆる南福寺式に該当すると考えられる。193は外反する口縁部で、外面の調整により口縁部を肥厚させる。肥厚帯には横位の沈線を施す。外面はナデ、内面は指ナデにより器面調整される。194はわずかに外反する口縁部で、外面に細い沈線を3条廻らす。内外面ともナデにより器面調整される。193・194はいずれもいわゆる出水式に該当すると考えられる。195は胴部片である。指ナデによる凹線を施し凹線間に刻目を施しており、磨消縄文の施文形態を意識していると考えられる。196は口縁部が断面三角形に大きく張り出し、口唇部に3列の連続した刺突文を施す。摩滅が激しいが、内面に貝殻条痕が残る。いわゆる松山式に該当すると考えられる。

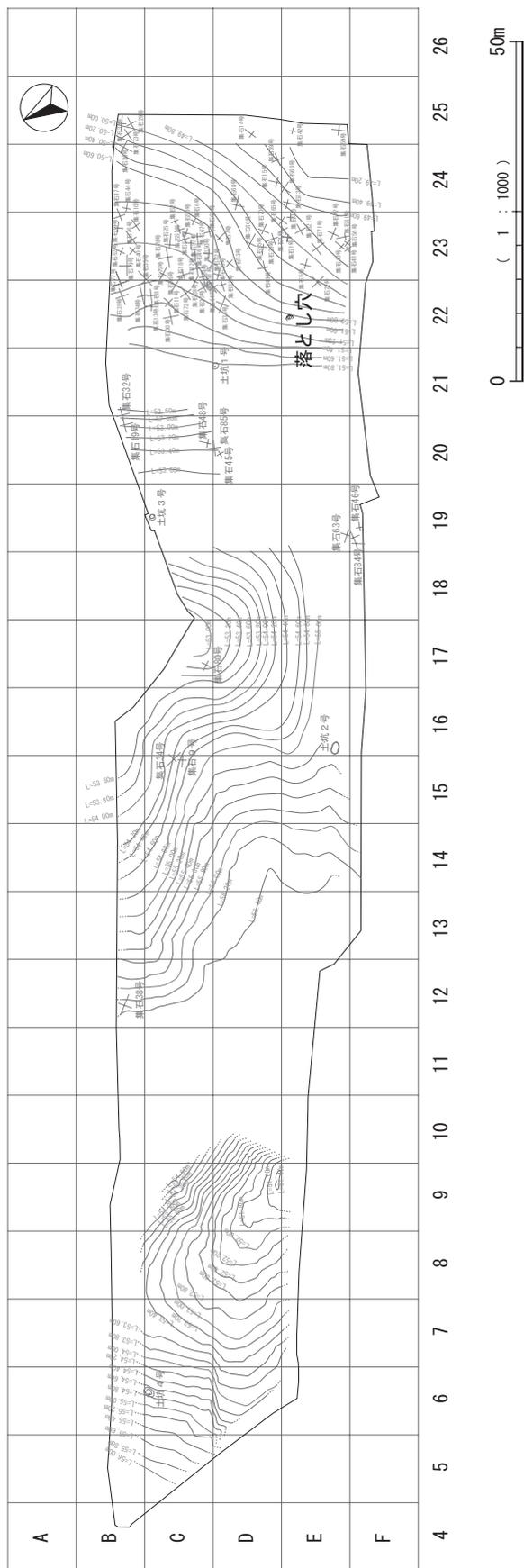
##### イ 8類土器(第70図～第74図)

波状または平状の口縁部をもち、外面口縁部直下から斜位の貝殻腹縁刺突文を施す一群をまとめた。器形等から8a類～8d類に細分した。

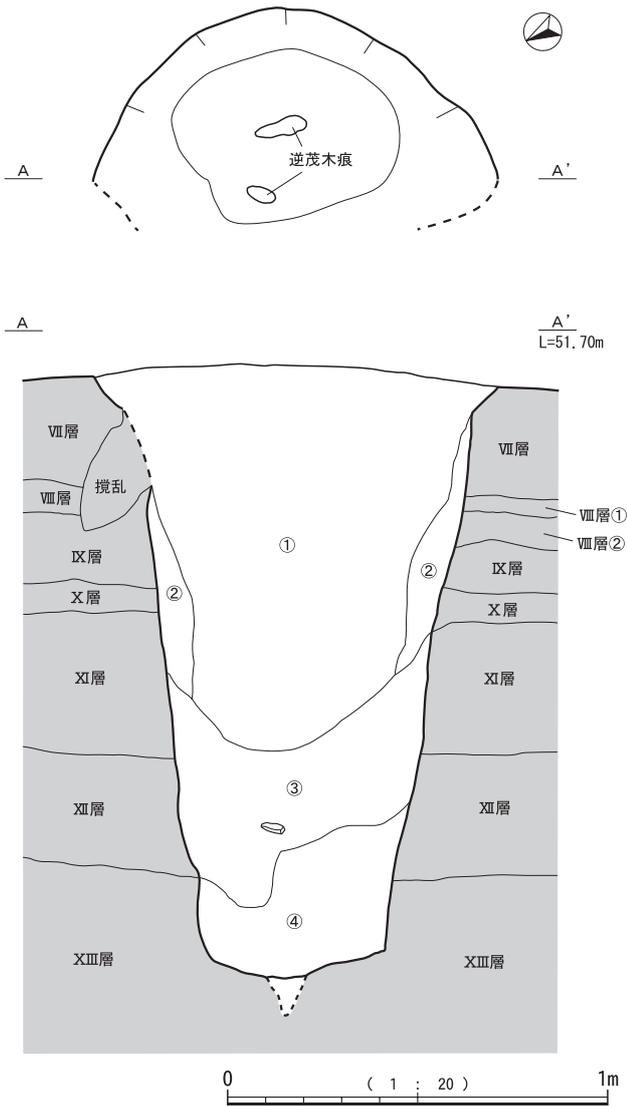
##### 8a類土器(第70図・第71図)

口縁部と頸部の間に段を有するもの、もしくは貝殻腹縁刺突文と沈線・凹点が組み合わさるもの。貝殻腹縁刺突文は2段以上になることが多い。93点出土し、24点図化した。

197は波状口縁の波頂部で、口縁部端部に粘土を継ぎ足している。外面は段をもって区切られた文様帯をもち、文様帯には沈線、斜位の貝殻刺突文が施される。内面には少なくとも5点の凹点が波頂部から縦位に延びることから、施文後に口縁部端部の粘土が付け足されたとみられる。外面はナデ、内面は貝殻条痕とナデにより器面調整される。この土器は8類よりも古い可能性が考えられるが、本遺跡の後期土器の組成の特徴上この類に含めた。198・199は外面に広く文様を施し、口縁部から頸部にかけて斜位の貝殻刺突文と横位の沈線を組み合わせる。199は沈線端部や変化点で工具を深く刺し、刺突文を作る。198は胎土内に白色粒子、199は白色粒子及び雲母が目立つ。いずれも内面は貝殻条痕やナデにより器面調整される。200は口縁部が「く」字状に屈曲し、口唇部はやや丸みを帯びる。口縁部上端及び屈曲部の上下に斜位の貝殻刺突文が施される。内面は貝殻条痕後ナデにより器面調整される。201は幅の広い斜位の貝殻刺突文を施す。外面は貝殻条痕、内面は貝殻条痕とナデにより器面調整される。202は外面の段を挟んだ上下に斜位の貝殻刺突文を施し、貝殻条痕の器面調整が強く残る。203は口縁部が「く」字状に屈曲し、口唇部はやや平坦面をもつ。屈曲部を挟んだ上下に斜位の貝殻刺突文を施す。内外面とも貝殻条痕とナデにより器面調整される。204は波状口縁を呈し、口縁部が「く」字状に屈曲する。口唇部はやや丸みを帯び、外面の段を挟んだ上下に斜位



第65図 縄文時代後期遺構配置図



- 埋土
- ①黒色土。粘性やや強い。オレンジバミスを多量に含む。
  - ②①と周辺のVII層が混在する。
  - ③黒褐色土。粘性弱く、しまりなし。①よりも多くのオレンジバミスが混ざる。
  - ④黒褐色土。粘性強い。

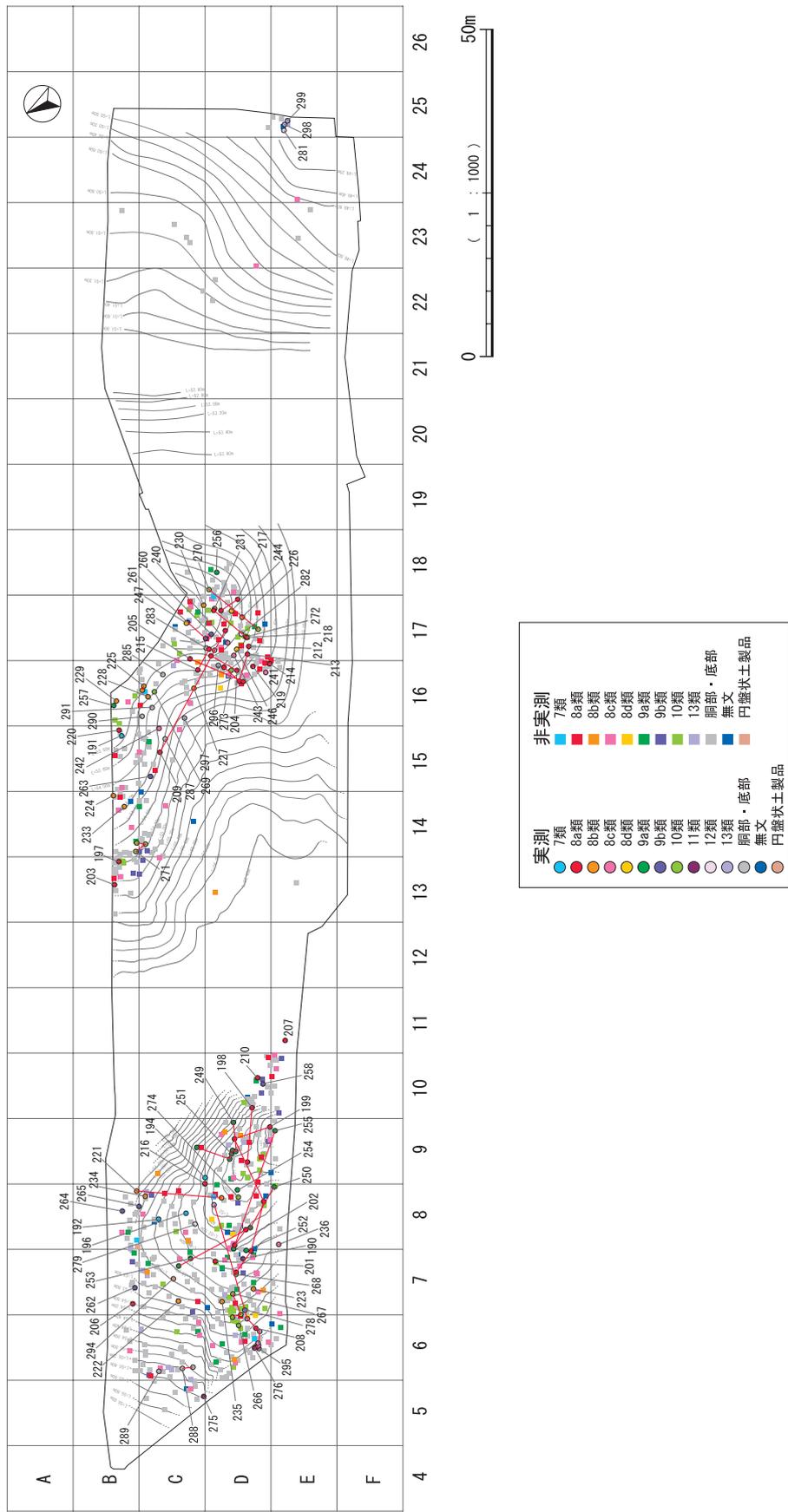
第66図 落とし穴

の貝殻刺突文が施される。内外面とも貝殻条痕が残る。205は波状口縁を呈し、口縁部が「く」字状に屈曲する。屈曲部の上下に斜位の貝殻刺突文が施される。内面は、貝殻条痕後ナデにより器面調整される。206はほぼ直行する口縁部で、頸部に向かって内湾する。外面に斜位の貝殻刺突文を施す。外面は貝殻条痕、内面は工具ナデ、ナデにより器面調整される。207は波状口縁を呈し、沈線文と斜位の刻目の組み合わせが少なくとも2段みられる。胎土に雲母が目立つ。208は口縁部の残存が部分的であり、口縁部形態は不明だが、口縁端部は薄くやや外反する。口縁部直下に斜位の貝殻刺突文と横位の沈線文を施す。209は波状口縁を呈する。口縁部が「く」字状に屈曲し斜位の刻目が少なくとも3段連続する。内面には貝殻条痕後ナデにより器面調整される。210は外面の段を挟んで短い斜位の貝殻刺突文が施される。外面は貝殻条痕後ナデ、内面は貝殻条痕及びナデにより器面調整される。211は外面の段付近のみの残存で、貝殻刺突文を施す。212は「く」字状に屈曲する口縁部付近の破片で、外面には縦位の貝殻刺突文及び刻目が施文される。外面は貝殻条痕が明瞭に残る。213は口頸部から胴部の破片である。内外面の風化が激しい。口縁部には刺突文と貝殻刺突文とが施されるが、はっきりしない。胎土に白色粒子と雲母が非常に多く混ざる。214は屈曲部付近の破片で、斜位の貝殻刺突文が施される。胎土に白色粒子が非常に多く混ざる。内外面ともに貝殻条痕後ナデにより器面調整される。215は外面屈曲部を挟んで2段の貝殻刺突文が施される。内外面ともに貝殻条痕後ナデにより器面調整される。216は外面の段を挟んで幅の広い斜位の貝殻刺突文を施す。外面は貝殻条痕、内面は貝殻条痕及びナデにより器面調整される。217は明瞭な段をもたないが、胴部から口縁部に向かって膨らむ器形である。斜位の貝殻刺突文を、幅の広い2段と非常に短い1段を組み合わせて施す。218は縦位の貝殻刺突文が相交弧文状に施され、貝殻刺突文の下には刺突文が施される。内外面ともに貝殻条痕後ナデにより器面調整される。219は斜位の貝殻刺突文が3段施される。胎土に白色粒子及び雲母が目立つ。220は胴部片で、沈線と斜位の貝殻刺突文を組み合わせて施文する。外面はナデ、内面はケズリ後ナデにより器面調整される。

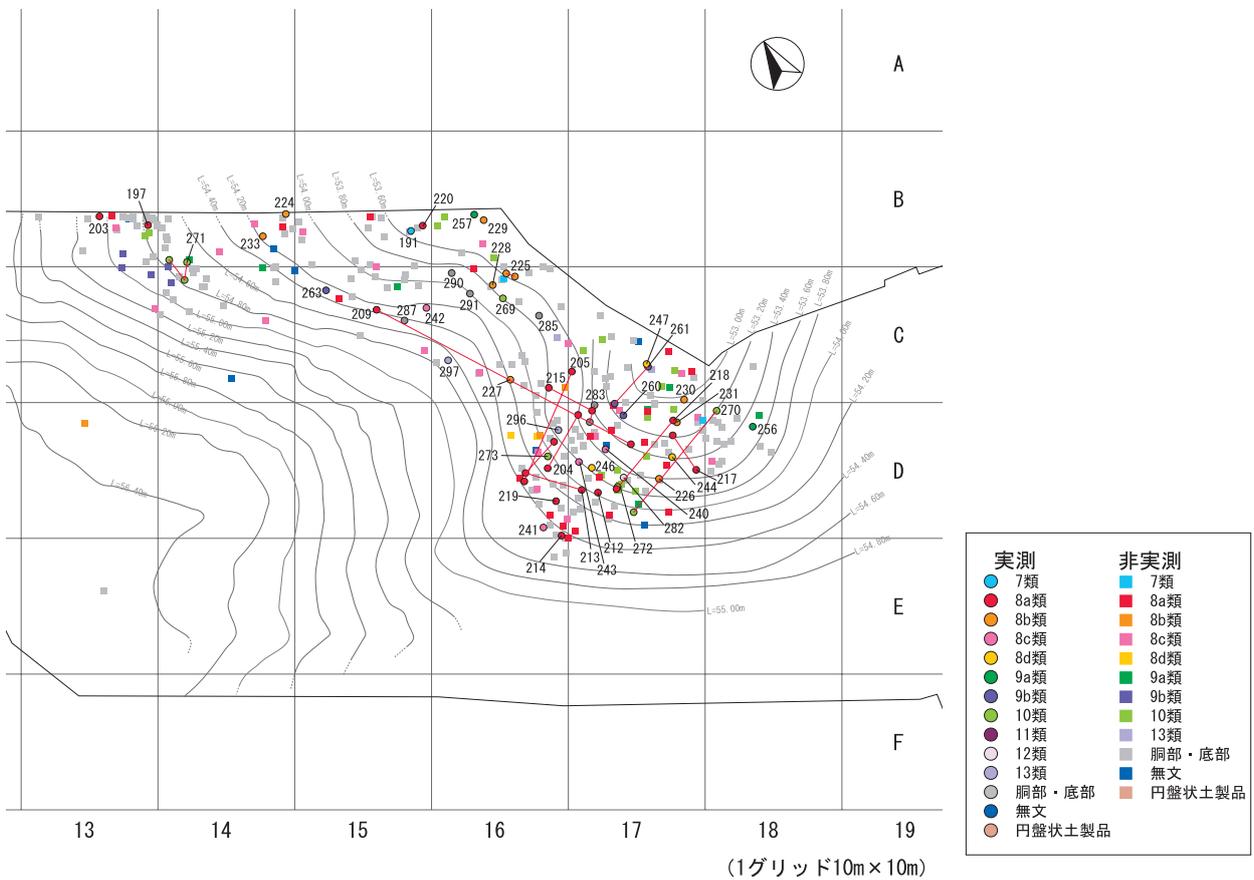
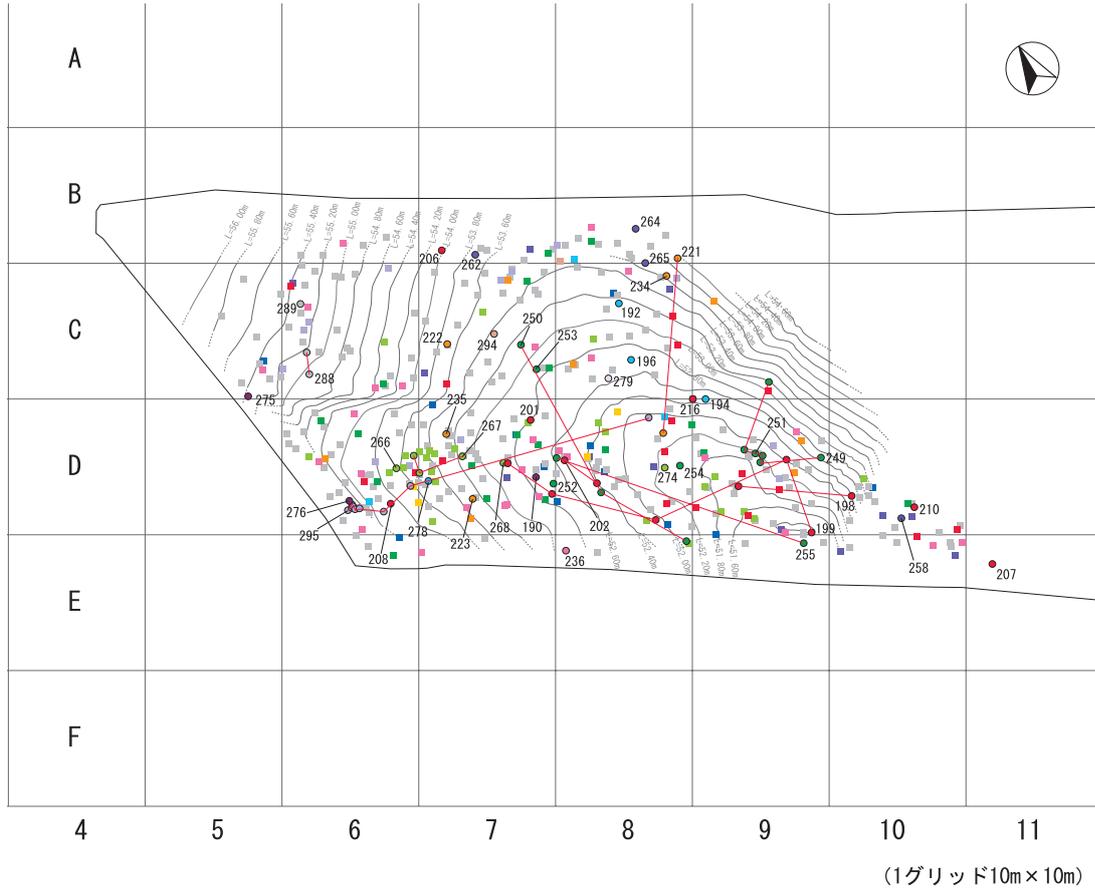
#### 8b類土器(第72図)

口縁部と頸部の間に段を有しないもの。貝殻腹縁刺突文が1段の場合が多い。35点出土し、15点図化した。

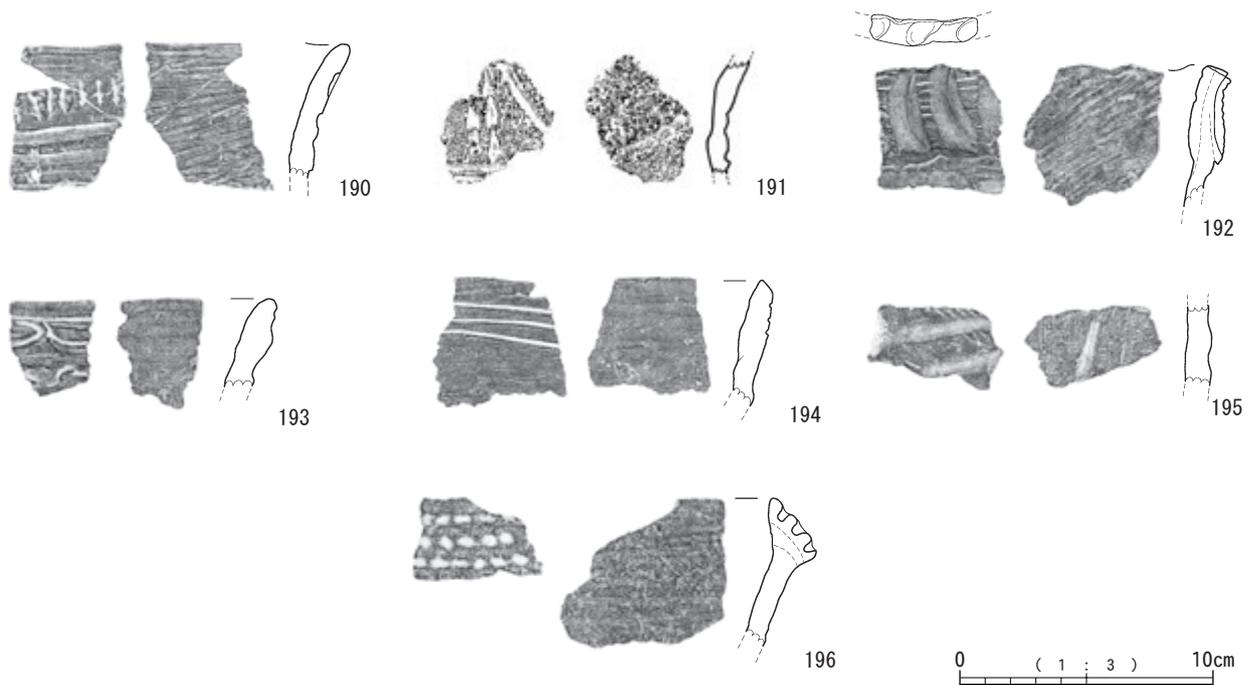
221は波状口縁を呈し、口縁部はほぼ直行する。口縁部直下に短い縦位の貝殻刺突文を施す。口縁部の直径が12cm程で、比較的小型である。内外面とも貝殻条痕及びナデにより器面調整される。222は口縁部が直行し、口縁部直下に短い斜位の貝殻刺突文を施す。内外面とも貝殻条痕が明瞭に残る。223は波状口縁を呈し、頸部が



第67図 縄文時代後期・晚期土器出土状況図 1



第68図 縄文時代後期・晩期土器出土状況図2



第69図 包含層出土土器（縄文 7類土器）

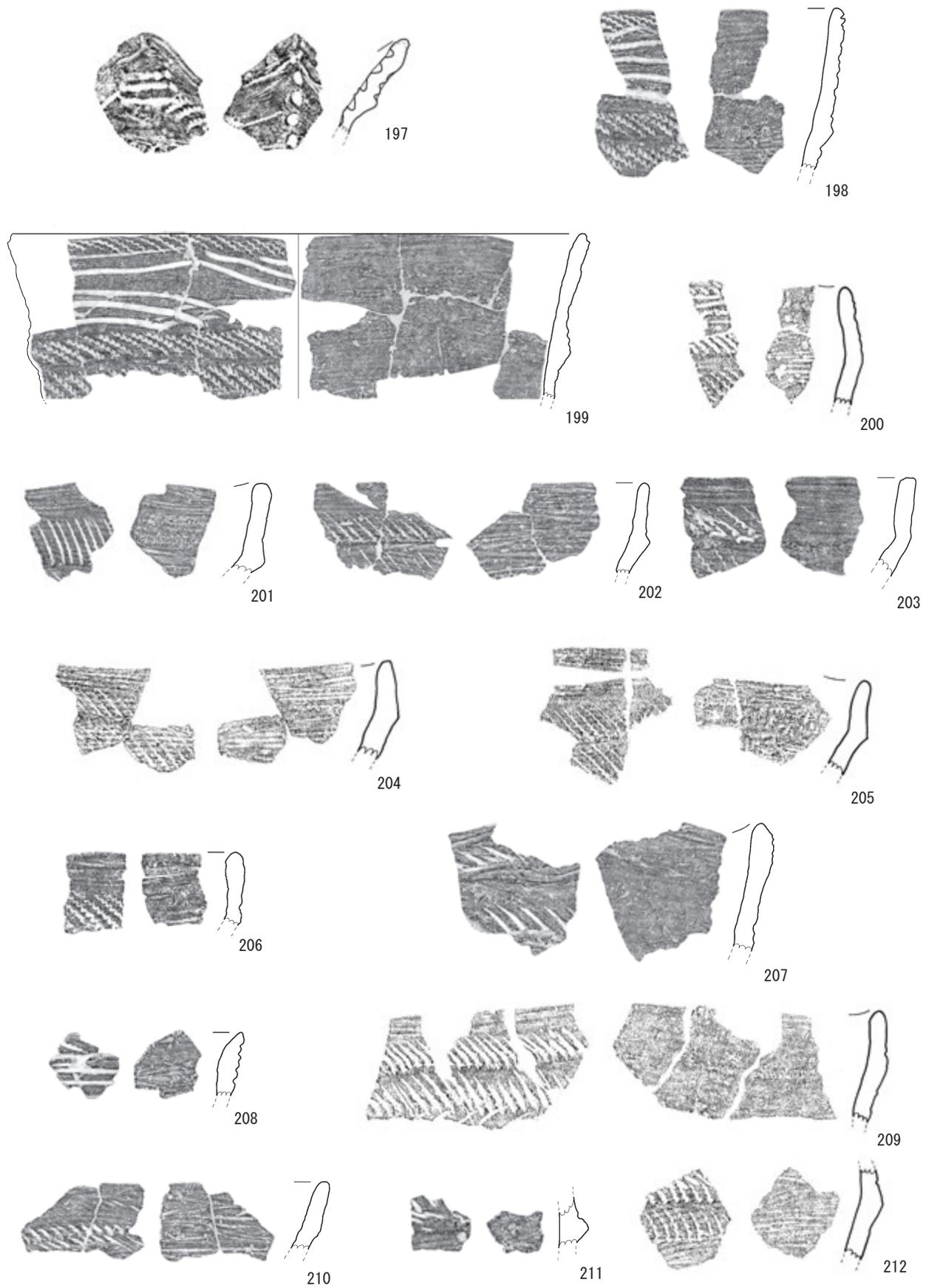
わずかに屈曲する。屈曲部に斜位の貝殻刺突文を施す。224は横位の浅い沈線の下に斜位の貝殻刺突文を施す。外面は貝殻条痕及びナデ、内面は貝殻条痕により器面調整される。225は口縁部が外反し胴部がわずかに膨らむ。波状口縁を呈し、口唇部はやや尖り気味である。斜位の貝殻刺突文が1段施される。内外面ともに貝殻条痕後ナデにより器面調整される。226は波状口縁の波頂部で、口縁部が外反し胴部がわずかに膨らむ。波頂部は粘土を貼り付けて成形しているがやや粗い印象がある。外面の口縁部直下に斜位の短い貝殻刺突文が施される。内外面に炭化物が付着している。227は口唇部がやや尖り、口縁部は外反する。外面の一部が剥落しているが、斜位の短い貝殻刺突文が観察できる。内外面の口縁部に貝殻条痕が明瞭に残る。228は波状口縁を呈し、口唇部はナデにより若干丸みを帯びる。内面頸部付近にわずかに段を有する。斜位の貝殻刺突文が1段施され、外面は貝殻条痕、内面は貝殻条痕と指ナデにより器面調整される。229は波状口縁を呈する。外面には肋2条程度の短い貝殻刺突文に近い貝殻刺突文が施される。外面は貝殻条痕及びナデ、内面は貝殻条痕により器面調整される。230は平口縁を呈すると考えられるが小破片のためはっきりしない。外面に斜位の貝殻刺突文を施し、貝殻条痕が明瞭に残る。231は器壁に厚みがある。外面にわずかに貝殻刺突文がみられる。内外面とも貝殻条痕後ナデにより器面調整される。232は斜位の短い貝殻刺突文を施す。

内外面とも貝殻条痕により器面調整される。233は波状口縁の波頂部に近い部分と考えられる。口縁部内面にはナデによる段ができる。外面に斜位の貝殻刺突文が施される。234はやや内湾する口縁部で、口縁部の残存部が狭く口縁部形態は不明である。外面口縁部直下から3段の貝殻刺突文を施す。外面はナデ、内面は貝殻条痕により器面調整される。235は屈曲する頸部付近で、外面に斜位の貝殻刺突文と横位の短い貝殻刺突文を組み合わせで施す。

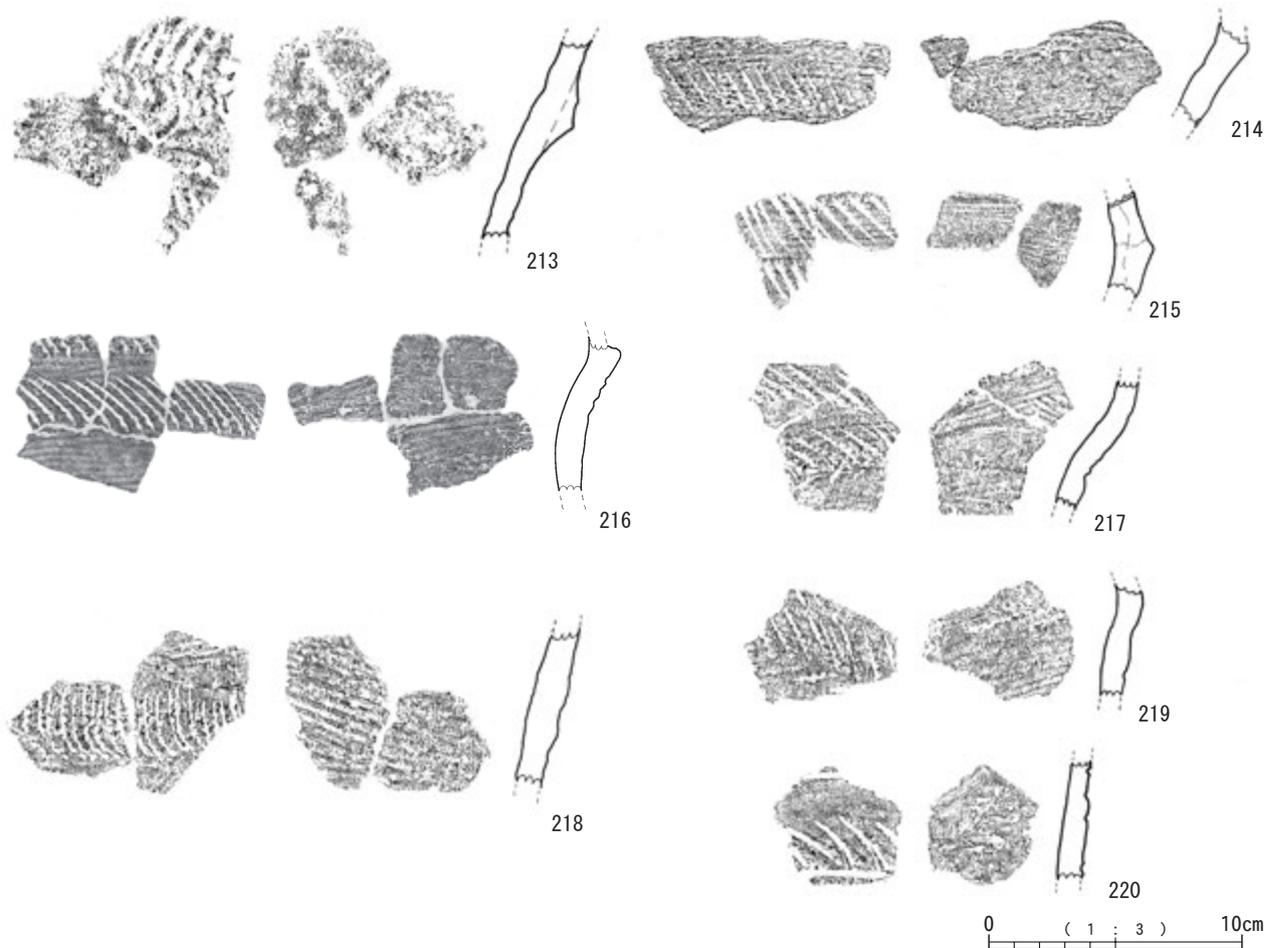
#### 8c類土器（第73図）

残存状況等により8a類・8b類に分類することが困難な8類系統の深鉢である。95点出土し、8点図化した。

236はやや外反する口縁部で、外面に斜位の貝殻刺突文を施し、内面にも短い斜位の貝殻刺突文を施す。内外面ともに貝殻条痕により器面調整される。237は緩やかな波状口縁を呈し、口唇部は丸みを帯びる。口縁部直下に横位の貝殻刺突文、その下に斜位の貝殻刺突文を施す。内外面ともに貝殻条痕及びナデにより器面調整される。238は緩やかな波状口縁を呈する。口縁部直下に肋2条程度の短い貝殻刺突文を施し、その下に斜位の貝殻刺突文を施す。内外面ともに貝殻条痕及びナデにより器面調整される。240は直行した口縁部で、残存部が少ないため口縁部形態は不明である。口縁部直下には横位の短沈線を施し、その下には斜位の貝殻刺突文を施す。外面はナデ、内面は貝殻条痕後ナデにより器面調整される。



第70図 包含層出土土器（縄文 8a類土器1）



第71図 包含層出土土器（縄文 8a類土器2）

241は外反する口縁部で、器壁が厚い。外面口縁部直下に斜位の貝殻刺突文を2段施す。外面は貝殻条痕後ナデ、内面はナデにより器面調整される。242は胴部片で、斜位の刻目が少なくとも3段施される。内外面とも摩滅が激しいが、両面ともナデが観察できる。243は胴部片で、外面に斜位の貝殻刺突文を施す。外面の一部は薄い粘土により表面が覆われており、貝殻条痕文が一部消えていることから、施文後に再度粘土を貼り付けた可能性がある。内外面ともに貝殻条痕により器面調整される。

#### 8d類土器（第74図）

台付皿の一群である。8類の時期に該当すると考えられるため、ここに含めた。15点出土し、5点図化した。

244は皿部の口縁部で、「M」字状の突帯を貼付する。外面はケズリ後ナデ及びミガキ、内面はミガキ後ナデにより器面調整される。245は皿部の口縁部で、端部を薄く調整する。文様はみられない。内外面とも貝殻条痕により器面調整される。246は皿部で波状口縁を呈し、波頂部のみ残存している。粘土を重ねて器壁をやや肥厚させている。外面に斜位の貝殻刺突文と横位の沈線が施される。内外面ともナデにより器面調整される。247は皿部の口縁

部で、端部を薄く調整する。文様はみられない。内外面とも丁寧なナデにより器面調整される。248は脚部で、端部を肥厚させる。外面に横位の沈線を1条廻らす。

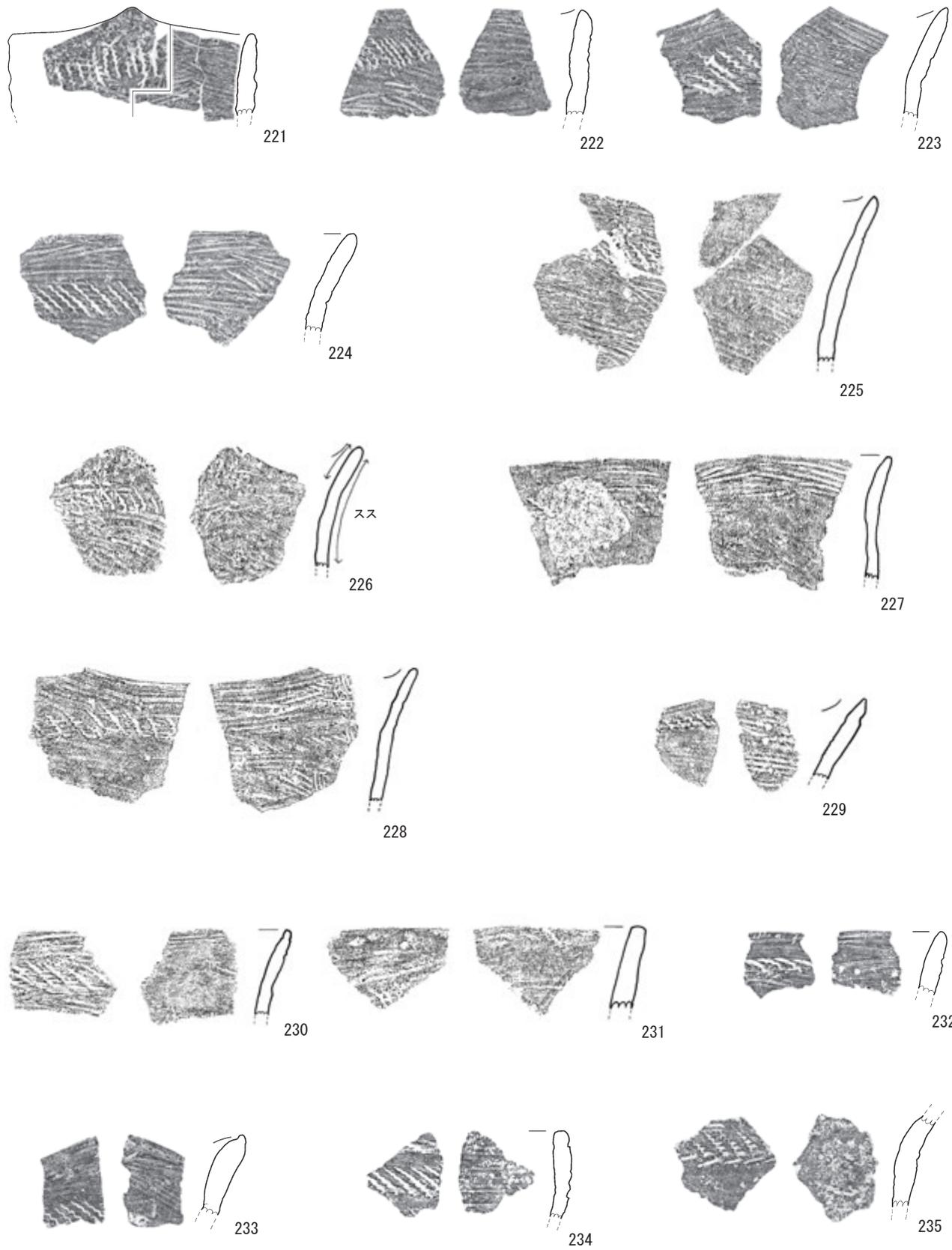
#### ウ 9類土器（第75図・第76図）

磨消縄文系の土器群をまとめた。器形等により9a類と9b類に細分した。

#### 9a類土器（第75図）

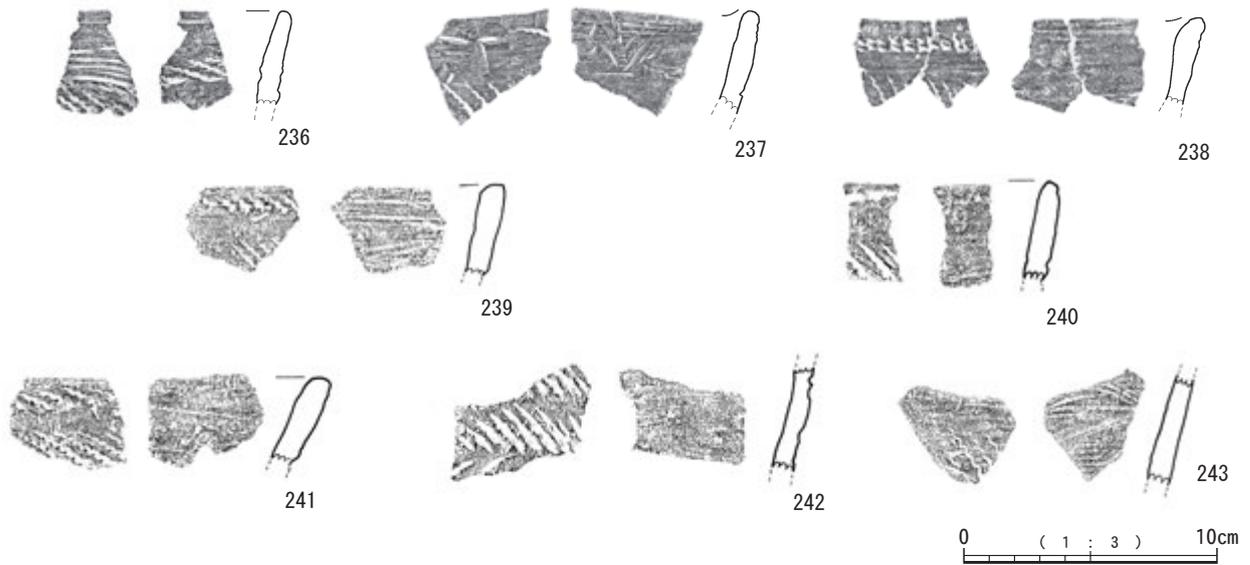
膨らんだ胴部から頸部に至り、頸部から緩い稜をもって屈曲し口縁部へ立ち上がるもの。胴部や口縁部付近に沈線や刺突文を主体とした文様帯をもつ。51点出土し、9点図化した。

249は膨らんだ胴部をもち、緩く屈曲した頸部から外反して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は断面三角形に肥厚させて文様帯を作り、文様帯には3条の沈線を廻らす。頸部の屈曲部付近に連続する刺突文を廻らせ、胴部にかけて横位の沈線と括弧状の刺突文を組み合わせる。内外面ともやや粗めのミガキ及びナデで器面調整される。250は膨らんだ胴部から頸部で緩く屈曲して立ち上がり、口縁部は内湾する。口唇部は平坦面をもつ。口

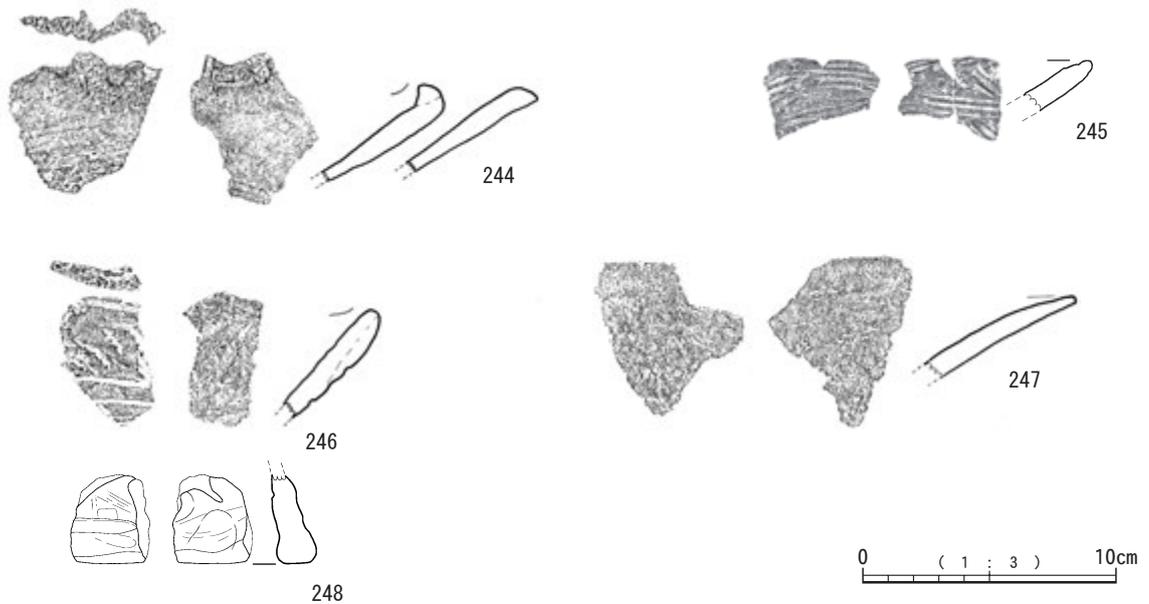


0 ( 1 : 3 ) 10cm

第72図 包含層出土土器（縄文 8b類土器）



第73図 包含層出土土器（縄文 8c類土器）



第74図 包含層出土土器（縄文 8d類土器）

縁部をわずかに肥厚させて文様帯を作り、3条の沈線と括弧状の刺突文を施す。頸部付近に連続する刺突文を廻らせ、胴部にかけて横位の沈線と括弧状の刺突文を施す。内外面ともミガキ及びナデにより器面調整される。251は口縁部のみの残存で、口縁部を断面三角形状に肥厚させて文様帯を作り、3条の沈線と括弧状の刺突文を施す。外面はナデ、内面はミガキにより器面調整される。252は屈曲した頸部から外反して口縁部に至る。口唇部は平坦面をもつ。口縁部には粘土を貼り付けて肥厚させて文様帯を作り、粗雑な3条の沈線と括弧状の刺突文を施す。

頸部付近には連続した刺突文と横位の沈線が施され、250と同様の文様が施されることが考えられる。253は内湾した波状口縁で、波頂部には凹点を施す。口唇部は平坦面をもつ。口縁部直下に短い沈線を連続させて廻らせ、波頂部下には縦位の沈線を3条施す。内外面ともに貝殻条痕後ナデにより器面調整される。254は緩く屈曲した頸部からやや外反して立ち上がり、口縁部は直行する。波状口縁を呈する。外面口縁部直下に短い沈線を連続して廻らせ、頸部付近には斜位と横位の沈線を組み合わせで施す。外面は貝殻条痕及びナデ、内面はナデ及び工具



第75図 包含層出土土器（縄文 9a類土器）

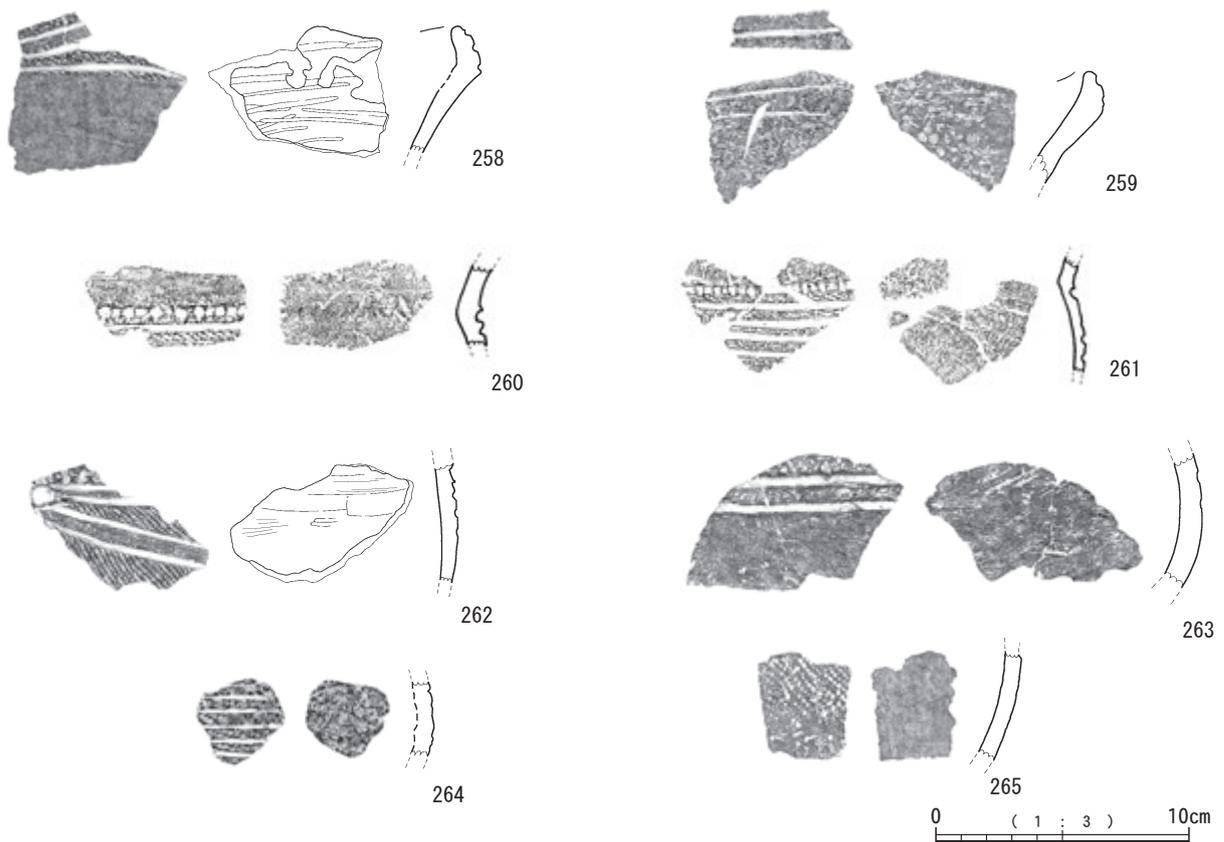
ナデにより器面調整される。255は254と同様の器形及び文様で、頸部よりやや上までの残存である。256は口唇部がナデられて丸みを帯び、若干内湾する。また、調整により内面に粘土が張り出す。外面はナデ後に横位の沈線文が施文される。外面口縁部直下から横位の沈線を廻らす。257はやや膨らむ胴部片で、ヘラ状工具による横位の沈線文が3条廻る。

**9b類土器（第76図）**

9a類土器よりも器壁が薄く、口縁部内面の屈曲が強いもしくは頸部の稜がシャープなものである。53点出

土し、8点図化した。

258は外面に明確な稜をもって屈曲し口縁部が内湾し、口縁部は山形を呈する。口縁部に文様帯をもち、沈線間に縄文がみられる。内外面ともにミガキで器面調整される。259は258と同じく口縁部が山形を呈し、3条の沈線がみられる。内外面とも摩滅が激しく、縄文が観察できない。胎土もやや粗いため、9a類に属する可能性もあるが、口縁部文様帯が比較的狭いため、9b類該当とした。260は胴部屈曲部周辺の破片である。屈曲は外面では緩やかだが、内面には段を有する。屈曲部周辺も沈



第76図 包含層出土土器（縄文 9b類土器）

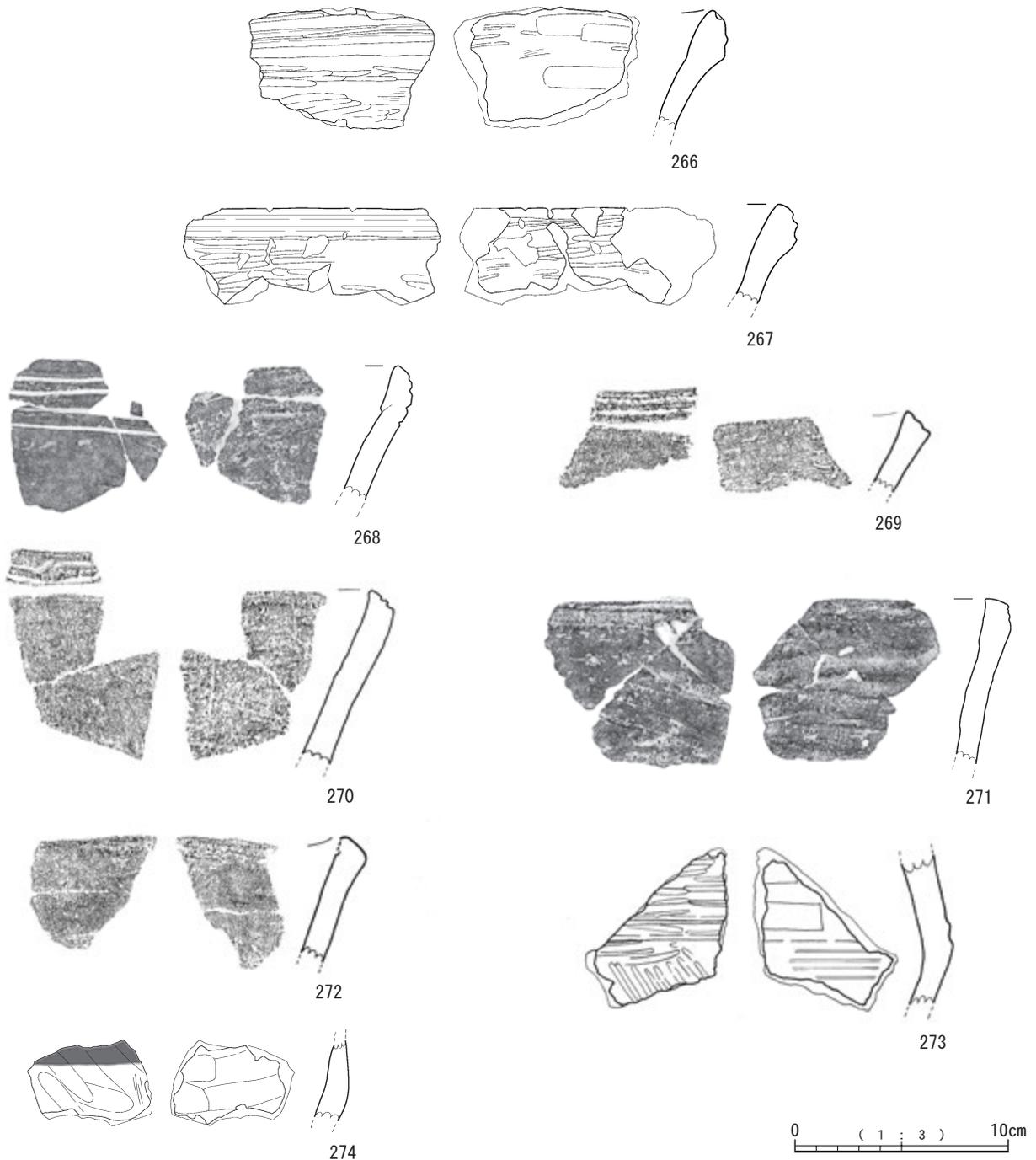
線文内に縄文を施し、その上位に連点文が廻る。261はやや小型で、丸みのある胴部であるが、屈曲部は内面で明瞭な段を有する。連点文の下に4条の沈線が廻り、その中にわずかに縄文が確認できる。内面はケズリの後にナデが施されている。262は胴部最大径付近の破片で、縦位の刻目と凹点、凹点から放射線状に延びる横位の沈線がみられ、沈線間には縄文が施される。内面はミガキ後ナデ、工具ナデで器面調整される。263は胴部最大径付近の破片で、横位の沈線と沈線間に縄文が施される。外面はミガキ及びナデ、内面はケズリ後ミガキで器面調整される。264は小型で、胴部最大径付近の破片である。横位の沈線と沈線間に縄文を施す。剥落が激しく、内面の調整は観察できなかった。265は胴部下半の破片と考えられる。斜位の縄文が施され、上部にわずかに横位の沈線がみられる。

#### エ 10類土器（第77図）

肩部がやや張り、口縁部が外反もしくはわずかに内湾するもの。口縁部及び肩部に沈線を廻らし、器壁が厚く器面全体にミガキ調整を施す。同器形の無文土器もこの分類に含めた。66点出土し、9点図化した。

266は外反する口縁部である。口縁部を断面三角形

に厚く肥厚させ、口唇部から肥厚帯にかけて3条の沈線を施す。外面はミガキ及びナデ、内面はミガキ・工具ナデにより器面調整される。267は266と同様の器形だが、口唇部に平坦面をもつ。口縁部外面に2条の沈線を施す。内外面ともにミガキ及びナデにより器面調整される。268は口唇部から口縁部が丸みを帯びる。口縁部付近に粘土の継ぎ目がみられる。口縁部直下に比較的細い4条の沈線が廻る。外面はミガキ後ナデ、内面はケズリ後ミガキにより器面調整される。269は口縁部を断面三角形に肥厚させて文様帯とし、2条の沈線文を廻らせる。内外面ともにミガキ後ナデにより器面調整される。270は口縁部を断面三角形に肥厚させ、やや粗雑な2条の沈線を廻らせる。外面は工具ナデ及びナデ、内面はミガキ後工具ナデにより器面調整される。胎土に小礫を多く含む。271は頸部付近からやや外反して立ち上がる。口唇部は平坦面をもち、口縁部は外面のケズリ調整により断面三角形になる。口縁部外面が剥落しているため、沈線の有無は確認できない。内外面ともケズリ後ミガキにより器面調整される。272は口縁部を断面三角形に肥厚させる。内外面ともにミガキ後ナデにより器面調整される。273は「く」字状に張る胴部片で、上位に向けて器壁が厚くなる。胴部最大径付近に2条の沈線文が廻

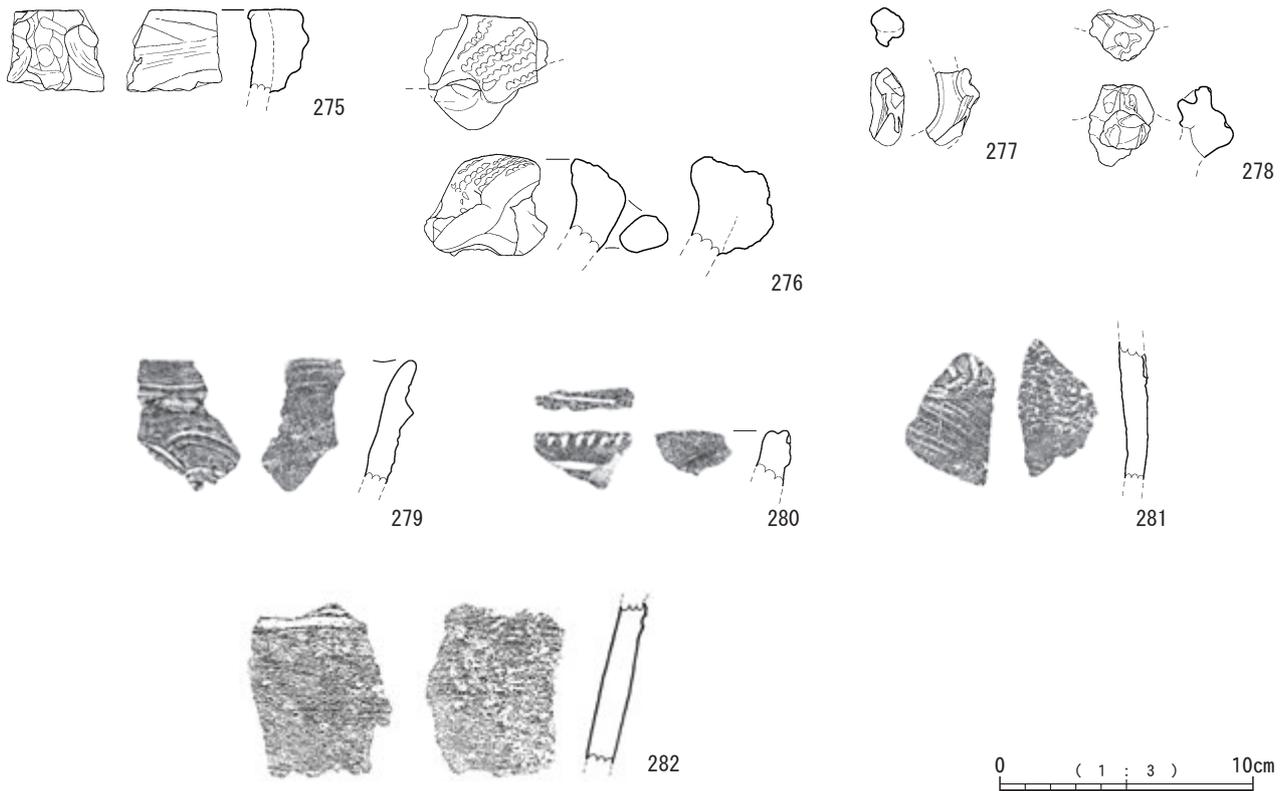


第77図 包含層出土土器（縄文 10類土器）

る。外面はミガキ、内面はミガキ後ナデにより器面調整される。274はやや丸みを帯びる胴部片で、比較的小型である。上部に行くにつれ器壁が薄くなり、破片上部にススが多量に付着している。ススの年代測定を行った結果、BC1694-1608の年代が得られた。詳しい分析結果は第V章を参照していただきたい。

オ 11類土器（第78図275～278）

後期該当の装飾突帯をまとめた。4点出土し、図化した。275はやや内湾する口縁部に長い瘤状に付けた突帯で、突帯前面は幅の広いヘラ状工具を当てることにより凹凸をもつ。突帯上端は平坦に作られている。胴部の凹線が突帯端部まで「ハ」字状に延びる。276は内湾する口縁に粘土紐をアーチ状に貼り付ける。口唇部には貝殻刺突文を施す。胎土や文様から8類土器に該当する可能性がある。胎土に白色粒子が目立つ。277は突帯のみの残存



第78図 包含層出土土器（縄文 11類・12類土器）

で、細い筒状の粘土紐の上にさらに粘土を貼付している。全体の形が判然としないが、横位の突帯の可能性もある。278は突帯のみの残存で、断面が三角形となる。細い工具による刺突文を外面及び口唇部に施す。

#### カ 12類土器（第78図279～282）

7～11類以外の後期土器をまとめた。24点出土し、4点図化した。

279はやや外反する口縁部で、口縁部近くに断面三角形の突帯を貼付する。口縁部から突帯までの範囲には横位の凹線、突帯下から胴部にかけては弧状の凹線を施文する。凹線は先端が二又に分かれたヘラ状工具を使用している。内外面ともナデにより器面調整される。280は残存部が少なく器形が把握しづらいが、ほぼ直立すると考えられる。口縁部で、口唇部に沈線が廻る。口縁部に沿って刻目が施され、その下の外面に沈線が横位に施される。281は貝殻刺突文を縦位に施し、貝殻刺突文の下には小型の二枚貝の背部分を押し引いたような文様が横位に施される。外面は貝殻条痕が残り、内面はケズリとナデにより器面調整される。282は器壁の厚い胴部片で、外面に横位の沈線文が2条施される。胎土に雲母が目立つ。

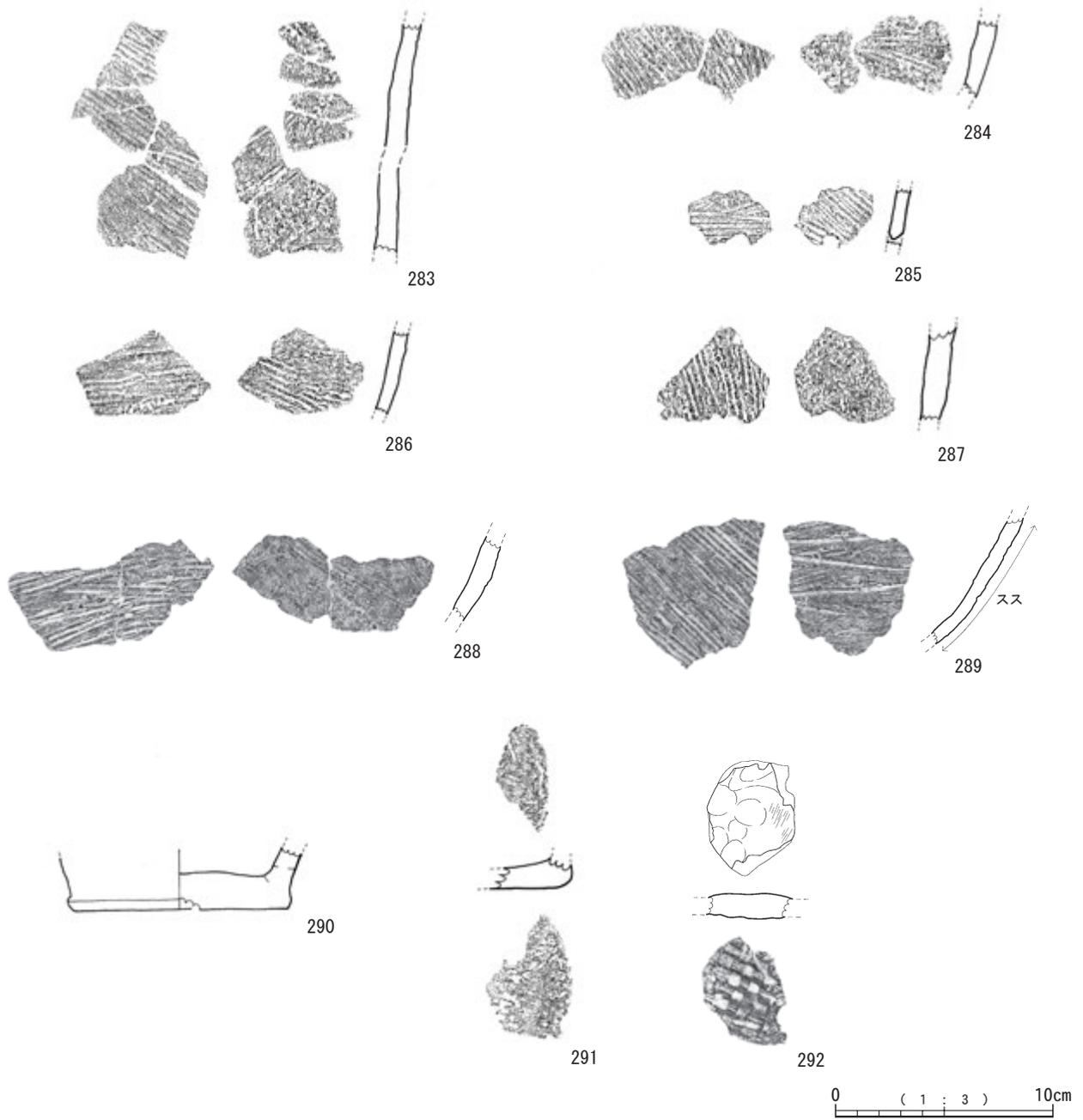
#### キ 胴部・底部（第79図）

759点出土し、10点図化した。283～289は外面に貝殻条痕がみられる胴部片である。283はやや外反しながら直立する胴部片で、内面はナデにより器面調整される。284は内外面とも貝殻条痕が残るが、全体的に粗い。285は比較的薄く丁寧に作られており、補修孔がみられる。内外面とも明瞭に貝殻条痕が残る。286は内外面ともに貝殻条痕及びナデで器面調整される。287は器壁が厚く、内面は部分的に剥落しているがわずかに貝殻条痕が確認できる。288の内面は貝殻条痕及びナデにより器面調整される。289の内面は貝殻条痕後工具ナデにより器面調整され、工具ナデにより段が数段作出される。

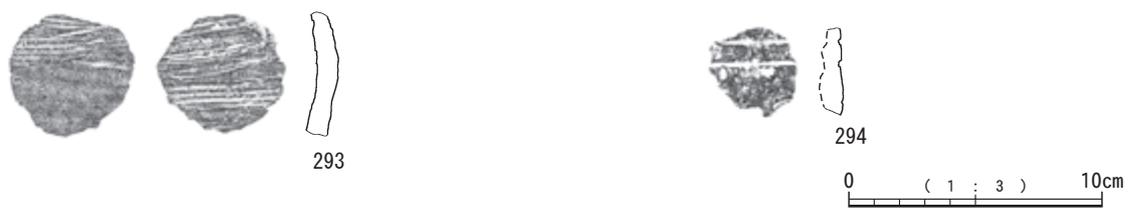
290～292は底部である。290は摩滅が激しく、調整の観察が困難であったが、内外面ともわずかにナデが観察できる。底部端がわずかに張り出し、調整により端部に平坦面をもつ。291は平底の底部のみの残存で、外底面はナデにより平坦に調整されているが部分的に剥落がある。292は内底面に指オサエが明瞭に残り凹凸が激しい。外底面には網代編みの敷物圧痕及び白い付着物がみられる。

#### ク 円盤状土製品（第80図）

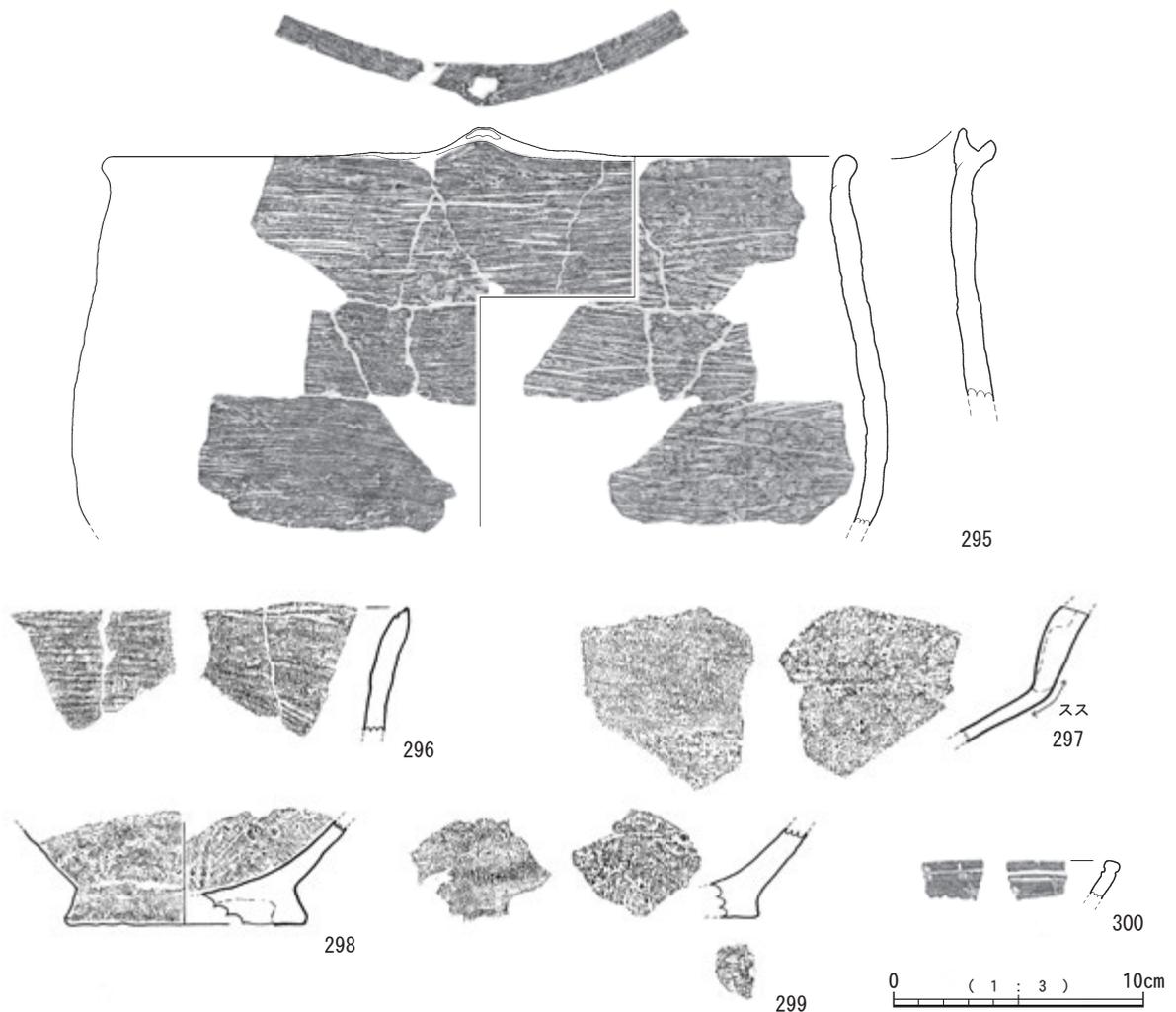
3点出土し、2点図化した。293・294は円盤状土製品である。293は頸部付近を利用していると考えられる。外面の一部と内面の全面に貝殻条痕がみられる。294は小型で、外面に2条の沈線と不規則な刺突がみられる。



第79図 包含層出土土器（縄文後晩期胴部・底部）



第80図 包含層出土土器（円盤状土製品）



第81図 包含層出土土器（縄文 13類土器）

内面は全面が剥落しており調整は確認できない。

## ② 晩期土器

縄文時代晩期該当の土器は13類に分類した。

### 13類土器（第81図）

深鉢形もしくは中華鍋形を呈するもの。深鉢形土器には条痕を全面に施し、中華鍋形には組織痕がみられるものもある。27点出土し、6点図化した。

295・296は深鉢である。295は丸みを帯びた胴部からやや内湾して口縁部へ至る。口縁部端部は玉縁状に肥厚してわずかに外反する。平口縁を呈するが、一部を山形につくり出し口唇部に深い凹点を施す。内外面とも条痕が明瞭に残る。296の口縁部は外反し、内面の貝殻条痕により口唇部が尖る。内外面ともに貝殻条痕が残る。297は深鉢形と中華鍋形の間のような器形を呈すると考えられる。強く屈曲した腰部付近で、屈曲部付近にわ

ずかにススが付着する。内外面ともナデにより器面調整される。298・299は深鉢の底部である。いずれも張り出した脚部からやや丸みを持って胴部へ立ち上がる。298の外表面は粗いナデ、内表面はケズリ及びビナデにより器面調整される。299は外表面はナデ、内表面は貝殻条痕後ナデにより器面調整される。

300は小型の精製浅鉢の口縁部で、マリ形を呈する可能性もある。口唇部は平坦面をもつ。外表面に1条、内表面に2条の沈線が口縁部に沿って廻る。胎土に細かい白色粒子が目立つ。

### 第3節 弥生時代の調査成果

#### 1 調査の概要

弥生時代の出土遺物は非常に少なく、I～V層までの幅広い層から出土した破片が接合するため、数少ない土器片がさらに攪乱を受けている可能性が高い。土器片が24点出土し、うち10点を図化した。なお、遺構は確認されなかった。

#### 2 遺物

##### (1) 刻目突帯文土器 (第82図 301～305)

13点出土し、5点図化した。301～303は口縁部である。301は胴部が稜をもって「く」字状に屈曲し、そのまま口縁部へ立ち上がる。口縁部に刻目突帯を施し、刻目は指の凹圧により施文される。内面は剥落が激しい。302はやや外反する口縁部で、刻目突帯を廻らせる。指の凹圧による刻目で、やや不規則に施文される。303はわずかに外反する口縁部で、口縁部に粘土を薄く貼り付けてわずかに肥厚させ、指の凹圧による刻目を施文する。

外面はナデ、内面は工具ナデにより器面調整される。

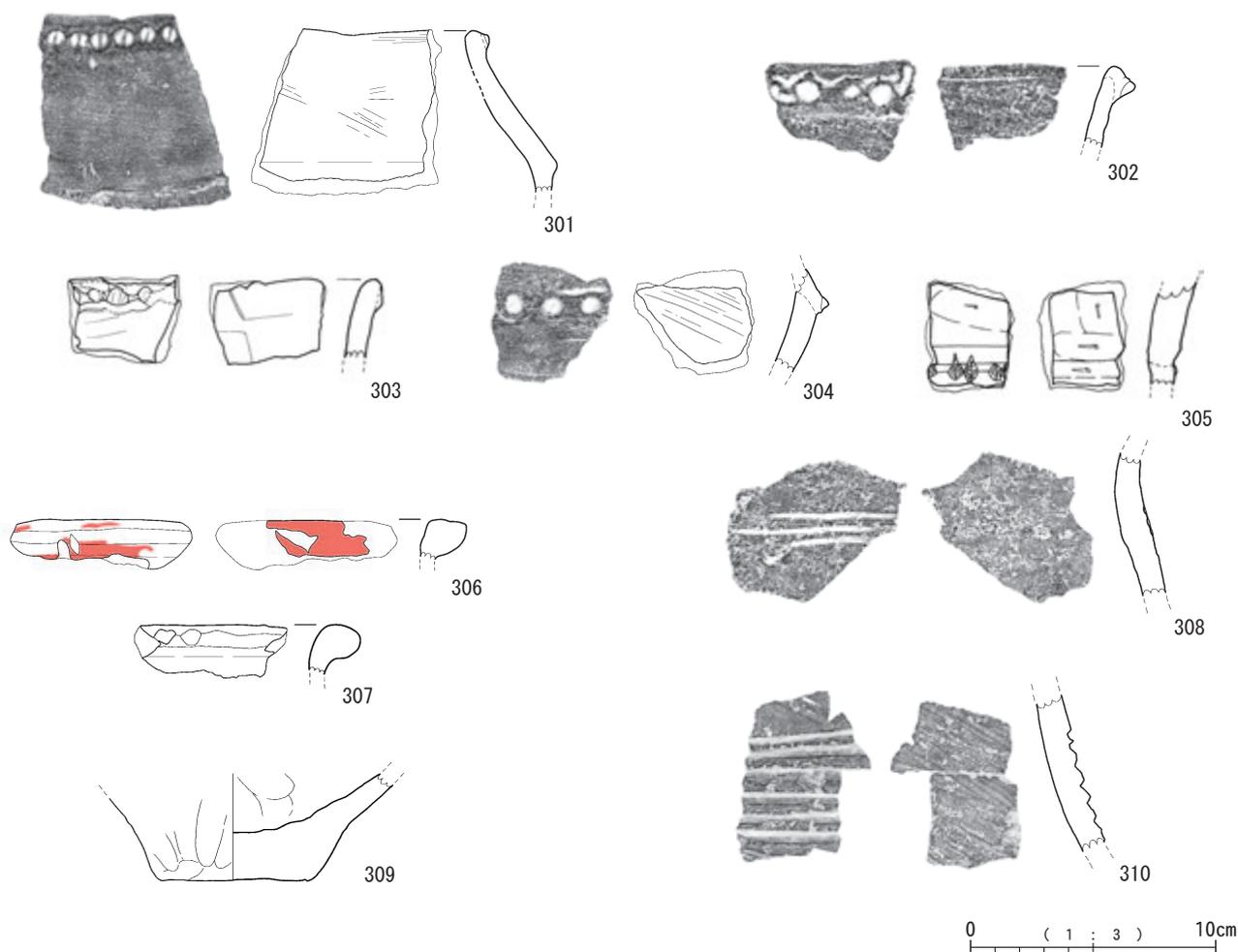
304・305は胴部である。304は屈曲する胴部片で、張り出し部に粘土を薄く貼り付けて肥厚させ、指の凹圧による刻目を施文する。305は外面の刻目突帯文上部には調整による段が作られ、突帯文裏面は調整により器壁が薄くなる。外面はケズリ及び工具ナデ、内面はケズリ及びナデにより器面調整される。

##### (2) 入来Ⅱ式土器 (第82図 306～309)

10点出土し、4点図化した。306・307はいずれも分厚く張り出す口縁部である。306は、器壁が部分的に剥落しているが全面に赤色顔料が塗布される。308は壺の頸部付近と考えられる胴部片で、外面に3条の沈線を施す。309は壺の平底の底部である。

##### (3) 不明土器 (第82図 310)

310は器形や施文から弥生時代の壺に類似する土器としたが、内面に貝殻条痕がみられるため、注意が必要である。外面に少なくとも7条の深い沈線が廻る。



第82図 包含層出土土器 (弥生土器)

## 第4節 古墳時代の調査成果

### 1 調査の概要

古墳時代以降の該当包含層はⅡ層であるが、調査区内の傾斜地やかつて谷地形だったと想定される範囲は堆積が薄く、畑地造成のために削平されている箇所もあり、部分的に残存している状態であった。

調査は、重機で表土を除去後、人力による掘り下げを進めながら、遺構検出を行い、令和5年度の調査では、調査区東側から古墳時代の竪穴建物跡が1軒検出された(第83図)。また、包含層からは土器片が2085点出土し、うち土器96点を図化した。遺物の出土区は、B～E-5～9区の谷部に特に集中する(第87図)。

### 2 遺構

#### 竪穴建物跡(第84図～第86図)

E-22・23区のV層で検出された。全体的に現代の耕作による削平を受けており、特に北側は表土を除去するとⅦ層(アカホヤ火山灰層)が見える状況であった。その時点で黒色土が方形の半分程度確認できたため、南側の表土を除去するとV層中にⅡ層の暗褐色土が見えたことから遺構のプランを確定した。

現代の溝に切られている部分があるが、現状から長軸4.60m、短軸4.20m程度で、隅がやや丸みを帯びた方形を呈すると想定される。地形は南東に向かって傾斜しているが床面はほぼ水平で、検出面からの深さは0.17～0.34mである。床面には、2～10cm程度のアカホヤ火山灰がブロック状に混ざっている。また、南西側の隅に土坑(竪穴内土坑1)及びピット8基を伴う。平面は略隅丸方形、断面は逆台形で、床面からの深さは0.5m程である。埋土はやや粘性のある黒色土でしまりがある。

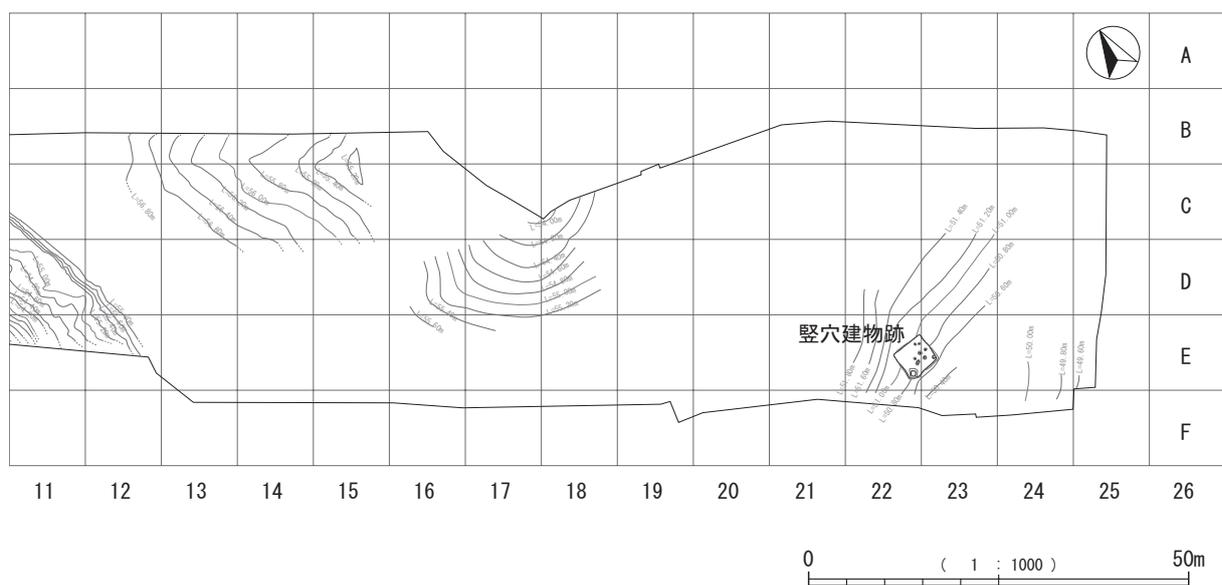
土坑内から遺物は確認されなかった。ピットは、上部が削平を受けていたために、全体的に浅く支柱穴の判断が難しい。竪穴建物跡の埋土は4層に分けられ、レンズ状の堆積が見られる。埋土③・④が貼床と想定される。なお、床面に近い埋土中から出土した炭化物を小分けに採取し、うち3点を放射線炭素年代測定を実施した結果、較正年代でそれぞれAD362-439, AD331-412, AD346-428の年代が得られた。おおよそ4世紀半ば～5世紀前半ごろと考えられる。

竪穴建物内の遺物は45点出土し、15点図化した。土器片のまとまりが北側を中心に確認された。しかし、埋土中の様々な高さで出土しており、異なる時期の土器の混ざり込みも見られる。

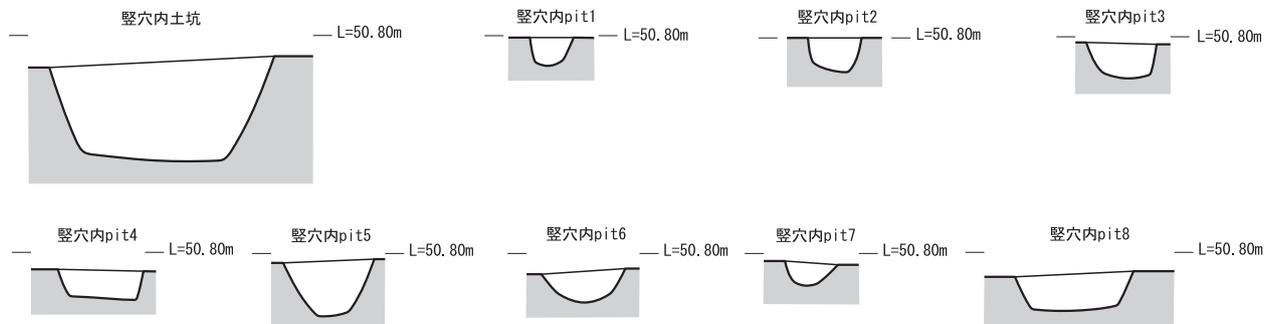
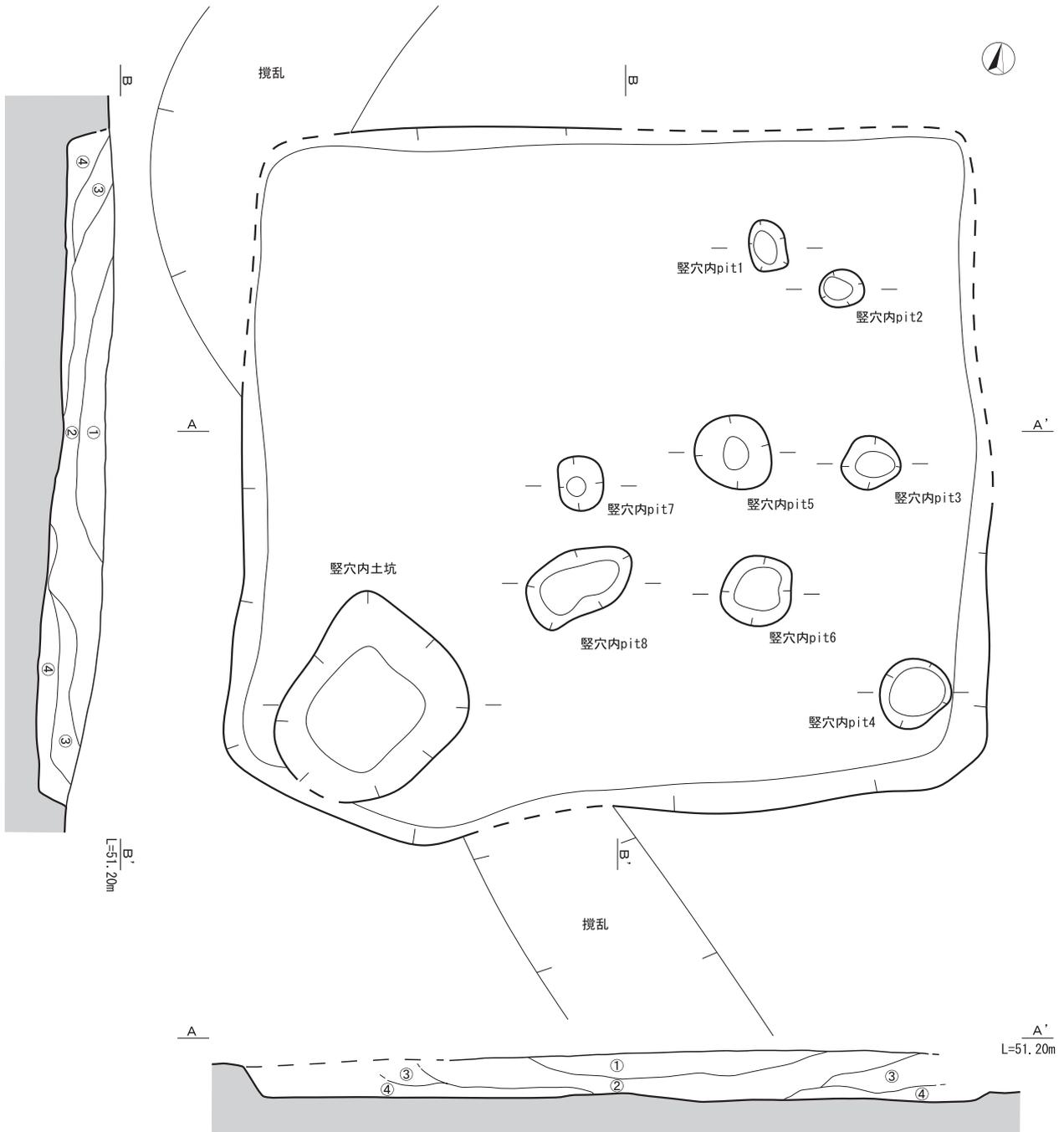
311～313は縄文土器である。いずれも後期に該当すると考えられる。311は8a類土器に該当する。口縁部が内面に稜をもって外反し、外面に斜位の貝殻刺突文を施す。312は8b類土器に該当する。口縁部が直行し、内面には貝殻条痕が残る。外面に斜位の貝殻刺突文が2段施される。313は型式不明のため12類土器とした。外面に斜位の刺突文を施す。

314～316は甕の胴部である。いずれも刻目突帯文を貼付した胴部最大径付近の破片で、314は器壁が比較的薄く作られる。いずれも刻目には布目痕が確認できる。314・315は刻目突帯付近にススが付着する。

317～320は壺の口縁部である。317・318は膨らんだ胴部から頸部で強く屈曲し、外反して口縁部へ至る。口唇部はケズリにより明瞭な平坦部をもち、口唇部に1条の溝が廻る。319・320は大きく開く口縁部片である。いずれも内外面ともに工具ナデ及びびナデにより器面調整される。317～320はいずれも中津野式に該当すると考えられる。



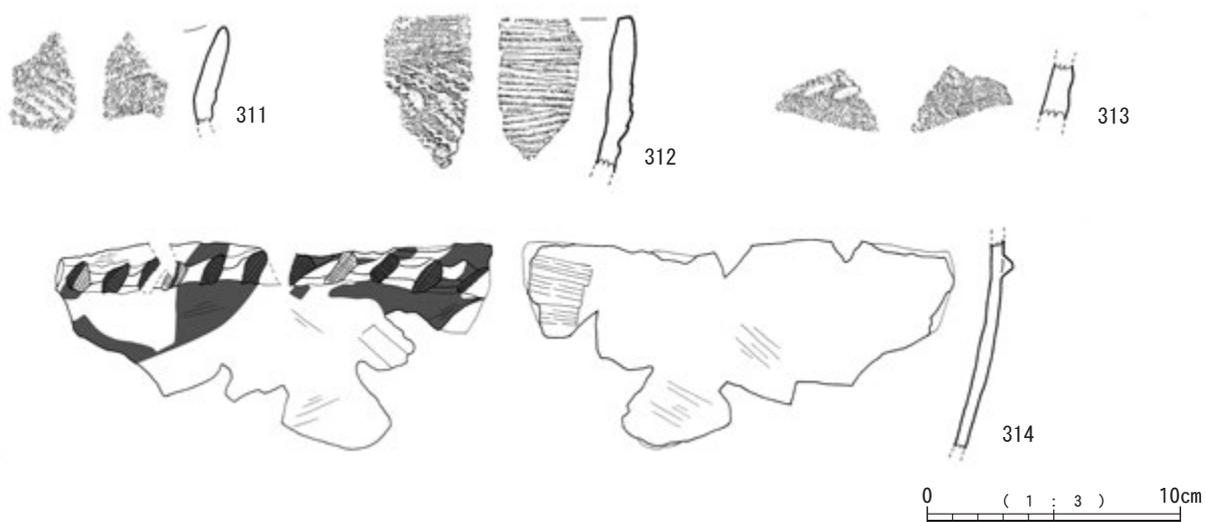
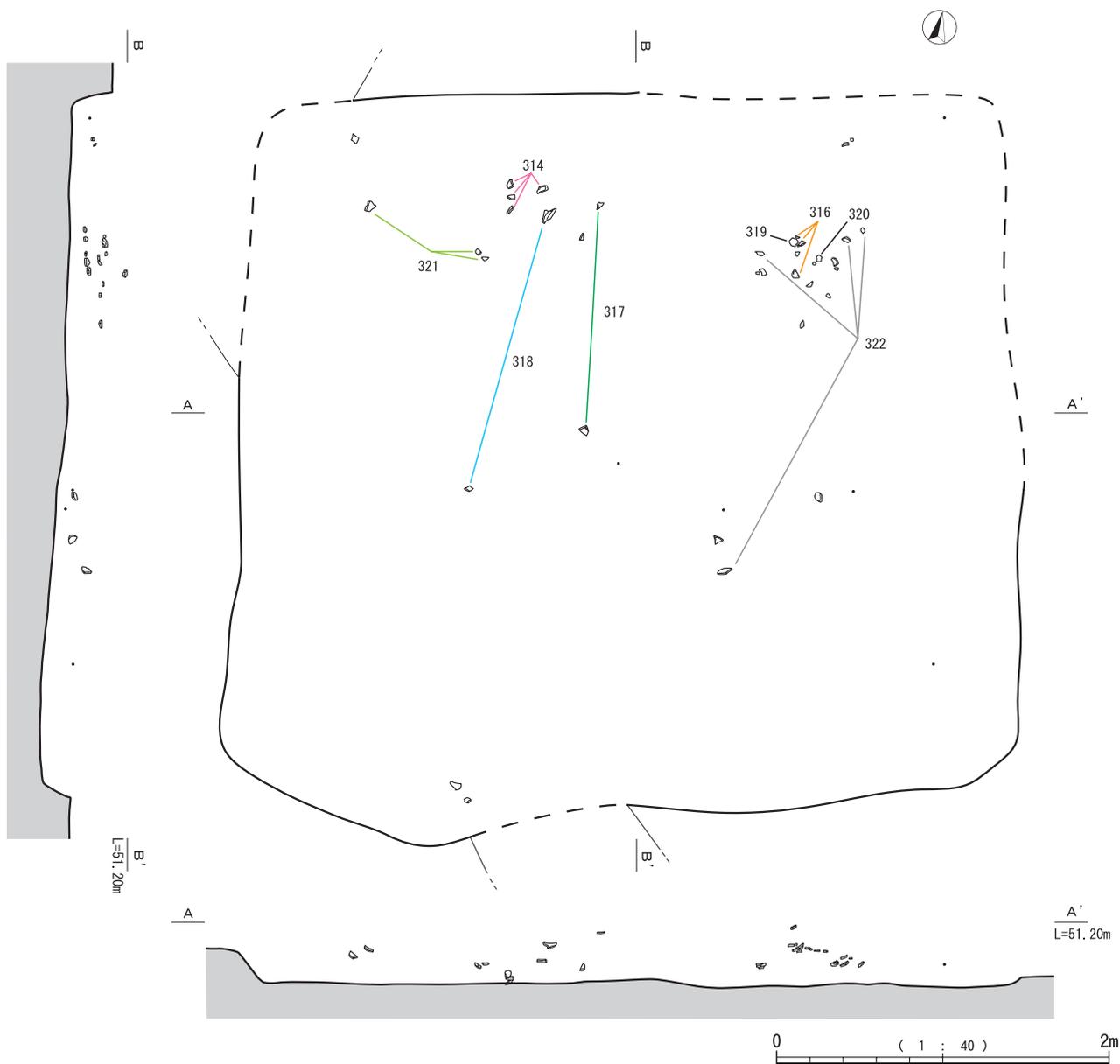
第83図 古墳時代遺構配置図



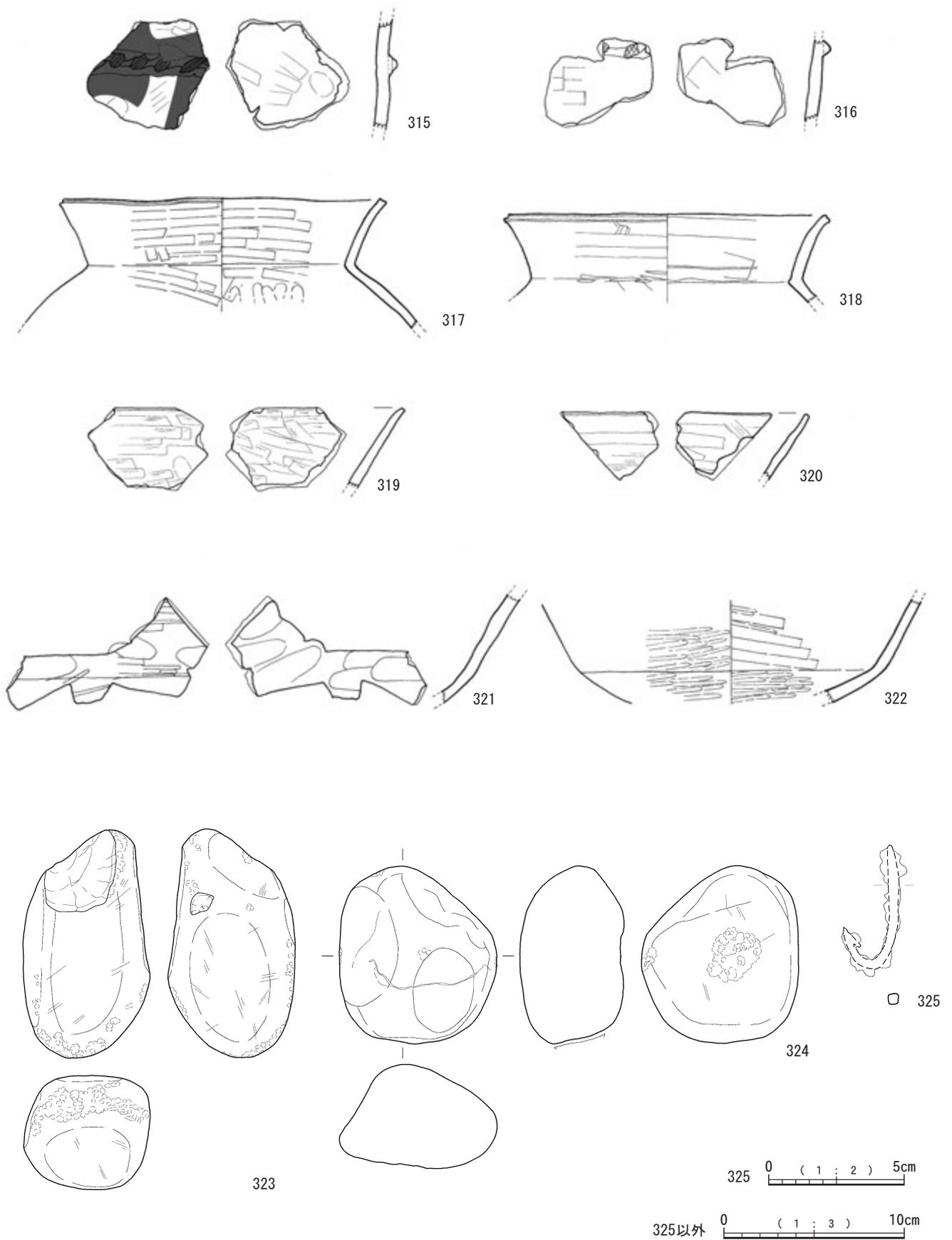
- 竖穴建物跡 埋土
- ① 暗黒褐色土 (7.5YR4/3) 粘性なし、しまり強い。やや硬質。
  - ② 暗褐色土 (7.5YR2/3) 粘性なし、しまりやや強い。①よりは少し明るめ。
  - ③ 褐色土 (7.5YR4/4) 粘性なし、しまりなし。①より明るい。2~4cm程度のアカホヤパミスを含む。
  - ④ 褐色土 (7.5YR4/6) 粘性なし、しまりなし。一番明るい。5~10cm程度のアカホヤブロックを含む。
- 竖穴建物跡内土坑 埋土
- 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性ややあり、しまりあり。



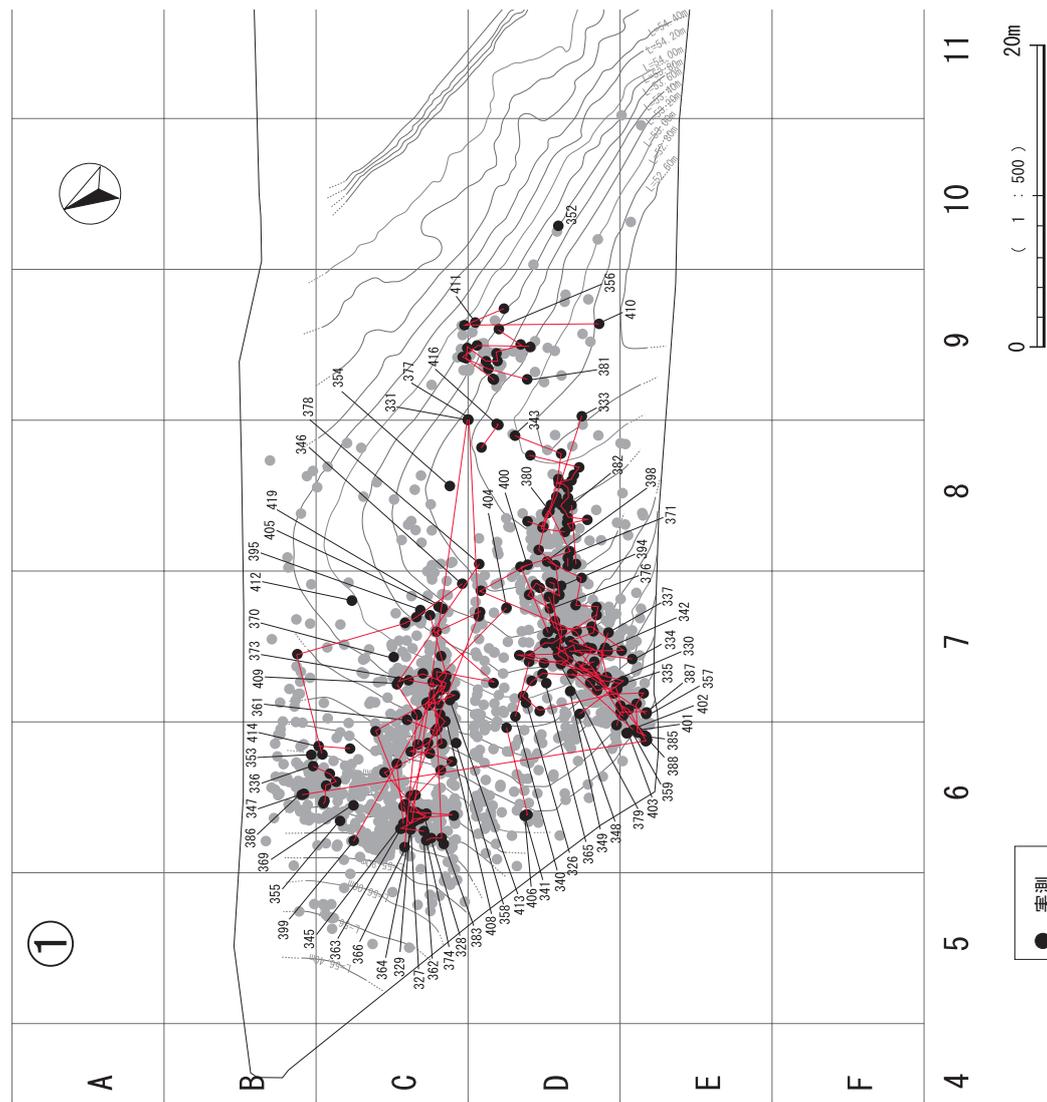
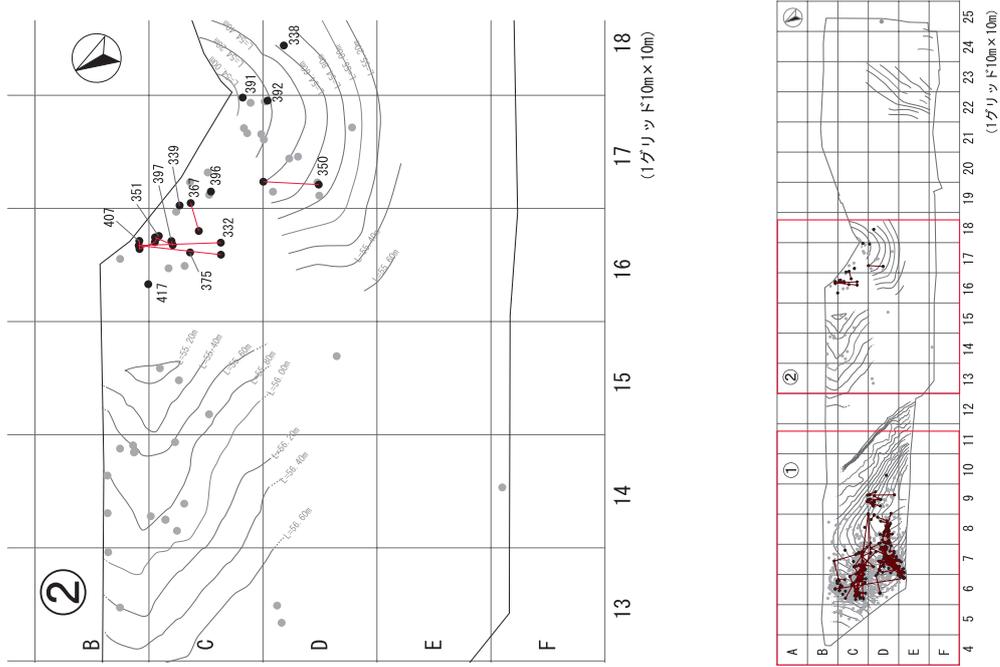
第84図 竖穴建物跡



第85図 竪穴建物跡遺物出土状況図・出土遺物 1

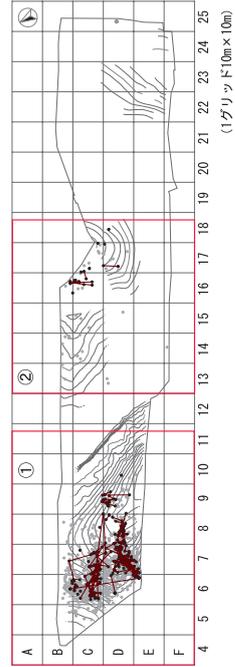


第86図 竪穴建物跡出土遺物 2

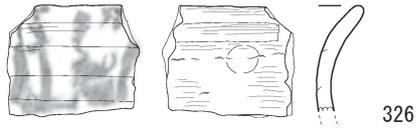


● 実測  
● 非実測

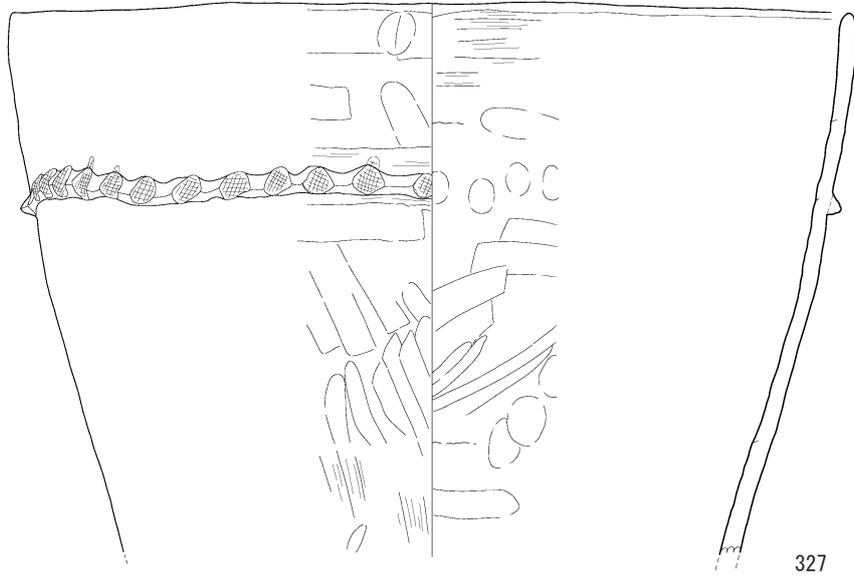
0 ( 1 : 500 ) 20m



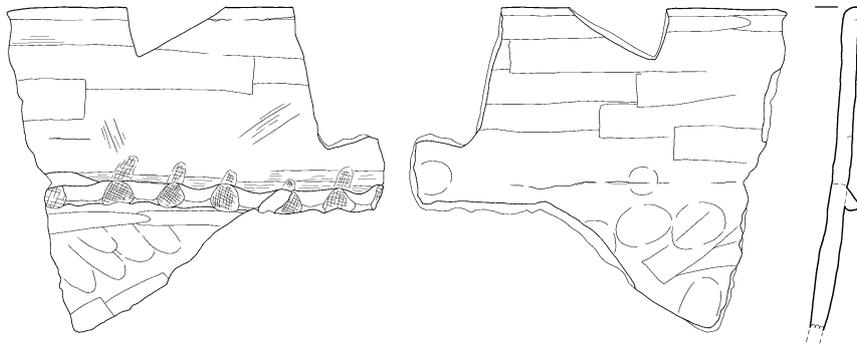
第87図 古墳時代土器出土状況図



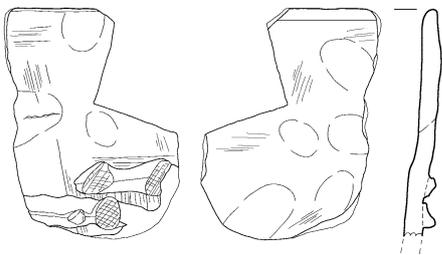
326



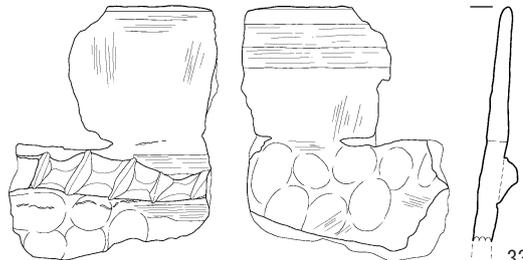
327



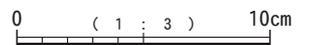
328



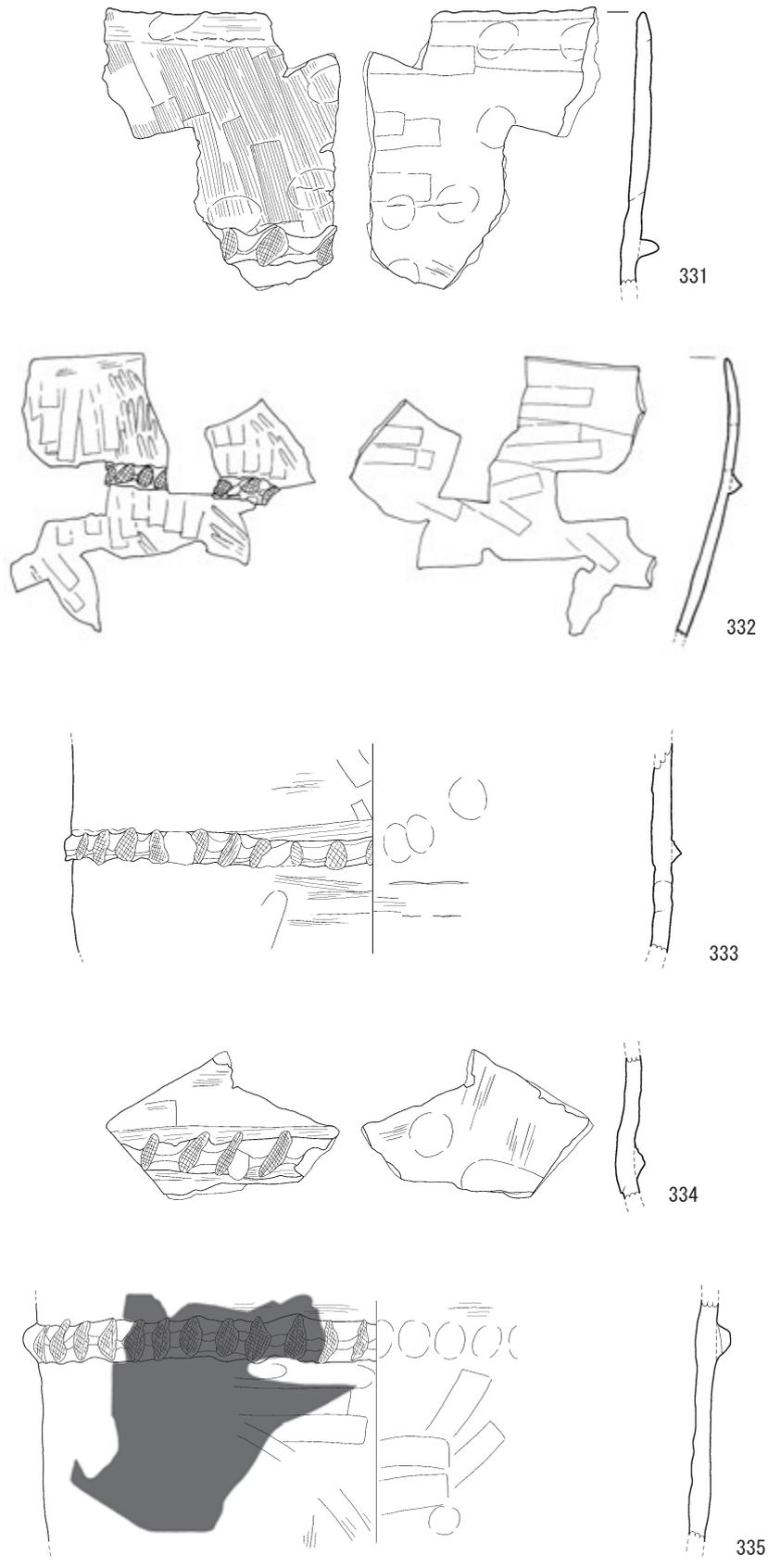
329



330

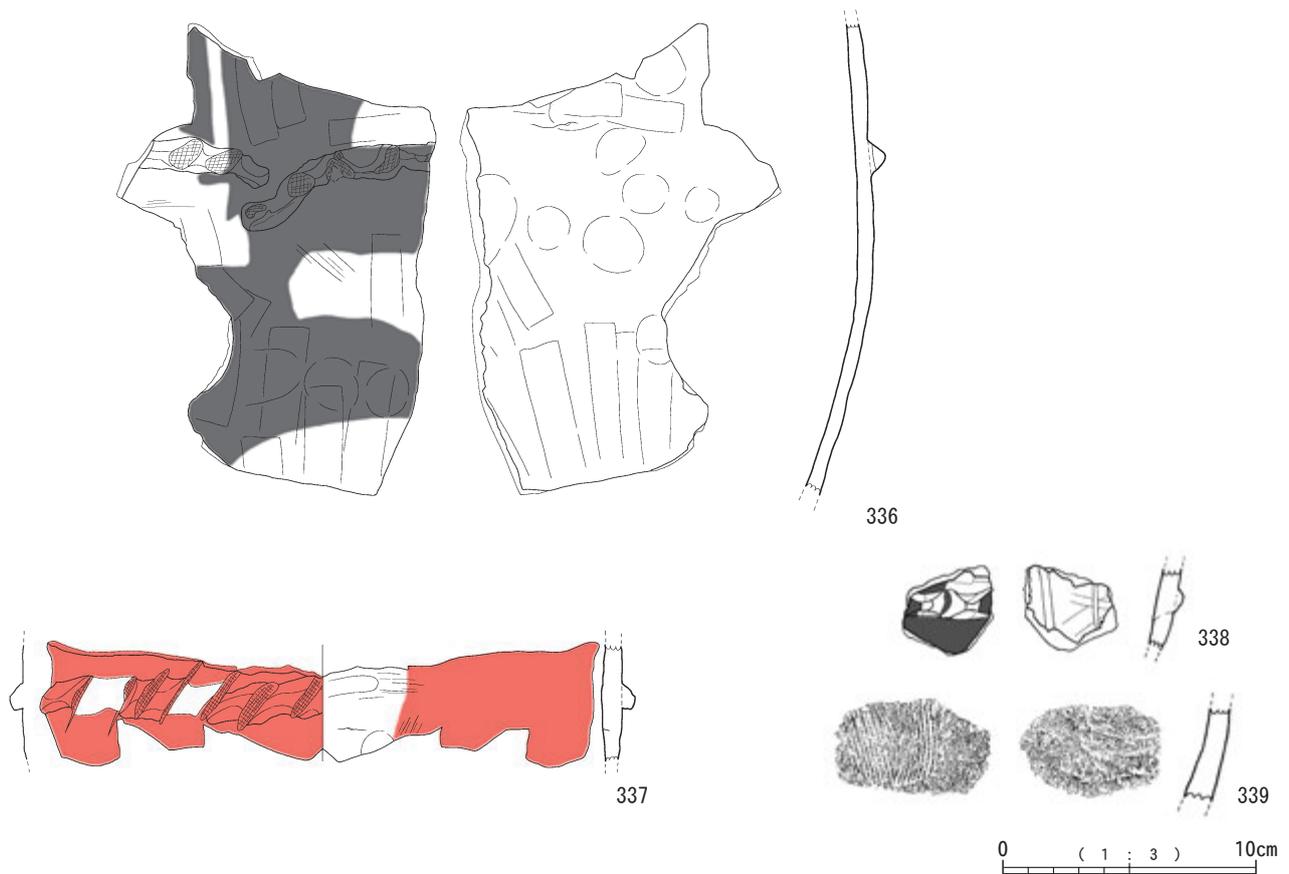


第88図 包含層出土土器（古墳 甕1）



0 ( 1 : 3 ) 10cm

第89图 包含層出土土器 (古墳 甕2)



第90図 包含層出土土器（古墳 甕3）

321・322は高坏の坏部である。321は坏部底部から緩く屈曲して直線的に口縁部へ至る。外面はミガキ及び指ナデ、内面は指ナデにより器面調整される。322は321と同様の器形だが、屈曲がわずかに強い。外面はミガキ、内面はミガキ及び工具ナデにより器面調整される。胎土がいずれも317～320の壺に類似する。

323・324は磨・敲石である。323はやや縦長の不定形な砂岩を用い、表裏面と両側面に磨りによる光沢面を有する。両先端部に敲打痕が確認でき、上面は敲打に伴うと考えられる剥離がある。324は丸みを帯びた不定形な砂岩を用い、表裏面の中央部に敲打痕を残す。特に裏面には、断面観に明瞭な凹みを形成するほどの敲打の集中部が観察できる。

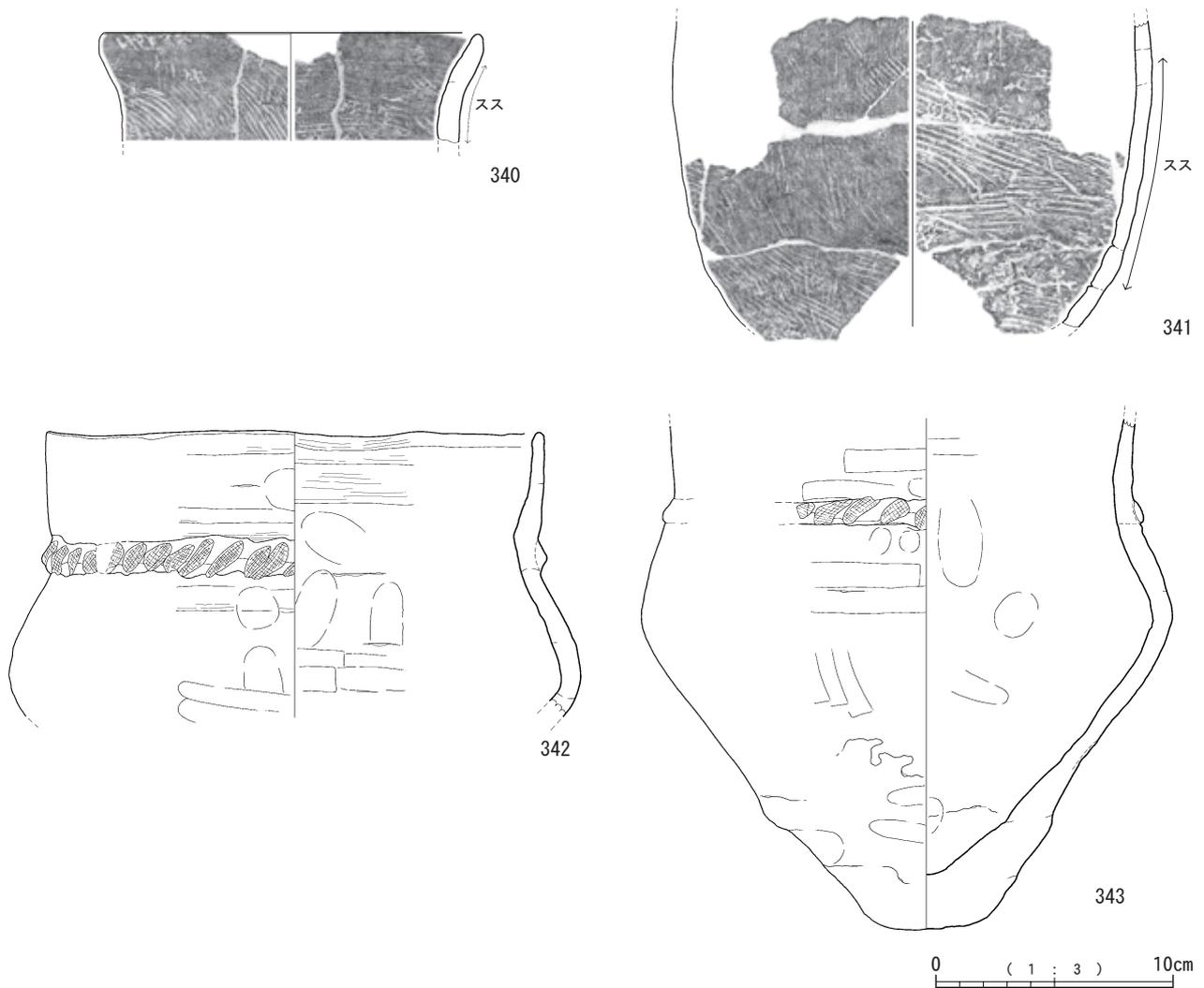
325は、鉄製の針を「J」字状に湾曲させたもので、釣り針と考えられる。最上部（根元部分）は、丸く収めるもので、チモト（釣り糸を結ぶ箇所）の作出は確認できない。針先は、先端を鋭利に加工する。針先の方向とは逆向きに、カエシ（内側に尖らせた部分）が確認される。軸部の断面は角が丸まった方形である。

### 3 遺物

#### (1) 甕（第88図～第92図）

甕はほぼ共通した器形をもつため、細分は行わなかった。

326は外反する甕の口縁部で、外面に黒色の吹きこぼれ痕がみられる。外面は工具ナデ、内面は工具ナデ及びナデにより器面調整される。327は胴部から口縁部にかけてわずかに外反しながら直線的に立ち上がる。刻目突帯を廻らせ、刻目には布目痕が確認できる。内面には突帯に沿って指オサエがみられる。工具ナデを主として、ミガキ・ナデ・指ナデにより器面調整される。328はほぼ直行する口縁部で、口縁端部は粘土を貼り付けてわずかに肥厚させる。刻目突帯の刻目には布目痕が確認でき、突帯上部に布目痕が大きくはみ出ている。内外面とも工具ナデを中心に指ナデ・ナデにより器面調整される。329はほぼ直行する口縁部で、刻目突帯が互い違いに交差するように貼付される。刻目は布目痕が確認できる。外面は、にぶい橙色の胎土の上から意図的ににぶい白色の胎土を重ねている。内外面ともにナデにより器面調整

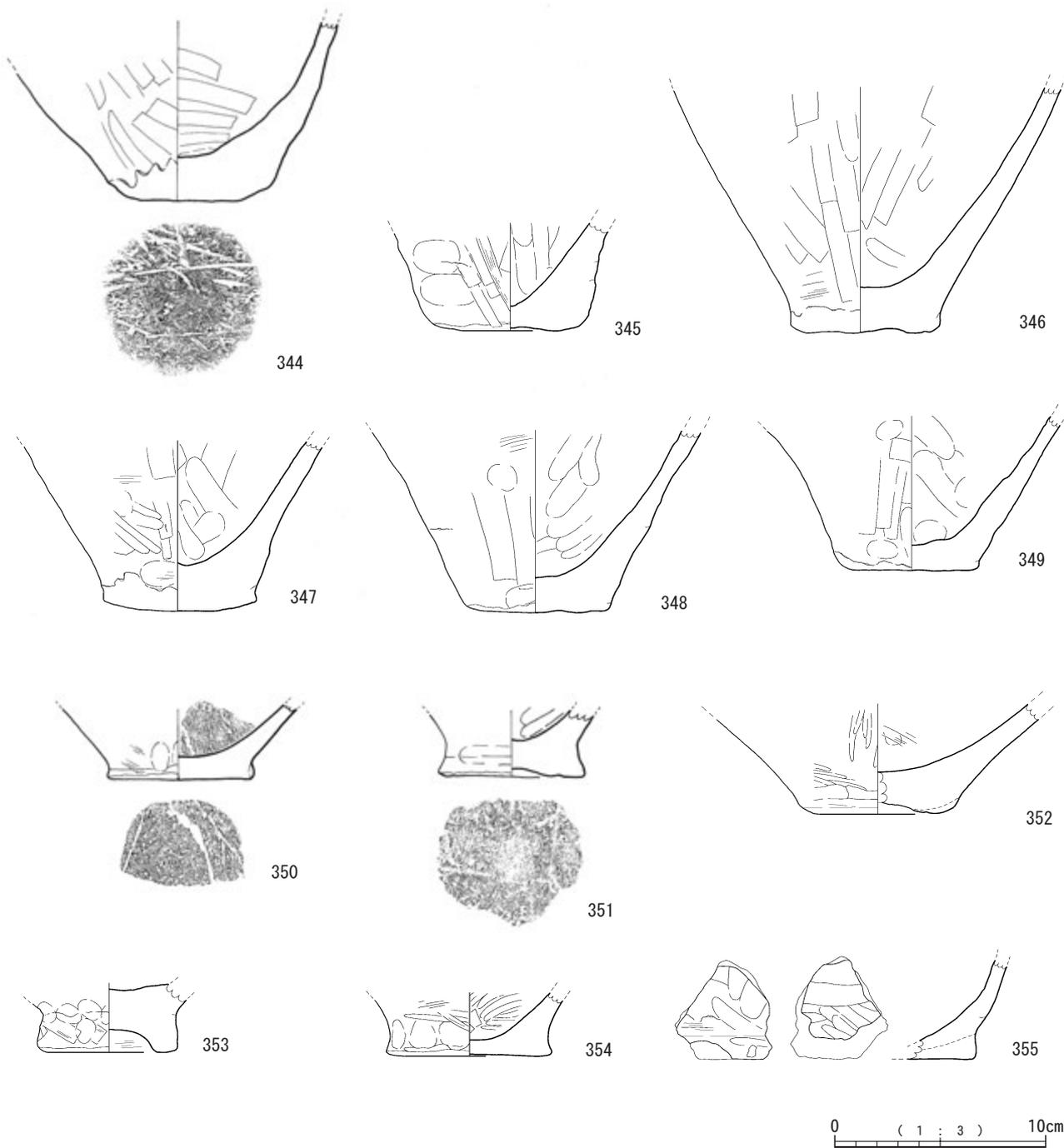


第91図 包含層出土土器（古墳 甕4）

される。330は直行した口縁部で、幅が不均一な刻目突帯を巡らす。刻目は比較的細い。内外面ともナデにより器面調整される。331はほぼ直行する口縁部で、大きく張り出す刻目突帯を貼付する。外面はハケ目、内面は工具ナデにより器面調整される。332は器壁が比較的薄く、口縁部が内湾する。刻目突帯は幅が狭く、刻目は密で布目痕が確認できる。甗とともに使用された甕の可能性もある。外面はミガキ及び工具ナデ、内面は工具ナデにより器面調整され、丁寧な作りである。333～335は刻目突帯付近の胴部片で、いずれの刻目も布目痕が確認できる。334の刻目は細長く突帯上部に布目痕がはみ出す。335は外面にススが付着する。いずれも工具ナデ及びナデにより器面調整される。336は器壁が薄く、底部付近からやや外反して胴部に向かって立ち上がり、口縁部へは直線的に立ち上がる。刻目突帯は互い違いに交差する

ように貼付される。突帯周辺から胴部下半までの広い範囲にススが付着し、吹きこぼれによりススが流れた筋が確認できる。337は刻目突帯の刻目が細く、突帯の上下に布目痕及び工具痕がはみ出す。全面に赤褐色の顔料が塗布される。338は刻目突帯付近の小片で、刻目が非常に浅く布目も確認できない。外面にススが付着する。内面は工具ナデにより器面調整される。339はハケ目が顕著に残る胴部片である。内面は工具ナデにより器面調整される。

340～343は甕のなかでも丸底の底部をもつ、いわゆる丸底甕である。340・341は内外面ともにハケ目が顕著に残り、輪積み痕も残るなど粗雑な作りである。340はハケ目調整により外面頸部付近に段ができる。いずれも外面にススが付着している。342・343は胴部が強く張り、頸部で屈曲したのち直行して口縁部へ至る。343

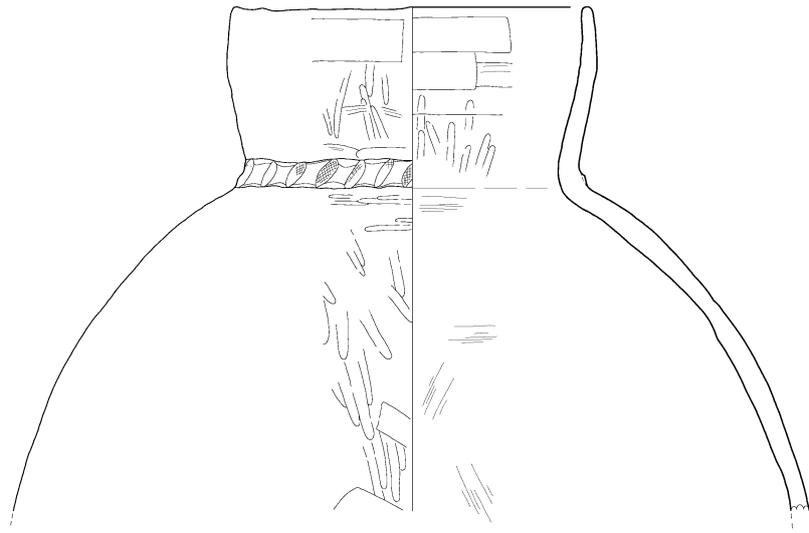


第92図 包含層出土土器（古墳 甕5）

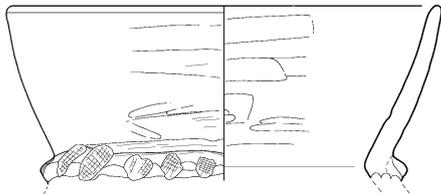
は丸底の底部が残存するが、胴部下半から底部にかけ粘土を薄く貼り重ねているため厚みが増し、調整も粗雑なため器壁の凹凸が激しい。刻目突帯の刻目は密で布目痕が確認できる。いずれも工具ナデを中心に、指ナデやナデにより器面調整される。

344～355は甕の底部である。344はいびつな平底で、底部付近に粘土を貼り重ねており器壁が厚くなる。底部に植物の茎のような圧痕がみられる。内外面とも工具ナデにより器面調整される。345はわずかに上げ底になる

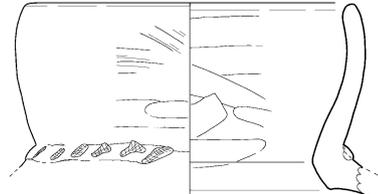
平底で、329に類似したにぶい橙色及び白色の胎土である。外面は工具ナデ、内面は強い指ナデにより器面調整される。346は底部から直線的に外反して立ち上がる。外底面から底端部にかけて粘土の貼り重ねがみられる。内外面とも工具ナデ及び指ナデにより器面調整される。347も外底面から底端部にかけて粘土の貼り重ねがみられ、外底面がやや丸みを帯びる。外面はミガキに近い工具ナデ及びナデ、内面は指ナデにより器面調整される。348・349は外底面から底端部にかけて控えめな粘土の



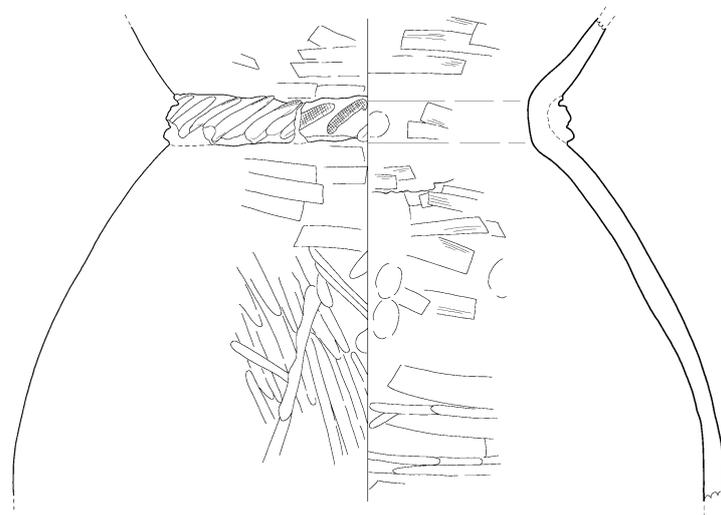
356



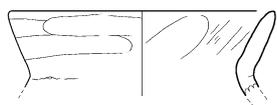
357



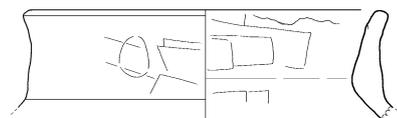
358



359



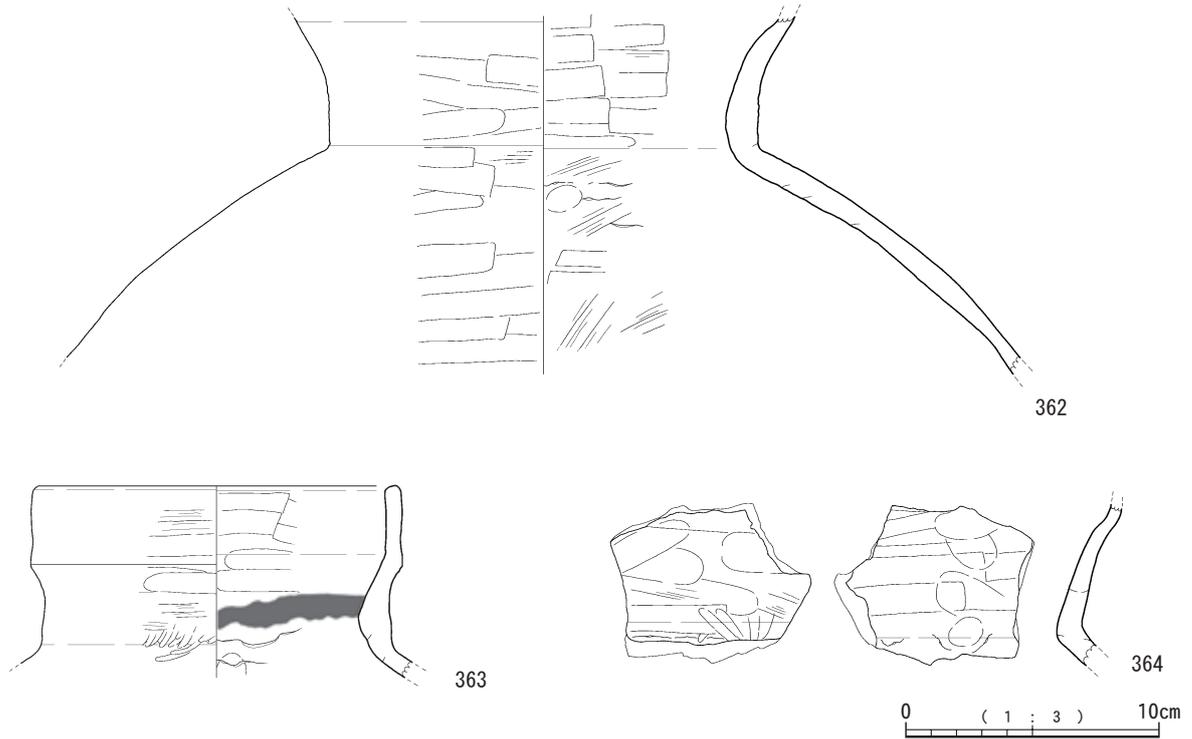
360



361

0 ( 1 : 3 ) 10cm

第93图 包含層出土土器（古墳 壺1）



第94図 包含層出土土器（古墳 壺2）

貼り重ねがみられる。いずれも外面は工具ナデ、内面は指ナデにより器面調整される。350は器壁が薄く、比較的小型の甕と考えられる。外底面に植物の茎のような圧痕がみられる。底端部は粘土の貼り重ねによりわずかに張り出す。外面はナデ、内面は工具ナデにより器面調整される。351はわずかに上げ底になる平底で、底端部が粘土の貼り重ね及び調整により張り出す。内外面ともに指ナデにより器面調整される。352は底部から大きく外反して胴部へ立ち上がる。外底面から底端部にかけて粘土の貼り重ねがみられるが、外底面中央部分は粘土が剥落している。外面はミガキ及び指ナデ、内面はナデにより器面調整される。353は粘土の貼り重ねと調整により上げ底を作る。胎土が浅黄橙を呈する。354は調整により底端部が張り出す。胎土が橙を呈し、比較的丁寧な作りである。内外面ともミガキ及びナデにより器面調整される。355は調整と器形から甕の底部とした。底部から丸みをもって胴部に立ち上がり、底端部は張り出す。焼成不良で、胎土はにぶい黄橙を呈する。

## （2） 壺（第93図～第96図）

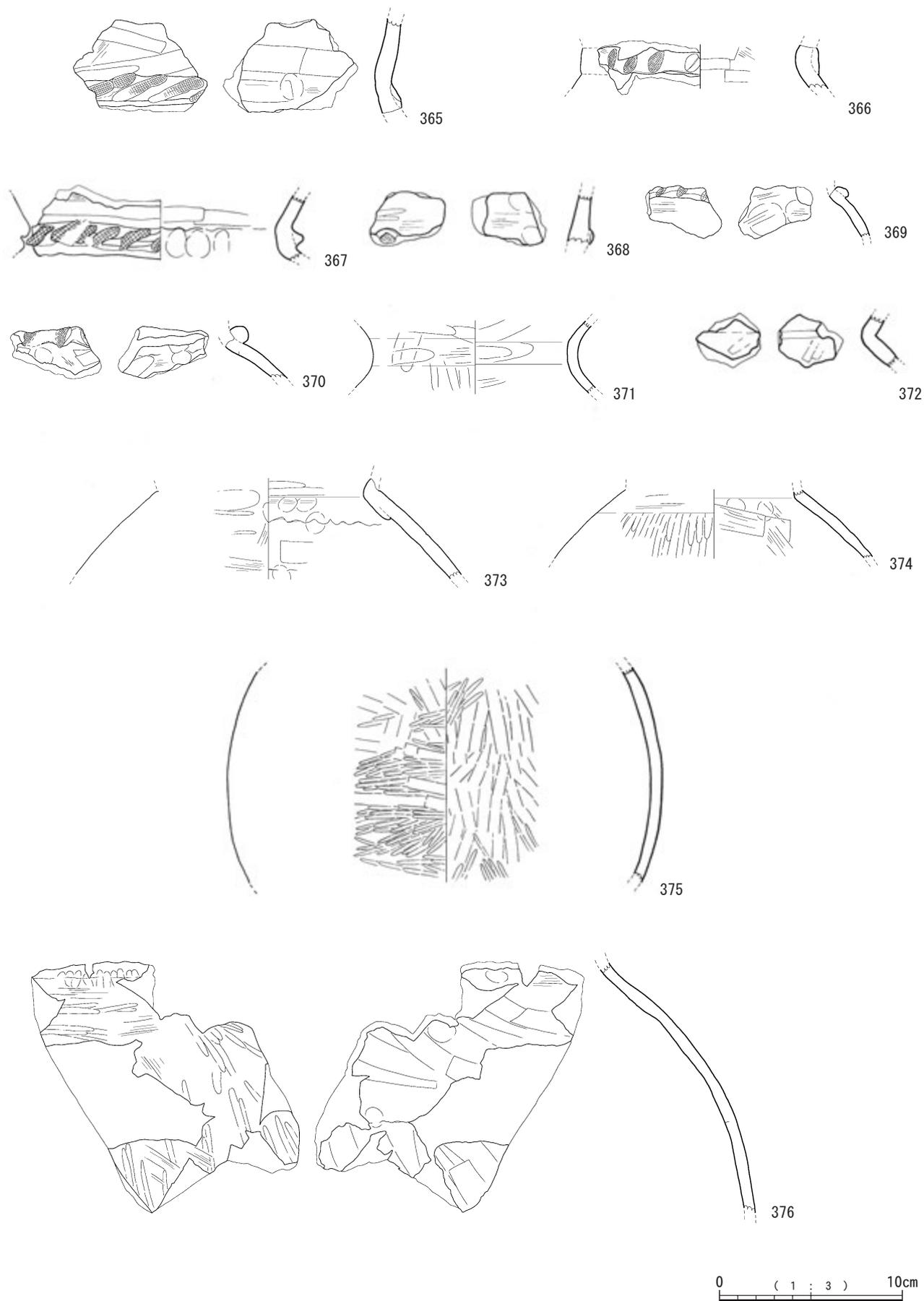
壺はほぼ共通した器形をもつため、細分は行わなかった。

356は丸く膨らんだ胴部をもち、口縁部も丸みを持ってやや内湾して立ち上がる。頸部には刻目突帯が貼付さ

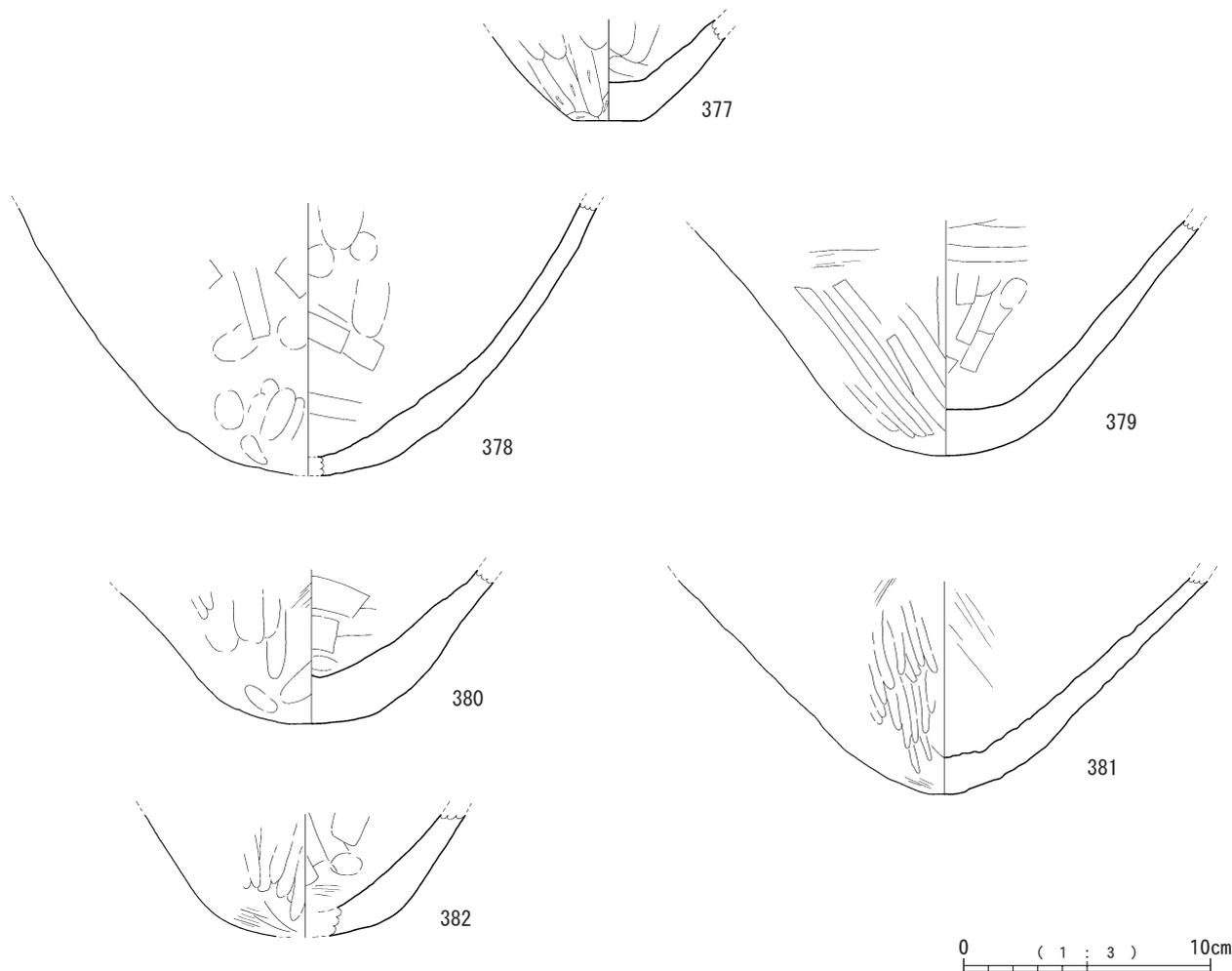
れ、刻目には布目痕が確認できる。357は外反して立ち上がる口縁部で、刻目突帯の刻目が深く施文される。内外面ともミガキ後工具ナデにより器面調整される。358は丸みを持って立ち上がる口縁部で、頸部の刻目突帯の幅が狭い。外面は指ナデ及びナデ、内面は工具ナデ及び指ナデにより器面調整される。359は口縁部が大きく開き、頸部内面は刻目突帯の幅に合わせて平坦面を作り出す。刻目は布目痕が観察できるものと、布目痕の上から再度刻目を重ねており布目が消えるものがある。

360・361は短頸壺の口縁部で、いずれも刻目突帯は確認できない。360は外反する口縁部で、胎土が橙を呈する。外面は指ナデ、内面は指ナデ及びナデにより器面調整される。361は頸部から垂直に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。頸部付近は器壁が断面三角形に肥厚する。内外面とも工具ナデにより器面調整される。

362～364は二重口縁壺である。362は大きく膨らんだ胴部から頸部へ至り、垂直に立ち上がった後、外反して口縁屈曲部まで残存する。外面は工具ナデ及び指ナデ、内面は工具ナデ・指ナデ・ナデにより器面調整される。363は頸部から垂直に立ち上がり、口縁部屈曲部に明瞭な段をもって口縁部へと至る。口唇部に平坦面をもつ。内面頸部付近にススが付着するが、表面が剥落して観察できない部分があり、胴部へかけてもススが広がる可能性が高い。外面はミガキ後ナデ及び指ナデ、内面は工具



第95图 包含層出土土器（古墳 壺3）



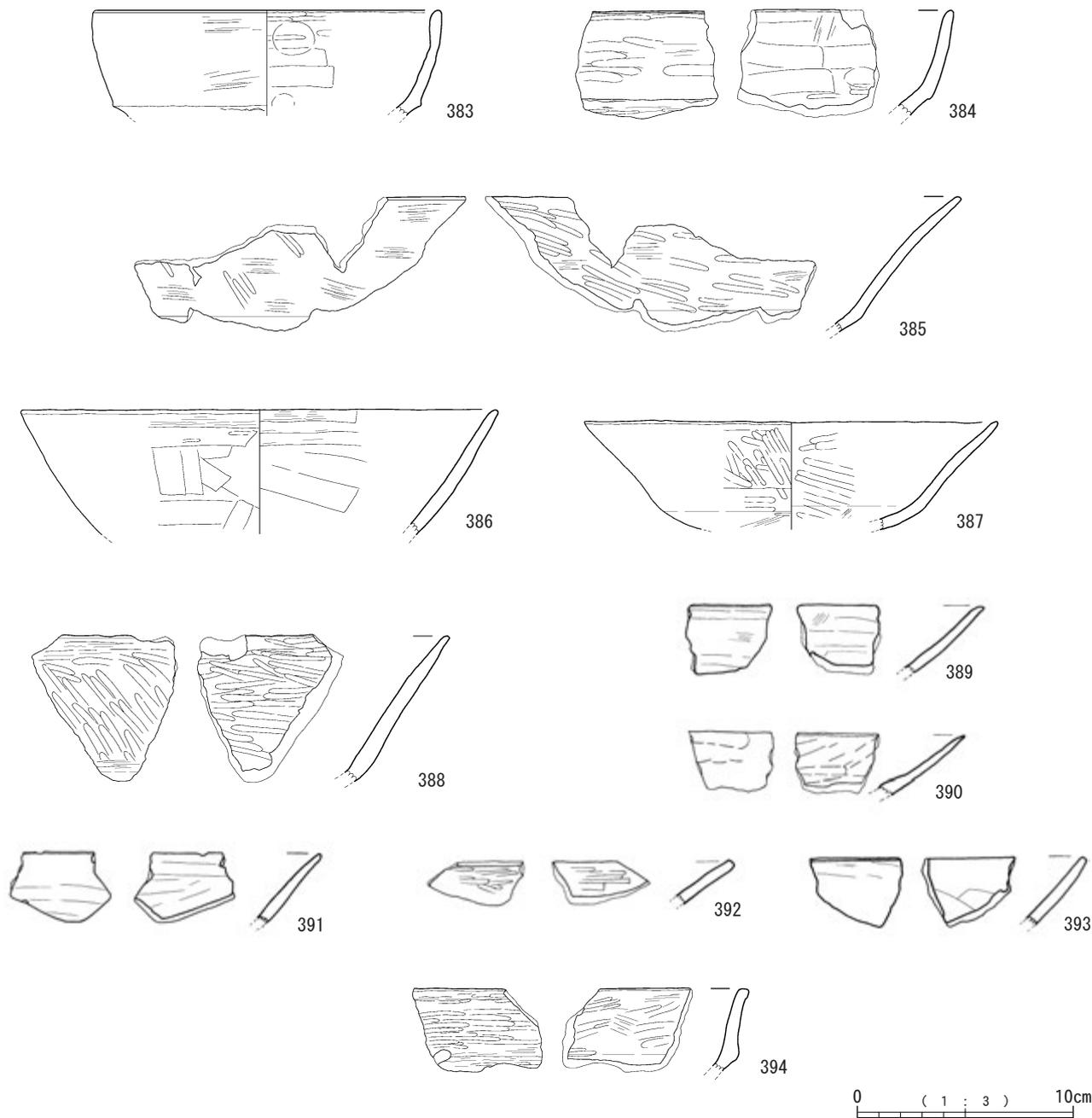
第96図 包含層出土土器（古墳 壺4）

ナデ、指ナデにより器面調整される。364は頸部付近からやや外反して立ち上がり、口縁部屈曲部から口縁部にかけてはほぼ直行すると考えられる。外面はミガキ後ナデ及び指ナデ、内面は工具ナデ及び指ナデにより器面調整される。

365～376は頸部から胴部にかけての破片で、口縁部形態を観察することが困難だったものである。365～370は頸部に刻目突帯をもつ破片である。365は口縁部がわずかに外反すると考えられ、刻目には布目が観察できる。部分的に刻目が二重に重なって施文される。内外面ともに工具ナデ及びナデにより器面調整される。366は比較的幅広い突帯で、刻目は布目痕が観察できるものときかないものがある。内面は工具ナデ及びナデにより器面調整される。367は頸部内面に刻目突帯の幅に合わせて平坦面を作り出す。刻目に布目痕が観察できる。内面は工具ナデにより器面調整される。368は刻目突帯がわずかに残存する。口縁部にかけてわずかに外反すると考えられる。外面はミガキ及びナデ、内面はナデにより器

面調整される。369・370は比較的小型の壺と考えられ、丸みを帯びた突帯に刻目を施す。いずれも布目痕が確認でき、370は突帯下部に布目痕がはみ出す。369は摩滅が激しい。

371～376は刻目突帯をもたない破片である。371は頸部の屈曲部のみの残存で、器壁が薄く胎土が橙を呈する。外面はミガキ後指ナデ、内面は指ナデ及び工具ナデにより器面調整される。372は「く」字状に屈曲する頸部で、外面はミガキ後工具ナデ、内面は工具ナデにより器面調整される。373は頸部の接合面から上が欠損する。頸部内面に粘土の張り付けが波状に残り、粗雑な作りである。胎土に赤色の小礫が目立つ。374は器壁が薄く丁寧な作りである。外面はミガキ後ナデ、内面は工具ナデ及びナデにより器面調整される。375は器壁が薄く丸みを帯びた胴部片である。外面は横方向のミガキが主体、内面は縦方向の工具ナデ主体で器面調整される。376は丸みを帯びる胴部をもち、比較的大型になると考えられる。器壁が薄く丁寧に作られており、371と胎土が類似



第97図 包含層出土土器（古墳 高坏1）

する。外面に黒斑がみられる。外面はミガキ後ナデ、内面は工具ナデ及びびナデにより器面調整される。

377～382は底部である。377は底部が直径3cm程の平坦面をもち、外面はケズリ及びび指ナデ、内面は指ナデにより器面調整される。包含層出土土器ではこの底部のみ中津野式に該当する。378は底部の器壁が薄めの丸底である。胴部へ丸みをもって立ち上がる。379～382は底部の器壁が厚く、底部から胴部に向かって直線的に開く。381は尖底に近く、器壁が比較的薄く作られる。外面はミガキ及びびナデ、内面はナデにより器面調整される。

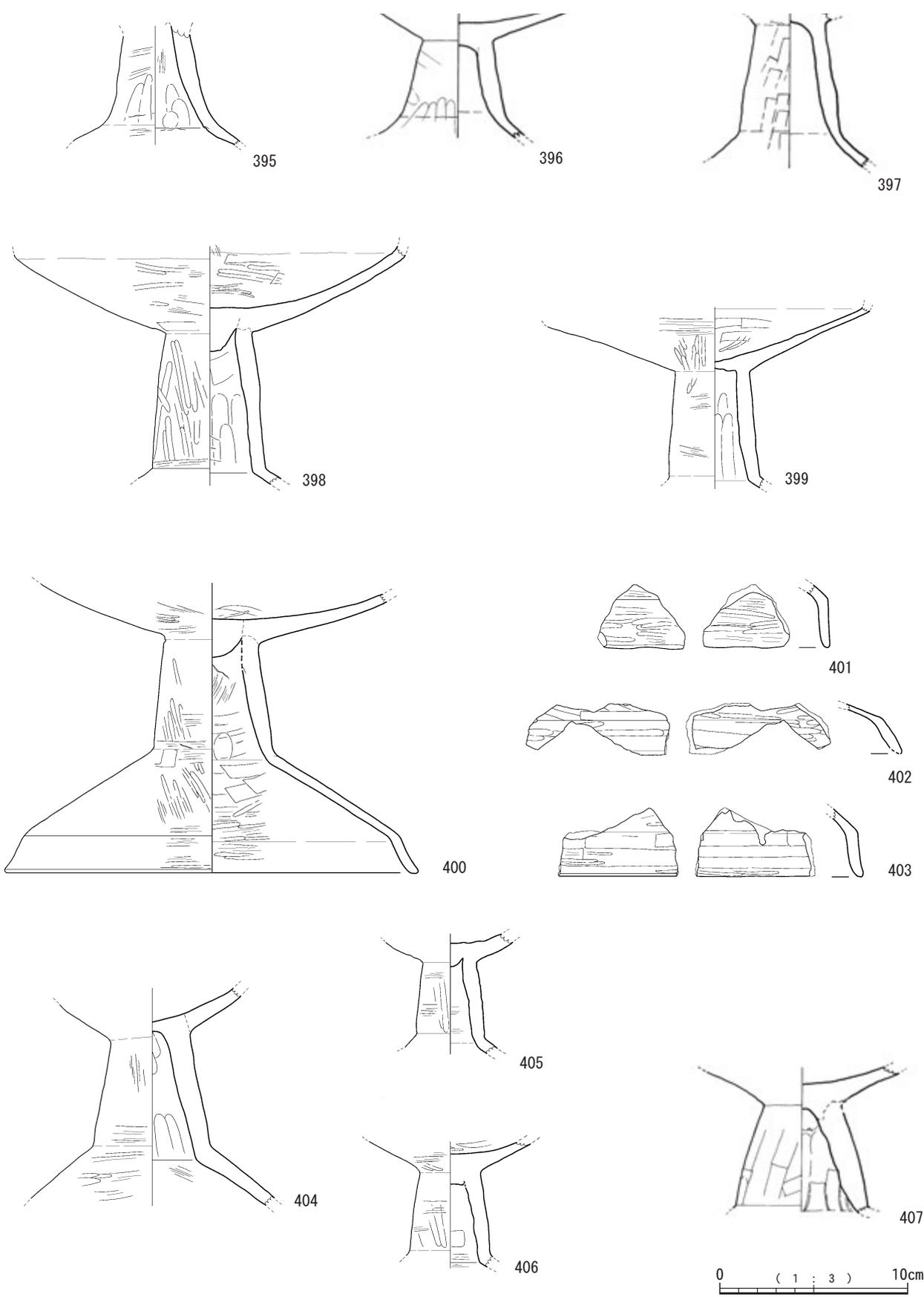
(3) 高坏（第97図・第98図）

高坏は口縁部から脚部まで接合できる資料がほとんどなく、全体の器形を把握することが困難であった。しかし、口縁部及び脚部の形態に差異が見られたため、それぞれ細分した。

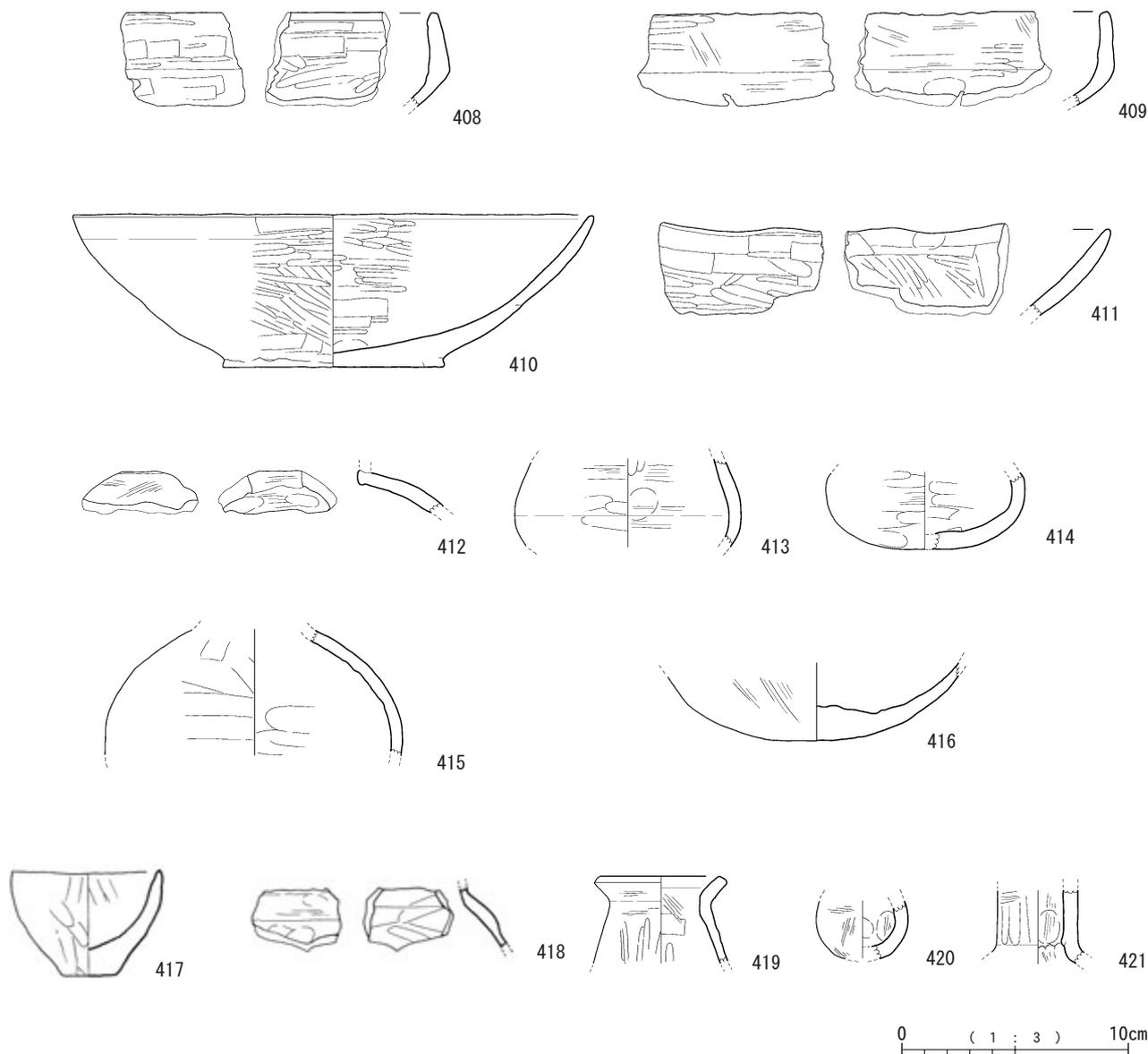
口縁部1類

坏部が丸みを帯びるものである。

383は坏部の屈曲部がわずかに張り出し、口縁部に向かって内湾して立ち上がる。胎土に赤色の小礫が目立つ。



第98图 包含層出土土器 (古墳 高坏2)



第99図 包含層出土土器（古墳 模倣坏・鉢・埴・小型土器）

外面はナデ、内面はミガキ後工具ナデにより器面調整される。384は坏部がやや丸みを帯び、わずかに外反して立ち上がる。

**口縁部 2類**

坏部が口縁部にかけて外反して開くもので、屈曲部から口縁部までの長さが長い。

385は屈曲部に稜をもち、外反して立ち上がる。386は口縁部下の器壁が調整によりわずかに薄くなる。外面はミガキ後工具ナデ、内面は工具ナデにより器面調整される。387は屈曲部に緩い稜をもつ。内外面ともミガキ及びナデにより器面調整される。388は屈曲部に緩い稜をもち、口縁部は横方向のナデ調整により器壁を薄く調整する。内外面ともミガキにより器面調整される。389

～391は口縁部の器壁を薄く調整しており、388と類似する。いずれも摩滅が激しい。392・393は口唇部に平坦面をもつ。

**口縁部 3類**

口縁部 1類・2類以外の口縁部である。

394は屈曲部に段をもち、口縁部にかけてやや外反して立ち上がる。口縁部端部は玉縁状にやや肥厚する。胎土は橙を呈する。

**脚部 1類**

脚部から緩く屈曲し裾部がスカート状に開くものである。

395は坏部形態は不明である。直線的に開いた脚部から緩く屈曲して裾部に向かって開く。396は脚部の径に

対し長さが短く、全体の器形もややいびつである。緩く屈曲して裾部に向かって開く。坏部と脚部は充填法により接合される。397は比較的長い脚部をもつ。

#### 脚部2類

脚部から稜をもって屈曲して開き、裾部に段をもつもの。また、坏部下半が大きく開くものである。

398は坏部下半が大きく開く。脚部から「く」字状に強く屈曲し裾部に向かって開く。坏部と脚部は充填法により接合される。胎土に赤色の小礫が目立つ。399は坏部下半が大きく開き、脚部は直線的で径が小さい。器壁が薄く、外面全体が橙色を呈する。400は坏部下半が大きく開き、脚部から裾部に向かって直線的に開き、段をもってわずかに外反し端部へ至る。坏部と脚部は充填法により接合される。401～403は裾部の破片で、400とほぼ同じ器形の高坏と考えられる。

#### 脚部3類

脚部1類・2類以外のもの、または残存状況により脚部1類・2類の判断ができないものである。

404は直線的に開いた脚部から屈曲し、裾部に向かってわずかに丸みを帯びて開く。器壁がやや摩滅する。405・406は脚部がわずかにエンタシス状を呈し、比較的小型である。脚部の屈曲は強いものの、2類に比べ坏部の開きが狭い。407は脚部が坏部から裾部に向かって開き、器壁が厚い。坏部と脚部は充填法により接合される。外面はミガキ後工具ナデ及び指ナデ、内面は工具ナデ及び指ナデにより器面調整される。

#### (4) 模倣坏(第99図408・409)

須恵器の坏身を模倣した、模倣坏と考えられるものである。

408は「く」字状に屈曲したのちほぼ直行して立ち上がる口縁部で、屈曲部付近の器壁が厚くなる。内外面ともミガキ後工具ナデ及び指ナデにより器面調整される。409は408とほぼ同じ器形で、器壁がやや薄めである。内外面ともミガキ後ナデにより器面調整される。

#### (5) 鉢形土器(第99図410・411)

410は平底の底部から大きく開いて口縁部へ立ち上がる。底部端部は粘土の貼り重ねにより張り出す。内外面ともミガキ及び指ナデにより器面調整され、口縁部付近が光沢をもち丁寧な作りである。411は口縁部がややいびつだが、410と同様の鉢形土器の口縁部であると考えられる。内外面とも工具ナデ及びミガキにより器面調整される。

#### (6) 罎(第99図412～416)

丸底の壺形を呈するもので、最大径が15cm以下、もしくは15cm以下と考えられるものを罎とした。

412は頸部で、口縁部が接合面で欠損する。屈曲部内面がわずかに張り出す。やや摩滅しており、胎土には赤色の小礫が目立つ。413は緩く張る胴部で、指ナデ及び指ナデにより器面調整されるが、内面にわずかにミガキがみられる。414は胴部が丸みを帯びて大きく張り出し、底部はわずかに器壁が厚くなる。外面は指ナデ及び指ナデ、内面は指ナデ及び指ナデにより器面調整される。415は丸く張り出す胴部で、頸部付近まで残存する。内面の器壁の剥落が激しい。416に類似した底部をもつと考える。416は丸底の底部で、底部付近のみ器壁が厚くなる。内外面とも器壁の剥落が激しい。

#### (7) 小型土器(第99図417～421)

417は鉢形で、平底の底部から胴部に膨らみをもって口縁部へ立ち上がる。口縁部は薄く調整される。418は壺形を呈すると考えられる。肩部付近に段をもち、胴部にかけて器壁が薄くなる。419は短頸の壺形を呈すると考えられる。頸部で屈曲し、外反して口縁部へ立ち上がる。口唇部は平坦面をもつ。外面はミガキ及び指ナデ、内面は工具ナデ及び指ナデにより器面調整される。420は球体を呈し、壺形を呈すると考えられる。421は直線的に伸びる筒状で、高坏形の脚部と考えられる。外面はミガキ及び指ナデ、内面は指ナデ及び指ナデにより器面調整される。

## 第5節 古代の調査成果

### 1 調査の概要

古代の該当包含層はⅡ層であるが、調査区内の地形や畑地造成の削平の影響で、部分的に残存している状態であった。調査の結果、令和5年度の調査では、土坑墓が1基、令和6年度の調査では土坑が1基検出された。遺物25点が出土し、うち18点を図化した。

### 2 遺構

#### (1) 土坑墓 (第101図)

F-23区のⅦ層上面で検出された。N37°Wを主軸として、長軸1.76m、短軸0.86mで隅丸長方形の平面形を呈する。検出面からの深さは1.14mだが、検出面上部は削平されていたため本来はもっと深かったと考えられる。断面は略長方形を呈するが、墓坑北側の壁面はやや掘り込まれ、上端が緩やかにオーバーハングする。埋土は2層に分層され、埋土①は黒色の砂質土で、やや粘性がありしまりは弱い。池田降下軽石を微量に含む。埋土②は黒褐色土で、粘性がありややしまりもある。

遺物は、古代の土師器の鉢がほぼ完形で出土している。422は口径20.4cm、器高12.6cmで、口縁部が「く」字状に外反する。胴部は内湾し、丸底である。口縁部は内外面とも横方向のナデが確認できるが、胴部～底部はススの痕跡や被熱による剥落でケズリやナデの痕跡が不明瞭である。色調は内面がにぶい橙色、外面が橙色を呈す。倒れてつぶれたような状態で出土し、副葬品の可能性がある。このほか、土器小片4点が出土したが、図化しなかった。

#### (2) 土坑5号 (第101図)

B-7・8区のⅡc層で検出された。平面形はやや歪な隅丸方形と想定されるが、遺構の北側が調査区外へ続いているため、正確なプランは確認できない。断面形は、逆台形を想定する。長軸1.96m、短軸1.58mで、検出面からの深さは0.30mである。炭化物が集中する土坑で、床面の中央部には、被熱により変色した焼土域が見られる。床面に近い埋土にはほとんど炭化物で構成されている堆積も見られ、放射性炭素年代測定では8世紀頃を示している。採取した炭化物3点に樹種同定を行った結果、それらの炭化物はクスノキと同定されており、建築材として使用されたなら上部の構造物が焼け落ちた可能性もあるが、床面から柱穴などは見つかっていない。遺物は確認できなかった。

### 3 遺物

#### (1) 土師器 (第102図 423～435)

423～425は甕である。423は口縁部～胴部で、頸部から大きく外反して立ち上がり、端部は丁寧に仕上げている。胴部内面は上方向のケズリ、外面は工具ナデが見

られる。頸部から口縁部にかけて内外面とも丁寧にナデている。内外面とも橙色を呈す。424は肩部で、外反する屈曲部に工具を押し当てた痕が見られる。内面は胴部に斜位方向のケズリを施し、屈曲部からナデている。外面はナデを施す。内面はにぶい黄橙色、外面は浅黄橙色を呈す。425は胴部で、内面にはケズリ痕、外面にはハケ目が見られる。内外面ともにぶい橙色を呈す。426・427は壺である。426は充実高台で、底面はヘラ切りでナデ調整を施す。底径8.2cmで、立ち上がりはやや急で直線的である。内外面とも工具ナデで、内面は浅黄橙色、外面はにぶい黄橙色を呈す。427は底部で、高台は低く断面三角形を呈す。ロクロ成形で底径8.0cm。内面は摩耗で調整が判別できないが、外面はナデている。内外面とも橙色を呈す。428・429は坏である。428は口縁～胴部で、ススが付着する。直線的な立ち上がりで、口径10.8cm。工具ナデで仕上げ、にぶい橙色を呈する。429は底部で、ヘラ切り底に粘土が貼り付けてある。底径8.4cmで、内外面ともヘラケズリを施し、橙色を呈する。430・431は小坏である。430は口縁部～底部で、ヘラ切り底からやや外反気味に立ち上がる。ロクロ成形で底径4.9cm、口径6.5cmである。内外面ともナデているが、摩耗や剥落が著しい。内外面とも淡赤橙色を呈す。431は口縁部～底部で、ヘラ切り底から先細りの口縁部へ直線的に立ち上がる。ロクロ成形で底径6.0cm、口径8.0cmである。内外面とも回転ヘラケズリで仕上げるが、底部端に雑なケズリが見られる。内外面とも橙色を呈す。432～435は皿である。432は口縁部で、焼成はよくない。外反して先細る器形で、内外面とも回転ナデを施し、浅黄橙色を呈す。433は口縁部で、外反する口縁は端部でやや内湾する。外面は摩耗で調整が判別できないが、内面には回転ナデが見られる。内面は灰黄褐色、外面はにぶい黄橙色を呈す。434は底部で、底部に粘土を貼り付ける。底径7.8cmで、内外面ともナデを施してあり、橙色を呈す。435は底部で、ヘラ切り底の底径6.0cmで、内面は回転ナデで調整を施し、内外面ともにぶい黄橙色を呈す。

#### (2) 黒色土器 (第102図 436)

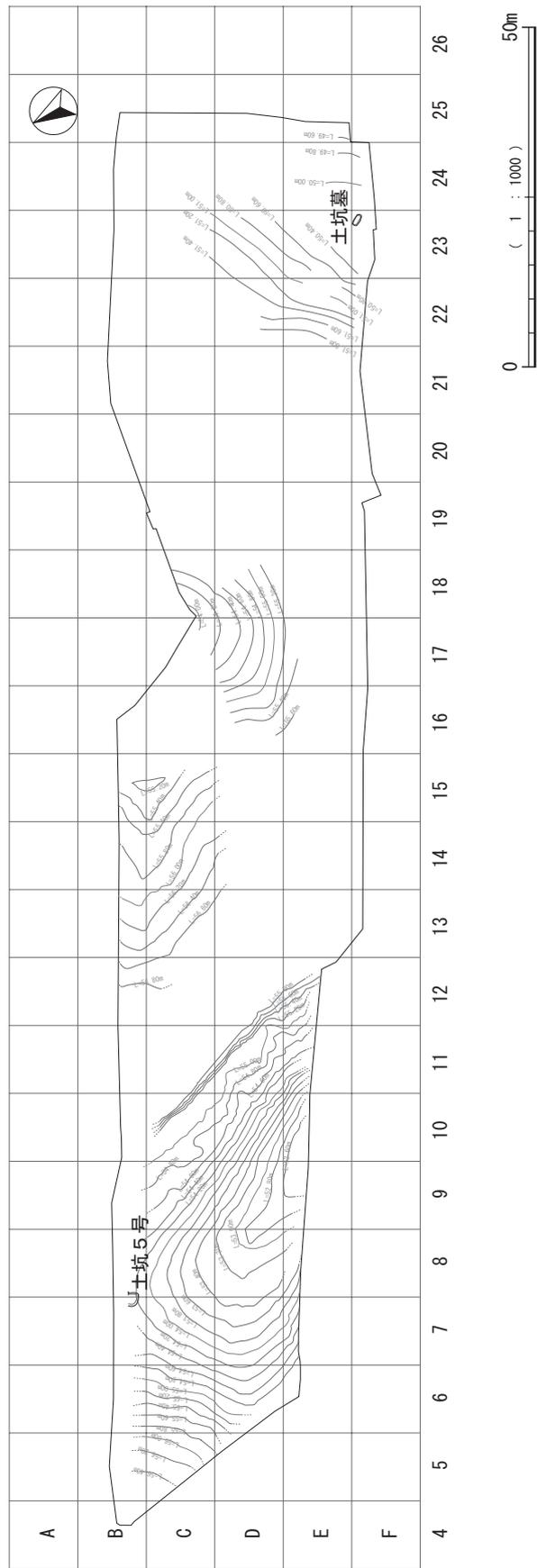
436は内黒土師器の皿の底部である。高台は剥落して端部は残存しないが、断面三角形と想定される。調整は内面にミガキ、外面にナデを施す。色調は内面が暗灰色、外面がにぶい橙色を呈す。

#### (3) 須恵器 (第102図 437)

437は甕の胴部で、内面は当て具痕、外面は平行なタキ痕にハケ目を残す。内外面とも黄灰色を呈す。

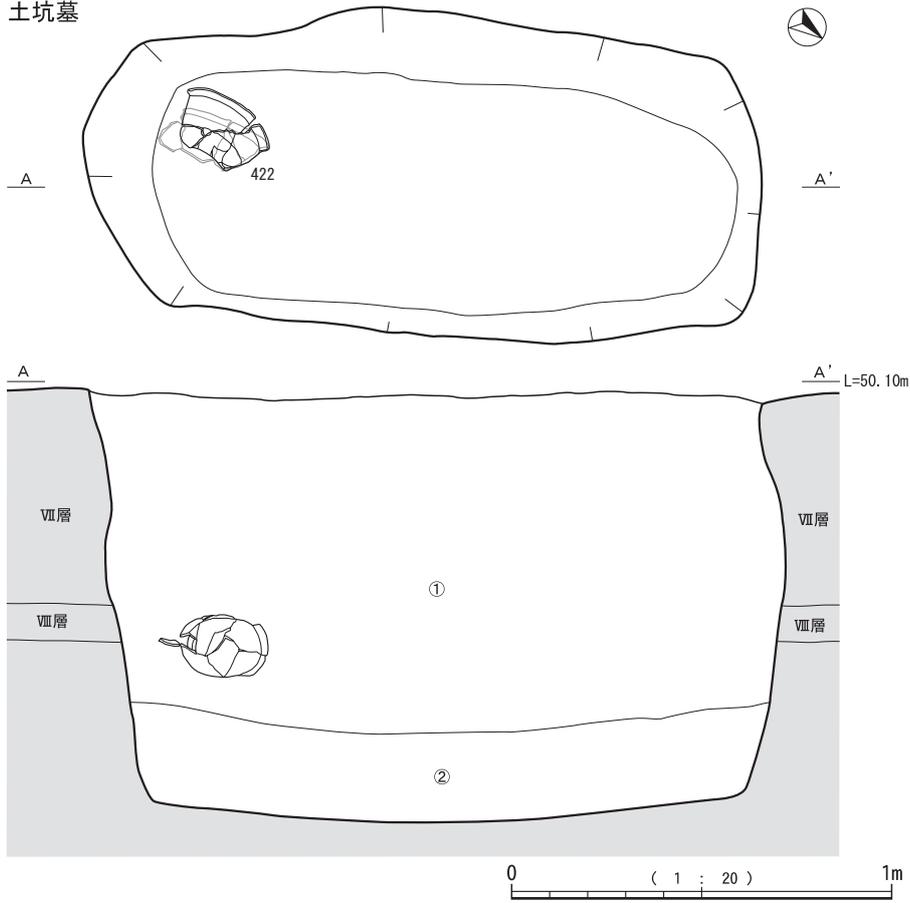
#### (4) 製塩土器 (第102図 438・439)

438は胴部～底部で、器壁は厚い。内面には布目痕、外面には指オサエの痕跡が見られる。内外面ともに灰褐色を呈す。439は胴部で、小片だが内面に布目痕、外面に指オサエが見られる。内外面とも橙色を呈す。



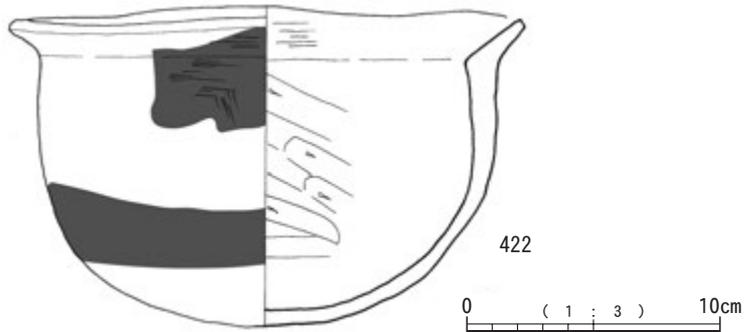
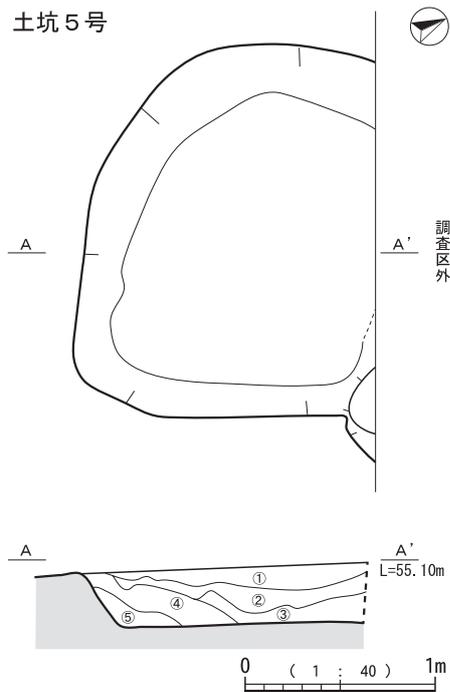
第100图 古代遺構配置図

土坑墓



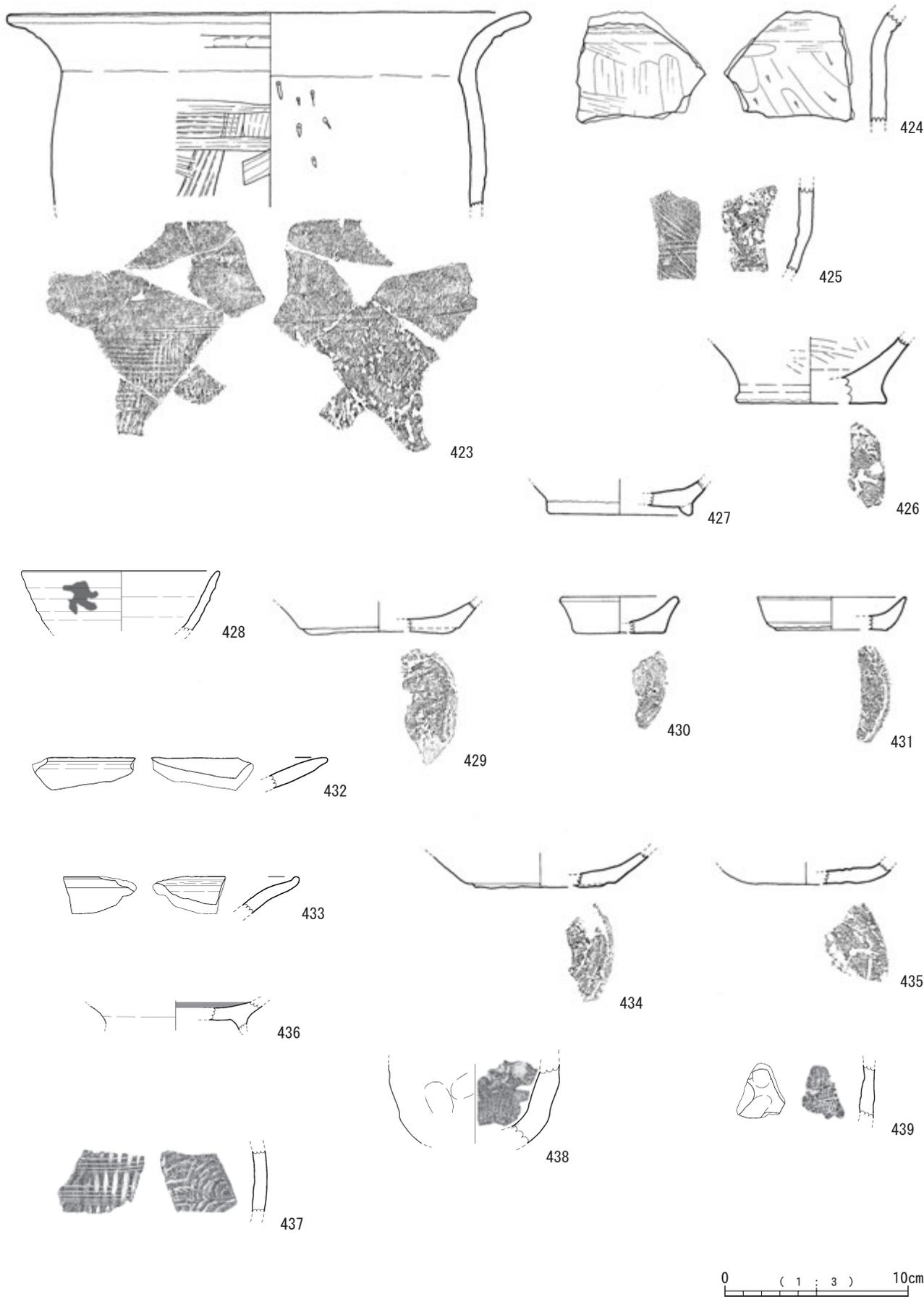
- 埋土
- ① 10YR2/1 黒色砂質土  
池田降下軽石をごく微量に含む。  
粘性はややあるが、しまりはやや弱い。
  - ② 10YR2/2 黒褐色土  
粘性がある。しまりはややある。

土坑 5号



- 埋土
- ① 灰黄褐色土 (10YR4/2) まだらに黒色土と炭化物が混ざる。II c 層由来。
  - ② 暗褐色土 (10YR3/4) 下面に焼土が混ざる。
  - ③ 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性あり。
  - ④ 黒色土 (10YR2/1) 炭化物層。
  - ⑤ 褐色土 (10YR4/4) 粘性なし、しまりなし。

第101図 土坑墓・土坑 5号及び土坑墓内出土遺物



第102図 包含層出土遺物（古代 土師器・須恵器・製塩土器）

## 第6節 中世の調査成果

### 1 調査の概要

中世の該当包含層はⅡa層～Ⅱb層を中心とするが、調査区内の傾斜地やかたて谷地形だったと想定される範囲は層堆積が薄く、畑地造成のために削平されている箇所もあり、部分的に残存している状態であった。また、攪乱を受けた結果、Ⅰ層や表土から出土している遺物もみられた。

調査は、重機で表土を除去後、人力による掘り下げを進めながら遺構検出を行った。その結果、令和5年度の調査で掘立柱建物跡1棟、令和6年度の調査で溝状遺構3条を検出した。また、包含層からは瓦質土器や陶磁器類等が2,913点出土し、うち282点を図化した。遺物の残存状況等から掲載が必要と判断したものは、表土・攪乱出土のものも併せて図化・掲載している。

### 2 遺構

#### (1) 掘立柱建物跡(第104図・第105図)

D-22・23区、Ⅶ層上面で検出された。表土を取り除いたらⅦ層(アカホヤ火山灰)の上部まで削平を受けていたため、本来の掘り込み面はまだ上位であったと考えられる。

建物規模は2間×3間で、桁行が4.40m、梁行が2.20m～2.84mである。平面はやや歪んだ長方形を呈する。主軸方位はN53°Eである。

柱穴の形状はおおむね丸みを帯びているが、不定形のものが多い。径は0.14m～0.42mで、深さは0.08～0.48mである。Pit7の埋土中に擦切石器が3点重ねて差し込まれたような状況で出土しており、うち2点は接合している。440と441は、掘立柱建物跡の柱穴内に重ねて差し込まれるような状況で出土した。440は不定形の砂岩を素材とし、節理面が剥落しているため扁平な形状を呈している。表面には擦痕が見られるが摩滅により明瞭ではなく、用途不明とした。441は砂岩製で、剥落によって三角形の正面観を呈する。左側面には磨りによる光沢面を有するが、表面の擦痕や稜線は摩滅によりはっきりしない。440とも接合できず、用途不明と判断した。Pit12は何らかの理由で掘り直された可能性がある。埋土は全て単一で、Ⅱ層と思われる暗褐色土である。

#### (2) 溝状遺構(第106図・第107図)

C～E-9～12区の、12区から9区に向けて傾斜している部分で検出された。斜面に並行する形で1号～3号の3条検出された。3条が同時期のものか、時期差があるものなのかは不明であるが、出土遺物は中世が大半であることから使用時期は中世が中心であると考えられる。

遺物は36点出土し、そのうち10点図化した。442～

444は白磁である。442は森田編年E群に該当する白磁皿である。豊付のみ釉剥ぎされる。443は森田編年E群に該当する菊花皿である。444は森田編年E群に該当すると考えられる小坏である。直線的に立ち上がり、外面にヘラで放射状の文様を施す。445・446は青磁である。445は上田編年D類に該当し、わずかに外反する口縁部である。446は粗製の青磁碗で、見込みは円状に釉剥ぎされ、厚い底部をもつ。447・448は青花である。447は漳州窯産と考えられる青花碗で、高台外面まで施釉される。見込み及び高台脇に界線を施す。448は小野編年ⅢB1群に該当する。見込みに玉取獅子の一部がみられる。449は赤絵の碗で、高台外面途中まで施釉される。内外面に赤や緑で草花文などの文様を施す。450は国外陶器で、中国産の壺と考えられる。451は、青銅製の煙管の火皿および雁首部分である。火皿部分は盃状であり、雁首部分とは明確な段が設けられる。雁首部分は、端部付近が欠損する。

### 3 遺物

本節では、11世紀後半(平安時代末)から17世紀初頭(江戸幕府成立)までの資料を中世の遺物として報告する。中世の遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、瓦器、輸入陶磁器、国産陶磁器、瓦などの多様な遺物が出土した。

なお、輸入磁器の分類にあたっては、以下の文献を参考に分類を行った。中世前半期(11世紀後半～13世紀まで)の白磁及び青磁は『大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-』における編年(以下「大宰府分類」という。)を基本とし、中世後半期(14世紀～17世紀初頭)の白磁・青磁・青花については、それぞれ『貿易陶磁研究No.2』記載の森田勉による分類(以下「森田分類」という。)、上田秀夫による分類(以下「上田分類」という。)、小野正敏による分類(以下「小野分類」という。)を基本として詳述する。前述の分類に当てはめることが難しい輸入磁器は、国立歴史民俗博物館の分類・編年案(池谷ほか2021年 以下「歴博分類」「歴博編年」という。)で補完する。

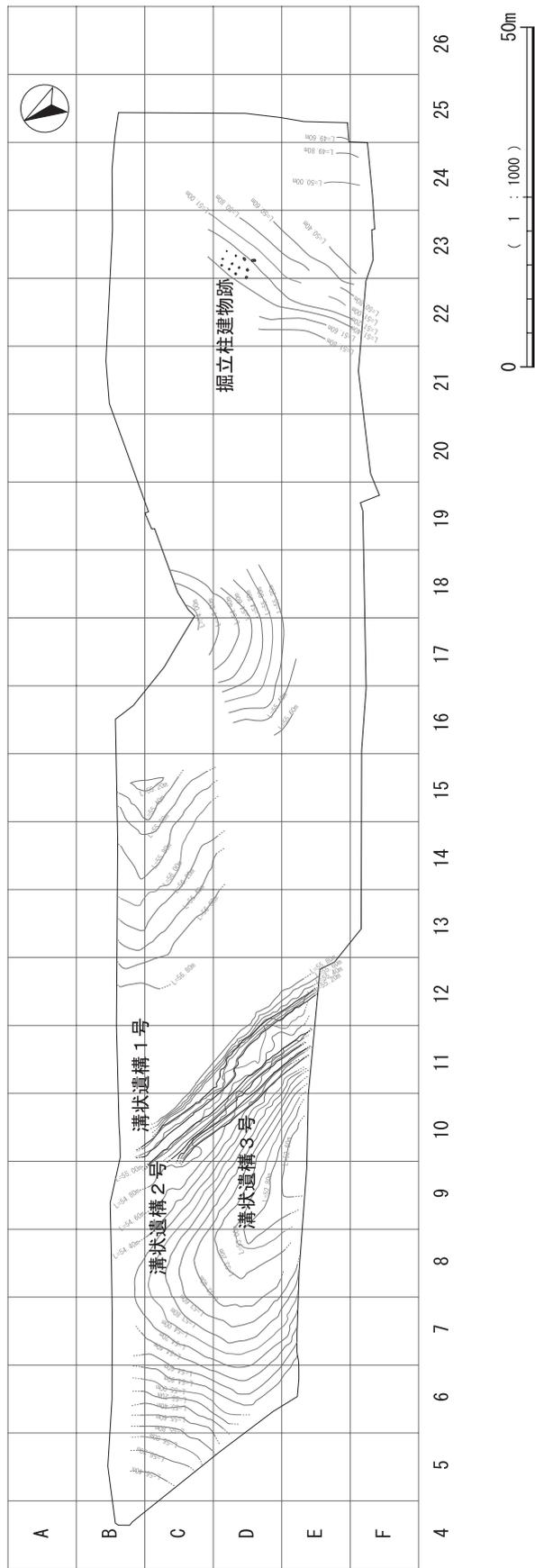
#### 【陶磁器関係 引用参考文献】

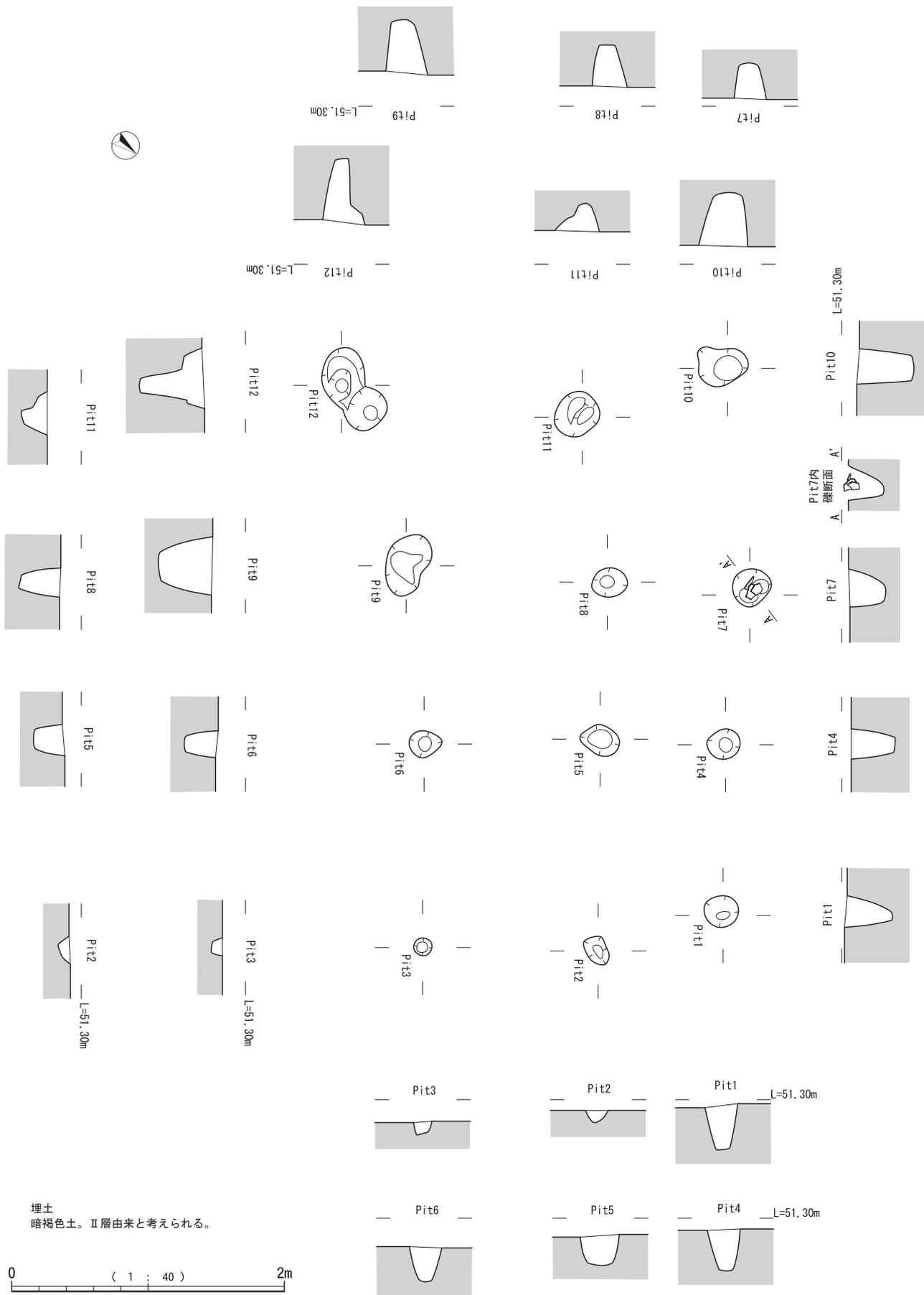
池谷初恵・小野正敏・岩元康成・小出麻友美・佐々木健策・村木二郎 2021「中世琉球における貿易陶磁調査I」『国立歴史民俗博物館研究報告』第226集 pp.43-84

上田秀夫 1982「14～16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会 pp.55-70

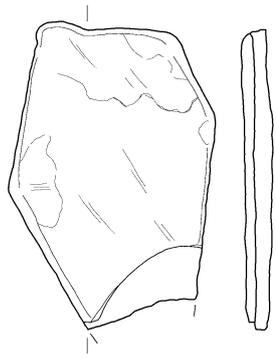
小野正敏 1982「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.2 日本貿易陶磁研究会 pp.71-87

金武正紀 2009「今帰仁タイプとピロースクタイプの年代的位置付けと貿易港」木下尚子編『13～14世紀の琉球と福建』平成17～20年度科学研究費補助金基盤研究

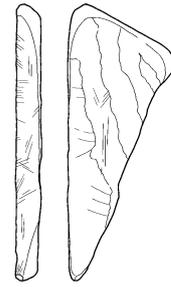




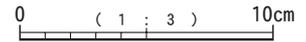
第104図 掘立柱建物跡



440



441



第105図 掘立柱建物跡出土遺物

(A) (2) 研究成果報告書 熊本大学文学部 pp. 125-135

柴田亮・上床真・横手伸太郎 2022「第1部 地域論 第11章 九州」『新版 概説 中世の土器・陶磁器』日本中世土器研究会 pp. 139-154

瀬戸哲也・仁王浩司・玉城靖・宮城弘樹・安座間充・松原哲志 2007「沖縄における貿易陶磁研究-14～16世紀を中心に-」『紀要 沖縄埋文研究』5 pp. 55-76

瀬戸哲也 2010「沖縄における12～16世紀の貿易陶磁-中国産陶磁を中心とした様相と組成-」『貿易陶磁研究』No. 30 pp. 17-40

瀬戸哲也 2015「14・15世紀の沖縄出土中国産青磁について」『貿易陶磁研究』No. 35 pp. 17-32

瀧伸一郎 2022「第7章 貿易陶磁器 第2節 中世後期の貿易陶磁器」『新版 概説 中世の土器・陶磁器』日本中世土器研究会編 pp. 353-374

森田勉 1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No. 2 日本貿易陶磁研究会 pp. 47-54

山本信夫 2022「第7章 貿易陶磁器 第1節 中世前期の貿易陶磁器」『新版 概説 中世の土器・陶磁器』日本中世土器研究会編 pp. 327-352

## (1) 土師器

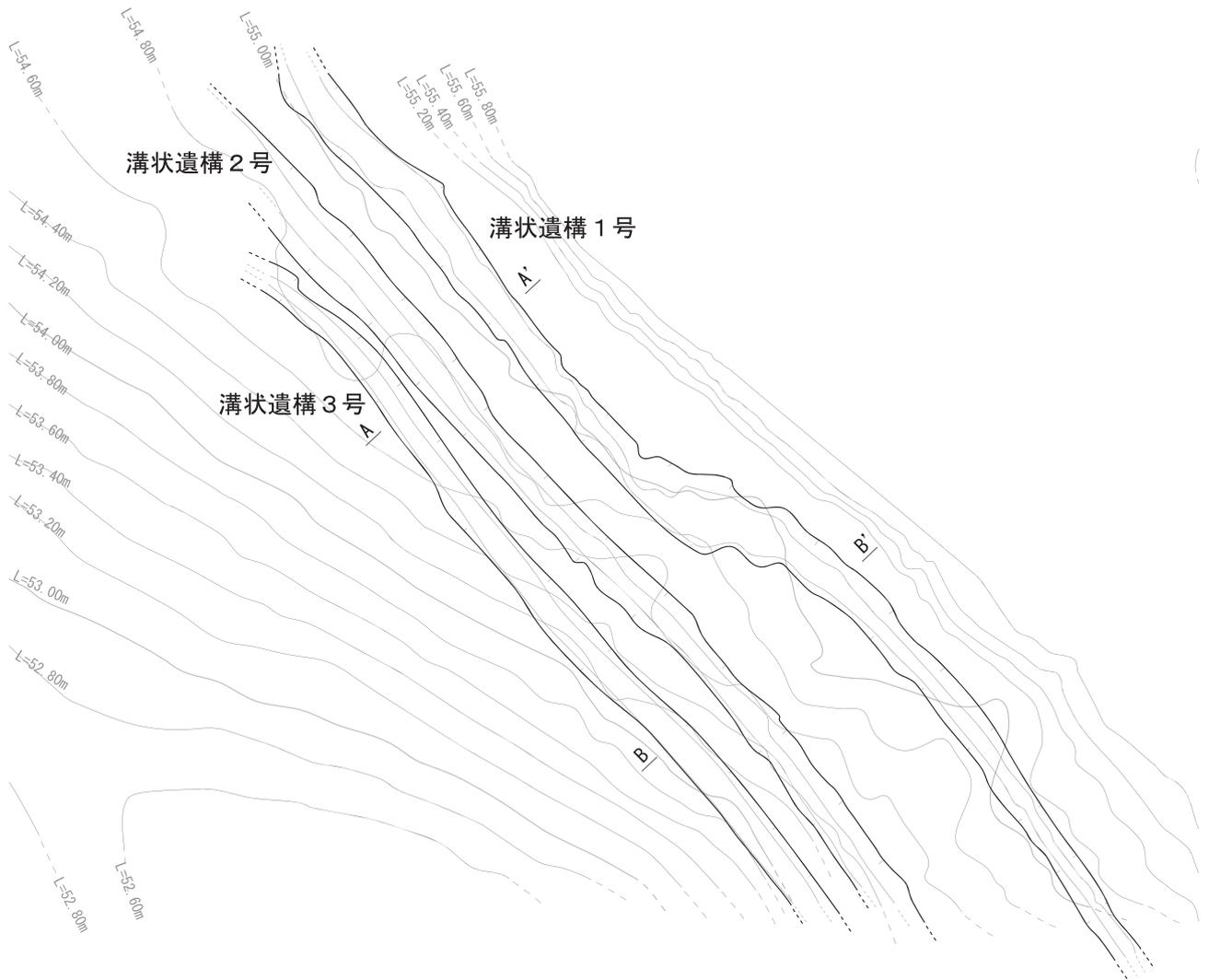
### ① 坏 (第108図)

452～467は坏である。胎土は赤・白・黒色微粒子を含むものが多い。452～459は口縁～底部である。452は薄い糸切り底でわずかに丸みを帯びて立ち上がる。口唇部は鋭角的で、底部に比して体部の器壁が厚い。内外面ともナデを施し、内面は浅黄橙色、外面は灰白色を呈す。453は糸切り底で直線的に立ち上がり口縁部でわずかに外反する。口縁端部に一条の沈線を施す。内外面とも工具ナデを施し、橙色を呈す。454は糸切り底からほぼ同じ厚さで直線的に立ち上がり、口縁部でわずかに外反して先細る。内外面ともナデを施し、にぶい黄橙色を呈す。455は糸切り底で内面は直線的に立ち上がるが、

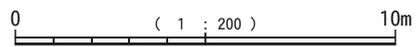
外面は胴部がやや外反し口縁部は直線的に立ち上がる。底部に比して体部の器壁が厚い。内面はナデ、外面はナデと指オサエで、内外面ともにぶい橙色を呈す。456はへら切り底で直線的に立ち上がる。底部に比して体部の器壁がやや厚い。内面は回転へらナデ、外面はへらナデで、内外面とも橙色を呈す。457は手捏ね成形で、腰部はやや丸みを帯びるが直線的に立ち上がり箱形を呈す。風化が著しいが、内面に指オサエとナデ、外面にナデが確認できる。内外面ともにぶい黄橙色を呈す。458は底部の剥落が著しいがわずかに工具痕とナデ消しが確認できる。直線的に立ち上がる体部は底部に比して厚く、口縁部でやや膨らみ丸く整える。内外面とも工具ナデを施し、にぶい橙色を呈す。459は外傾して立ち上がり、口縁部でさらに外反する。器壁は底部より薄く、口唇部に一条の沈線を施す。内外面とも指ナデで、にぶい橙色を呈す。

460・461は口縁部である。460は直線的に立ち上がるが口縁端部でやや外反し、器壁も薄くなる。口唇部は丸く整え、口径は11.8 cmである。内外面とも工具ナデで、浅黄橙色を呈す。461は直線的に立ち上がり口縁端部で外反する。口唇部には一条の沈線を施す。口径は10.8 cmで、内外面とも工具ナデだが、外面には一部指ナデ痕が残る。内外面とも橙色を呈す。

462～467は胴～底部である。462は底部に工具痕、見込み部に指ナデ痕が残る、底径は6.4 cmである。内外面ともにぶい橙色を呈す。463は工具痕をナデ消す底部から丸みを帯びて立ち上がる。底径は7.1 cmで、内外面ともナデでぶい橙色を呈す。464は工具痕をナデ消す底部は中央部がやや持ち上がって薄くなる。底径は7.6 cmで、胴部はやや丸みを帯びて立ち上がる。内外面ともナデを施し、内面は赤、外面は橙色を呈す。465は工具痕をナデ消す底部から直線的に立ち上がる。底部に比して体部の器壁が厚く、底径は6.2 cmである。内外面とも指ナデで、にぶい黄橙色を呈す。466は底部の工具痕を



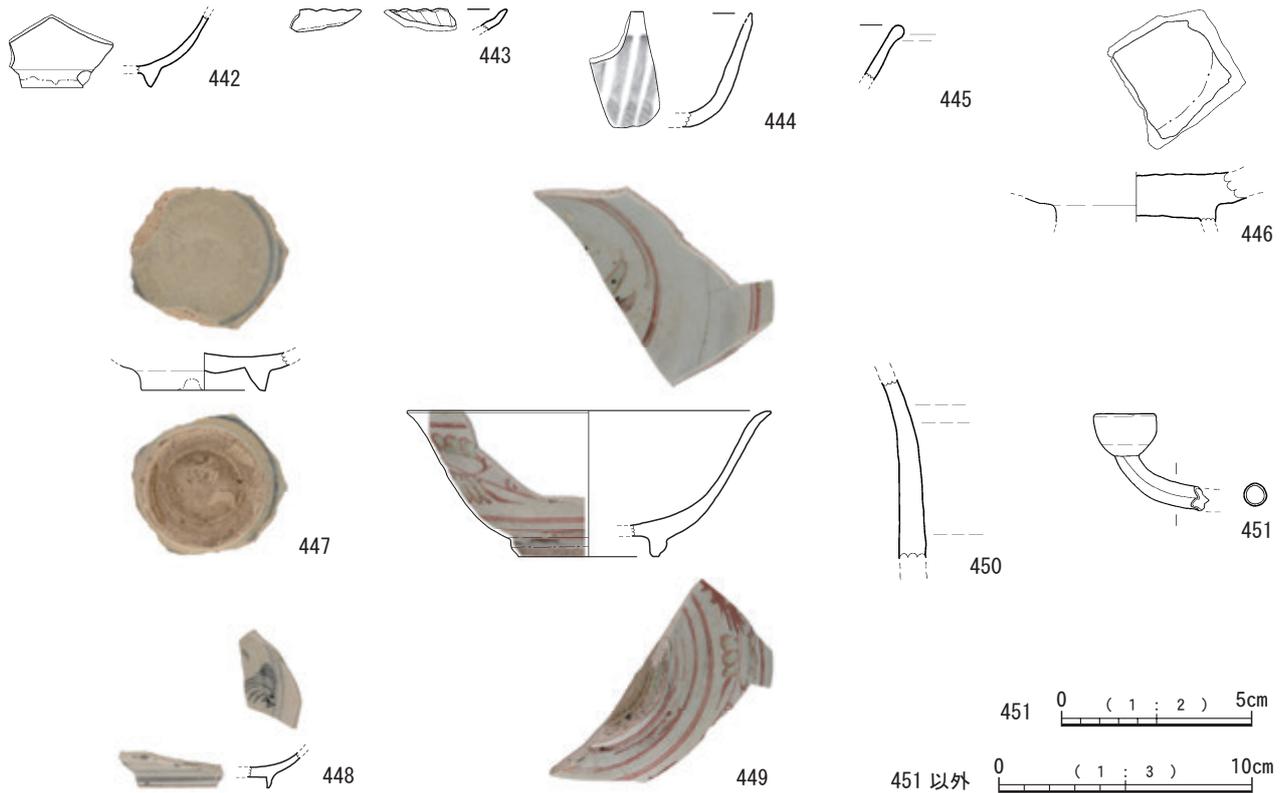
断面①



断面②



第106図 溝状遺構



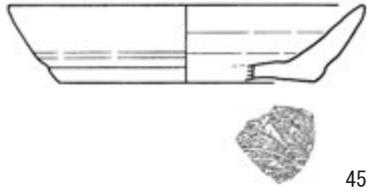
第107図 溝状遺構出土遺物

ナデ消し，見込み部はドーナツ状に厚くなる。底径 6.2 cmで，内面は指ナデを施す。内面がにぶい黄橙色，外面がにぶい黄褐色を呈す。467 は工具痕をナデ消す底部からやや丸みを帯びて立ち上がる。底径 8.2 cmで，腰部を一周ナデで整える。内外面とも工具ナデで橙色を呈す。

② 皿 (第 109 図・第 110 図)

468～501 は皿である。胎土は赤・白・黒色微粒子を含むものが多い。468～495 は口縁～底部である。468 はヘラ切り底で丸みのある腰部から直線的に立ち上がる。内外面とも工具ナデを施し，内面はにぶい橙色，外面は灰黄褐色を呈す。469 はヘラ切り底で丸みを帯びて立ち上がる。内外面ともナデで整え，橙色を呈す。470 はナデ消しで整えた底部から丸みを帯びて立ち上がり，口縁部で外傾する。内外面ともナデで整え，にぶい橙色を呈す。471 はヘラ切り底でやや丸みを帯びて立ち上がる。見込み部には渦巻状の調整痕が残る。内外面とも工具ナデで，にぶい褐色を呈す。472 はナデ消しで整えた底部から直線的に立ち上がる。内外面ともナデを施し，橙色を呈す。473 はヘラ切り底でやや丸みを帯びて立ち上がる。内外面とも工具ナデで，にぶい橙色を呈す。474 は工具痕を残す底部から丸みを帯びて立ち上がり，胴～口縁部は直線的である。底部端はナデで面取りをする。内外面ともナデを施し，にぶい黄橙色を呈す。475 は工具痕を残す底部から直線的に立ち上がり，口縁部でわずか

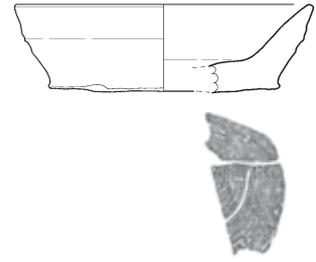
に内湾する。底部端はナデで面取りするが，やや雑である。内外面とも工具ナデを施し，にぶい橙色を呈す。476 は耳皿の可能性があり，ヘラ切り底に一条の沈線が確認できる。内外面をナデで整え，にぶい黄橙色を呈す。477 はナデ消しで整えた底部から丸みを帯びて立ち上がる。底部に比して器壁が厚い。内外面とも回転ヘラケズリを施し，にぶい黄橙色を呈す。478 は糸切り底で丸みを帯びて立ち上がる。底部端がやや浮くことで底面がわずかにレンズ状を呈す。内外面はナデを施し，橙色を呈す。479 は糸切り底でナデで整えた腰部から先細りの口縁部へ直線的に立ち上がる。内外面とも工具ナデで，橙色を呈す。480 はナデ消しで整えた底部から丸みを帯びて立ち上がり，口縁部でわずかに外反する。腰部はケズリで屈曲するが，内面は緩やかに立ち上がる。内外面とも回転ヘラナデで，にぶい橙色を呈す。481 は糸切り底からやや丸みを帯びて立ち上がる。胴部に糸の痕が確認できる。内外面とも回転ヘラナデで，橙色を呈す。482 は糸切り底でわずかに丸みを帯びて立ち上がり口縁部で先細る。内外面ともナデで整え，橙色を呈す。483 はヘラ切り底でやや丸みを帯びて立ち上がり口縁部は直線的である。見込み部はややレンズ状に膨らむ。内外面ともナデを施し，橙色を呈す。484 はヘラ切り底で直線的に立ち上がる。底面に一条の沈線を施し，底部端はナデで面取りをする。内外面ともナデを施し，にぶい橙色を呈



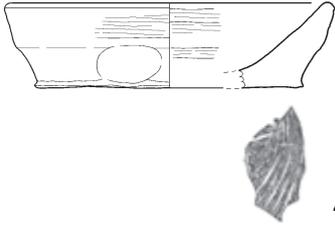
452



453



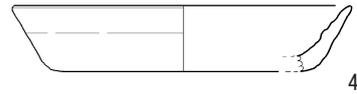
454



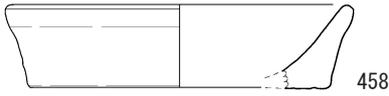
455



456



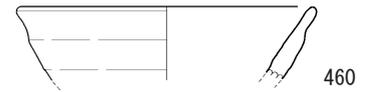
457



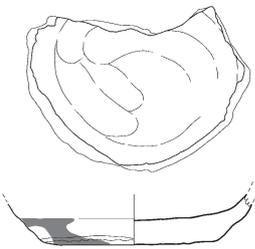
458



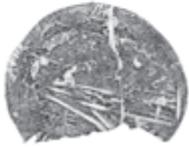
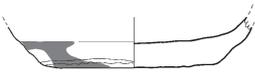
459



460



461



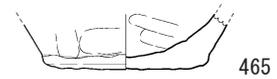
462



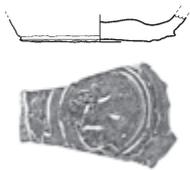
463



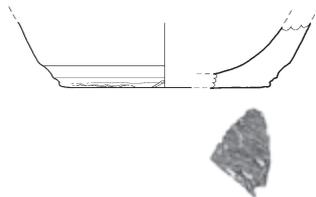
464



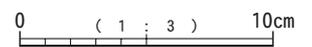
465



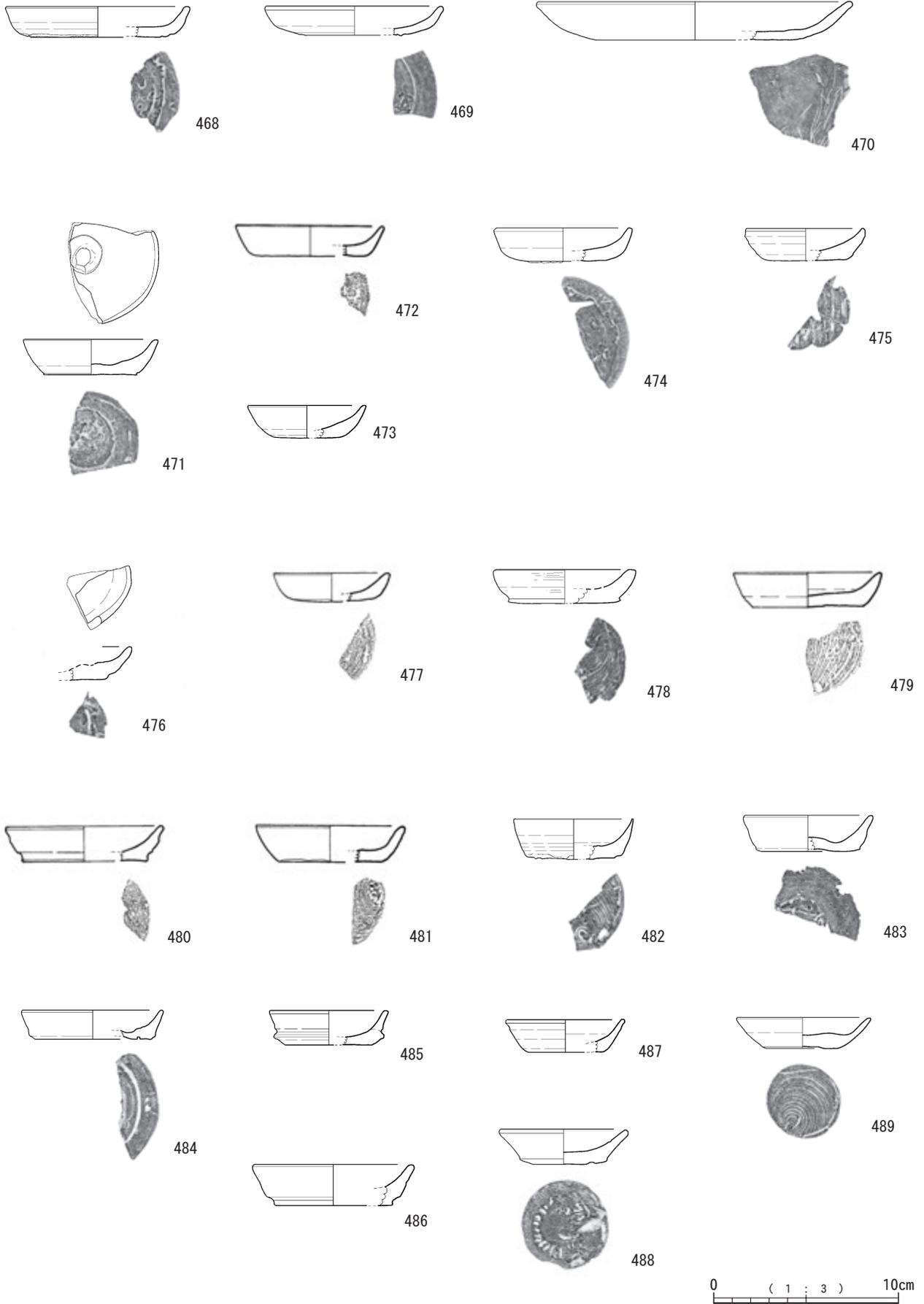
466



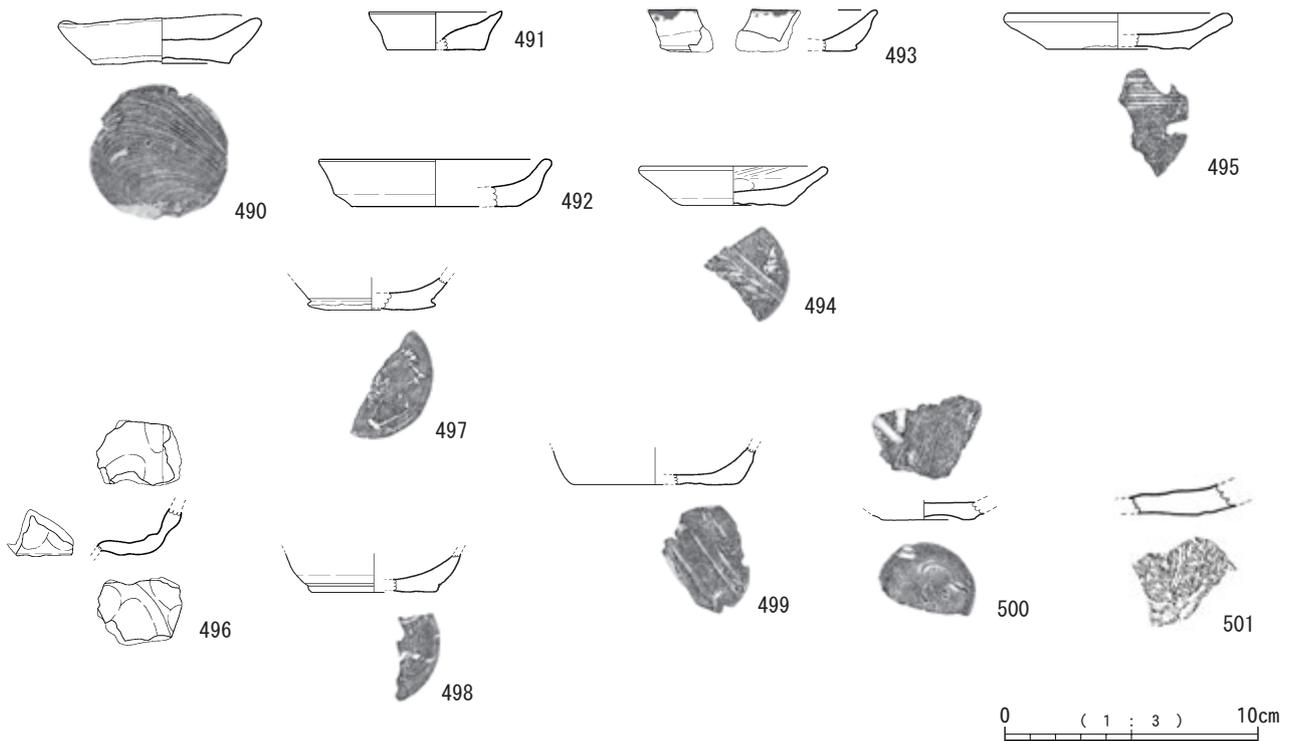
467



第108図 包含層出土遺物（中世 土師器1）



第109図 包含層出土遺物（中世 土師器2）



第110図 包含層出土遺物（中世 土師器3）

す。485は底部の工具痕をナデ消す。腰部は一条の沈線を廻らせ屈曲部を作り、直線的に口縁部へ至る。内外面ともナデを施し、内面は橙色、外面はにぶい橙色を呈す。486はヘラ切り底で直線的に立ち上がる。腰部はケズリで面取りをする。内外面ともナデで整え、にぶい橙色を呈す。487はナデ消しで整えた底部から直線的に立ち上がり口縁部でわずかに外反する。内外面ともナデで整え、橙色を呈す。488はヘラ切り底で直線的に立ち上がる。底面はややレンズ状を呈すが、粘土のヨリや三日月状に粘土が剥落した箇所を残す。内外面ともナデを施し、にぶい橙色を呈す。489は糸切り底でやや丸みを帯びて立ち上がる。見込み部はドーナツ状にわずかに膨らむ。内面は工具ナデと指ナデ、外面は工具ナデで、灰白色を呈す。490は小皿の完形品で、糸切り底から直線的に立ち上がる。器壁は全体的に厚く、腰部をナデで面取りをする。内外面とも工具ナデで、にぶい橙色を呈す。491は糸切り底でやや外傾して立ち上がる。内外面ともナデを施し、内面はにぶい黄橙、外面はにぶい橙色を呈す。492はヘラ切り底で直線的に立ち上がり、口縁部で外反する。口唇部は丸く仕上げ、腰部はケズリで面取りをする。内外面ともナデで整え、内面はにぶい黄橙色、外面は橙色を呈す。493は灯明皿で、ヘラ切り底から丸みを帯びて立ち上がり口縁部で外反する。口唇部にはススが附着し、器高は1.6 cmである。内外面ともナデを施し、

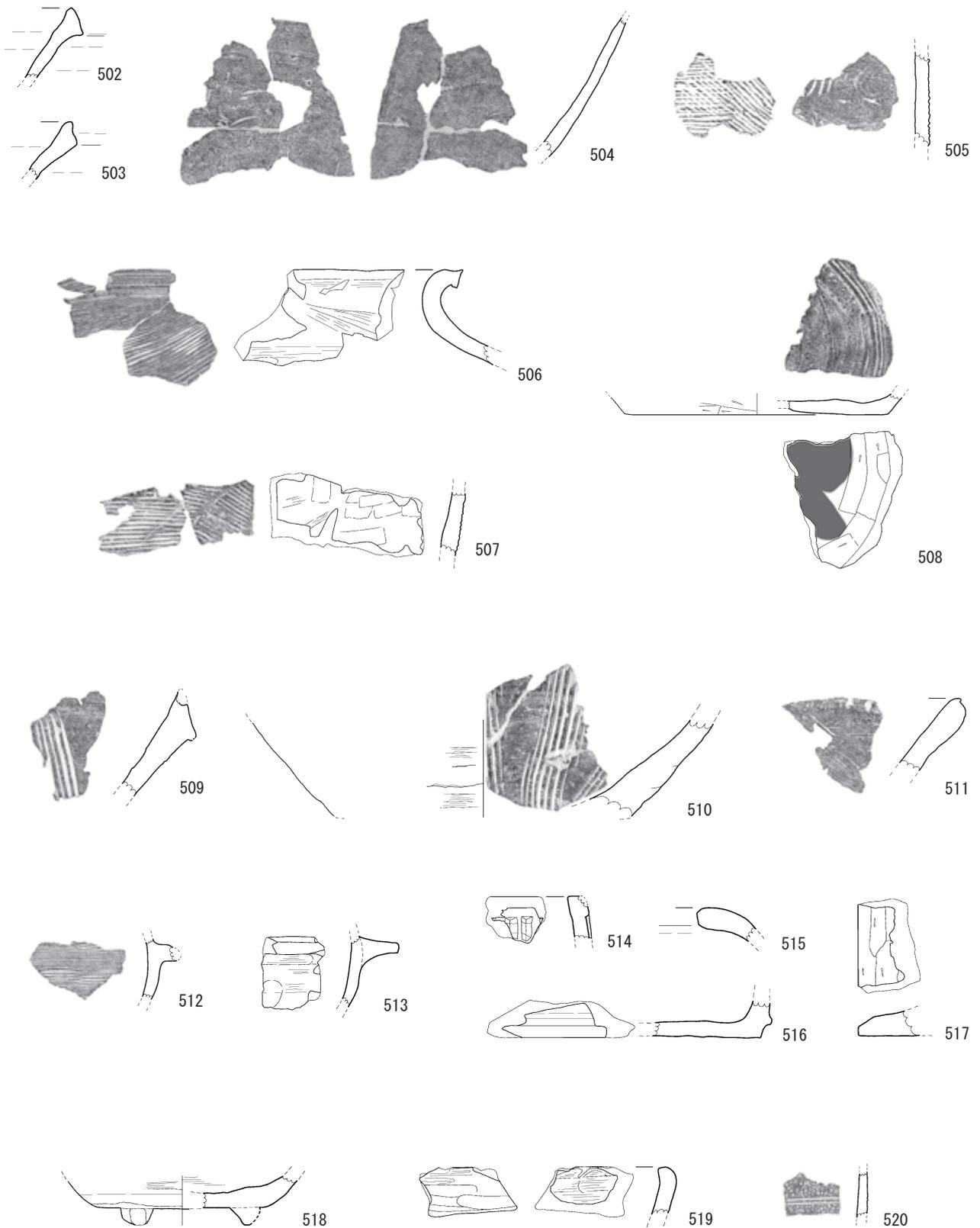
にぶい橙色を呈す。494は工具痕を残す底部からわずかに外反して立ち上がる。口唇部は丸く整え、腰部はナデで面取りをする。内面は工具ナデと指オサエ、外面は工具ナデで整え、内外面とも橙色を呈す。495は工具痕を残す底部から直線的に立ち上がる。口唇部は丸く整え、腰部はナデで面取りをする。内外面とも工具ナデと指オサエを施し、にぶい橙色を呈す。

496～499は胴～底部である。496は手捏ね成形で、内外面とも指オサエが見られ、にぶい黄橙色を呈す。497はややレンズ状を呈すヘラ切り底である。底径は5.2 cmで、内面に指ナデ、外面にヘラナデを施し、にぶい橙色を呈す。498は底面に工具痕を残し、腰部はナデで面取りをする。底径5.0 cm、内外面とも工具ナデで、にぶい橙色を呈す。499は底面に工具痕、腰部にナデによる面取りが見られる。底径6.6 cmで、内外面とも工具ナデで、浅黄橙色を呈す。

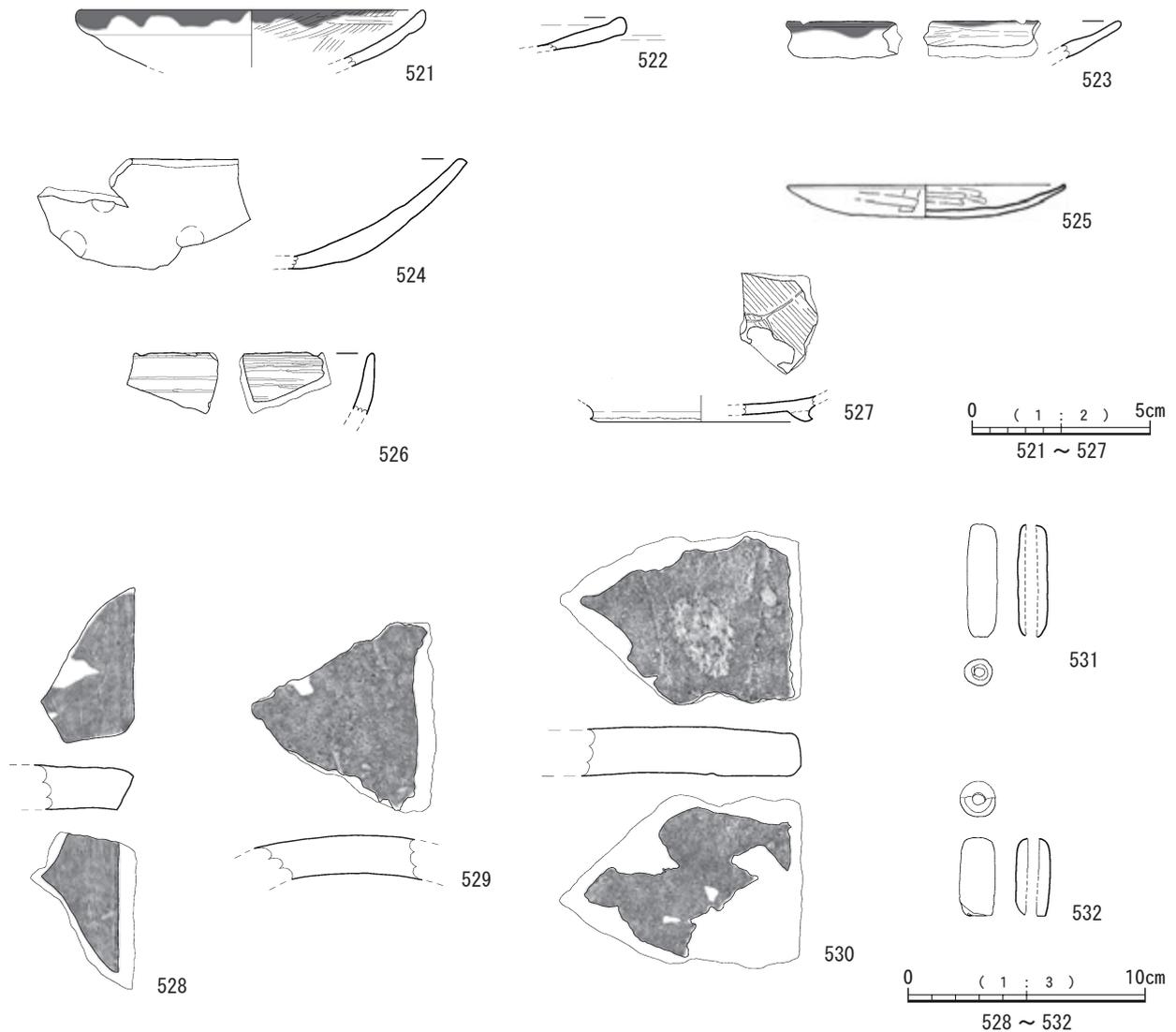
500・501は底部である。500は底面に指オサエによる凹みがある。底面と見込み部に工具痕を残す。底径3.6 cm、内外面とも工具ナデで、内面は灰黄褐色、外面はにぶい黄橙を呈す。501は糸切り底で内面は指オサエの痕が見られ、内外面とも浅黄橙色を呈す。

## (2) 須恵器（第111図502～504）

502・503は東播系の鉢の口縁部である。504は鉢の胴



第111図 包含層出土遺物（中世 須恵器・瓦質土器）



第112図 包含層出土遺物 (中世 瓦器・瓦・土製品)

部と考えられ、器壁が薄い。

(3) 瓦質土器 (第111図 505～520)

須恵器よりも軟質で、瓦質焼成のものを瓦質土器とした。

505～507は甕である。いずれも外面に平行タタキが残る。508は甕の底部と考えられ、内面にハケ目、外面にケズリ痕が残る。外底面にススが付着する。

509・510は挿鉢である。509の口縁部は断面三角形状を呈し、口縁部付近まで櫛目が延びる。510は底部付近の胴部片で、8条1組の櫛目を施す。511は鉢の口縁部であるが、挿鉢の可能性もある。内面にハケ目が残る。

512・513は湯釜の鏝付近の破片で、512は内面にハケ目残り、胎土が507や508に似る。513は土師質の焼成である。

514～518は火鉢である。514・515は口縁部である。

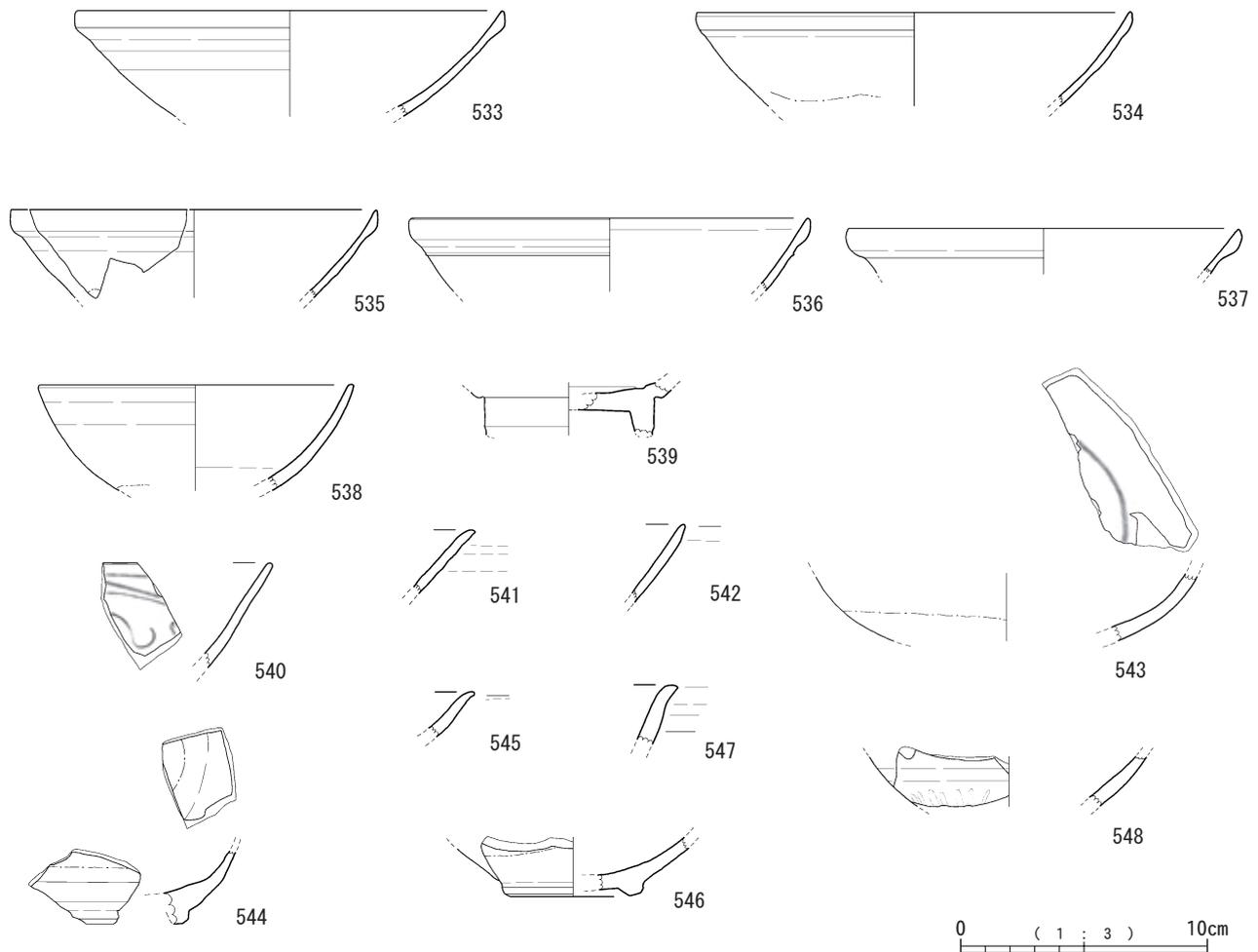
516・517は方形火鉢と考えられ、外面が燻される。516は底部付近の破片で、細い突帯が廻る。517は内面に向かって張り出す口縁部であると考えられる。518は小型で、脚が3脚つくと考えられる。

519は焙烙と考えられる。内湾した口縁部で、外面口縁部はミガキにより光沢をもつ。

520は器種不明の瓦質焼成の破片で、外面に細い棒状工具で細かい刺突と2条の沈線を施す。

(4) 瓦器 (第112図 521～527)

521～527は瓦器である。521は内面にハケ目残り、口縁部にススが付着する。522は内面が燻される。523は口縁部にススが付着する。524は比較的大きく粗雑な作りで、手捏ねの痕跡が残る。525は口縁端部から内面が燻される。526・527は小型の碗と考えられ、両面が燻される。526は直行する口縁部で、内面にヘラミガキ



第113図 包含層出土遺物（中世 白磁 碗）

を施す。527は端部が張り出した低い高台をもち、内面にハケ目とヘラミガキを施す。

(5) 瓦（第112図528～530）

528～530は瓦である。528・529は土師質、530は土器に近い胎土と焼成である。

(6) 土錘（第112図531・532）

531・532は土錘である。531は全長4.7cmを測る。532は欠けにより本来の半分程度の長さになっていると考えられるが、欠けた断面を再調整して平坦にしており、再利用された可能性がある。

(7) 輸入陶磁器

① 白磁

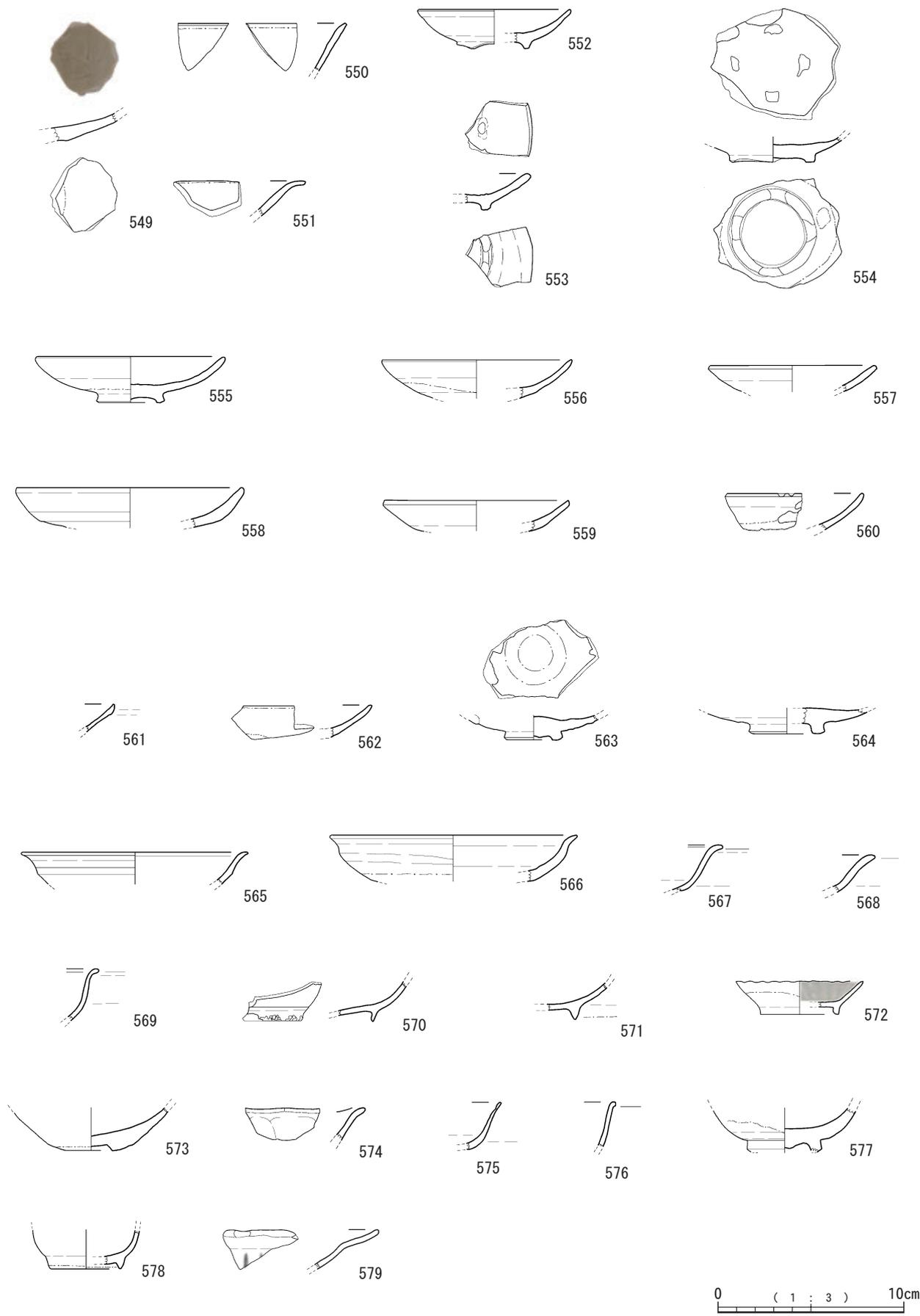
ア 碗（第113図）

533～537は大宰府編年の白磁碗Ⅳ類に該当する。玉縁口縁をもち、腰部付近まで施釉される。538・539は大宰府編年の白磁碗Ⅴ類に該当する。538は高台内面か

ら外面底部にかけては露胎し、粗製である。539は丸みを帯びた胴部から口縁部へ向けて直行して立ち上がり、腰部付近まで施釉される。540は大宰府編年の白磁碗Ⅶ類に該当する。内面にヘラによる文様がみられる。541は森田分類B群に該当すると考えられる無文の碗である。542・543は森田分類C群に該当する。542は直線的に立ち上がる口縁部である。543は外面腰部付近まで施釉され、見込みに圏線がみられる。544は森田分類D群に該当する。底部から屈曲して胴部へ立ち上がる。見込みが釉剥ぎされ、外面は腰部以下が露胎する。545は森田分類E群に該当し、小さく外反する口縁部である。546は歴博分類の浦口窯系に該当すると考えられる。浅い高台をもち、外面の腰部以下は露胎する。547は外反する口縁部で、歴博編年のピロースクⅢ類に該当すると考えられる。548は分類不明の白磁碗で、底部付近に鮑痕のような痕がみられる。

イ 皿（第114図549～573）

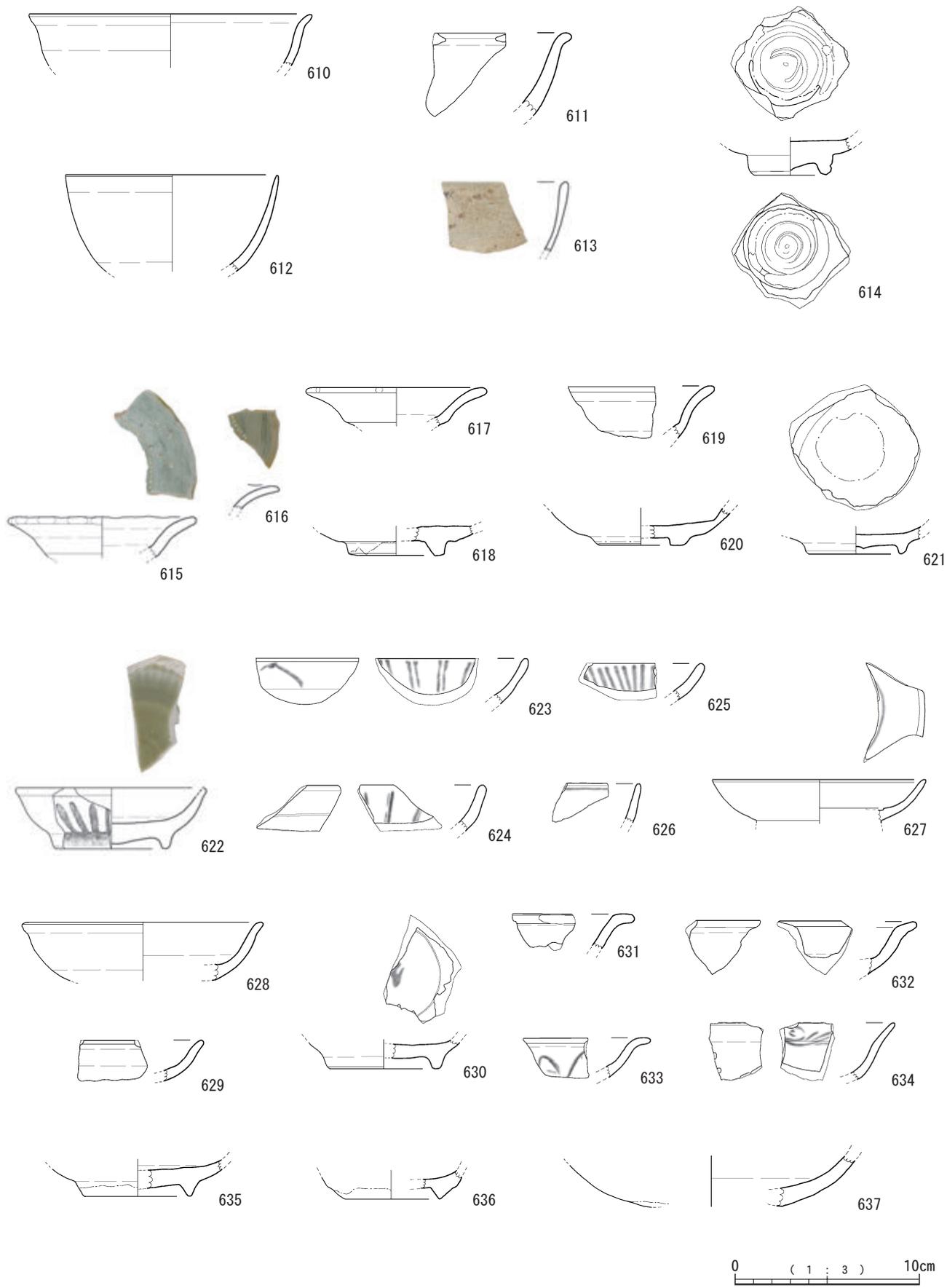
549は大宰府編年白磁皿Ⅶ類に該当する。内面にヘラ描き文を施す。550・551は大宰府編年白磁皿Ⅸ類に該



第114图 包含層出土遺物（中世 白磁 皿・小坏・盤）



第115圖 包含層出土遺物（中世 青磁 碗1）



第116图 包含層出土遺物（中世 青磁 碗・皿）

当する。いわゆる口禿皿で、550は口縁部が直行、551は朝顔形に外反する。552～566は森田編年D群に該当する。552～564は切高台をもつ皿で、553・554は内面に目跡が残る。555～564は径の狭い高台をもち、胴部はやや丸みを帯びて口縁部へ立ち上がる。563は見込みを蛇の目釉剥ぎする。567～573は森田編年E群に該当する。565・566は口縁部が外反し、566は腰部以下が露胎する。567～569は器壁が薄く外反する口縁部である。570・571は畳付が釉剥ぎされ、570には砂が付着する。572は小型の菊花皿で、外面胴部半ばまで施釉される。573は碁笥底を呈し、畳付が釉剥ぎされる。

#### ウ その他の器種 (第114図574～579)

574はいわゆる多角坏である。

575～578は小坏で、いずれも胴部が丸く張る。575・576は器壁が薄く、やや外反する口縁部である。577は腰部付近まで施釉され、578は畳付のみ釉剥ぎされる。

579は盤形の大皿と考えられる。口縁部が稜花形を呈する。

### ② 青磁

#### ア 碗 (第115図580～第116図614)

580は同安窯系の碗で、大宰府分類の同安窯系青磁碗Ⅰ類に該当する。内面にジグザグ状の点描文を施す。581は大宰府分類の龍泉窯系青磁碗Ⅰ類に該当する。内面に片彫文及び柵目を施す。582・583は上田分類B-Ⅰ類に該当し、鎬蓮弁文を施す。584～588は上田分類B-Ⅱ類に該当する。幅の広い蓮弁文を施し、588は見込みに草花文を施す。589～594は上田分類B-Ⅳ類に該当し、細蓮弁文を施す。595・596は上田分類C-Ⅰ類に該当し、口縁部にいわゆる弦文を施す。597～600は上田分類C-Ⅱ類に該当する。597・598は口縁部に雷文を施す。599は腰部付近の破片で、片切り彫りのラマ式蓮弁文がみられる。600は外面底部は露胎し、見込みに草花文を施す。601は上田分類C-Ⅲ類に該当し、口縁部に簡略化した波状の雷文を施す。602～611は上田分類D類に該当し、口縁部が外反する無文の碗である。602～606は口縁部直下の調整により口縁部がやや外反し、口縁端部に丸みをもつ。612・613は上田分類E類に該当し、口縁部が直行して立ち上がる無文の碗である。612は口縁部がシャープに作られ、613は二次焼成により釉薬の光沢が失われる。614は粗製の碗の底部である。釉薬が部分的に畳付までかかり、高台内面～外底部は露胎する。見込みは円状に釉剥ぎされるが、釉薬の境界付近に輪状の剥がれがみられ、別個体が接着していたと考えられる。上田分類D類もしくはE類に該当すると考えられる。

#### イ 皿 (第116図615～637)

615～618は歴博分類の稜花皿に該当する。615・616

は口縁部内面に楕円波状文を施し、618は二次焼成により釉薬の光沢が失われる。619～621は腰折皿である。619・620は内面に強い稜をもって屈曲し、胴部へ立ち上がる。また、620は高台外面まで施釉され、見込みが円状に釉剥ぎされる。621は粗製で、高台畳付付近まで施釉され、見込みが円状に釉剥ぎされる。

622～630は歴博分類の内彎皿に該当する。622は内外面ともに放射状の文様を描き、見込みには陽刻で「顧氏」の文様が施される。623～625は内面に放射状の文様を描き、623は口縁部外面に崩れた蓮弁文のような文様を施す。626は口縁部外面に沈線を1条廻らす。627～629は無文だが、627は見込みに陽刻の圏線がみられる。630は外面底部を釉剥ぎし、見込みには陽刻の圏線と陰刻の文様を施す。

631～634は歴博分類の端反皿に該当する。631～633は口縁部が大きく外反し、633の外面には崩れた蓮弁文がみられる。634は内面に稜をもつものの比較的緩やかな外反で、口縁部内面に流水文を施す。

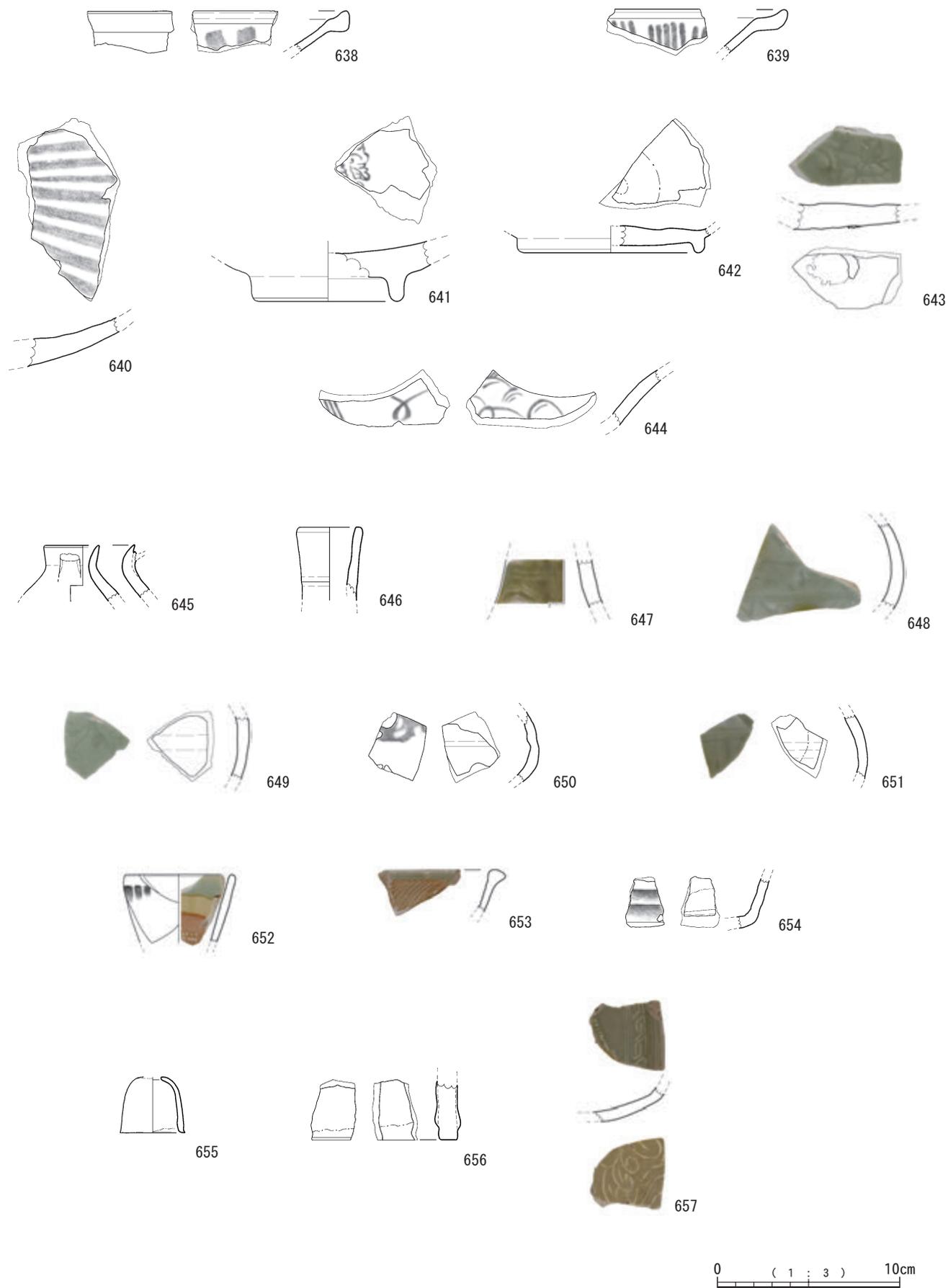
635～637は皿の底部である。635は粗製で、シャープな高台をもち高台外面途中まで施釉される。636・637は碁笥底を呈する。636は内外面に透明度の高い釉薬がかかり、637は比較的大型の皿で635と釉薬の色調が類似する。

#### ウ 盤 (第117図638～643)

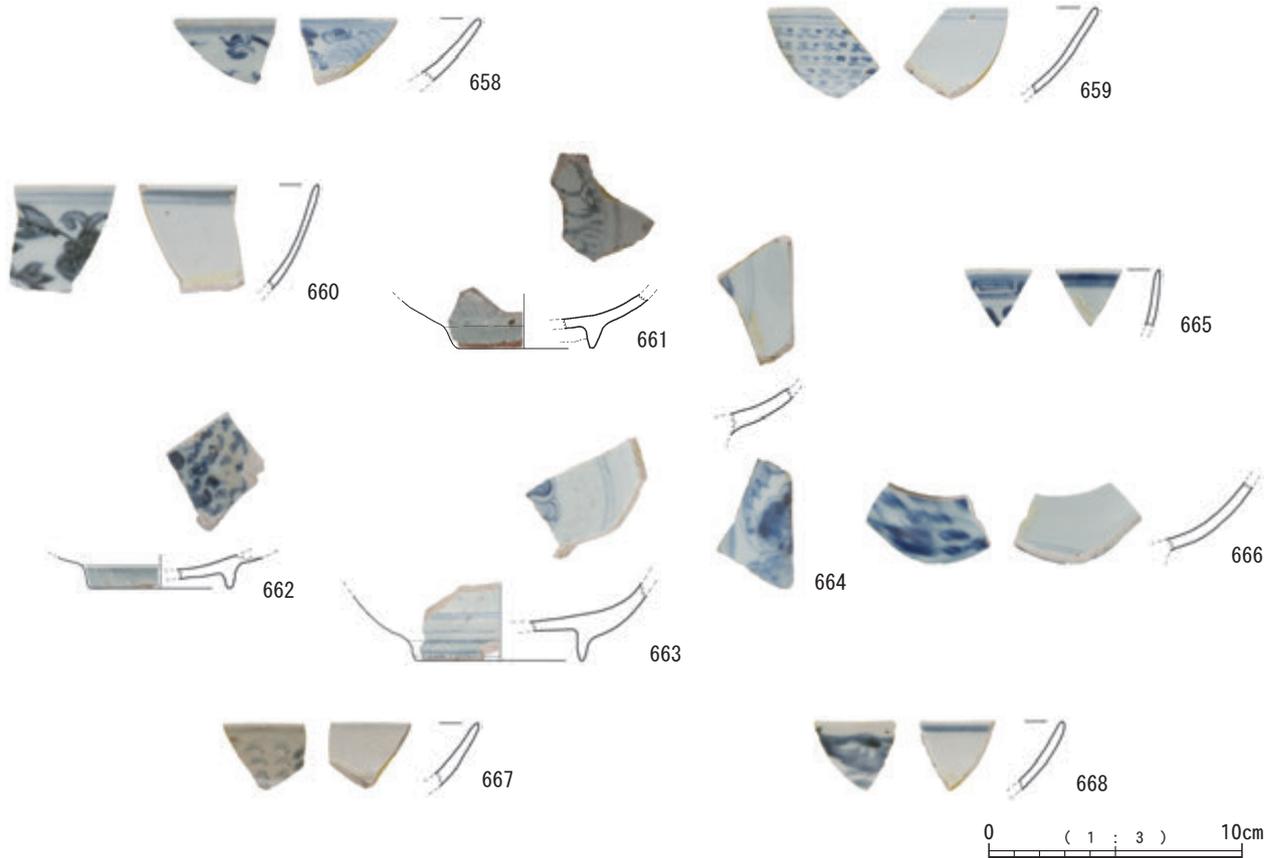
638～643は盤である。638・639は口縁部、640は腰部付近の破片で、内面に放射状の文様を施す。641は器壁の厚さから盤としたが、大型の碗の可能性もある。外底部は露胎し、見込みに草花文を施す。642は外面底部を釉剥ぎし、見込みを蛇の目釉剥ぎする。643は外面底部を蛇の目釉剥ぎし、見込みの広い範囲に草花文を施す。外面底部に、別個体のものと考えられる胎土の剥がれがみられる。

#### エ その他の器種 (第117図644～656)

644は外反して大きく開く器形で、口縁部が大きく開く大皿のようなものと考えられる。内外面に文様を描く。645～656は瓶や壺などの袋物類である。645は瓶の口縁で、欠損しているが片側に把手が付く。646は長頸で、内外面とも全面施釉である。647は瓶の頸部付近で、外面に草花文を施す。648は壺の胴部で、底部付近に花卉状の文様がみられる。649は外面に唐草文を施す。650は内面に段をもち、外面に文様が施されるが文様の種類ははっきりしない。651は内面に釉薬が垂下した痕がみられ、外面には直線を組み合わせた文様が施される。652は小型の坏と考えられ、内面は釉薬が2回に分けてかけられ、外面口縁部付近には放射状の文様がみられる。653は播鉢で、肥厚した口縁部をもち口縁部内面まで施釉される。654は香炉の腰部付近である。655・656は器種不明の青磁である。655は器壁が薄く小型の坏のよう



第117図 包含層出土遺物（中世 青磁 盤・その他器種・高麗青磁）



第118図 包含層出土遺物（中世 青花 碗）

な器形を呈する。656 は器壁が厚く、釉薬が内外面とも厚くかかる。

オ 高麗青磁（第 117 図 657）

657 は高麗青磁で、皿の器形を呈する。内面に雷文、外面に唐草文を施す。

③ 青花

ア 碗（第 118 図）

658～663 は小野分類碗C群に該当する。659 は外面に丸三つ文を施す。660 は外面に唐草文を施す。661 は外面に芭蕉葉文を施し、畳付付近に砂目が付着する。664～666 は小野分類碗E群に該当する。665 は口縁部外面に雷文帯が施される。666 は文様が滲み判然としない。667・668 は漳州窯産の碗で、碗C群や碗E群を模倣していると考えられる。

イ 皿（第 119 図 669～677）

669～671 は小野分類皿B 1群に該当する。669・670 は内面に玉取獅子文、外面に牡丹唐草文を施し、669 の畳付には砂が付着する。671 は見込みに花樹文と考えられる文様が施される。672 は小野分類皿B 2群に該当する。畳付きが釉剥ぎされ、外面底部に「大明年造」の字款、内面に牡丹唐草文を施す。673～675 は小野分類皿C群に該当する。673 は基筒底を呈し、内外面に文様を施す。674 は外面に芭蕉葉文を施す。675 は器壁が非常

に薄い、基筒底を呈するためC群に加えた。内面に草花文を施す。676 は小野分類皿E群に該当する。畳付は釉剥ぎされ、内面に山水人物の一部と考えられる文様を施す。677 は漳州窯産の皿で、高台外面まで施釉される。

ウ その他器種（第 119 図 678・679）

678 は盤で、漳州窯産と考えられる。口縁部がやや上向きに外反し、口縁部内面に文様が施される。679 は壺と考えられ、外面全面に唐草文が施される。

④ 国外陶器

ア 天目碗（第 120 図 680～684）

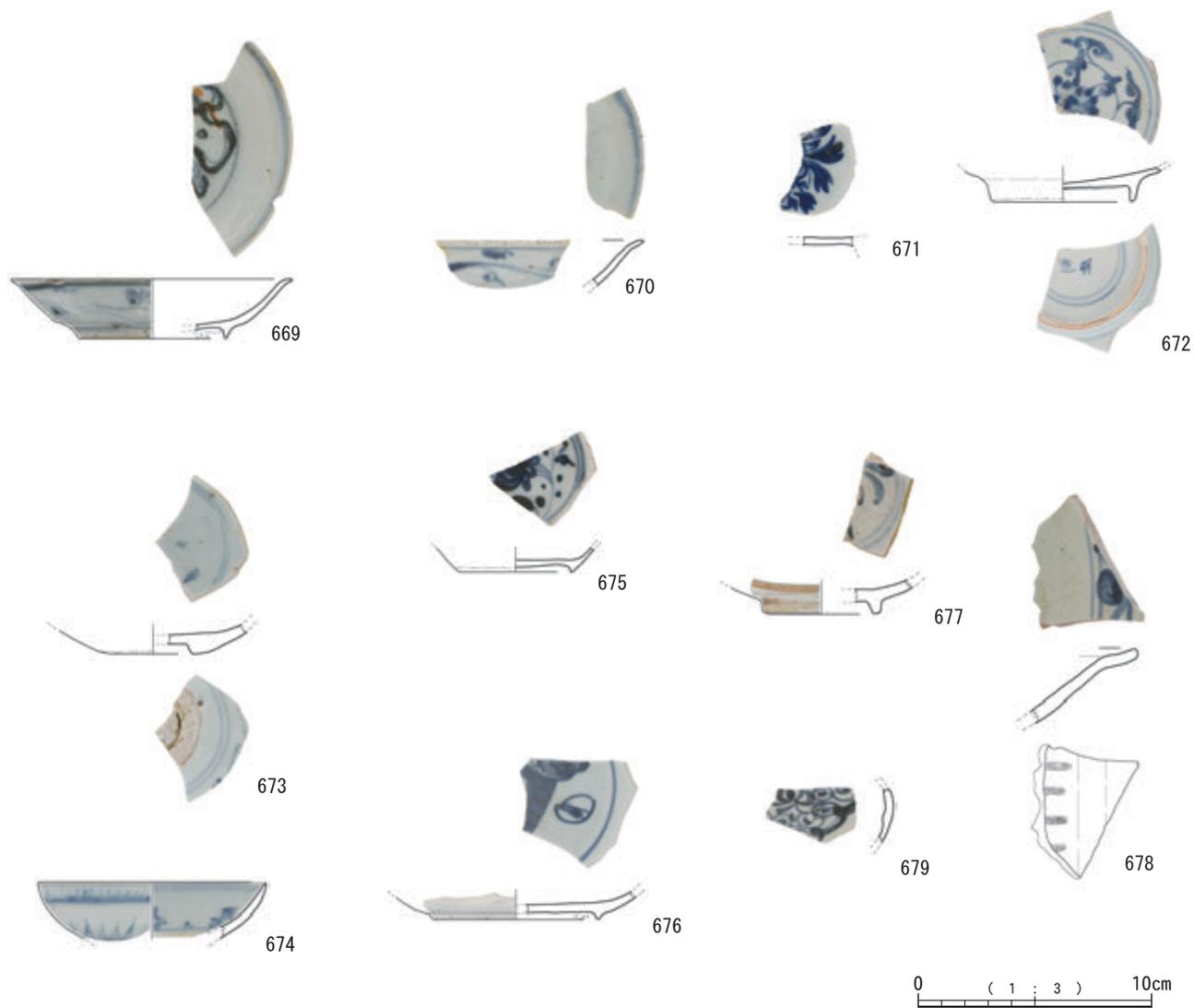
680～684 は天目碗である。680 は口縁部で、やや外反する。681～683 はいずれも外面腰部よりやや上までは黒釉が施釉され、682・683 は釉溜まりができる。684 は内面に黒釉が全面施釉される。

イ 華南三彩（第 120 図 685～687）

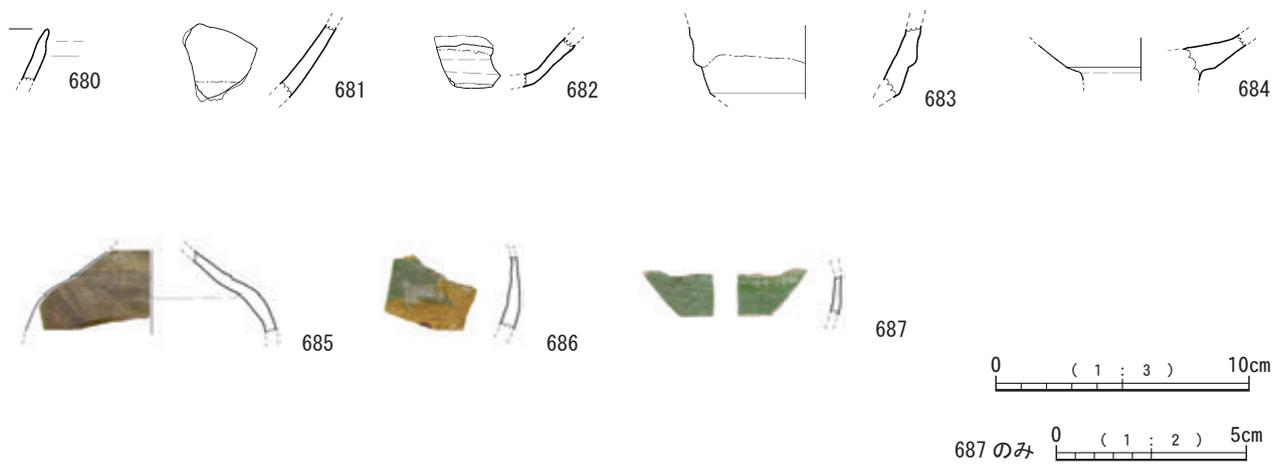
685 は壺の肩部付近で、摩滅により色調が鈍くなっているが、緑と黄の彩色がわずかに残る。686 は外面に線刻で文様を描き、緑と黄の彩色を施す。袋状を呈すると考えられるが、器種は不明である。687 は緑釉陶器で、器壁が薄く皿のような器形を呈する可能性があるが器種は不明である。内外面とも緑の彩色を施す。

ウ 甕（第 121 図 688・689）

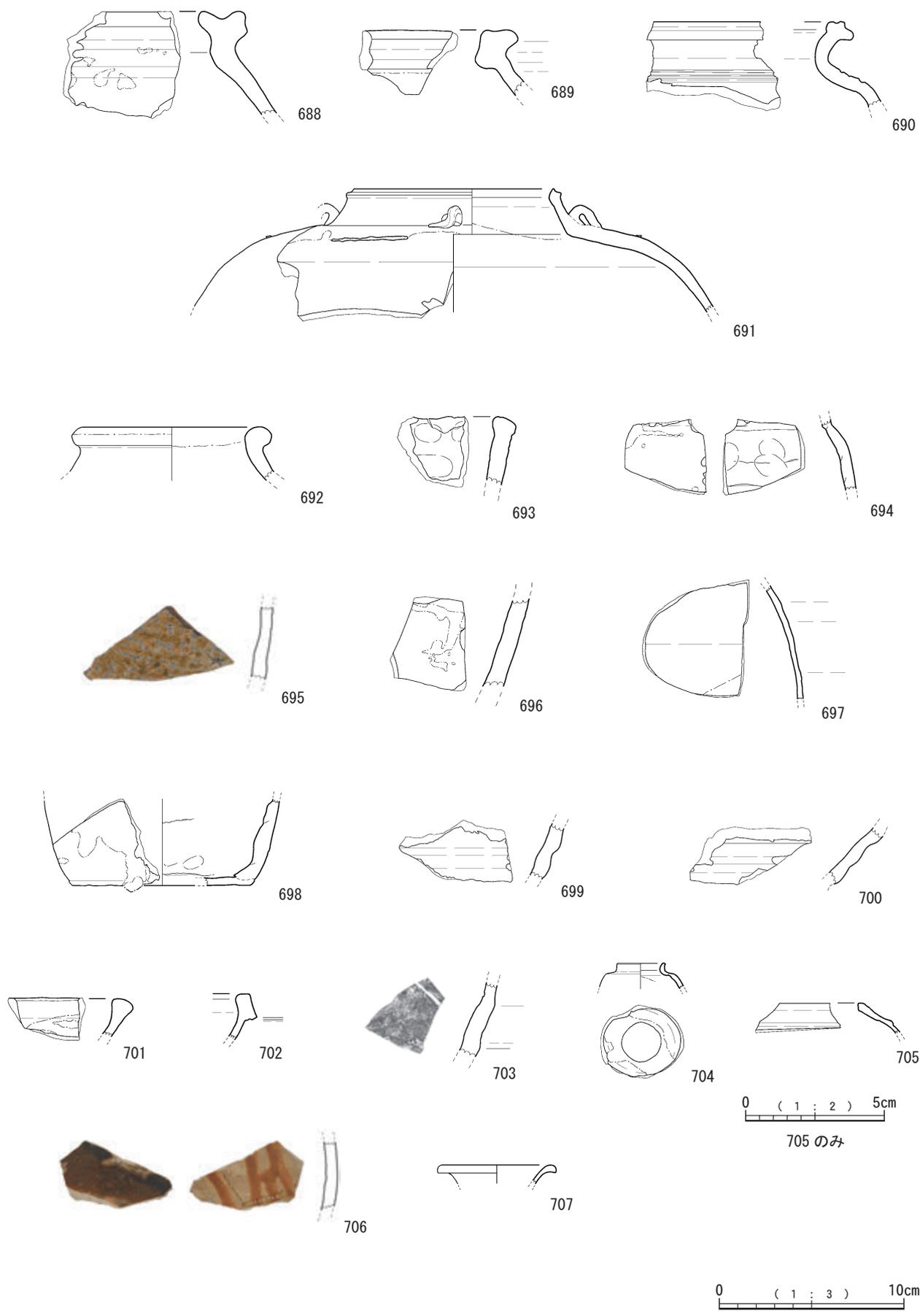
688・689 は中国産の甕の口縁部である。いずれも口



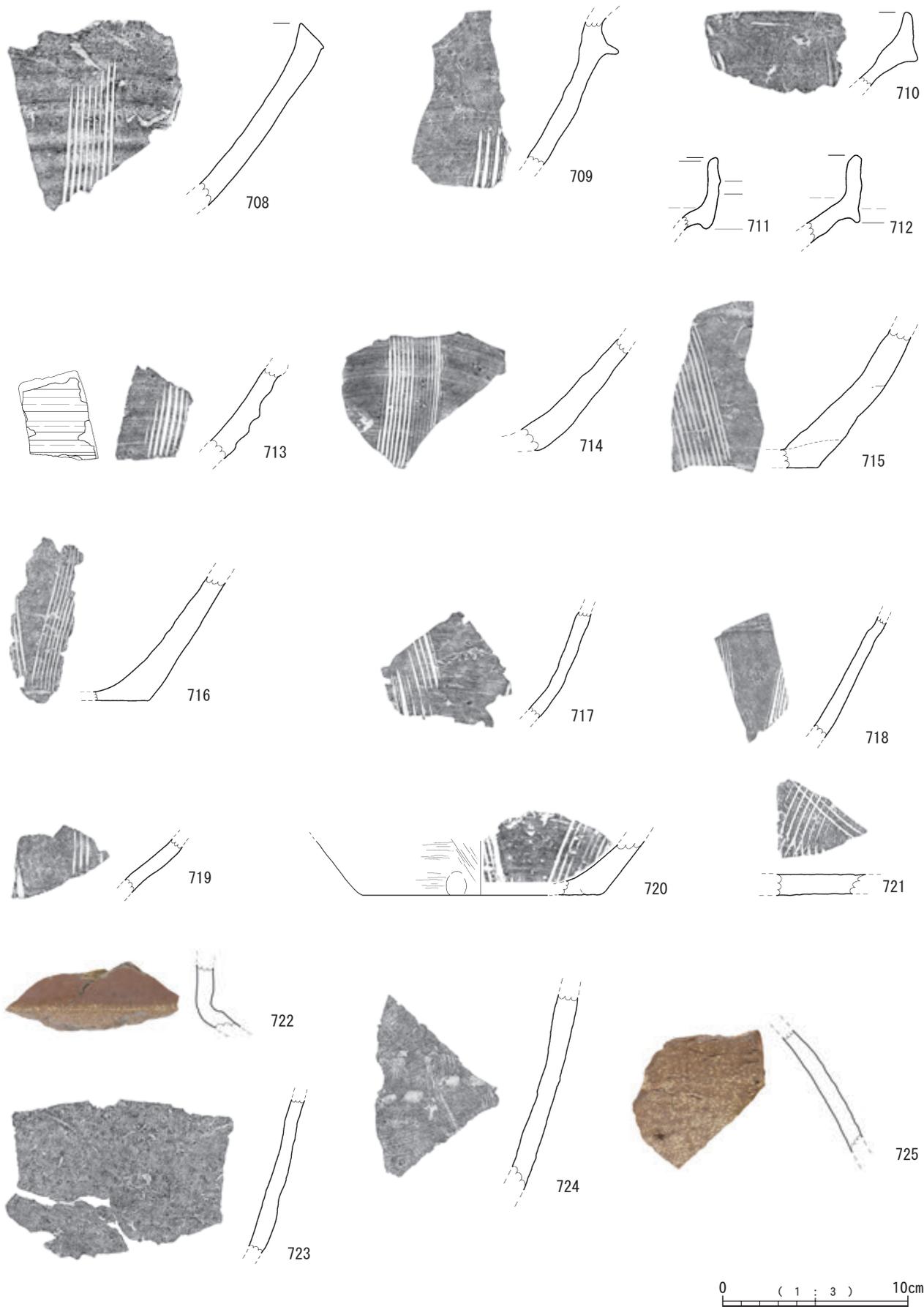
第119図 包含層出土遺物（中世 青花 皿・盤・壺）



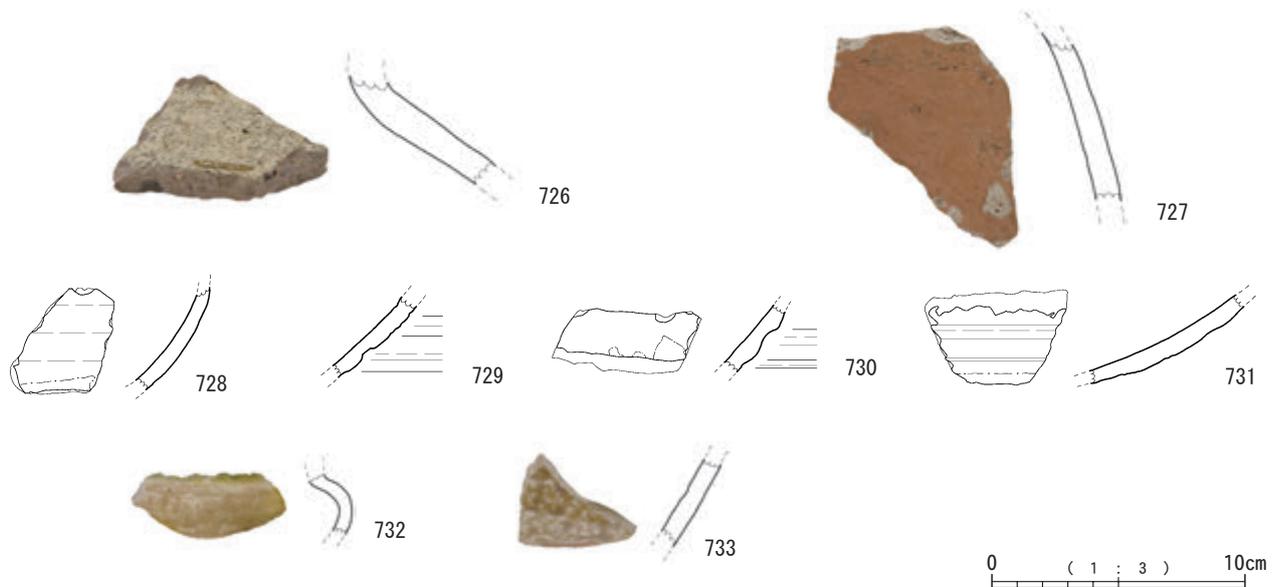
第120図 包含層出土遺物（中世 国外陶器 天目碗・華南三彩）



第121図 包含層出土遺物（中世 国外陶器 甕・壺・鉢・その他器種）



第122図 包含層出土遺物（中世 国産陶器 備前）



第123図 包含層出土遺物（中世 国産陶器 常滑・瀬戸美濃）

唇部を薄く釉剥ぎする。

#### エ 壺（第121図 690～700）

690～700は中国産の壺である。690は口唇部～内面が露胎する。691は四耳壺で、捻れた耳がつく。口縁部内面まで薄く施釉し、肩部に目跡が残る。692は肥厚した口縁部で、口唇部は釉剥ぎされる。693は小型の壺の口縁部と考えられ、調整痕が残る粗雑なつくりである。694は肩部付近の破片で、外面の一部に釉薬がかかり、器壁の大半は露胎する。695は外面に黄褐色の釉薬がまだらにかかる。696は外面の一部に釉薬がかかる。697は器壁が薄く、外面は露胎、内面に灰赤色の釉薬が薄くかかる。698は外面に黒釉がかかり、内面には輪積みの痕が明瞭に残る。699・700は壺の底部に近い破片である。いわゆる「沖縄5類」に該当し、沖縄での出土が多い褐釉陶器である（瀬戸ほか2007）。

#### オ その他器種（第121図 701～707）

701・702は中国産の鉢である。いずれも部分的に薄い施釉がみられるが、ほぼ全体が露胎する。703は内面に沈線がみられ、播鉢の可能性もある。704・705は中国産の茶入れと考えられ、器壁が非常に薄い。704は黒褐色の釉薬が外面から口縁部内面までかかり、705は全面露胎する。706は器種不明で、外面に暗赤褐色の釉薬がかかり内面にも釉薬が薄く垂下する。外面に別個体のものと考えられる胎土の剥がれがみられる。707は朝鮮産と考えられるが、唐津産の可能性もある。徳利の口縁部で、全面施釉される。

### （8） 国産陶器

#### ① 備前（第122図）

708～721は播鉢である。708～712は口縁部である。708は口唇部が平坦面をもち、口縁部の内側が上部へ張り出す。709は口縁部下に突起をもち、710～712は口縁部全体が拡張される。713～720は底部から胴部にかけての破片である。713は外面に段をもつ。714・715は幅が広く条数が多い櫛目を施し、715は内面底部付近が摩耗する。717は胎土や焼成は精緻だが、器形が歪む。718は器壁が薄く、口縁部内面に段をもつ。719は内面全体に自然釉がかかる。720は内面底部付近が摩耗する。721は底部の櫛目である。

722～724は甕である。722は強く屈曲する頸部付近と考えられる。723・724は大型の甕の胴部と考えられる。内外面ともナデ調整が残る。

725は壺と考えられる。外面に自然釉がかかる。

#### ② 常滑（第123図 726・727）

726・727は壺と考えられ、いずれも外面に薄く自然釉がかかる。

#### ③ 瀬戸・美濃（第123図 728～733）

728は天目碗である。外面の腰部付近まで黒釉が施釉される。729～731は鉢の底部付近である。内外面に施釉され、730は内面下半が露胎、731は外面底部付近が釉剥ぎされる。732は小型の壺と考えられ、肩部から胴部にかけての破片である。内面は露胎し、外面全面に施釉される。733は壺形を呈すると考えられるが、器種は不明である。内面は露胎し、外面の途中まで施釉される。

## 第7節 縄文時代前期末～中世の石器

### 1 概要

Ⅱ～Ⅴ層の包含層出土石器については、現代の耕作による削平や谷地形の影響で時期区分が明確ではないため、縄文時代前期末から晩期、古墳時代、古代、中世に帰属する可能性がある石器を一括して報告する。Ⅱ～Ⅴ層の包含層からは、石器 240 点が出土し、うち石器 73 点を図化した。

### 2 包含層出土石器の状況

#### (1) 打製石鏃 (第 124 図 734～736)

3 点出土し、図化した。734 はⅡ類に分類され瑪瑙玉髓系の石材を用いている。丁寧な剥離を施し、均一に仕上げている。先端部は側片からの剥離により石錐状の加工が見られるが、擦痕等は確認できないことから石鏃として掲載した。

735 はⅣ類に分類される。薄手の頁岩製で、右脚部を欠いている。

736 はⅤ類に分類される。チャート製の五角形鏃で、やや胴長なつくりという印象を受ける。細かな剥離によって均一な形状を整えている。

#### (2) 石匙・スクレイパー類 (第 124 図 737)

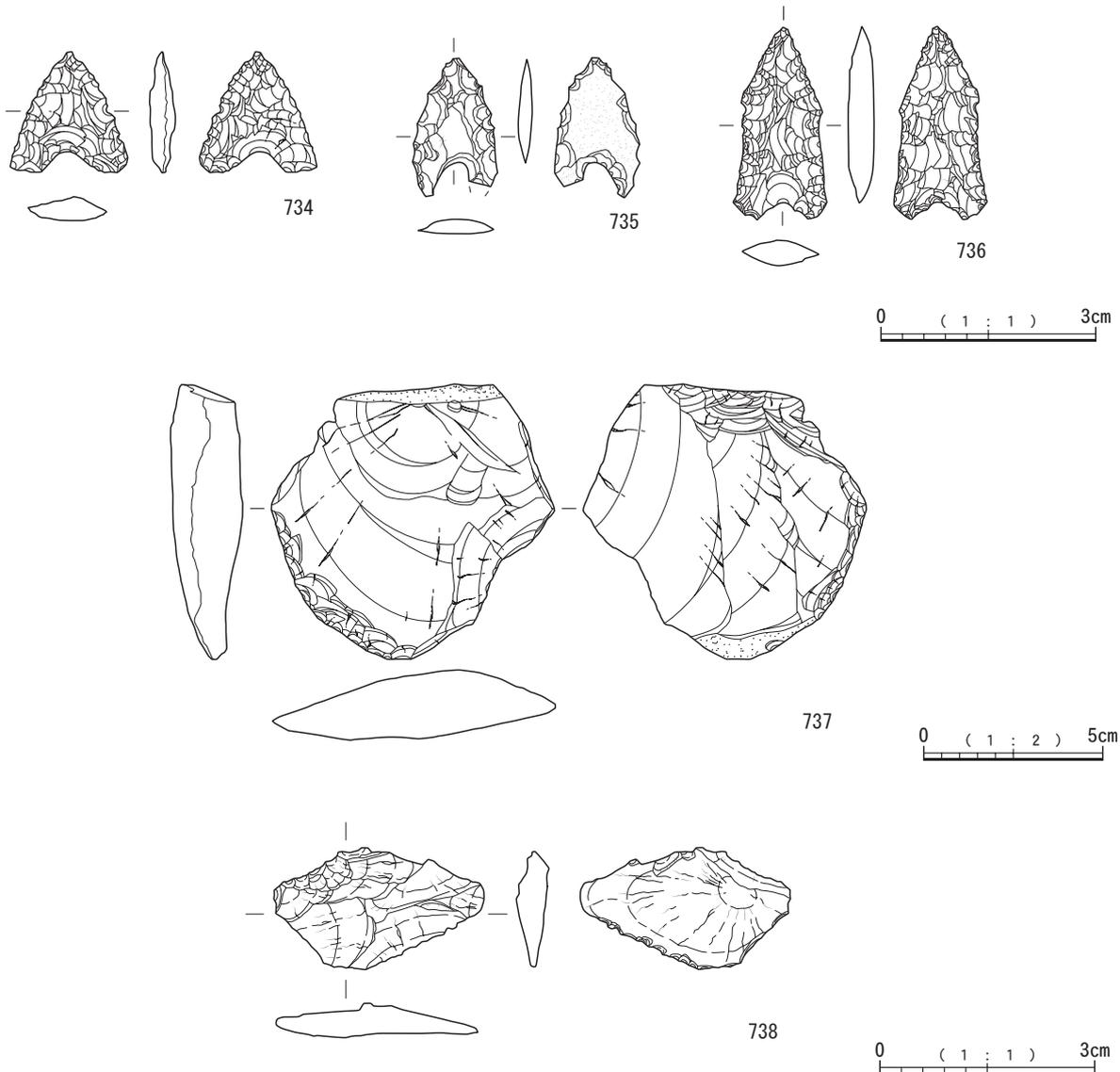
スクレイパーが 1 点出土し、図化した。737 は大型で厚みのある珪質頁岩の剥片を素材とし、縁辺部に両側から浅い二次加工を連続して施すことから、エンド・スクレイパーと判断した。

#### (3) 二次加工剥片・使用痕剥片 (第 124 図 738)

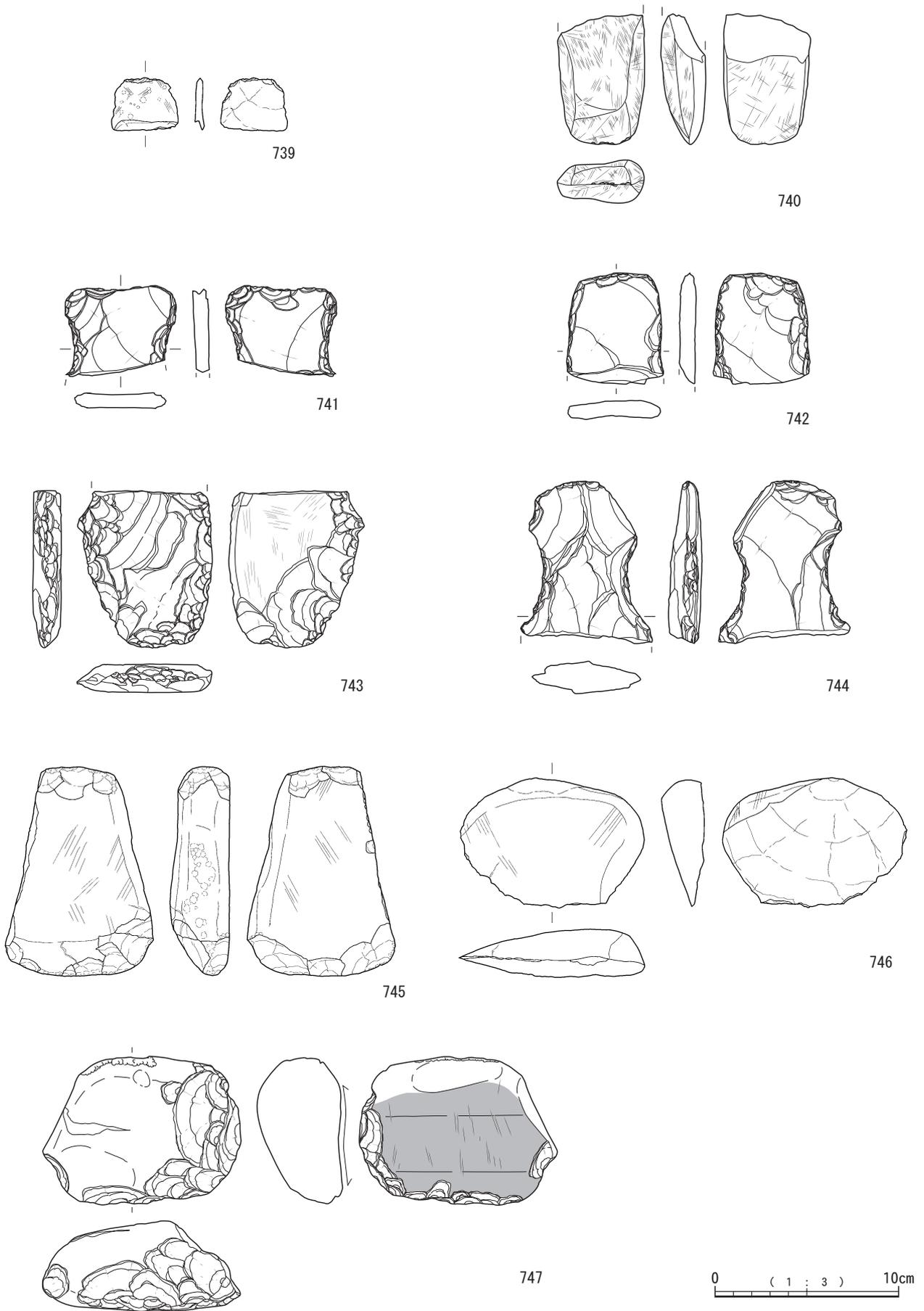
使用痕剥片が 1 点出土し、図化した。738 は使用痕剥片である。鉄分の多い頁岩の剥片を用いており、鋭い一辺に微細な使用痕が見られる。

#### (4) 磨製石斧 (第 125 図 739・740)

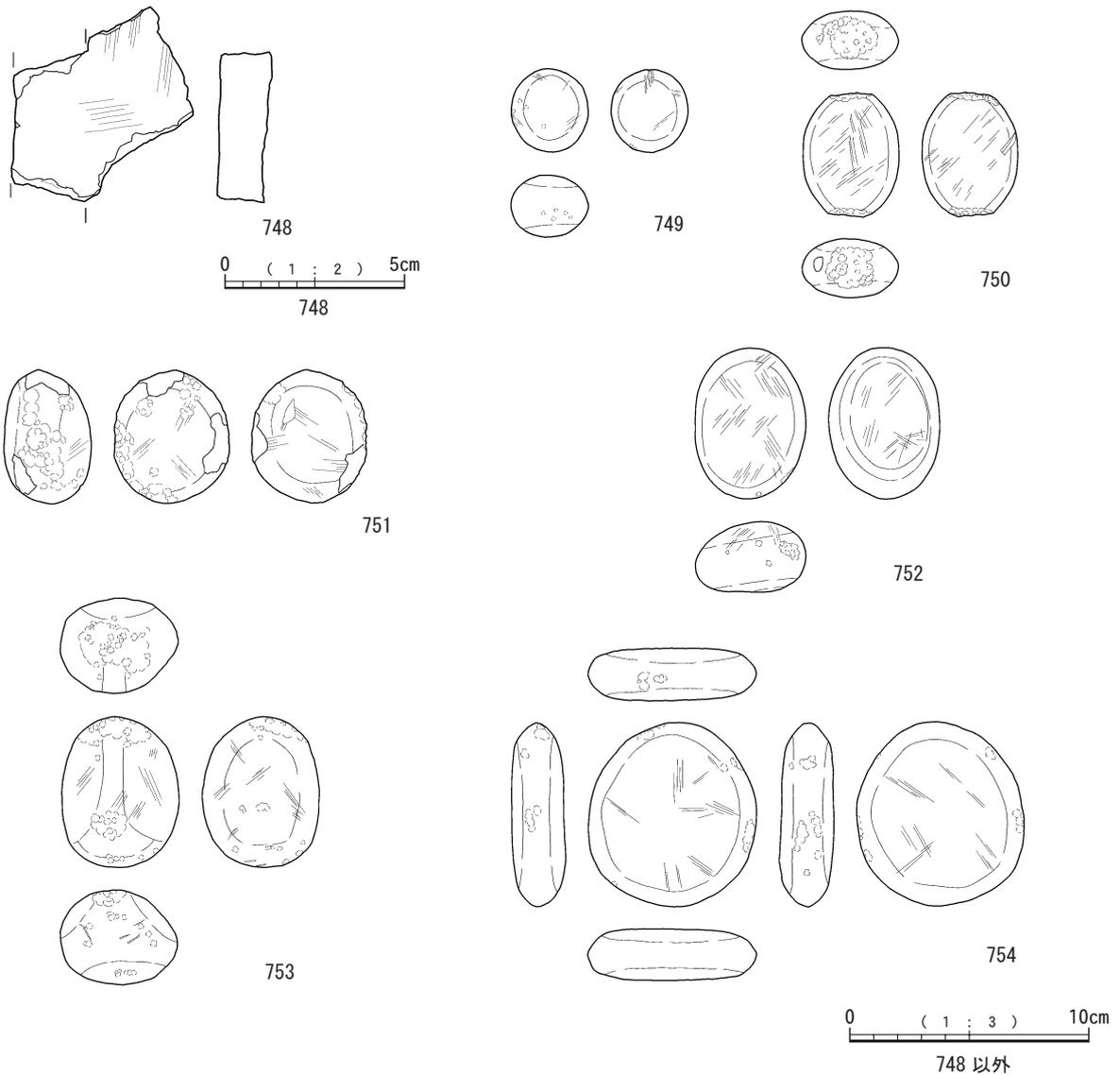
2 点出土し、図化した。739 は磨製石斧の基部である。



第124図 Ⅱ～Ⅴ層石器 1 (石鏃・スクレイパー・使用痕剥片)



第125圖 II～V層石器2（磨製石斧・打製石斧・礫器）



第126図 II～V層石器3（砥石・磨・敲石1）

ホルンフェルス製で、小型である。740は磨製石斧の刃部である。ホルンフェルス製だが、側面の敲打痕等が風化して不明瞭になっている。表裏面には剥落してからも使用を続けた痕跡が見られる。

(5) 打製石斧（第125図741～744）

8点出土し、4点図化した。741はホルンフェルス製の基部である。抉り部がわずかに確認できる。742はホルンフェルス製の扁平な石斧片である。基部として図化した。743は安山岩製の石斧片である。刃部として図化した。742同様はっきりしない。744は扁平打製石斧の基部である。ホルンフェルス製で抉りが見られ、刃部を欠いている。

(6) 礫器（第125図745～747）

5点出土し、3点図化した。745は砂岩製の礫の両端に剥離を施している。端部は使用により摩滅している。746は砂岩の不定形な円礫から剥離した剥片の鋭い縁辺

を利用している。747は不定形な砂岩礫の右側片と下部に、表裏面からの加撃によって刃部を作出している。裏面の光沢面の状況から、磨石ないし石皿としての機能を有するものが礫器として使用された可能性が考えられる。

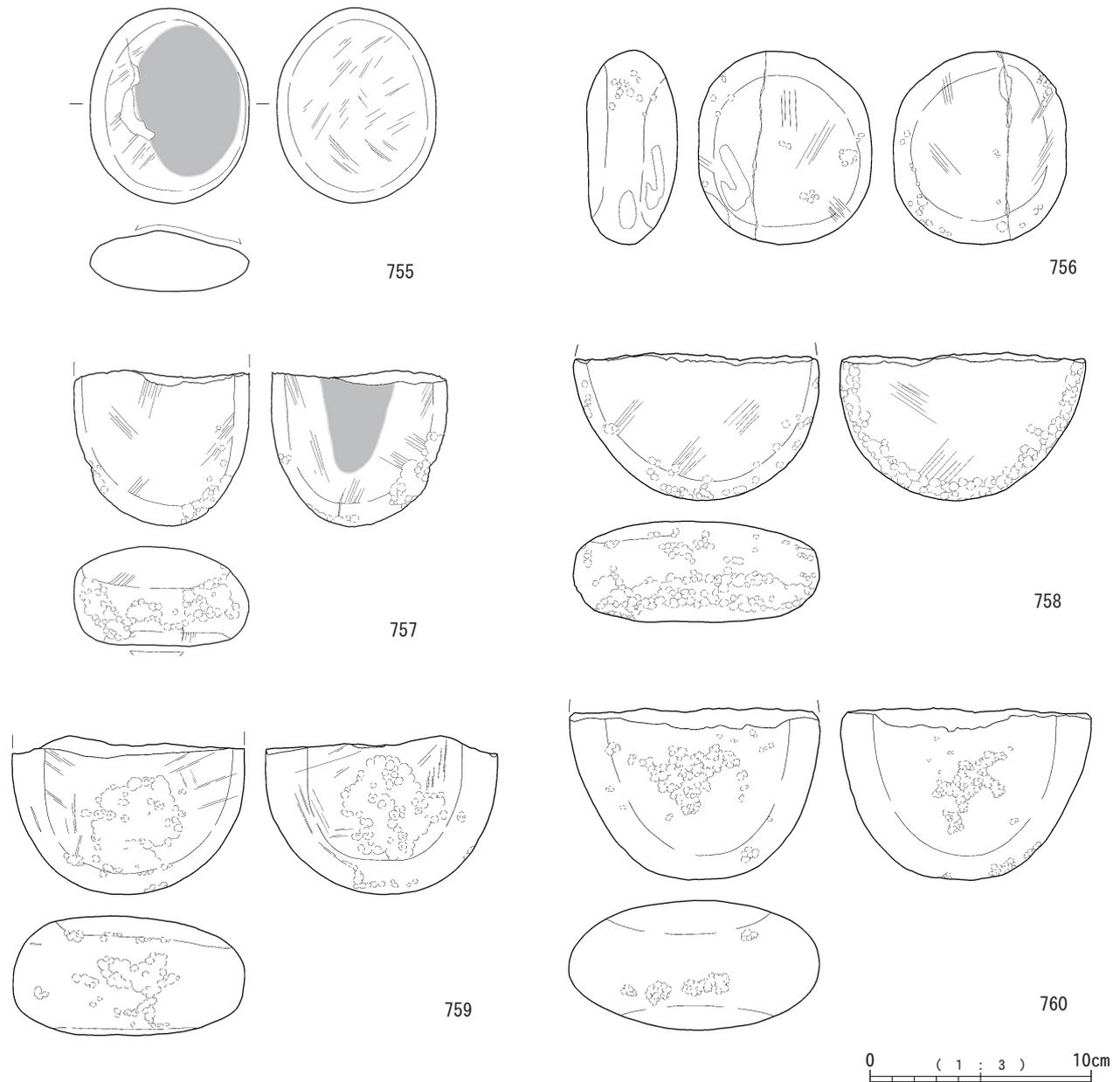
(7) 砥石（第126図748）

2点出土し、1点図化した。748は扁平な砂岩を用いた砥石である。

(8) 磨・敲石（第126図～第130図749～781）

152点出土し、33点図化した。

749～754はI類に分類される。749は長軸3.5cmと小型のI類の中でも最も小さいグループである。長軸方向に直線的な凹みが見られるが、人為的なものははっきりしない。750は長軸5.2cmの小型の砂岩製で、長軸の両端に明瞭な敲打痕が残る。751は砂岩製で長軸5.6cmと小型である。縁辺部には敲打によると想定される剥落が顕著に見られる。752はやや扁平で卵状の砂岩を素



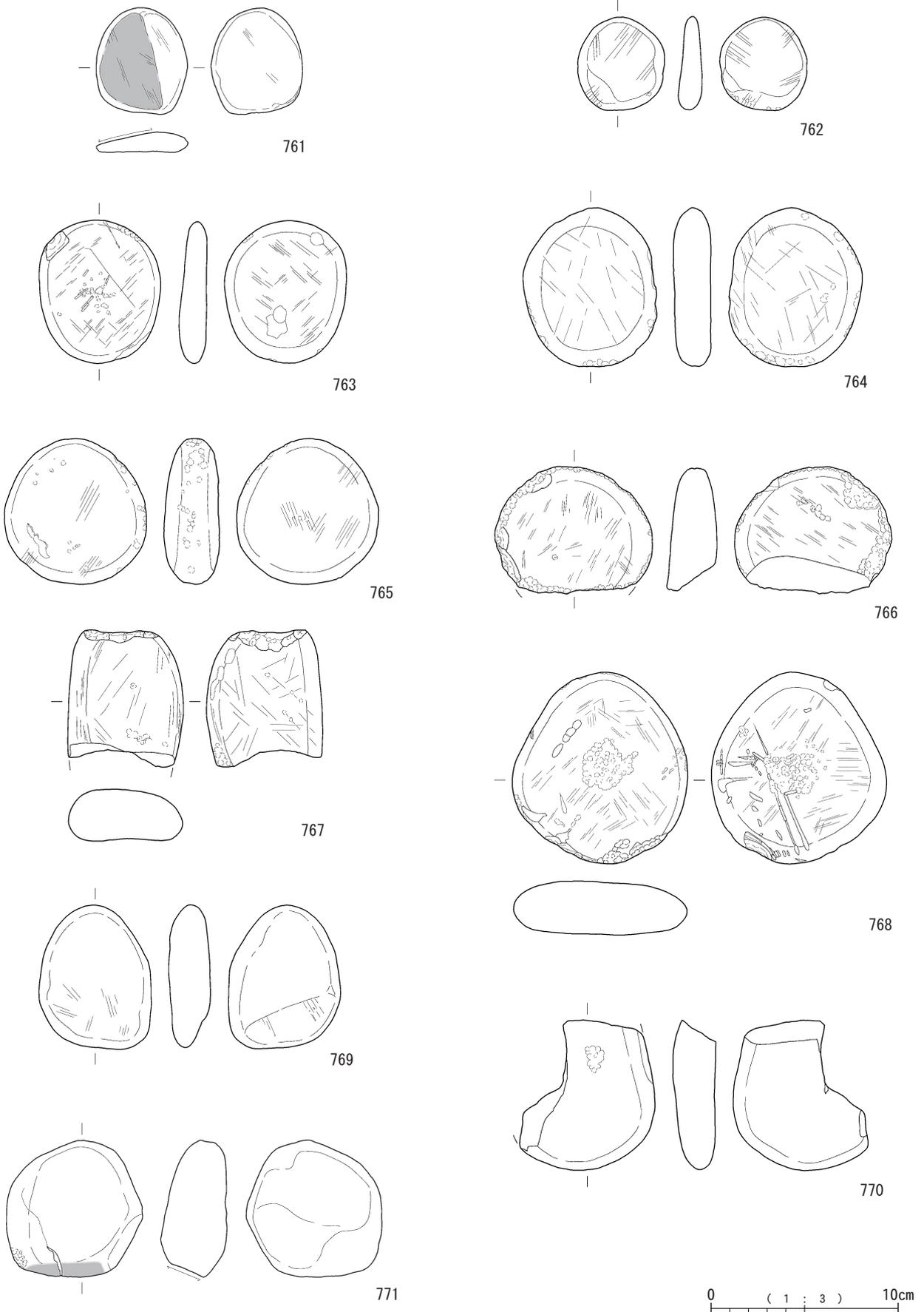
第127図 II～V層石器4（磨・敲石2）

材とし、丸みの弱い表裏面には磨りによる光沢面が形成されている。753は砂岩製で卵状を呈し、両端部に敲打痕が見られる。754は砂岩製で長軸が7.7cmと小型のI類の中では大きめである。全体的に風化して不明瞭だが、縁辺部に敲打が集中している箇所が見られる。

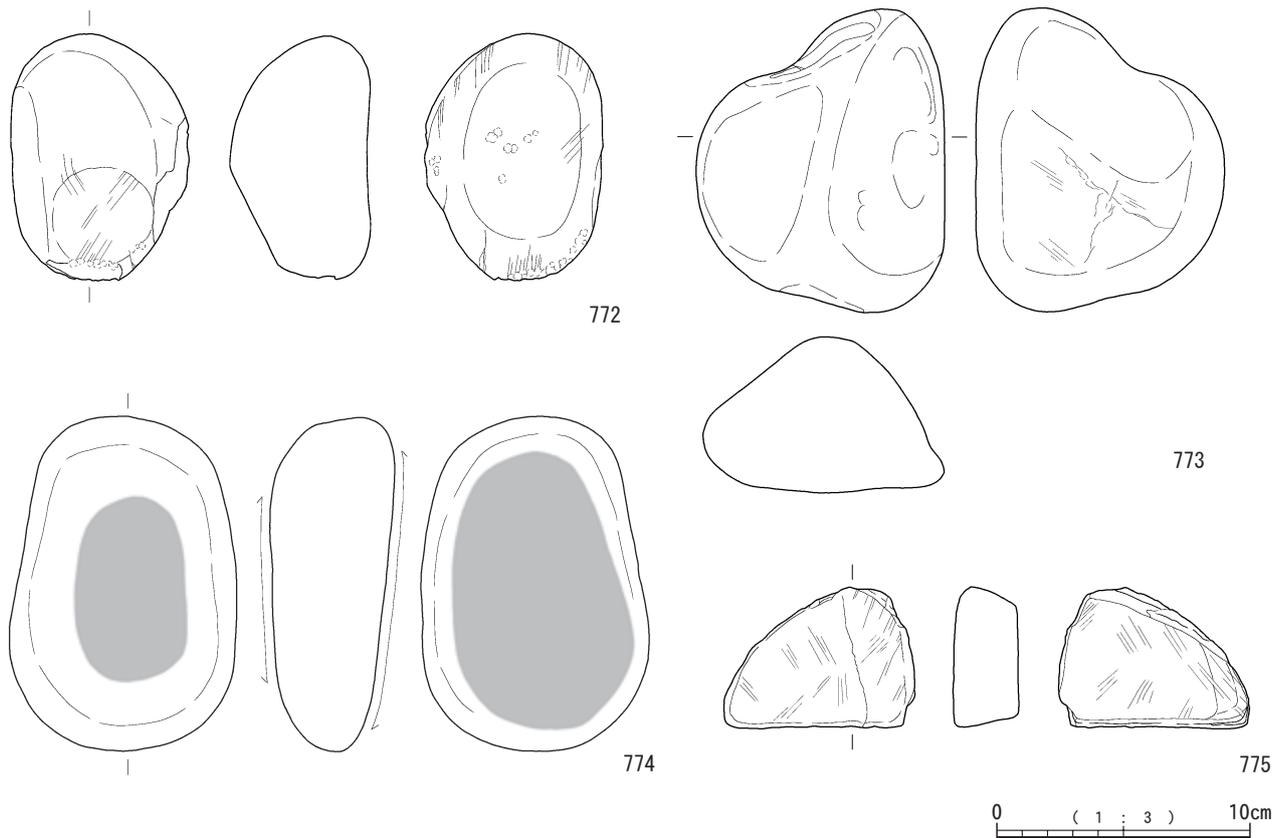
755～760はII類に分類される。755はやや扁平な楕円形の砂岩で縁辺の敲打ははっきりしないが、表面に磨りによる光沢面が形成されている。756は拳大程度の砂岩の円礫を用い、縁辺部にわずかな敲打痕が見られる。平坦な表裏面にはうっすらと磨りの痕跡が残る。757は素材の半分程度を欠損している。砂岩製で端部に敲打が集中するが、平坦な裏面の中央部には磨りによる光沢面が形成されている。758はやや硬質の砂岩を用い、半分

程度を欠損するが縁辺部には明瞭な敲打痕が廻る。平坦な表裏面には磨りによって光沢面が形成されている。759はやや厚みのある砂岩の円礫を用いており、素材の半分程度を欠損する。平坦な表裏面は磨りにより光沢面を有するが、両面共に敲打痕の集中部が観察できる。760は拳大よりやや大きめの砂岩を用いている。側面より表裏面と端部に敲打の集中が見られる。

761～766はIII類に分類される。761は扁平な砂岩の円礫を用いており、全体的に摩滅しているが擦痕が残っている。762は長軸5cmの小型で扁平な砂岩の円礫を用い、平坦な表裏面には磨りが、縁辺部には敲打痕が確認できる。763は扁平な砂岩の平坦面中央に敲打がわずかに集中する。全体的に風化しており、磨りの痕跡は不明



第128図 II～V層石器5（磨・敲石3）



第129図 II～V層石器6（磨・敲石4）

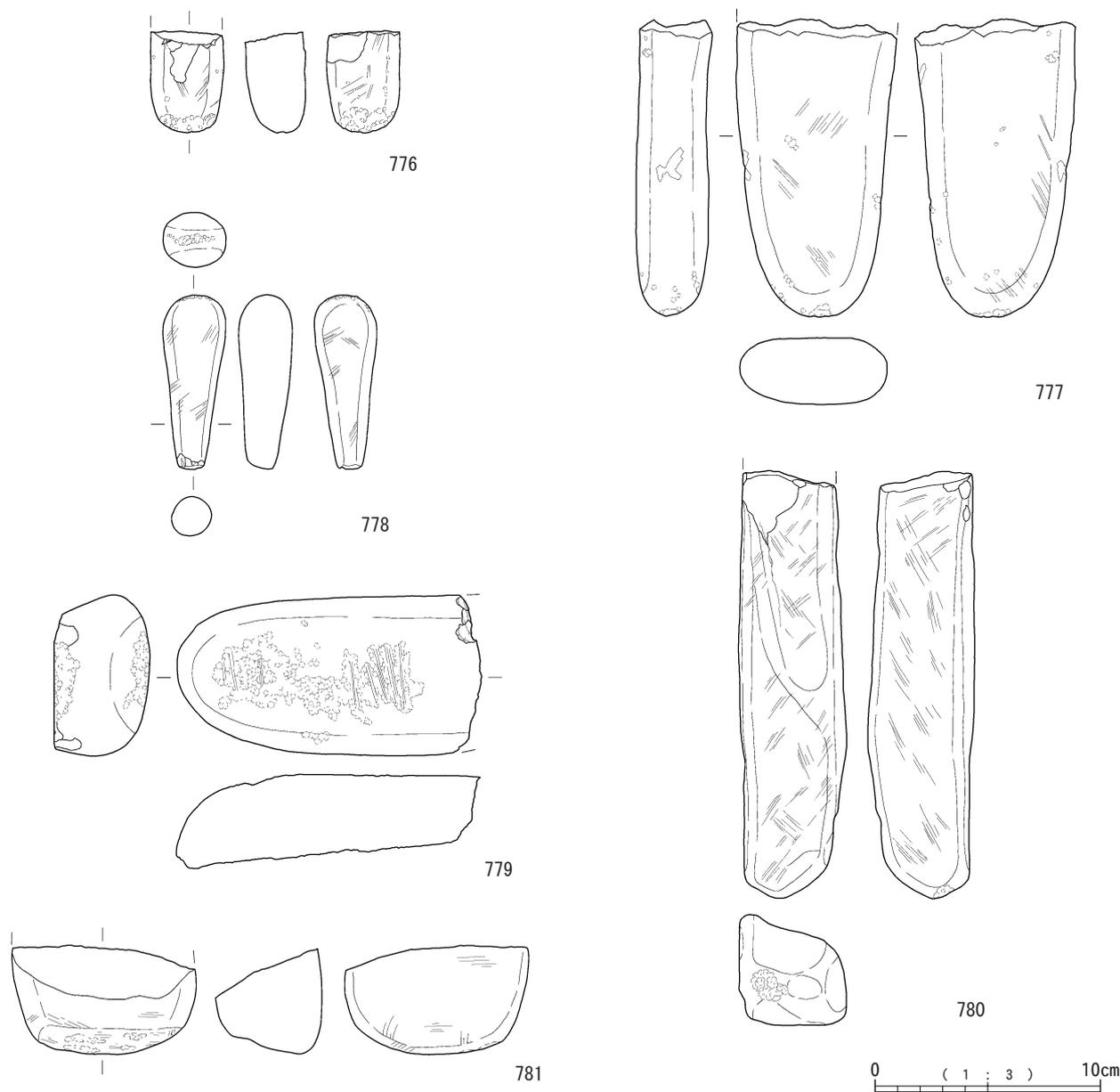
瞭である。764は砂岩製で縁辺部のほぼ全周に敲打痕が残り、部分的に磨りによって浅く抉り状を呈する箇所がある。765は砂岩製で縁辺部の敲打痕のほか、平坦な裏面の中央にわずかに敲打痕が確認できる。766は砂岩の扁平な円礫の縁辺部に敲打痕が廻り、一部では剥離が伴う。素材の一部が欠損しているが、稜線がつぶれているため、欠損後も使用した可能性が考えられる。

767～775はIV類に分類される。767は砂岩の不定形な円礫の端部に、敲打痕が明瞭に残っている。768は砂岩のやや不定形な扁平礫を用いている。表裏の平坦面中央に敲打痕がまとまり、側面の敲打は部分的に集中している。769はやや扁平で楕円形に近い不定形な砂岩である。うっすらと擦痕が見られる。770は扁平でやや不定形な砂岩を用いている。表裏面にやや磨面が残り、表面の縦断面観が最も厚い付近に敲打痕が見られる。771は不定形な砂岩を用いており、擦痕は不明瞭である。側面のやや尖る部分に敲打痕が確認できる。772は厚みのあるやや不定形な砂岩である。比較的薄くなる端部周辺に敲打痕が残る。773は不定形な砂岩を用いている。節理面の周辺も含め全体的に摩滅しており、磨石として使用したか判断が難しい。774は楕円形に近いがやや不定形な砂岩製である。表裏面の中央部を中心にスリが見られ、

敲打痕は側面を含めてほとんど確認されない。左側面の上半分にも磨面が形成されており、わずかに凹む。775は不定形で扁平な砂岩を用いており、表裏面に擦痕が確認できる。

776～780はV類に分類される。776は砂岩製の棒状礫で端部全面に敲打痕が見られる。裏面中央の平坦面に磨りの痕跡が見られるが不明瞭である。777は長楕円形に近いが、棒状を呈するものに分類した。砂岩製で端部と左側面の一部に敲打痕が見られる。表裏の平坦面にはうっすらと光沢面が形成される。778は丸みのある砂岩製の棒状礫の両端部に敲打痕が見られる。形状が磨製穿孔具に類似するが、端部に回転による擦痕等が見られないため、V類に分類した。779は棒状の大型礫を用い、平坦面に明瞭な敲打痕を残す。本来の礫の形状から縦に分割されているが、分割面の摩滅具合からこの形状で使用されていた可能性が考えられる。敲打痕は部分的に横方向の線状痕を呈するものも見られる。780は砂岩製の棒状の敲石で、全体的に擦痕があり端部に集中して敲打痕が見られる。

781はVI類に分類される。大きく欠損しているため、全体の形状がはっきりしない。残存する端部は隅丸長方形に見える。その端部には敲打痕が見られるが、それを



第130図 II～V層石器7（磨・敲石5）

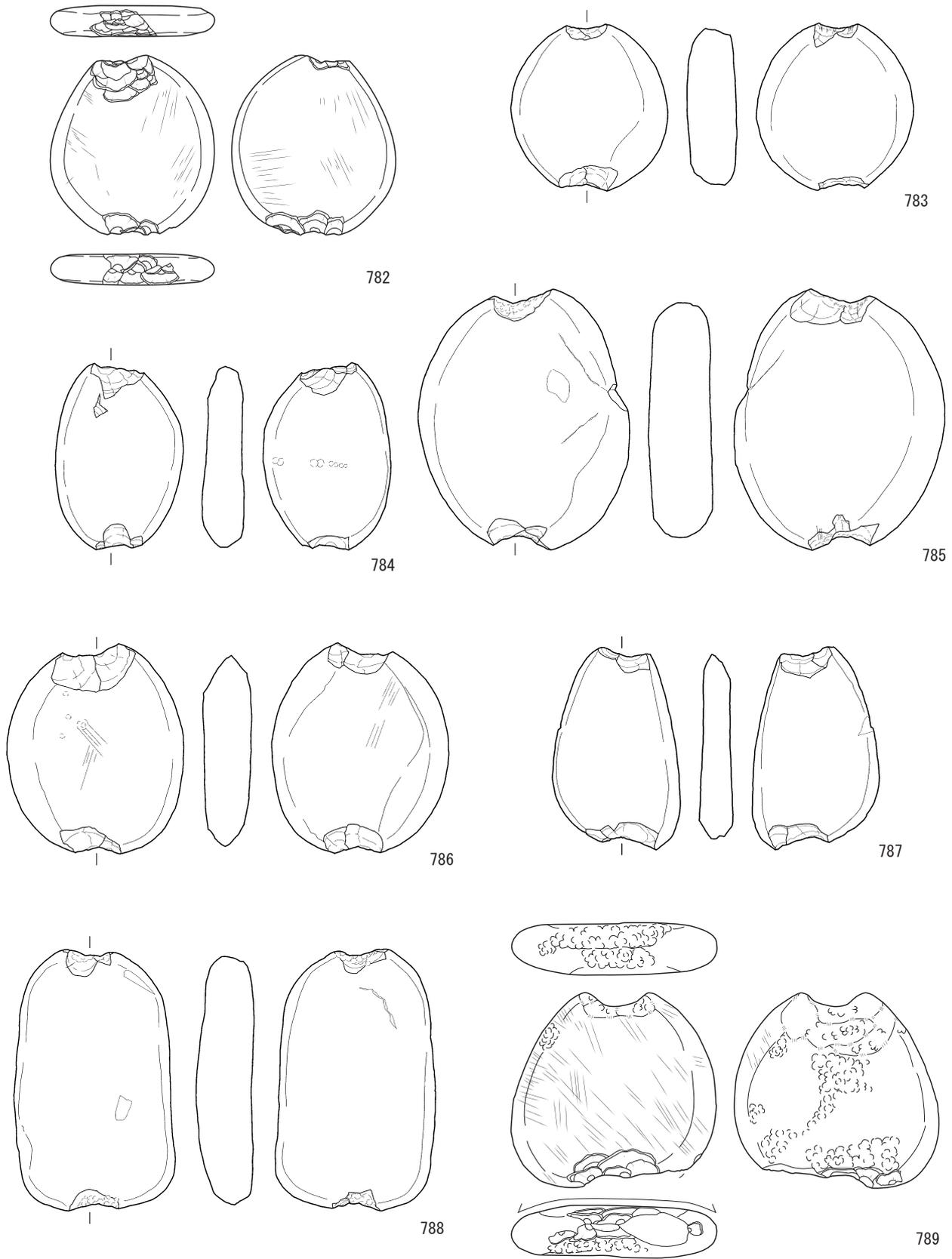
切るように擦痕が残り、敲打で生じた剥離の稜線がつぶれて平滑になっている。

(9) 石錘(第131図・第132図)

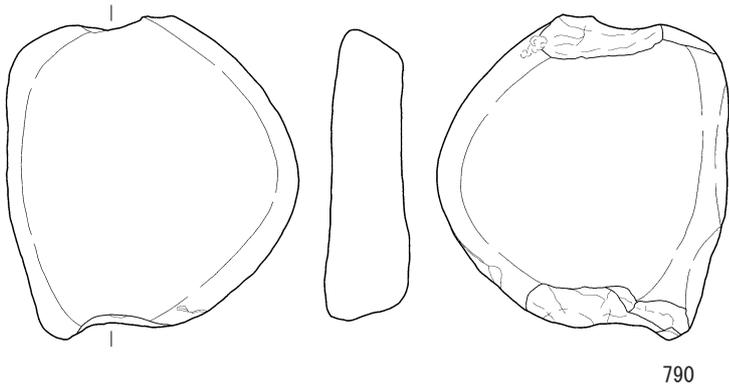
28点出土し、15点図化した。

782～793はI類に分類される。782は扁平な砂岩の円礫を素材とし、端部2か所を打ち欠いている。打ち欠き部分はやや鈍く、紐擦れなどの痕跡の可能性はある。783はわずかに楕円形で、短軸を長軸方向に打ち欠いている。打ち欠きで生じた剥離の稜線は部分的に摩滅が見られ、使用の痕跡と想定される。784は扁平な砂岩の両端を打ち欠いている。剥離で生じた稜線が摩滅しており、使用の痕跡の可能性が考えられる。785は砂岩の扁平な楕円礫を素材として、長軸の両端を打ち欠いている。上

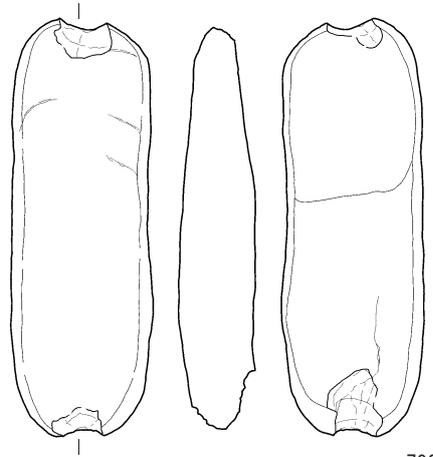
端部の打ち欠き部分は敲打状の整形が施され、稜線ははっきりしない。786はやや硬質な砂岩の両端を打ち欠いている。787は砂岩の扁平な楕円形礫の両端を打ち欠いている。礫の大きさに対して、打ち欠きの幅がやや広い印象を受ける。788は隅丸長方形に近い形状の砂岩を用い、長軸中央部分の両端を打ち欠いている。打ち欠きで生じた稜線は摩滅により不明瞭で、漁網や編布の錘として使用した紐擦れの可能性がある。789は試掘時のトレンチ調査でIII層該当層から出土した。砂岩の扁平礫に、打ち欠きによる抉りを作成している。抉り周辺の稜線が摩滅しているため、何らかの使用痕である可能性が高い。790は砂岩製で、三角形に近い形状の礫の二つの角を打ち欠いている。791は小型で厚みが不均一な長方形の砂



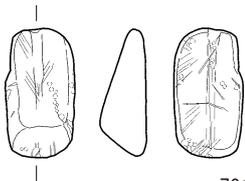
第131図 II～V層石器8（石錘1）



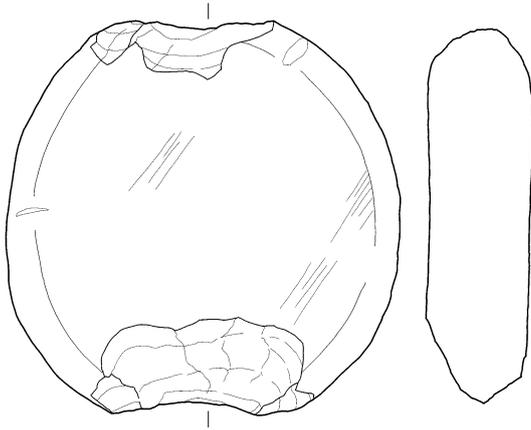
790



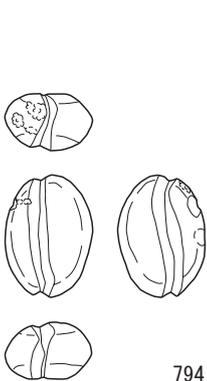
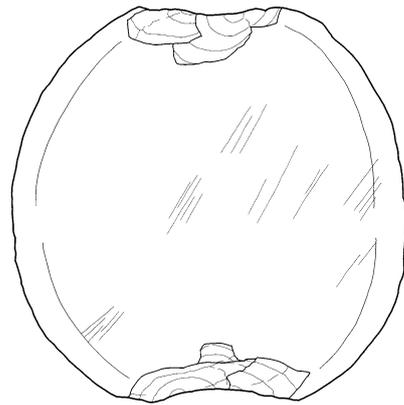
792



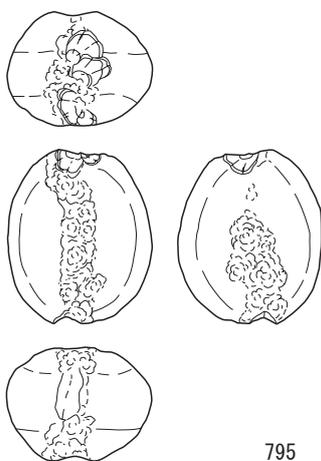
791



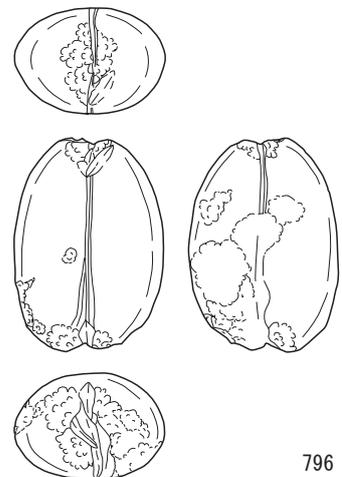
793



794



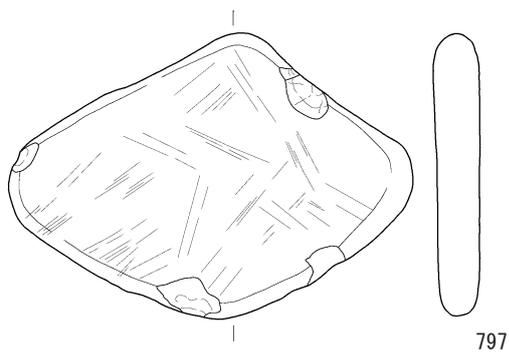
795



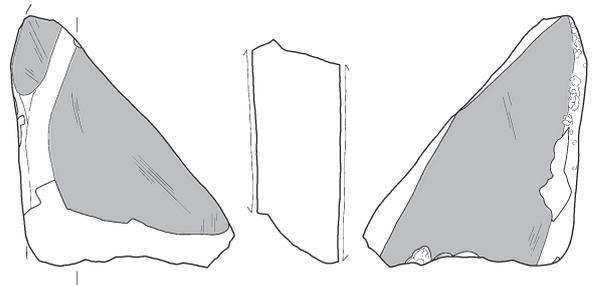
796

0 ( 1 : 2 ) 5cm

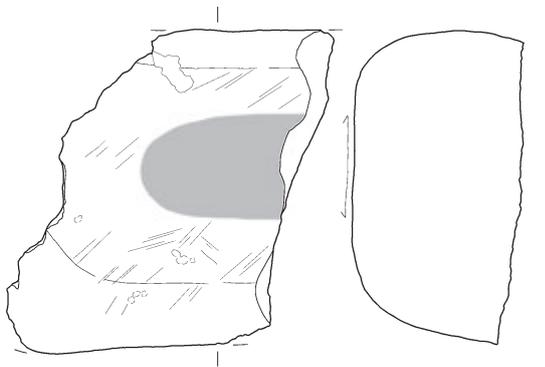
第132図 II～V層石器9（石錘2）



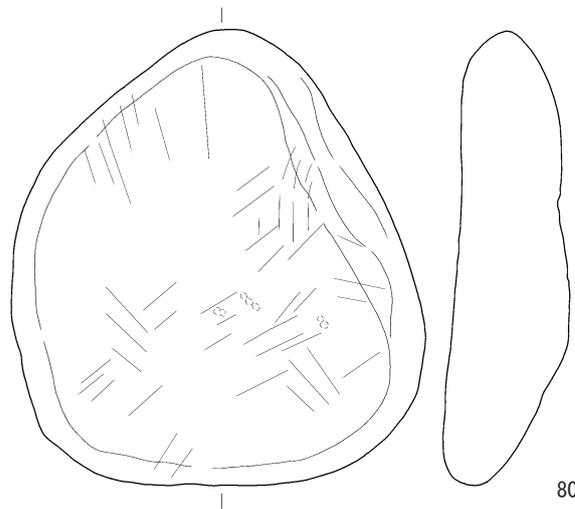
797



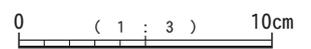
798



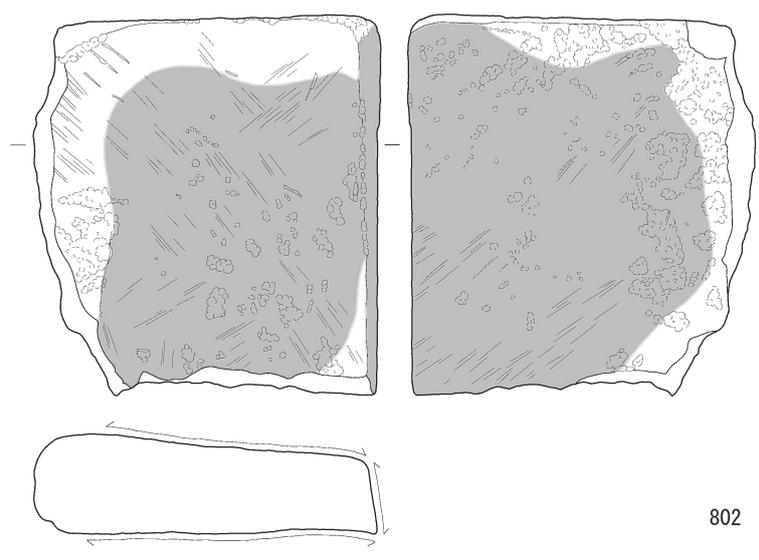
799



800

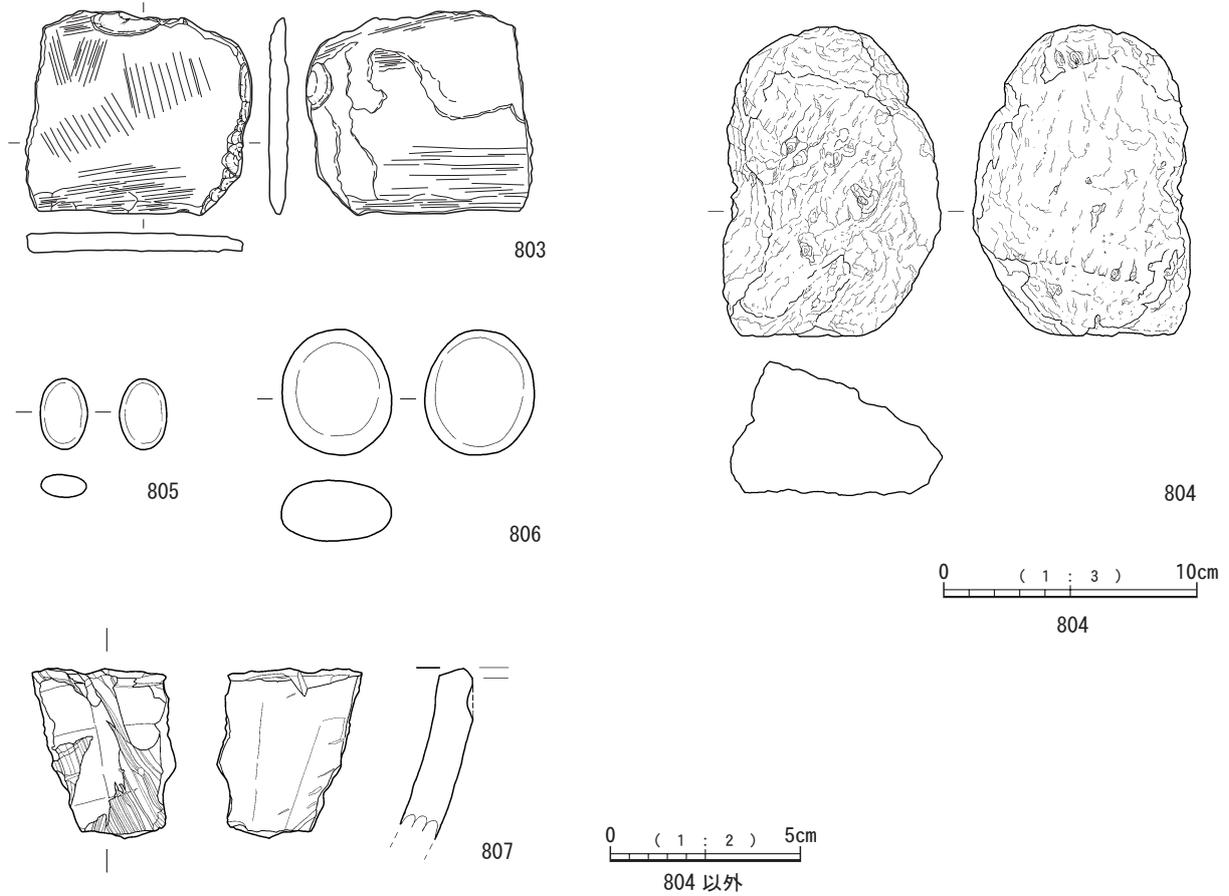


第133図 II～V層石器10（石皿1）



0 ( 1 : 3 ) 10cm

第134図 II～V層石器11（石皿2）



第135図 II～V層石器12（その他）

岩の長軸方向に浅い溝状の痕跡が観察できる。792は砂岩の棒状礫の両端を打ち欠いている。剥離により生じた稜線の一部は、擦りによって不明瞭な部分もある。793は扁平な砂岩の円礫を用いており、両端を打ち欠いている。平坦な表裏面に光沢面を有しており、磨石の転用品であると想定される。

794～796はII類に分類される。794は楕円形で小型の砂岩礫を用い、長軸方向に溝が廻る。795は砂岩の円礫で、厚みのある石材を用いている。長軸方向に敲打を一周廻らせて、溝状の凹みを作成している。796は楕円形の砂岩礫の端部に敲打痕が見られ、長軸方向に沈線が廻る。

(10) 石皿（第133図・第134図）

40点出土し、6点図化した。797は扁平な菱形を呈する砂岩を用い、平坦な表裏面に磨りによる光沢面を有している。798は扁平な石皿片で、表裏面共に光沢を有する程に顕著な磨面が確認できる。799は厚みのある砂岩の楕円形礫を用い、明瞭な磨面を有している。800は不定形な砂岩を用い、広い平坦面に磨りによる平滑面が見られる。801は大型の不定形な砂岩を用い、平坦な表面

に敲打や擦痕等の作業の痕跡が確認できる。802は扁平な砂岩を用い、表裏面と右側面に明瞭な光沢面を有している。

(11) 擦切石器（第135図803）

1点出土し、図化した。803は扁平な砂岩を用いており、刃部はやや曲線的な感がある。上辺にも摩滅が見られ、これを切る剥離が施されている。

(12) 軽石製品（第135図804）

1点出土し、図化した。804は全体的に被熱によると思われる赤化や黒色化が見られ、部分的に平坦面を有する。

(13) その他（第135図805～807）

基石は4点出土し、2点図化した。

滑石製品は1点出土し図化した。807は滑石製石鍋の破片を面取りし、再加工したものである。

## 第8節 近世以降の調査成果

### 1 調査の概要

近世・近代の該当包含層はⅠ層～Ⅱa層であるが、宅地造成等の人為的な影響により、表土や攪乱からの出土も多くみられた。

調査では人力掘削による遺構精査を行ったが、遺構は検出されなかった。近世・近代の遺物は陶磁器類が500点出土し、うち近世陶磁器66点、近代磁器8点を図化した。遺物の残存状況等から必要と判断したものは、表土・攪乱出土のものも併せて図化・掲載している。

### 2 遺物

#### (1) 近世磁器

##### ① 碗 (第136図808～816)

808～816は肥前系の碗である。808は器高の低い丸碗で文様は見られない。809は端反碗で外面に二重格子文様を施す。810は端反碗で外面に草花文を施す。811は端反碗で、外面に氷裂文を施す。812は口縁部が逆「ハ」字状に開く碗で、口縁部内面に四方櫛文を施す。外面は無文である。813は外面にコンニャク印判で桐紋が施される。814は畳付が釉剥ぎされ、外面に山水文を施す。815は底部付近にわずかに圏線がみられる。816は筒形碗で、底部が凹む。腰部に折れ松葉文、見込みに虫文を施す。

##### ② 皿 (第136図817～822)

817～822は肥前系の皿である。817は輪花皿で、外面に唐草文、内面に草花文と考えられる文様を施す。818も輪花皿で、外面に唐草文、内面に青海波文を施す。819は型作りの菊花皿で、畳付が釉剥ぎされる。見込みに圏線がみられる。820は陶胎染付と考えられ、全面に白化粧土がみられる。蛇の目凹型高台であるが、釉薬で凹凸はほぼなくなっている。見込みにコンニャク印判がわずかに確認できる。821はやや小型で、畳付が釉剥ぎされる。外面に青磁釉がかかり、内面に草花文が施される。822は紅皿で、外面下半は無釉である。

##### ③ 小坏 (第136図823～825)

823～825は肥前系の小坏である。823・824は端反りで、外面に鉄絵が施される。825は小坏の底部で、高台から胴部までが直線的に立ち上がる桶形である。畳付が釉剥ぎされる。

##### ④ その他器種 (第136図826～828)

826は瓶などの袋物類で、内面は無釉だが一部に釉薬が点在する。外面に笹文の可能性のある文様を施す。肥前系と考えられる。827は蓋の破片で、被熱による変色が見られる。828は磁器製の馬の尻繫である。5cmの筒状を呈する。

#### (2) 近世陶器

##### ① 碗 (第137図829～837)

829～837は碗である。829は小型の丸碗で、全面に黄褐色の釉薬がかかる。加治木・始良系と考えられる。830は径が小さい高台をもち、丸みを帯びて胴部へ立ち上がる。内面及び外面腰部付近まで白化粧土がかかり、見込みに砂目がみられる。加治木・始良系と考えられる。831は径が小さい高台をもち、腰部で強く折れて胴部へ立ち上がる。見込み及び畳付に胎土目が残る。832はにぶい黄褐色の胎土をもつ胴部片で、産地は不明である。833は大ぶりの碗もしくは鉢形を呈すると考えられる。飴色の釉薬が内外面にかかる。加治木・始良系と考えられる。834はやや高台が高く、丸みを帯びて胴部へ立ち上がる。白薩摩と考えられる。835は内面に銅緑釉、外面に透明釉がかかり、見込みは蛇の目釉剥ぎされる。肥前内野山系と考えられる。836は小型の碗で、外面口縁部直下に3条の溝が廻る。白薩摩と考えられる。837は口縁部が直行する碗で、肥前系と考えられる。

##### ② 皿 (第137図838～840)

838は口縁部に段を有する皿で、胴部は丸みを帯びる。全面に白化粧土がかかり、加治木・始良系と考えられる。839は端反りの皿で、見込みは釉剥ぎされ、外面腰部以下は露胎する。肥前系と考えられる。840は皿と考えられ、外に開く高台をもつ。高台付近は無釉である。見込みに笹文を施す。京焼風陶器と考えられる。

##### ③ 甕 (第137図841・842)

841・842は甕である。841は大型の甕の口縁部である。産地は不明である。842は大型の甕で、外面にタタキの痕がみられる。肥前系と考えられる。

##### ④ 鉢 (第137図843～847)

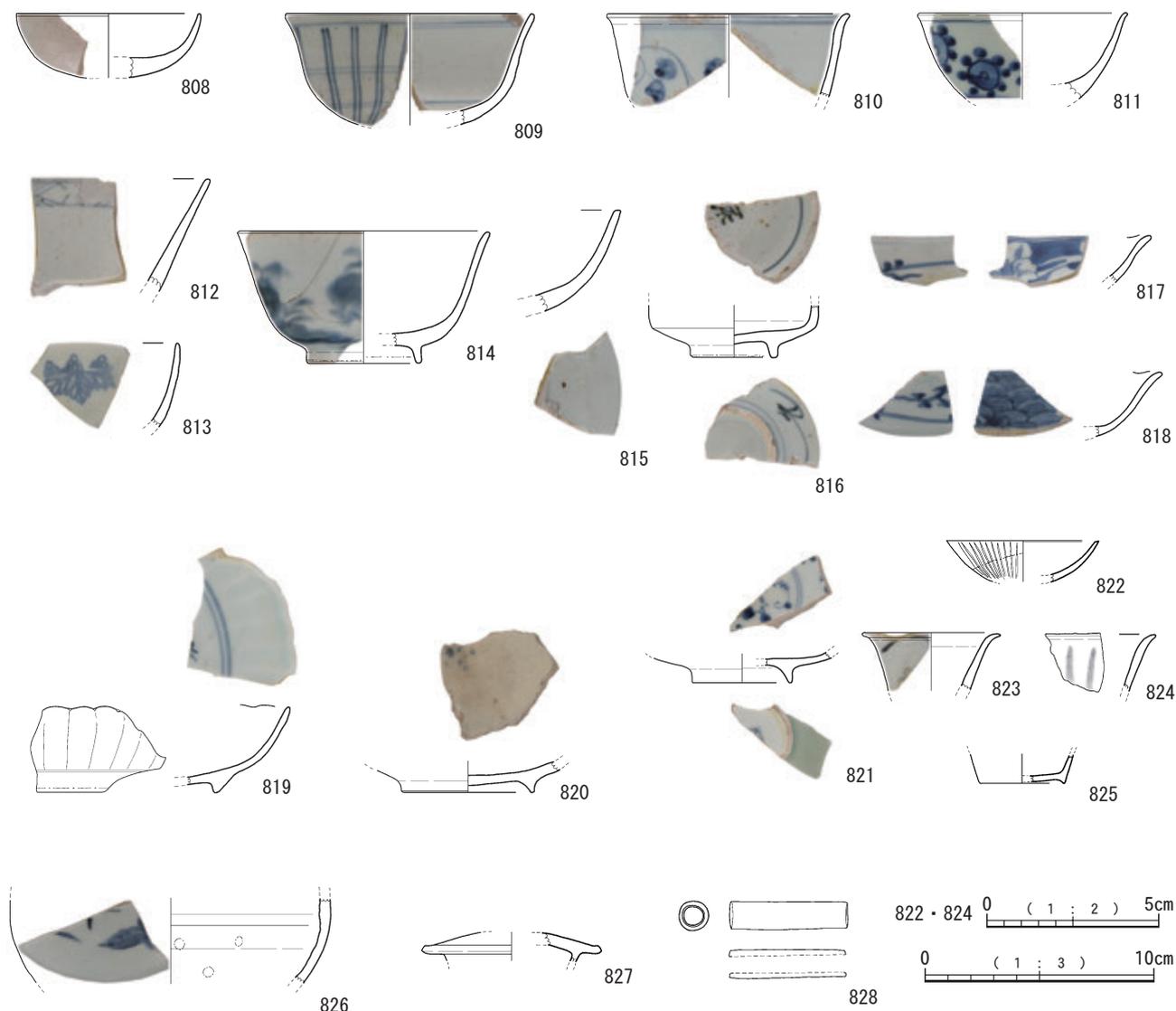
843～847は苗代川系の鉢である。843・844は口唇部が平坦面をもち、釉剥ぎされる。845はやや小型で、段をもって腰部へ至る。口唇部が釉剥ぎされる。846は鉢で、外面にハケ目文様が見られる。肥前系と考えられる。847は口縁部が玉縁状を呈する。全面に白化粧土がかかり、加治木・始良系と考えられる。

##### ⑤ 播鉢 (第137図848, 第138図849～851)

848～851は苗代川系の播鉢である。848は口径22.8cmを測る。口唇部が釉剥ぎされ、外面底部付近は釉薬がまばらにかかる。櫛目は幅が広く、重なりがみられる。849は、848より櫛目がやや狭い。850は口縁部が如意状を呈し小さく口が作出される。口唇部が釉剥ぎされるが、口付近に釉薬が残る。851は丸みを帯びた胴部で、内面は無釉である。櫛目が細く密である。

##### ⑥ 瓶・壺 (第138図852～854)

852は苗代川系の瓶の口縁部と考えられ、鶴首状を呈すと考えられる。853は平底の底部から直線的に立ち上がり胴部でやや膨らむ。底面まで釉薬がかかるが、外底



第136図 包含層出土遺物（近世磁器）

面は均一で薄い釉葉の上に薄い釉だまりがみられる。854は底部から胴部へ直線的に立ち上がり、底部付近は無釉である。

⑦ 土瓶・山茶家・急須

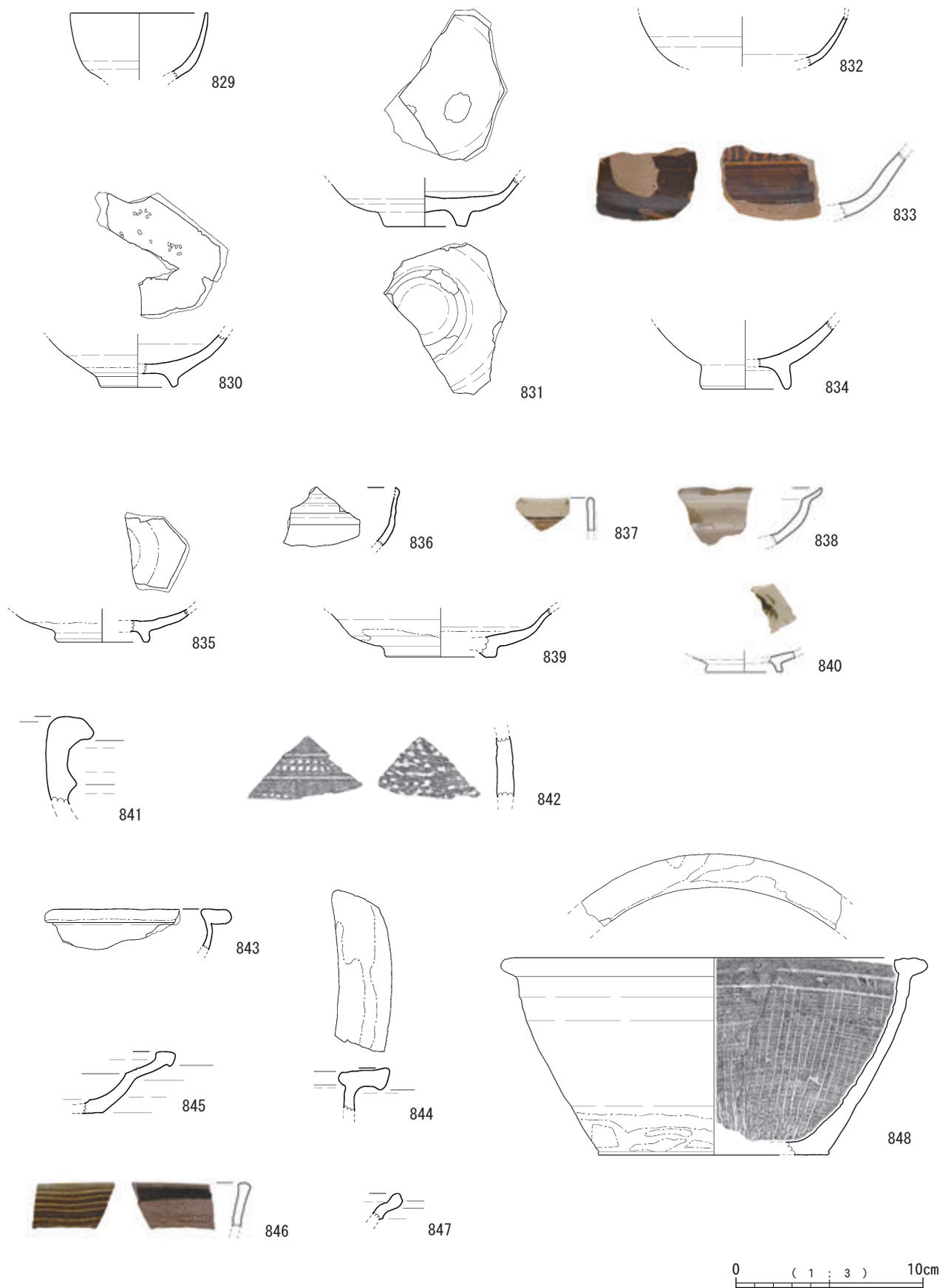
（第138図855～860、第139図861～868）

855～864は苗代川系の土瓶である。855は口径約9cmを測る。内面口縁部以下は露胎する。856・857は土瓶の蓋で、856は摘まみを欠く。858は注口で、茶止め穴は3つみられる。859は腰部から底部にかけての破片で、内面は一部無釉、外面は腰部以下が釉剥ぎされる。860は底部片で、脚はみられない。861は胴部片で、内面は全面施釉、外面腰部以下は釉剥ぎされる。無釉部分にわずかにスガがみられる。862は脚の残る底部片で、脚周辺にスガがみられる。863・864は脚の残る底部片で、864は先端が細くやや外側に反る脚をもつ。865は山茶

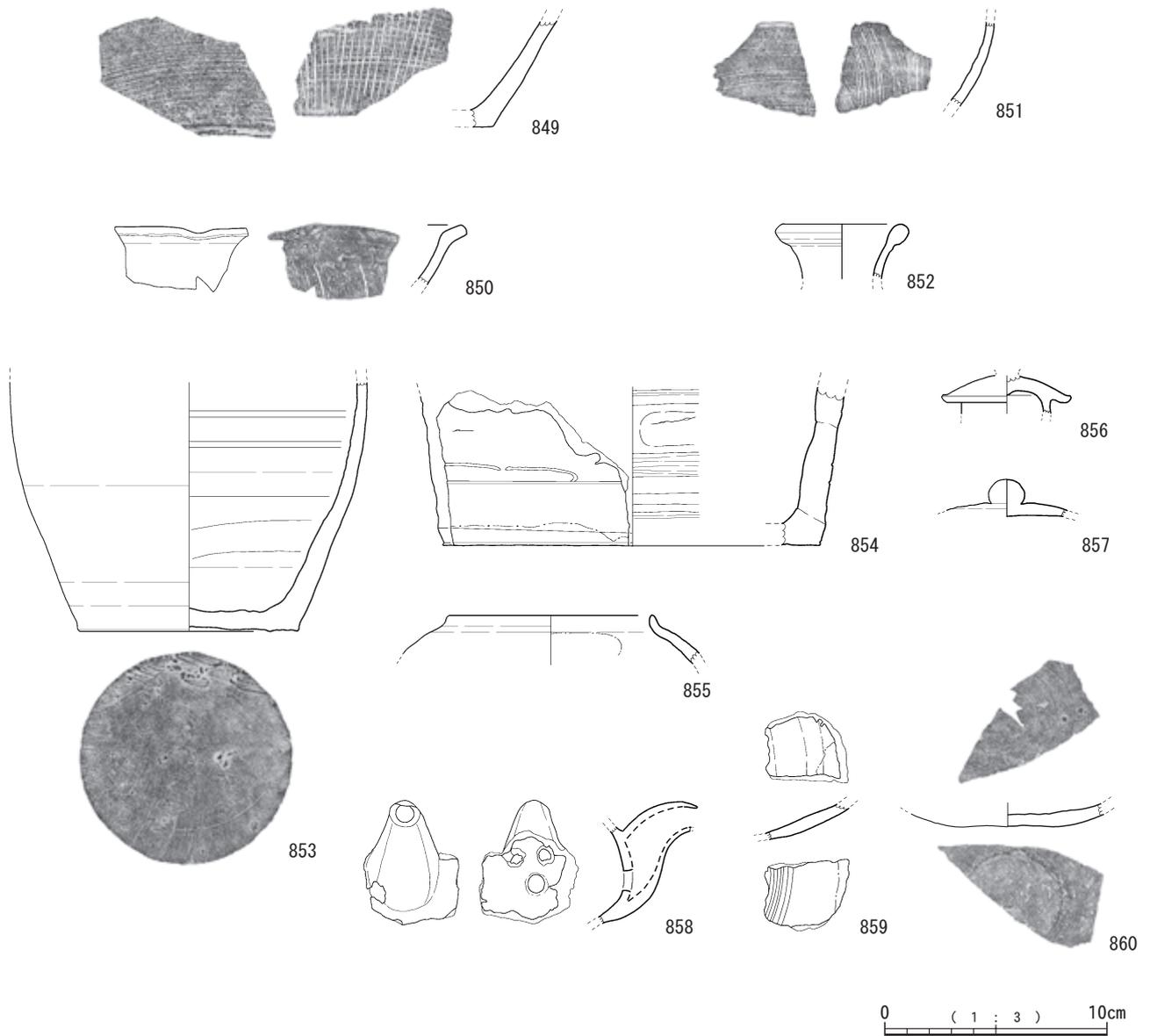
家の口縁部で、口唇部に凹みが廻る。866は山茶家につく片口で、把手を付けるための耳がみられる。867は急須の把手で、外面から把手内の途中まで白化粧土がかかる。加治木・始良系と考えられる。868は蓋で、摘まみを欠く。外面全面に白化粧土がかかる。加治木・始良系と考えられる。

⑧ その他の器種（第139図869～873）

869は灯明皿である。糸切り底で、見込みには砂目が残る。腰部付近にスガが付着する。加治木・始良系と考えられる。870は盤状の器形に短い脚が付く。内面見込み付近に白化粧土がハケ目状に残る。肥前系と考えられる。871は油壺である。にぶい赤褐色の生地土の上に外面腰部付近まで白化粧を施す。内面は無釉である。加治木・始良系と考えられる。872は乗燭である。口縁部が強く内湾する。加治木・始良系と考えられる。873は蓋



第137图 包含層出土遺物（近世陶器 1）



第138図 包含層出土遺物（近世陶器2）

の付く茶壺と考えられる。器壁が非常に薄い。産地は不明である。

（3） 近代磁器

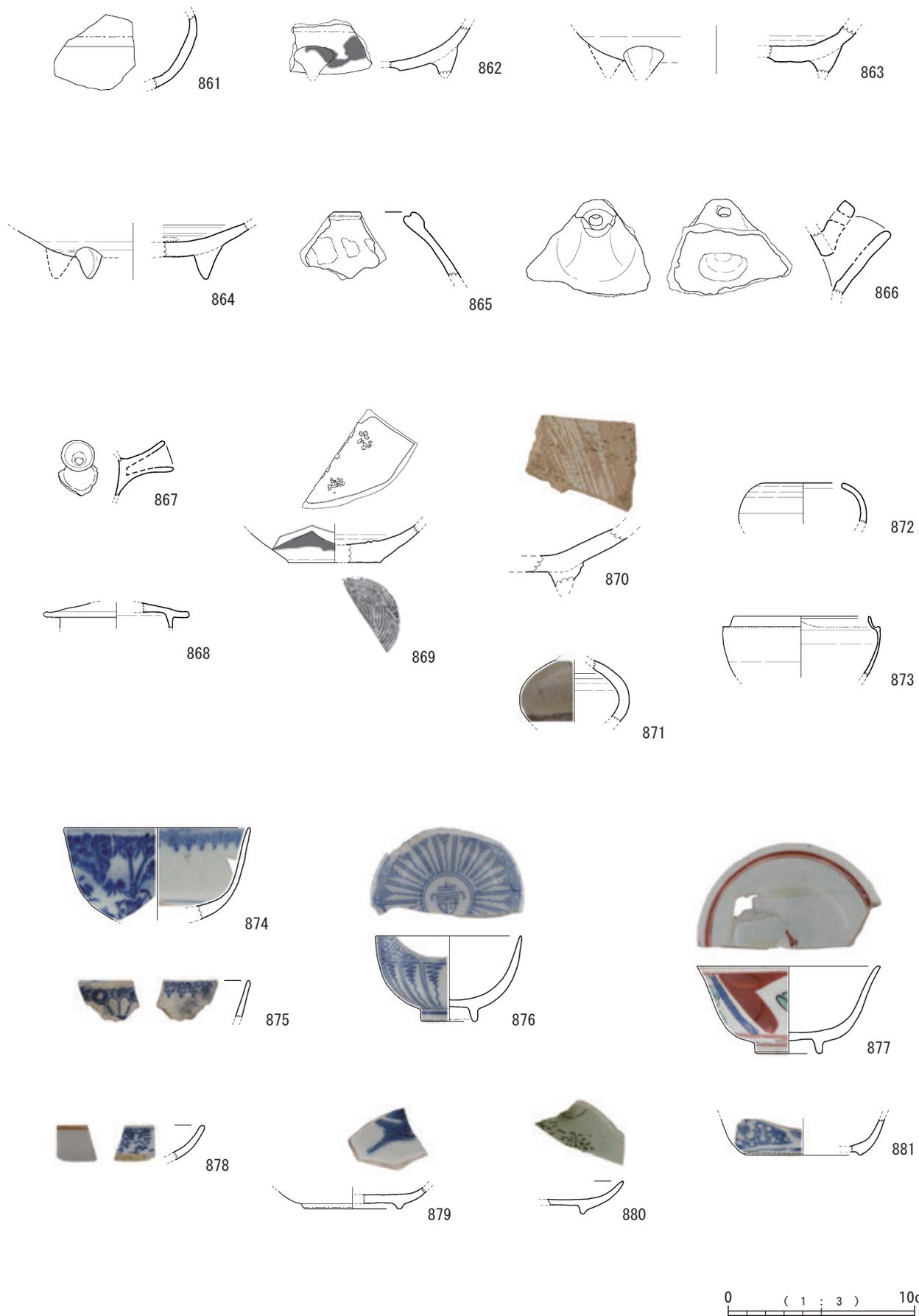
① 碗（第139図 874～877）

874は口縁部がわずかに端反る。型紙摺りで外面に松竹梅文、口縁部内面に輪宝文が施される。875は口縁部が直行する。型紙摺りで口縁部内面に輪宝文が施される。876は高台の径が小さい丸碗で、見込みに「寿」文字が描かれる。877は端反り碗で、呉須や赤の上絵具で文様を描く。

② 皿（第139図 878～881）

878は小型の皿で、口唇部に口紅がみられる。内面に

コバルトによる文字が施される。879は見込みに魚の尾鰭と背鰭が立体的に施される。880は碁笥底に近い高台をもち、外面には青磁釉がかかり、見込みに草文が施される。881は碁笥底で、胴部への立ち上がりから鉢形を呈する可能性もある。銅版転写により外面に梅文を施す。



第139图 包含層出土遺物（近世陶器3・近代磁器）

## 第9節 時期不明遺構・遺物

本節では時期を特定できなかった遺構及びそこから出土した遺物、表採遺物を掲載する。遺構配置図は第140図に示す。

### 1 遺構

#### (1) 土坑

##### 土坑6号(第141図)

D-21区, X層上面で検出された。D-21区は, 平坦地と前川に向かって下る傾斜地の境目にあたる部分で, 多くの削平を受けており, 表土を除去したところで検出された。平面形は楕円形を呈する。断面形は北側が急な傾斜で掘り込まれている。南側はほぼ直立に掘り込まれてから中位にステップ状の硬化面があり, そこから底面に向かって緩やかに傾斜する形状である。長軸1.25m, 短軸0.84m, 検出面からの深さは0.90mである。埋土は3層に分けられ, 堆積状況から自然堆積とは考えにくく, 土坑の南側から人為的に埋められた可能性がある。遺物は確認できなかった。

#### (2) 硬化面

##### ① 硬化面1号(第142図・第143図)

B-5区~E-6区にかけて検出され, 地形の凹みに沿うように南北に延びる硬化面である。計4面の硬化面が重なっており, 最も上の硬化面がIIb層上面, 最下層の硬化面がIIc層上面で検出された。検出層で見ると最も新しい硬化面は中世に該当する可能性が高いと考えられるが, 掘り込みもなく遺構の時期認定に有効な遺物の出土状況ではないこと, 遺物の時期が混在することなどから時期不明と判断した。

遺物は土器小片など80点出土しそのうち7点図化した。882は13類に該当する縄文土器で, いわゆる中華鍋形の底部である。外面に組織痕が明瞭に残り, 内面は

条痕が残る。883は土師器皿の底部で, ヘラ切り底である。884~887は大宰府編年白磁碗IV類に該当する。いずれも玉縁の口縁をもち, 腰部付近まで施釉される。888は大宰府編年白磁碗V類に該当すると考えられる。口縁端部を小さく丸め, 玉縁状に仕上げる。

1号出土の白磁が硬化面2号出土の白磁小片と接合しており, 同時期に併存していた可能性が高い。

##### ② 硬化面2号(第142図・第144図)

B-7区~C-6区にかけて, IIc層上面で検出された。東西方向に延びる不定形の硬化面である。硬化面1号と同様, 遺物の出土状況及び時期の混在から時期不明と判断した。

遺物は土器小片など25点出土しそのうち4点図化した。889は古墳時代に該当する壺の底部で, 底面に3.5cm程の平坦面をもつ。外面はミガキ及びビナデ, 内面は工具ナデ及びビナデにより器面調整される。890は土師器の坏で, 古代に該当すると考えられる。底部はヘラ切りである。891は玉縁口縁をもつ白磁で, 大宰府編年白磁碗IV類に該当する。892は, 鉄製の方柱状のもので, 和釘と考えられる。上端を「L」字状にわずかに屈曲させて頭部を作出している。下部は欠損する。

2号出土の白磁が硬化面1号出土の白磁小片と接合しており, 同時期に併存していた可能性が高い。

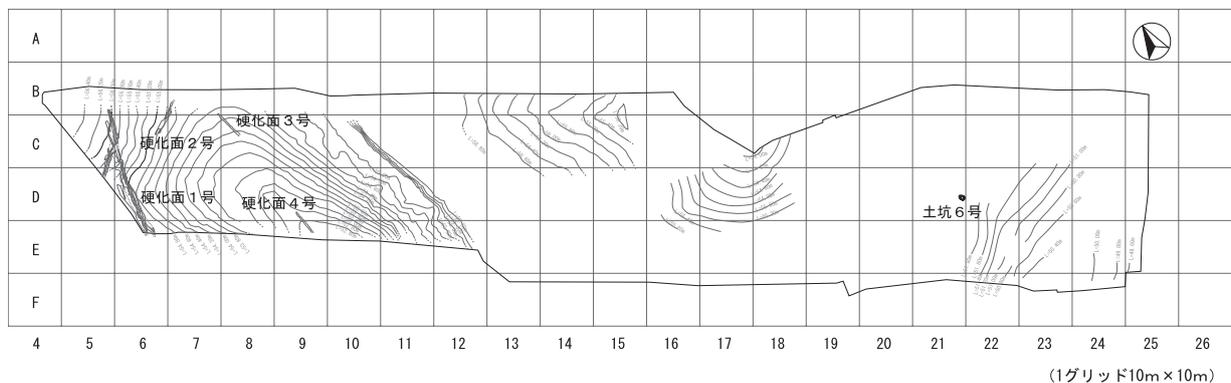
##### ③ 硬化面3号・4号(第140図)

硬化面3号はB・C-7・8区, 硬化面4はD・E-9区のIIc層上面で検出された。溝状遺構と平行に延びており, もとは2条が繋がっていた可能性が高い。弱い硬化面であり, 遺物は確認できなかった。

## 2 遺物

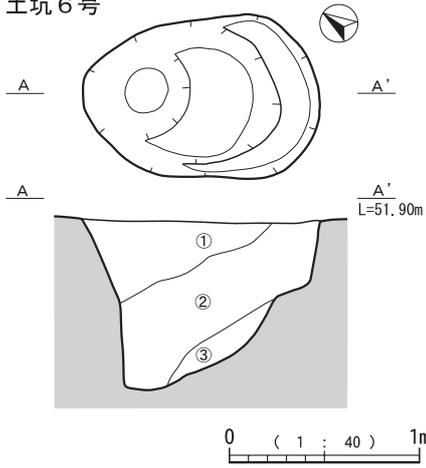
### 不明石器(第145図)

893は扁平な頁岩で, 表裏面に擦痕が残る。表土から採集したため, 時代や器種等は不明である。



第140図 時期不明遺構配置図

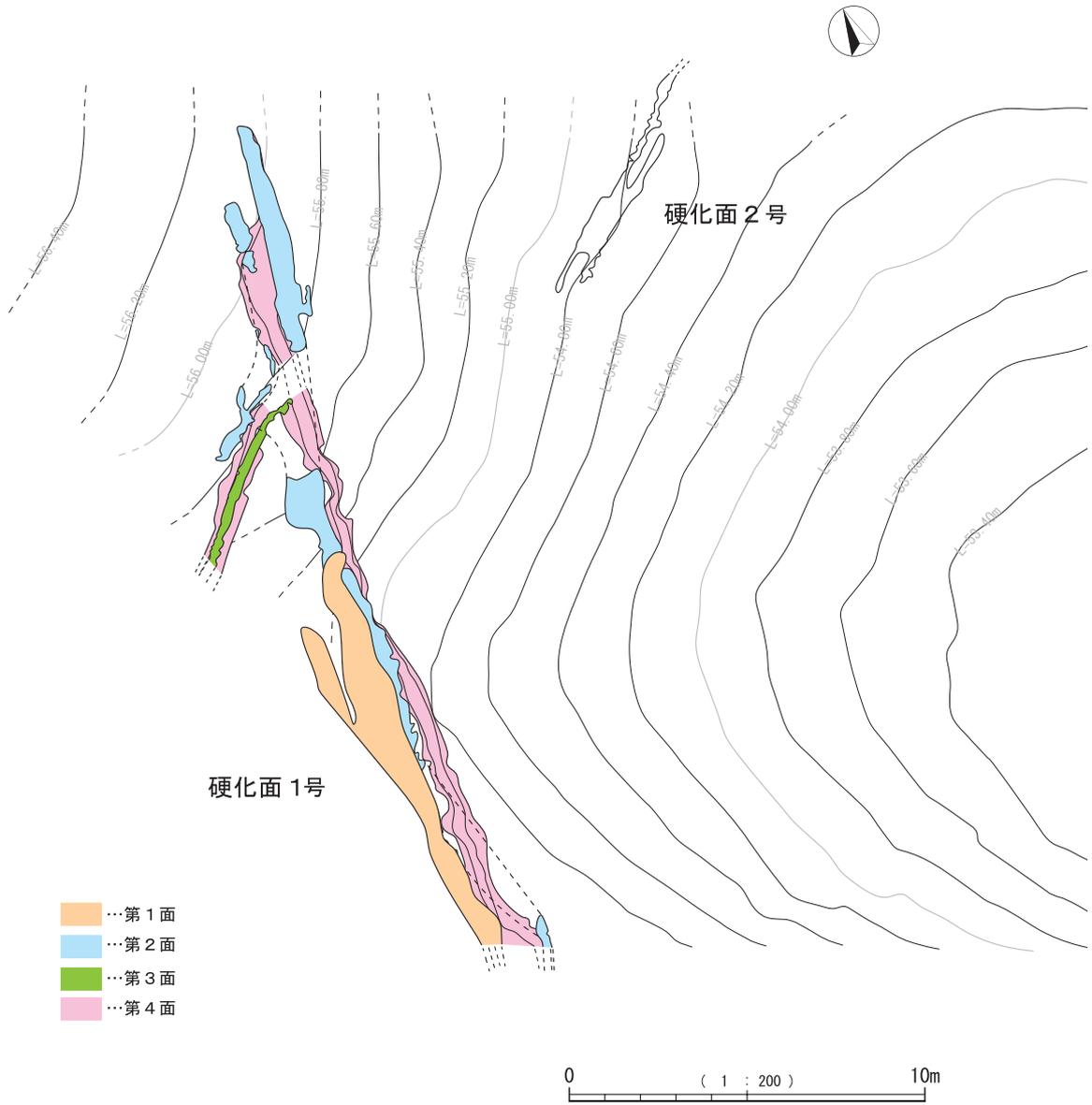
土坑 6号



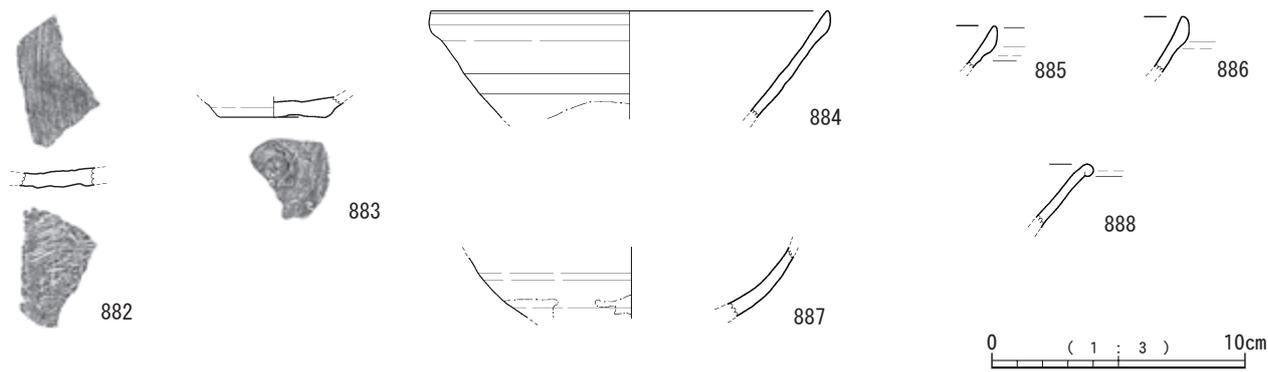
埋土

- ①暗褐色土。区層ブロックを多く含む。
- ②茶褐色土。2～5cm程度のアカホヤブロックを含む。
- ③Ⅷ層ブロックと区層ブロックが混在する。

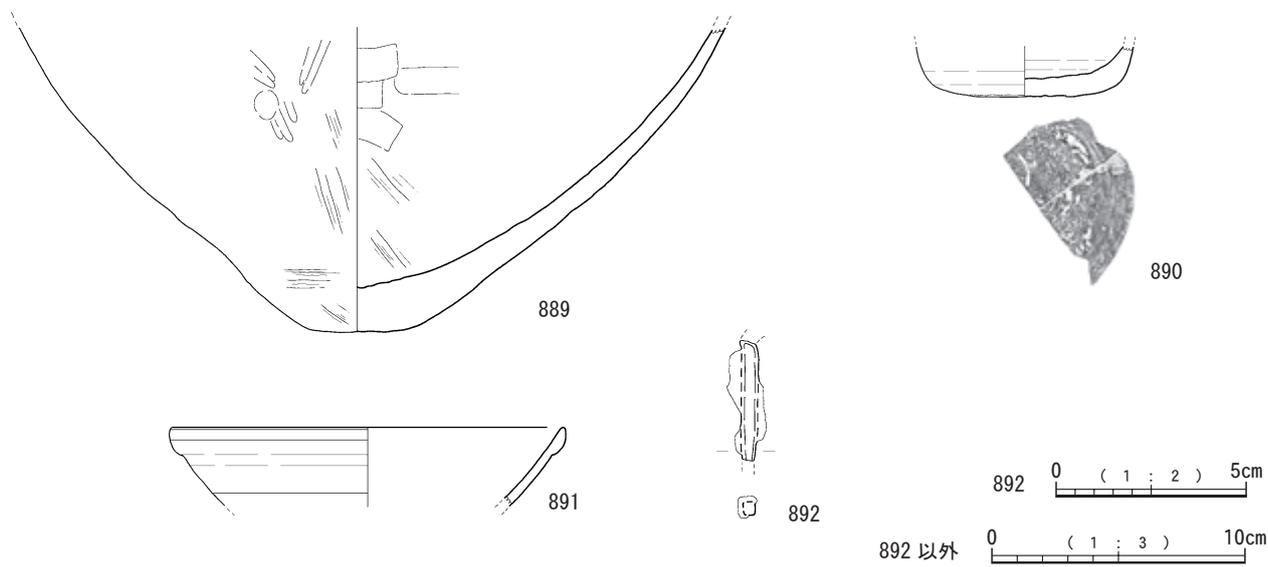
第141図 土坑 6号



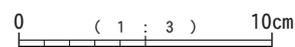
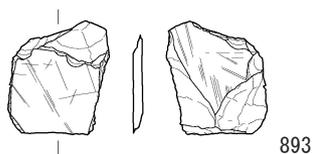
第142図 硬化面 1号・硬化面 2号



第143图 硬化面 1号出土遺物



第144图 硬化面 2号出土遺物



第145图 不明石器

## 第10節 金属製品

本節では鉄製品・青銅製品・古銭を金属製品として扱い、包含層から出土したものをまとめて報告する。包含層からは合計94点出土し、うち19点を図化した(第146図)。

894・895は刀子である。いずれも断面形は逆水滴形である。894は刃部先端が欠損する。茎と刀身の境界にあたる部分で鉤形になった部分(区)が上下2か所にみられる。特に上部の区が小さなものであり、この特徴から小柄(刀の鞘の溝に収める細工用の小刀)の可能性が考えられる。895は茎のみが残存する。

896は鎌の刀身と考えられる。基部及び刀身の一部が欠損する。湾曲しており、断面形は三日月状となっている。

897・898は鉄鎌で、先が二股に分かれ内側に刃をつけているものであり、雁股鎌である。いずれも刃部から茎まで残存しているが、関付近は錆に覆われており、X線写真からしか確認できない。897はやや大型で、先端部が2か所とも欠損する。茎の断面は正方形である。898はやや小ぶりで、ほぼ完全なものである。茎の断面は方形である。

899は屋久島町岡遺跡で出土した資料に類似し、槍の可能性のあるものと判断した。茎と刀身の間の区が明瞭な段を有しないのが本資料の特徴である。

900～906は和釘と考えられる。900～904は角釘と俗称されるもので、皆折釘である。900～902は上端からある程度下がったところを鍛えによって伸ばし、曲げることによって頭部を作り出したものである。断面は、900・902が方形で、901が長方形である。903は、頭部に錆化による剥がれがみられる。この剥がれは、二段階に折り曲げて頭部が作り出されたことに影響されている可能性がある。904は、頭部に関しては900～903と同様であるが、先端部付近で「L」字状に曲がるものである。これは、製作時からのものではなく、使用時の二次的作用か、再利用によるものと考えられる。905は他の和釘よりも大型で、断面が薄い長方形で、板状のものである。頭部と先端部は欠損している。平折釘もしくはさっぱ釘(平釘の一種で頭の曲がったもの。折釘よりも頭の折れが短く、小さいもの)、楔などの可能性が考えられる。906は棒状で両端が尖る合釘である。断面は方形である。二寸八分のものとして使用されたと考えられる。

907は湾曲した板状製品の破片である。端部には口縁部の可能性のある部分が残存する。ひび割れの状況から铸铁製の鍋であると考えられる。

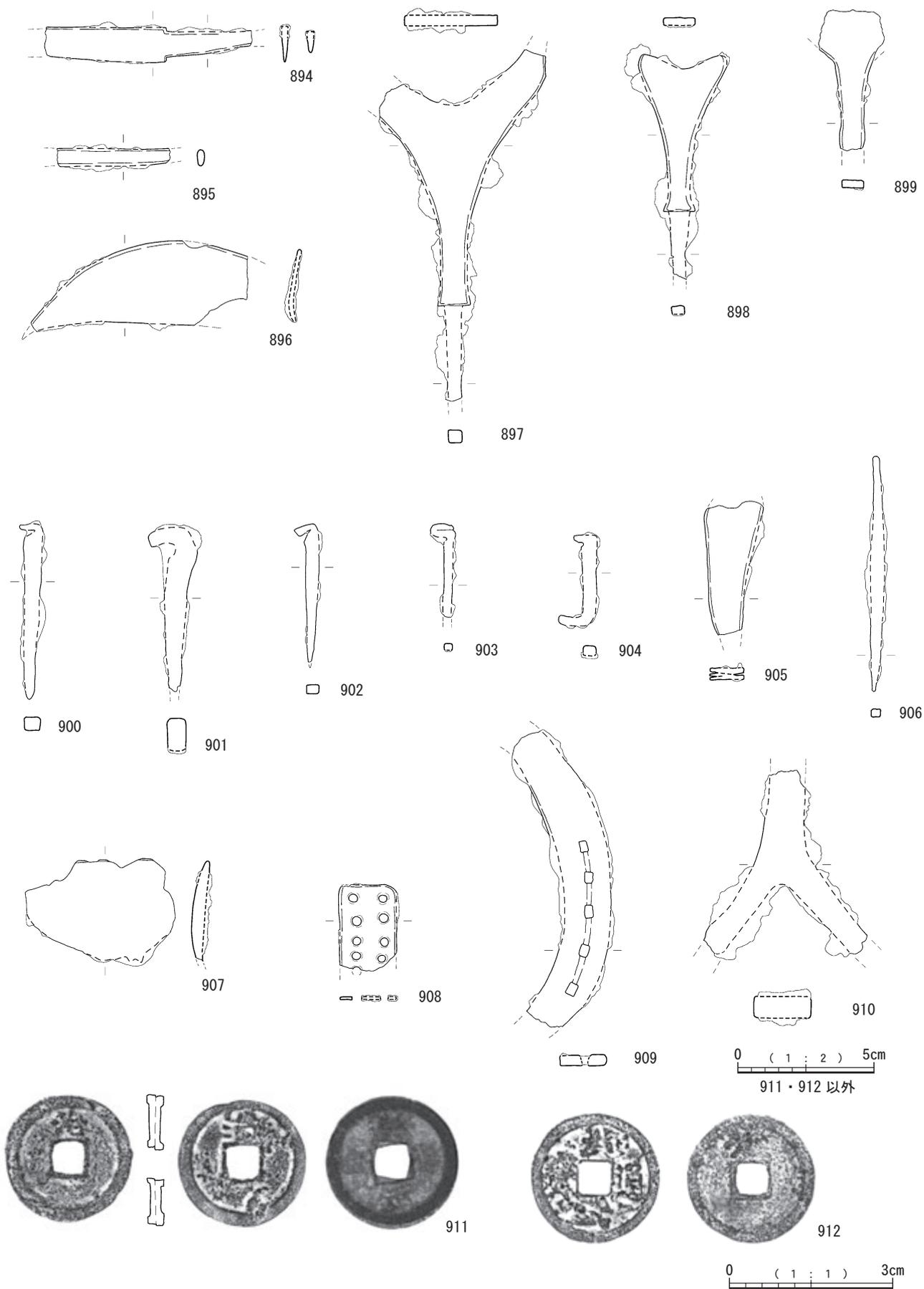
908は短冊状の板状製品で、2列に並行する孔を有する。小札と考えられる。通常は複数の小札を革紐等で繋ぎ合わせることで甲冑全体を形成するが、本遺跡では1

点のみの出土である。

909は「C」字状の板状製品の一部である。現状では、錆に覆われており、窪み程度しか確認できないが、X線撮影の結果、5か所の長方形の孔と、これを連結する浅い溝がみられる。蹄鉄であると考えられる。本来は「U」字状であったものの、半分程度を欠損している。また、先端部も若干欠損する。

910は名称・用途等は不明の製品で、「Y」字状を呈する。断面は、厚みのある長方形である。下端は欠損していると考えられる。

911・912は古銭である。911は2枚重ねの状態で錆着しており背面が表向きとなっている。背面には、背文字の上部に「治」が鋳出されていることから、いずれも加治木銭である。912は洪武通寶である。銭文は、「通」の字の頭部が「マ」、しんにょうが「二点しんにょう」(マ頭通・重点通)に鋳造されている。背面は無文である。911・912はともにやや小ぶりで、鉄分を少し含むことから、鉄錆が付着し、磁性があるなどの特徴をもつ。



第146图 包含層出土金属製品

第4表 礫群・集石観察表

採回 番号	遺構名	検出区	検出層	タイプ	長軸 (m)	短軸 (m)	掘込	総礫数	礫の重量 (g)							
									1～100	101～200	201～300	301～400	401～500	501～600	601～700	701～
第9回	礫群1号	C-20	Ⅱ	Ⅱ	4.88	2.86	無	56	13	13	16	4	8	2	0	0
第10回	礫群2号	C-21	XⅡ～XⅢ	Ⅱ	0.17	0.15	無	12	5	4	2	1	0	0	0	0
第13回	集石1号	E-23	Ⅸ	Ⅰ	0.50	0.43	無	9	4	3	2	0	0	0	0	0
	集石2号	C-23	Ⅸ	Ⅰ	0.60	0.40	無	12	6	5	0	0	0	0	0	0
	集石3号	E-23	Ⅸ	Ⅰ	0.61	0.54	無	9	7	1	0	1	0	0	0	0
	集石4号	D-E-23	Ⅸ	Ⅰ	0.85	0.51	無	14	6	5	3	0	0	0	0	0
	集石5号	E-23	Ⅸ	Ⅰ	0.88	0.81	無	7	6	1	0	0	0	0	0	0
	集石6号	C-23	Ⅸ	Ⅰ	0.90	0.85	無	12	8	1	2	1	0	0	0	0
	集石7号	D-23	Ⅸ	Ⅰ	1.05	0.85	無	15	7	5	1	2	0	0	0	0
第14回	集石8号	C-22	Ⅸ	Ⅰ	1.15	0.97	無	24	13	6	2	1	1	1	0	0
	集石9号	C-15	Ⅸ	Ⅰ	1.17	0.57	無	8	1	2	0	2	0	1	1	1
	集石10号	B-23	Ⅸ	Ⅰ	1.30	1.05	無	12	7	2	2	1	0	0	0	0
	集石11号	C-22	Ⅸ	Ⅰ	1.28	1.12	無	17	10	6	1	0	0	0	0	0
第15回	集石12号	D-22	Ⅸ	Ⅰ	1.23	0.58	無	12	7	4	0	0	0	1	0	0
	集石13号	C-22	Ⅸ	Ⅰ	1.33	1.25	無	21	10	6	2	1	2	0	0	0
第16回	集石14号	D-25	X層上面	Ⅰ	1.30	0.58	無	11	3	4	2	2	0	0	0	0
	集石15号	D-24	Ⅸ	Ⅰ	1.33	1.05	無	27	19	3	2	1	2	0	0	0
第17回	集石16号	C-23	Ⅸ	Ⅰ	1.38	1.12	無	24	15	4	3	0	0	0	1	1
	集石17号	B-23-24	Ⅸ	Ⅰ	1.54	1.44	無	29	24	3	1	1	0	0	0	0
第18回	集石18号	C-23	Ⅸ	Ⅰ	1.51	1.48	無	39	28	9	2	0	0	0	0	0
	集石19号	B-20	Ⅸ	Ⅰ	1.52	1.45	無	54	42	9	2	0	0	1	0	0
	集石20号	D-23	Ⅸ	Ⅰ	1.53	0.67	無	35	16	16	0	3	0	0	0	0
第19回	集石21号	E-23	Ⅸ	Ⅰ	1.53	1.20	無	32	19	9	4	0	0	0	0	0
	集石22号	E-22-23	Ⅸ	Ⅰ	1.55	1.36	無	32	13	6	6	1	0	2	1	3
第20回	集石23号	C-22	Ⅸ	Ⅰ	1.62	1.44	無	54	36	7	8	2	0	1	0	0
	集石24号	C-22-23	Ⅸ	Ⅰ	1.61	1.34	無	38	25	9	2	3	0	0	0	1
第21回	集石25号	C-23	Ⅸ	Ⅰ	1.62	0.98	無	14	9	4	0	1	0	0	0	0
	集石26号	D-23	Ⅸ	Ⅰ	1.66	1.52	無	46	26	9	5	3	2	0	0	0
第22回	集石27号	C-23	Ⅸ	Ⅰ	1.67	1.36	無	28	13	10	1	3	1	0	0	0
	集石28号	C-22-23	Ⅸ	Ⅰ	1.73	1.26	無	49	34	7	3	5	0	0	0	0
第23回	集石29号	B-25	Ⅸ	Ⅰ	1.81	1.38	無	43	32	6	4	0	0	0	0	0
	集石30号	C-22	Ⅸ	Ⅰ	1.82	1.69	無	39	23	11	2	1	0	1	0	1
第24回	集石31号	B-22	Ⅸ	Ⅰ	2.00	1.31	無	29	18	4	3	2	1	1	0	0
第25回	集石32号	B-20-21	Ⅸ	Ⅰ	2.03	1.96	無	95	81	14	0	0	0	0	0	0
	集石33号	D-22	Ⅸ	Ⅰ	2.23	0.82	無	25	16	6	1	1	1	0	0	0
第26回	集石34号	C-15-16	Ⅸ	Ⅰ	2.36	1.20	無	19	6	4	3	1	3	0	0	2
	集石35号	B-C-22-23	Ⅸ	Ⅰ	2.51	1.90	無	36	28	6	1	0	0	1	0	0
第27回	集石36号	B-24-25	Ⅸ	Ⅰ	2.82	1.75	無	52	41	6	3	1	0	0	1	0
	集石37号	B-25	Ⅸ	Ⅰ	3.23	1.30	無	89	69	13	2	3	0	0	0	2
第28回	集石38号	B-12	Ⅸ	Ⅰ	3.05	1.86	無	36	30	6	0	0	0	0	0	0
	集石39号	B-23	Ⅸ	Ⅱ	0.38	0.32	無	10	4	2	1	1	1	0	0	0
	集石40号	B-23	Ⅸ	Ⅱ	0.40	0.34	無	6	4	2	0	0	0	0	0	0
	集石41号	E-F-23	Ⅸ	Ⅱ	0.56	0.31	無	14	5	4	3	1	0	0	0	1
	集石42号	E-25	X層上面	Ⅱ	0.50	0.45	無	30	26	3	1	0	0	0	0	0
	集石43号	E-23	Ⅸ	Ⅱ	0.58	0.50	無	19	6	5	4	2	1	0	0	1
	集石44号	B-24	Ⅸ	Ⅱ	0.62	0.58	無	15	11	2	0	0	1	0	0	1
第29回	集石45号	D-20	Ⅸ	Ⅱ	0.75	0.60	無	40	17	9	6	1	2	2	0	3
	集石46号	F-19	Ⅸ	Ⅱ	0.80	0.77	無	29	20	8	1	0	0	0	0	0
	集石47号	E-23	Ⅸ	Ⅱ	0.88	0.61	無	47	23	17	5	1	0	0	0	1
	集石48号	C-20	Ⅸ	Ⅱ	0.91	0.64	無	16	8	8	0	0	0	0	0	0
	集石49号	D-23	Ⅸ	Ⅱ	0.91	0.73	無	22	14	7	0	1	0	0	0	0
第30回	集石50号	C-23	Ⅸ	Ⅱ	1.14	0.97	無	80	22	17	20	6	7	1	3	4
	集石51号	C-23	Ⅸ	Ⅱ	1.10	1.04	無	24	9	7	5	2	1	0	0	1
	集石52号	B-23	Ⅸ	Ⅱ	1.08	0.91	無	13	5	5	3	0	0	0	0	0
	集石53号	D-23	Ⅸ	Ⅱ	1.12	1.02	無	43	13	18	8	3	0	0	1	0
	集石54号	C-23	Ⅸ	Ⅱ	1.34	1.06	無	124	66	40	12	5	0	1	0	0
第31回	集石55号	D-23	Ⅸ	Ⅱ	1.41	0.87	無	20	7	1	3	1	3	1	0	4
	集石56号	E-F-23	Ⅸ	Ⅱ	1.30	0.71	無	28	11	6	5	0	3	0	2	1
	集石57号	C-23	Ⅸ	Ⅱ	1.24	0.93	無	35	19	11	4	0	1	0	0	0
	集石58号	C-23	Ⅸ	Ⅱ	1.25	0.93	無	48	12	15	11	5	2	0	1	2
	集石59号	E-25	Ⅸ	Ⅱ	1.26	0.71	無	30	18	8	3	0	0	1	0	0
第32回	集石60号	D-23	Ⅸ	Ⅱ	1.30	0.80	無	40	3	3	7	10	5	3	4	5
	集石61号	E-23	Ⅸ	Ⅱ	1.31	1.04	無	127	29	14	17	15	12	7	6	27
	集石62号	C-D-23	Ⅸ	Ⅱ	1.31	1.20	無	93	52	31	4	4	1	1	0	0
	集石63号	E-19	Ⅸ	Ⅱ	1.32	1.22	無	48	30	12	3	1	1	0	1	0
	集石64号	C-D-22	Ⅸ	Ⅱ	1.49	1.29	無	56	35	13	5	1	0	0	1	1
第33回	集石65号	D-E-23	Ⅸ	Ⅱ	1.45	1.20	無	41	21	7	8	3	0	0	1	1
	集石66号	D-E-24	Ⅸ	Ⅱ	1.51	1.38	無	70	31	26	7	6	0	0	0	0
	集石67号	C-23	Ⅸ	Ⅱ	1.50	1.31	無	104	79	18	5	1	1	0	0	0
	集石68号	D-24	Ⅸ	Ⅱ	1.66	1.54	無	53	29	18	3	2	1	0	0	0
	集石69号	D-E-24	Ⅸ	Ⅱ	1.56	1.34	無	62	22	22	10	5	1	0	0	2
第34回	集石70号	D-23	Ⅸ	Ⅱ	1.69	1.51	無	43	21	8	7	4	1	1	0	1
	集石71号	E-23	Ⅸ	Ⅱ	1.61	1.54	無	87	17	26	20	9	3	5	2	5
第35回	集石72号	C-22	Ⅸ	Ⅱ	1.77	1.35	無	39	23	7	5	0	1	1	0	2
	集石73号	B-25	Ⅸ	Ⅱ	1.71	1.51	無	33	25	3	4	1	0	0	0	0
第36回	集石74号	B-C-22	Ⅸ	Ⅱ	2.01	1.20	無	72	30	24	12	3	2	1	0	0
	集石75号	C-23	Ⅸ	Ⅱ	1.93	1.27	無	19	11	5	3	0	3	0	0	0
第37回	集石76号	B-23	Ⅸ	Ⅱ	2.13	1.13	無	138	97	29	8	2	1	0	0	1
	集石77号	B-22-23	Ⅸ	Ⅱ	2.58	2.48	無	299	124	98	51	10	8	5	0	3
第38回	集石78号	C-23	Ⅸ	Ⅱ	2.52	1.91	無	38	19	8	6	3	0	0	1	1
第39回	集石79号	B-23	Ⅸ	Ⅱ	2.55	1.45	無	40	30	9	1	0	0	0	0	0
第40回	集石80号	C-17	Ⅸ	Ⅲ	0.90	0.80	有	76	44	16	4	4	2	2	1	3
	集石81号	C-22-23	Ⅸ層下面	Ⅲ	0.90	0.87	有	40	21	11	6	2	0	0	0	0
	集石82号	C-D-23	Ⅸ	Ⅲ	1.21	1.16	有	57	20	12	2	2	0	0	0	19
	集石83号	E-24	Ⅸ	Ⅲ	1.65	1.23	有	79	9	13	22	20	4	3	5	3
第41回	集石84号	F-19	Ⅸ	Ⅲ	1.52	1.50	有	281	162	81	26	6	3	1	0	2
	集石85号	C-D-20	Ⅸ	Ⅲ	2.24	2.09	有	331	107	100	50	19	14	17	6	18
第42回	集石86号-1	C-22-23	Ⅸ	Ⅳ	1.32	1.08	有	51	25	20	5	1	0	0	0	0
	集石86号-2	C-22-23	Ⅸ	Ⅳ	1.47	1.05	有	84	18	45	9	8	1	2	0	0

第5表 遺構内出土縄文土器観察表

押国 No.	掲載 No.	遺構	種別	器種	分類	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整外面	調整内面	色調 (土器)	文様	胎土					備考		
															石英長石	角閃石輝石	雲母	赤褐色小礫	白色礫		その他	
第14図	7	集石8号	土器	深鉢	1類	C-22	IX	-	-	-	-	ナデ	Hue5YR6/4	にぶい橙	貝殻条痕文	○						
	8	集石11号	土器	深鉢	1類	C-22	IX	-	-	-	-	ナデ	Hue5YR5/4	にぶい赤褐	貝殻条痕文	○	○					
	9	集石12号	土器	深鉢	3類	D-22 D-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue10YR5/3 外)Hue5YR6/6	内)にぶい黄褐 外)橙	貝殻条痕文	○						
第16図	10	集石16号	土器	深鉢	5類	C-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue10YR4/3 外)Hue10YR5/3	内)にぶい黄褐 外)にぶい黄褐	貝殻条痕文	○	○	○				
第17図	12	集石17号	土器	深鉢	?	B-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue10YR4/1 外)Hue10YR6/3	内)褐灰 外)にぶい黄橙		○						
	13	集石20号	土器	深鉢	5類	D-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue7.5YR4/1 外)Hue5YR5/6	内)褐灰 外)明赤褐	貝殻条痕文	○	○					
第18図	15	集石21号	土器	深鉢	2類	E-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue10YR5/4 外)Hue2.5Y3/4	内)にぶい黄褐 外)黄褐	貝殻条痕(綾杉)文	○	○					
	16	集石21号	土器	深鉢	?	E-23	IX	-	-	-	工具ナデ	工具ナデ	Hue10YR5/3	にぶい黄褐		○	○	○				
第19図	18	集石23号	土器	深鉢	4b類	C-22 C-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue7.5YR4/3 外)Hue7.5YR6/4	内)褐 外)にぶい橙	貝殻刺突文	○						
第21図	23	集石28号	土器	深鉢	4b類	C-22-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue7.5YR4/2 外)Hue7.5YR5/3	内)灰褐 外)にぶい橙	貝殻刺突文	○	○					
第25図	30	集石35号	土器	深鉢	4b類	B-C-22-23	IX	-	-	-	ナデ	ケズリ	内)Hue7.5YR4/3 外)Hue7.5YR6/4	内)褐 外)にぶい橙	貝殻刺突文	○						
第26図	31	集石36号	土器	深鉢	2類	B-24-25	IX	-	-	-	-	ナデ	内)Hue7.5YR5/3 外)Hue5YR7/6	内)にぶい褐 外)橙	貝殻条痕文	○	○					
	32	集石37号	土器	深鉢	1類	B-25	IX	-	-	-	-	ミガキ・ナデ	内)Hue2.5Y3/1 外)Hue5YR6/6	内)黒褐 外)橙	貝殻条痕文	○						
第28図	38	集石17号 集石44号	土器	深鉢	?	B-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue7.5YR4/2 外)Hue7.5YR7/4	内)灰褐 外)にぶい橙		○	○					
	41	集石52号	土器	深鉢	4b類	B-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue10YR3/1 外)Hue7.5YR6/4	内)黒褐 外)にぶい橙		○						
第31図	42	集石54号	土器	深鉢	2類	C-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue5YR4/6 外)Hue5YR4/4	内)赤褐 外)にぶい赤褐	貝殻条痕文 貝殻刺突文	○						
	43	集石55号	土器	深鉢	4b類	B-23 D-23	IX	-	-	-	ナデ	指ナデ	内)Hue10YR3/1 外)Hue5YR6/4	内)黒褐 外)にぶい橙	貝殻刺突文	○						
第33図	46	集石62号	土器	深鉢	4a類	C-D-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue10YR6/3 外)Hue10YR7/4	内)にぶい黄橙 外)にぶい黄橙	貝殻刺突文	○	○	○			○	
第34図	48	集石67号	土器	深鉢	4b類	C-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue7.5YR5/4 外)Hue5YR5/4	内)にぶい褐 外)にぶい赤褐	貝殻刺突文	○						
第35図	49	集石68号	土器	深鉢	4a類	D-24	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue5YR4/4	にぶい赤褐	貝殻刺突文	○						
第36図	53	集石69号 集石70号	土器	深鉢	4C類	D-23 D-E-24	IX	-	-	-	ナデ	ケズリ	内)Hue5YR3/1 外)Hue5YR5/4	内)黒褐 外)にぶい赤褐	刺突文	○						
	55	集石72号	土器	深鉢	4C類	C-22	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue10YR3/2 外)Hue5YR4/6	内)黒褐 外)赤褐	撫糸文	○	○	○				
第38図	56	集石72号	土器	深鉢	4C類?	C-22	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue5YR3/1 外)Hue2.5YR6/8	内)黒褐 外)橙		○	○	○				
	58	集石73号	土器	深鉢	1類	B-25	IX	-	-	-	摩滅	摩滅	内)Hue5YR6/6 外)Hue5YR6/6	内)にぶい橙 外)橙	貝殻条痕文	○	○					
第39図	59	集石74号	土器	深鉢	?	B-C-22	IX	-	-	-	ナデ	ミガキ	Hue7.5YR3/2	黒褐		○	○	○				
第40図	62	集石77号	土器	深鉢	4a類	B-22-23	IX	-	-	-	指ナデ	指ナデ	内)Hue10YR3/1 外)Hue10YR6/3	内)黒褐 外)にぶい黄橙	貝殻刺突文	○	○	○				
	63	集石77号	土器	深鉢	4a類	B-22-23	IX	-	-	-	ミガキ	ナデ	内)Hue10YR2/2 外)Hue10YR6/4	内)黒褐 外)にぶい橙	貝殻刺突文	○	○	○				
	64	集石77号	土器	深鉢	4a類	B-22-23	IX	-	-	-	ナデ	ケズリ	内)Hue10YR5/2 外)Hue10YR6/4	内)灰黄褐 外)にぶい黄橙	貝殻刺突文	○	○	○			○	
第41図	65	集石78号	土器	深鉢	5類	C-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue7.5YR4/2 外)Hue7.5YR6/3	内)灰褐 外)にぶい褐	貝殻条痕(綾杉)文 貝殻刺突文	○						波状口縁
	66	集石78号	土器	深鉢	5類	C-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue7.5YR6/4 外)Hue7.5YR5/3	内)にぶい橙 外)にぶい褐	流水文	○	○	○				
第42図	68	集石79号	土器	深鉢	4a類	B-23	IX	-	-	-	ナデ	ミガキ	内)Hue10YR3/1 外)Hue10YR6/3	内)黒褐 外)にぶい黄橙	貝殻刺突文	○	○	○				
第45図	70	集石86号 集石53号	土器	深鉢	2類	C-23 D-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue5YR4/6	赤褐	貝殻条痕文 貝殻刺突文	○	○					
	311	竪穴 礎物跡	土器	深鉢	8a類	E-23	-	-	-	-	-	-	内)Hue5YR6/6 外)Hue7.5YR6/6	内)橙 外)橙	貝殻刺突文	○	○					
第85図	312	竪穴 礎物跡	土器	深鉢	8b類	E-22-23	-	-	-	-	-	-	内)Hue7.5YR4/4 外)Hue7.5YR3/3	内)褐 外)暗褐	貝殻刺突文	○	○	○				竪穴内 pit
	313	竪穴 礎物跡	土器	深鉢	12類	E-23	-	-	-	-	-	-	内)Hue7.5YR6/6 外)Hue10YR6/3	内)橙 外)にぶい黄橙	刺突文	○	○					
第143図	882	硬化面 1号	土器	中華鉢形	13類	C-D-6	-	-	-	-	-	ナデ・条痕	内)Hue7.5YR4/2 外)Hue7.5YR5/4	内)灰褐 外)にぶい褐								編布圧痕

第6表 遺構内出土古墳土器観察表

押国 No.	掲載 No.	遺構	種別	器種	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整外面	調整内面	色調 (土器)	文様	胎土					備考		
														石英長石	角閃石輝石	雲母	赤褐色小礫	白色礫		その他	
第85図	314	竪穴 礎物跡	土器	甕	E-22	-	-	-	-	ナデ・ケズリ・ハケ目	ナデ・ハケ目	Hue10YR8/3	浅黄橙	○							刻目突帯、スス付着
第86図	315	竪穴 礎物跡	土器	甕	E-22	-	-	-	-	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	内)Hue10YR7/4 外)Hue10YR6/4	内)にぶい黄橙 外)にぶい黄橙	○		○					刻目突帯、スス付着
	316	竪穴 礎物跡	土器	甕	E-22	-	-	-	-	ナデ	-	内)Hue7.5YR8/4 外)Hue7.5YR8/6	内)浅黄橙 外)浅黄橙	○		○	○				刻目突帯
	317	竪穴 礎物跡	土器	壺	E-22 E-F 23-24	-	18.0	-	(7.2)	工具ナデ	工具ナデ・ナデ・指オサエ	Hue7.5YR5/4	にぶい褐	○		○					中津野式
	318	竪穴 礎物跡	土器	壺	E-22	-	18.0	-	(4.9)	ナデ	ナデ	内)Hue10YR5/4 外)Hue5YR4/6	内)にぶい黄褐 外)赤褐	○		○					中津野式
	319	竪穴 礎物跡	土器	壺	E-22	-	-	-	-	工具ナデ・指オサエ・ナデ	工具ナデ・ナデ	内)Hue7.5YR6/4 外)Hue2.5YR6/6	内)にぶい橙 外)橙	○	○	○	○				中津野式
	320	竪穴 礎物跡	土器	壺	E-22	-	-	-	-	工具ナデ・ナデ	工具ナデ・ナデ	内)Hue5YR5/3 外)Hue5YR5/6	内)にぶい赤褐 外)明赤褐	○	○	○	○				中津野式
	321	竪穴 礎物跡	土器	高坏	E-22	-	-	-	-	ミガキ・指ナデ	指ナデ	内)Hue7.5YR5/4 外)Hue5YR6/6	内)にぶい褐 外)明赤褐	○	○	○					
	322	竪穴 礎物跡	土器	高坏	B-17-18 E-22-23	-	-	-	-	ミガキ	工具ナデ・ミガキ	内)Hue10YR5/3 外)Hue5YR5/4	内)にぶい黄褐 外)にぶい赤褐	○	○	○	○				
第144図	889	硬化面 2号	土器	壺	D-6 D-7	II b II c	-	3.5	(12.1)	ミガキ・ナデ	工具ナデ・ナデ	内)Hue2.5YR6/6 外)Hue10YR7/6	内)橙 外)明黄褐								

第7表 遺構内出土古代土器観察表

押国 No.	掲載 No.	遺構	種別	器種	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整外面	調整内面	色調 (土器)	文様	備考
第101図	422	土坑墓	土師器	鉢	F-23	-	20.4	-	12.6	ナデ	ケズリ	内)Hue7.5YR7/4 外)Hue7.5YR7/6	内)にぶい橙 外)橙	スス付着

第8表 遺構内出土中世土器観察表

押図 No.	掲載 No.	遺構	種別	器種	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整外面	調整内面	色調 (土器)	備考
第143図	883	硬化面1号	土師器	皿	C-D-6		-	4.4	(0.8)			Hue7.5YR6/4	内) ぶい橙 へら切り底
第144図	890	硬化面2号	土師器	環	D-6 D-7	II b	-	4.4	(2.0)			内) Hue10YR7/3 外) Hue10YR7/4	内) ぶい黄橙 外) ぶい黄橙 へら切り底

第9表 遺構内出土中世陶磁器観察表

押図 No.	掲載 No.	遺構	種別	器種	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調 (胎土)	色調 (釉素)	文様	施軸部位	陶磁器分類	歴博分類	備考		
第107図	442	溝状遺構2号	白磁	皿	D-11	II a	-	-	-	HueN8/	灰白		墨付輪剥ぎ	森田E群	白磁皿C1群			
	443	溝状遺構	白磁	小皿	C-9	-	-	-	-	Hue2.5YR6/3	ぶい黄		外面腰部以下露胎	森田E群	白磁皿D群	菊花皿		
	444	溝状遺構1号	白磁	小環	E-12	II a上段床直	-	-	-	Hue2.5Y7/1	灰白		透明釉	森田E群				
	445	溝状遺構	青磁	碗	C-10	-	-	-	-	Hue5Y8/2	灰白	Hue7.5Y6/2	オリブ黄	残存部全面施釉	上田D類?	龍泉窯系碗D類?		
	446	溝状遺構3号	青磁	碗	D-10	II a	-	-	-	Hue7.5YR7/3	ぶい橙	Hue5Y6/3	オリブ黄	外面露胎 見込み円状に輪剥ぎ				
	447	溝状遺構3号	青花	碗	D-10	II a	-	-	-	Hue2.5YR8/3	淡黄	Hue5Y8/2	灰白 (透明釉)	界線	高台外面以下露胎		濠洲窯	
	448	溝状遺構3号	青花	皿	D-11	II a	-	-	-	Hue2.5Y8/1	灰白		透明釉	見込) 玉取獅子	墨付輪剥ぎ	小野B1群	染付皿B1群	
	449	溝状遺構2号	赤絵	碗	C-9	II a	14.4	5.6	5.8	Hue2.5Y7/2	灰黄		透明釉	草花文	高台外面以下露胎			15~16C, 最徳鎮窯
	450	溝状遺構3号	国外陶器	壺	D-10	II a	-	-	-	Hue5YR6/3	ぶい橙	内) Hue2.5Y7/4 外) Hue10YR5/3	内) 浅黄 外) ぶい黄橙				中国産	
	第143図	884	硬化面1号 硬化面2号	白磁	碗	D-6 D-7	II a・II b II c上	15.6	-	(4.3)	Hue2.5Y7/1	灰白	Hue5Y7/2	灰白	外面腰部以下露胎	大宰府白磁碗IV類	白磁碗IV類	
885		硬化面1号	白磁	碗	D-6	第4面床	-	-	-	Hue5Y7/1	灰白		透明	残存部全面施釉	大宰府白磁碗IV類	白磁碗IV類		
886		硬化面1号	白磁	碗	D-6-7	II a II c上	-	-	-	Hue2.5Y8/2	灰白		透明	残存部全面施釉	大宰府白磁碗IV類	白磁碗IV類		
887		硬化面1号 硬化面2号	白磁	碗	D-6-7	II a II b II c	-	-	-	Hue5Y7/2	灰白	Hue5Y7/1	灰白	外面腰部以下露胎	大宰府白磁碗IV類	白磁碗IV類		
888		硬化面1号 硬化面2号	白磁	碗	D-4 D-6	II c	-	-	-	Hue10YR7/1	灰白		透明	残存部全面施釉	大宰府白磁碗IV類	白磁碗IV類		
第144図	891	硬化面1号 硬化面2号	白磁	碗	D-6 D-7	II a II c上	15.4	-	(3.1)	Hue7.5Y7/1	灰白	Hue5Y7/3	浅黄 (透明釉)	残存部全面施釉	大宰府白磁碗IV類	白磁碗IV類		

第10表 包含層出土縄文土器観察表1

押図 No.	掲載 No.	種別	器種	分類	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整外面	調整内面	色調 (土器)	文様	胎土						備考
														石英長石	角閃石輝石	雲母	赤褐色小礫	白色礫	その他	
第48図	72	土器	深鉢	1類	B-22 C-22 C-23	IX	-	-	-	-	-	内) Hue6YR5/6 外) Hue6YR6/6	内) 明赤褐 外) 橙	貝殻条痕文	○					
	73	土器	深鉢		C-22	IX	-	-	-	-	ケズリ後ナデ	内) Hue6YR5/6 外) Hue7.5YR6/4	内) 明赤褐 外) ぶい橙	貝殻条痕文	○					
	74	土器	深鉢		C-22	IX	-	-	-	-	ナデ	内) Hue6YR5/8 外) Hue6YR5/6	内) 明赤褐 外) 明赤褐	貝殻条痕文	○					
	75	土器	深鉢		C-23	IX	-	-	-	-	ナデ	内) Hue6YR5/6 外) Hue3YR5/4	内) 明赤褐 外) ぶい赤褐	刻目・貝殻刺突文 貝殻条痕文	○		○			
	76	土器	深鉢	C-24	IX	-	-	-	-	ナデ	内) Hue5YR5/6 外) Hue7.5YR5/4	内) 明赤褐 外) ぶい橙	刻目	○		○				
	77	土器	深鉢	C-23 C-24 D-25	IX	-	-	-	-	ナデ	内) Hue6YR4/6 外) Hue6YR5/4	内) 明赤褐 外) ぶい赤褐	貝殻条痕文	○		○				
	78	土器	深鉢	D-25	IX	-	-	-	-	ナデ・指オサエ	Hue10YR6/4	ぶい黄橙	貝殻条痕文	○	○					
	79	土器	深鉢	D-22	IX	-	-	-	-	ナデ	内) Hue2.5Y4/2 外) Hue7.5YR5/4	内) 暗灰黄 外) ぶい橙	貝殻条痕文	○	○					
	80	土器	深鉢	D-23	IX	-	-	-	-	ナデ	内) Hue6YR5/4 外) Hue3YR6/6	内) ぶい赤褐 外) 橙	貝殻条痕文	○						
	81	土器	深鉢	B-24	IX	-	-	-	-	ナデ	内) Hue10YR6/3 外) Hue7.5YR7/6	内) ぶい黄橙 外) 橙	貝殻条痕文	○	○					
	82	土器	深鉢	E-24	IX	-	-	-	-	ナデ	内) Hue10YR6/3 外) Hue10YR6/4	内) ぶい黄橙 外) ぶい黄橙	貝殻条痕文	○	○					
	83	土器	深鉢	D-22	IX	-	-	-	-	ナデ	内) Hue10YR5/2 外) Hue7.5YR6/6	内) 灰黄褐 外) 橙	貝殻条痕文	○	○					
	84	土器	深鉢	B-23	IX	-	-	-	-	ケズリ	内) Hue10YR7/3 外) Hue10YR7/4	内) ぶい黄橙 外) ぶい黄橙	貝殻条痕文	○	○					
	85	土器	深鉢	D-25	IX	-	-	-	-	ナデ・指オサエ	ケズリ	Hue7.5YR4/1	褐灰	貝殻条痕文	○	○				
	86	土器	深鉢	D-25	IX	-	-	-	-	ケズリ	内) Hue7.5YR5/3 外) Hue7.5YR6/4	内) ぶい黄 外) ぶい橙	貝殻条痕文	○	○	○				
	87	土器	深鉢	D-22	IX	-	-	-	-	ナデ	内) Hue10YR5/4 外) Hue7.5YR5/4	内) ぶい黄橙 外) ぶい橙	貝殻条痕文	○	○					
	88	土器	深鉢	D-25	IX	-	-	-	-	ナデ	内) Hue7.5YR6/3 外) Hue7.5YR6/4	内) ぶい黄 外) ぶい橙	貝殻条痕文	○	○					
	89	土器	深鉢	B-22	IX	-	-	-	-	ナデ	内) Hue10YR5/3 外) Hue10YR6/3	内) ぶい黄褐 外) ぶい黄橙	貝殻条痕文	○	○					
	90	土器	深鉢	B-23	IX 表土	-	-	-	-	ナデ	内) Hue2.5Y3/3 外) Hue3YR5/4	内) 暗オリブ褐 外) ぶい赤褐	貝殻条痕文	○	○					
	91	土器	深鉢	D-22	IX	-	-	-	-	ナデ	ケズリ後ナデ	内) Hue5YR5/6 外) Hue5YR5/6	内) 明赤褐 外) 明赤褐	貝殻条痕文	○	○	○			
92	土器	深鉢	D-22	IX	-	-	-	-	ナデ	内) Hue7.5YR7/6 外) Hue5YR6/8	内) 橙 外) 橙	条痕文	○							
93	土器	深鉢	D-23	IX	-	-	-	-	ナデ	内) Hue2.5Y4/2 外) Hue5Y6/2	内) 暗灰黄 外) 灰オリブ	条痕文	○	○						
94	土器	深鉢	C-23	IX	-	-	-	-	指ナデ	ケズリ後ナデ	内) Hue10YR3/1 外) Hue10YR5/4	内) 黒褐 外) ぶい黄橙	貝殻刺突文	○	○	○	○			
95	土器	深鉢	C-23	IX	-	-	-	-	ナデ	内) Hue7.5YR4/2 外) Hue7.5YR6/4	内) 灰褐 外) ぶい橙	貝殻刺突文	○	○	○	○				
96	土器	深鉢	B-22	IX	-	-	-	-	ナデ	ケズリ	内) Hue10YR4/1 外) Hue10YR6/4	内) 褐灰 外) ぶい黄橙	貝殻刺突文	○	○	○	○			
97	土器	深鉢	C-23	IX	-	-	-	-	ナデ	ケズリ	内) Hue10YR4/2 外) Hue10YR6/4	内) 灰黄褐 外) ぶい黄橙	貝殻刺突文	○	○	○	○			
98	土器	深鉢	C-23	IX	-	-	-	-	ナデ	ナデ	内) Hue10YR6/3 外) Hue10YR6/4	内) ぶい黄橙 外) ぶい黄橙	貝殻刺突文	○	○	○	○			
99	土器	深鉢	D-22	IX	-	-	-	-	ナデ	ナデ	内) Hue2.5Y6/2 外) Hue10YR6/4	内) 灰黄 外) ぶい黄橙	羽状刺突文	○	○	○	○			
100	土器	深鉢	C-23	IX	-	-	-	-	ナデ	ナデ	内) Hue10YR5/3 外) Hue7.5YR6/3	内) ぶい黄褐 外) ぶい黄	貝殻刺突文	○	○	○	○			
第49図	101	土器	深鉢	B-23	IX	24.0	-	(5.8)	ナデ	ナデ	内) Hue7.5YR4/2 外) Hue5YR6/6	内) 灰褐 外) 橙	貝殻刺突文	○	○					
	102	土器	深鉢	C-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内) Hue2.5Y7/4 外) Hue2.5YR5/8	内) 浅黄 外) 明赤褐	貝殻刺突文	○	○					
	103	土器	深鉢	D-22	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内) Hue7.5YR5/4 外) Hue7.5YR6/6	内) ぶい黄 外) 橙	貝殻刺突文	○	○					
	104	土器	深鉢	B-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内) Hue7.5YR3/1 外) Hue7.5YR5/4	内) 黒褐 外) ぶい黄	貝殻刺突文	○	○					
	105	土器	深鉢	D-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内) Hue7.5YR5/3 外) Hue7.5YR5/4	内) ぶい黄 外) ぶい黄	貝殻刺突文	○	○					
	106	土器	深鉢	C-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内) Hue7.5YR5/4 外) Hue7.5YR6/4	内) ぶい黄 外) ぶい黄	貝殻刺突文	○	○					
	107	土器	深鉢	B-22	IX	-	-	-	ナデ・指オサエ	ナデ	内) Hue5YR5/4 外) Hue5YR6/4	内) ぶい赤褐 外) ぶい橙	刺突文	○	○	○				
	108	土器	深鉢	B-22	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内) Hue10YR4/2 外) Hue10YR4/6	内) 灰黄褐 外) 褐	刺突文	○	○	○				
	109	土器	深鉢	B-22	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内) Hue10YR4/2 外) Hue10YR5/3	内) 灰黄褐 外) ぶい黄褐	貝殻刺突文	○	○	○				

第 11 表 包含層出土縄文土器観察表 2

種別 No.	掲載 No.	種別	分類	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整外面	調整内面	色調(土器)		文様	胎土					備考		
											石炭 灰石	角閃 石		赤褐色 小粒	白色	その他					
第 49 区	110	土器	深鉢	4c類	B-23	IX	-	-	-	ナデ・指オサエ	ケズリ	内)Hue10R7/4 外)Hue10R7/4	内)灰黄褐 外)にぶい黄褐	刺突文	○	○					
	111	土器	深鉢		C-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue10R6/2 外)Hue10R6/3	内)灰黄褐 外)にぶい黄褐	流水文	○	○	○				
	112	土器	深鉢		C-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue10R5/3	にぶい黄褐	流水文	○	○	○				
	113	土器	深鉢		D-23 E-25	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue7.5R5/4 外)Hue10R6/4	内)にぶい褐 外)にぶい黄褐	貝殻条痕文	○	○					
	114	土器	深鉢		D-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue2.5V5/2 外)Hue2.5V6/2	内)暗灰黄 外)灰黄	沈線文	○	○	○	○			
	115	土器	深鉢		C-22	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue10R5/2 外)Hue10R6/4	内)灰黄褐 外)にぶい黄褐	沈線文	○	○	○	○			
	116	土器	深鉢		C-22 C-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue5R4/4 外)Hue7.5R4/2	内)にぶい赤褐 外)灰褐	貝殻条痕文	○	○	○				
	117	土器	深鉢	5 類	D-22	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue5R5/4 外)Hue5R4/4	内)にぶい赤褐 外)にぶい赤褐	貝殻条痕文	○	○	○				
	118	土器	深鉢		C-D-22	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue7.5R5/4	にぶい褐	貝殻条痕文	○	○	○				
	119	土器	深鉢		D-22	IX	-	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue5R5/4 外)Hue5R5/6	内)にぶい赤褐 外)明赤褐	貝殻条痕文	○	○	○			
	120	土器	深鉢		C-22	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue7.5R4/1 外)Hue7.5R5/4	内)褐灰 外)にぶい褐	貝殻条痕文	○	○	○				
	121	土器	深鉢		B-23 C-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue7.5R5/3 外)Hue7.5R5/4	内)にぶい褐 外)にぶい褐	貝殻条痕文	○	○	○				
	122	土器	深鉢		B-23	IX	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue7.5R3/3 外)Hue5R5/6	内)暗褐 外)明赤褐	貝殻条痕文	○	○	○				
123	土器	深鉢		B-23 C-23 D-22 D-23	IX	-	-	-	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	内)Hue10R5/3 外)Hue5R5/6	内)にぶい黄褐 外)明赤褐	貝殻条痕文	○	○	○	○				
第 63 区	178	土器	深鉢	6 類	D-23 E-23 E-25	Ⅲ 表土	38.4	-	(13.8)	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕後ナデ	Hue10R7/4	にぶい黄褐	貝殻押引文	○	○				波状口縁、粗状突起	
	179	土器	深鉢		D-22 D-23 D-25	Ⅲ Ⅵ Ⅴ下 Ⅲ	-	-	-	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕後ナデ	Hue5R6/6	橙	貝殻押引文	○	○					
	180	土器	深鉢		D-23 D-25	Ⅲ	-	-	-	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕後ナデ	内)Hue10R6/3 外)Hue7.5R6/4	内)にぶい黄褐 外)にぶい橙	貝殻押引文	○	○					
第 69 区	190	土器	深鉢	7 類	D-7	Ⅲ	-	-	-	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕	Hue5R5/4	にぶい赤褐	貝殻刺突文・凹線文 沈線文	○	○				波状口縁、岩崎上層式	
	191	土器	深鉢		B-15	Ⅴ	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue5R4/4	にぶい赤褐	沈線文	○	○	○				
	192	土器	深鉢		C-8	Ⅲb	5.2	3.8	1.5	ナデ	ナデ・貝殻条痕	Hue5R5/6	明赤褐	凹線文	○	○				南福寺式	
	193	土器	深鉢		D-6	Ⅱc	-	-	-	ナデ	指ナデ	内)Hue7.5R6/4 外)Hue7.5R5/4	内)にぶい橙 外)にぶい褐	沈線文	○	○	○			出水式	
	194	土器	深鉢		D-9	Ⅲ上	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue2.5R5/6 外)Hue10R3/2	内)明赤褐 外)黒褐	沈線文	○	○				出水式	
	195	土器	深鉢		C-11	Ⅰb	-	-	-	ナデ	ハケ目・指オサエ	内)Hue5R5/4 外)Hue5R5/6	内)にぶい赤褐 外)明赤褐	凹線文・刻目突帯文	○	○	○				
	196	土器	深鉢		C-8	Ⅲ	-	-	-	ナデ	貝殻条痕	Hue5R5/6	明赤褐	刺突文・凹線文	○	○				松山式	
	197	土器	深鉢		B-13	Ⅱ	-	-	-	ナデ	貝殻条痕・ナデ	内)Hue7.5R3/3 外)Hue2.5R5/6	内)暗褐 外)明赤褐	外)貝殻刺突文・沈線文	○	○	○			波状口縁	
	198	土器	深鉢		D-9 D-10	Ⅱc Ⅲ	-	-	-	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	内)Hue7.5R6/4 外)Hue5R5/6	内)にぶい橙 外)明赤褐	貝殻刺突文・沈線文	○	○	○	○			
	199	土器	深鉢		D-7 D-8 D-9	Ⅲb上	-	-	-	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	内)Hue5R5/6 外)Hue5R4/4	内)明赤褐 外)にぶい赤褐	貝殻刺突文・沈線文	○	○	○	○			
第 70 区	200	土器	深鉢	D-16-17	Ⅳ	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕後ナデ	内)Hue5R5/8 外)Hue5R5/6	内)明赤褐 外)明赤褐	貝殻刺突文	○	○	○			波状口縁		
	201	土器	深鉢	D-7	Ⅲ	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	内)Hue5R6/6 外)Hue5R6/4	内)橙 外)にぶい橙	貝殻刺突文	○	○				波状口縁		
	202	土器	深鉢	D-8	Ⅱc Ⅲ上	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	内)Hue7.5R6/6 外)Hue5R6/6	内)橙 外)橙	貝殻刺突文	○	○						
	203	土器	深鉢	B-12	Ⅱ	-	-	-	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	内)Hue5R4/4 外)Hue5R3/3	内)赤褐 外)暗赤褐	貝殻刺突文	○	○						
	204	土器	深鉢	D-16 D-17	Ⅳ	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	Hue5R5/4	にぶい赤褐	貝殻刺突文	○	○				波状口縁		
	205	土器	深鉢	C-17 D-16	Ⅲ Ⅳ	-	-	-	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	Hue5R6/4	にぶい橙	貝殻刺突文	○	○				波状口縁		
	206	土器	深鉢	B-7	Ⅲ	-	-	-	貝殻条痕	工具ナデ・ナデ	内)Hue5R4/3 外)Hue5R4/2	内)にぶい赤褐 外)灰褐	貝殻刺突文	○	○						
	207	土器	深鉢	D-11	Ⅳ	-	-	-	ナデ・ケズリ	貝殻条痕・ナデ	内)Hue5R4/6 外)Hue5R3/3	内)赤褐 外)にぶい赤褐	沈線文・刻目突帯文	○	○	○			波状口縁		
	208	土器	深鉢	D-6	Ⅱc下	-	-	-	ナデ	貝殻条痕	内)Hue5R5/3 外)Hue7.5R5/6	内)にぶい赤褐 外)明褐	貝殻刺突文・沈線文	○	○						
	209	土器	深鉢	B-C-16 C-17 D-17	Ⅱ Ⅳ Ⅴ	-	-	-	ナデ	貝殻条痕後ナデ	Hue5R5/6	明赤褐	斜位の刻目	○	○				波状口縁		
	210	土器	深鉢	D-10 D-E-10	Ⅲ	-	-	-	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕・ナデ	内)Hue5R6/6 外)Hue10R6/6	内)橙 外)明黄褐	貝殻刺突文	○	○						
	211	土器	深鉢	D-9	Ⅱc	-	-	-	貝殻条痕	ナデ・貝殻条痕	Hue5R6/6	橙	貝殻刺突文	○	○	○					
	212	土器	深鉢	D-17	Ⅳ	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	Hue5R4/6	赤褐	貝殻刺突文	○	○						
第 71 区	213	土器	深鉢	D-16 D-17	Ⅲ Ⅳ 表土	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue7.5R5/4	にぶい褐	貝殻刺突文・刺突文	○	○	○	○				
	214	土器	深鉢	D-16 D-E-16-17	Ⅲ	-	-	-	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	内)Hue5R4/6 外)Hue7.5R3/2	内)赤褐 外)黒褐	貝殻刺突文	○	○	○	○		スス付着		
	215	土器	深鉢	C-16 D-17	Ⅲ Ⅳ	-	-	-	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	内)Hue7.5R5/4 外)Hue7.5R4/2	内)にぶい褐 外)灰褐	貝殻刺突文	○	○						
	216	土器	深鉢	C-8-9 D-6 D-7	Ⅲ Ⅲ上 Ⅲb-Ⅳ	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	内)Hue7.5R6/6 外)Hue5R6/6	内)橙 外)橙	貝殻刺突文	○	○						
	217	土器	深鉢	D-17	Ⅳ	-	-	-	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕	内)Hue5R6/6 外)Hue7.5R6/6	内)橙 外)橙	貝殻刺突文	○	○						
	218	土器	深鉢	D-17	Ⅳ	-	-	-	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	Hue5R5/6	明赤褐	貝殻刺突文・刺突文	○	○						
	219	土器	深鉢	D-16	Ⅲ	-	-	-	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	内)Hue7.5R4/4 外)Hue7.5R4/3	内)褐 外)褐	貝殻刺突文	○	○	○	○				
	220	土器	深鉢	B-15	Ⅴ	-	-	-	ナデ	ケズリ後ナデ	内)Hue5R5/8 外)Hue5R5/6	内)明赤褐 外)明赤褐	貝殻刺突文・沈線文	○	○						
	221	土器	深鉢	B-8 C-7 D-8	Ⅱc上 Ⅲ上 Ⅲ	12.2	-	(5.8)	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	内)Hue5R5/4 外)Hue7.5R5/4	内)にぶい赤褐 外)にぶい褐	貝殻刺突文	○	○				波状口縁		
	222	土器	深鉢	C-7	Ⅲ	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	内)Hue5R4/2 外)Hue5R4/3	内)灰褐 外)にぶい赤褐	貝殻刺突文	○	○				波状口縁		
第 72 区	223	土器	深鉢	D-7	Ⅱc	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	Hue5R5/6	明赤褐	貝殻刺突文	○	○				波状口縁		
	224	土器	深鉢	B-16	Ⅲ	-	-	-	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕	内)Hue5R5/4 外)Hue5R3/2	内)にぶい赤褐 外)暗赤褐	貝殻刺突文	○	○						
	225	土器	深鉢	C-16	Ⅲ	-	-	-	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	Hue5R5/6	明赤褐	貝殻刺突文	○	○				波状口縁		
	226	土器	深鉢	D-17	Ⅳ	-	-	-	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	内)Hue7.5R6/6 外)Hue10R6/6	内)橙 外)明黄褐	貝殻刺突文	○	○				波状口縁、内外面スス付着		
	227	土器	深鉢	C-16	Ⅲ	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	Hue5R6/6	橙	貝殻刺突文	○	○						
	228	土器	深鉢	C-16	Ⅲ	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕・指ナデ	内)Hue5R4/6 外)Hue5R4/4	内)赤褐 外)にぶい赤褐	貝殻刺突文	○	○				波状口縁		
	229	土器	深鉢	B-16	Ⅴ	-	-	-	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕	Hue5R5/6	明赤褐	貝殻刺突文	○	○				波状口縁		
	230	土器	深鉢	C-17	Ⅳ	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕・ナデ	Hue5R4/6	赤褐	貝殻刺突文	○	○						
	231	土器	深鉢	D-17	Ⅳ	-	-	-	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	内)Hue5R5/6 外)Hue5R3/1	内)明赤褐 外)黒褐	貝殻刺突文	○	○						
	232	土器	深鉢	C-7	Ⅱc	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	Hue5R5/6	明赤褐	貝殻刺突文	○	○	○					
	233	土器	深鉢	B-16	Ⅱ	-	-	-	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	Hue5R5/6	明赤褐	貝殻刺突文	○	○				波状口縁		
	234	土器	深鉢	C-8	Ⅱc	-	-	-	ナデ	貝殻条痕	Hue5R5/6	明赤褐	貝殻刺突文	○	○						
	235	土器	深鉢	D-7	Ⅱc	-	-	-	ナデ	ナデ・指オサエ	Hue7.5R4/3	褐	貝殻刺突文	○	○						

第12表 包含層出土縄文土器観察表3

種図 No.	掲載 No.	種別	器種	分類	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整外面	調整内面	色調 (土器)	文様	胎土					備考		
														石英長石	角閃石	赤褐色小線	白磁	その他			
第73図	236	土器	深鉢	8c層	E-8	Ⅲ	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	内)Hue5YR5/6 外)Hue5YR4/3	内)明赤褐 外)にぶい赤褐	貝殻刺突文	○	○					
	237	土器	深鉢		C-D-6~8	-	-	-	-	-	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	内)Hue7.5YR5/2 外)Hue5YR5/4	内)灰褐 外)にぶい赤褐	貝殻刺突文	○	○				波状口縁
	238	土器	深鉢		C-7	Ⅲ	-	-	-	-	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	Hue2.5YR5/6	明赤褐	貝殻刺突文	○	○				波状口縁
	239	土器	深鉢		C-17	Ⅱ	-	-	-	-	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	Hue5YR5/6	明赤褐	貝殻刺突文	○	○			○	
	240	土器	深鉢		D-17	Ⅳ	-	-	-	-	ナデ	貝殻条痕後ナデ	Hue7.5YR6/6	橙	貝殻刺突文・沈線文	○	○				
	241	土器	深鉢		D-16	Ⅲ	-	-	-	-	貝殻条痕後ナデ	ナデ	内)Hue7.5YR7/6 外)Hue5YR6/6	内)橙 外)橙	貝殻刺突文	○	○				
	242	土器	深鉢		C-15	V	-	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue5YR6/6	橙		○	○				摩滅が激しい
第74図	244	土器	台付皿	8d層	D-17	Ⅳ	-	-	-	ケズリ後ナデ・ミガキ	ミガキ後ナデ	内)Hue5YR5/4 外)Hue5YR4/6	内)にぶい赤褐 外)赤褐		○	○				波状口縁	
	245	土器	台付皿		C-7	Ⅱc	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	Hue5YR4/6	赤褐		○	○					
	246	土器	台付皿		D-17	Ⅳ	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue5YR5/6	明赤褐	貝殻刺突文・沈線文	○	○				波状口縁	
	247	土器	台付皿		C-17	Ⅲ	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue5YR5/6 外)Hue2.5YR5/6	内)明赤褐 外)明赤褐		○	○					
第75図	248	土器	台付皿	9a層	D-6	Ⅱc	-	-	-	ナデ	ナデ・指オサエ	Hue5YR6/6	橙	沈線文	○	○					
	249	土器	深鉢		C-9 D-9 2T	Ⅱc Ⅲ Ⅲb上	-	-	-	-	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	内)Hue10YR6/4 外)Hue10YR3/2	内)にぶい黄橙 外)黒褐	沈線文・刺突文 磨消縄文	○	○				
	250	土器	深鉢		C-7 D-8 E-8	Ⅱc Ⅲ	-	-	-	-	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	内)Hue7.5YR4/3 外)Hue7.5YR3/2	内)褐 外)黒褐	沈線文・刺突文	○	○				○
	251	土器	深鉢		D-9	Ⅲb上	-	-	-	-	ナデ	ミガキ	Hue10YR4/2	灰黄褐	沈線文・刺突文 磨消縄文	○	○				
	252	土器	深鉢		D-7	Ⅱc Ⅲ	-	-	-	-	ナデ	ミガキ・ナデ	内)Hue7.5YR4/2 外)Hue5YR5/4	内)灰褐 外)にぶい赤褐	沈線文・刺突文	○	○				○
	253	土器	深鉢		C-7	Ⅲ	-	-	-	-	貝殻条痕後ナデ	貝殻条痕後ナデ	Hue5YR6/6	橙	沈線文	○	○				波状口縁
	254	土器	深鉢		D-8	Ⅲ	-	-	-	-	貝殻条痕・ナデ	ナデ・工具ナデ	内)Hue5YR6/6 外)Hue5YR5/4	内)橙 外)にぶい赤褐	沈線文	○	○				波状口縁
	255	土器	深鉢		D-8 E-9	Ⅲ	-	-	-	-	ナデ	ナデ・工具ナデ	内)Hue10YR6/2 外)Hue7.5YR6/3	内)灰黄褐 外)にぶい褐	沈線文	○	○				波状口縁
	256	土器	深鉢		B-16 D-18	Ⅲ 表土	-	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue5YR5/6	明赤褐	沈線文	○	○				波状口縁
	257	土器	深鉢		B-16	Ⅲ	-	-	-	-	指ナデ・ナデ	ナデ	Hue2.5YR5/6	明赤褐	沈線文	○	○				
第76図	258	土器	深鉢	9b層	D-10	Ⅲ	-	-	-	ミガキ	ミガキ	内)Hue7.5YR4/2 外)Hue7.5YR3/2	内)灰褐 外)黒褐	磨消縄文・沈線文	○	○				波状口縁	
	259	土器	深鉢		D-10	Ⅳ	-	-	-	-	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	Hue2.5YR5/4	にぶい赤褐	磨消縄文・沈線文	○	○				○
	260	土器	深鉢		D-17	Ⅳ	-	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue10YR6/4 外)Hue10YR5/3	内)にぶい黄橙 外)にぶい黄褐	磨消縄文 速点文・沈線文	○	○				○
	261	土器	深鉢		C-17	Ⅲ	-	-	-	-	貝殻条痕	ケズリ後ナデ	内)Hue7.5YR4/4 外)Hue5YR5/6	内)褐 外)明褐	磨消縄文 速点文・沈線文	○	○				○
	262	土器	深鉢		B-7	Ⅲb上	-	-	-	-	ミガキ	ミガキ後ナデ・工具ナデ	Hue7.5YR6/3	にぶい褐	磨消縄文・沈線文	○	○				
	263	土器	深鉢		C-17	V	-	-	-	-	ミガキ・ナデ	ケズリ後ミガキ	内)Hue7.5YR4/1 外)Hue7.5YR5/4	内)地灰 外)にぶい褐	磨消縄文・沈線文	○	○				○
	264	土器	深鉢		B-8	Ⅱb上	-	-	-	-	-	-	Hue7.5YR5/6	明褐	沈線文・磨消縄文	○	○				疑似縄文、 内面の剥離激しい
	265	土器	深鉢		B-8	Ⅲb上	-	-	-	-	ミガキ	ミガキ後ナデ	内)Hue7.5YR3/1 外)Hue5YR4/6	内)黒褐 外)赤褐	磨消縄文・沈線文	○	○				
第77図	266	土器	深鉢	10層	D-6	Ⅲ	-	-	-	ミガキ・ナデ	工具ナデ・ミガキ	内)Hue2.5YR5/6 外)Hue5YR3/1	内)明赤褐 外)黒褐	沈線文	○	○				波状口縁	
	267	土器	深鉢		D-6 D-7	Ⅱc Ⅲ	-	-	-	-	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	Hue5YR4/4	にぶい赤褐	沈線文	○	○				
	268	土器	深鉢		D-7	Ⅱc Ⅲb上	-	-	-	-	ミガキ後ナデ	ケズリ後ミガキ	内)Hue5YR4/1 外)Hue5YR6/6	内)地灰 外)橙	沈線文	○	○				
	269	土器	深鉢		C-16	V	-	-	-	-	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	内)Hue5YR6/6 外)Hue5YR5/6	内)橙 外)明赤褐	沈線文	○	○				波状口縁
	270	土器	深鉢		D-17 D-18	Ⅲ Ⅳ	-	-	-	-	工具ナデ・ナデ	ミガキ後工具ナデ	内)Hue10YR5/4 外)Hue7.5YR4/6	内)にぶい黄橙 外)褐	沈線文	○	○				○
	271	土器	深鉢		B-15 C-15	Ⅱ	-	-	-	-	ケズリ後ミガキ	ケズリ後ミガキ	内)Hue5YR5/6 外)Hue5YR4/4	内)明赤褐 外)にぶい赤褐		○	○				
	272	土器	深鉢		D-17	Ⅳ	-	-	-	-	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	Hue5YR6/6	橙		○	○				波状口縁
	273	土器	深鉢		D-16	Ⅲ	-	-	-	-	ミガキ	ミガキ後ナデ	内)Hue5YR5/3 外)Hue5YR5/4	内)にぶい赤褐 外)にぶい赤褐	沈線文	○	○				
	274	土器	深鉢?		D-8	Ⅲ	-	-	-	-	指ナデ・ナデ	指ナデ	内)Hue7.5YR5/4 外)Hue7.5YR4/2	内)にぶい褐 外)灰褐		○	○				年代測定 炭素同位体比率 分析資料(試料No.9)、 ヌス付着
	第78図	275	土器		深鉢	11層	C-5	Ⅲ	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue5YR5/6	明赤褐	回線文	○	○			
276		土器	深鉢	D-6	Ⅲb上		-	-	-	-	ナデ	指オサエ・ナデ	Hue2.5YR5/6	明赤褐	貝殻刺突文	○	○				
277		土器	深鉢	C-6	Ⅱc		-	-	-	-	-	-	Hue7.5YR6/4	にぶい橙	突帯文	○	○				
278		土器	台付皿	D-7	Ⅱc		-	-	-	-	-	-	Hue5YR5/6	明赤褐	刺突文	○	○				
279		土器	深鉢	C-8	Ⅲb上		-	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue7.5YR6/4 外)Hue7.5YR5/4	内)にぶい橙 外)にぶい褐	突帯文・回線文	○	○				波状口縁
280		土器	深鉢?	D-7	Ⅱc		-	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue5YR5/6	明赤褐	沈線文	○	○				
281		土器	深鉢	E-25	Ⅲ		-	-	-	-	貝殻条痕	ケズリ・ナデ	Hue2.5YR5/6	明赤褐	貝殻刺突文・貝殻押引文	○	○				
282		土器	深鉢	D-17	Ⅳ		-	-	-	-	工具ナデ後ナデ	工具ナデ後ナデ	内)Hue5YR5/8 外)Hue5YR5/6	内)明赤褐 外)明赤褐	沈線文	○	○				
第79図	283	土器	深鉢	胴部	D-16 D-17 D-18	Ⅳ	-	-	-	貝殻条痕	ナデ	内)Hue5YR5/6 外)Hue5YR3/1	内)明赤褐 外)黒褐		○	○					
	284	土器	深鉢		B-17 C-17	Ⅱ 表土	-	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	Hue2.5YR5/6	明赤褐		○	○				
	285	土器	深鉢		C-16	Ⅲ	-	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	内)Hue7.5YR4/4 外)Hue5YR3/1	内)褐 外)暗赤褐		○	○				補修孔あり
	286	土器	深鉢		C-17	Ⅱ	-	-	-	-	貝殻条痕・ナデ	貝殻条痕・ナデ	内)Hue7.5YR5/3 外)Hue5YR6/4	内)にぶい褐 外)にぶい橙		○	○				
	287	土器	深鉢		C-15	V	-	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	内)Hue5YR4/6 外)Hue7.5YR4/3	内)赤褐 外)褐		○	○				
	288	土器	深鉢		C-6	Ⅱc	-	-	-	-	貝殻条痕	ナデ・貝殻条痕	内)Hue5YR3/2 外)Hue5YR4/6	内)暗赤褐 外)赤褐		○	○				
	289	土器	深鉢		C-6・7	Ⅵ上	-	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕後工具ナデ	内)Hue5YR4/3 外)Hue5YR3/1	内)にぶい赤褐 外)黒褐		○	○				
	290	土器	深鉢		C-16	Ⅲ	-	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue7.5YR6/4	にぶい橙		○	○				摩滅が激しい
	291	土器	深鉢		C-16	Ⅱ	-	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue5YR6/6 外)Hue5YR5/6	内)橙 外)明赤褐		○	○				
	292	土器	深鉢		D-10	Ⅲa	-	-	-	-	-	指オサエ・ナデ	Hue5YR5/4	にぶい赤褐		○	○				胴代底
第80図	293	土器	内盤状土製品	内盤状土製品	D-7	Ⅱc	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	内)Hue2.5YR5/6 外)Hue2.5YR5/4	内)明赤褐 外)にぶい赤褐		○	○					
	294	土器	内盤状土製品		C-7	Ⅱc	-	-	-	-	ナデ	-	Hue5YR5/6	明赤褐	沈線文・刺突文	○	○				
第81図	295	土器	深鉢	13層	D-6 D-8	Ⅱ Ⅲ上 Ⅲ	30.2	-	(15.0)	条痕・ミガキ・ケズリ	条痕	内)Hue5YR5/4 外)Hue5YR3/1	内)にぶい赤褐 外)黒褐		○	○				波状口縁	
	296	土器	深鉢		D-16 D-17	Ⅳ 表土	-	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	内)Hue7.5YR3/2 外)Hue7.5YR2/1	内)黒褐 外)黒褐		○	○				
	297	土器	深鉢		C-16	Ⅲ	-	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue10YR7/4 外)Hue10YR6/3	内)にぶい黄橙 外)にぶい黄褐		○	○				○
	298	土器	深鉢		E-25	Ⅲ	-	-	-	-	ナデ	ナデ・ケズリ	内)Hue10YR5/3 外)Hue7.5YR6/4	内)にぶい黄橙 外)にぶい橙		○	○				
	299	土器	深鉢		E-25	Ⅲ	-	-	-	-	ナデ	貝殻条痕後ナデ	Hue10YR6/4	にぶい黄橙		○	○				
	300	土器	浅鉢		C-8	Ⅱc	-	-	-	-	ミガキ後ナデ	ミガキ	Hue7.5YR6/3	にぶい褐	沈線文	○	○				

第13表 包含層出土弥生土器観察表

種図 No.	掲載 No.	種別	器種	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整外面	調整内面	色調 (土器)	文様	胎土						備考
													石英長石	角閃石輝石	雲母	赤褐色小礫	白色礫	その他	
第82図	301	土器	甕	C-8	Ⅲ上	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue5YR4/1	褐灰	刻目突帯文	○	○	○			
	302	土器	甕	D-9	Ⅱc	-	-	-	ナデ	ナデ	内)Hue7.5YR6/6 外)Hue7.5YR6/4	内)橙 外)にぶい橙	刻目突帯文	○	○				
	303	土器	甕	D-17	Ⅳ	-	-	-	ナデ	工具ナデ	内)Hue10YR7/4 外)Hue7.5YR7/6	内)にぶい黄橙 外)橙	刻目突帯文	○	○				
	304	土器	甕	D-8	Ⅲ上	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue5YR6/4	にぶい橙	刻目突帯文	○	○				
	305	土器	甕	B-15	V	-	-	-	ケズリ・工具ナデ	ケズリ・ナデ	内)Hue7.5YR4/3 外)Hue5YR4/6	内)褐 外)赤褐	刻目突帯文	○	○	○		残存部に赤色顔料あり	
	306	土器	甕	C-9	Ⅱa	-	-	-	摩滅	摩滅	Hue10YR7/4	にぶい黄橙		○	○	○			
	307	土器	甕	B-12	I	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue5YR6/6	橙		○	○	○			
	308	土器	壺	D-7	Ⅱc	-	-	-	ナデ	ナデ・工具ナデ・ケズリ・指オサエ	Hue7.5YR5/6	明褐	沈線文	○	○	○			
	309	土器	壺	C-9	Ⅱc	-	6.0	(4.4)	指ナデ・指オサエ	指ナデ	内)Hue7.5YR6/4 外)Hue5YR5/6	にぶい黄橙 外)明赤褐		○	○	○	○		
	310	土器	壺	C-9	Ⅱ上 Ⅲ	-	-	-	ナデ	貝殻柔膜・ケズリ	Hue5YR5/6	明赤褐	沈線文	○	○	○			

第14表 包含層出土古墳土器観察表1

種図 No.	掲載 No.	種別	分類	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整外面	調整内面	色調 (土器)	文様	胎土						備考
													石英長石	角閃石輝石	雲母	赤褐色小礫	白色礫	その他	
第88図	326	土器	甕	D-7	Ⅱb	-	-	-	工具ナデ	ナデ・工具ナデ・指オサエ	Hue10YR6/4	にぶい黄橙		○	○	○		吹きこぼれ痕あり	
	327	土器	甕	C-6 C-7 D-7	Ⅱc Ⅱc上 Ⅲ上	33.4	-	(21.9)	ミガキ・指オサエ・指ナデ・工具ナデ・ナデ	ミガキ・指オサエ・指ナデ・工具ナデ・ナデ	内)Hue5YR6/6 外)Hue2.5YR5/6	内)橙 外)明赤褐		○	○			刻目突帯	
	328	土器	甕	C-6 C-7	Ⅱb Ⅱc Ⅲ上	-	-	-	指ナデ・工具ナデ・ナデ	指ナデ・工具ナデ・ナデ・指オサエ	Hue2.5YR5/6	明赤褐		○	○			刻目突帯	
	329	土器	甕	C-6	Ⅱc Ⅱc下	-	-	-	ナデ・指オサエ	指オサエ・ナデ	内)Hue2.5YR6/6 外)Hue5YR7/3	内)橙 外)にぶい橙		○	○			刻目突帯	
	330	土器	甕	D-7	Ⅱc上 Ⅱc	-	-	-	指オサエ・ナデ	指オサエ・ナデ	Hue7.5YR6/6	橙		○	○			刻目突帯	
第89図	331	土器	甕	C-6	Ⅱc	-	-	-	ハケ目・指オサエ	工具ナデ・指オサエ	Hue5YR5/6	明赤褐		○	○			刻目突帯	
	332	土器	甕	B-16 C-16 C-17	Ⅱ・Ⅲ Ⅳ Ⅴ Ⅵ Ⅶ Ⅷ Ⅷ上	-	-	-	工具ナデ・ミガキ	工具ナデ	内)Hue5YR5/6 外)Hue7.5YR5/6	内)明赤褐 外)明褐		○	○			刻目突帯	
	333	土器	甕	D-8 D-9	Ⅱa Ⅱc	-	-	-	ナデ・工具ナデ・指ナデ	指オサエ・指ナデ	内)Hue7.5YR5/1 外)Hue5YR5/6	内)褐灰 外)明赤褐		○	○		○	刻目突帯	
	334	土器	甕	D-7	Ⅱc	-	-	-	ナデ・工具ナデ	指オサエ・ナデ	内)Hue7.5YR6/6 外)Hue10YR6/4	内)橙 外)にぶい黄橙		○	○			刻目突帯	
第90図	335	土器	甕	D-7	Ⅱc	-	-	-	ナデ・工具ナデ・指ナデ	指オサエ・ナデ・工具ナデ	内)Hue5YR5/6 外)Hue7.5YR6/4	内)明赤褐 外)にぶい橙		○	○			刻目突帯、スス付着	
	336	土器	甕	C-6 C-7	Ⅱc Ⅲ上	-	-	-	指オサエ・工具ナデ・ナデ	指オサエ・工具ナデ	内)Hue10YR6/6 外)Hue10YR5/6	内)明黄褐 外)黄褐		○	○			刻目突帯、スス付着	
	337	土器	甕	D-7	Ⅱb Ⅱc上	-	-	-	ナデ	指ナデ・ナデ・指オサエ	内)Hue5YR5/6 外)Hue2.5YR5/6	内)明赤褐 外)明赤褐		○	○			刻目突帯 残存部に赤色顔料あり	
第91図	338	土器	甕	D-18	Ⅲ	-	-	-	ナデ	工具ナデ	内)Hue5YR5/6 外)Hue2.5YR5/6	内)明赤褐 外)明赤褐		○	○	○		刻目突帯、スス付着	
	339	土器	甕	C-17	Ⅲ	-	-	-	ハケ目	工具ナデ	内)Hue10YR5/4 外)Hue7.5YR6/4	内)にぶい黄橙 外)にぶい橙		○	○	○			
	340	土器	甕	D-6 D-7	Ⅱc	15.6	-	(4.6)	ハケ目・指ナデ	ハケ目・工具ナデ	Hue10YR7/4	にぶい黄橙		○	○			スス付着	
	341	土器	甕	D-6	Ⅱ上 Ⅲ	-	-	-	ハケ目・指オサエ	ハケ目・ナデ・指オサエ	内)Hue10YR7/4 外)Hue10YR5/3	内)にぶい黄橙 外)にぶい黄橙		○	○		○	スス付着	
	342	土器	甕	D-7 D-8	Ⅱb Ⅱc	21.0	-	(12.1)	指ナデ・工具ナデ・指オサエ	ナデ・工具ナデ・指オサエ	内)Hue7.5YR5/6 外)Hue5YR4/4	内)明褐 外)にぶい赤褐		○	○			刻目突帯	
第92図	343	土器	甕	D-8	Ⅱc Ⅲ上 Ⅲ	-	4.0	(21.6)	指オサエ・指ナデ・工具ナデ	指ナデ・ナデ	内)Hue10YR5/3 外)Hue5YR6/4	内)にぶい黄橙 外)にぶい橙		○	○			刻目突帯	
	344	土器	甕	D-17	Ⅲ・Ⅳ Ⅴ Ⅵ Ⅶ Ⅷ Ⅷ上	-	4.8	(8.5)	工具ナデ	工具ナデ	内)Hue5YR6/6 外)Hue2.5YR6/6	内)橙 外)橙		○	○			植物茎?圧痕あり	
	345	土器	甕	C-6	Ⅱc	-	7.1	(5.2)	工具ナデ・指オサエ	指ナデ	内)Hue7.5YR5/3 外)Hue2.5YR5/4	内)にぶい黄橙 外)にぶい赤褐		○	○				
	346	土器	甕	B-7 C-6 C-7	Ⅱc上 Ⅱc Ⅲ上	-	7.0	(11.7)	工具ナデ・指ナデ	工具ナデ・指ナデ	内)Hue10YR5/3 外)Hue2.5YR5/4	内)にぶい黄橙 外)にぶい黄橙		○	○				
	347	土器	甕	C-6	Ⅱc	-	7.3	(8.1)	工具ナデ・ナデ	指ナデ	内)Hue10YR6/4 外)Hue5YR6/6	内)にぶい黄橙 外)橙		○	○		○		
	348	土器	甕	D-6 D-7	Ⅱb Ⅱc	-	7.0	(8.6)	工具ナデ・指ナデ・指オサエ	指ナデ・指オサエ	Hue7.5Y5/4	にぶい橙		○	○				
	349	土器	甕	D-7	Ⅱc	-	5.7	(7.4)	工具ナデ・ナデ・指オサエ	指ナデ・指オサエ	内)Hue10YR5/4 外)Hue7.5YR6/6	内)にぶい黄橙 外)にぶい黄橙		○	○				
	350	土器	甕	C-16~18 D-17	Ⅲ・Ⅳ Ⅴ Ⅵ Ⅶ Ⅷ Ⅷ上	-	6.4	(3.6)	ナデ・指オサエ	工具ナデ	内)Hue7.5YR5/3 外)Hue5YR5/4	内)にぶい黄橙 外)にぶい赤褐		○	○			植物茎?圧痕あり	
	351	土器	甕	C-16	Ⅲ	-	6.5	(3.2)	指ナデ	指ナデ	内)Hue7.5YR6/6 外)Hue7.5YR6/4	内)橙 外)にぶい橙		○	○				
	352	土器	甕	D-10 (トレンチ)	Ⅳ	-	-	-	指ナデ・ミガキ	ナデ	内)Hue10YR6/3 外)Hue2.5YR5/4	内)にぶい黄橙 外)にぶい黄橙		○	○				
	353	土器	甕	C-6	Ⅱc	-	6.6	(3.3)	工具ナデ・指オサエ	-	内)Hue10YR8/4 外)Hue5YR6/6	内)浅黄褐 外)橙		○	○				
	354	土器	甕	C-8	Ⅲ	7.8	-	(3.0)	ミガキ・ナデ・指オサエ	ナデ・ミガキ・工具ナデ	内)Hue5YR7/8 外)Hue10YR7/4	内)橙 外)にぶい黄橙		○	○	○			
	355	土器	甕	C-6	Ⅱc	-	-	-	指ナデ後工具ナデ	指ナデ・ナデ	内)Hue2.5Y5/1 外)Hue10YR7/4	内)黄灰 外)にぶい黄橙		○	○	○			
	第93図	356	土器	壺	C-9 D-9 D-7	Ⅱ上 Ⅱc	14.0	-	(20.0)	ミガキ後ナデ・工具ナデ・指ナデ	ミガキ後工具ナデ・ナデ	内)Hue5YR6/6 外)Hue5YR5/6	内)橙 外)明赤褐		○	○	○		刻目突帯 381と同一個体の可能性あり
357		土器	壺	D-4・5 D-7	Ⅱc	17.1	-	(7.0)	ミガキ後工具ナデ	ミガキ後工具ナデ	Hue10YR7/6	明黄褐		○	○	○		刻目突帯	
358		土器	壺	C-6 C-5	Ⅱc上	-	-	-	指ナデ・ナデ	工具ナデ・指ナデ	Hue2.5YR7/6	橙		○	○	○		刻目突帯	
359		土器	壺	D-6 D-7	Ⅱ上 Ⅱc	-	-	-	ナデ・工具ナデ・ミガキ	ナデ・工具ナデ・ミガキ・指オサエ	内)Hue10YR7/4 外)Hue10YR7/6	内)にぶい黄橙 外)明黄褐		○	○	○		刻目突帯	
360		土器	壺	D-10 D-E-10	Ⅱa Ⅲ	-	-	-	指ナデ	指ナデ・ナデ	Hue7.5YR6/6	橙		○	○	○		摩滅激しい	
361		土器	壺	C-6 C-7	Ⅱc	-	-	-	工具ナデ・指オサエ	工具ナデ	内)Hue10YR6/2 外)Hue10YR7/4	内)灰黄褐 外)にぶい黄橙		○	○	○			
第94図	362	土器	壺	C-6 C-7	Ⅱc	-	-	-	指ナデ・工具ナデ	ナデ・工具ナデ・指ナデ・指オサエ	内)Hue10YR7/3 外)Hue10YR7/6	内)にぶい黄橙 外)明黄褐		○	○	○	○	二重口縁壺	
	363	土器	壺	C-6	Ⅱc	14.5	-	(7.6)	ミガキ後ナデ・指ナデ	工具ナデ・指ナデ・指オサエ	内)Hue10YR6/4 外)Hue10YR7/6	内)にぶい黄橙 外)明黄褐		○	○	○	○	内面スス付着、二重口縁壺	
	364	土器	壺	C-6	Ⅱc	-	-	-	ミガキ後ナデ・指ナデ	工具ナデ・指ナデ・指オサエ	内)Hue10YR7/4 外)Hue5YR7/6	内)にぶい黄橙 外)橙		○	○	○		二重口縁壺	
第95図	365	土器	壺	D-7	Ⅱc	-	-	-	工具ナデ・ナデ	工具ナデ・ナデ	内)Hue10YR7/4 外)Hue10YR7/6	内)にぶい黄橙 外)明黄褐		○	○	○	○	刻目突帯	
	366	土器	壺	C-6 C-7	Ⅱc	-	-	-	ナデ	ナデ・工具ナデ	Hue10YR7/4	にぶい黄橙		○	○			刻目突帯	
	367	土器	壺	C-16 C-17	Ⅱ	-	-	-	ナデ	指オサエ・工具ナデ	内)Hue7.5YR6/6 外)Hue7.5YR6/4	内)橙 外)にぶい橙		○	○			刻目突帯	
	368	土器	壺	B-C-16	Ⅱ	-	-	-	ミガキ・ナデ	ナデ・指オサエ	内)Hue5YR6/6 外)Hue7.5YR6/4	内)橙 外)にぶい橙		○	○			刻目突帯	
	369	土器	壺	C-6	Ⅱc	-	-	-	ナデ	ナデ・指オサエ	Hue5YR7/6	橙		○	○	○		刻目突帯、摩滅激しい	
	370	土器	壺	C-7	Ⅱc	-	-	-	工具ナデ・ナデ・指オサエ	工具ナデ・ナデ・指オサエ	内)Hue10YR6/4 外)Hue7.5YR6/4	内)にぶい黄橙 外)にぶい橙		○	○	○		刻目突帯	
	371	土器	壺	D-8	Ⅱc上 Ⅱc	-	-	-	ミガキ後指ナデ	指ナデ・工具ナデ	Hue5YR7/6	橙		○	○	○		376と同一個体の可能性あり	
	372	土器	壺	B-C-16	Ⅱ	-	-	-	ミガキ後工具ナデ	工具ナデ	内)Hue7.5YR6/4 外)Hue5YR5/4	内)にぶい黄橙 外)にぶい赤褐		○	○	○			
	373	土器	壺	C-6 C-7	Ⅱc上 Ⅱc	-	-	-	ミガキ後ナデ・指ナデ・ナデ	工具ナデ・指オサエ・ナデ	内)Hue7.5YR5/3 外)Hue7.5YR7/6	内)にぶい黄橙 外)橙		○	○	○			
	374	土器	壺	B-C-6 C-6	Ⅱc	-	-	-	ミガキ後ナデ	工具ナデ・指オサエ・ナデ	内)Hue10YR7/4 外)Hue10YR7/6	内)にぶい黄橙 外)明黄褐		○	○	○			
375	土器	壺	C-16 C-17	Ⅱ Ⅳ	-	-	-	ミガキ・工具ナデ	工具ナデ	内)Hue7.5YR6/4 外)Hue7.5YR5/4	内)にぶい黄橙 外)にぶい橙		○	○					
376	土器	壺	D-7 D-8	Ⅱb下 Ⅱc上 Ⅱc	-	-	-	ミガキ後ナデ	工具ナデ・ナデ・指オサエ	内)Hue5YR7/6 外)Hue7.5YR7/4	内)橙 外)にぶい橙		○	○			371と同一個体の可能性あり		

第 15 表 包含層出土古墳土器観察表 2

神図 No.	掲載 No.	種別	器種	分類	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整外面	調整内面	色調 (土器)		胎土					備考			
												内)	外)	石英長石	角閃石	輝石	炭母	赤褐色小礫		白色炭	その他	
第 96 図	377	土器	壺	C-6-7 D-9	IIc	2.8	-	(4.1)	ケズリ・指ナデ	指ナデ	内)Hue5YR6/4 外)Hue7.5YR7/4	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	中津野式		
	378	土器	壺	C-6-7 D-8	IIc III上	-	-	-	工具ナデ・指オサエ・指ナデ	工具ナデ・指オサエ・指ナデ	Hue7.5YR6/6	橙	○	○	○	○	○	○	○			
	379	土器	壺	D-7	IIc	-	1.0	(9.6)	工具ナデ・ナデ	工具ナデ・ナデ・指オサエ	内)Hue10YR6/4 外)Hue7.5YR7/4	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○			
	380	土器	壺	D-7 D-8 D-10	IIc上 IIc III	-	1.5	(6.3)	指オサエ・指ナデ・ナデ	工具ナデ・指オサエ	内)Hue5YR6/4 外)Hue7.5YR6/4	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
	381	土器	壺	C-9 D-9	IIb IIc	-	1.1	(8.7)	ミガキ・ナデ	ナデ	内)Hue7.5YR7/4 外)Hue7.5YR6/4	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	356 と同一個体の可能性あり	
	382	土器	壺	D-8 D-9 2T	IIb IIc	-	-	-	ミガキ・ナデ	工具ナデ・ナデ・指オサエ	内)Hue5YR7/6 外)Hue5YR6/6	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
第 97 図	383	土器	高坏	口縁部 1類	C-6 C-D-5	IIc	16.0	-	(4.9)	ナデ	ミガキ後工具ナデ・指オサエ	内)Hue10YR7/4 外)Hue7.5YR7/6	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○		
	384	土器	高坏	口縁部 1類	C-D-6	-	-	-	-	ミガキ後ナデ	ミガキ後工具ナデ・指オサエ	内)Hue10YR7/4 外)Hue7.5YR7/6	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○		
	385	土器	高坏	口縁部 2類	D-6-7	IIc	-	-	-	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	内)Hue2.5YR5/1 外)Hue10YR6/3	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○		
	386	土器	高坏	口縁部 2類	C-6 D-6-7	IIb IIc上 IIc	22.0	-	(5.8)	ミガキ後工具ナデ	工具ナデ	内)Hue10YR7/4 外)Hue10YR7/6	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○		
	387	土器	高坏	口縁部 2類	D-4-5 D-6-7	IIc上 IIc	19.1	-	(5.0)	ミガキ・ナデ	ミガキ・ナデ	内)Hue10YR6/2 外)Hue5Y6/6	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○		
	388	土器	高坏	口縁部 2類	D-6-7	IIc上	-	-	-	ミガキ・ナデ	ミガキ	Hue10YR7/4	にぶい	○	○	○	○	○	○	○		
	389	土器	高坏	口縁部 2類	C-17	II	-	-	-	ナデ	工具ナデ・ナデ	Hue7.5YR7/6	橙	○	○	○	○	○	○	○	摩滅激しい	
	390	土器	高坏	口縁部 2類	C-17	表土	-	-	-	工具ナデ・指ナデ	工具ナデ・指ナデ	内)Hue7.5YR7/4 外)Hue10YR6/4	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	摩滅激しい
	391	土器	高坏	口縁部 2類	C-17	II	-	-	-	回転ナデ・ナデ	-	内)Hue10YR3/1 外)Hue7.5YR7/6	内)黒 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	摩滅激しい
	392	土器	高坏	口縁部 2類	D-17	IV	-	-	-	回転ナデ・ヘラナデ	-	内)Hue10YR3/1 外)Hue10YR7/6	内)黒 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	
	393	土器	高坏	口縁部 2類	2T	III	-	-	-	回転ナデ・ナデ	-	内)Hue10YR6/2 外)Hue7.5YR6/6	内)黄 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	
	394	土器	高坏	口縁部 3類	D-7	IIc	-	-	-	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	Hue7.5YR6/6	橙	○	○	○	○	○	○	○		
	395	土器	高坏	脚部 1類	C-7	IIc	-	-	-	ミガキ後ナデ	指ナデ・指オサエ	内)Hue10YR6/4 外)Hue10YR6/6	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	
	396	土器	高坏	脚部 1類	C-17	II	-	-	-	ナデ・指ナデ・ミガキ	ナデ	内)Hue10YR8/4 外)Hue5YR7/6	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	脚内面 内黒
397	土器	高坏	脚部 1類	C-16	II III	-	-	-	工具ナデ・指ナデ	ナデ	内)Hue7.5YR7/4 外)Hue7.5YR7/6	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
398	土器	高坏	脚部 2類	D-6 D-7 D-8	IIa IIc	-	-	-	ミガキ後ナデ・工具ナデ	(環部)ミガキ後工具ナデ (脚部)ケズリ後指ナデ・工具ナデ	環部内)Hue10YR7/4 環部外)Hue5YR6/6 脚部内)Hue10YR6/2 脚部外)Hue10YR5/2	環部内)にぶい 環部外)にぶい 脚部内)にぶい 脚部外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
399	土器	高坏	脚部 2類	C-6 C-7	IIc	-	-	-	ミガキ後ナデ	(環部)ミガキ後工具ナデ (脚部)指ナデ	内)Hue10YR7/4 外)Hue5YR6/6	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
400	土器	高坏	脚部 2類	D-4-5 D-6-7 D-8	IIb IIc上 IIc	-	22.0	(11.8)	ミガキ後ナデ・工具ナデ	ミガキ後工具ナデ・ケズリ・ナデ・指オサエ	内)Hue7.5Y4/1 外)Hue10YR7/4	内)地灰 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
401	土器	高坏	脚部 2類	D-6-7	IIc上	-	-	-	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	内)Hue10YR6/3 外)Hue10YR7/3	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
402	土器	高坏	脚部 2類	D-6-7	IIc上 IIc	-	-	-	ミガキ後工具ナデ	ミガキ・工具ナデ	内)Hue10YR6/2 外)Hue10YR7/4	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
403	土器	高坏	脚部 2類	D-6-7	IIc上	-	-	-	ミガキ後工具ナデ	ミガキ後工具ナデ	内)Hue10YR5/2 外)Hue10YR7/4	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
404	土器	高坏	脚部 3類	C-7 D-7	IIc	-	-	-	ミガキ後ナデ・ナデ	ナデ・指ナデ	Hue10YR7/4	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	摩滅激しい	
405	土器	高坏	脚部 3類	C-7	IIc	-	-	-	ミガキ後ナデ	ナデ	内)Hue5Y7/2 外)Hue5YR7/6	内)明地灰 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	○	摩滅激しい
406	土器	高坏	脚部 3類	D-6	IIc	-	-	-	ミガキ後ナデ	ナデ・工具ナデ・ミガキ	環部内)Hue7.5Y4/1 脚部内)Hue10YR7/4 外)Hue10YR6/6	環部内)地灰 脚部内)にぶい 外)明地灰	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
407	土器	高坏	脚部 3類	B-16 C-16	III V	-	-	-	ミガキ後工具ナデ・指ナデ	工具ナデ・指ナデ	内)Hue10YR6/3 外)Hue10YR6/6	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
408	土器	模倣坏	脚部 3類	C-7	IIc	-	-	-	ナデ・ミガキ後工具ナデ	ミガキ後工具ナデ・ナデ	内)Hue10YR6/4 外)Hue10YR6/6	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
409	土器	模倣坏	脚部 3類	C-7	IIc	-	-	-	ミガキ後ナデ	ミガキ後ナデ	内)Hue10YR6/3 外)Hue10YR6/6	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
410	土器	鉢	小型鉢	C-9 D-9	IIc	-	-	-	ミガキ・工具ナデ	ミガキ・工具ナデ	内)Hue10YR4/1 外)Hue10YR5/4	内)地灰 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
411	土器	鉢	小型鉢	C-9	IIc	-	-	-	工具ナデ・ミガキ	工具ナデ・ミガキ	内)Hue10YR4/1 外)Hue7.5YR6/6	内)地灰 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
412	土器	埴	埴	C-7	IIc	-	-	-	ナデ	指オサエ・ナデ	内)Hue10YR7/2 外)Hue10YR7/6	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	やや摩滅	
413	土器	埴	埴	C-6 C-7	IIb IIc	-	-	-	指ナデ・ナデ	ミガキ・ナデ・指ナデ	内)Hue7.5YR6/4 外)Hue10YR6/4	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
414	土器	埴	埴	C-6 C-7	IIc III上 III	-	2.5	(3.4)	指ナデ・ナデ	指ナデ・工具ナデ	Hue7.5YR7/4	にぶい	○	○	○	○	○	○	○			
415	土器	埴	埴	C-9	IIb	-	-	-	工具ナデ	指ナデ	Hue10YR7/3	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○	内面摩滅激しい	
416	土器	埴	埴	D-8	IIc上 IIc	-	2.5	(2.8)	ナデ	-	Hue10Y6/4	橙	○	○	○	○	○	○	○	○	内外面摩滅激しい	
417	土器	小型鉢	小型鉢	B-16	V	6.4	2.4	4.6	指ナデ・ナデ	ナデ	Hue7.5YR7/6	橙	○	○	○	○	○	○	○	○		
418	土器	小型壺	小型壺	2T	III	-	-	-	指ナデ	工具ナデ	Hue7.5YR7/4	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
419	土器	小型壺	小型壺	C-7	III	5.1	-	(4.0)	ミガキ・ナデ	工具ナデ・ナデ	内)Hue10YR7/3 外)Hue7.5YR7/6	内)にぶい 外)にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
420	土器	小型壺	小型壺	C-8	IIa	-	-	-	ナデ	指オサエ・ナデ	Hue7.5YR5/4	にぶい	○	○	○	○	○	○	○	○		
421	土器	埴	埴	C-6	IIc	-	-	-	ミガキ・ナデ	指ナデ・ナデ	Hue7.5YR7/6	橙	○	○	○	○	○	○	○	○		

第 16 表 包含層出土古代土器観察表 1

神図 No.	掲載 No.	種別	器種	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整外面	調整内面	色調 (土器)		備考
											内)	外)	
第 102 図	423	土師器	甕	B-17 C-16-17	II	28.0	-	(10.6)	工具ナデ・ナデ	ケズリ・ナデ	内)Hue7.5YR6/6 外)Hue5YR6/6	内)にぶい 外)にぶい	
	424	土師器	甕	C-17	II	-	-	-	ナデ	ナデ・ケズリ	内)Hue10YR7/4 外)Hue7.5YR6/6	内)にぶい 外)にぶい	頭部に工具を押し当てた文様
	425	土師器	甕	C-16	III	-	-	-	ハケ目	ケズリ	内)Hue7.5YR7/4 外)Hue7.5YR6/4	内)にぶい 外)にぶい	
	426	土師器	埴	C-17	IV	-	8.2	(3.7)	工具ナデ・ナデ	工具ナデ	内)Hue10YR8/3 外)Hue10YR7/3	内)にぶい 外)にぶい	充実高台・ヘラ切り底
	427	土師器	埴	B-17	-	-	8.0	(2.0)	ナデ	-	Hue7.5YR7/6	橙	
	428	土師器	坏	D-7	IIb	10.8	-	(3.3)	工具ナデ	工具ナデ	Hue5YR7/4	にぶい	ス付着
	429	土師器	坏	B-17	表土	-	8.4	(1.8)	ヘラケズリ	ヘラケズリ	Hue7.5YR7/6	橙	ヘラ切り底
	430	土師器	小坏	C-16-17 D-17-18	表土	6.5	4.9	2.1	ナデ	ナデ	Hue2.5YR7/4	淡赤橙	ヘラ切り底
	431	土師器	小坏	C-17	表土	8.0	6.0	1.8	回転ヘラケズリ	回転ヘラケズリ	Hue5YR7/6	橙	ヘラ切り底

第 17 表 包含層出土古代土器観察表 2

押図 No.	掲載 No.	種別	器種	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整外面	調整内面	色調 (土器)		備考
第 102 図	432	土師器	皿	C-6-7	II b	-	-	-	回転ナデ	回転ナデ	Hue10YR8/3	浅黄橙	
	433	土師器	皿	C-6	II c	-	-	-	-	回転ナデ	内) Hue10YR5/2 外) Hue10YR7/2	内) 灰黄褐 外) にぶい黄橙	
	434	土師器	皿	C-16-17	-	-	7.8	(1.8)	ナデ	ナデ	Hue5YR7/6	橙	
	435	土師器	皿	D-17-18	表土	-	6.0	(1.2)	-	回転ナデ	Hue10YR6/4	にぶい黄橙	ヘラ切り底
	436	土師器	皿	D-4-5	II b	-	-	-	ナデ	ミガキ	内) HueN3/ 外) Hue7.5YR7/4	内) 暗灰 外) にぶい橙	内黒
	437	須恵器	甕	D-9	II a	-	-	-	平行タタキ・ハケ目	当て具痕	Hue2.5Y6/1	黄灰	
	438	製塩土器		C-6-7	II a	-	-	-	指オサエ	布目痕	Hue7.5YR5/2	灰褐	
439	製塩土器		C-7	II	-	-	-	指オサエ	布目痕	Hue5YR6/6	橙		

第 18 表 包含層出土中世土器観察表 1

押図 No.	掲載 No.	種別	器種	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整外面	調整内面	色調 (土器)		備考
第 108 図	452	土師器	坏	D-17	-	14.1	10.2	3.1	ナデ	ナデ	内) Hue7.5YR8/4 外) Hue7.5YR8/2	内) 浅黄橙 外) 灰白	糸切り底
	453	土師器	坏	D-6	I b	10.1	7.3	3.2	工具ナデ	工具ナデ	Hue5YR6/6	橙	糸切り底 口縁端部に沈線あり
	454	土師器	坏	C-7 D-4-5	II a II b	11.6	9.0	3.5	ナデ	ナデ	Hue10YR7/3	にぶい黄橙	糸切り底
	455	土師器	坏	C-7	II b上	12.8	10.6	3.4	ナデ・指オサエ	ナデ	Hue7.5YR7/4	にぶい橙	糸切り底
	456	土師器	坏	C-17	表土	-	-	-	ヘラナデ	回転ヘラナデ	Hue5YR7/6	橙	ヘラ切り底
	457	土師器	坏	D-6	II a	13.3	9.5	2.6	ナデ	指オサエ・ナデ	Hue10YR7/3	にぶい黄橙	手捏ね成形
	458	土師器	坏	D-7	II b	13.6	11.8	3.3	工具ナデ 底部に工具痕・ナデ消し	工具ナデ	Hue7.5YR7/4	にぶい橙	
	459	土師器	坏	D-10 (トレンチ)	III	12.0	6.0	2.7	指ナデ	指ナデ	Hue7.5YR6/4	にぶい橙	口唇部に沈線あり
	460	土師器	坏	D-7	II	11.8	-	(2.9)	工具ナデ	工具ナデ	Hue10YR8/4	浅黄橙	
	461	土師器	坏	D-9	II a	10.8	-	(2.6)	工具ナデ・一部指ナデ	工具ナデ	Hue7.5YR7/6	橙	埋没後の変色の可能性が高い 口唇部に沈線あり
	462	土師器	坏	D-8	II b II c	-	6.4	(2.0)	底部に工具痕	見込) 指ナデ	Hue7.5YR7/4	にぶい橙	スス付着
	463	土師器	坏	C-6	II b上	-	7.1	(2.0)	ナデ 底部に工具痕・ナデ消し	ナデ	Hue7.5YR7/4	にぶい橙	
	464	土師器	坏	C-11	I b	-	7.6	(2.1)	ナデ 底部に工具痕・ナデ消し	ナデ	内) Hue10R4/6 外) Hue5YR6/6	内) 赤 外) 橙	
	465	土師器	坏	D-7	II c	-	6.2	(2.2)	指ナデ 底部に工具痕・ナデ消し	指ナデ	内) Hue10YR7/4 外) Hue10YR6/4	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	
	466	土師器	坏	D-9	II c	-	6.2	(1.1)	底部に工具痕・ナデ消し	指ナデ	内) Hue10YR7/4 外) Hue10YR5/4	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	
	467	土師器	坏	C-7	II b上	-	8.2	(2.6)	工具ナデ 底部に工具痕・ナデ消し	工具ナデ	Hue5YR6/6	橙	
	第 109 図	468	土師器	皿	D-6-7	II b	9.8	8.0	(1.7)	工具ナデ	工具ナデ	内) Hue7.5YR7/4 外) Hue10YR6/2	内) にぶい橙 外) 灰黄褐
469		土師器	皿	D-7	II b	9.6	5.2	1.6	ナデ	ナデ	Hue5YR7/6	橙	ヘラ切り底
470		土師器	皿	C-7	II a	16.8	10.7	(2.1)	ナデ・底部ナデ消し	ナデ	Hue5YR7/4	にぶい橙	
471		土師器	皿	D-6-7	II b	7.2	5.0	1.9	工具ナデ	見込) 渦巻状の調整痕 工具ナデ	Hue7.5YR7/4	にぶい橙	ヘラ切り底
472		土師器	皿	C-17	表土	8.0	5.9	1.7	ナデ・底部ナデ消し	ナデ	Hue5YR7/6	橙	
473		土師器	皿	D-7	II b上	6.4	4.0	1.8	工具ナデ	工具ナデ	Hue7.5YR7/4	にぶい橙	ヘラ切り底
474		土師器	皿	D-7	II c上	7.4	4.0	1.8	ナデ 底部に工具痕・底部端のナデ面取り	ナデ	Hue10YR7/3	にぶい黄橙	
475		土師器	皿	D-8	II b	6.4	4.8	1.7	工具ナデ 底部に工具痕・底部端のナデ面取り	工具ナデ	Hue7.5YR7/4	にぶい橙	
476		土師器	皿	C-8	II b	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue10YR6/3	にぶい黄橙	ヘラ切り底・底部に沈線あり 耳直の可能性あり
477		土師器	皿	D-17-18	表土	6.2	4.6	1.5	回転ヘラケズリ・底部ナデ消し	回転ヘラケズリ	Hue10YR7/4	にぶい黄橙	
478		土師器	皿	D-8	II b	7.7	6.0	1.9	ナデ	ナデ	Hue5YR6/6	橙	糸切り底
479		土師器	皿	C-16-17	-	8.0	5.8	1.9	工具ナデ	工具ナデ	Hue5YR7/6	橙	糸切り底
480		土師器	皿	C-16 ~ 18	表土	4.3	3.3	1.9	回転ヘラナデ・底部ナデ消し	回転ヘラナデ	Hue7.5YR6/4	にぶい橙	
481		土師器	皿	2T	III	8.1	5.7	2.0	回転ヘラナデ	回転ヘラナデ	Hue7.5YR7/6	橙	糸切り底
482		土師器	皿	D-8	II b	6.4	5.4	2.2	ナデ	ナデ	Hue5YR6/6	橙	糸切り底
483		土師器	皿	C-8	II b	7.0	5.2	2.0	ナデ	ナデ	Hue5YR7/6	橙	ヘラ切り底
484		土師器	皿	B-8	II b	7.6	6.2	1.6	ナデ・底部端のナデ面取り	ナデ	Hue7.5YR6/4	にぶい橙	ヘラ切り底・底部に沈線あり
485	土師器	皿	C-7	II b	6.4	4.8	1.9	ナデ・底部に工具痕・ナデ消し	ナデ	内) Hue7.5YR6/6 外) Hue7.5YR7/4	内) 橙 外) にぶい橙	外面に沈線あり	
486	土師器	皿	D-4-5	II b	8.8	6.4	2.3	ナデ・腰部のケズリ面取り	ナデ	Hue7.5YR6/4	にぶい橙	ヘラ切り底	
487	土師器	皿	C-7	II a	6.4	4.1	1.8	ナデ・底部ナデ消し	ナデ	Hue5YR6/8	橙		
488	土師器	皿	D-10	II b上	7.0	4.8	1.9	ナデ	ナデ	Hue7.5YR7/4	にぶい橙	ヘラ切り底	
489	土師器	皿	C-6-7	II b	7.2	4.0	1.7	工具ナデ	指ナデ・工具ナデ	Hue7.5YR8/2	灰白	糸切り底	
第 110 図	490	土師器	皿	C-7	II b	8.0	5.4	1.8	工具ナデ・腰部のナデ面取り	工具ナデ	Hue7.5YR7/3	にぶい橙	糸切り底
	491	土師器	皿	D-10	III上	5.2	3.8	1.5	ナデ	ナデ	内) Hue10YR7/3 外) Hue7.5YR7/4	内) にぶい黄橙 外) にぶい橙	糸切り底
	492	土師器	皿	C-6	II c	9.2	6.6	1.9	ナデ・腰部のケズリ面取り	ナデ	内) Hue10YR7/4 外) Hue5YR7/6	内) にぶい黄橙 外) 橙	ヘラ切り底
	493	土師器	灯明皿	C-8	II b	-	-	-	ナデ	ナデ	Hue5YR7/4	にぶい橙	ヘラ切り底・スス付着

第 19 表 包含層出土中世土器観察表 2

押図 No.	掲載 No.	種別	器種	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整外面	調整内面	色調 (土器)		備考
第 110 図	494	土師器	皿	C-7	II a	7.1	4.2	1.6	工具ナデ 底部に工具痕・腰部のナデ面取り	工具ナデ・指オサエ	Hue5YR7/6	橙	
	495	土師器	皿	C-6-7	II a	8.6	5.6	1.4	工具ナデ・指オサエ 底部に工具痕・腰部のナデ面取り	工具ナデ・指オサエ	Hue7.5YR7/4	にぶい橙	
	496	土師器	皿	C-8	II c	-	-	-	指オサエ	指オサエ	Hue10YR6/4	にぶい黄橙	手捏ね成形
	497	土師器	皿	D-8	II b上	-	5.2	(1.3)	ヘラナデ	指ナデ	Hue7.5YR6/4	にぶい橙	ヘラ切り底
	498	土師器	皿	C-7	II a	-	5.0	(1.5)	工具ナデ 底部に工具痕・腰部のナデ面取り	工具ナデ	Hue7.5YR7/4	にぶい橙	
	499	土師器	皿	C-6-7	II b	7.9	6.6	1.5	工具ナデ 底部に工具痕・腰部のナデ面取り	工具ナデ	Hue7.5YR8/3	浅黄橙	
	500	土師器	皿	C-8	II c	-	3.6	(0.8)	底部と見込みに工具痕・工具ナデ 指オサエ	工具ナデ	内)Hue10YR5/2 外)Hue10YR6/4	内) 灰黄褐 外) にぶい黄橙	
	501	土師器	皿	D-17	-	-	-	-	-	指オサエ	Hue10YR8/3	浅黄橙	糸切り底
第 111 図	502	須恵器	鉢	C-7	II b	-	-	-	-	-	Hue2.5Y6/2 (口縁外面のみ) Hue5Y4/1	灰黄 (口縁外面のみ) 灰	東播系
	503	須恵器	鉢	D-E-10	I	-	-	-	-	-	Hue10Y5/1	褐灰	東播系
	504	須恵器	鉢	D-4-5 D-6-7	II a II b II c	-	-	-	-	-	Hue10YR5/1	褐灰	
	505	瓦質土器	甕	C-7	II b	-	-	-	平行タタキ	ナデ・当て具痕?	内)Hue2.5Y6/2 外)Hue2.5Y7/2	内) 灰黄 外) 灰黄	
	506	瓦質土器	甕	C-7	II b II c上	-	-	-	平行タタキ	ナデ・指オサエ	Hue2.5Y5/1	黄灰	
	507	瓦質土器	甕	C-7 D-8	II b上 II c	-	-	-	平行タタキ	工具ナデ・ナデ	Hue7.5YR5/4	にぶい褐	
	508	瓦質土器	甕	D-6-7	II a	-	13.6	(1.1)	ケズリ	工具ナデ・ハケ目	内)Hue5Y4/1 外)Hue10YR3/1	内) 灰 外) 黒褐	スス附着
	509	瓦質土器	播鉢	C-9	II b	-	-	-	-	ナデ・櫛目	Hue2.5Y5/1	黄灰	
	510	瓦質土器	播鉢	C-8 D-6	I b・II a II b	-	-	-	-	ナデ・櫛目	内)Hue10YR7/3 外)Hue10YR7/4	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	
	511	瓦質土器	鉢	D-8	II b	-	-	-	-	ハケ目	Hue2.5Y8/2	灰白	播鉢の可能性あり
	512	瓦質土器	湯釜	C-7	II b上	-	-	-	-	ハケ目	内)Hue2.5Y4/1 外)Hue2.5Y5/2	内) 黄灰 外) 暗灰黄	
	513	瓦質土器	湯釜	B-C-15	表採	-	-	-	指ナデ・指オサエ	ナデ	内)Hue7.5YR6/6 外)Hue5YR6/6	内) 橙 外) 橙	
	514	瓦質土器	火鉢	D-5-6	II a	-	-	-	-	-	Hue10YR4/1	褐灰	
	515	瓦質土器	火鉢	D-12	II a	-	-	-	-	ケズリ・ナデ	内)Hue10YR7/4 外)Hue10YR5/1	内) にぶい黄橙 外) 褐灰	
	516	瓦質土器	火鉢	E-9	II b上	-	-	-	-	-	内)Hue2.5Y4/1 外)Hue10YR3/1	内) 黄灰 外) 黒褐	
	517	瓦質土器	火鉢	C-6	II b上	-	-	-	ケズリ	ていねいなナデ	Hue5Y4/1	灰	
	518	瓦質土器	火鉢	C-6-7	II b	-	8.6	(2.5)	ナデ	指ナデ・指オサエ	Hue10YR6/3	にぶい黄橙	
	519	瓦質土器	焙烙	D-6-7	II. III 谷	-	-	-	ミガキ・ナデ	ナデ・指オサエ	Hue10YR6/3	にぶい黄橙	
	520	瓦質土器	不明	C-7	II b	-	-	-	-	ナデ	Hue10YR7/4	にぶい黄橙	外面に刺突、沈線あり
	第 112 図	521	瓦器	皿	C-8	II b上	9.8	-	(1.6)	-	ハケ目	内)Hue2.5Y4/1 外)Hue2.5Y7/2	内) 黄灰 外) 灰黄
522		瓦器	皿	C-7	II a・II b	-	-	-	-	ミガキ摩滅	内)Hue2.5Y6/1 外)Hue2.5Y7/2	内) 黄灰 外) 灰黄	
523		瓦器	皿	D-10	III	-	-	-	-	ナデ	内)Hue2.5Y8/2 外)Hue2.5Y6/2	内) 灰白 外) 灰黄	スス附着
524		瓦器	皿	C-8 D-6-7	II b II c	-	-	-	ナデ・指オサエ	ナデ・指オサエ	Hue10YR7/3	にぶい黄橙	手捏ねの痕跡
525		瓦器	皿	C-16-17	-	7.8	2.6	0.9	ナデ	ミガキ・ナデ	Hue10YR7/4	にぶい黄橙	
526		瓦器	碗	C-7	II b	-	-	-	ミガキ	ヘラミガキ	Hue10YR5/1	褐灰	
527		瓦器	碗	C-7	II b上	-	6.0	(0.7)	ナデ	ハケ目・ヘラミガキ	Hue5Y5/1	灰	
528		瓦	瓦	C-6-7	II a	-	-	-	-	-	内)Hue10YR6/4 外)Hue10YR7/3	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	
529		瓦	瓦	-	表土	-	-	-	-	-	内)Hue7.5YR7/4 外)Hue7.5YR7/3	内) にぶい橙 外) にぶい橙	
530		瓦	瓦	E-10	II	-	-	-	-	-	内)Hue10YR6/4 外)Hue7.5YR5/4	内) にぶい黄橙 外) にぶい褐	
531		土製品	土罐	D-7	II b上	-	-	-	-	-	Hue10YR7/2	にぶい黄橙	全長 4.7cm
532		土製品	土罐	C-6-7	II a	-	-	-	-	-	Hue10YR6/3	にぶい黄橙	

第 20 表 包含層出土中世陶磁器観察表 1

神図 No.	掲載 No.	種別	器種	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調 (胎土)	色調 (釉薬)	文様	施軸部位	陶磁器分類	器種分類	備考			
第 113 図	533	白磁	碗	D-4-5 D-6-7	II a, II b II. III谷	17.4	-	(4.3)	Hue2. 5Y7/1	灰白	Hue5Y7/3	浅黄 (透明釉)	残存部全面施軸	大宰府白磁碗IV類	白磁碗IV類			
	534	白磁	碗	D-4-5 D-6-7	I b - II a II b	17.6	-	(3.8)	Hue2. 5Y8/1	灰白	Hue10Y8/1	灰白	外面腰部以下露胎	大宰府白磁碗IV類	白磁碗IV類			
	535	白磁	碗	D-6-7	II b II c上	14.8	-	(3.6)	Hue2. 5Y7/2	灰黄	Hue7. 5Y8/1	灰白	外面腰部以下露胎	大宰府白磁碗IV類	白磁碗IV類			
	536	白磁	碗	D-4-5 D-6-7	II b II c上	16.0	-	(3.0)	Hue2. 5Y7/3	浅黄	Hue2. 5Y7/2	灰黄	残存部全面施軸	大宰府白磁碗IV類	白磁碗IV類			
	537	白磁	碗	D-5-6	II a	16.0	-	(1.8)	Hue5Y8/1	灰白	Hue2. 5Y7/1	灰白	残存部全面施軸	大宰府白磁碗IV類	白磁碗IV類			
	538	白磁	碗	D-6	I b	12.8	-	(4.3)	Hue10Y8/3	にぶい黄橙	Hue10Y8/1	灰白	外面腰部以下露胎	大宰府白磁碗V類	白磁碗V類			
	539	白磁	碗	D-6-7	I b	-	-	-	Hue2. 5Y8/3	淡黄	Hue2. 5Y7/3	浅黄	底部内面露胎	大宰府白磁碗V類	白磁碗V類			
	540	白磁	碗	D-9	I a	-	-	-	Hue2. 5Y7/1	灰白	Hue10Y7/1	灰白 (透明釉)	残存部全面施軸	大宰府白磁碗VII類	白磁碗VII類			
	541	白磁	碗	D-10-11	II a	-	-	-	Hue2. 5Y8/1	灰白	Hue5Y7/2	灰白	残存部全面施軸	森田 D 群	瓶唇系			
	542	白磁	碗	D-6-7	III谷	-	-	-	Hue5Y8/1	灰白	Hue5Y7/2	灰白 (透明釉)	残存部全面施軸	森田 C 群				
	543	白磁	碗	C-6	II b	-	-	-	Hue5Y8/2	灰白	Hue5Y7/2	灰白 (透明釉)	外面腰部以下露胎	森田 C 群		見込みに圈線あり		
	544	白磁	碗	D-E-7-8	II	-	-	-	Hue2. 5Y7/2	灰黄	Hue5Y7/1	灰白	見込み内面に軸剥ぎ 外面腰部以下露胎	森田 D 群				
	545	白磁	碗	D-5-6	II a	-	-	-	Hue5Y8/1	灰白	Hue5Y8/1	灰白	残存部全面施軸	森田 E 群	白磁碗 C 群			
	546	白磁	碗	D-6-7	II a	-	5.2	(2.4)	Hue5Y8/1	灰白	Hue2. 5Y8/1	灰白	外面腰部以下露胎		溝口窯系			
	547	白磁	碗	-	表土	-	-	-	Hue5Y8/2	灰白	Hue5Y7/2	灰白	残存部全面施軸		ピロースク 皿類			
	548	白磁	碗	D-5-6	II a	-	-	-	Hue2. 5Y8/1	灰白	Hue2. 5Y8/1	灰白	残存部全面施軸			底部付近に鮫痕あり		
	第 114 図	549	白磁	皿	D-9	II c - III	-	-	-	Hue2. 5Y7/3	浅黄	Hue5Y6/2	灰オリーブ (透明釉)	内)ヘラ描き文	残存部全面施軸	大宰府白磁皿VIII類	白磁皿VIII類	
		550	白磁	皿	C-7	II b	-	-	-	Hue2. 5Y8/3	淡黄	Hue10Y8/1	灰白	口唇軸剥ぎ	大宰府白磁皿IX類	白磁皿IX類	口壳皿	
551		白磁	皿	C-6-7	II c上	-	-	-	Hue2. 5Y6/2	灰黄	Hue5Y7/1	灰白	口縁内面軸剥ぎ	大宰府白磁皿IX類	白磁皿IX類	口壳皿		
552		白磁	皿	D-4-5	II b	8.3	3.8	2.2	Hue5Y8/1	灰白	Hue5Y8/1	灰白 (二次焼成)	残存部全面施軸	森田 D 群	白磁皿 D 群			
553		白磁	皿	C-6-7	II a	-	-	-	Hue2. 5Y8/3	淡黄	Hue2. 5Y8/2	灰白	残存部全面施軸	森田 D 群	白磁皿 D 群	目跡あり		
554		白磁	皿	D-E-7-8	I	-	4.5	(1.4)	Hue10Y8/2	灰白	Hue2. 5Y8/2	灰白	腰部以下露胎	森田 D 群	白磁皿 D 群	目跡あり		
555		白磁	皿	C-6-7 D-7	II a II b	10.0	3.7	2.5	Hue2. 5Y8/2	灰白	Hue5Y8/1	灰白	外面腰部以下露胎	森田 D 群	白磁皿 D 群			
556		白磁	皿	C-8	II a	10.2	-	(2.1)	Hue2. 5Y8/2	灰白	Hue5Y8/2	灰白	外面腰部以下露胎	森田 D 群	白磁皿 D 群			
557		白磁	皿	C-7	II b上	9.0	-	(1.4)	Hue8/	灰白	Hue7. 5Y8/1	灰白	残存部全面施軸	森田 D 群	白磁皿 D 群			
558		白磁	皿	C-8	カクラン	12.2	9.0	2.2	Hue10Y8/3	灰黄橙	Hue2. 5Y7/3	浅黄	外面腰部以下露胎	森田 D 群	白磁皿 D 群			
559		白磁	皿	C-D-7	-	10.0	-	(1.7)	Hue2. 5Y8/3	淡黄	Hue2. 5Y8/1	灰白	残存部全面施軸	森田 D 群	白磁皿 D 群			
560		白磁	皿	C-6-7	II a	-	-	-	Hue2. 5Y8/3	淡黄	Hue2. 5Y8/1	灰白	外面腰部以下露胎	森田 D 群	白磁皿 D 群			
561		白磁	皿	C-7 D-6-7	II b上 II b	-	-	-	Hue5Y8/1	灰白	Hue5Y8/1	灰白	残存部全面施軸	森田 D 群	白磁皿 D 群			
562		白磁	皿	C-7	II b上	-	-	-	Hue7. 5Y8/1	灰白	Hue8/	灰白	外面腰部以下露胎	森田 D 群	白磁皿 D 群			
563		白磁	皿	D-6-7	III谷	-	3.2	(1.4)	Hue5Y8/1	灰白	Hue5Y8/1	灰白	見込み内面に軸剥ぎ 外面腰部以下露胎	森田 D 群	白磁皿 D 群			
564		白磁	皿	D-4-5	II b	-	4.1	(1.4)	Hue5Y8/1	灰白	Hue10Y8/1	灰白	量付～外底面露胎	森田 D 群	白磁皿 D 群			
565		白磁	皿	D-6-7	II b	12.2	-	(1.7)	Hue7. 5Y8/1	灰白	Hue7. 5Y7/1	灰白 (透明釉)	残存部全面施軸	森田 D 群	白磁皿 D 群			
566		白磁	皿	C-7	II b上	13.2	-	(2.5)	Hue2. 5Y7/1	灰白	Hue7. 5Y7/1	灰白	腰部以下露胎	森田 D 群	白磁皿 D 群			
567		白磁	皿	C-7	II	-	-	-	Hue8/	灰白	Hue10Y8/1	灰白	残存部全面施軸	森田 E 群	白磁皿 C 1 群			
568		白磁	皿	C-6	II b	-	-	-	Hue5Y8/1	灰白	Hue7. 5Y7/1	灰白	残存部全面施軸	森田 E 群	白磁皿 C 1 群			
569		白磁	皿	C-D-6 8	-	-	-	-	Hue7. 5Y8/1	灰白	Hue2. 5Y6/1	灰白	残存部全面施軸	森田 E 群	白磁皿 C 1 群			
570		白磁	皿	D-6	II b	-	5.2	(2.1)	Hue10Y8/1	灰白	Hue10Y8/1	灰白	量付～高台内面軸剥ぎ	森田 E 群	白磁皿 C 1 群	砂付着		
571		白磁	皿	D-8	II b	-	-	-	Hue7. 5Y8/1	灰白	Hue7. 5Y8/1	灰白 (二次焼成)	量付軸剥ぎ	森田 E 群	白磁皿 C 1 群			
572		白磁	皿	D-6-7	II b	6.8	4.2	1.8	Hue5Y8/1	灰白	Hue5Y8/1	灰白	外面胴部半ばまで施軸	森田 E 群	白磁皿 D 群	菊花皿		
573		白磁	皿	C-6-7	II a	-	3.0	(2.3)	Hue2. 5Y8/1	灰白	Hue7. 5Y8/1	灰白	量付軸剥ぎ	森田 E 群	白磁皿 E 群	基筋底		
574		白磁	環	C-6-7	II b上	-	-	-	Hue5Y8/1	灰白	Hue5Y8/1	灰白 (二次焼成)	残存部全面施軸	森田 D 群	白磁皿 D 群	多角環		
575		白磁	小環	D-8	カクラン	-	-	-	Hue7. 5Y8/1	灰白	Hue7. 5Y8/1	灰白	残存部全面施軸	森田 E 群				
576		白磁	小環	D-6-7	II. III谷	-	-	-	Hue7. 5Y7/1	灰白	Hue5Y8/1	灰白 (透明釉)	残存部全面施軸	森田 E 群				
577		白磁	小環	C-7 D-7	II a	-	4.0	(2.3)	Hue2. 5Y7/3	浅黄	Hue2. 5Y8/2	灰白	外面腰部以下露胎	森田 E 群				
578		白磁	小環	D-24	I	-	3.8	(2.1)	Hue2. 5Y6/3	にぶい黄	Hue5Y8/1	灰白	量付軸剥ぎ	森田 E 群				
579		白磁	皿	D-7	II	-	-	-	Hue5Y8/1	灰白	Hue5Y8/1	灰白	残存部全面施軸			稜花形		
第 115 図		580	青磁	碗	D-16	表土	-	-	-	Hue7. 5Y8/1	灰白	Hue7. 5Y5/2	灰オリーブ	内)点描文	残存部全面施軸	大宰府同安窯系 青磁碗 I 類	同安窯系	
		581	青磁	碗	-	表土	-	-	-	Hue7. 5Y7/1	灰白	Hue7. 5Y5/2	灰オリーブ (透明釉)	内)片彫文 欄目	残存部全面施軸	大宰府龍泉窯系 青磁碗 I 類	龍泉窯系 碗 A 3 類	
	582	青磁	碗	C-6-7	II b	-	-	-	Hue5Y5/1	灰	Hue7. 5Y5/3	灰オリーブ	外)縹蓮弁文	残存部全面施軸	上田 B - I 類	龍泉窯系 碗 B 1 類		
	583	青磁	碗	C-6	II b	-	-	-	Hue5Y7/1	灰白	Hue5Y5/4	オリーブ	外)縹蓮弁文	残存部全面施軸	上田 B - I 類	龍泉窯系 碗 B 2 類		
	584	青磁	碗	D-6-7	II b	-	-	-	Hue8/	灰白	Hue10Y6/2	オリーブ灰	外)縹蓮弁文	残存部全面施軸	上田 B - II 類	龍泉窯系 碗 B 2 類		
	585	青磁	碗	C-6	II b	14.6	-	(3.1)	Hue7. 5Y8/1	灰白	Hue2. 5Y6/1	オリーブ灰	外)ラマ式蓮弁文	残存部全面施軸	上田 B - II 類	龍泉窯系 碗 B 2 類		
	586	青磁	碗	D-10	II	-	-	-	Hue7. 5Y8/1	灰白	Hue2. 5Y6/1	オリーブ灰	外)ラマ式蓮弁文	残存部全面施軸	上田 B - II 類	龍泉窯系 碗 B 2 類		
	587	青磁	碗	D-8	II b上	-	6.0	(2.7)	Hue10Y8/1	褐灰	Hue7. 5Y5/2	灰オリーブ	外)縹蓮弁文	高台外～外底面露胎	上田 B - II 類	龍泉窯系 碗 B 2 類		
	588	青磁	碗	D-7	II b	-	6.0	(3.6)	Hue8/	灰白	Hue5Y6/1	オリーブ灰	外)草花文 外)ラマ式蓮弁文	外面底部軸剥ぎ	上田 B - II 類	龍泉窯系 碗 B 4 類		
	589	青磁	碗	D-10	III	-	-	-	Hue5Y6/1	灰	Hue10Y5/2	オリーブ灰	外)縹蓮弁文	残存部全面施軸	上田 B - IV 類	龍泉窯系 碗 B 4 類		
	590	青磁	碗	C-9	II b上	-	-	-	Hue2. 5Y8/2	灰白	Hue7. 5Y7/3	浅黄	外)縹蓮弁文	残存部全面施軸	上田 B - IV 類	龍泉窯系 碗 B 4 類		
	591	青磁	碗	B-15	I	-	-	-	Hue5Y7/1	灰白	Hue10Y6/2	オリーブ灰	外)縹蓮弁文	残存部全面施軸	上田 B - IV 類	龍泉窯系 碗 B 4 類		
	592	青磁	碗	D-4-5	II b	-	-	-	Hue10Y8/1	灰白	Hue10Y6/2	オリーブ灰	外)縹蓮弁文	残存部全面施軸	上田 B - IV 類	龍泉窯系 碗 B 4 類		
	593	青磁	碗	C-6-7	II b	-	-	-	Hue2. 5Y6/1	黄灰	Hue7. 5Y6/1	緑灰	外)縹蓮弁文	残存部全面施軸	上田 B - IV 類	龍泉窯系 碗 B 4 類		
	594	青磁	碗	D-8	II a	-	-	-	Hue2. 5Y6/2	灰黄	Hue7. 5Y5/2	灰オリーブ	外)縹蓮弁文	高台内面露胎 外面残存部全面施軸	上田 B - IV 類	龍泉窯系 碗 B 4 類		
	595	青磁	碗	D-8	II b	-	-	-	Hue7. 5Y8/2	灰白	Hue7. 5Y3/1	明緑灰	外)弦文	残存部全面施軸	上田 C - I 類	龍泉窯系 碗 C 1 類		
	596	青磁	碗	C-6	II a	-	-	-	Hue7. 5Y7/1	灰白	Hue2. 5Y3/1	明オリーブ灰	外)弦文	残存部全面施軸	上田 C - I 類	龍泉窯系 碗 C 1 類		
	597	青磁	碗	C-6-7	II b上	-	-	-	Hue7. 5Y7/1	灰白	Hue10Y5/2	オリーブ灰	外)書文	残存部全面施軸	上田 C - II 類	龍泉窯系 碗 C 2 類		
	598	青磁	碗	D-8	II b上	-	-	-	Hue5Y8/1	灰白	Hue5Y6/1	オリーブ灰	外)書文	残存部全面施軸	上田 C - II 類	龍泉窯系 碗 C 2 類		
	599	青磁	碗	D-7	II b上	-	-	-	Hue5Y8/1	灰白	Hue10Y6/2	オリーブ灰	外)ラマ式蓮弁文	残存部全面施軸	上田 C - II 類	龍泉窯系 碗 C 2 類		
	600	青磁	碗	C-8-9	-	-	-	-	Hue2. 5Y6/1	灰黄	Hue7. 5Y5/2	灰オリーブ	内)草花文	外底面露胎	上田 C - II 類	龍泉窯系 碗 C 2 類		
	601	青磁	碗	D-11	I	-	-	-	Hue7. 5Y8/1	灰白	Hue2. 5Y3/1	明オリーブ灰	外)書文	残存部全面施軸	上田 C - III 類	龍泉窯系 碗 C 3 類		
	602	青磁	碗	D-7	II b	-	-	-	Hue7. 5Y6/1	灰	Hue10Y5/2	オリーブ灰		残存部全面施軸	上田 D 類	龍泉窯系 碗 D 2 類		
	603	青磁	碗	E-8	II b	-	-	-	Hue7. 5Y7/1	灰白	Hue10Y6/2	オリーブ灰		残存部全面施軸	上田 D 類	龍泉窯系 碗 D 2 類		

第 21 表 包含層出土中世陶磁器観察表 2

押図 No.	掲載 No.	種別	器種	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調 (胎土)	色調 (釉薬)	文様	施軸部位	陶磁器分類	器種分類	備考		
第 115 図	604	青磁	碗	D-7	IIb上	-	-	-	Hue10X8/1	灰白	Bue10Y7/2	灰白	残存部全面施軸	上田D類	龍泉系陶磁 D 2類		
	605	青磁	碗	B-17	表土	-	-	-	Hue5Y6/1	灰	Bue7.5Y6/2	灰オリーブ	残存部全面施軸	上田D類	龍泉系陶磁 D 2類		
	606	青磁	碗	C-11	I b	-	-	-	Hue2.5Y6/1	黄灰	Bue10Y5/2	オリーブ灰	残存部全面施軸	上田D類	龍泉系陶磁 D 2類		
	607	青磁	碗	C-16~18	表土	-	-	-	Hue5Y6/1	灰	Bue10Y6/2	オリーブ灰	残存部全面施軸	上田D類	龍泉系陶磁 D 1類		
	608	青磁	碗	C-6-7	II a	-	-	-	Hue10Y6/1	灰	Bue7.5Y5/2	灰オリーブ	残存部全面施軸	上田D類	龍泉系陶磁 D 1類		
	609	青磁	碗	C-6	II a	-	-	-	Hue5Y8/1	灰白	Bue2.5G7/1	明オリーブ灰	残存部全面施軸	上田D類	龍泉系陶磁 D 1類		
第 116 図	610	青磁	碗	D-8	II b	15.4	-	(2.8)	Bue7.5Y7/1	灰白	Bue10Y6/2	オリーブ灰	残存部全面施軸	上田D類	龍泉系陶磁 D 1類		
	611	青磁	碗	C-8	II b	-	-	-	Hue7.5Y8/1	灰白	Bue2.5G6/1	オリーブ灰	残存部全面施軸	上田D類	龍泉系陶磁 D 1類		
	612	青磁	碗	C-8 D-6-7	II b上 II b	11.5	-	(5.3)	Hue5G8/1	灰白	Bue10G7/1	明緑灰	残存部全面施軸	上田E類	龍泉系陶磁 E 1類		
	613	青磁	碗	D-E 10-11	III	-	-	-	Hue10Y7/1	灰白	Bue10Y7/2	灰白 (二次焼成)	残存部全面施軸	上田E類	龍泉系陶磁 E 1類		
	614	青磁	碗	D-4-5	II b	-	4.6	(2.1)	Hue10Y8/1	黄灰	Bue10G6/1	緑灰	高台内面~外底面露胎 見込み円状に軸刺ぎ	上田D類もしくはE類		粗製	
	615	青磁	皿	D-6-7	II a III谷	10.2	-	(2.2)	Hue2.5Y7/2	灰黄	Bue10G7/1	明緑灰	内) 欄楯波状文	残存部全面施軸		横花皿	
	616	青磁	皿	D-6-7	II a	-	-	-	Hue2.5Y7/2	灰黄	Bue2.5G6/1	オリーブ灰	内) 欄楯波状文	残存部全面施軸		横花皿	
	617	青磁	皿	C-7	II b上	9.8	-	(2.1)	Hue10Y7/1	灰白	Bue5Y6/2	灰オリーブ		残存部全面施軸		横花皿	
	618	青磁	皿	C-9	II ab	-	5.2	(1.6)	Bue2.5Y7/1	灰白	Bue7.5Y8/1	明緑灰 (二次焼成)	壺付~外底面露胎		横花皿		
	619	青磁	皿	D-6-7	II b	-	-	-	Hue5Y7/1	灰白	Bue7.5Y6/2	灰オリーブ	残存部全面施軸		腰折皿		
	620	青磁	皿	D-6-7	II b	-	4.4	(2.0)	Hue2.5Y6/1	灰白	Bue7.5Y5/2	灰オリーブ	壺付軸刺ぎ~外底面露胎 見込み円状に軸刺ぎ		腰折皿		
	621	青磁	皿	D-E 17-18	表土	-	5.4	(2.0)	Hue7.5Y8/4	浅黄橙	Bue10Y8/4	にぶい黄橙	高台壺付付近まで施軸 見込み円状に軸刺ぎ		腰折皿	粗製	
	622	青磁	皿	C-6-7	II b	10.2	6.2	3.4	Bue7.5Y8/1	灰白	Bue10Y6/2	オリーブ灰	内) 陽刻「龍」 外) 放射状の文様	残存部全面施軸		内彎皿	
	623	青磁	皿	B-10-11	I	-	-	-	Hue5Y8/1	灰白	Bue10Y7/2	灰白	内) 放射状の文様 外) 崩れた蓮弁文	残存部全面施軸		内彎皿	
	624	青磁	皿	B-12	I	-	-	-	Hue5Y8/2	灰白	Bue10G7/1	明緑灰	内) 放射状の文様	残存部全面施軸		内彎皿	
	625	青磁	皿	D-10	II	-	-	-	Hue10Y7/1	灰白	Bue2.5G6/1	オリーブ灰	内) 放射状の文様	残存部全面施軸		内彎皿	
	626	青磁	皿	E-18	表土	-	-	-	Hue7/	灰白	Bue10Y6/2	オリーブ灰	外) 沈線文	残存部全面施軸		内彎皿	口縁部外面に沈線一筋
	627	青磁	皿	D-9	II b	11.6	-	(2.4)	Hue2.5Y7/1	灰白	Bue5G7/1	明オリーブ灰	内) 陽刻の圈線	残存部全面施軸		内彎皿	
	628	青磁	皿	C-6-7	II b	13.2	-	(3.2)	Bue7.5Y7/1	灰白	Bue10Y6/2	オリーブ灰		残存部全面施軸		内彎皿	
	629	青磁	皿	C-7	II b上	-	-	-	Hue5Y7/1	灰白	Bue10Y7/2	灰白		残存部全面施軸		内彎皿	
	630	青磁	皿	C-8	II b上	-	6.0	(1.6)	Bue2.5Y8/1	灰白	Bue2.5G6/1	オリーブ灰	内) 陰刻の文様 陽刻の圈線	外底面軸刺ぎ		内彎皿	
	631	青磁	皿	E-8	II b	-	-	-	Hue2.5Y7/1	灰白	Bue5Y6/1	オリーブ灰		残存部全面施軸		端反皿	
	632	青磁	皿	D-6-7	III谷	-	-	-	Hue5Y7/1	灰白	Bue2.5G7/1	明オリーブ灰		残存部全面施軸		端反皿	
	633	青磁	皿	D-6	II a	-	-	-	Hue7.5Y8/1	灰白	Bue5G7/1	明オリーブ灰	外) 崩れた蓮弁文	残存部全面施軸		端反皿	
	634	青磁	皿	D-6-7	II a	-	-	-	Hue7.5Y8/1	灰白	Bue2.5G6/1	オリーブ灰	内) 流水文	残存部全面施軸		端反皿	
	635	青磁	皿	C-6-7	II b	-	5.4	(2.0)	Hue7.5Y7/4	にぶい橙	Bue7.5G7/2	灰白	高台外面途中まで施軸			粗製	
	636	青磁	皿	D-8	II b上	-	5.2	(1.6)	Bue2.5Y7/2	灰黄	Bue10G6/1	緑灰 (透明軸)	腰部以下露胎			基部底	
637	青磁	皿	D-10	III上	-	-	-	Hue10Y7/4	にぶい黄橙	Bue5Y7/2	灰白	外面底部付近露胎			基部底		
第 117 図	638	青磁	盤	C-7	II b	-	-	-	Hue5Y6/1	灰	Bue5Y5/2	灰オリーブ	残存部全面施軸				
	639	青磁	盤	C-7	II a	-	-	-	Hue7.5Y7/4	にぶい橙	Bue10Y8/4	黄	残存部全面施軸				
	640	青磁	盤	C-7 C-8	II b上	-	-	-	Hue10Y9/1	灰白	Bue2.5G7/1	明オリーブ灰	内) 放射状の文様	残存部全面施軸			
	641	青磁	盤	E-9	II b上	-	7.8	(3.4)	Bue7.5Y7/1	灰白	Bue10Y5/1	オリーブ灰	内) 草花文	外部底面露胎		大型の碗の可能性あり	
	642	青磁	盤	C-7	II b	-	9.7	(1.5)	Hue5Y7/1	灰白	Bue10Y6/2	オリーブ灰	見込み蛇の目軸刺ぎ 外面底部を軸刺ぎ				
	643	青磁	盤	D-6-7	I b	-	-	-	Bue7.5Y7/1	灰白	Bue5G6/1	オリーブ灰	内) 草花文	外面底部を軸刺ぎ (別個体の割れ痕あり)			
	644	青磁	大皿	D-7	II b上	-	-	-	Hue8/	灰白	Bue2.5G6/1	オリーブ灰	残存部全面施軸				
	645	青磁	瓶	C-7 D-9	I b~II a II b上	3.0	-	(3.2)	Hue10Y8/1	灰白	Bue10Y6/2	オリーブ灰		残存部全面施軸		把手あり	
	646	青磁	蓋	D-7	II b	3.4	-	(4.0)	Hue2.5Y8/1	灰白	Bue10Y6/2	オリーブ灰		残存部全面施軸			
	647	青磁	瓶	-	表土	-	-	-	Hue8/	灰白	Bue10Y5/2	オリーブ灰	外) 草花文	残存部全面施軸		15C	
	648	青磁	蓋	C-8	II b上	-	-	-	Hue7.5Y8/1	灰白	Bue2.5G6/1	オリーブ灰	外) 花卉状の文様	残存部全面施軸			
	649	青磁	水注?	C-7	II	-	-	-	Hue8/	灰白	Bue10G7/1	明緑灰	外) 唐草文	残存部全面施軸			
	650	青磁	蓋?	C-7	II a	-	-	-	Hue8/	灰白	Bue7.5G7/1	明緑灰		残存部全面施軸			
	651	青磁	蓋	C-7	II a	-	-	-	Hue10Y8/3	にぶい黄橙	Bue2.5G6/1	オリーブ灰	外) 直線を 組み合わせた文様	内面一部軸の垂下あり 外面全面施軸			
	652	青磁	小杯	D-6-7	II b	5.8	-	(3.8)	Hue10Y8/1	灰白	Bue10Y6/2	オリーブ灰	外) 放射状の文様	外面全体 内面脚部以下露胎, 二段施軸			
	653	青磁	摺鉢	B-C-14	I	-	-	-	Hue2.5Y6/2	灰黄	Bue10Y5/2	オリーブ灰		内面口縁部以下露胎			
	654	青磁	香炉	D-E 17-18	表土	-	-	-	Hue2.5Y6/2	灰黄	内) Hue7.5Y6/2 外) Hue10Y5/2	オリーブ灰 外) オリーブ灰		内面下部露胎			
655	青磁	不明	C-7	II a	3.2	-	(3.1)	Bue7.5Y7/1	灰白	Bue2.5G6/1	オリーブ灰		残存部全面施軸		龍泉系		
656	青磁	不明	D-7	II	-	-	-	Hue2.5Y7/1	灰白	Bue7.5Y4/2	灰オリーブ		下部露胎				
657	青磁	皿	C-7	II b上	-	-	-	Hue2.5Y6/2	灰黄	内) Hue7.5Y6/2 外) Hue5Y5/3	オリーブ灰 外) 灰オリーブ	内) 雷文 外) 唐草文	残存部全面施軸		高麗青磁		
第 118 図	658	青花	碗	D-7	II b	-	-	-	Hue7.5Y8/1	明緑灰 (透明軸)	Bue10G8/1	明緑灰 (透明軸)	残存部全面施軸	小野碗C群	染付碗C群	蓮子碗	
	659	青花	碗	C-7	II a	-	-	-	Hue7.5Y8/1	灰白		透明	外) 丸三つ文	残存部全面施軸	小野碗C群	染付碗C群	蓮子碗
	660	青花	碗	D-10	III	-	-	-	Hue2.5G8/1	灰白	Bue7.5G8/1	明緑灰 (透明軸)	外) 唐草文	残存部全面施軸	小野碗C群	染付碗C群	蓮子碗
	661	青花	碗	D-7	II a	-	5.4	(2.2)	Hue10Y8/1	灰白	Bue5G7/1	明オリーブ灰 (透明軸)	外) 芭蕉葉文	壺付軸刺ぎ	小野碗C群	染付碗C群	蓮子碗, 壺付に砂目付着
	662	青花	碗	D-7	II a	-	5.6	(1.4)	Hue7.5Y8/1	灰白	Bue7.5G7/1	明緑灰 (透明軸)		壺付軸刺ぎ	小野碗C群	染付碗C群	蓮子碗
	663	青花	碗	D-6-7	II, III谷	-	8.5	(3.2)	Hue8/	灰白	Bue10G8/1	明緑灰 (透明軸)		壺付軸刺ぎ	小野碗C群	染付碗C群	蓮子碗, 景徳鎮窯
	664	青花	碗	C-16-17	表土	-	-	-	Hue7.5Y8/1	灰白	Bue7.5G8/1	明緑灰 (透明軸)		残存部全面施軸	小野碗E群	染付碗E群	
	665	青花	碗	C-9	II a~III b上	-	-	-	Hue7.5Y8/1	灰白	Bue10G8/1	明緑灰 (透明軸)	外) 雷文	残存部全面施軸	小野碗E群	染付碗E群	
	666	青花	碗	D-8	II a	-	-	-	Hue8/	灰白	Bue10G8/1	明緑灰 (透明軸)		残存部全面施軸	小野碗E群	染付碗E群	
	667	青花	碗	B-C-14	I	-	-	-	Hue7.5Y8/1	灰白	Bue5Y7/2	灰白 (透明軸)		残存部全面施軸		漳州窯	
第 119 図	668	青花	碗	-	表土	-	-	-	Hue8/	灰白	Bue2.5G8/1	灰白 (透明軸)		残存部全面施軸		漳州窯	
	669	青花	皿	D-6	I b~II a	12.0	6.4	2.6	Hue10Y7/2	にぶい黄橙	Bue7.5G8/1	明緑灰	壺付軸刺ぎ	小野皿B 1群	染付皿B 1群	壺付に砂目付着	
	670	青花	皿	D-6-7	II b	-	-	-	Bue7.5Y7/1	灰白	Bue7.5G8/1	明緑灰 (透明軸)	内) 玉取獅子文 外) 牡丹唐草文	残存部全面施軸	小野皿B 1群	染付皿B 1群	
	671	青花	皿	C-6-7	II a	-	-	-	Hue8/	灰白	Bue7.5G8/1	明緑灰 (透明軸)	内) 花樹文	残存部全面施軸	小野皿B 1群	染付皿B 1群	景徳鎮窯
	672	青花	皿	B-9-10	表探	-	6.2	(1.3)	Hue8/	灰白	Bue5G8/1	灰白 (透明軸)	内) 牡丹唐草文 底)「大明年造」	壺付軸刺ぎ	小野皿B 2群	染付皿B 2群	
	673	青花	皿	C-8	II a	-	4.8	(1.3)	Hue8/	灰白	Bue10G8/1	明緑灰		壺付軸刺ぎ	小野皿C群	染付皿C群	基部底
	674	青花	皿	D-9	II a	9.8	-	(2.4)	Hue8/	灰白	Bue7.5G8/1	明緑灰 (透明軸)	外) 芭蕉葉文	残存部全面施軸	小野皿C群	染付皿C群	

第 22 表 包含層出土中世陶磁器観察表 3

押図 No.	掲載 No.	種別	器種	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調 (胎土)	色調 (釉薬)	文様	施軸部位	陶磁器分類	器種分類	備考			
第 119 図	675	青花	皿	D-7	II	-	4.8	(1.1)	Hue7.5Y8/2	灰白	Hue7.5G8/1	明緑灰	内) 草花文	墨付軸刺ぎ	小野皿C群	染付皿C群	基荷底	
	676	青花	皿	C-D-8	IIa	-	7.2	(1.3)	Hue8/	灰白	Hue10G8/1	明緑灰 (透明軸)	内) 山水人物文	墨付軸刺ぎ	小野皿E群	染付皿E群		
	677	青花	皿	D-17	-	-	5.0	(1.5)	Hue2.5Y8/2	灰白	Hue5G8/1	灰白 (透明軸)		墨付～高台内面露胎			渚洲窯	
	678	青花	盤	C-8	IIb	-	-	-	Hue5Y7/2	灰白	Hue2.5G7/1	明オリブ灰		残存部全面施軸			渚洲窯	
	679	青花	壺	D-4-5	IIb	-	-	-	Hue2.5G8/1	灰白	Hue2.5G8/1	灰白 (透明軸)	外) 唐草文	残存部全面施軸				
第 120 図	680	天目	碗	D-7	IIb上	-	-	-	Hue10Y8/2	灰黄褐	Hue10Y8/2	黒褐		残存部全面施軸				
	681	天目	碗	C-6-7	IIb	-	-	-	Hue2.5Y7/2	灰黄	Hue10Y8/2	黒褐		外面腰部以下露胎				
	682	天目	碗	D-6-7	IIb	-	-	-	Hue10Y8/2	灰黄褐	Hue10Y8/1	黒		外面腰部以下露胎			軸留まり	
	683	天目	碗	C-6	IIb上 IIc上	-	-	-	Hue7.5Y8/2	灰褐	Hue7.5Y8/1	暗褐		外面腰部以下露胎			軸留まり	
	684	天目	碗	D-E-7-8	I	-	-	-	Hue10Y8/1	にぶい黄橙	Hue10Y8/1	黒		内面全面施軸				
	685	華南三彩	壺	C-6-7	IIa下	-	-	-	Hue10Y8/1	灰白	Hue5.Y6/4 Hue10Y6/2 Hue5Y8/4	オリブ黄 オリブ灰 にぶい赤褐		外面全面施軸				
	686	華南三彩	不明	D-5	IIb	-	-	-	Hue10Y8/3	にぶい黄橙	Hue2.5Y6/6 Hue2.5G5/1	明黄褐 オリブ灰		外面全面施軸			外面線刻あり	
	687	華南三彩	不明	C-6	IIc	-	-	-	Hue10Y8/3	浅黄橙	Hue7.5G7/1	明オリブ灰		残存部全面施軸			皿形の可能性あり	
	688	国外陶器	甕	-	表土	-	-	-	Hue2.5Y4/1	黄灰	Hue2.5Y6/4	にぶい黄		口唇部軸刺ぎ				
	689	国外陶器	甕	D-10	III	-	-	-	Hue2.5Y4/2	暗灰黄	Hue2.5Y6/4	にぶい黄		一部露胎・口唇部軸刺ぎ				
第 121 図	690	国外陶器	壺	B-20	黄土カクラン	-	-	-	Hue2.5Y4/1	黄灰	Hue2.5Y6/4	にぶい黄		口唇部～内面露胎				
	691	国外陶器	壺	D-7	IIb上	10.8	-	(6.7)	Hue7.5Y8/1	褐灰	Hue7.5Y8/3	褐		口縁部内面～外面肩部まで施軸			四耳蓋、肩部に目跡が残る	
	692	国外陶器	壺	C-6-7	IIb	10.8	-	(2.9)	Hue7.5Y8/1	褐灰	Hue10Y8/2	灰黄褐		口唇部軸刺ぎ				
	693	国外陶器	壺	C-D-7-8	-	-	-	-	Hue7.5Y8/2	灰褐							調整痕が残る、小型	
	694	国外陶器	壺	D-E-17-18	表土	-	-	-	内) Hue2.5Y8/2 外) Hue5Y8/3	内) 灰赤 外) にぶい赤褐	Hue5Y8/2	黒褐		外面一部施軸			小型	
	695	国外陶器	壺	C-10	IIb上	-	-	-	Hue2.5Y4/1	黄灰	Hue2.5Y6/4	黄褐		外面全面施軸				
	696	国外陶器	壺	C-6-7	IIb	-	-	-	Hue7.5Y8/2	灰褐	Hue2.5Y3/3	暗オリブ		外面一部施軸				
	697	国外陶器	壺	D-10	IIb上	-	-	-	Hue2.5Y8/2	灰赤	Hue2.5Y8/2	灰赤		内面全面施軸				
	698	国外陶器	壺	D-11	I	-	9.6	(4.7)	内) Hue10R4/2 外) Hue7.5Y8/3	内) 灰赤 外) 褐	Hue10Y8/1	黒		外面全面施軸			内面に輪積み痕	
	699	国外陶器	壺	C-6-7	IIa	-	-	-	Hue2.5Y6/2	灰黄	Hue2.5Y3/3	暗オリブ灰		残存部全面施軸			沖縄 5 類	
	700	国外陶器	壺	C-7	IIa～IIb上	-	-	-	Hue2.5Y6/2	灰黄	Hue2.5Y3/3	暗オリブ灰		残存部全面施軸			沖縄 5 類	
	701	国外陶器	鉢	C-D-6～8	-	-	-	-	内) Hue5Y8/3 外) Hue10Y8/2	内) にぶい赤褐 外) 灰黄褐	Hue2.5Y6/4	にぶい黄		部分的に薄い施軸				
	702	国外陶器	鉢	D-6-7	IIa	-	-	-	内) Hue5Y8/2 外) Hue5Y8/3	内) 灰褐 外) にぶい赤褐				部分的に薄い施軸				
	703	国外陶器	播鉢?	B-13	I	-	-	-	Hue7.5Y4/4	褐	Hue10Y8/2	灰黄褐	内) 沈線					
	704	国外陶器	茶入れ	C-7	IIb上	2.6	-	(1.4)	Hue7.5Y8/4	にぶい橙	Hue7.5Y8/2	黒褐		口縁部内面～外面全体施軸				
	705	国外陶器	茶入れ	C-8	IIa	-	-	-	Hue10Y8/2	黒褐				全面露胎				
	706	国外陶器	不明	D-E-7-8	II	-	-	-	Hue10Y8/2	にぶい黄橙	Hue5Y8/3	暗赤褐		外面全面施軸 内面軸の垂下あり			外面に別個体の剥離痕あり	
	707	国外陶器	徳利	D-8	IIa	6.0	-	(1.0)	Hue10Y8/1	褐灰	Hue2.5Y7/4	浅黄		残存部全面施軸			朝鮮産もしくは唐津産	
	第 122 図	708	国産陶器	播鉢	C-11	IIa	-	-	-	内) Hue10Y8/3 外) Hue10Y8/2	内) にぶい黄褐 外) 灰黄褐							備前焼
		709	国産陶器	播鉢	D-E-17-18	表土	-	-	-	内) Hue5Y8/3 外) Hue2.5Y8/3	内) 褐灰 外) にぶい赤褐							備前焼
710		国産陶器	播鉢	C-12	IIa	-	-	-	内) Hue5Y8/3 外) Hue2.5Y6/4	内) にぶい赤褐 外) にぶい橙							備前焼	
711		国産陶器	播鉢	D-6	Ib	-	-	-	Hue10Y8/2	灰黄褐							備前焼	
712		国産陶器	播鉢	C-11	Ib	-	-	-	内) Hue2.5Y8/4 外) Hue2.5Y8/3	内) にぶい赤褐 外) にぶい赤褐								備前焼
713		国産陶器	播鉢	B-11	Ib	-	-	-	内) Hue5Y8/3 外) Hue5Y8/2	内) にぶい赤褐 外) 灰褐								備前焼、外面に段をもつ
714		国産陶器	播鉢	C-6	IIb	-	-	-	Hue5Y8/2	灰褐							備前焼	
715		国産陶器	播鉢	C-7	IIb上	-	-	-	Hue5Y8/2	灰褐							備前焼 幅広で条数の多い縞目あり	
716		国産陶器	播鉢	C-8	IIb	-	-	-	内) Hue7.5Y8/4 外) Hue7.5Y8/2	内) 褐灰 外) 灰褐								備前焼 幅広で条数の多い縞目あり
717		国産陶器	播鉢	D-7	IIb上	-	-	-	Hue2.5Y8/3	にぶい赤褐							備前焼 胎土・施成は精緻だが器形は重む	
718		国産陶器	播鉢	-	表土	-	-	-	内) Hue10Y8/3 外) Hue10Y8/2	内) にぶい黄褐 外) 灰黄褐								備前焼、口縁部内面に段をもつ
719		国産陶器	播鉢	D-6	IIa	-	-	-	内) Hue2.5Y7/3 外) Hue5Y8/2	内) 浅黄 外) 灰褐								内面全体に自然軸あり
720		国産陶器	播鉢	B-10-11	I	-	-	-	Hue2.5Y8/6	明赤褐							備前焼	
721		国産陶器	播鉢	B-11	Ib	-	-	-	内) Hue2.5Y8/4 外) Hue2.5Y8/6	内) にぶい赤褐 外) 明赤褐								備前焼
722		国産陶器	甕	C-D-6～8	IIc	-	-	-	Hue2.5Y8/4	にぶい赤褐							備前焼	
723		国産陶器	大甕?	D-6-7	IIb IIc上	-	-	-	Hue2.5Y8/4	にぶい赤褐							備前焼、内外ともにナデ調整	
724		国産陶器	大甕?	D-6	Ib～IIa	-	-	-	内) Hue10Y8/1 外) Hue7.5Y8/2	内) 褐灰 外) 灰褐								備前焼、内外ともにナデ調整
725		国産陶器	壺	C-9	IIb	-	-	-	Hue7.5Y8/3	にぶい橙							外面全体に自然軸あり	
726		国産陶器	壺	D-E-11	I	-	-	-	内) Hue2.5Y4/1 外) Hue2.5Y7/2	内) 黄灰 外) 灰黄								外面全体に自然軸あり
第 123 図		727	国産陶器	壺	C-9	IIb上	-	-	-	内) Hue10Y8/3 外) Hue5Y8/4	内) にぶい黄橙 外) にぶい橙							外面全体に自然軸あり
	728	天目	碗	D-8	-	-	-	-	Hue5Y8/3	にぶい赤褐	Hue7.5Y8/3	黒褐		外面腰部以下露胎			瀬戸末濃	
	729	国産陶器	鉢	C-7	IIb上	-	-	-	Hue2.5Y8/3	淡黄	Hue2.5Y7/3	浅黄		残存部全面施軸			瀬戸焼	
	730	国産陶器	鉢	C-7	IIb上	-	-	-	Hue2.5Y8/3	淡黄	Hue2.5Y7/3	浅黄		内面下半露胎			瀬戸焼	
	731	国産陶器	鉢	D-6	IIa	-	-	-	Hue10Y8/3	にぶい黄橙	Hue2.5Y7/3	浅黄		外面底部軸刺ぎ			瀬戸焼	
	732	国産陶器	小壺?	D-6-7	IIb	-	-	-	Hue2.5Y8/2	灰白	Hue5Y8/3	オリブ黄		外面全面施軸			瀬戸焼、14C 後半～15C 前	
	733	国産陶器	不明	D-8	IIb	-	-	-	Hue2.5Y7/3	浅黄	Hue5Y8/4	オリブ		外面胴部下半露胎			瀬戸焼、壺形の可能性あり	

第 23 表 包含層出土近世陶磁器観察表 1

押図 No.	掲載 No.	種別	器種	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調 (胎土)	色調 (釉薬)	文様	施軸部位	備考	
第 136 図	808	磁器	碗	E-11	II	8.0	-	(2.8)	Hue2.5Y7/2	灰黄	透明軸		残存部全面施軸	肥前系
	809	磁器	碗	C-10	Ia	10.8	-	(4.9)	Hue5Y8/1	灰白	透明軸	外) 二重格子文	見込み軸刺ぎ	肥前系、端反碗
	810	磁器	碗	D-8	カクラン	10.6	-	(3.7)	Hue10Y8/1	灰白	透明軸	外) 草花文	残存部全面施軸	肥前系、端反碗
	811	磁器	碗	B-12	Ia	9.2	-	(3.8)	Hue7.5Y8/1	灰白	透明軸	外) 未裂文	残存部全面施軸	肥前系、端反碗
	812	磁器	碗	D-12	IIa	-	-	-	Hue7.5Y7/1	灰白	透明軸	内) 四方様文	残存部全面施軸	肥前系
	813	磁器	碗	B-11	Ib	-	-	-	Hue2.5G8/1	灰白	透明軸	外) 欄文	残存部全面施軸	肥前系、コンニャク印判
	814	磁器	碗	B-10-11 C-11	Ia Ib	11.0	5.0	5.8	Hue10Y8/1	灰白	透明軸	外) 山水文	墨付軸刺ぎ	肥前系

第 24 表 包含層出土近世陶磁器観察表 2

押図 No.	押図 No.	種類	器種	出土区	層位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	色調 (胎土)		色調 (釉薬)		文様	施軸部位	備考	
									灰白	Hue	明オリーブ灰 (透明釉)	Hue				
第 136 図	815	磁器	碗	C-8	IIb上	-	-	-	HueN8/	灰白	Hue2.5GY7/1	明オリーブ灰 (透明釉)	外) 圈線	残存部全面施軸	肥前系	
	816	磁器	筒型碗	D-8	IIc・III上	-	3.8	(2.3)	HueN8/	灰白			見込) 虫文 外) 折立松葉文	置付軸剥ぎ	肥前系	
	817	磁器	皿	D-9	I b	-	-	-	Hue5Y8/1	灰白		透明釉	内) 草花文 外) 唐草文	残存部全面施軸	肥前系, 輪花皿	
	818	磁器	皿	D-6-7	I b	-	-	-	Hue5Y8/1	灰白		透明釉	内) 青海波文 外) 唐草文	残存部全面施軸	肥前系, 輪花皿	
	819	磁器	皿	D-6-7	II b	18.7	12.4	3.8	HueN8/	灰白		透明釉	見込) 圈線	置付軸剥ぎ	肥前系, 菊花皿	
	820	磁器	皿	C-7	I b	-	5.6	(1.4)	Hue2.5Y7/2	灰黄		透明釉		残存部全面施軸	陶胎交付, 白化粧土 肥前系, コシニヤク印判	
	821	磁器	皿	B-C-14		-	4.4	(1.3)	Hue2.5Y8/1	灰白	Hue2.5GY7/1	明オリーブ灰 青磁釉	内) 草花文	置付軸剥ぎ	17C 後半, 肥前系	
	822	磁器	皿	C-7	II a	4.4	-	(1.2)	Hue2.5Y8/1	灰白	Hue5Y8/1	灰白		外面下半露胎	肥前系, 紅皿	
	823	磁器	小坏	B-C-14	I・II	6.0	-	(2.4)	Hue10Y8/1	灰白	Hue7.5Y7/1	灰白		残存部全面施軸	肥前系, 鉄絵	
	824	磁器	小坏	D-9	IIb上	-	-	-	Hue5Y8/1	灰白		透明釉		残存部全面施軸	肥前系, 鉄絵	
	825	磁器	小坏	B-12	I	-	3.6	(1.3)	Hue5Y8/1	灰白		透明釉		置付軸剥ぎ	肥前系	
	826	磁器	瓶	D-4+5	II b	-	-	-	Hue5Y8/2	灰白		透明釉	外) 笹文か	外面全面施軸 内面に一部軸の点あり	肥前系	
	827	磁器	土瓶? 茶家?	B-15	I	7.8	-	(1.2)	Hue10Y7/1	灰白		透明釉		外面全面施軸		
	828	磁器	馬の尻繫	-	表土	-	-	-	Hue2.5GY8/1	灰白	Hue10GY8/1	明緑灰		外面全面施軸		
	第 137 図	829	陶器	碗	C-14 C-16	I II	7.3	-	(3.6)	Hue2.5Y7/3	淡黄	Hue10Y8/6	黄褐		残存部全面施軸	加治木・給良系
		830	陶器	碗	A-15 B-15	II	-	4.2	(2.8)	Hue5Y8/3	にぶい赤褐		透明釉		外面腰部以下露胎	加治木・給良系, 砂目 白化粧土
831		陶器	碗	D-7	II a	-	4.4	(2.7)	Hue10Y8/1	灰白	Hue5Y7/1	灰白		残存部全面施軸	目跡有り	
832		陶器	碗	C-7	II a	-	-	-	Hue10Y8/3	にぶい黄褐	Hue2.5Y5/3	黄褐		残存部全面施軸		
833		陶器	碗	D-10	II上	-	-	-	Hue10Y8/6/3	にぶい黄橙	Hue2.5Y7/8 Hue2.5Y2/1	黄 黒		残存部全面施軸	加治木・給良系	
834		陶器	碗	B-C-15	I	-	4.6	(3.7)	Hue10Y7/3	にぶい黄橙		透明釉		置付軸剥ぎ	白磁摩	
835		陶器	碗	C-D-9	II a	-	4.8	(1.8)	Hue2.5Y7/1	灰白	内) Hue5BG6/1	内) 青灰 (細緑釉) 外) 透明釉		内) 蛇の目軸剥ぎ 外) 腰部以下軸剥ぎ	肥前内野山系	
836		陶器	碗	D-10	IIb下	-	-	-	Hue2.5Y8/3	淡黄	Hue2.5Y7/2	灰黄褐		残存部全面施軸	白磁摩	
837		陶器	碗	B-15	II	-	-	-	Hue5Y7/2	灰黄		透明釉		残存部全面施軸	肥前系	
838		陶器	皿	B-10	II b	-	-	-	Hue10Y8/6/3	にぶい黄褐		透明釉		残存部全面施軸	加治木・給良系, 白化粧土	
839		陶器	皿	C-6-7	II a II b	-	5.8	(2.6)	Hue5Y7/1	灰白	Hue2.5Y6/2	灰黄		内) 円状に軸剥ぎ 外) 腰部以下露胎	肥前系	
840		陶器	皿	C-11	I b	-	4.1	(1.1)	Hue2.5Y8/2	灰白	Hue5Y7/2	灰白 (透明釉)	見込) 笹文	外面腰部以下軸剥ぎ	京焼風	
841		陶器	甕	-	表土	-	-	-	Hue2.5Y5/2	暗灰黄	Hue2.5Y8/5/4	にぶい赤褐		残存部全面施軸		
842		陶器	甕	C-7	II a	-	-	-	Hue2.5Y8/5/4	にぶい赤褐	Hue7.5Y8/3/2	黒褐		外面全面施軸	タタキ痕あり, 肥前系	
843		陶器	鉢	-	表探	-	-	-	Hue7.5Y8/5/2	灰褐	Hue10Y8/2/3	黒褐		口唇部軸剥ぎ	苗代川系	
844		陶器	鉢	B-12	I	-	-	-	Hue2.5Y8/4/8	赤褐	Hue2.5Y8/4/2	灰赤		口唇部一部軸剥ぎ	苗代川系	
845	陶器	鉢	D-E-10	I a	-	-	-	Hue10Y8/4/2	灰黄褐	Hue10Y8/2/3	黒褐		口唇部軸剥ぎ	苗代川系		
846	陶器	鉢	D-15+16	表土	-	-	-	Hue2.5Y8/5/1	赤灰		透明釉	外) ハケ目文様	残存部全面施軸	肥前系		
847	陶器	鉢	C-8	II c	-	-	-	Hue7.5Y8/6/4	にぶい橙		透明釉		残存部全面施軸	加治木・給良系, 白化粧土		
848	陶器	摺鉢	-	表土	22.8	12.3	10.6	Hue7.5Y8/3	にぶい褐	Hue7.5Y8/3/1	黒褐		底部付近露胎, 口唇部軸剥ぎ	苗代川系		
第 138 図	849	陶器	摺鉢	C-16	II	-	-	-	Hue10Y8/3	にぶい黄褐	Hue10Y8/3/1	黒褐		外面底部付近露胎	苗代川系	
	850	陶器	摺鉢	B-C-14	I・II	-	-	-	Hue5Y8/4/2	灰褐	Hue10Y8/3/2	黒褐		口唇部一部軸剥ぎ	苗代川系	
	851	陶器	摺鉢	D-7	II	-	-	-	Hue5Y8/6/6	橙	Hue7.5Y8/3/2	黒褐		外面全面施軸	苗代川系	
	852	陶器	瓶	B-C-14	I	6.0	-	(2.5)	Hue10Y8/4/1	褐灰	Hue10Y8/3/2	黒褐		残存部全面施軸	苗代川系	
	853	陶器	壺	E-22	表土カクラン	-	9.8	(11.3)	Hue10Y8/6	赤褐	Hue5Y8/2/2	黒褐		外面全面施軸		
	854	陶器	壺	B-10	I	-	16.8	(7.1)	Hue5Y8/6/6	橙	Hue5Y8/3/2	暗赤褐		外面底部付近露胎		
	855	陶器	土瓶	C-11	I b	9.0	-	(2.2)	Hue5Y8/5/3	にぶい赤褐	Hue7.5Y8/3/1	黒褐		内面口縁部以下露胎	苗代川系	
	856	陶器	土瓶	C-11	I b	5.3	-	(1.2)	Hue2.5Y8/5/3	にぶい赤褐	Hue5Y8/3/3	暗赤褐		外面全面施軸	苗代川系	
	857	陶器	土瓶	D-7	I b ~ II a	-	-	(1.7)	Hue7.5Y8/5/3	にぶい褐	Hue2.5Y4/2	暗灰黄		外面全面施軸	苗代川系	
	858	陶器	土瓶	C-9 C-12	I II a ~ II b上	-	-	-	Hue7.5Y8/6/2	灰褐	Hue7.5Y8/4/4	褐		残存部全面施軸	苗代川系	
	859	陶器	土瓶	C-14	I	-	-	-	Hue5Y8/5/4	にぶい赤褐	Hue5Y8/3/3	暗赤褐		外面腰部以下軸剥ぎ, 内面一部露胎	苗代川系	
	860	陶器	土瓶	B-15	II a	-	4.4	(1.1)	Hue5Y8/5/4	にぶい赤褐				外面全面施軸	苗代川系	
	861	陶器	土瓶	B-12	I	-	-	-	Hue5Y8/5/3	にぶい赤褐	Hue10Y8/4/2	灰黄褐		外面腰部以下軸剥ぎ, 内面全面施軸	苗代川系, スス付着	
	862	陶器	土瓶	D-8	-	-	-	-	Hue2.5Y8/5/4	にぶい赤褐	Hue10Y8/3/3	暗褐		外面腰部以下露胎	苗代川系, スス付着	
	863	陶器	土瓶	C-11	カクラン	-	(9.9)	(2.6)	Hue5Y8/5/2	灰褐	Hue7.5Y8/4/2	灰褐		内面全面施軸	苗代川系	
	864	陶器	土瓶	C-7	I b	(5.0)	(3.0)		内) Hue5Y8/6/3 外) Hue7.5Y8/5/1	褐灰	Hue7.5Y8/4/4	褐		見込) 一部施軸	苗代川系	
865	陶器	山茶家	B-C-14	I	-	-	-	Hue2.5Y8/5/6	明赤褐	Hue7.5Y8/4/4	褐		内面, 口縁部付近施軸 脚部へ釉薬の垂下あり			
866	陶器	山茶家	D-6-7	II b	-	-	-	Hue10Y8/4/2	灰黄褐	Hue10Y8/3/3	暗褐		外面全面施軸			
867	陶器	急須	D-6	I b	-	-	-	Hue10Y8/6/2	灰黄褐	内) Hue7.5Y8/4/3 外) Hue2.5Y8/1	内) 褐 外) 灰白		残存部全面施軸	加治木・給良系, 白化粧土		
868	陶器	土瓶	C-7	II a ~ II b	7.6	-	(1.4)	Hue2.5Y8/8/3	淡黄	Hue2.5Y8/2	灰白			加治木・給良系, 白化粧土		
869	陶器	灯明皿	C-10	II a	-	4.8	(2.1)	Hue5Y8/6/6	橙	Hue10Y8/4/3	にぶい黄褐			系切り底, スス付着 砂目あり, 加治木・給良系		
870	陶器	盤	D-7	II a	-	-	-	Hue2.5Y7/3	淡黄				残存部全面施軸	肥前系 内面の一部に白化粧土		
第 139 図	871	陶器	油壺	-	表土	-	-	-	Hue5Y8/5/3	にぶい赤褐		透明釉		外面全面施軸	加治木・給良系 外面腰部付近まで白化粧土	
	872	陶器	薬燗	B-15	I	4.0	-	(2.2)	Hue7.5Y8/7/1	明褐灰		透明釉		残存部全面施軸	加治木・給良系	
	873	陶器	茶蓋	C-6-7	II a	6.8	-	(3.3)	Hue2.5Y7/2	灰黄	内) Hue5Y2/2 外) Hue5Y4/4	内) オリーブ黒 外) 暗オリーブ		口縁内外面軸剥ぎ		
	874	磁器	碗	D-12	II a	10.0	-	(5.0)	HueN8/	灰白		透明釉	内) 輪宝文 外) 松竹梅文	残存部全面施軸	型紙摺り, コバルト	
	875	磁器	碗	B-12	I	9.0	-	(2.0)	Hue7.5Y7/1	灰白		透明釉	内) 輪宝文	残存部全面施軸	型紙摺り, コバルト	
	876	磁器	碗	C-9	II a	7.9	3.1	4.7	Hue5Y8/1	灰白		透明釉	見込) 「寿」	置付軸剥ぎ	コバルト	
	877	磁器	碗	B-C-14	I	9.8	3.6	4.7	HueN8/	灰白		透明釉		置付軸剥ぎ	内外面色絵あり	
	878	磁器	皿	C-11	I b	-	-	-	HueN8/	灰白		透明釉		残存部全面施軸	内面に文字, コバルト 口紅あり	
	879	磁器	皿	C-11	I b	-	5.2	(1.2)	HueN8/	灰白		透明釉	見込) 魚文	置付軸剥ぎ		
	880	磁器	皿	C-11	I b	-	-	-	Hue7.5Y8/1	灰白	Hue7.5GY7/1	明緑灰 外) 青磁釉	見込) 草文	置付軸剥ぎ	基筋底	
	881	磁器	皿	C-11	I b	-	6.0	(2.0)	HueN8/	灰白		透明釉	外) 梅文	置付~外面軸剥ぎ	銅版転写, コバルト 基筋底	

第 25 表 遺構内出土石器観察表

探函番号	掲載番号	遺構	器種	分類	出土区	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
第9図	1	疎耕1号	ハンマー		C-20	Ⅻ	15.0	6.1	4.2	453.5	砂岩	
第16図	11	集石16号	磨・蔽石	Ⅱ類	C-23	Ⅸ	11.0	10.3	5.0	747.1	砂岩	
第17図	14	集石20号	磨石	Ⅰ類	D-23	Ⅸ	5.6	3.6	1.5	30.4	砂岩	
第18図	17	集石22号	磨・蔽石	V類	E-22-23	Ⅸ	14.6	5.7	4.8	535.0	砂岩	
第19図	19	集石23号	打製石鏃	Ⅳ類	C-22	Ⅸ	2.5	2.3	0.7	3.2	安山岩	
	20	集石24号	磨・蔽石	Ⅲ類	C-22-23	Ⅸ	10.9	12.3	4.3	735.0	砂岩	
第20図	21	集石26号	不明		D-23	Ⅸ	2.6	2.1	0.4	1.6	頁岩	
	22	集石26号	石皿		D-23	Ⅸ	12.4	13.2	5.1	785.0	砂岩	
第21図	24	集石28号	打製石鏃	Ⅵ類	C-22-23	Ⅸ	2.8	1.5	0.2	0.8	チャート	
第22図	25	集石30号	磨・蔽石	Ⅰ類	C-22	Ⅸ	6.3	5.2	3.6	146.7	砂岩	
	26	集石31号	石鏃	Ⅱ類	B-22	Ⅸ	5.9	4.7	3.6	142.5	砂岩	
第23図	27	集石31号	スクレイパー		B-22	Ⅸ	3.8	4.3	1.2	22.6	頁岩	
	28	集石31号	石皿		B-22	Ⅸ	12.4	9.1	2.0	391.8	砂岩	
	29	集石31号	磨・蔽石	Ⅳ類	B-22	Ⅸ	8.5	9.5	4.2	463.9	砂岩	
第27図	33	集石38号	磨・蔽石	Ⅳ類	B-12	Ⅸ	4.0	6.6	3.0	79.0	砂岩	
	34	集石38号	磨・蔽石	Ⅱ類	B-12	Ⅸ	8.3	4.0	3.2	106.4	砂岩	
	35	集石38号	磨・蔽石	Ⅲ類	B-12	Ⅸ	11.7	9.6	3.5	505.0	砂岩	
	36	集石38号	石皿		B-12	Ⅸ	6.3	7.5	4.8	198.3	砂岩	
第28図	37	集石42号	礫器		E-25	X上	9.0	10.7	2.1	225.9	砂岩	
第29図	39	集石47号	石皿		E-23	Ⅸ	21.5	14.9	5.3	1605.0	砂岩	
第30図	40	集石51号	石皿		C-23	Ⅸ	6.3	5.9	4.9	222.8	砂岩	
第31図	44	集石58号	石皿		C-23	Ⅸ	7.7	6.1	4.8	190.0	砂岩	
第32図	45	集石61号	石皿		E-23	Ⅸ	13.1	16.2	5.2	1190.0	砂岩	
第34図	47	集石66号	磨石	Ⅳ類	D-E-24	Ⅸ	8.0	5.4	2.7	142.5	砂岩	
	50	集石68号	磨・蔽石	Ⅲ類	D-24	Ⅸ	12.2	6.4	2.6	275.9	砂岩	
第35図	51	集石68号	磨・蔽石	V類	D-24	Ⅸ	18.0	5.9	3.0	450.0	砂岩	
	52	集石68号	磨・蔽石	V類	D-24	Ⅸ	13.0	4.2	2.5	220.0	砂岩	
第37図	54	集石71号	磨石	Ⅲ類	E-23	Ⅸ	13.1	10.4	3.9	661.9	砂岩	
第38図	57	集石72号	磨・蔽石	Ⅰ類	C-22	Ⅸ	6.2	4.0	1.5	47.3	砂岩	
第39図	60	集石74号	スクレイパー		B-C-22	Ⅸ	4.4	4.4	1.8	29.0	頁岩	
第40図	61	集石76号	使用痕跡片		B-23	Ⅸ	1.4	1.6	0.2	0.8	チャート	
第41図	67	集石78号	石皿		C-23	Ⅸ	8.6	14.3	7.8	1250.0	砂岩	
第43図	69	集石82号	石皿		C-D-23	Ⅸ	17.8	22.1	11.4	3550.0	砂岩	
第45図	71	集石86号	打製石鏃	Ⅵ類	C-22	Ⅸ	1.7	1.5	0.4	0.8	チャート	
第61図	176	土坑3埋土	磨・蔽石	Ⅱ類	C-19	埋土	10.5	11.8	5.8	979.0	砂岩	
	177	土坑3埋土	石鏃	Ⅱ類	C-19	埋土	5.4	4.2	3.0	81.9	砂岩	
第86図	323	竪穴建物跡	磨・蔽石	Ⅳ類	E-22	埋土	12.7	7.0	6.4	615.0	砂岩	
	324	竪穴建物跡	磨・蔽石	Ⅳ類	E-22	埋土	9.9	8.7	5.8	630.0	砂岩	
第105図	440	竪立柱建物跡 (pit 7内)	不明石器		D-23	埋土	12.2	8.1	1.3	182.0	砂岩	
	441	竪立柱建物跡 (pit 7内)	不明石器		D-23	埋土	10.9	4.2	1.0	57.0	砂岩	

第 26 表 旧石器時代 (XI・Ⅻ層) 石器観察表

探函番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
第10図	2	三稜尖頭器		C-18	Ⅻ	5.2	2.2	1.8	12.4	砂岩	
	3	ナイフ形石器		C-20	Ⅺ	3.1	2.1	1.0	5.4	黒曜石	三船産
	4	蔽石	V類	C-19	Ⅻ	12.2	5.3	3.1	244.1	砂岩	
	5	蔽石	V類	C-20	Ⅻ	11.2	3.9	2.6	121.9	砂岩	
	6	台石		C-18	Ⅻ	12.2	8.1	4.6	605.0	砂岩	

第 27 表 縄文時代早期 (Ⅷ～Ⅹ層) 石器観察表

探函番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
第51図	124	打製石鏃	Ⅰ類	C-23	Ⅸ	1.3	1.2	0.4	0.4	黒曜石	姫島産
	125	打製石鏃	Ⅰ類	D-23	Ⅸ	1.6	1.7	0.4	0.9	チャート	
	126	打製石鏃	Ⅱ類	C-23	Ⅸ	1.6	1.5	0.7	1.4	チャート	
	127	打製石鏃	Ⅱ類	E-22	Ⅸ	1.6	1.3	0.4	0.5	黒曜石	
	128	打製石鏃	Ⅱ類	D-8	Ⅸ	1.8	1.6	0.4	0.7	黒曜石	姫島産
	129	打製石鏃	Ⅱ類	D-22	Ⅸ	1.9	1.5	0.3	0.4	黒曜石	姫島産
	130	打製石鏃	Ⅱ類	C-23	Ⅸ	1.8	1.8	0.4	0.9	瑪瑙玉髓	
	131	打製石鏃	Ⅱ類	B-23	Ⅸ	1.9	1.6	0.3	0.6	黒曜石	
第52図	132	打製石鏃	Ⅲ類	C-22	Ⅸ	2.4	1.3	0.5	1.5	チャート	
	133	打製石鏃	Ⅳ類	E-15	Ⅷ	1.8	1.6	0.3	0.6	安山岩	
	134	打製石鏃	Ⅳ類	C-23	Ⅸ	1.6	1.5	0.3	0.8	チャート	
	135	打製石鏃	Ⅳ類	C-15	Ⅷ	2.3	1.8	0.5	1.0	黒曜石	
	136	打製石鏃	Ⅳ類	C-22	Ⅸ	2.2	1.5	0.6	1.1	チャート	
	137	打製石鏃	Ⅳ類	C-23	Ⅸ	2.9	1.7	0.3	1.3	安山岩	
	138	打製石鏃	Ⅳ類	D-22	Ⅷ	2.7	1.6	0.6	1.6	チャート	
第53図	139	打製石鏃	Ⅳ類	E-13	X上	3.2	1.9	0.4	1.7	チャート	
	140	打製石鏃	Ⅳ類	C-20	Ⅸ	3.8	2.7	0.5	3.2	チャート	
	141	打製石鏃	Ⅳ類	D-25	Ⅸ	1.8	1.6	0.7	1.4	頁岩	
	142	打製石鏃	Ⅵ類	B-23	Ⅸ	1.0	1.3	0.3	0.4	チャート	
第54図	143	石匙		C-22	Ⅸ	2.1	3.1	0.9	5.3	チャート	
	144	スクレイパー		B-23	Ⅸ	2.0	2.6	0.8	4.9	瑪瑙玉髓	
	145	スクレイパー		B-23	Ⅸ	3.9	2.8	1.5	9.4	珪質頁岩	
	146	石鏃		C-22	Ⅸ	3.3	2.3	0.9	5.6	頁岩	
	147	二次加工剥片		C-23	Ⅸ	2.4	2.7	1.7	7.2	珪質頁岩	
	148	二次加工剥片		D-23	Ⅸ	1.6	4.5	1.0	5.6	チャート	

第 28 表 縄文時代早期 (Ⅷ～Ⅹ層) 石器観察表

挿入番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
第 55 図	149	使用痕剥片		C-23	IX	2.9	3.6	1.0	8.7	頁岩	
	150	使用痕剥片		D-25	IX	4.4	2.6	0.6	6.1	頁岩	
第 56 図	151	磨製石斧		D-7	X上	5.7	5.0	1.1	47.5	ホルンフェルス	
	152	礫器		D-24	IX	7.1	10.7	1.4	117.5	砂岩	
第 57 図	153	礫器		C-15	IX	13.1	14.1	4.8	1150.0	砂岩	
	154	磨・蔽石	I類	E-24	IX	5.2	3.5	1.0	50.2	砂岩	
	155	磨・蔽石	I類	B-25	IX	8.6	6.5	4.0	298.8	砂岩	
	156	磨・蔽石	I類	C-23	IX	6.2	5.5	3.9	156.1	砂岩	
	157	磨・蔽石	I類	B-23	IX	7.1	6.6	2.8	156.4	砂岩	
	158	磨・蔽石	II類	D-25	IX	4.8	7.7	5.1	235.8	花崗岩	
	159	磨・蔽石	II類	D-9	IX上	8.1	6.9	4.8	324.4	砂岩	
	160	磨・蔽石	II類	E-24	IX	8.6	7.4	3.9	359.4	砂岩	
	161	磨・蔽石	II類	B-23	IX	13.0	10.3	3.8	750.0	砂岩	
	162	磨・蔽石	II類	E-22	IX	10.5	9.6	5.8	670.0	砂岩	
第 58 図	163	磨・蔽石	III類	B-23	IX	14.0	9.5	2.5	380.0	砂岩	
	164	磨・蔽石	III類	B-23	IX	8.1	6.4	2.0	132.8	砂岩	
	165	磨・蔽石	III類	C-22	IX	9.3	6.5	1.9	177.2	砂岩	
	166	磨・蔽石	III類	E-23	IX	11.8	7.2	3.2	360.0	砂岩	
	167	磨・蔽石	III類	C-12	Ⅷ	7.6	4.9	2.7	137.5	砂岩	
	168	磨・蔽石	V類	E-24	IX	16.6	6.6	4.8	600.0	砂岩	
	169	磨・蔽石	V類	C-23	IX	9.0	6.5	5.0	341.8	砂岩	
	170	石鏟	II類	D-24	IX	3.7	3.1	2.3	33.6	砂岩	
第 59 図	171	石皿		D-23	IX	20.6	14.4	4.9	1850.0	砂岩	
	172	石皿		D-22	IX	8.3	9.6	6.4	785.0	砂岩	
	173	石皿		C-22	IX	25.4	21.4	5.9	4390.0	砂岩	
	174	石皿		C-23	IX	13.8	13.6	5.9	2030.0	砂岩	
	175	彫器		C-23	IX	3.5	1.4	1.1	5.3	チャート	

第 29 表 縄文時代前期 (Ⅵ・Ⅶ層) 石器観察表

挿入番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
第 64 図	181	打製石鏟	II類	E-22	Ⅵ	2.1	1.9	0.3	0.8	安山岩	
	182	打製石鏟	II類	D-17	Ⅶ	2.1	1.2	0.4	0.6	瑪瑙玉髓	
	183	打製石鏟	II類	D-17	Ⅶ	2.4	1.9	0.5	1.4	安山岩	
	184	打製石鏟	IV類	D-17	Ⅶ	3.3	2.4	0.6	3.2	チャート	
	185	二次加工剥片		D-16	Ⅵ	3.2	5.5	1.1	11.0	頁岩	
	186	礫器		C-6	Ⅵ上	6.4	11.7	4.5	332.2	砂岩	
	187	磨・蔽石	III類	D-23	Ⅵ	10.1	5.8	1.4	137.0	砂岩	
	188	磨・蔽石	III類	D-9	Ⅵ上	6.4	6.4	2.7	156.3	砂岩	
	189	凹石		E-23	Ⅵ	7.9	6.3	3.6	197.0	砂岩	

第 30 表 縄文時代前期末～中世 (Ⅱ～Ⅴ層) 石器観察表 1

挿入番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
第 124 図	734	打製石鏟	II類	D-16	Ⅱ	1.7	1.6	0.3	0.7	瑪瑙玉髓	
	735	打製石鏟	IV類	C-7	Ⅱb	1.9	1.2	0.2	0.5	頁岩	
	736	打製石鏟	V類	C-6	Ⅱc	2.7	1.3	0.4	1.4	チャート	
	737	スクレイパー		C-17	Ⅳ	7.7	7.9	2.0	112.1	珪質頁岩	
	738	使用痕剥片		D-17	V	1.7	3.0	0.5	1.9	頁岩	
第 125 図	739	磨製石斧		D-8	Ⅲ	2.9	3.6	0.5	6.4	ホルンフェルス	
	740	磨製石斧		D-10	Ⅲ	7.1	4.7	2.4	100.5	ホルンフェルス	
	741	打製石斧		D-8	Ⅱc	5.0	6.0	0.9	46.3	ホルンフェルス	
	742	打製石斧		D-8	Ⅲ	6.0	5.3	1.1	54.1	ホルンフェルス	
	743	打製石斧		—	Ⅱc	8.6	7.3	1.6	139.9	安山岩	
	744	打製石斧		B-7	Ⅲ	8.9	7.1	1.7	118.4	ホルンフェルス	
	745	礫器		D-9	Ⅲ	11.4	8.0	3.3	404.5	砂岩	
	746	礫器		B-7	Ⅲ	7.0	9.9	2.6	172.8	砂岩	
第 126 図	747	礫器		D-9	Ⅲ	8.1	10.7	5.0	504.4	砂岩	
	748	礫石		C-8	Ⅱb	5.5	5.1	1.5	49.1	砂岩	
	749	磨・蔽石	I類	B-14	V	3.5	3.2	2.6	36.4	砂岩	
	750	磨・蔽石	I類	D-7	Ⅲ	5.2	4.0	2.5	73.9	砂岩	
	751	磨・蔽石	I類	D-9	Ⅲ	5.6	4.8	3.7	120.1	砂岩	
	752	磨・蔽石	I類	D-23	Ⅳ	6.4	4.6	3.0	121.6	砂岩	
	753	磨・蔽石	I類	D-23	Ⅲ	6.3	4.9	4.0	166.3	砂岩	
	754	磨・蔽石	I類	D-16	Ⅳ	7.7	7.0	2.3	177.6	砂岩	
	755	磨・蔽石	II類	C-8	Ⅲb上	8.8	7.1	2.8	240.0	砂岩	
	756	磨・蔽石	II類	B-6	V	8.8	8.8	4.0	403.9	砂岩	
第 127 図	757	磨・蔽石	II類	D-17	Ⅳ	7.1	7.9	4.5	327.0	砂岩	
	758	磨・蔽石	II類	E-10	Ⅲ	6.7	11.0	483.6	490.0	砂岩	
	759	磨・蔽石	II類	C-16	Ⅲ	7.2	10.4	5.5	580.0	砂岩	
	760	磨・蔽石	II類	C-16	V	7.8	11.2	5.9	646.0	砂岩	
第 128 図	761	磨・蔽石	III類	C-16	V	4.9	5.7	1.1	41.0	砂岩	
	762	磨・蔽石	III類	B-15	Ⅲ	5.0	4.6	1.3	40.4	砂岩	
	763	磨・蔽石	III類	E-24	Ⅲ	7.6	6.4	1.5	105.1	砂岩	
	764	磨・蔽石	III類	E-25	Ⅲ	8.5	7.1	2.0	190.0	砂岩	
	765	磨・蔽石	III類	E-10	Ⅲ	7.8	7.5	2.9	230.1	砂岩	
	766	磨・蔽石	III類	D-10	Ⅲ	6.8	8.3	2.7	200.0	砂岩	
	767	磨・蔽石	IV類	C-6	Ⅱc	7.3	6.2	2.3	191.3	砂岩	

第 31 表 縄文時代前期末～中世（Ⅱ～Ⅴ層）石器観察表 2・時期不明石器観察表

挿図番号	掲載番号	器種	分類	出土区	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	備考
第 128 図	768	磨・蔽石	Ⅳ類	C-6	Ⅱc上	10.3	9.3	2.9	384.3	砂岩	
	769	磨・蔽石	Ⅳ類	B-15	V	7.7	6.0	2.4	131.0	砂岩	
	770	磨・蔽石	Ⅳ類	C-16	V	8.1	7.2	2.3	146.0	砂岩	
	771	磨・蔽石	Ⅳ類	B-16	V	7.3	7.2	3.5	260.0	砂岩	
第 129 図	772	磨・蔽石	Ⅳ類	C-18	V	9.6	7.0	5.5	491.0	砂岩	
	773	磨・蔽石	Ⅳ類	C-16	V	12.0	9.8	6.4	833.0	砂岩	
	774	磨・蔽石	Ⅳ類	C-18	V	13.2	9.0	4.9	834.0	砂岩	
第 130 図	775	磨・蔽石	Ⅳ類	B-15	V	7.5	5.5	2.6	165.0	砂岩	
	776	磨・蔽石	V類	C-6	Ⅱc	4.5	3.2	2.7	57.0	砂岩	
	777	磨・蔽石	V類	D-7	Ⅱb	13.2	7.0	3.3	437.9	砂岩	
	778	磨・蔽石	V類	D-7	Ⅱc	7.6	2.8	2.4	57.0	砂岩	
	779	磨・蔽石	V類	B-16	V	13.4	7.2	4.3	598.0	砂岩	
	780	磨・蔽石	V類	D-17	Ⅳ	18.9	4.8	4.9	650.0	砂岩	
	781	磨・蔽石	Ⅵ類	B-15	V	4.8	8.1	4.7	223.0	砂岩	
第 131 図	782	石鏢	Ⅰ類	D-7	Ⅲ	6.3	5.7	1.1	61.1	砂岩	
	783	石鏢	Ⅰ類	D-6	Ⅲ	5.8	5.5	1.8	82.7	砂岩	
	784	石鏢	Ⅰ類	D-8	Ⅲ	6.5	4.4	1.5	58.8	砂岩	
	785	石鏢	Ⅰ類	D-8	Ⅲ	9.1	7.4	2.2	233.1	砂岩	
	786	石鏢	Ⅰ類	D-7	Ⅲb	7.3	6.1	1.7	100.6	砂岩	
	787	石鏢	Ⅰ類	D-7	Ⅲ	7.1	4.4	1.2	52.6	砂岩	
	788	石鏢	Ⅰ類	C-7	Ⅲ	9.2	2.0	2.0	161.1	砂岩	
	789	石鏢	Ⅰ類	C-D-8	Ⅲ	6.9	7.2	1.8	128.5	砂岩	
	790	石鏢	Ⅰ類	D-7	Ⅱc	8.6	7.8	2.3	205.0	砂岩	
第 132 図	791	石鏢	Ⅰ類	D-13	Ⅱ	3.4	1.9	1.3	9.7	砂岩	
	792	石鏢	Ⅰ類	D-16	Ⅲ・Ⅳ	11.1	3.8	2.0	134.0	砂岩	
	793	石鏢	Ⅰ類	C-7	Ⅲ	10.4	10.3	2.8	476.2	砂岩	
	794	石鏢	Ⅱ類	C-8	Ⅲ	3.3	2.3	1.5	14.3	砂岩	
	795	石鏢	Ⅱ類	C-5	Ⅲ	4.6	3.8	3.0	66.9	砂岩	
	796	石鏢	Ⅱ類	D-7	Ⅱb	5.7	3.9	2.8	84.7	砂岩	
第 133 図	797	石皿		B-6	Ⅱc	15.8	11.3	1.8	431.2	砂岩	
	798	石皿		B-16	V	10.0	8.2	3.5	317.0	砂岩	
	799	石皿		B-7	Ⅲ	12.7	12.8	6.9	1280.0	砂岩	
	800	石皿		D-7	Ⅲ	18.0	16.3	5.0	1955.0	砂岩	
第 134 図	801	石皿		C-5	Ⅲ上	38.0	27.4	9.2	13600.0	砂岩	
	802	石皿		C-6	Ⅱc	15.1	13.6	4.0	1330.0	砂岩	
第 135 図	803	擦切石器		C-16	Ⅲ	5.4	6.0	0.5	26.4	砂岩	
	804	軽石製品		D-7	Ⅲ	12.3	8.5	5.3	100.3	軽石	
	805	基石		D-7	Ⅱb	1.9	1.3	6.5	2.3	珪質頁岩	
	806	基石		D-7	Ⅱa	3.3	2.9	1.6	22.8	蛇紋岩	
	807	滑石製品		D-6	Ⅱb	4.5	3.8	1.2	33.2	滑石	
第 145 図	893	不明石器		B-23	表土	4.4	4.0	0.4	10.0	頁岩	

第 32 表 金属製品観察表

挿図 No.	掲載 No.	遺構	器種	出土区	層位	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
第 86 図	325	堅穴遺物跡	釣り針	E-22	—	4.9	—	0.4	2.24	
第 107 図	451	溝状遺構 2	煙管	D-11	Ⅱa	3.1	—	1.6	5.19	青銅製
第 144 図	892		和釘	D-6	Ⅱc上	3.2	1.0	0.9	3.24	
第 146 図	894		刀子	C-6	Ⅱb	7.6	1.4	0.5	9.36	小柄の可能性あり
	895		刀子	B-7	Ⅱa	4.1	1.0	0.4	2.69	
	896		鎌	D-7	Ⅱa	7.9	3.3	0.9	20.59	鍛鉄
	897		雁股織	E-10	Ⅱc上	13.0	6.1	—	45.56	鉄織
	898		雁股織	D-8	Ⅱb	8.7	3.9	2.0	18.23	鉄織
	899		槍先か?	C-7	Ⅱa	5.3	2.4	0.6	11.18	皆折釘
	900		和釘	C-7	Ⅱa	6.6	0.8	1.0	6.76	皆折釘
	901		和釘	C-6-7	Ⅱa	6.2	1.9	1.4	18.81	皆折釘
	902		和釘	D-7	Ⅱb	5.1	1.0	0.9	3.48	皆折釘
	903		和釘	D-7	Ⅱc	3.5	0.9	0.9	2.70	皆折釘
	904		和釘	D-7	Ⅱc上	3.5	1.8	0.9	3.77	皆折釘
	905		和釘?	B-11	Ⅱa	4.9	2.2	1.2	15.05	平折釘・さっぱ釘・楔などの可能性
	906		和釘	D-7	Ⅱa下	8.7	0.8	0.7	5.89	合釘
	907		鉄鍋	C-8	Ⅱa	4.2	5.5	1.5	27.92	鋳鉄製
	908		小札	C-7	Ⅱb上	3.3	2.2	0.3	3.54	
909		蹄鉄	C-6	Ⅱc上	11.0	2.2	0.9	63.82		
910		不明鉄製品	C-14	I	7.0	6.0	1.7	62.19		
911		古銭	C-6	Ⅱb上	2.4	2.4	0.3	4.85	2枚重なり、洪武通寶	
912		古銭	D-6	Ⅱa	2.3	2.3	0.15	1.95	洪武通寶	

## 第V章 自然科学分析

株式会社 古環境研究センター

### 第1節 自然科学分析の概要

野首遺跡から出土した試料について自然科学分析を行った。分析内容は、放射性炭素年代測定および樹種同定である。以下に、分析項目ごとに試料の詳細、分析方法、分析結果および考察・所見を記載する。

### 第2節 放射性炭素年代測定

#### 1. はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素(14C)の濃度が放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である(中村, 2003)。

#### 2. 試料

試料は、No.1～No.7の炭化材およびNo.8の貝殻(イボキサゴ)、掲載番号274の土器(No.9:取上番号10025)の外面に付着した炭化物の計9点である。第33表に試料の詳細を示す。

#### 3. 方法

放射性炭素年代測定は、加速器質量分析法(AMS: Accelerator Mass Spectrometry)により、次の手順で行った。1)酸-アルカリ-酸(AAA: Acid Alkali Acid)処理により不純物を除去、2)試料を燃焼させて二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を精製、3)水素で還元してグラフアイト化、4)AMS装置で炭素安定同位体比(13C/12C)および14C濃度(14C/12C)を測定。

#### 4. 測定結果

AMS法によって得られた14C濃度について同位体分別効果の補正を行い、放射性炭素(14C)年代および暦年代(較正年代)を算出した。第33表にこれらの結果を示し、第147・148図にNo.1～No.9の暦年較正結果(較正曲線)、第149図にNo.1～No.7について暦年較正年代マルチプロット図を示す。

##### (1) デルタδ 13C測定値

試料の測定14C/12C比を補正するための炭素安定同位体比(13C/12C)。この値は標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表す。試料のδ13C値を-25(‰)に標準化することで同位体分別効果を補正している。

(2) 放射性炭素(14C)年代測定値(BP: Before Physics)

試料の14C/12C比から、現在(AD1950年基点)から何

年前かを計算した値。14Cの半減期は5730年であるが、国際的慣例によりLibbyの5568年を使用している。付記した統計誤差(±)は1シグマσ(68.27%確率)である。14C年代値は下1桁を丸めて表記するのが慣例であるが、暦年較正曲線が更新された場合のために下1桁を丸めない暦年較正用年代値を併記した。

(3) 暦年代(Calendar Years: cal BC / AD, cal: calibratedの略)

放射性炭素年代を実際の年代値に近づけるために、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中14C濃度の変動および14Cの半減期の違いを較正した値。暦年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な14C測定値などから作成された較正曲線を使用した。較正曲線のデータはIntCal 20(海洋性試料のNo.8についてはMarine20)、較正プログラムはOxCal 4.4である。

暦年代(較正年代)は、14C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅で表し、OxCalの確率法により1σ(68.27%確率)と2σ(95.45%確率)で示した。較正曲線が不安定な年代では、複数の値が表記される場合もある。()内の%表示は、その範囲内に暦年代が入る確率を示す。グラフ中の縦軸上の曲線は14C年代の確率分布、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

#### 5. 所見

放射性炭素年代測定の結果、炭化材のNo.1では1645±20年BP、No.2では1705±20年BP、No.3では1670±20年BP、No.4では1175±20年BP、No.5では1195±20年BP、No.6では1195±20年BP、No.7では1305±20年BPの年代値が得られた。各試料の暦年代の範囲を第149図(暦年較正年代マルチプロット図)に示す。No.8の貝殻(イボキサゴ)では3535±20年BP(2σの暦年代でBC1448～1157年)の年代値が得られた。

土器(No.9)の外面に付着した炭化物では3365±20年BP(2σの暦年代でBC1739～1713, 1694～1608, 1604～1602, 1583～1559, 1556～1544年)の年代値が得られた。

なお、樹木(炭化材)による年代測定結果は、樹木の伐採年もしくはそれより以前の年代を示しており、樹木の心材に近い部分や転用材が利用されていた場合は、考古学的所見よりも古い年代値となることがある。

#### 参考文献

中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の14C年代編集委員会編「日本先史時代の14C年代」. 日本第四紀学会, p.3-20.

中村俊夫(2003)放射性炭素年代測定法と暦年代較正.

環境考古学マニュアル. 同成社, p. 301-322.

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), p. 337-360.

Paula J Reimer et al. (2020) The IntCal 20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 kcal BP). *Radiocarbon*, 62(4), p. 725-757.

Heaton, T.J. et al. (2020) Marine 20-the marine radiocarbon age calibration curve (0-55,000 cal BP), *Radiocarbon* 62(4), p. 779-820.

### 第3節 炭素・窒素安定同位体比分析

#### 1. はじめに

土器付着炭化物は、一般的に食材を煮炊きした後の残渣（おこげ）や吹きこぼれと考えられている。食材から土器付着炭化物が生成される際の同位体分別を正確に把握するのは困難であるが、大きな統成作用を受けていなければ、付着炭化物の炭素および窒素の安定同位体比は、給源となった食材（海産動物、海産魚貝類、草食動物、C3植物、C4植物など）の同位体比を保持していると考えられる（吉田, 2006 など）。

#### 2. 試料

分析試料は、放射性炭素年代測定に用いられたものと同一の土器付着炭化物（No. 9）である。

#### 3. 方法

不純物を除去した試料を正確に秤量し、スズカプセルに封入してEA（ガス化前処理装置）の燃焼管に入れ、生成したガスを酸化触媒で完全酸化させてCO<sub>2</sub>, NO<sub>x</sub>, H<sub>2</sub>Oとした。還元カラムでNO<sub>x</sub>をN<sub>2</sub>に還元し、Mg(ClO<sub>4</sub>)<sub>2</sub>トラップでH<sub>2</sub>Oを除去した後、分離カラムで分離したCO<sub>2</sub>およびN<sub>2</sub>ガスを質量分析計に導入して炭素安定同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）および窒素安定同位体比（ $\delta^{15}\text{N}$ ）を測定した。また、得られた炭素含有量と窒素含有量に基づいてC/N比（モル比）を算出した。

#### 4. 結果

第34表に、炭素・窒素安定同位体比、炭素・窒素含有量、C/N比（モル比）を示す。また、第150図におもな食材の炭素・窒素安定同位体比、第151図に炭素安定同位体比とC/N比の関係を示し、試料の測定結果をプロットした。その結果、No. 2-1は炭素・窒素安定同位体比（第150図）ではC3植物の上位、炭素安定同位体比とC/N比の関係（第151図）では土壌（黒色土）の位置にプロットされた。

#### 5. 考察

炭素・窒素安定同位体比分析の結果、No. 2-1はC3植物の上位（炭素安定同位体比がC3植物の範囲で窒素安定同位体比がC3植物より高い位置）にプロットされた。この領域については、水稻や淡水魚に由来する可

能性が指摘されているが（米田・井上, 2019, 米田ほか, 2019）、炭化による同位体比変動の影響など未解明な部分もあることから、さらに慎重な検討が必要と考えられる。また、No. 2-2は土器外面の付着炭化物であり、燃料材による炭化物（煤）の影響や土壌（黒色土）の影響も想定される。土壌による影響の有無については、植物珪酸体分析による検証が有効と考えられる。

#### 参考文献

南川雅男（2003）炭素・窒素同位体分析による食性解析。環境考古学マニュアル. 同成社, p. 283-291.

吉田邦夫（2006）煮炊きして出来た炭化物の同位体分析。新潟県立歴史博物館研究紀要7, p. 51-58.

吉田邦夫（2008）越後新潟に咲いた縄文の華。東京大学アイソトープ総合センターニュース vol. 39, p. 2-7.

吉田邦夫・西田泰民（2009）考古学が探る火炎土器。新潟県立歴史博物館編「火焔土器の国 新潟」。新潟日報事業社, p. 87-99.

米田穰（2004）炭素・窒素同位体による古食性復元。環境考古学ハンドブック. 朝倉書店, p. 411-418.

米田穰・井上貴央（2019）青谷上寺地遺跡出土人骨の炭素・窒素同位体と放射性炭素年代。青谷上寺地遺跡発掘調査研究年報2019, p. 45-55.

米田穰・菊地有希子・那須浩郎・山崎孔平（2019）同位体分析による弥生時代の水稻利用の評価にむけて：同位体生態学的な背景と実験水田における基礎研究。農耕文化複合形成の考古学（下）—農耕のもたらしたもの、雄山閣, p. 209-230.

### 第4節 樹種同定

#### 1. はじめに

木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、解剖学的形質の特徴から樹種の同定が可能である。木材は花粉などの微化石と比較して移動性が小さいことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であり、遺跡から出土したものについては木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

#### 2. 試料

試料は、炭化物集中土坑から採取されたNo. 4～No. 6の炭化材3点である。試料の詳細を第33表に示す。

#### 3. 方法

以下の手順で樹種同定を行った。1）試料を洗浄して付着した異物を除去、2）試料を割折して木材の基本的三断面（横断面：木口、放射断面：柁目、接線断面：板目）を作成、3）落射顕微鏡（40～1000倍）で観察し、木材の解剖学的形質や現生標本との対比で樹種を同定。

#### 4. 結果

第35表に同定結果を示す。以下に同定根拠となった木材構造の特徴を記載し、写真図版に各分類群の顕微鏡

写真を示す（第 152 図）。

### クスノキ *Cinnamomum camphora* Presl クスノキ科

中型から大型の道管が単独および2～数個放射方向に複合して散在する散孔材である。道管の周囲を鞘状に軸方向柔細胞が取り囲んでいる。道管の穿孔は単穿孔で、道管の内壁にらせん肥厚が存在する。放射組織は異性放射組織型で1～2細胞幅である。上下の縁辺部の直立細胞のなかには、しばしば大きく膨れ上がったものがみられる。

以上の特徴からクスノキに同定される。クスノキは、関東以西の本州、四国、九州、沖縄に分布する。常緑の高木で、通常高さ25 m、径80cmぐらいであるが、高さ50 m、径5 mに達するものもある。

### 5. 所見

樹種同定の結果、No.4～No.6の炭化材は、いずれもクスノキと同定された。クスノキは、堅硬で保存・耐朽性が高く芳香がある材で、防虫・防腐作用がある。ひび割れが起こりにくい長所があり、木白のほか、槽、鉢など

の容器、柱などの建築部材、井戸板、鋏や舟などの用材に利用される。クスノキを含むクスノキ科の木材は、割裂は難しいが火持ちが良くきれいに燃え、灰も少ない特徴がある。クスノキは、照葉樹林の主要構成要素であり、湿潤で肥沃な土地を好み、西南日本では沿岸にも多く分布する。

### 参考文献

伊東隆夫・山田昌久（2012）木の考古学。出土木製品用材データベース。海青社、449p.

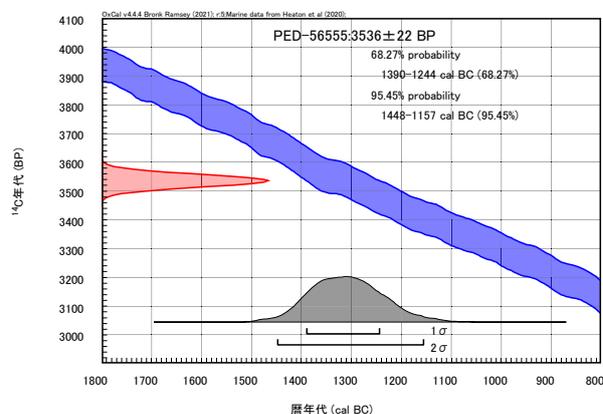
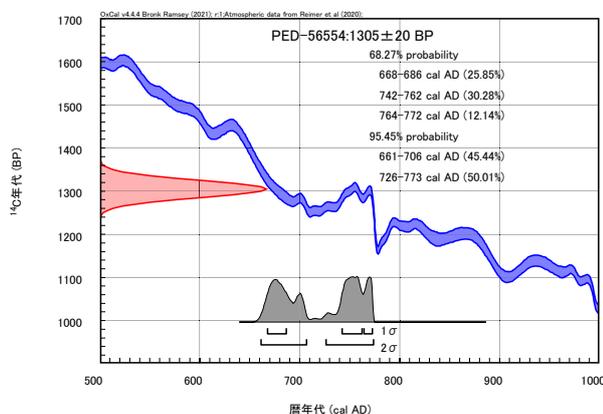
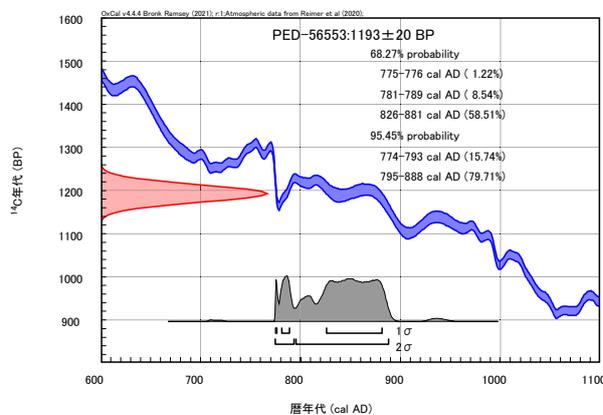
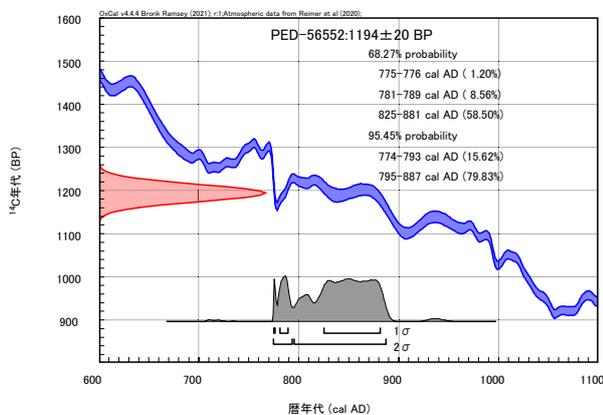
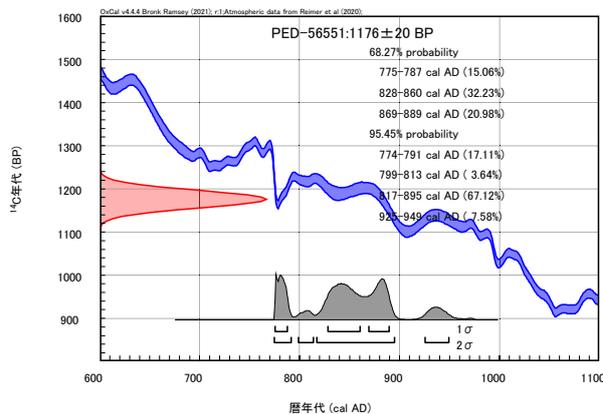
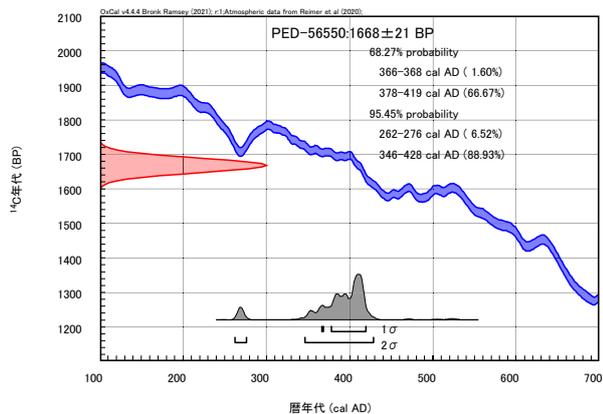
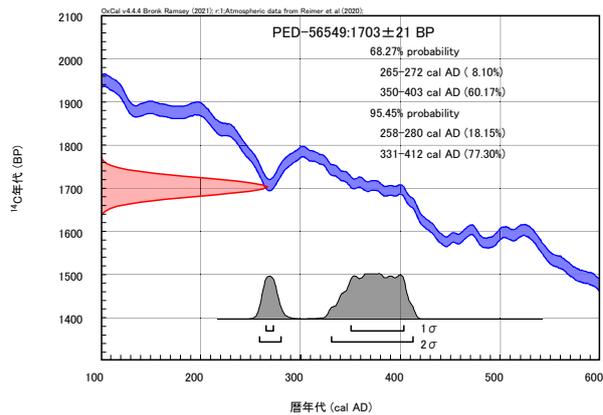
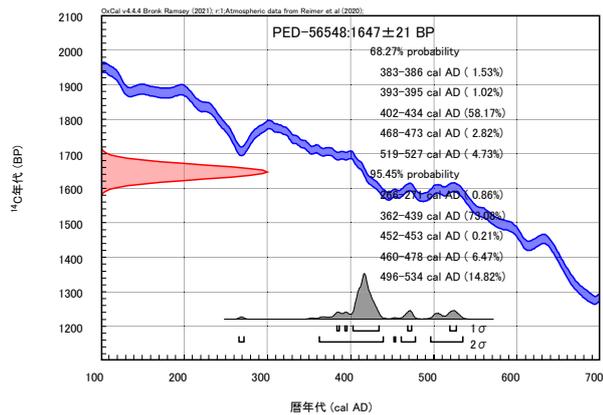
島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塩倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司（1985）木材の構造。文永堂出版、290p.

島地 謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧。雄山閣、296p.

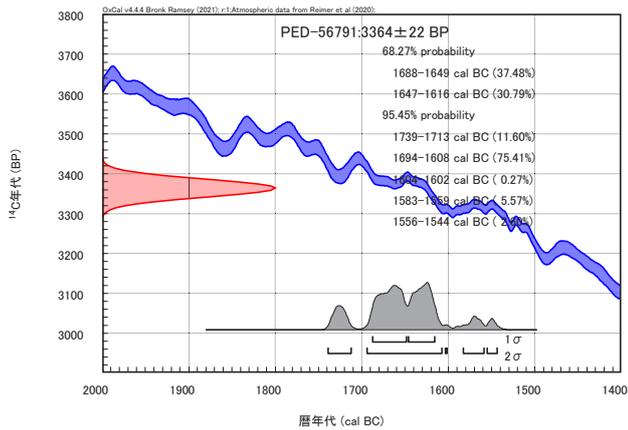
山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成—用材から見た人間・植物関係史。植生史研究特別1号。植生史研究会、242p.

第 33 表 放射性炭素年代測定結果

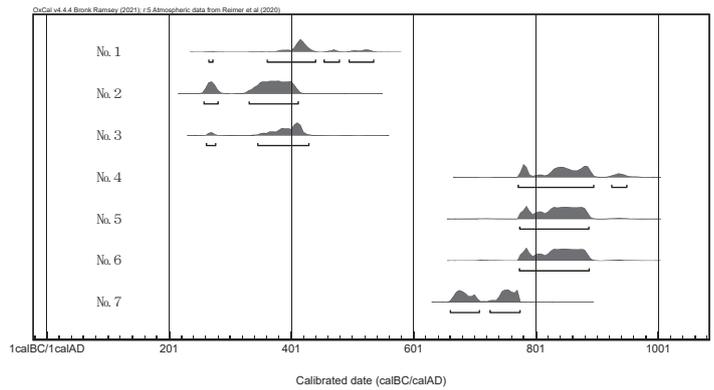
試料 No.	測定No. PED-	試料詳細	種類	前処理	$\delta^{13}C$ (‰)	14C年代:年BP (暦年校正用)	暦年代(較正年代):cal-	
				測定法			1 $\sigma$ (68.27%確率)	2 $\sigma$ (95.45%確率)
1	56548	堅穴建物跡炭化物① 取上557	炭化材	AAA処理 AMS法	-28.80 ± 0.18	1645 ± 20 (1647 ± 21)	AD 383-386 ( 1.53%) AD 393-395 ( 1.02%) AD 402-434 (58.17%) AD 468-473 ( 2.82%) AD 519-527 ( 4.73%)	AD 266-271 ( 0.86%) AD 362-439 (73.08%) AD 452-453 ( 0.21%) AD 460-478 ( 6.47%) AD 496-534 (14.82%)
2	56549	堅穴建物跡炭化物② 取上558	炭化材	AAA処理 AMS法	-27.26 ± 0.20	1705 ± 20 (1703 ± 21)	AD 265-272 ( 8.10%) AD 350-403 (60.17%)	AD 258-280 (18.15%) AD 331-412 (77.30%)
3	56550	堅穴建物跡炭化物③ 取上560	炭化材	AAA処理 AMS法	-27.66 ± 0.18	1670 ± 20 (1668 ± 21)	AD 366-368 ( 1.60%) AD 378-419 (66.67%)	AD 262-276 ( 6.52%) AD 346-428 (88.93%)
4	56551	土坑5号炭化物①	炭化材	AAA処理 AMS法	-25.62 ± 0.18	1175 ± 20 (1176 ± 20)	AD 775-787 (15.06%) AD 828-860 (32.23%) AD 869-889 (20.98%)	AD 774-791 (17.11%) AD 799-813 ( 3.64%) AD 817-895 (67.12%) AD 925-949 ( 7.58%)
5	56552	土坑5号炭化物②	炭化材	AAA処理 AMS法	-26.32 ± 0.18	1195 ± 20 (1194 ± 20)	AD 775-776 ( 1.20%) AD 781-789 ( 8.56%) AD 825-881 (58.50%)	AD 774-793 (15.62%) AD 795-887 (79.83%)
6	56553	土坑5号炭化物③	炭化材	AAA処理 AMS法	-25.12 ± 0.19	1195 ± 20 (1193 ± 20)	AD 775-776 ( 1.22%) AD 781-789 ( 8.54%) AD 826-881 (58.51%)	AD 774-793 (15.74%) AD 795-888 (79.71%)
7	56554	土坑墓床面炭化物	炭化材	AAA処理 AMS法	-25.58 ± 0.19	1305 ± 20 (1305 ± 20)	AD 668-686 (25.85%) AD 742-762 (30.28%) AD 764-772 (12.14%)	AD 661-706 (45.44%) AD 726-773 (50.01%)
8	56555	土坑3号埋土1内貝殻① イボキサゴ	貝殻	酸エッチング AMS法	2.53 ± 0.18	3535 ± 20 (3536 ± 22)	BC 1390-1244 (68.27%) Marine20 使用	BC 1448-1157 (95.45%) Marine20 使用
9	56791	掲載番号274土器(外面)付着炭化物10025	炭化物	AAA処理 AMS法	-26.93 ± 0.16	3365 ± 20 (3364 ± 22)	BC 1688-1649 (37.48%) BC 1647-1616 (30.79%)	BC 1739-1713 (11.60%) BC 1694-1608 (75.41%) BC 1604-1602 ( 0.27%) BC 1583-1559 ( 5.57%) BC 1556-1544 ( 2.60%)



第 147 図 暦年較正結果 1 (試料 No. 1 ~ 8)



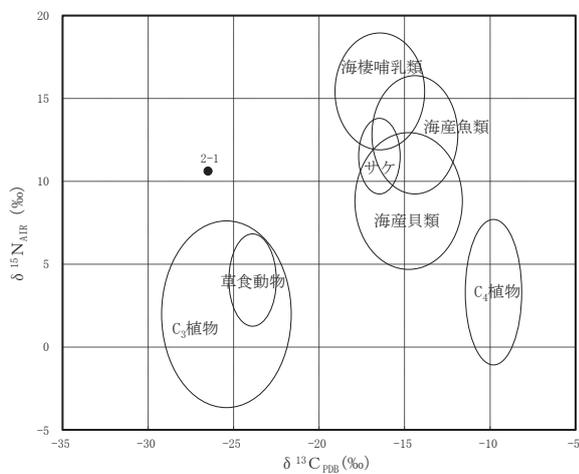
第 148 図 暦年較正結果 2 (試料 No. 9)



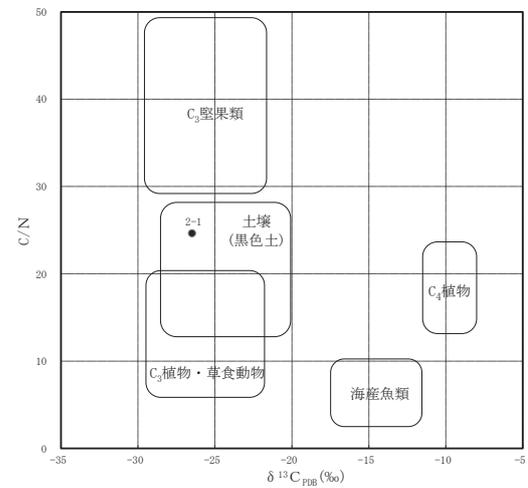
第 149 図 暦年較正年代マルチプロット図 (試料 No. 1 ~ 7)

第 34 表 炭素・窒素安定同位体比分析結果

試料 No.	試料の詳細	種類	$\delta^{13}C_{PDB}$ (‰)	$\delta^{15}N_{AIR}$ (‰)	炭素含有量 (%)	窒素含有量 (%)	C/N 比 (モル比)
9	掲載番号 274 土器 (外面) 付着 炭化物 10025	炭化物	-26.5	10.6	43.2	2.04	24.6



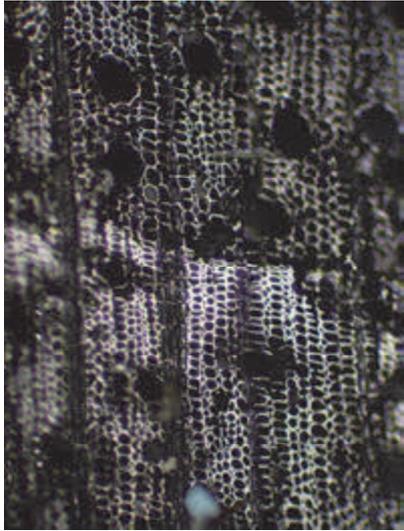
第 150 図 炭素・窒素同位体比 (吉田・西田 (2009) に基づく)



第 151 図 炭素安定同位体比と C/N 比の関係 (吉田・西田 (2009) に基づく)

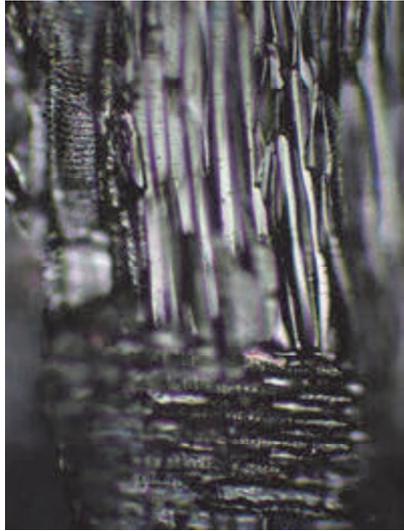
第 35 表 樹種同定結果

試料 No.	試料の詳細	結果 (学名/和名)
4	土坑 5 号 炭化物①	<i>Cinnamomum camphora</i> Presl クスノキ
5	土坑 5 号 炭化物②	<i>Cinnamomum camphora</i> Presl クスノキ
6	土坑 5 号 炭化物③	<i>Cinnamomum camphora</i> Presl クスノキ



横断面  
クスノキ No. 4

0.1mm



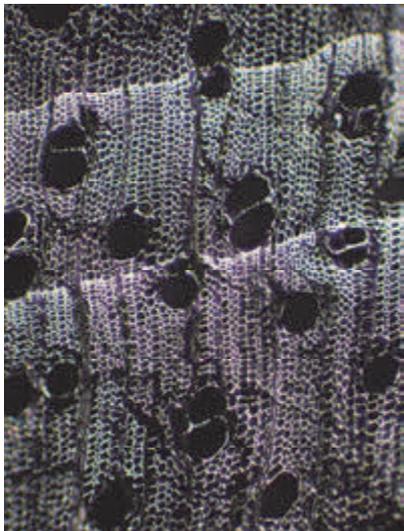
放射断面

0.1mm



接線断面

0.1mm



横断面  
クスノキ No. 5

0.1mm



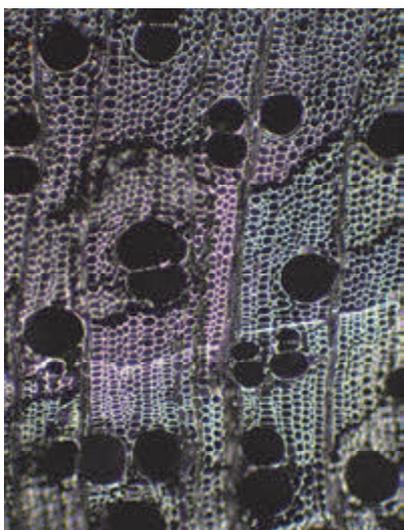
放射断面

0.1mm



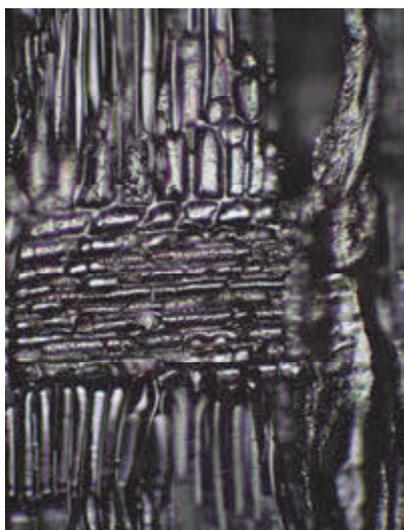
接線断面

0.1mm



横断面  
クスノキ No. 6

0.1mm



放射断面

0.1mm



接線断面

0.1mm

第 152 図 炭化材の顕微鏡写真

## 第VI章 総括

### 第1節 旧石器時代

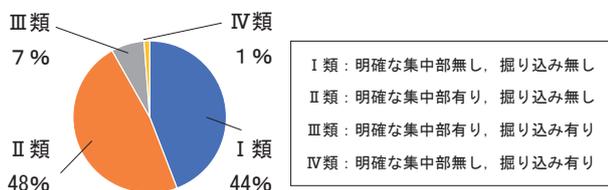
遺構は、XII・XIII層から礫群が2基検出された。構成礫の重量は200g以下のものが50%以上を占め、石材が全て同一であることから、野首遺跡周辺で入手しやすく多量の運搬も容易な重量の砂岩が利用されていたと想定される。遺構内出土遺物のハンマーは砂岩製だが重量は400gを超え、道具としての使用にある程度の重量が必要だったと考える。

包含層遺物は剥片石器が2点、礫石器が3点出土している。剥片石器は砂岩製の三稜尖頭器と三船産の黒曜石製と想定されるナイフ形石器で、特にナイフ形石器は欠損が大きい。礫石器は全て砂岩製の敲石と台石で、加工は施さず自然礫を用いている。

### 第2節 縄文時代

#### 1 早期

遺構は集石86基と土坑2基が検出されたが、ここでは集石の特徴について述べる。ほとんどが調査区東側の緩やかな斜面に密集しているが、一部は調査区西側にある谷地形の小高い地点からやや低い地点にかけて検出された。集石は礫の集中部や掘り込みの有無によってI～IV類に分類し、その割合について次のグラフで示した。



第153図 集石遺構I～IV類の割合

調査区西側～中央部で検出された集石9・34・38号は、I類に分類される。それ以外のI・II類は、前川に向けて傾斜するB～E-19～25区に集中している。III・IV類はC～F-17～24区に散在しており、検出地点に類ごとの傾向は見られない。構成礫は破碎礫がほとんどで、類ごとの重量に傾向はなく200g以下の礫が大部分を占める。遺構内出土土器はI類集石から後述する1～5類土器、II類集石から1・2・4・5類土器、III類集石から2類土器が出土し、時期差を判断することはできない。

土器は1類～5類に分類した。1類は横位の貝殻条痕及び内面のケズリを特徴とする一群で、前平式土器に該当する。2類は胴部の綾杉条痕文を特徴とする土器群で、石坂式土器に該当する。口縁部資料が少ないが、外反するものが主体であると考えられ、先行研究による石坂I

式土器（前迫2003）に該当すると考えられる。3類は縦位に近い条痕文を特徴とし、別類としたが2類の石坂式土器に近い土器群であると考えられる。4類は胴部に羽状の貝殻刺突文を施すもので、いずれも下剥峯式土器の範疇であると考えられる。5類は胴部の流水文、短沈線の特徴とする一群で、桑ノ丸式土器に該当する。遺構、包含層遺物ともに早期前葉の土器群に限定されている。

出土した石器組成は以下のとおりで、磨・敲石と石皿、石鏃の出土が顕著である。これは宮田栄二の「集石が多く検出されている草創期から早期の遺跡は、石器組成の中で磨石・敲石類が比例して多い」という指摘と合致する（宮田1999）。また、C-23区とその周辺にはチップの出土が集中し、製作跡の可能性が想定される。

第36表 縄文時代早期出土の石器組成

器種名	石鏃	石匙・スクレイパー	石鏃	二次加工剥片	使用痕剥片	磨製石斧
出土数	23	5	1	2	2	1
器種名	礫器	磨・敲石	石鏃	石皿	彫器	チップ
出土数	6	49	3	28	1	215

住居跡など定住生活を示す遺構がなく、集石も掘り込みをもたない簡易な構造がほとんどであることから、本遺跡は季節的利用など一過性のキャンプ地的な役割があったと考えられる。

#### 2 前期

遺構は、土坑が2基検出された。土坑3号は、イボキサゴ約500点が集中して出土しており、ある程度埋まった土坑の中央を掘り石器等とともに廃棄されたような状況である。逆茂木痕がないため土坑に分類しているが、XIII層までの深い垂直な掘り込みであることから落とし穴の製作途中であった可能性も否定できない。

遺物は6類に分類し、前期末の深浦式土器日木山段階（相美2006）に該当する。当該期はこの6類土器しかみられず、出土区もD-23～25区のみと非常に限定的である。早期の集石群が集中するエリアと被って少量出土することから、早期からの生活域は大きく変わらないものの、人の生活の痕跡はこの時期で一度途切れると考えられる。

#### 3 後期～晩期

遺構は、遺物が集中する区から外れた地点（E-22区）で当該期のものと考えられる落とし穴が1基検出されているのみである。落とし穴は本来、数基が配列されることが多いが、本遺跡では周囲に他の落とし穴や類似した土坑は見られなかった。

後期土器は7類～12類に分類した。7類は後期初頭～前半頃までの土器群で、出土数は非常に少ない。8類はいわゆる丸尾式土器に該当し、本遺跡の後期土器で最も出土量が多い。頸部に段をもつもの、もしくは市来式土器からの流れをくんで沈線と貝殻刺突文を組み合わせるものを古段階とし（8a類）、頸部の段がなくなり1段の貝殻刺突文のみになるなど簡略化が進んだものを新段階とした（8b類）。9類土器は磨消縄文系とし、9a類はいわゆる辛川式土器、納曾式土器をまとめた。辛川式（249～252）は口縁部が内面に屈曲せず、頸部の屈曲が比較的なからで、本遺跡出土の土器群は縄文の施紋がみられない。253～257は納曾式に該当するものであり、いずれも胎土や色調の共通性が高いが、納曾式は辛川式の地域の変異として扱うべきという意見があり（恵島2013）、今回は辛川式と同分類に含めている。9b類は西平式土器に該当し、口縁部の内面への屈曲が著しい、頸部に明確な稜をもって屈曲することなどから分類した。10類は中岳Ⅱ式土器に該当し、器形や施紋の特徴などからみると新段階に該当するものが中心となると考えられる（宮崎2023）。また、274は科学分析によってBC1694-1608の年代が得られ、志布志市稲荷迫遺跡出土の中岳Ⅱ式土器と近い年代が得られている。

晩期該当の13類は黒川式土器に比定される。黒川式のなかでもいわゆる干河原段階のものと考えられる（東2009）。295は波状口縁の波長部に凹点をもつもので、この口縁部形態は鹿児島市前原遺跡で類例が見られる。

本遺跡では、縄文時代早期後葉～前期末及び縄文時代中期の空白期間を経て、後期に入ると徐々に遺物が増え、丸尾式の時期（縄文時代後期後半の初めごろ）にまとまった出土量がみられる。その後は晩期にかけて遺物が連綿と見られるものの、再び遺物数が減少する傾向にある。定住をうかがわせる遺構は確認されていないものの、当該期に本遺跡もしくは近隣で人と遺物の一定数の行き来があったことは明らかである。

### 第3節 弥生時代

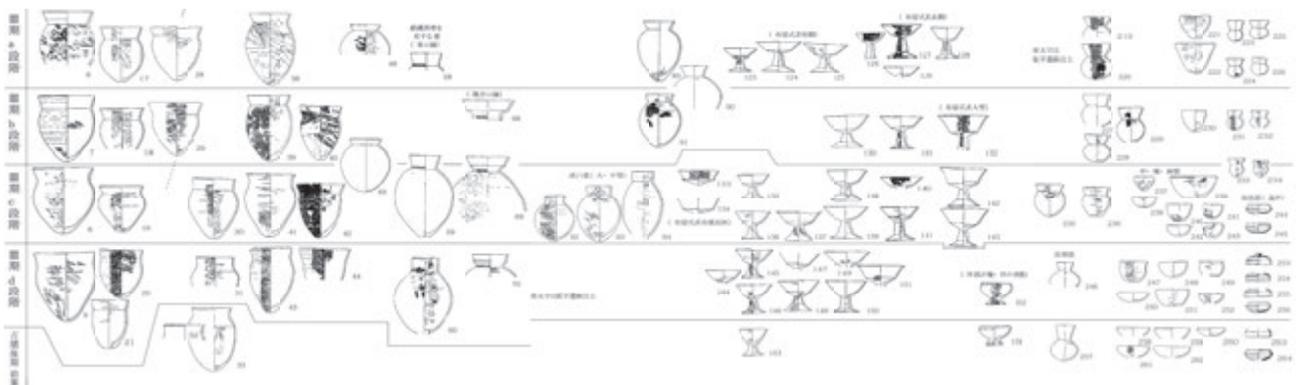
弥生時代は遺構が確認できず、遺物も非常に少ない。出土土器は、縄文時代晩期からの流れをくむ刻目突帯文土器と、弥生時代中期の incoming II 式土器のみが確認されている。

### 第4節 古墳時代

古墳時代では竪穴建物跡が検出されているが、竪穴建物跡内の炭化物3点の年代（較正年代でAD362-439, AD331-412, AD346-428）から見ると、いずれもおおよそ4世紀半ば～5世紀前半の範囲に収まり、古墳時代中期後半～後期前半に該当する。竪穴建物跡の時期はおおよそこの時期と考えられるが、建物内から出土した土器が床面からやや浮いた埋土中であること、成川式土器のなかでも中津野式段階の壺（317～320）と笹貫式段階の甕（314～316）が混在していることに加え縄文時代の土器片も混在することなどから、一括資料として扱うことは難しいと考える。

竪穴建物内出土遺物で特徴的なものは釣り針（325）である。県内では指宿市橋牟礼川遺跡、奄美市の小湊フワガネク遺跡・マツノト遺跡・安良川遺跡・長浜金久第1遺跡で出土しており、なかでも橋牟礼川遺跡の釣り針は本遺跡と同様に先端にカエシがつくものである。県外でもいくつか出土例があるが、宮崎県新富町西畦原第2遺跡のものは本資料と形状・大きさなどが類似する。前述のとおり、竪穴建物跡内の遺物を一括資料として扱うことは難しいため年代の特定は難しいが、カエシのついた釣り針は県内での数少ない出土例のひとつである。

包含層の土器は、成川式土器の甕・壺・高坏・埴・模倣坏・鉢・ミニチュアなどの器種が出土している。成川式土器の編年は、県内では中村直子による編年（中村1987 以下「中村編年」とする）を中心に利用されてきたが、今回は松崎大嗣による編年（松崎2021 以下「松崎編年」とする）が属性分析により再整理及び細分類されていると考え、分類・編年の参考とした。ただし、本



第154図 板平遺跡出土土器の変遷的位置（宮崎県埋蔵文化財センター2011より一部引用）

遺跡を含む志布志湾沿岸地域の成川式土器は地域性が強く、従来県内で使われてきた土器編年を当てはめた際に器種間で時期差が生じるという問題がある。整理作業を進めるなかで、宮崎県日向市板平遺跡で示された編年（第154図）が本遺跡の土器整理に有効であると判断したため、松崎編年と合わせて概観する。

甕は口縁部が直行するバケツ型のものにほぼ限定され、中村編年・松崎編年の笹貫式に比定される。丸底甕(340～343)は板平遺跡の編年におけるⅢ期c段階のものと器形が類似する。壺は、底部に狭い平坦面を有する377は中津野式に比定されるが、それ以外の口縁部や器形の特徴を見ると、板平遺跡のⅢ期c～d段階の壺と類似する。高坏は、口縁部1類は辻堂原式期、口縁部2類の大きく開く器形は笹貫式期にみられる高坏と類似する。板平遺跡の編年に当てはめると、口縁部・脚部ともおよそⅢ期c～d段階に比定され、屈曲部に段をもつ385はやや古いⅢ期b段階ごろに遡る可能性がある。埴は胴部が丸みを帯びて張り出すものが見られ、東原式段階の埴の器形と類似するが、大隅半島ではこの器形が笹貫式段階まで残る傾向にある<sup>(1)</sup>。模倣坏としたものは板平遺跡の編年における古墳後期前葉にあたるもの(第154図260等)と類似する。

包含層出土土器を概観すると、器種によっては多少の時期差が見られるものの、松崎編年に当てはめると辻堂原式～笹貫Ⅰ式に並行する土器群であり、板平遺跡の編年ではⅢ期c～d段階に類似するものがほとんどである。

本遺跡の包含層出土土器は、古墳時代中期中葉～後葉にかけての土器群であるといえる。これは堅穴建物跡の年代の範疇に入り、包含層の土器群と平行して堅穴建物跡が存在した可能性が高いことを示すが、遺物集中区と堅穴建物跡検出区が離れており(第83図・第87図参照)、遺跡外にも当該期の生活跡が残っている可能性がある。

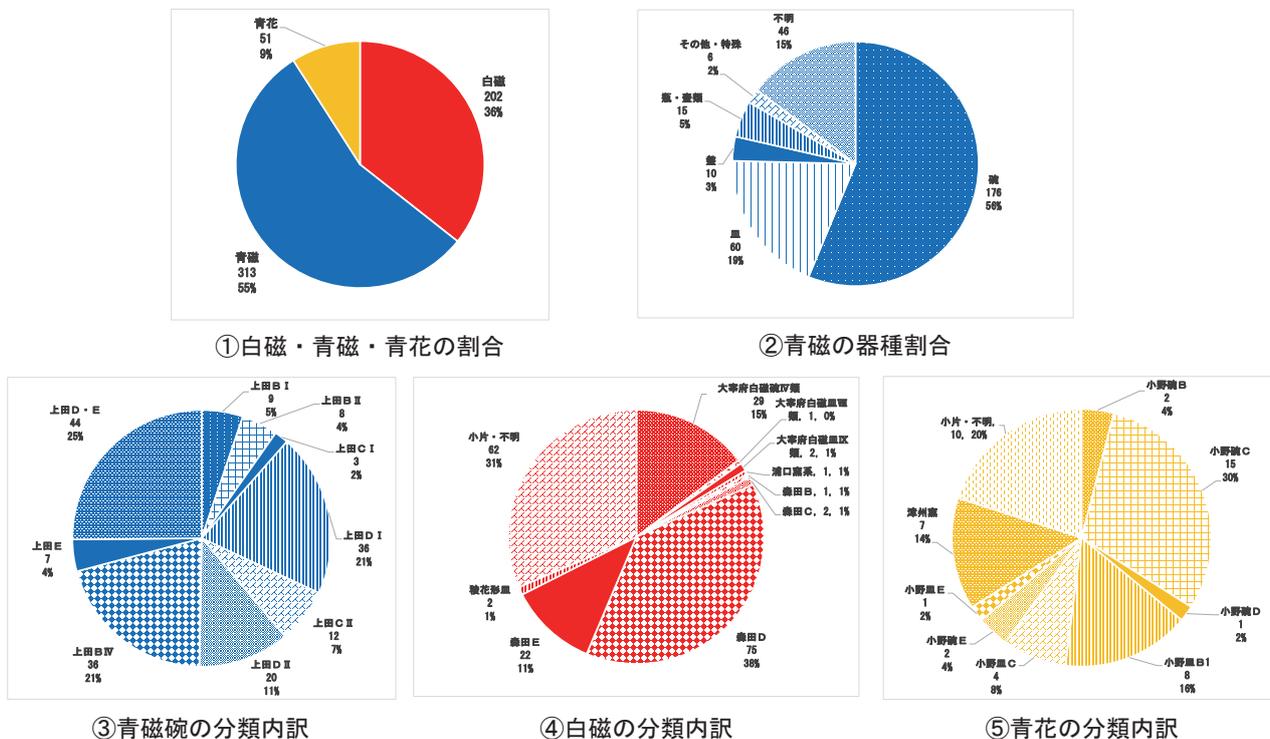
## 第5節 古代

遺構は土坑墓1基と土坑1基が検出された。土坑墓から出土した土師器の鉢は床面からやや浮いた状態で、埋土からは判断できなかったが、死床があった可能性もある。土坑からは焼土域と炭化物が検出され、何らかの火を扱う施設であったことが想定されるが、調理や金属加工など具体的な用途は判断できない。遺物は土師器とわずかだが黒色土器、須恵器、製塩土器が出土した。土師器はヘラ切り底にナゲ調整を施したものが散見され、宮崎平野部の古代土師器にも同様の特徴が見られることから(堀田2012)、日向国からの影響がうかがえる。

## 第6節 中世

遺構では、溝状遺構が3条と掘立柱建物跡が1棟検出された。溝状遺構は硬化面が確認できず、道として使われた可能性は低い。掘立柱建物跡は溝状遺構と離れており、明確な時期を示す遺物も出土していないため、この2つの遺構の時代的關係は不明である。

### 1 輸入磁器組成



第155図 野首遺跡包含層出土輸入磁器の分類比

本遺跡では国内外の陶磁器が多数出土している。本遺跡から出土した輸入磁器の組成を第155図に示す。なお、表土や攪乱層からの出土も多く見られたが、組成把握はⅡ層以下の輸入磁器に限定した。

白磁・青磁・青花の割合を見ると(第155図①)、青磁55%、白磁36%、青花9%であった。青磁の器種は碗と皿で75%を占め、志布志城でも一定数みられる器種である瓶・壺類が5%を占める(第155図②)。青磁については碗が安定して出土するため、碗の分類内訳を示した(第155図③)。14世紀後半～15世紀初めの上田BⅡ・CⅠ・DⅠ類で27%、15世紀前半～中葉の上田CⅡ・DⅡ類で18%、15世紀後半～16世紀前半の上田BⅣ・E類で25%と、14世紀後半から16世紀前半にかけての青磁が満遍なく出土している。白磁の分類内訳を見ると(第155図④)、11世紀後半～12世紀前半の大宰府編年白磁碗Ⅳ類が15%と比較的高い割合を占める。最も安定して出土するのは15世紀前半～中葉の森田D群が38%、15世紀後半～16世紀にかけての森田E群が11%を占める。青花について(第155図⑤)、15世紀前半～中葉の小野碗B群が少量見られ、15世紀後半～16世紀前半の小野碗C・碗D・皿BⅠ・皿C群で56%と半数以上を占める。16世紀後半～17世紀にかけて大量生産されたとされる漳州窯系も14%を占める。

以上のように、輸入磁器の年代で見ると、11世紀後半～12世紀前半に白磁碗Ⅳ類に代表される遺物の流入がわずかに見られたのち、12世紀後半～14世紀の空白期間が見られる。15～16世紀になると遺物数が増えることから、本遺跡の中心はこの時期であるといえる。

## 2 志布志城跡との関連について

本遺跡の南西に位置する志布志城(内城)は、延文2(1357)年頃に築かれたと考えられる(三木2005)。また、内城は次第に規模が拡大され、本丸の防衛のために「中野久尾」と「大野久尾」を設定して曲輪とし、台地本体と城とを切り離すことで防衛機能を上げたとされる(志布志市編さん会2023)。

本遺跡の陶磁器について、志布志城(内城)出土陶磁器との実見比較を行ったところ、青磁を中心に器種及び釉薬・文様等に類似性が見られ、同一個体の可能性が高い遺物もみられた。特に内城の最北端にある大野久尾(曲輪15)では輸入磁器の出土数が多く、青磁の袋物(瓶・壺類)の出土も多いが、本遺跡の青磁の瓶・壺などの袋物との共通性が高いことが分かった。先述したとおり、本遺跡では志布志城と同様に瓶・壺類が一定数みられる傾向にある。大野久尾は本遺跡と最も近い曲輪であり、空堀構築以前は地続きの台地であったことを考えると、志布志城(内城)に関わる人や物の往来があった可能性も高く、それに伴い類似した遺物が出土していると考えられる。また、本遺跡の輸入磁器の年代は、内城築城時期の遺物はほとんど

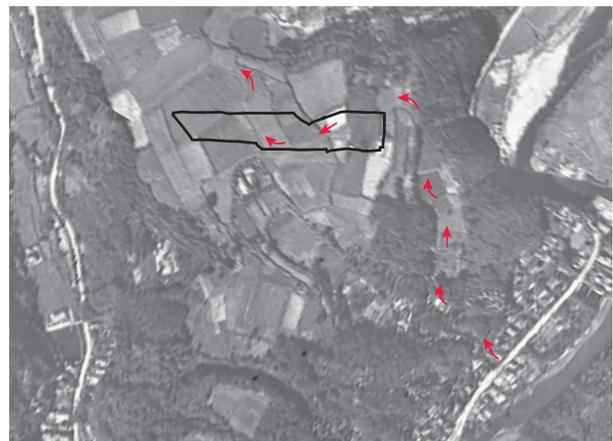
なく、日向伊東氏や肝付氏との合戦が続く時期(15世紀後半～16世紀)と同時期である。

## 第7節 近世以降

近世の遺構は見られなかったが、肥前系を中心とした陶磁器が出土した。碗・皿・甕・鉢類などの生活用品が大半を占める。磁器は肥前系、陶器は薩摩焼を中心に肥前系・京焼風陶器などが見られる。18世紀ごろに肥前陶磁器の流通量が増加することが知られており、本遺跡の肥前系陶磁器の多さもその影響を受けていると考えられる。薩摩焼は苗代川系を中心に、加治木・始良系が一定数出土したほか、白薩摩も少量見られた。磁器製の尻繫は、阿久根市新城跡の大型土坑から出土したものと規格がほぼ同等である。

志布志市教育委員会による発掘調査では、内城から近世の遺物が出土することから、近世まで建物が存在していたことに加え、近世に大規模な曲輪(大野久尾)の改変が行われていたことが指摘されている(志布志市教委2018)。本遺跡も近世の生活用品が多く出土しており、本遺跡もしくはその近隣で生活していた可能性があるものの、後世の攪乱が激しい場所が多いため遺構が確認できず、詳しい様相は不明である。

なお、本遺跡周辺の1948(昭和23)年の航空写真を見ると、野首遺跡を東側から北西にわたって横切る小道が見られる(第156図)。小道は台地から南東に下ったところにある前川沿いの集落へと繋がっており、この集落にかつて大性院という寺があったことが分かっている。大性院は少なくとも室町時代中期以後に創建された寺院で、明治時代の廃仏毀釈で廃寺となっている。近辺では、大性院境内の山中に山仮屋があったとされること(鹿児島県史料刊行会2005)、寺跡の近くの「帖野首」に昔の火葬畑があったとされる(志布志町役場1972)ことなどから、野首遺跡に大性院関係もしくは集落の人々の多少の行き来があった可能性もある。



➡ 小道のルート

第156図 野首遺跡周辺航空写真(1948年)

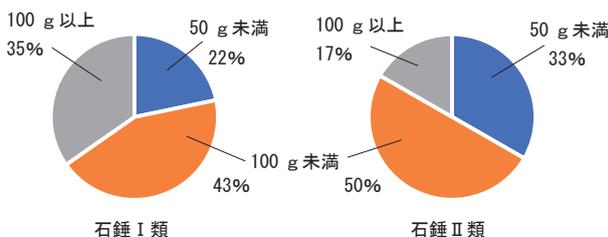
## 第8節 II～V層出土の石器

II～V層から出土した石器組成は以下のとおりである。なお、明らかに中世以降と想定される器種については割愛した。

第37表 II～V層出土の石器組成

器種名	石鏃	スクレイパー	磨製石斧	打製石斧	礫器
出土数	3	1	2	8	5
器種名	砥石	磨・敲石	石錘	石皿	擦切石器
出土数	2	151	28	40	1

磨・敲石と石皿に次いで石錘の出土数の多さが目を引く。石錘は形状でI類（扁平なもの）とII類（厚みのあるもの）に分類した。出土数の内訳はI類が23点、II類が5点である。形状はI類が上下を打ち欠いたもののみで、II類は上下を打ち欠いたものや打ち欠きが1周廻るもの、切目の入ったものが見られる。I・II類の重量による割合を次のグラフで示した。



第157図 石錘 I・II類の重量による割合

I類は100g以上のものが出土数の35%を占めるのに対して、II類は比較的重量の軽いものの出土が目立つ。

石錘は一般的に漁撈用の錘と編物用の錘の使用が言及されるが、野首遺跡のキャンプ地的環境や古墳時代の竪穴建物跡から釣り針が出土していること、遺跡近くを前川が流れていることから漁撈利用の可能性が高い。石錘の形状と重量の違いが使用用途によるものとする、II類に見られる小型で軽量なものは釣り漁用、I・II類の中型のものは網を水中に浮かせて行う「流し刺網」用、大型で重量のあるものは水底に網の下端を固定する「固定刺網」用としての用途が考えられる（笠原2024）。前川を漁場とした場合、水流の強弱や水深、対象魚種によって漁の方法も使い分けていたものと想定される。

## 第9節 野首遺跡の総括

野首遺跡は、縄文時代後期、古墳時代及び中世に遺物量が多くなる傾向にある。しかし、本遺跡は地形の凹凸が激しい調査区であり、調査面積に対し安定した平坦面が少ないせいか、全時代を通して定住を示す建物跡などの遺構が非常に少ない。縄文時代後期～古墳時代にかけて、遺物の多さからみると一定期間生活をしていたことは明らかであるが、標高の低い凹地に遺物が集中してい

ることからも、調査区から外れた地点に建物などの生活域の中心があった可能性は否定できない。長期間留まる場所ではないものの、周辺地域からの人や物の流れが連続とあった遺跡であると考えられる。

中世の志布志城（内城）と共通する遺物は興味深く、この時期に野首遺跡を含む台地上での人及び物の移動があった可能性を指摘できる資料であると考えられる。大性院との関係は推測の域を出ないため、あくまで可能性に留めておきたい。

### 【註釈】

(1) 中村直子氏のご教示による。

### 【引用参考文献】

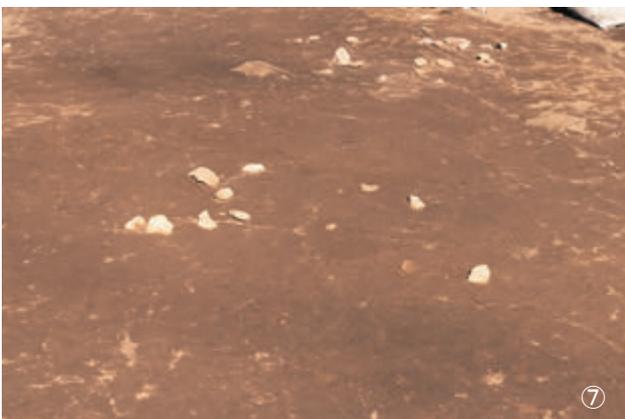
- 指宿市教育委員会 2016 『橋牟礼川遺跡 総括報告書』指宿市埋蔵文化財発掘調査報告書第56集
- 上杉彰紀 2004 「南九州の縄文時代早期前葉の遺跡分布に関する基礎的研究」『関西大学博物館紀要』10 pp.23-63
- 恵島瑛子 2013 「納骨式土器」の再検討『南九州縄文通信』No.22 pp.15～35
- 鹿児島県史料刊行会 2005 『薩藩名勝誌（その三）』
- 笠原朋与 2024 「若狭湾沿岸部および周辺地域における縄文遺跡出土石錘の用途」『奈文研論叢』第5号
- 川口雅之 2008 「鹿児島県における古代・中世鉄器の基礎的研究」『地域・文化の考古学』下條信行先生退任記念論文集
- 熊本市教育委員会 1979 「下江津上ノ門遺跡」『熊本市内埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 相美伊久雄 2006 「条痕土器と縄文土器—南九州における縄文時代前期末～中期前葉土器群の再整理—」『大河』8号
- 志布志市教育委員会 2018 『志布志城跡 志布志城（内城）跡 1～9次調査』志布志市埋蔵文化財発掘調査報告書（12）
- 志布志市編さん委員会 2023 『志布志市誌』上巻
- 志布志町教育委員会 2005 『志布志城跡（内城跡・松尾城跡・高城跡・新城跡）』志布志町埋蔵文化財発掘調査報告書（34）
- 志布志町役場 1972 『志布志町誌』上巻
- 堂込秀人 1997 「南九州縄文晩期土器の再検討」『入佐式と黒川式の細分』『鹿児島考古』第31号 鹿児島県考古学会 pp.59-79
- 中村直子 1987 「成川式土器再考」『鹿大考古』第6号 鹿児島大学法文学部考古学研究室 pp.57-76
- 1993 「鹿児島県弥生時代前期土器研究の現状」『鹿児島考古』第27号 鹿児島県考古学会 pp.39-48
- 2009 「干河原段階の土器」『南の縄文・地域文化論考 新東晃一代表退任記念論文集』南九州縄文通信 20 pp.233-242
- 堀田孝博 2012 「宮崎平野部における平安時代の土器について—土師器供膳具を中心に—」『宮崎考古』第23号 宮崎考古学会
- 前迫亮一 2003 「石坂式土器再考」『縄文の森から』創刊号 鹿児島県立埋蔵文化財センター pp.43～50
- 松崎大嗣 2021 「成川式土器の分類と編年」『地域政策科学研究』第18号 鹿児島大学大学院人文社会科学部研究科（博士後期課程）地域政策科学専攻 pp.23-74
- 三木靖 2005 「日向国志布志城の変遷と縄張」志布志町教育委員会『志布志城跡関係資料集Ⅰ』pp.1-33
- 水ノ江和同 前迫亮一 2010 「1.九州」『西日本の縄文土器 後期』真陽社 pp.21-67
- 宮崎県埋蔵文化財センター 2011 『板平遺跡（第3・4次調査）』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第199集
- 宮崎大和 2023 「大隅半島における縄文時代後期後葉の土器の様相—中岳Ⅱ式土器を中心に—」『研究紀要・年報 縄文の森から』第15号 鹿児島県立埋蔵文化財センター pp.19-28
- 宮田栄二 1999 「南九州縄文草創期の生業構造—石器組成及び遺構からの視点—」『鹿児島考古』第33号 鹿児島県考古学会

# 圖版





①礫群1号 検出      ②礫群2号 検出



①集石 1号 检出

②集石 2号 检出

③集石 3号 检出

④集石 4号 检出

⑤集石 5号 检出

⑥集石 6号 检出

⑦集石 7号 检出

⑧集石 8号 检出



①集石9号 検出

②集石10号 検出

③集石11号 検出

④集石12号 検出

⑤集石14号 検出

⑥集石15号 検出

⑦集石17号 検出

⑧集石18号 検出



①集石19号 検出

②集石20号 検出

③集石21号 検出

④集石22号 検出

⑤集石25号 検出

⑥集石26号 検出

⑦集石28号 検出

⑧集石29号 検出



①集石30号 検出

②集石31号 検出

③集石32号 検出

④集石33号 検出

⑤集石34号 検出

⑥集石37号 検出

⑦集石38号 検出



①集石39号 検出

②集石40号 検出

③集石41号 検出

④集石42号 検出

⑤集石43号 検出

⑥集石44号 検出

⑦集石45号 検出

⑧集石46号 検出



①集石47号 検出  
⑤集石51号 検出

②集石48号 検出

③集石49号 検出

④集石50号 検出



①集石52号 検出

②集石53号 検出

③集石54号 検出

④集石56号 検出

⑤集石57号 検出

⑥集石58号 検出

⑦集石59号 検出

⑧集石60号 検出



①集石61号 検出

②集石62号 検出

③集石63号 検出

④集石64号 検出

⑤集石65号 検出

⑥集石66号 検出

⑦集石67号 検出

⑧集石68号 検出

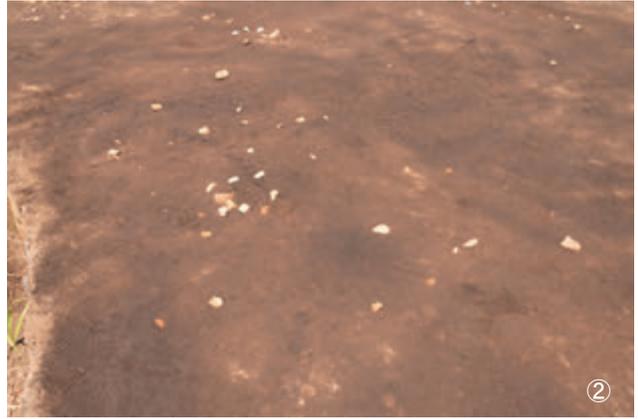


①集石69号 检出  
⑤集石73号 检出

②集石70号 检出  
⑥集石75号 检出

③集石71号 检出  
⑦集石76号 检出

④集石72号 检出



①集石77号 検出

②集石78号 検出

③集石79号 検出

④集石80号 検出

⑤集石81号 検出



①集石82号 検出  
⑤集石86号 検出

②集石83号 検出

③集石84号 検出

④集石85号 検出



①土坑 1号 検出

②土坑 1号 半掘

③土坑 2号 検出

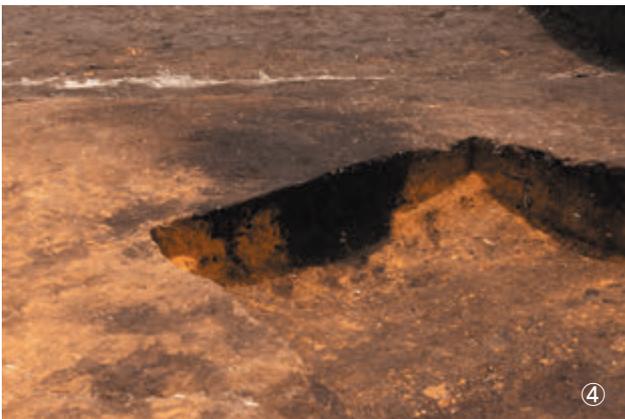
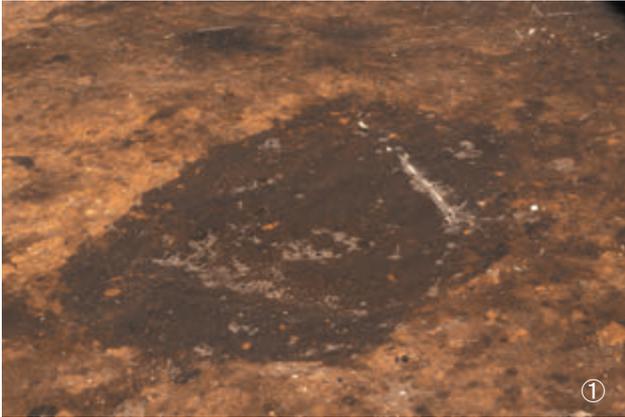
④土坑 2号 完掘

⑤土坑 3号 検出

⑥土坑 3号 半掘

⑦土坑 3号 半掘

⑧土坑 3号 完掘



①土坑4号 検出  
⑤落とし穴 半掘

②土坑4号 半掘  
⑥落とし穴 完掘

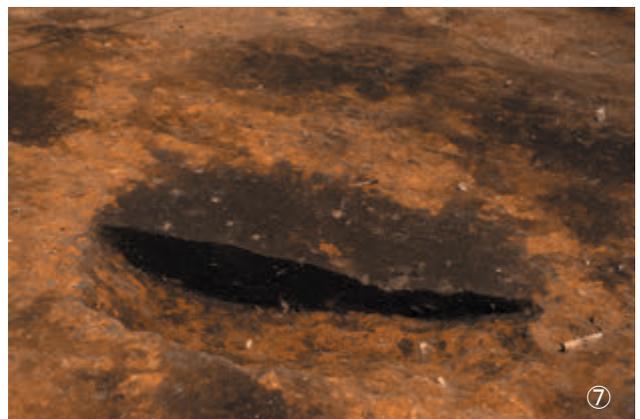
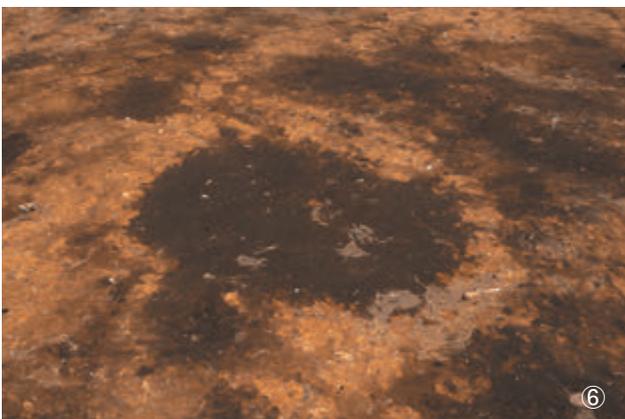
③土坑4号 完掘 ④落とし穴 検出



①竪穴建物跡 検出  
④竪穴建物跡 完掘

②竪穴建物跡 土層断面 1

③竪穴建物跡 土層断面 2



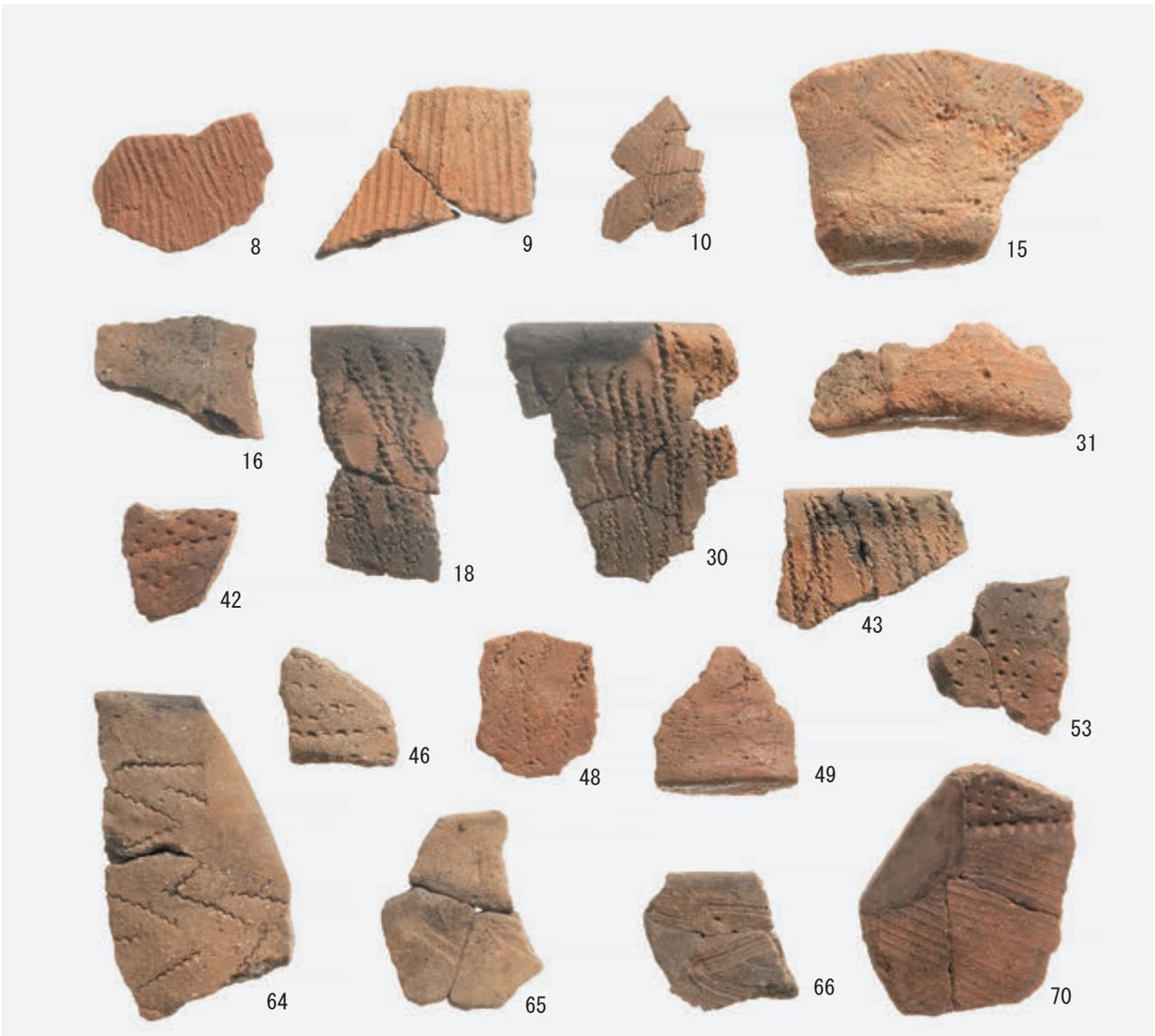
①土坑墓 検出      ②土坑墓 半掘      ③土坑墓 遺物出土状況 1      ④土坑墓 遺物出土状況 2  
⑤土坑墓 完掘      ⑥土坑 5号 検出      ⑦土坑 5号 半掘

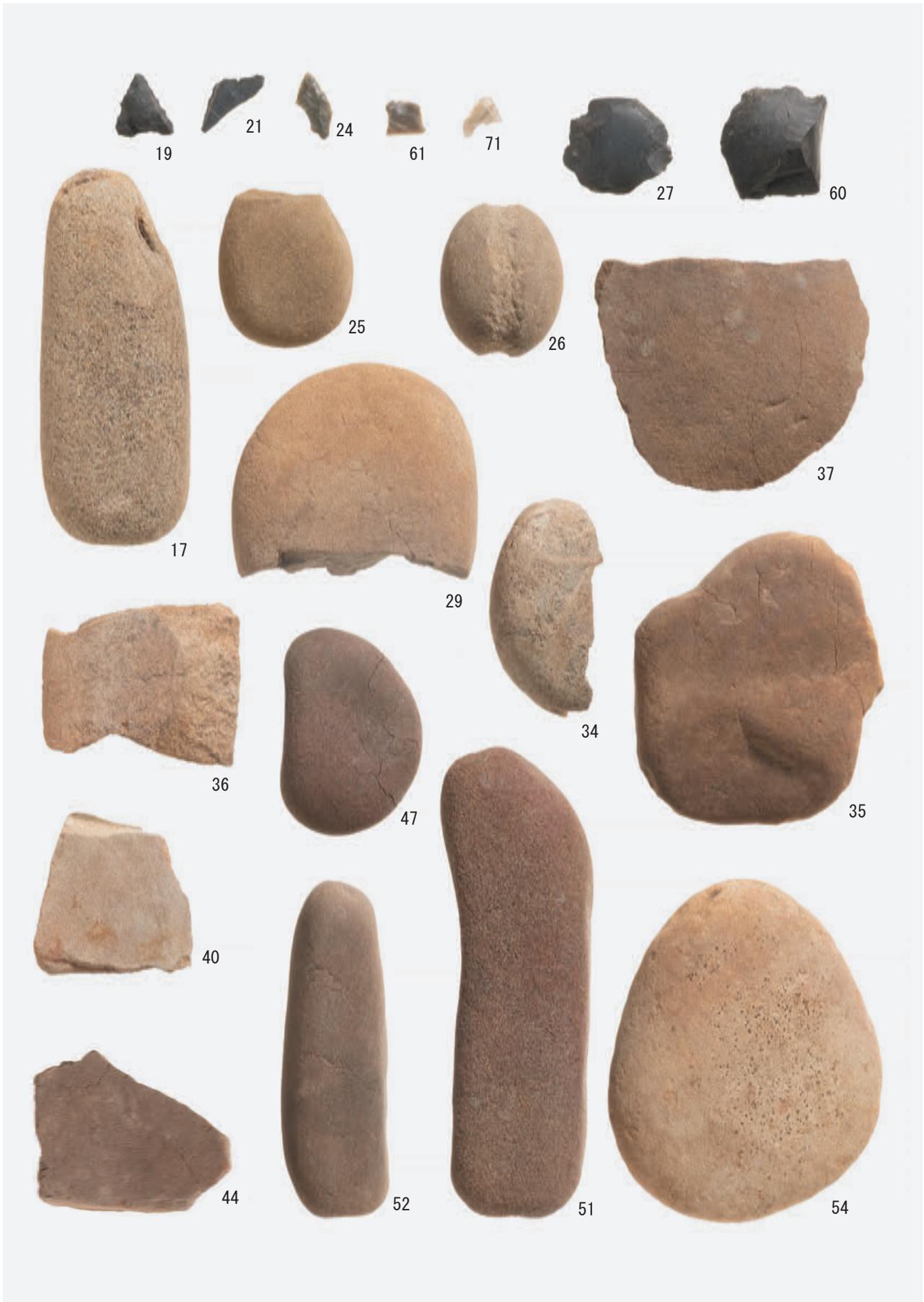


①掘立柱建物跡 完掘      ②溝状遺構1号 検出      ③溝状遺構1号 調査状況  
④溝状遺構1～3号 完掘



①土坑6号 検出      ②土坑6号 半掘      ③土坑6号 完掘      ④硬化面1号(第2面)  
⑤硬化面1号(第3面)













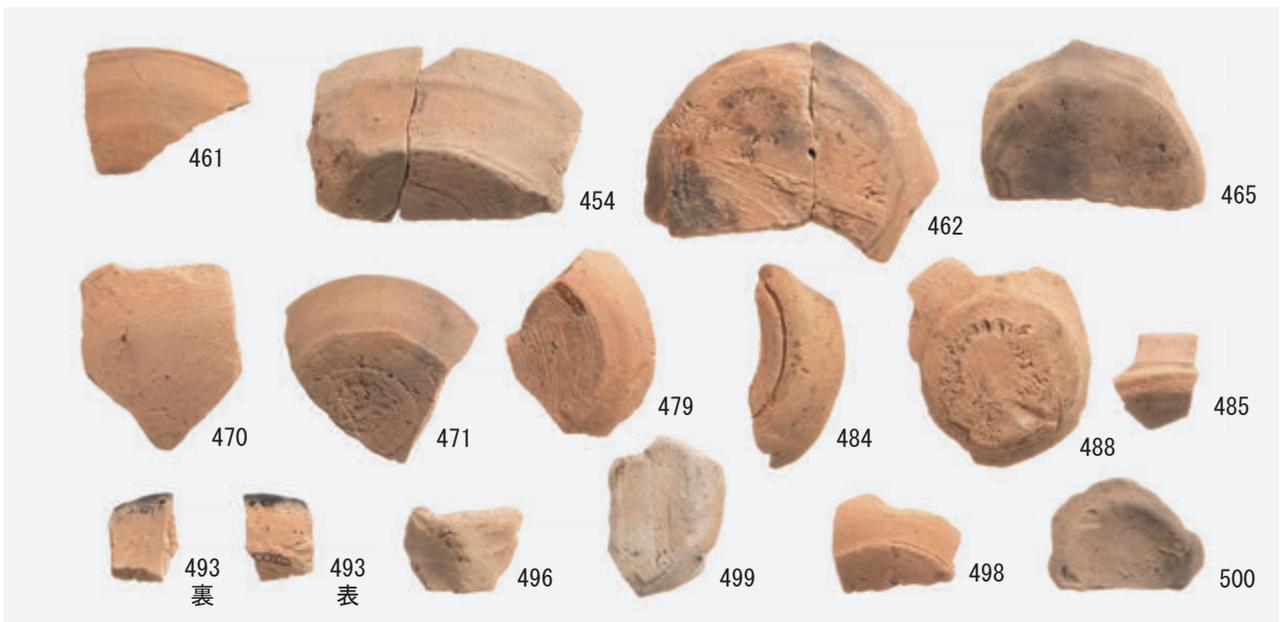
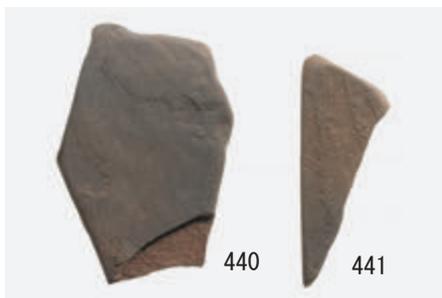




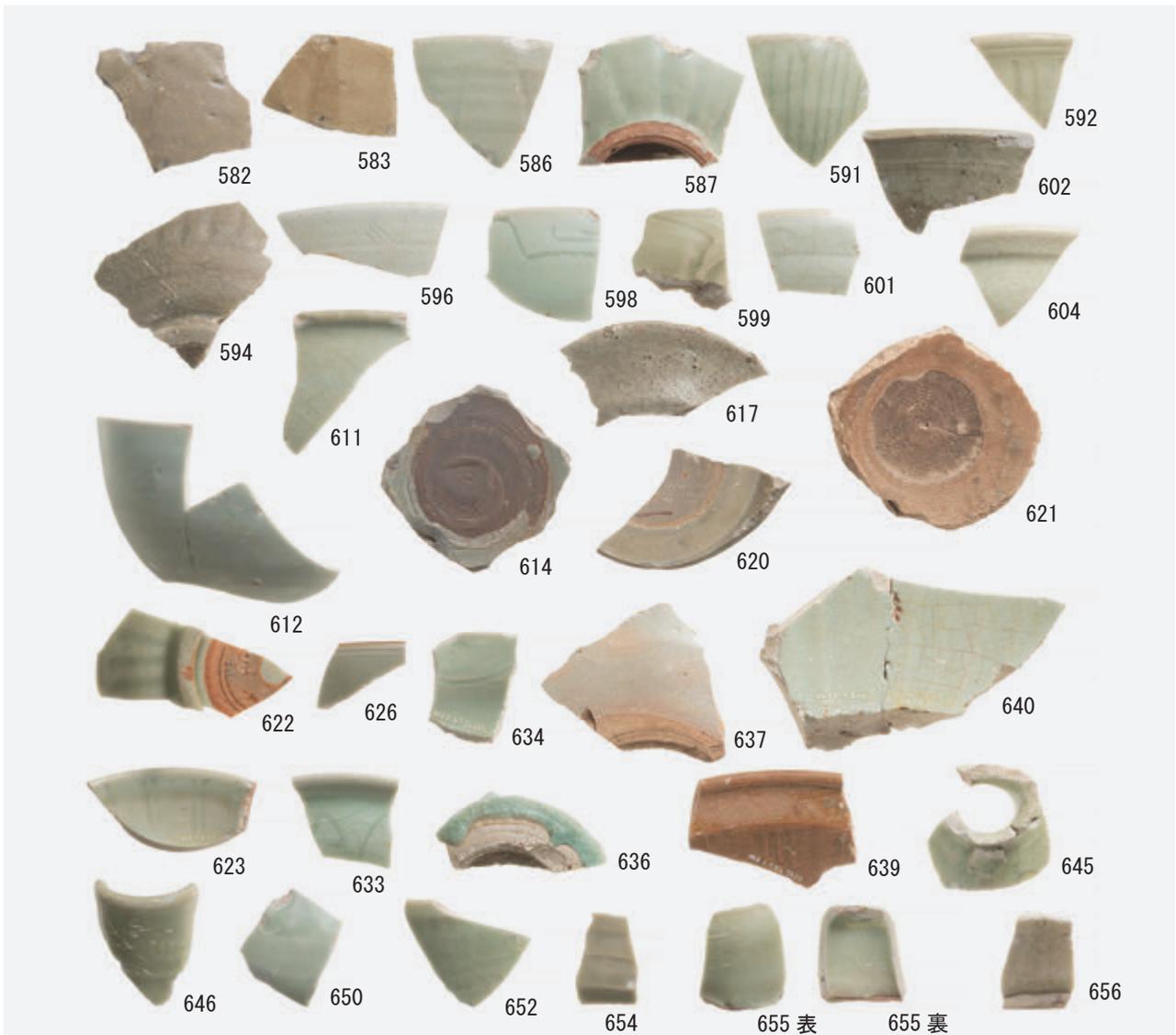
























公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（63）  
一般国道 220 号日南・志布志道路（夏井 I C～志布志 I C）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

# 野首遺跡

発行年月 2026 年 3 月

編集・発行 鹿児島県教育委員会

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター

〒 899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森 2 番 1 号

T E L 0995-70-0574 F A X 0995-70-0576

印刷 株式会社 あすなろ印刷

〒 899-0041 鹿児島県鹿児島市城西 2 丁目 2 番 36 号

T E L 099-214-3757 F A X 099-214-3758







鹿児島県